藤倉城跡・川関遺跡

那智勝浦道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００４年３月

財団法人　和歌山県文化財センター

藤倉城跡・川関遺跡

－那智勝浦道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００４年３月

財団法人　和歌山県文化財センター



那智山上空から熊野灘を望む（北上空から）



藤倉城と勝山城（西上空から）



藤倉城・川関遺跡遠景（東上空から）



藤倉城遠景（東上空から）



那智湾から那智山周辺遠景（南上空から）



熊野川町指定文化財 那智参詣曼陀羅図（正覚寺蔵） 資料提供 和歌山県立博物館



藤倉城堀切１（東から）



藤倉城山城部（北から）



藤倉城館部全景（東から）



藤倉城館部全景（北から）



川関遺跡水田部８西区全景（北上空から）



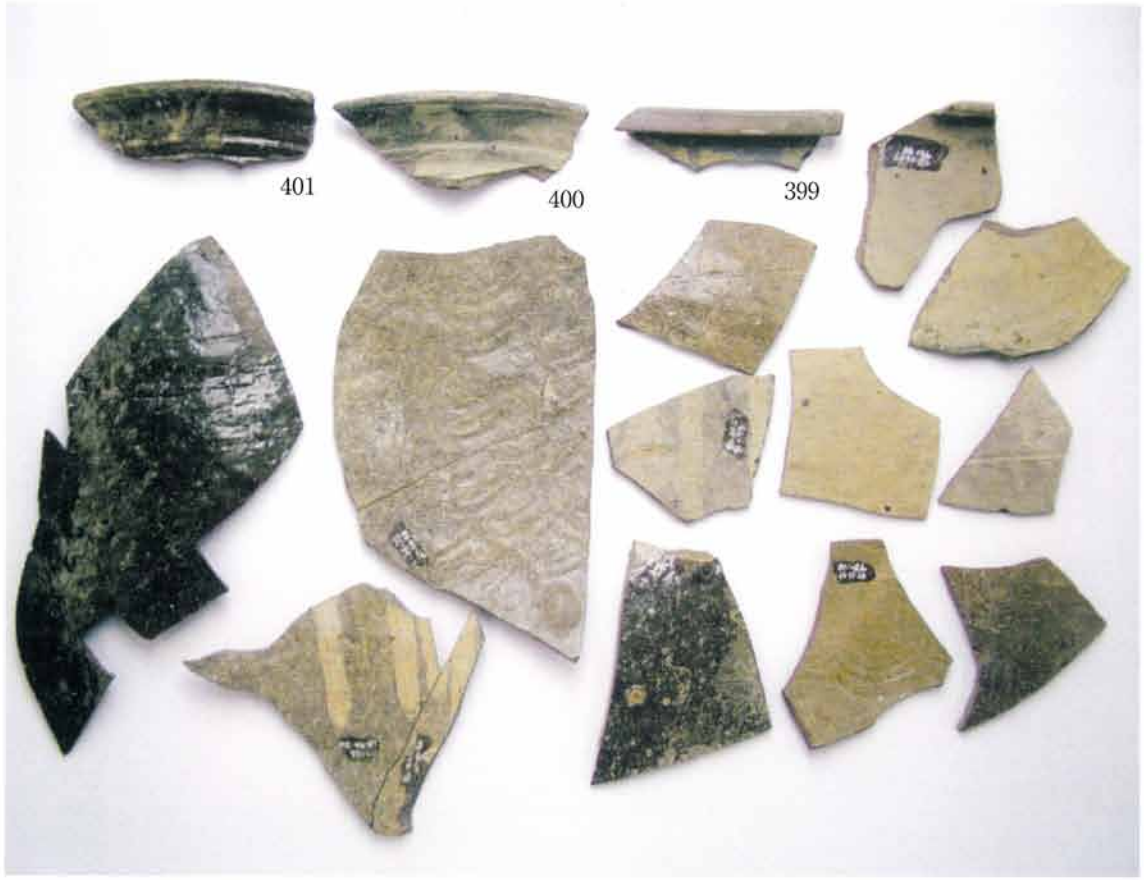
川関遺跡水田部８東区全景（北から）



藤倉城出土土器



藤倉城・川関遺跡墨書土器



藤倉城出土朝鮮半島製陶器



藤倉城出土中国製陶器

序　文

紀伊半島の南東部に位置する熊野地方は、古来より死者の霊がこもる国とされてきました。平安時代以降、浄土信仰と結びつき、本宮大社・新宮大社・那智大社の熊野三山が成立し、人々の聖地へと転生していきます。多数の貴族や民衆が集い、「蟻の熊野詣」とまで呼ばれて、参詣道や九十九王子が整備されました。これら悠久の歴史的文化遺産は、現在の我々に引き継がれ、まもなくユネスコの世界遺産として登録されて、広く国民の共有財産として、未来の人々へと託されようとしています。

今回の発掘調査では、熊野三山の一つである那智山の入口部に所在する戦国時代末期から近世初頭にかけての藤倉城跡と平安時代から室町時代にかけて営まれた川関遺跡の姿が解明されようとしています。

藤倉城跡では石垣や堀切などから、当時の築城技術が知られ、谷部の館跡から出土した内外の多様な土器類から、今から400年前の生活や交易の様子がうかがえます。

川関遺跡では、多数の建物跡や井戸跡が発見され、大規模な集落であったことが、わかりました。経塚に埋納されるような貴重な土器も出土しており、那智山のいわば表玄関で、港湾集落と言える性格を有していたようです。南海大地震によると考えられる噴砂が発見され、集落の動向に大きく係わった可能性が指摘されています。現在に生きる我々に一つの警鐘を与えるものではないでしょうか。

これらの調査成果をとりまとめ、報告書として刊行いたします。本書が当地方の歴史を知るうえで、一つの資料となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたり数々のご協力をいただいた関係各位並びに、調査事業の推進に絶大なるご援助を賜った地元関係者の皆様には、深く感謝の意を表し厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

財団法人　和歌山県文化財センター
理事長　木　村　良　樹

例　言

1．本書は東牟婁郡那智勝浦町中村・川関に所在する藤倉城跡、川関遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は那智勝浦道路建設事業に先立つもので、平成10・11年度に藤倉城跡と川関遺跡第１次発掘調査、平成12年度に第２次発掘調査を行い、平成14・15年度に出土遺物整理業務を実施した。

3．発掘調査及び出土遺物整理業務は建設省近畿地方建設局紀南工事事務所（現国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所）の委託を受けた財団法人和歌山県文化財センターが、和歌山県教育委員会・調査委員会の指導の下に実施した。

4．調査及び報告書作成に際し、建設省近畿地方建設局紀南工事事務所（現国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所）、県文化財課（現文化遺産課）、和歌山県立博物館、那智勝浦町教育委員会、熊野川町教育委員会をはじめ、関係機関および地元の方々から助言・協力を得た。

5．本書は、調査及び整理事業担当者である黒石が村田の協力を得て執筆編集した。

6．図版編と本文中の遺構写真は、各次調査担当者が撮影し、それ以外のものは黒石が撮影した。

7．発掘調査及び出土遺物等の関連資料調査、報告書作成にあたっては、次の諸氏から多大な御指導・御教示を賜った。記して感謝申し上げる。

伊藤裕偉（三重県埋蔵文化財センター）、岸勇作（那智勝浦町教育委員会）、北野隆亮（和歌山市体育文化振興事業団）、阪本敏行（和歌山県立日高高等学校）、寒川旭（通産省地質工業研究所）、鈴木正貴（愛知県埋蔵文化財センター）、白石博則（大阪府立日根野高等学校）、竹田憲治（三重県埋蔵文化財センター）、竹中泰彦（和歌山県立博物館）、中井均（米原市教育委員会）、播磨良紀（四日市大学）、藤澤良祐（瀬戸市埋蔵文化財センター）、前千雄（新宮市文化財保護審議委員）、前田孝彦（和歌山市立博物館）、水島大二（和歌山県立工業高校）、百瀬正恒（京都市埋蔵文化財センター）、森島康男（京都府埋蔵文化財センター）、森村健一（堺市埋蔵文化財センター）、山本殖生（新宮市教育委員会）、綿貫友子（大阪府立教育大学）

8．航空写真撮影及び航空写真図化は株式会社ワールドに委託した。

9．珪藻分析調査は株式会社古環境研究所に委託した。

10．木製品の保存処理は、株式会社吉田生物研究所に委託した。

11．調査・整理作業で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が各々保管している。

12．発掘調査・整理業務の調査組織は次項に示すとおりである。

調　査　組　織

調 査 委 員

工楽　善通（奈良国立文化財研究所）

巽　　三郎（和歌山県文化財保護審議委員会委員 故人）

藤澤　一夫（四天王寺国際仏教大学名誉教授 故人）

和田　晴吾（立命館大学教授）

事　務　局

事 務 局 長	中谷博昭（平成10～11年度）	
（専務理事兼務）	田中嘉一（平成12年度）	
	岩橋　驍（平成13～15年度）	
事務局次長	菅原正明（平成10～11年度）	吉田宣夫（平成11～12年度）
	畑中照雄（平成12～13年度）	篠原　隆（平成14年度）
	松田正昭（平成13～15年度）	
埋蔵文化財課長	松田正昭（平成10～12年度）	管理課長心得　西本悦子（平成10～11年度）
	松下　彰（平成13年度）	管 理 課 長　西本悦子（平成12～15年度）
	渋谷高秀（平成14～15年度）	

調査業務担当

埋蔵文化財課技師	黒石哲夫	第１次発掘調査（平成10～11年度）
埋蔵文化財課主任	村田　弘	第２次発掘調査（平成12年度）
埋蔵文化財課専門調査員	三浦基行	〃
埋蔵文化財課調査補佐員	山野晃司	〃

第２次発掘調査（平成12年度）の一部期間を以下の職員が担当した

埋蔵文化財課主任	土井孝之
埋蔵文化財課副主査	黒石哲夫

整理業務担当

埋蔵文化財課副主査	黒石哲夫	第１・２次整理業務（平成14～15年度）
埋蔵文化財課主任	村田　弘	第２次整理業務（平成15年度）の一部期間

凡　例

1．遺構実測囲及び地区割の基準線は、平面直角座標系（第Ⅵ系）に基づき、方位は座標北を示す。

2．遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P.）である。

3．発掘調査で使用した調査コードは、以下のとおりである。

藤倉城跡（1998年度）――――――――――98－44・27

川関遺跡第１次調査（1999年度）――――――99－44・56

川関遺跡第２次調査（2000年度）――――――00－44・56

4．地区割の詳細については、第１章第３節に記述する。

5．遺構番号は、報告書作成時に新たに付け直し、右となりの（）内に旧地区・番号を付した。

例　藤倉城跡：土坑ＳＫ０１（旧谷Ｈ SK04）

6．遺構記号の略号は以下の通りである。

ＳＢ－掘立柱建物　ＳＡ－柵　ＳＶ－石垣　ＳＨ－堀　ＳＤ－溝　ＳＫ－土坑　ＳＥ－井戸

ＳＦ－溜桝　ＳＳ－階段・通路　ＳＸ－墓・その他　ＳＷ－落込み

7．遺構番号と遺物番号は、遺跡別に１番からの通し番号とした。

8．遺物番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。

9．遺物実測図の縮尺は、土器類は１／４、金属製品は１／２を基本としている。縮尺の異なる遺物については個々にスケールを付している。

遺物写真の縮尺は、特に統一はしていない。

10．本書では、一部を除き原則として年号は西暦表示とした。

本　文　目　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過……1

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と地質的環境 …… 2

第２節　地理的・歴史的環境 …… 3

第Ⅲ章　調査と整理の方法

第１節　試掘調査の概要 …… 8

第２節　本調査の概要 ……13

第３節　整理作業の概要 ……17

第Ⅳ章　藤倉城跡 ……19

第１節　藤倉城跡山上部・尾根部（山城跡） ……19

第２節　藤倉城跡谷部（館跡） ……24

第Ⅴ章　川関遺跡

第１節　調査区画と基本層序 ……41

第２節　川関遺跡西地区（水田部１・２・３・５・６・７区） ……47

第３節　川関遺跡東地区（水田部４区・８西区・８東区） ……68

第４節　橋脚部地区（１・２・３・４区）……115

第Ⅵ章　考　察　篇

第１節　川関遺跡・藤倉城の変遷について ……123

第２節　藤倉城と勝山城の構造について ……125

第３節　藤倉城跡出土遺物について ……129

第４節　川関遺跡集落の変遷について ……140

第５節　自然災害と川関遺跡の動向について ……161

第６節　川関遺跡出土の日常雑器類の変遷について ……163

第７節　墨書土器について ……165

第８節　まとめ ……167

付章　川関遺跡第２次調査における堀１の珪藻分析 ……315

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　川関遺跡位置図 …… 1
第２図　紀伊半島地質模式図 …… 2
第３図　那智勝浦町周辺地質模式図 …… 2
第４図　藤倉城跡周辺の遺跡及び指定文化財 …… 7
第５図　試掘調査地点位置図 …… 9
第６図　発掘調査大区画割図・柱状土層位置図 ……14
第７図　発掘調査小区画割図（川関遺跡遺構模式図） ……15・16
第８図　藤倉城山城部平面図 ……21・22
第９図　藤倉城館部模式図 ……25
第10図　藤倉城館部井戸ＳＥ０１ ……27
第11図　藤倉城館部溜桝ＳＦ０１ ……27
第12図　藤倉城館部土器埋納遺構ＳＸ０１ ……29
第13図　藤倉城館部土器埋納遺構ＳＸ０２ ……29
第14図　藤倉城館部井戸ＳＥ０２ ……29
第15図　藤倉城館部墓ＳＸ０５土層図 ……29
第16図　藤倉城館部墓ＳＸ０６土層図 ……29
第17図　藤倉城館部土坑ＳＫ０５土層図 ……29
第18図　藤倉城館部堀ＳＨ０２土層図 ……29
第19図　藤倉城館部溜桝ＳＦ０２ ……33
第20図　藤倉城館部鋳造遺構ＳＸ０８ ……33
第21図　藤倉城館部石垣ＳＶ０４ ……33
第22図　藤倉城館部建物ＳＢ０２ ……37
第23図　藤倉城館部階段ＳＳ０２ ……37
第24図　藤倉城館部土坑ＳＫ１０土層図 ……37
第25図　藤倉城山城部石垣１ ……39・40
第26図　藤倉城館部石垣ＳＶ０３ ……39・40
第27図　藤倉城館部石垣ＳＶ０１ ……39・40
第28図　藤倉城館部石垣ＳＶ０２ ……39・40
第29図　藤倉城館部堀ＳＨ０２石積護岸 ……39・40
第30図　川関遺跡土層柱状模式図 ……43
第31図　川関遺跡地区別土層図 ……44

第32図　川関遺跡遺構模式図 ……45・46
第33図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ０１・０５・０６ ……49
第34図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ０２・０３ ……50
第35図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ０４・０７ ……52
第36図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ０８・０９・１１ ……53
第37図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ１０・１２・１３ ……54
第38図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ１４・１５・１６・１７・１８・１９ ……56
第39図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ２０・２１・２２・２３ ……58
第40図　川関遺跡溜桝ＳＦ０１ ……60
第41図　川関遺跡鋳造土坑ＳＸ０１ ……62
第42図　川関遺跡自然流路ＳＤ０２土層図 ……60
第43図　川関遺跡西調査区溝・土坑土層図 ……62
第44図　川関遺跡水田部５・６・７区遺構図 ……63・64
第45図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ２４・２５・２６・２７ ……70
第46図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ２８・２９・３１・３２・３４・３５ ……71
第47図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ３０・３３・３８ ……72
第48図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ３６・３７・３９ ……74
第49図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ40・41・42・43・４４ ……76
第50図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ４５・４６・４７・４８・４９ ……77
第51図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ５０・５１・５２ ……78
第52図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ５３・５４・５５・５６ ……80
第53図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ５７・５８・６０・６１ ……82
第54図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ５９・６２・６３・６４ ……83
第55図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ６５・６６ ……84
第56図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ６７・６８・６９ ……86
第57図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ７０・７１ ……88
第58図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ７２・７３・７４ ……89
第59図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ７５・７６・７７ ……90
第60図　川関遺跡掘立柱建物ＳＢ７８・７９・８０ ……92
第61図　川関遺跡柵ＳＡ６・７・８／通路ＳＳ０２ ……93
第62図　川関遺跡井戸ＳＥ０２・１０・１３・１６ ……95
第63図　川関遺跡井戸ＳＥ０３・０９・１４・１５・１７ ……97
第64図　川関遺跡井戸ＳＥ０４・０７・０８・１２ ……99
第65図　川関遺跡堀ＳＨ０１土層 ……101

第66図　川関遺跡溝・土坑土層図／墓ＳＸ０２ ……114
第67図　川関遺跡橋脚部１区遺構図 ……118
第68図　川関遺跡橋脚部２区遺構図 ……119
第69図　川関遺跡橋脚部３区遺構図 ……120
第70図　川関遺跡橋脚部４区遺構図 ……121
第71図　川関遺跡橋脚部地区掘立柱建物ＳＢ８１・８２／溝・土坑土層図 ……122
第72図　藤倉城・勝山城城館位置図 ……126
第73図　勝山城遺構模式図 ……128
第74図　那智参詣曼陀羅図に描かれた建物１ ……140
第75図　那智参詣曼陀羅図に描かれた建物２ ……141
第76図　川関遺跡遺構模式図 ……147・148
第77図　川関遺跡西調査区掘立柱建物模式図１ ……153
第78図　川関遺跡西調査区掘立柱建物模式図２ ……154
第79図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図１ ……155
第80図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図２ ……156
第81図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図３ ……157
第82図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図４ ……158
第83図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図５ ……159
第84図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図６ ……160
第85図　藤倉城跡遺物実測図１（Ａ区包含層/SH01/SH02） ……182
第86図　藤倉城跡遺物実測図２（SH02/SX01/SX02/SF01） ……183
第87図　藤倉城跡遺物実測図３（Ｂ区包含層/SV01/SV02/SE02/SK02) ……184
第88図　藤倉城跡遺物実測図４（Ｃ区包含層） ……185
第89図　藤倉城跡遺物実測図５（Ｃ区包含層） ……186
第90図　藤倉城跡遺物実測図６（Ｃ区包含層） ……187
第91図　藤倉城跡遺物実測図７（Ｃ区包含層/SV03/SX08･09/SK03） ……188
第92図　藤倉城跡遺物実測図８（SK04･05･06/SG01/PIT1） ……189
第93図　藤倉城跡遺物実測図９（Ｄ区包含層） ……190
第94図　藤倉城跡遺物実測図10（Ｆ区包含層） ……191
第95図　藤倉城跡遺物実測図11（Ｇ区包含層/PIT3/SK10） ……192
第96図　藤倉城跡遺物実測図12（瓦/面子/石器類） ……193
第97図　藤倉城跡遺物実測図13（石器類） ……194
第98図　藤倉城跡遺物実測図14（石器類/金属器類） ……195
第99図　川関遺跡遺物実測図１（水田１・５・６区包含層） ……251

第100図　川関遺跡遺物実測図２（水田１・２区包含層）……252
第101図　川関遺跡遺物実測図３（水田２区包含層）……253
第102図　川関遺跡遺物実測図４（水田２・７区包含層）……254
第103図　川関遺跡遺物実測図５（水田７区包含層）……255
第104図　川関遺跡遺物実測図６（水田１・２・７区包含層）……256
第105図　川関遺跡遺物実測図７（水田１・２区包含層/SB01・02・03・04）……257
第106図　川関遺跡遺物実測図８（SB08～23/SA01/水田１・５区PIT）……258
第107図　川関遺跡遺物実測図９（水田１・２区PIT）……259
第108図　川関遺跡遺物実測図10（水田２・７区PIT）……260
第109図　川関遺跡遺物実測図11（SE01/SF01/SX01/SD01・02・06/SW01）……261
第110図　川関遺跡遺物実測図12（SD06）……262
第111図　川関遺跡遺物実測図13（SD06）……263
第112図　川関遺跡遺物実測図14（SD07・08・10/墨書土器/SK02・04・07・08・09）……264
第113図　川関遺跡遺物実測図15（SK10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21）……265
第114図　川関遺跡遺物実測図16（SK22・23・26・27・28・29・30・31/合子類）……266
第115図　川関遺跡遺物実測図17（石器類/金属器）……267
第116図　川関遺跡遺物実測図18（水田４包含層/水田８西包含層）……268
第117図　川関遺跡遺物実測図19（水田８西包含層）……269
第118図　川関遺跡遺物実測図20（水田８東包含層）……270
第119図　川関遺跡遺物実測図21（水田８東包含層）……271
第120図　川関遺跡遺物実測図22（水田８東包含層/SB28～49）……272
第121図　川関遺跡遺物実測図23（SB51～79/Ａ区画PIT）……273
第122図　川関遺跡遺物実測図24（Ａ区画PIT/Ｂ区画PIT）……274
第123図　川関遺跡遺物実測図25（Ｂ区画PIT）……275
第124図　川関遺跡遺物実測図26（Ｂ区画PIT/Ｃ区画PIT）……276
第125図　川関遺跡遺物実測図27（Ｃ区画PIT）……277
第126図　川関遺跡遺物実測図28（Ｃ区画PIT）……278
第127図　川関遺跡遺物実測図29（Ｃ区画PIT/Ｄ区画PIT）……279
第128図　川関遺跡遺物実測図30（Ｄ区画PIT/Ｅ区画PIT）……280
第129図　川関遺跡遺物実測図31（墨書土器/SE02・04・06・07）……281
第130図　川関遺跡遺物実測図32（SE08・09・10）……282
第131図　川関遺跡遺物実測図33（SE11・12・13・14）……283
第132図　川関遺跡遺物実測図34（SE14・15・16・17/墨書土器）……284
第133図　川関遺跡遺物実測図35（墨書土器/SH01）……285

第134図　川関遺跡遺物実測図36（SH01）……286
第135図　川関遺跡遺物実測図37（SH01/SD13・17・24）…… 287
第136図　川関遺跡遺物実測図38（SD24）……288
第137図　川関遺跡遺物実測図39（SD24・25）……289
第138図　川関遺跡遺物実測図40（SD25・26・27）……290
第139図　川関遺跡遺物実測図41（SD27）……291
第140図　川関遺跡遺物実測図42（SK32・33・35・36・37・38・39・40・41・42・43）……292
第141図　川関遺跡遺物実測図43（SK44・45・46・48・49・50・51・52・53・54）……293
第142図　川関遺跡遺物実測図44（SK55・56・57・58・59）……294
第143図　川関遺跡遺物実測図45（SK60～72）……295
第144図　川関遺跡遺物実測図46（SK73～86）……296
第145図　川関遺跡遺物実測図47（SK86・87・88・89・90・91・92・93・94・95）……297
第146図　川関遺跡遺物実測図48（SK96～109）……298
第147図　川関遺跡遺物実測図49（SK110～123/墨書土器）……299
第148図　川関遺跡遺物実測図50（SS02/SX02/SW02・03・05）……300
第149図　川関遺跡遺物実測図51（SW05）……301
第150図　川関遺跡遺物実測図52（SW05）……302
第151図　川関遺跡遺物実測図53（SW05）……303
第152図　川関遺跡遺物実測図54（SW05・07）……304
第153図　川関遺跡遺物実測図55（SW09/墨書土器/石器類）……305
第154図　川関遺跡遺物実測図56（石器類/合子類/面子類）……306
第155図　川関遺跡遺物実測図57（鞴/土錘/石器類）……307
第156図　川関遺跡遺物実測図58（石器類/木器類）……308
第157図　川関遺跡遺物実測図59（木器類）……309
第158図　川関遺跡遺物実測図60（金属器類）……310
第159図　川関遺跡遺物実測図61（橋脚部１区包含層）……311
第160図　川関遺跡遺物実測図62（橋脚部１区包含層/橋脚部１PIT）……312
第161図　川関遺跡遺物実測図63（橋脚部１・２区PIT/SK/SD/橋脚部３区包含層）……313
第162図　川関遺跡遺物実測図64（SK134・135・136・137・139）……314

別　添　付　図　目　次

第163図　藤倉城跡館部遺構図
第164図　川関遺跡水田部１・２区遺構図
第165図　川関遺跡水田部８区遺構図

表　目　次

表１　藤倉城跡・川関遺跡関連略年譜 …… 6
表２　藤倉城跡・川関遺跡発掘調査・整理作業工程表 ……18
表３　藤倉城跡瀬戸美濃系土器地区別個体数表 ……130
表４　藤倉城跡瀬戸美濃系土器時期別個体数表１ ……131
表５　藤倉城跡瀬戸美濃系土器時期別個体数表２ ……132
表６　藤倉城跡瀬戸美濃系土器時期別個体数表３ ……133
表７　藤倉城跡肥前系陶器地区別個体数表 ……134
表８　藤倉城跡青花・白磁・青磁地区別個体数表 ……136
表９　藤倉城跡地区別土器個体数表 ……139
表10　川関遺跡掘立柱建物柱間寸法表 ……144
表11　川関遺跡掘立柱建物一覧表 ……149・150
表12　川関遺跡掘立柱建物規模別分類表 ……150
表13　川関遺跡掘立柱建物方位別一覧表 ……151
表14　川関遺跡掘立柱建物標高別一覧表 ……151
表15　川関遺跡掘立柱建物時期別一覧表 ……151
表16　川関遺跡掘立柱建物桁行・梁間平均値分布表 ……152
表17　南海地震・東海地震発生年代一覧表 ……161・162
表18　藤倉城跡・川関遺跡出土日常雑器変遷表 ……164
表19～29　藤倉城跡出土遺物観察表 ……171～181
表30～81　川関遺跡出土遺物観察表 ……199～250

本　文　写　真　図　版　目　次

ＳＰ１　那智一ノ滝　3　　ＳＰ２　那智二ノ滝　3
ＳＰ３　神倉山ごとびき岩　3　　ＳＰ４　八反田遺跡　3
ＳＰ５　熊野古道大門坂　4　　ＳＰ６　本宮備崎　4
ＳＰ７　那智山経塚涸池　4　　ＳＰ８　那智山坊院跡　4
ＳＰ９　速玉大社境内遺跡　5　　ＳＰ10　熊野速玉大社　5
ＳＰ11　熊野本宮大社　5　　ＳＰ12　新宮城水ノ手郭　5
ＳＰ13　調査前の藤倉城堀切１　8　　ＳＰ14　調査前の藤倉城堀切４　8
ＳＰ15　藤倉城館部トレンチ１　10　　ＳＰ16　藤倉城館部トレンチ２土坑２　10
ＳＰ17　川関遺跡Ａ地点検出遺構　11　　ＳＰ18　川関遺跡Ｂ地点検出遺構　11
ＳＰ19　川関遺跡１－１トレンチ　11　　ＳＰ20　川関遺跡１－２トレンチ　12

ＳＰ21　川関遺跡１－１トレンチ堀跡　12
ＳＰ22　川関遺跡２－２トレンチ井戸跡　12
ＳＰ23　藤倉城跡山上部伐開状況　13
ＳＰ24　藤倉城跡館部伐開状況　13
ＳＰ25　藤倉城跡館部Ａ区人力掘削　13
ＳＰ26　川関遺跡橋脚部１区人力掘削　13
ＳＰ27　出土遺物注記作業　17
ＳＰ28　遺物接合作業　17
ＳＰ29　土器復元作業　17
ＳＰ30　遺物実測作業　17
ＳＰ31　藤倉城山上部遠景（東から）　19
ＳＰ32　藤倉城山上部東斜面（東から）　19
ＳＰ33　藤倉城堀切１（東から）　19
ＳＰ34　藤倉城北郭全景（南から）　19
ＳＰ35　実方院の所領を示す榜示石　20
ＳＰ36　藤倉城南郭全景（北から）　20
ＳＰ37　藤倉城竪堀２（北から）　20
ＳＰ38　藤倉城石垣１（北東から）　20
ＳＰ39　藤倉城櫓台１　23
ＳＰ40　藤倉城堀切４（南東から）　23
ＳＰ41　藤倉城南郭から南への通路　23
ＳＰ42　藤倉城南郭から熊野灘を望む　23
ＳＰ43　藤倉城館部全景（北から）　24
ＳＰ44　藤倉城館部Ａ区全景（東から）　24
ＳＰ45　藤倉城館部堀ＳＨ０２　26
ＳＰ46　藤倉城館部井戸ＳＥ０１・溜桝ＳＦ０１　26
ＳＰ47　藤倉城館部ＳＸ０１　26
ＳＰ48　藤倉城館部ＳＸ０２　26
ＳＰ49　藤倉城館部ＳＸ０３　28
ＳＰ50　藤倉城館部墓ＳＸ０５・０６・０７　28
ＳＰ51　藤倉城館部Ｂ区全景（東から）　30
ＳＰ52　藤倉城館部石垣ＳＶ０１　30
ＳＰ53　藤倉城館部井戸ＳＥ０２・沓脱石　31
ＳＰ54　藤倉城館部階段ＳＳ０１　31
ＳＰ55　藤倉城館部Ｃ区全景（南から）　31
ＳＰ56　藤倉城館部石垣ＳＶ０３　31
ＳＰ57　藤倉城館部石垣ＳＶ０４　32
ＳＰ58　藤倉城館部門ＳＢ０１　32
ＳＰ59　藤倉城館部溜桝ＳＦ０２　32
ＳＰ60　藤倉城館部ＳＸ０８　34
ＳＰ61　藤倉城館部溝ＳＤ０２　34
ＳＰ62　藤倉城館部池泉ＳＧ０１　34
ＳＰ63　藤倉城館部Ｄ・Ｅ区全景（西から）　35
ＳＰ64　藤倉城館部Ｆ区全景（南西から）　35
ＳＰ65　藤倉城館部Ｇ区全景（南から）　36
ＳＰ66　藤倉城館部建物ＳＢ０２　36
ＳＰ67　川関遺跡全景（西から）　41
ＳＰ68　川関遺跡全景（東から）　41
ＳＰ69　川関遺跡水田部１全景（北から）　47
ＳＰ70　川関遺跡水田部２全景（北から）　47
ＳＰ71　川関遺跡水田部６全景（南から）　48
ＳＰ72　川関遺跡水田部６　ＳＢ０１・０２　48
ＳＰ73　川関遺跡水田部１　ＳＢ０３　48
ＳＰ74　川関遺跡水田部１　ＳＢ０４　48
ＳＰ75　川関遺跡水田部７　ＳＢ２２・２３　57
ＳＰ76　川関遺跡水田部１　ＳＦ０１　59
ＳＰ77　川関遺跡水田部２　ＳＸ０１　59
ＳＰ78　川関遺跡水田部２　ＳＤ０６　61
ＳＰ79　川関遺跡　ＳＤ０６土器出土状況　61
ＳＰ80　川関遺跡水田部２　ＳＤ０７　61
ＳＰ81　川関遺跡水田部２　ＳＫ１１・１２　66
ＳＰ82　川関遺跡水田部８西全景（東から）　68
ＳＰ83　川関遺跡水田部８西北部（東から）　73
ＳＰ84　川関遺跡水田部８西　ＳＢ６６　85
ＳＰ85　川関遺跡水田部８東全景（東から）　87
ＳＰ86　川関遺跡水田部８東全景（北から）　87
ＳＰ87　川関遺跡水田部４　ＳＥ０２　94
ＳＰ88　川関遺跡水田部８西　ＳＥ０４　94

ＳＰ89　川関遺跡水田部８西　ＳＥ０６　96
ＳＰ90　川関遺跡水田部８西　ＳＥ０７　96
ＳＰ91　川関遺跡水田部８西　ＳＥ０８　96
ＳＰ92　川関遺跡水田部８西　ＳＥ０９　96
ＳＰ93　川関遺跡水田部８西　ＳＥ１０　98
ＳＰ94　川関遺跡水田部８西　ＳＥ１４　98
ＳＰ95　川関遺跡水田部８東　ＳＥ１５　100
ＳＰ96　川関遺跡水田部８東　SH01土層　100
ＳＰ97　川関遺跡水田部８東　SH01上層溝　101
ＳＰ98　川関遺跡水田部８東　SH01下層溝　101
ＳＰ99　川関遺跡水田部８東　ＳＳ０１　102
ＳＰ100　川関遺跡水田部８東　ＳＤ１２　102
ＳＰ101　川関遺跡水田部８西　ＳＫ３２　106
ＳＰ102　川関遺跡水田部８西　SK54・55　108
ＳＰ103　川関遺跡水田部８西　ＳＫ８６　110
ＳＰ104　川関遺跡水田部８東　ＳＸ０２　113
ＳＰ105　川関遺跡橋脚部１区全景(南から)　115
ＳＰ106　川関遺跡橋脚部２区全景(北から)　116
ＳＰ107　川関遺跡橋脚部３区全景(北から)　116
ＳＰ108　川関遺跡橋脚部４区全景(北から)　117

巻頭カラー図版

1上　那智山上空から熊野灘を望む（北上空から）　下　藤倉城と勝山城（西上空から）
2上　藤倉城・川関遺跡遠景（東上空から）　下　藤倉城遠景（東上空から）
3上　那智湾から那智山周辺遠景（南上空から）
3下　熊野川町指定文化財 那智参詣曼陀羅図（正覚寺蔵）資料提供 和歌山県立博物館
4上　藤倉城堀切１（東から）　下　藤倉城山城部（北から）
5上　藤倉城館部全景（東から）　下　藤倉城館部全景（北から）
6上　川関遺跡水田部８西区全景(北上空から)　下　川関遺跡水田部８東区全景（北から）
7上　藤倉城出土土器　下　藤倉城・川関遺跡墨書土器
8上　藤倉城出土朝鮮半島製陶器　下　藤倉城出土中国製陶器

図　版　目　次

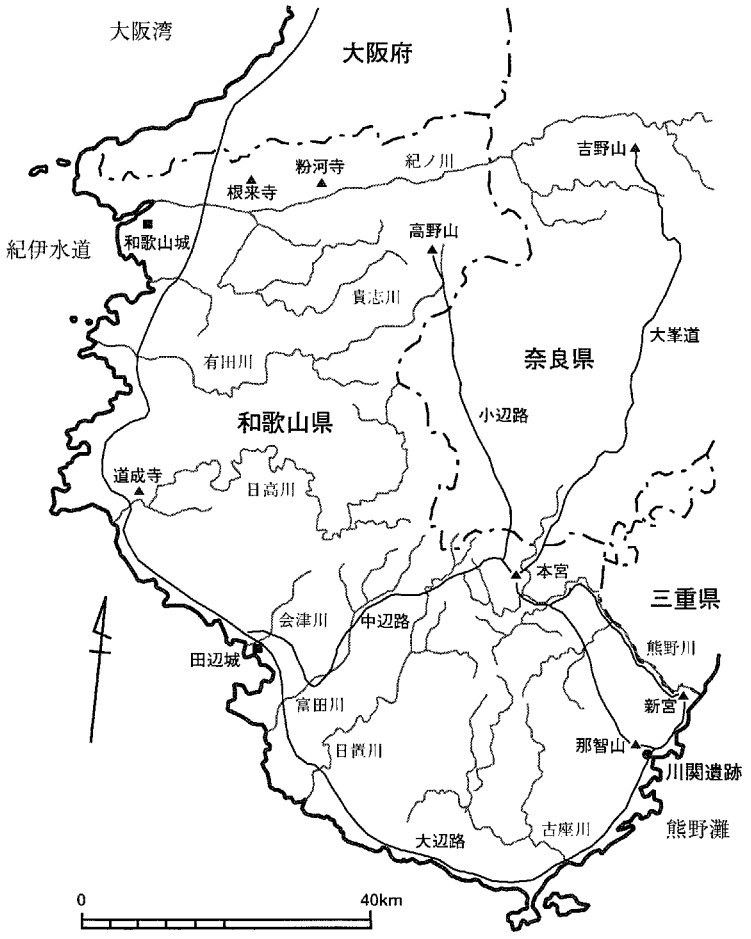
ＰＬ１　上　藤倉城山城部遠景（東から）　下　藤倉城山城部（南東から）
ＰＬ２　上　藤倉城山城部北郭（南から）　下　藤倉城山城部北郭（北から）
ＰＬ３　上　藤倉城山城部南郭（北から）　下　藤倉城山城部南郭（南から）
ＰＬ４　上　藤倉城山城部堀切１（北から）　下　藤倉城山城部竪堀４（南から）
ＰＬ５　上　藤倉城櫓台（北から）　下　藤倉城北郭石柱
ＰＬ６　上　藤倉城堀切４遠景（南から）　下　藤倉城堀切４（南から）
ＰＬ７　上　藤倉城館部Ａ区全景（東から）　下　藤倉城館部ＳＥ０１・ＳＦ０１
ＰＬ８　上　藤倉城館部ＳＨ０２　下　藤倉城館部ＳＨ０２陸橋部土層
ＰＬ９　上　藤倉城館部ＳＸ０１　下　藤倉城館部ＳＸ０２
ＰＬ10　上　藤倉城館部Ｂ・Ｃ区全景（東から）　下　藤倉城館部Ｂ区全景（南から）
ＰＬ11　上　藤倉城館部Ｂ区南西部（東から）　下　藤倉城館部ＳＥ０２

ＰＬ12　上　藤倉城館部Ｃ区全景（南から）　下　藤倉城館部Ｃ区全景（西から）
ＰＬ13　上　藤倉城館部ＳＳ０１　下　藤倉城館部ＳＦ０２
ＰＬ14　上　藤倉城館部ＳＸ０８・０９　下　藤倉城館部Ｃ区南西部土器出土状況
ＰＬ15　上　藤倉城館部Ｄ・Ｅ区全景（西から）　下　藤倉城館部Ｆ・Ｇ区全景（南から）
ＰＬ16　上　川関遺跡水田部１区全景（北から）　下　川関遺跡水田部１区全景（南から）
ＰＬ17　上　川関遺跡水田部２区全景（南から）　下　川関遺跡水田部２区全景（東から）
ＰＬ18　上　川関遺跡水田部５区全景（東から）　下　川関遺跡水田部６区全景（南から）
ＰＬ19　上　川関遺跡水田部７区全景（北から）　下　川関遺跡ＳＢ０１（西から）
ＰＬ20　上　川関遺跡ＳＢ０３（北から）　下　川関遺跡ＳＢ０４（北から）
ＰＬ21　上　川関遺跡ＳＢ０５（南から）　下　川関遺跡ＳＢ０８（南から）
ＰＬ22　上　川関遺跡ＳＦ０１（南から）　下　川関遺跡ＳＦ０１（北から）
ＰＬ23　上　川関遺跡ＳＥ０１・ＳＸ０１（南から）　下　川関遺跡ＳＸ０１検出状況（南東から）
ＰＬ24　上　川関遺跡ＳＤ０６（西から）　下　川関遺跡ＳＤ０６土器出土状況（南から）
ＰＬ25　上　川関遺跡水田部１区噴砂（東から）　下　川関遺跡水田部１区噴砂断面
ＰＬ26　川関遺跡水田部８西区中央北部（空中写真）　ＰＬ27　川関遺跡水田部８西区中央部（空中写真）
ＰＬ28　川関遺跡水田部８西区中央南部（空中写真）
ＰＬ29　上　川関遺跡水田部８東区中央部（東から）　下　川関遺跡水田部８東区全景（南から）
ＰＬ30　川関遺跡水田部８東区中央部（空中写真）　ＰＬ31　川関遺跡水田部８東区北東部（空中写真）
ＰＬ32　上　川関遺跡水田部８東区全景（北から）　下　川関遺跡ＳＢ７４（東から）
ＰＬ33　上　川関遺跡ＳＢ７８・７９（南から）　下　川関遺跡ＳＥ０３
ＰＬ34　上　川関遺跡ＳＥ０６　下　川関遺跡ＳＥ０７
ＰＬ35　上　川関遺跡ＳＥ０８　下　川関遺跡ＳＥ０９
ＰＬ36　上　川関遺跡ＳＥ１０　下　川関遺跡ＳＥ１２
ＰＬ37　上　川関遺跡ＳＥ１３　下　川関遺跡ＳＥ１３断割状況
ＰＬ38　上　川関遺跡ＳＥ１５　下　川関遺跡ＳＥ１６
ＰＬ39　上　川関遺跡ＳＨ０１土層　下　川関遺跡ＳＨ０１上層溝（北から）
ＰＬ40　上　川関遺跡ＳＤ１２（北から）　下　川関遺跡ＳＳ０１
ＰＬ41　上　川関遺跡ＳＫ８４土層断割状況　下　川関遺跡ＳＫ８８土層断割状況
ＰＬ42　上　川関遺跡ＳＫ８９土層断割状況　下　川関遺跡ＳＫ９１・１０４完掘状況
ＰＬ43　上　橋脚部１区全景（南から）　下　橋脚部２区全景（北から）
ＰＬ44　上　橋脚部３区全景（北から）　下　橋脚部４区全景（北から）
ＰＬ45～55　藤倉城跡遺物写真
ＰＬ56～109 川関遺跡遺物写真

Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

紀伊半島の西半部を占める和歌山県は平野が少なく、山地が海岸線まで迫っている。そのため、高速道路を初めとして道路網の整備が遅れており、国道ほか主たる幹線道路は、古代の官道であった南海道や平安時代以降に整備された熊野古道などを踏襲して建設されている。

三重県との県境に位置する新宮市と那智勝浦町とを結ぶ幹線道路は国道42号線しか無く、近年の交通量の増加に伴い、慢性的な交通渋滞が生じている。そのため、建設省によって、那智勝浦町と新宮市を結ぶ高速道路の建設が計画された。そして、那智勝浦町側から進入するインターチェンジが周知の埋蔵文化財包蔵地である藤倉城跡の存在する尾根部をかすめて、北側に隣接する山塊にループ状に建設されることが決定した。このため、県教育庁文化財課が平成９年度に周辺の現地踏査を実施した。その結果、北側の山塊の山上部や尾根部に戦国時代の山城の特徴を示す大規模な堀切や竪堀と石垣が現存し、麓の谷部には館跡だと考えられる数段の平坦地が造成され石垣と通路が存在していることを確認した。藤倉城跡の主体部が実は、従来知られていた範囲の北側に大規模に展開していることが明らかになった。このため、文化財課と建設省が協議し、谷部と山上部と尾根部の主要部分を発掘調査することとなった。本調査に先立ち、平成10年10月に試掘調査を実施した。この際に、高速道路料金所の建設予定地である藤倉城跡前面の水田部にも、平安時代から室町時代にかけての遺跡（川関遺跡）が存在することが新たに明らかになったため、調査を実施することとした。



第１図　川関遺跡位置図

調査は、一次調査として藤倉城跡の山上部・尾根部・谷部の6,986㎡を平成10年12月～平成11年５月まで実施し、川関遺跡の水田部１・２・３・４区にわたる４区画の5,443㎡を平成12年の３月にかけて実施した。二次調査は川関遺跡の水田部５・６・７・８西・８東区と橋脚部１・２・３・４区にわたる９区画の9,625㎡を平成12年6月～平成13年３月にかけて実施した。

藤倉城跡と川関遺跡は隣接しているが、遺跡の年代と性格が異なると考えられるので、以下では各遺跡ごとにまとめて記述する。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と地質的環境

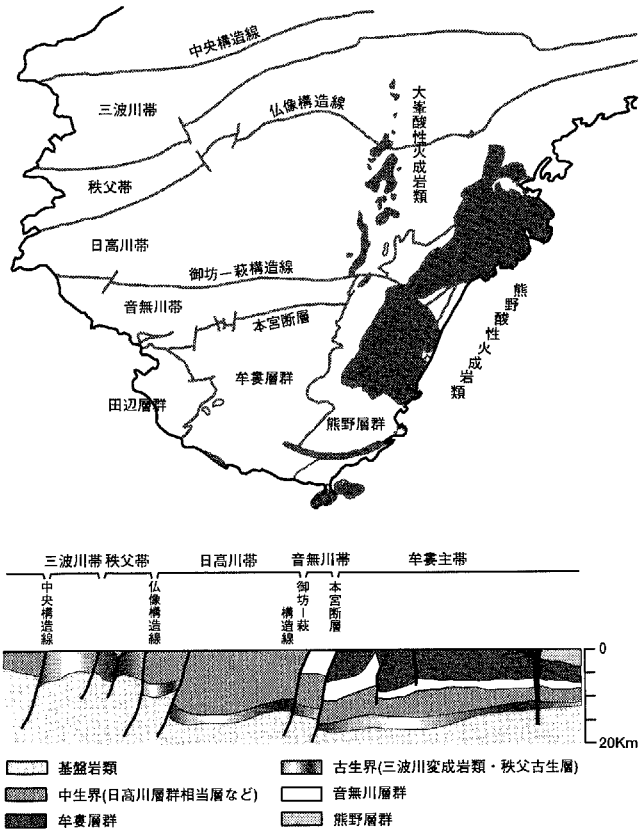
藤倉城跡と川関遺跡は和歌山県東牟婁郡那智勝浦町字藤倉・川関・中村に所在している。藤倉城は山城部が那智川下流右岸の標高81ｍの藤倉山塊に位置し、麓の谷に館部が造成されている。藤倉城の東に隣接して、標高４ｍ前後の水田部に川関遺跡が広がっている。熊野三山の一つである那智山の入口部にあたり、那智川の河口部にも500ｍほどの距離である。

那智勝浦町は県の南東部に位置し、北部から西部にかけては国指定天然記念物那智原生林を含む山々が広がり、古座町と古座川町に接している。山々からは那智川と太田川が熊野灘に流れており、低位段丘を形成している。南部から東部にかけては、熊野灘に面し、風光明媚なリアス式海岸が連なり、太地町と新宮市に接している。東西約19.8km・南北約19.2kmで、面積183.4km²の約90％が山地と丘陵部である。那智山の歴史文化遺産や温泉旅館などの施設があり、年間220万人ほどの観光客で賑わっている。那智勝浦漁港は遠洋漁業の基地で、マグロの水揚高は全国でも有数である。

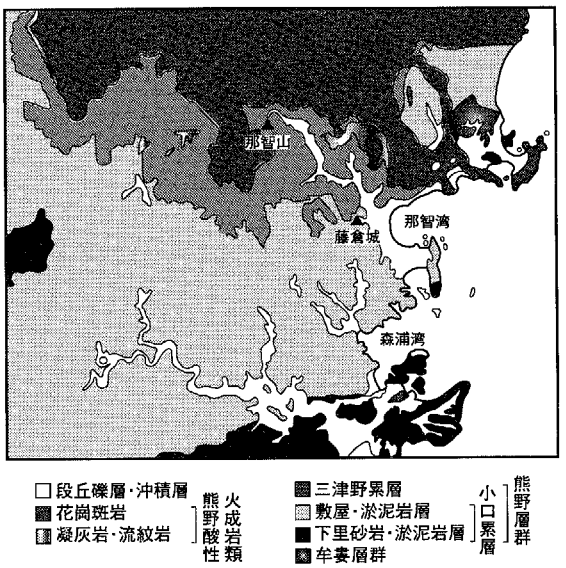
那智勝浦町周辺の地質は大別すると北東部が花崗斑岩や凝灰岩・流紋岩から成る熊野酸性火成岩類で、南西部が三津野累層・小口累層（敷屋淤泥岩層・下里砂岩淤泥岩層）の熊野層群、河川流域から海岸部にかけてが段丘礫層・沖積層となっている。

藤倉城周辺の岩脈は熊野層群が褶曲・隆起したもので、水田部の川関遺跡は標高約４ｍの沖積層上に位置している。藤倉城・川関遺跡の石垣や井戸には那智川で見られる熊野酸性火成岩類の川原石が使用されている。

当地方では、金属鉱床と温泉の地下資源も豊富で、古くから人々の生活に利用され



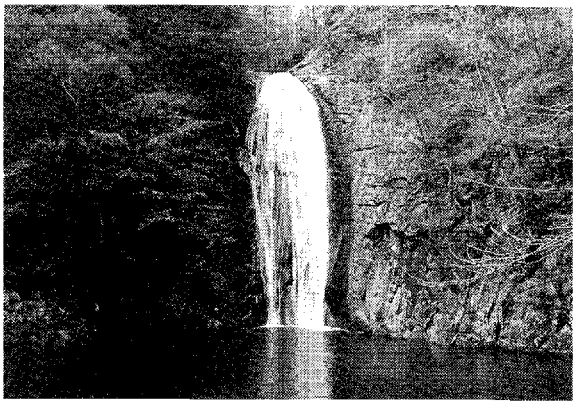
第２図　紀伊半島地質模式図



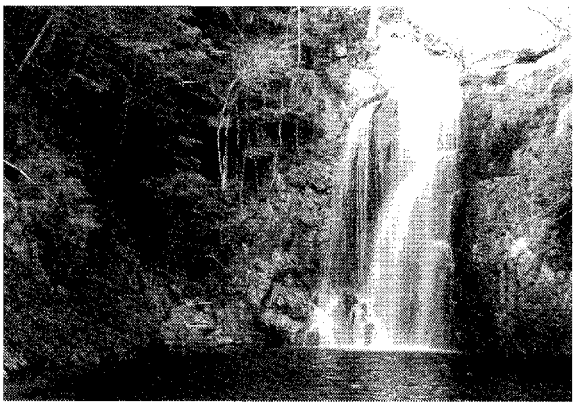
第３図　那智勝浦町周辺地質模式図

てきた。金属鉱床は妙法山の南麓部に多数の鉱脈が集中し、規模の大きなものが多い。鉱脈の主脈は、幅数10cmから20m程で、北北西－南南東方向に延びて、西に向かって40°～60°で傾斜している。鉱脈は一般に熊野層群の三津野累層中でよく発達し、小口累層では細脈で、花崗斑岩中には見られない。これらの鉱脈は、母岩である熊野層群の岩石が破砕されて角礫になったものを、鉱石鉱物・脈石鉱物が取り囲んだ角礫構造をした黄鉄黄銅鉱石英脈であり、晶洞が多く、黄鉄鉱が細粒ながら自形の結晶をしている。鉱床は、断層破水帯に熱水溶液が上昇し、その成分が沈殿・結晶したもので、熱水鉱床と呼ばれている。その浅部低温相が妙法鉱山及び紀州鉱山の主要部であり、紀州型鉱床と呼ばれている。深部高温相は堅固で緻密な塊状の磁鉄鉱黄銅鉱石英脈で、北山型鉱床と呼ばれ、北山村付近で採掘されていた。

熊野地方の鉱山では古代あるいは中世において金・銀・銅等が採掘されていたと考えられているが、文献資料では天正８（1580）年に羽柴秀吉が天正通宝を鋳造した際に、那智の鳴滝金山から献上されたのが最古である。江戸時代の前期には那智銅山の開発が進み、全国でも十指に入る産出量であった。川関遺跡からは鎌倉時代の金属の鋳型を廃棄した土坑が見つかっており、当時すでに周辺地域では鉱山開発が行われていた可能性が高い。



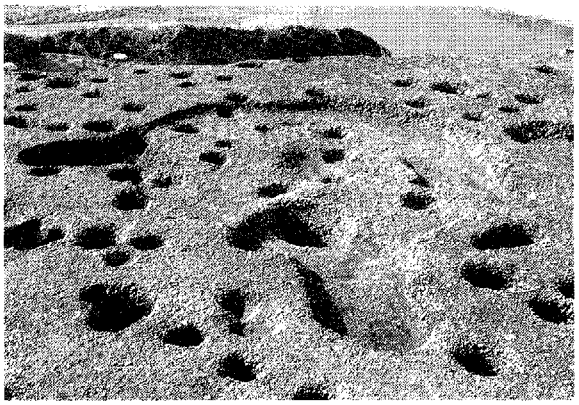
ＳＰ１　那智一ノ滝



ＳＰ２　那智二ノ滝



ＳＰ３　神倉山ごとびき岩



ＳＰ４　八反田遺跡

第２節　地理的・歴史的環境

藤倉城跡と川関遺跡の所在する那智勝浦町の属する東牟婁郡における遺跡の分布状況を概観してみたい。東牟婁郡は本県の南東部に位置する古座川町・古座町・那智勝浦町・太地町・本宮町・北山村・熊野川町・新宮市の１市６町１村からなり、山地が多く、広い平野は発達していない。遺跡数は各時代を

通じて少ないが、中世以降は熊野三山及び王子社などの成立によって、数が増加している。

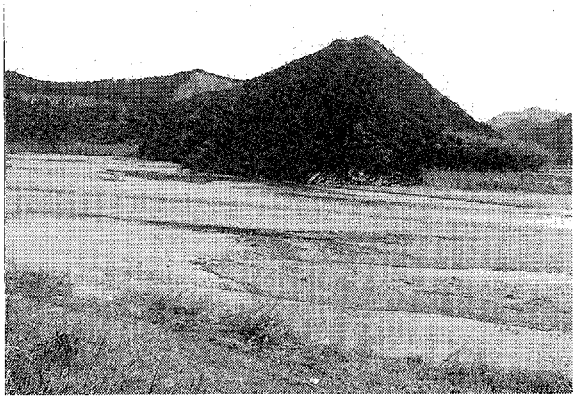
旧石器時代の遺跡は未確認で、縄文時代の遺跡には梶取崎遺跡(太地町)、下尾井遺跡(北山村)、速玉大社境内遺跡(新宮市)が知られている。下尾井遺跡では発掘調査が行われ、石組み遺構や縄文時代前期から後期の遺物包含層が確認されている。後期縄文土器を主体として、多数の縄文土器が出土しており、近畿地方の縄文時代では重要な遺跡である。

弥生時代の遺跡には新宮市の神倉山銅鐸出土遺跡と八反田遺跡、阿須賀神社遺跡がある。八反田遺跡は新宮市の佐野川下流に広がる弥生時代の集落跡で、過去4次にわたる発掘調査が実施されている(註1)。弥生時代中期から後期にかけての土坑・ピット・竪穴住居・自然流路などが検出されている。土器の中には前期の壺や刻目突帯を施した縄文系の深鉢、関東や東海系の土器がみられ、地域色を表している。

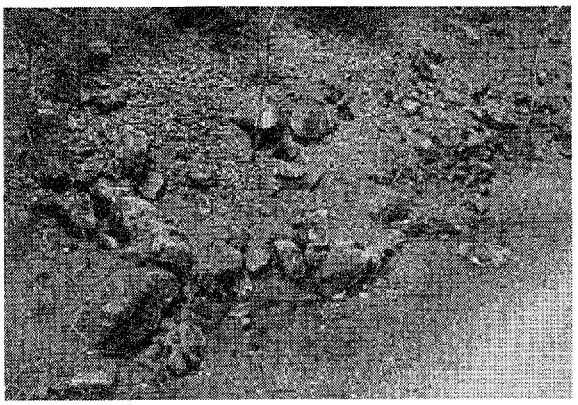
古墳時代の遺跡には下里古墳(那智勝浦町)、阿須賀神社遺跡がある。下里古墳は太田川下流左岸の標高約4mの海岸部に築かれた古墳時代前期の全長約60mの前方後円墳である。本州最南端の古墳として国史跡に指定されている。墳丘周囲には馬蹄形の周溝をもつと考えられ、後円部には東西方向に主軸をもつ竪穴式石室が築かれている。周辺では古墳や遺跡は確認されておらず、下里古墳の出現背景は不明である。奈良時代から平安時代にかけては、東牟婁郡では郡衙跡や古代寺院は未確認である。平安時代には熊野三山が成立し、参詣道や王子社が整備されている。宇多上皇以来、法皇・上皇・女院等の熊野行幸が盛んになり、やがて地方武士や一般民衆にまで浸透し、蟻の熊野詣と呼ばれるほどの隆盛をきわめた。平安時代末期から室町時代初期にかけて、浄土信仰の流行により、三山に経や仏具を奉納する風習が広まり、各地で経塚が造営されている。近年、



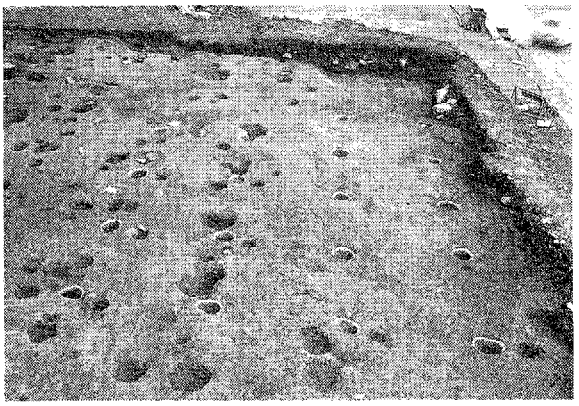
ＳＰ５　熊野古道大門坂



ＳＰ６　本宮備崎



ＳＰ７　那智山経塚涸池

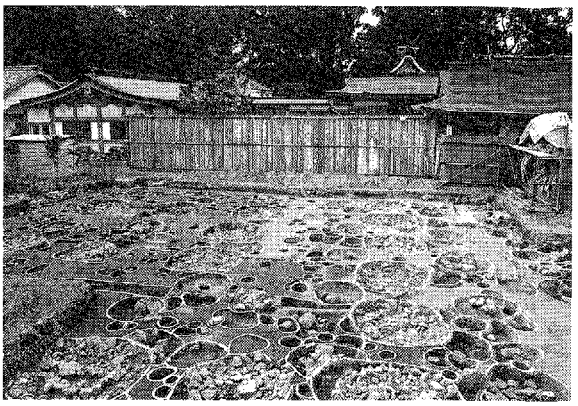


ＳＰ８　那智山坊院跡

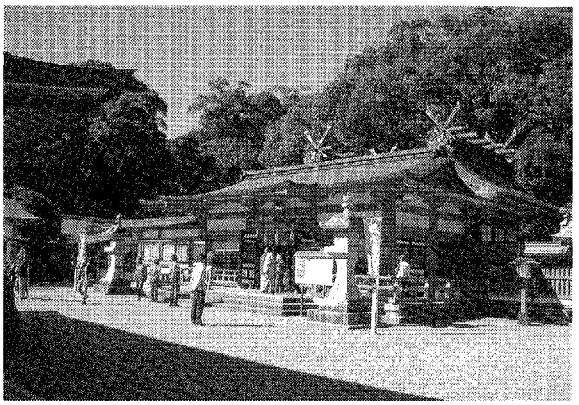
熊野本宮大社旧社地の対岸に位置する備崎と呼ばれている丘陵地で大規模な経塚群が確認され、発掘調査が実施されている（註２）。

熊野信仰の隆盛とともに、三山の司祭の中の実力者が別当と称されるようになり、第21代別当湛増は熊野水軍を率いて源氏方に味方し、壇ノ浦の合戦に出兵し、戦功を挙げている。13世紀末頃になると、熊野三山で別当家の勢力は、衰退していき、那智山では、那智執行１人・瀧本執行１人・宿老10人・在庁２人らによる集団指導体制が成立していった。当初は尊勝院塩崎氏が有力であったが、やがて実方院米良氏が多数の所領・山林・檀那株などを取得して金融業などを営み、新興勢力として台頭した。15世紀後半以降は実方院系統の院・房が那智山両執行職をほぼ独占するようになった。詳細は不明であるが、廊之坊塩崎氏もこの頃から那智山内で執行職を出し、勢力を拡大させていた。

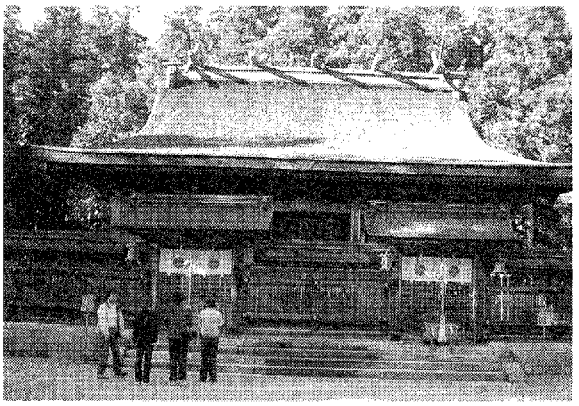
新宮周辺では15世紀中頃以降、堀内氏が勢力を伸展し、新宮社家も兼ねて紀南地域最大の在地勢力となっていた。天正９（1581）年２月、堀内氏善は織田信長から所領安堵の朱印状を受け、石高は５万石ほどであった。このように中世から戦国時代にかけて、那智山周辺では実方院米良氏や廊之坊塩崎氏などの有力社家が支配権争いを展開し、一方、新宮から佐野にかけては紀伊国で唯一の戦国大名に成長していた堀内氏が勢力を伸ばしていた。周辺の在地領主も各地で小規模な城館を築き、堀内氏に対抗しようとしていた。堀内氏の支配権は、南の海岸線は宇久井までで、それから南は浜ノ宮の廊之坊塩崎氏が勝山に城を築いて頑強に抵抗していた。天正６年（1578）堀内氏善は軍勢を差し向け廊之坊を攻略しようとしたが、勝山城を堅牢に城塞化した廊之坊の抵抗にあい、苦戦を強いられた。このため、堀内氏は廊之坊と敵対関係にあった米良氏と四男の道慶を



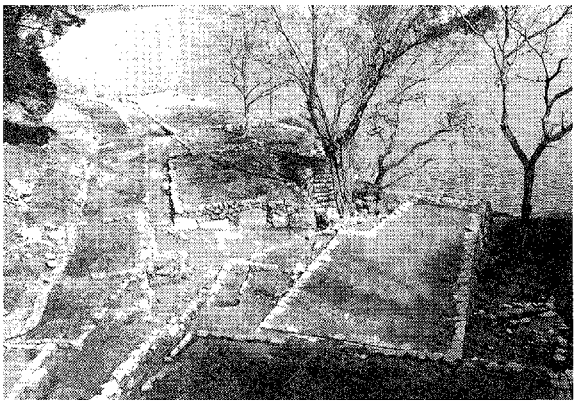
ＳＰ９　速玉大社境内遺跡



ＳＰ10　熊野速玉大社



ＳＰ11　熊野本宮大社



ＳＰ12　新宮城水ノ手郭

婿養子として姻戚関係を結び、天正９（1581）年４月、３ヶ月にわたる戦闘の末、勝山城を落城させている。確認された藤倉城はこの頃に実方院米良氏が廊之坊塩崎氏に対抗するために築いた城館だと考えられる。

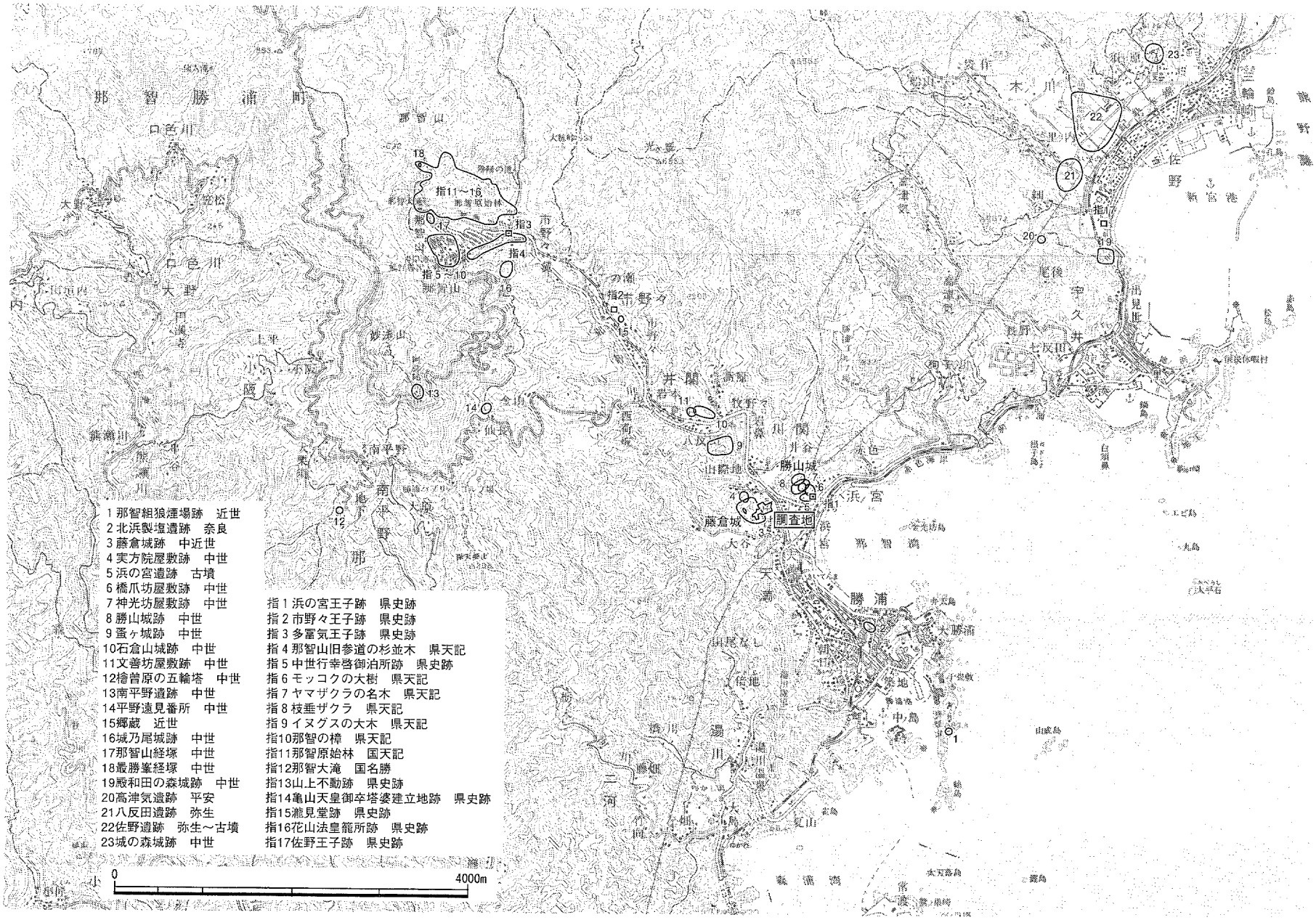
天正13（1585）年３月、羽柴秀吉は紀州侵攻を開始し、根来・粉河・雑賀衆を撃破し、南下して湯川氏等の在地領主を平定した。翌年、羽柴秀長は熊野地域に出兵し、抵抗勢力を支配下に置いた。堀内氏善は恭順し、領地２万７千石を安堵され、新宮を中心とした紀南支配を任された。

慶長５（1600）年の関ヶ原の戦いで西軍方につき、敗れた堀内氏は肥後熊本に流された。紀伊国には浅野幸長が封ぜられ、37万石余を拝領した。幸長は家老の浅野佐知近を田辺に配し、３万石を宛て、新宮には家老の浅野忠吉を配し、２万８千石を宛行った。忠吉は新宮城を築き、熊野地域を統治した。このように、堀内氏という後ろ盾を失った実方院米良氏はやがて衰退していったようである。

元和５（1619）年、新たに徳川頼宣が紀伊55万５千石の藩主となり、支領として安藤直次を田辺城（３万８千石）に置き口熊野を治め、水野重仲を新宮城（３万５千石）に置き奥熊野を治めた。新宮領主となった水野氏は新宮城を完成させて、居城として、以後10代250年にわたり統治した（註３）。

表１　藤倉城跡・川関遺跡関連略年譜

907年　延喜７年	宇多上皇、熊野行幸。
927年　延長５年	熊野本宮大社・熊野速玉大社式内社となる。
987年　永延元年	花山法皇、熊野行幸し、那智山滝本に止住。
1090年　寛治４年	白川上皇、熊野行幸。
12世紀前半	川関遺跡で集落が営まれはじめる。
12世紀後半	川関遺跡で建物が多数建てられる。
1185年　文治元年	熊野別当湛増、源氏方に付き、平氏を滅亡させる。
1193年　建久４年	源頼朝、熊野三山造営を行い、那智の社堂・参道などを寄進する。
1221年　承久３年	熊野三山衆徒、承久乱において、朝廷方に味方し、敗戦する。多数の荘園等を失う。
14世紀頃	川関遺跡の集落衰退する。
1340年　興国元年	熊野七上綱、熊野別当に代わり熊野一帯を支配する。
15世紀頃	川関遺跡で中村屋敷が営まれる。
1570年頃	実方院米良氏藤倉城を築く。
1578年　天正６年	堀内氏善、長島城攻略。
1581年　天正９年	堀内氏善、勝山城攻略。
1585年　天正13年	羽柴秀吉、紀州に侵攻。
1600年　慶長５年	関ヶ原の戦い。堀内氏善、肥後に配流。
1601年　慶長６年	浅野忠吉、新宮城主となり、築城開始。
1619年　元和５年	水野重仲、新宮城主となる。
1630年頃	藤倉城火災により、廃絶。

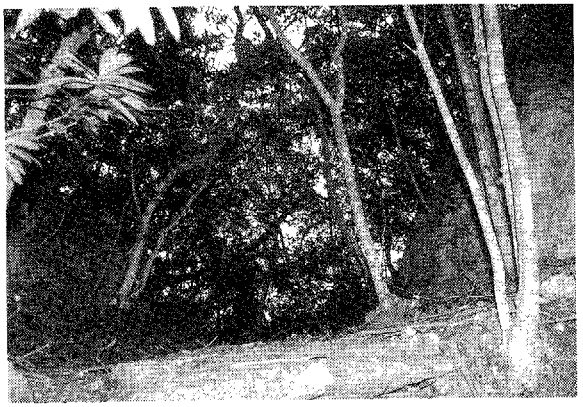


第４図　藤倉城跡周辺の遺跡及び指定文化財

第Ⅲ章　調査と整理の方法

第１節　試掘調査の概要

試掘調査は藤倉城跡を対象として平成10年10月５日～20日にかけて財団法人和歌山県文化財センターが実施した（第１次試掘調査）。その際に、当初調査対象地外であった水田部においても遺跡が存在することが明らかになったので、用地買収の進んでいた西部の水田を全面調査することが決定した。その後、東部の水田での遺跡範囲確認のため、和歌山県教育庁文化財課が平成12年１月11日～20日にかけて試掘調査を実施した（第２次試掘調査）。以下、当時における調査概要を記す。



ＳＰ13　調査前の藤倉城堀切１



ＳＰ14　調査前の藤倉城堀切４

１．第１次試掘調査

藤倉山の山頂及び稜線と谷部の10ケ所にグリッド及びトレンチを設定し人力掘削し、機械の進入可能な谷部と平地部は８本のトレンチを機械掘削し、調査を実施した。また、水路部をこえる進入路用の土取坑と駐車場の整地用の土取坑から遺物と遺構が確認されたため、併せて調査した。

山上部（１～９グリッド）

１）基本土層

藤倉山は標高約81ｍの低い山であるが、急傾斜で、岩盤が多く露出している。山地部の調査区では10㎝前後の腐植土の直下は淡明黄灰色の岩盤や明黄橙色砂礫土で遺物包含層は確認できなかった。

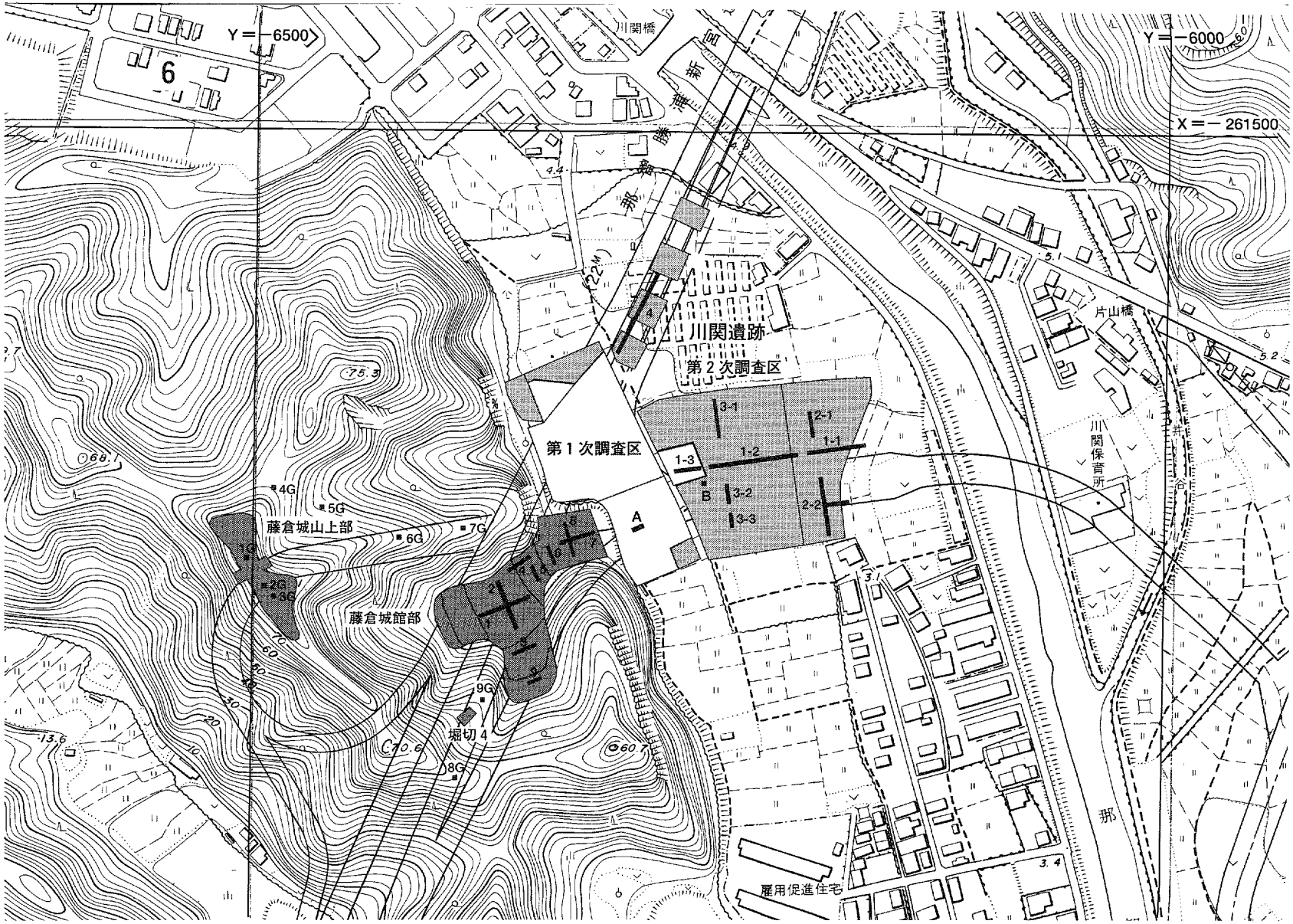
２）検出した遺構・遺物

すべてのグリッドで、遺構・遺物は確認されなかった。山塊部の最高所からやや北西に下った尾根筋には幅４ｍ・深さ３ｍ程の大規模な堀切がみられ、その南東部には岩盤の石材を使用した石垣が1.0ｍ～1.5ｍの高さで長さ20ｍ程現存している。この最高所の平坦部が山城の中心部だと考えられる。グリッド９の尾根上にも幅約２ｍ・深さ１ｍ程の小規模な堀切が確認された。

谷部（１～９トレンチ）

１）基本土層

谷部は間口の狭い屏風のように切り立った岩盤から南西奥へと広がっている。７段の平坦部で構成されており、石垣が３ヶ所で見られる。奥部の基本的な土層は上から①表土、②暗灰褐色土（遺物包含層）、③明黄灰色砂礫土（地山）である。谷の開口部に位置する６～８トレンチでは基本的な土層



第５図　試掘調査地点位置図

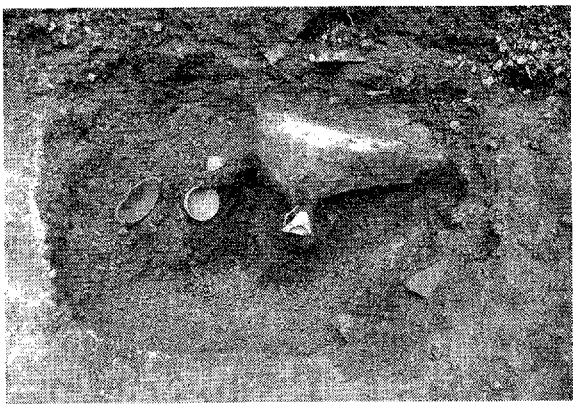
は①表土、②暗茶褐色土（遺物包含層）、③礫混じり淡灰黄色土、④礫混じり茶褐色土、⑤礫混じり暗茶灰色土、⑥礫混じり明灰黄色土（地山）である。②層の直下から中世・近世の遺構が検出される。

2）検出した遺構・遺物

1・2トレンチでは土坑と柱穴を検出した。土坑1は径2.5m以上を測り、埋土は炭と焼土混じりの黒灰色土で多数の中国製の磁器と国産の陶器が出土した。土坑2は径1.2m程の隅丸方形状で、中国製の磁器や国産陶器、瓦質の火舎、砥石が出土した。柱穴は掘方が約40cmで、柱痕が焼けて赤変していた。3トレンチでは土坑と柱穴を検出した。柱穴4個は東西方向に並び、1個は東石を据えていた。中国製の磁器と国産陶器が出土した。4トレンチでは時期は不明であるが、南北方向の石列を2列検出した。北東部では石垣1の延長ラインで、落ち込みがみられ、本来は石垣が北へと続いていた可能性がある。5・6トレンチでは土坑と溝を検出したが、表土以外からは遺物が出土せず時期は不明である。7・8トレンチでは土坑と柱穴を検出した。土坑3は撹乱されていたが、人頭大の石を上部に積んだ溜桝状の施設の可能性がある。備前焼の摺鉢・壺、瀬戸美濃の碗、中国製磁器が出土した。柱穴3個はほぼ東西方向に並んでいる。8トレンチの東側で人頭大の石を積んだ井戸が現存している。上端の直径約1.2mの円形で、周囲を東西南北にあわせて石で方形に囲んでいる。9トレンチでは土坑を検出した。中央の土坑は径約2.5mを測り、埋土は炭を含んだ黒灰色土である。貨銭と多数の瀬戸美濃や唐津の天目茶碗が出土した。1～9トレンチの調査結果から谷部に館的性格をもつ建物群が存在した可能性が高い。出土遺物から16世紀後半から17世紀初頭頃の年代が考えられる。現存する石垣1～3は築造時期は不明であるが、館跡に伴うものである可能性がある。石垣1は高さ約1.7m、石垣2は高さ約3.0m、石垣3は高さ約0.6mを測る。



SP15　藤倉城館部トレンチ1



SP16　藤倉城館部トレンチ2土坑2

平地部（A・B地点）

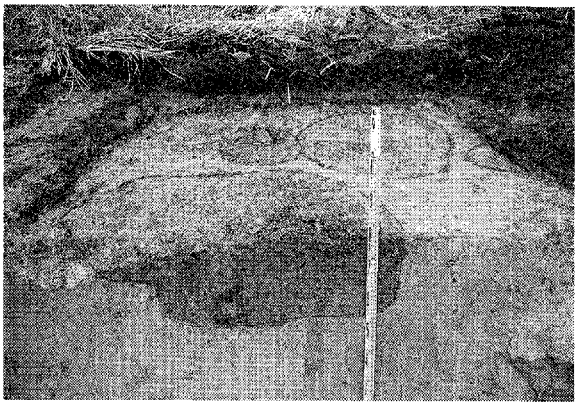
A地点では高さ約3mの水路を越えるための進入路の土取を行ったが、遺物が多数含まれており、土層の断面観察をした結果、遺物包含層が確認された。このため、土取坑の東隣に幅2.5m・長さ6.0mのトレンチを設定して遺構検出を実施した結果、柱穴12個と溝1条を確認した。柱穴は径20cm～70cm程のものがあり、埋土から3つに分類できる。溝は幅約1mで炭や焼土がみられ、何らかの鋳造の結果生じたと考えられる多数の鉱滓を検出した。平安時代の灰釉の皿と碗、常滑焼の壺、中国製青磁

碗が出土した。

Ｂ地点では駐車場の整地用土取坑の土層の断面観察をして柱穴を確認したため遺構検出を実施した。２ｍ×１ｍの範囲で柱穴を４個検出した。最大のものは径約1.0ｍで深さは約0.4ｍであった。平安時代の灰釉の皿と碗、常滑焼の壺、土師器の鍋が出土した。


ＳＰ17　川関遺跡Ａ地点検出遺構

Ａ・Ｂ地点の土層の観察から、地山はＢ地点の方が高く、Ａ地点の西の山裾に向かって緩やかに傾斜している。その結果、Ｂ地点では水田耕作によって遺物包含層や地山も削平されており、Ａ地点の西側ほど遺物包含層が厚く堆積していることが明らかになった。

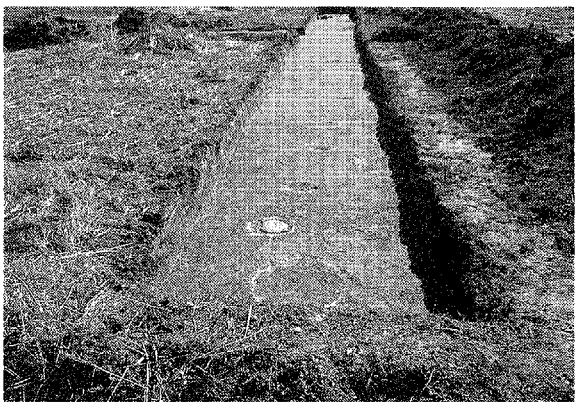

ＳＰ18　川関遺跡Ｂ地点検出遺構

今回の調査で、山塊部のグリッドでは顕著な遺構・遺物は認められなかったが、大規模な堀切や石垣の存在から１Ｇ～３Ｇ地点の平坦部が山城の主要部であることは確実である。谷部の階段状の平坦部から多数の遺構・遺物が検出された。館跡に伴うものであろう。出土遺物は16世紀末から17世紀初頭のものが多数を占める。土坑や柱穴の状況からこれらの施設は17世紀初めに火災により消失したのではないかと推定される。谷部の館跡と山上の山城はセットで築かれて機能していたのだろう。文献資料によると那智山実方院米良氏が築いた可能性が高い。

平地の水田部で平安時代の柱跡や溝を確認した。那智山への入り口という交通の要衝地で周囲に比較的広い安定した平地がひろがっており、柱跡の密集度から集落が営まれていた可能性が高い。近辺には銅の採掘跡があり、今回の溝から出土した多数の鉱滓もそれに関連するものかも知れない。周辺の水田部に試掘範囲を広げて遺跡の範囲を確認する必要がある。

２．第２次試掘調査

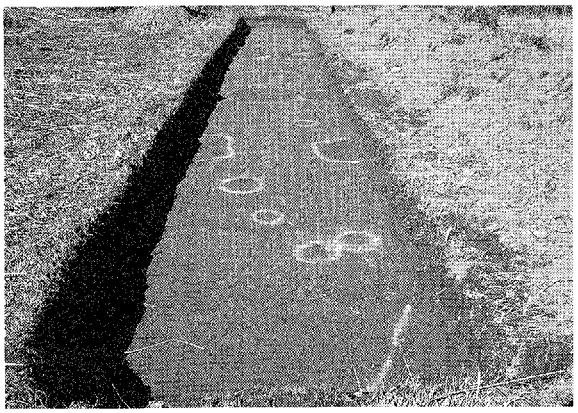
平成12年１月11日～20日にかけて、町道から東側の高速道路料金所部分と北側からのインターチェンジ橋脚部の試掘調査を県文化財課が実施した。調査は幅約２ｍの直線状のトレンチを10ヶ所設定し、遺構検出面まで機械掘削し、人力で遺構検出と土層の確認作業を行なった。トレンチは調査予定地の中央部の東西方向110ｍにわたって１－１トレンチ


ＳＰ19　川関遺跡１－１トレンチ

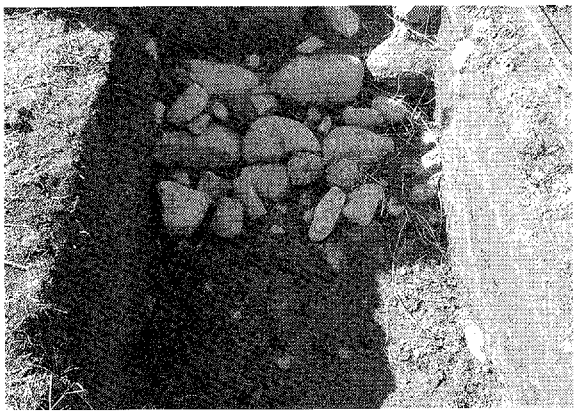
(38.75m)、1－2トレンチ（50.5m)、1－3トレンチ（15.75m）を設定し、東側に南北方向の2－1トレンチ（9.25m)、2－2トレンチ（南北方向31.25m・東西方向11.25m)、西側に南北方向の3－1トレンチ（18.5m)、3－2トレンチ（9.25m)、3－3トレンチ（8.0m)、橋脚部で4トレンチ(48.5m）を設定して調査を実施した。

調査地点の東端部では那智川の氾濫原と考えられる砂礫層が堆積している事が確認された。このため、本調査対象範囲の東限をこの氾濫原のラインとすることが決定した。また、現状の水田畦畔が南北方向に幅約4mの間隔で平行に延びて、その間が一段落ち込んでいる部分では、藤倉城に関連した戦国時代末期の大規模な堀跡（報告書 堀SH01）であることが確認され、西岸では石積み護岸か階段状施設（報告書 階段SS01）を検出した。各トレンチからは、直径20～40cm前後の柱穴・土坑・溝が、ほぼ全域で多数検出され、山茶碗類、瀬戸美濃、備前、唐津、中国製白磁・青磁・青花などが出土した。2－2トレンチの南端部では石積みの円形井戸（報告書 井戸SE01）が検出された。

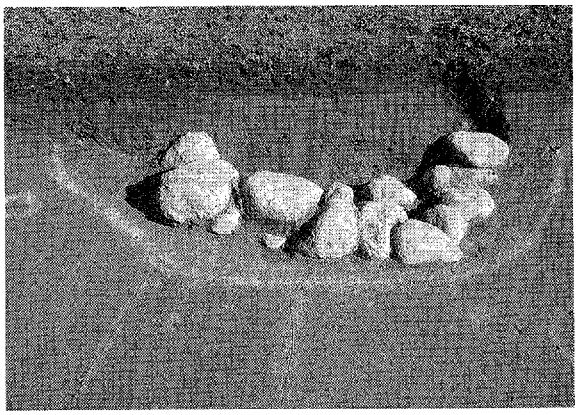
土層の堆積状況は基本的にⅠ層オリーブ黒色砂質土［水田地味土］、Ⅱ層緑灰色砂質土（下層にマンガン粒など赤褐色層伴う）［新旧水田床土］、Ⅲ層灰オリーブ色砂質土（炭含む）［包含層］、Ⅳ層黄褐色砂質土［地山］である。地山面は町道から那智川の氾濫原までの中央部が高く、全体的に北側から南側に緩やかに下がっていることが明らかになった。



ＳＰ20　川関遺跡1－2トレンチ



ＳＰ21　川関遺跡1－1トレンチ堀跡



ＳＰ22　川関遺跡2－2トレンチ井戸跡

高速道路の那智川左岸地域における建設予定地には、湿地や岩盤が露頭している地点が多く、遺物も散布しておらず、遺跡は存在しないものと判断された。

以上の調査結果から県文化財課と建設省紀南工事事務所が協議し、那智川の氾濫原を除外した川関地区水田部の全面発掘調査を実施することが決定した。

第２節　本調査の概要

１．調査の方法

《調査区名》

調査対象地は、藤倉山塊から那智川にかけての水田部で、東西南北約400ｍ四方に及んでいる。遺跡の時代と性格が異なることから、山塊部の藤倉城跡と水田部の川関遺跡とに分けて調査及び整理作業を実施した。調査コードは藤倉城跡が98－44・27、川関遺跡第１次調査が99－44・56、川関遺跡第２次調査が00－44・56である。

調査区は地形と水田区画に基づいて、藤倉城跡では、山上部の山城部、谷部の館部を奥からＡ～Ｈ地区に分け、川関遺跡では、水田部１～４区（第１次調査）、水田部５～７区・８東区・８西区・橋脚部１～４区（第２次調査）に分けて調査した（第６図）。

《地区割》

地区割は、大区画割をＸ＝－261.500km・Ｙ＝－60.000kmの交点を基準点とし、一辺100ｍのメッシュに割り付けた。地区名は南北方向に北からアルファベットのＡ～、東西方向に東から算用数字の１～を使用し、組み合わせてＡ－１区のように呼称した。

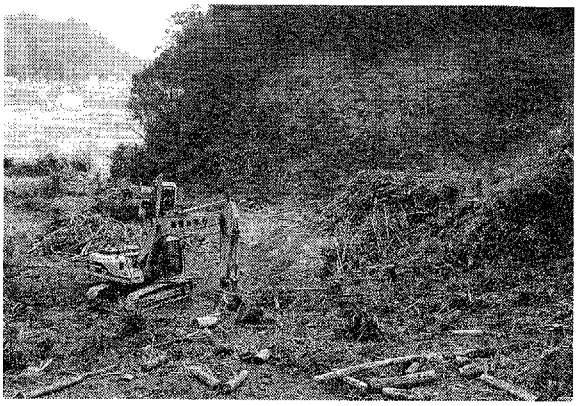
出土遺物の取上げ等に使用する小区画割は、大区画割ごとに一辺４ｍのメッシュに割り付けた。小地区名は南北方向に北からアルファベットのＡ～Ｙ、東西方向に東から算用数字の１～25を使用し、これを組み合わせて１Ａ区のように呼称した（第７図）。

《調査の方法》

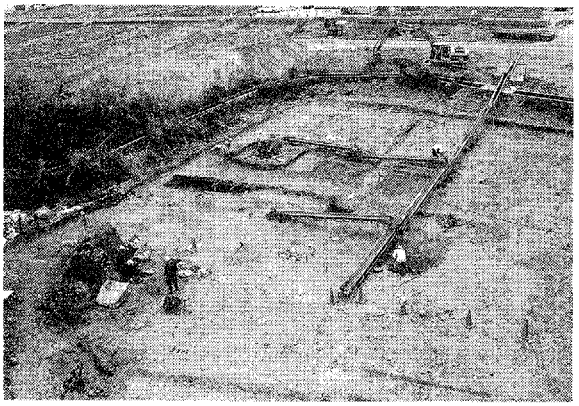
藤倉城跡の山上部は急峻なうえ、樹木が生茂り建設機械が入れず、樹木の伐開・表土及び堆積土の掘削・遺構掘削はすべて人力作業で実施した。主たる作業は大きな樹木の伐採と解体、埋没した堀切・竪堀の掘削、石垣の検出であった。谷部は樹木が伐採され放置されていたので、伐木撤去・抜根作業及び



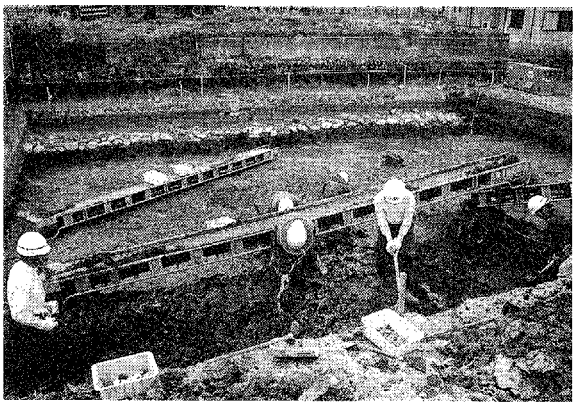
ＳＰ23　藤倉城跡山上部伐開状況



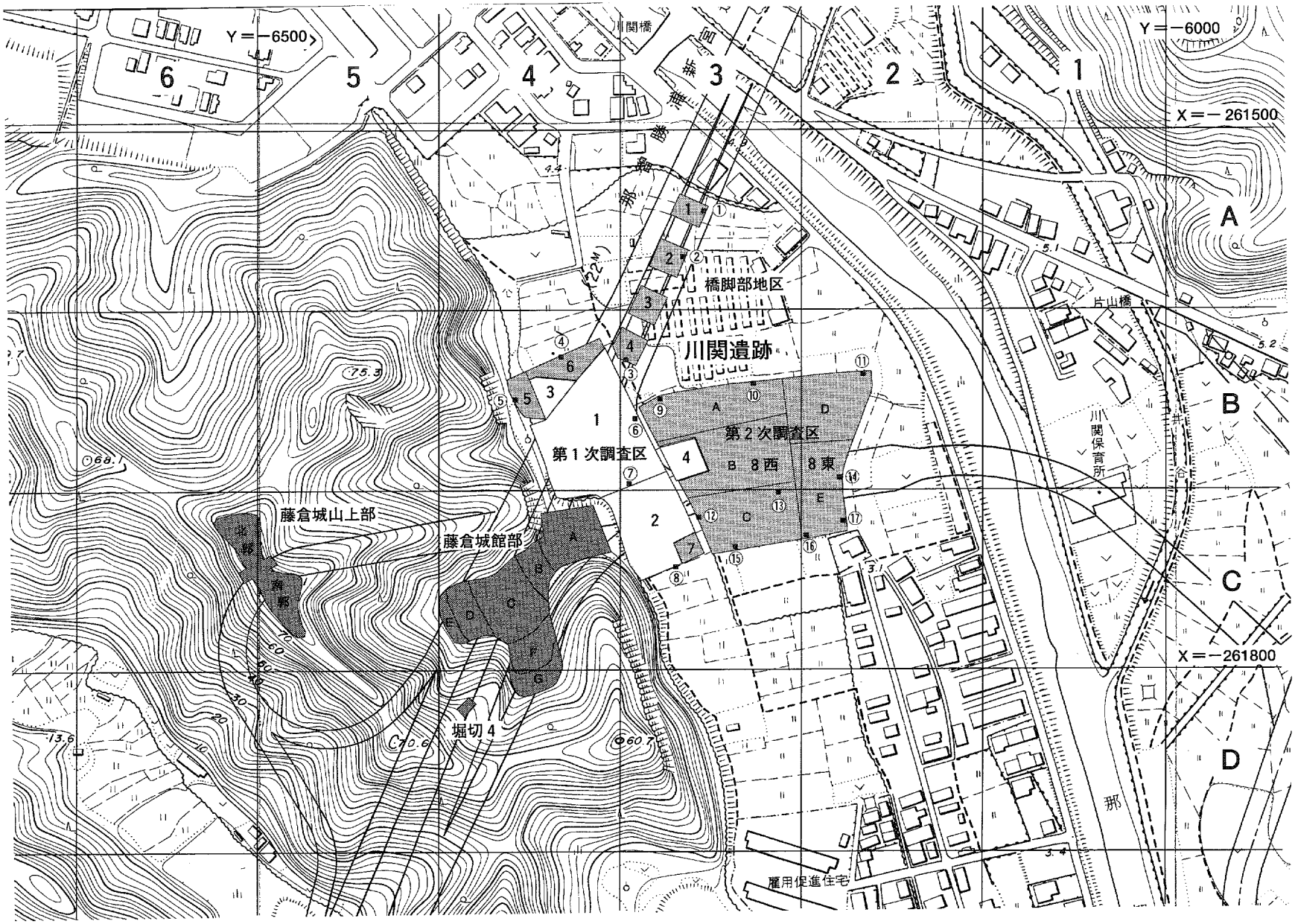
ＳＰ24　藤倉城跡館部伐開状況



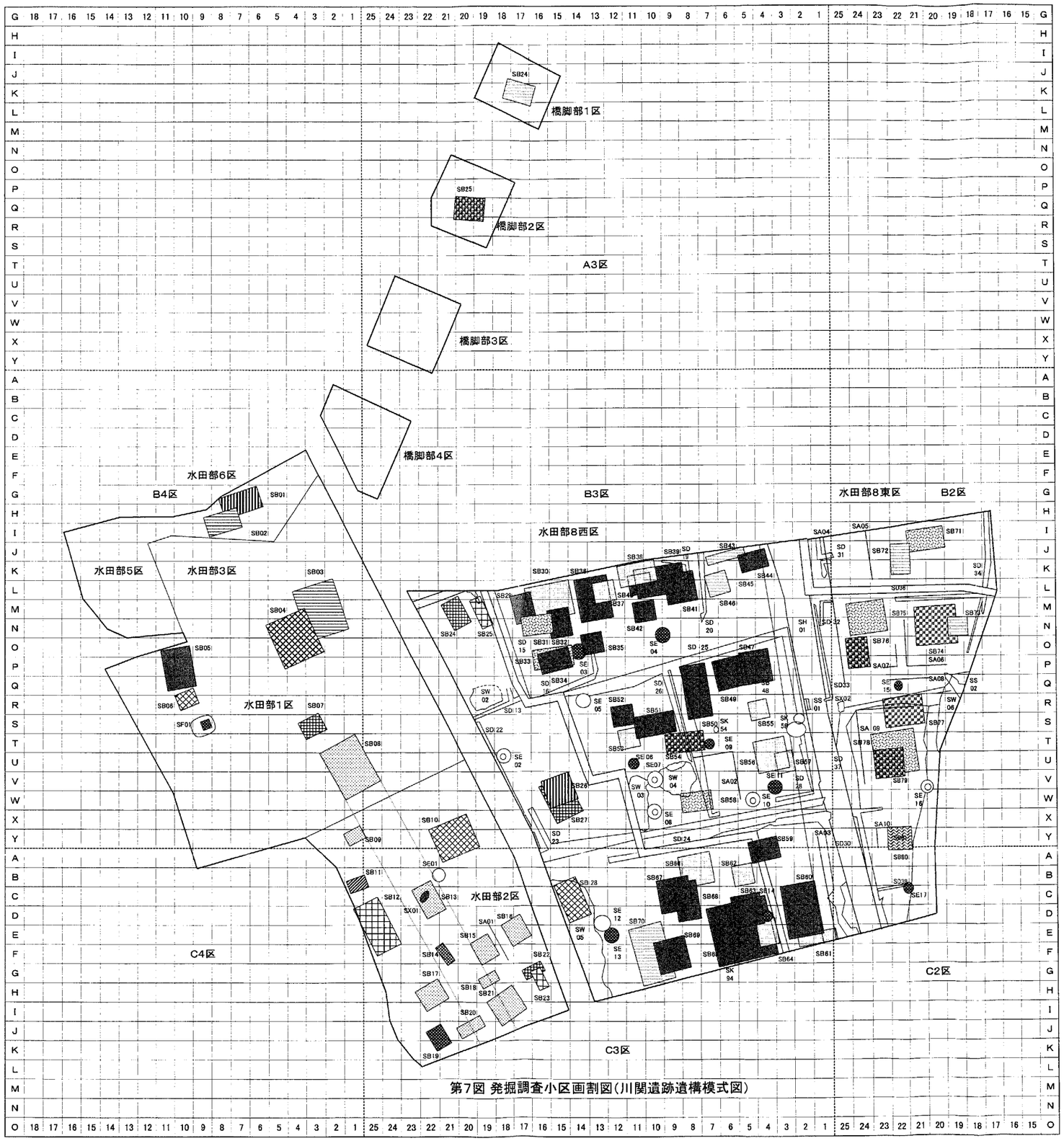
ＳＰ25　藤倉城跡館部Ａ区人力掘削



ＳＰ26　川関遺跡橋脚部１区人力掘削



第6図　発掘調査大区画割図・柱状土層位置図


橋脚部1区
SB24
橋脚部2区
SB25
A3区
橋脚部3区
橋脚部4区
水田部6区
B4区
SB01
SB02
水田部5区
水田部3区
SB03
SB04
SB05
SB06
水田部1区
SB07
SB08
SF01
SB09
SB10
SE01
SB11
SB12
SB13
水田部2区
SX01
SA01
SB14
SB15
SB16
SB17
SB18
SB21
SB22
SB23
SB20
SB19
C4区
C3区
B3区
水田部8西区
水田部8東区
B2区
C2区
SA04
SA05
SB71
SD 31
SB72
SD 34
SD38
SB75
SB73
SB78
SB74
SA06
SA07
SA08
SS 02
SW 06
SB77
SA09
SB79
SE 16
SA10
SB80
SD39
SE17
SB30
SB38
SB39
SD 19
SB43
SB44
SB45
SB46
SB41
SB42
SD 20
SB37
SB40
SB36
SB28
SB24
SB25
SD 15
SB31
SB32
SB33
SB35
SE 04
SD 25
SB47
SE 03
SD 16
SB34
SW 02
SD 13
SD 22
SE 02
SD 26
SB48
SE 05
SB52
SB49
SB51
SB50
SK 54
SK 56
SB55
SB52
SB54
SE 09
SB56
SB67
SE 06
SE07
SW 04
SW 03
SB26
SB27
SA02
SE 11
SD 28
SE 10
SB58
SE 08
SD 23
SD 24
SB59
SA03
SD30
SB61
SB62
SB60
SB63
SB14
SB68
SB70
SB69
SB66
SB64
SB61
SE 12
SE 13
SW 05
SK 94
SD 27
SD 32
SH 01
SD33
SE 15
SS 01
SX02
SA 09
SD 37
SD 29
SB65
SB67
SB68
SB70
SB69
SB66
SB64
SB61
SB63
SB14
SB60
SB62
SB61
SB59
SA03
SD30

表土掘削を重機で行い、その下の層から人力掘削で排土し、遺構検出を行った。すべての遺構掘削が完了後、ヘリコプターによる空中写真撮影作業を実施した。

川関遺跡では砕石の進入路を取付け、耕作土・床土については重機により掘削・排土し、包含層以下は人力掘削し、遺構検出を行った。掘削完了後、空中写真撮影作業を実施した。出土遺物は基本的には4mごとの小区画で取り上げ、登録は、遺物収納袋を1単位として行っている。

第3節　整理作業の概要

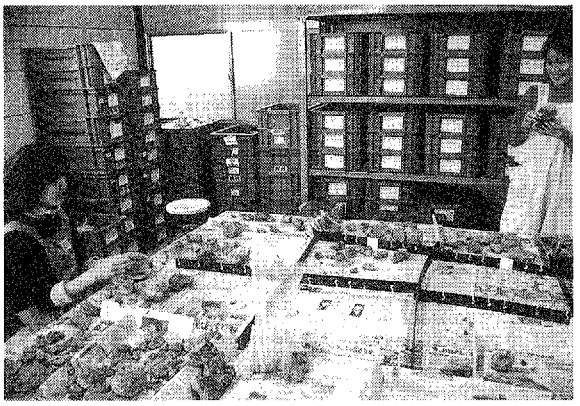
藤倉城跡及び川関遺跡の調査終了時の出土遺物量は、藤倉城跡ではコンテナ（容量平均28(リットル)）50箱、川関遺跡が同310箱である。調査と並行した応急出土遺物整理として、洗浄作業と注記作業の一部を行っている。

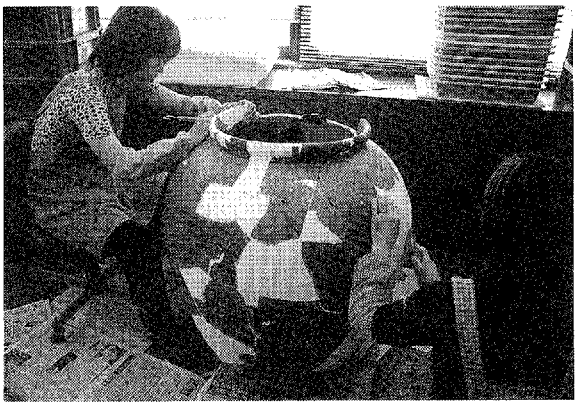
今回の、調査報告書作成を伴う遺物整理事業では、主に以下の作業を行った。登録・洗浄・注記・接合は、全出土遺物を対象に作業を行い、各調査次毎に登録台帳を作成した。

注記は、例言に記した調査コードと調査地区と登録番号を記した。接合は、登録番号毎・層毎・遺構毎に各々行い、その後、遺構及び包含層の内容が把握できるように主たる遺物を抽出し、実測・復元等の各作業を実施した。さらに、報告書に使用する遺構及び遺物を再度検討し、トレース・実測図版の作成と遺構及び遺物の写真図版の作成を行なった。

遺物写真は基本的にブローニー6×7判で撮影し、備前大甕などの大型品と集合写真の一部を4×5インチ判で撮影した。遺物実測台帳や図面台帳、写真台帳などの作成とパソコンへの入力作業を行い、出土遺物の再収納を実施した。


ＳＰ27　出土遺物注記作業


ＳＰ28　遺物接合作業


ＳＰ29　土器復元作業

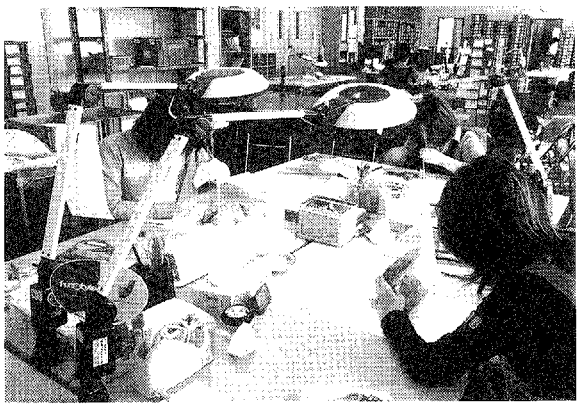

ＳＰ30　遺物実測作業

表2 藤倉城跡・川関遺跡発掘調査・整理作業工程表

内容＼年月	平成10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成11年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成12年 1月	2月	3月
藤倉城試掘調査							■																	
藤倉城発掘調査									■	■	■	■	■	■										
川関遺跡水田部1区発掘調査															■	■	■	■						
川関遺跡水田部2・3・4区発掘調査																				■	■	■	■	■
川関遺跡水田部試掘調査																						■		

内容＼年月	平成12年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成14年 1月	2月	3月
川関遺跡水田部5・6・7区発掘調査			■	■	■																			
川関遺跡水田部8東区発掘調査						■	■	■	■															
川関遺跡水田部8西区発掘調査									■	■	■	■												
川関遺跡水田部橋脚地区発掘調査											■	■												

内容＼年月	平成14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成16年 1月	2月	3月
藤倉城跡・川関遺跡第1次整理作業			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
藤倉城跡・川関遺跡第2次整理作業													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

主要参考文献

1　和歌山県史編纂委員会『和歌山県史』考古資料1983

2　那智勝浦町『那智勝浦町史』上巻　1980

3　和歌山県教育委員会『東牟婁地方広域遺跡群詳細分布調査概報』1990

4　和歌山県教育委員会『和歌山県中世城館跡詳細分布調査報告書』1998

5　水島大二監修『定本和歌山県の城』1995

6　和歌山地方史研究会『和歌山地方史研究』41　2001

播磨良紀「堀内氏と那智－戦国・織豊期の紀南支配を通じて－」

阪本敏行「熊野那智の一山組織と目良氏・川関遺跡・藤倉城について」

白石博則「城郭史研究から見た藤倉城」

黒石哲夫「藤倉城跡・川関遺跡第一次発掘調査の成果」

村田　弘「発掘調査報告　川関遺跡の発掘調査」

註

1　財団法人和歌山県文化財センター年報1991・1992・1993・1994　1992～1995

2　大谷女子大学博物館『熊野本宮備崎－経塚群発掘調査報告書－』大谷女子大学博物館調査報告書第46冊　2002

3　新宮市教育委員会『新宮城跡の歴史と発掘調査－その保存整備と活用のために－』2001

第Ⅳ章　藤倉城跡

第１節　藤倉城跡山上部・尾根部（山城跡）

藤倉城跡の築かれている山塊部では試掘調査と踏査から、遺構が存在すると考えられる山頂部（約1770㎡）と館の南側に隣接する尾根部（約293㎡）の２地点で調査を行い、他に石垣や竪堀が確認された地点についても、表土を除去し、位置確認と写真撮影を実施した。

山城は標高約81ｍの北西から南東に延びる山頂部の岩盤を整形して平坦部を造成し、巨大な箱掘りの堀切１が中央に穿たれ南北に分割している。北側を北郭、南側を南郭とする。

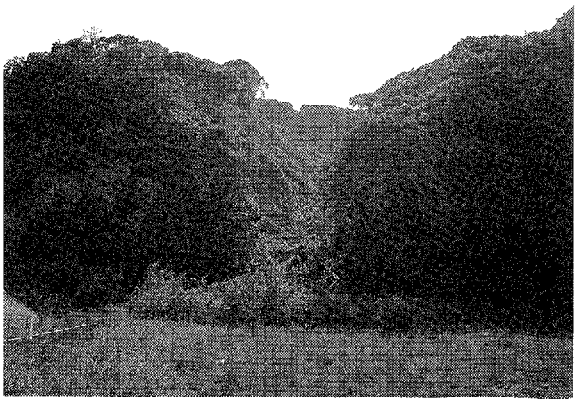
《北郭》

曲輪１・２・３　堀切１・２・３　竪堀１

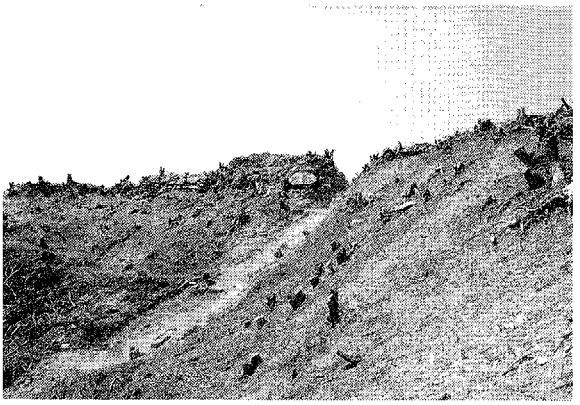
堀切１は山頂部の山城を南北に分割する大規模な堀切で、上端部幅約4.2m・深さ3.0m・延長約21ｍを測る。底部両隅は直角に近い箱掘りで、硬い岩盤を刳抜いている。

曲輪１は北郭の最高所に位置し、南北約13m・東西約５ｍで、１ｍ前後の巨岩が多数露出している。西辺中央部から西側斜面の岩盤に竪堀１が掘削されている。竪堀１は幅約2.2m・長さ約8.0m・深さ約0.5mで、断面は四角形状の箱掘りである。曲輪１の東側と北側は緩やかな斜面で帯曲輪状を呈している（曲輪２）。曲輪１から西北西と北北東には尾根が延びており、那智山から続いている西北西側には、南北方向の幅２ｍ前後の堀切２・３が並列して掘削されている。堀切２・３の中央部は掘り残されて通路となり、その前面には５ｍ四方の小曲輪が存在する（曲輪３）。曲輪３の前面部には１ｍ前後の巨岩が密集しており、敵の侵入を困難なものとしている。

曲輪１の北東部には長さ約1.0m・幅約0.25m・厚さ約0.15mの石柱が倒れており、表面には「六従是見 渡丑之方峯通麓岩鼻迄實方院持分」と刻まれて



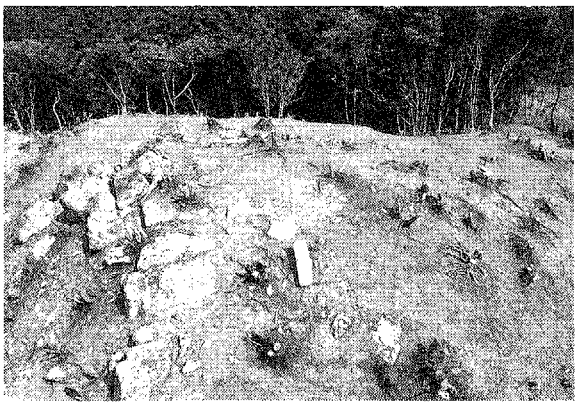
ＳＰ31　藤倉城山上部遠景（東から）



ＳＰ32　藤倉城山上部東斜面（東から）



ＳＰ33　藤倉城堀切１（東から）



ＳＰ34　藤倉城北郭全景（南から）

いる。実報院の所領を示す榜示石であろう。示された範囲について当初は、藤倉山東部山麓の岩盤の露頭した断崖までと推定したが、藤倉城から北方約1kmの熊野古道沿いに岩鼻という地名が残されており、実報院の所領が広範囲に及んだことが窺える。

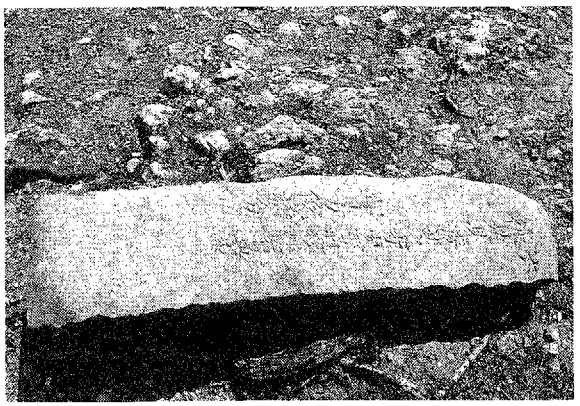
《南郭》

曲輪4～6　竪堀2～4　石垣1　石塁1

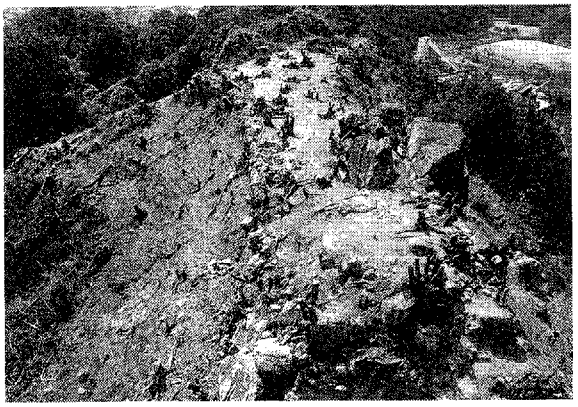
曲輪4は北北東から南南西に延びる狭小な尾根上に位置し、南北約40m・東西約6～9mで、1～2m前後の巨岩が北側に露頭している。堀切1から続く南東部の崖面には堀切から切り出したと考えられる径50～60cm大の岩盤の割石が3～4段積まれて石垣を構成している（石垣1）。石垣の上や平坦部の東辺端部には積石や巨石が見られ、本来は石塁が取り囲んでいた可能性が高い。このような状況から、敵対する勝山城側や熊野古道の参詣者からよく見える部分に巨大な堀切や堅固な石垣・石塁を築き、反対側の西辺には石垣や石塁は築かれなかった可能性がある。南端部近くには、幅約2.5m・長さ約5.0m・深さ約1.5mの竪堀2が掘削され、その東北斜面には、幅約1.8m・深さ約0.6mの竪堀が2筋掘削され（竪堀3・4）、南南西からの侵攻に備えている。

曲輪4の中央部から東に延びる尾根があり、尾根筋に麓の館部に至る通路が存在している。部分的に石塁の基底部が残存する。通路と曲輪4の南側取付き部には、幅4.0m・長さ6.0m程度の付曲輪が2段存在する（曲輪5・6）。

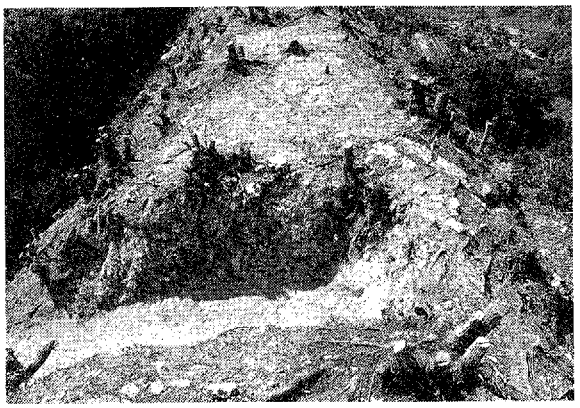
山城部では建物跡は確認できなかった。平坦部が狭小で、建物が存在可能な場所は曲輪4の中央部のみである。出土遺物は北郭で銅銭が1点出土したのみである。以上のように、山頂部に構築された巨大な堀切や石垣は、勝山城方や那智山への通行者を威嚇する一種の政治的なモニュメントであった意味合



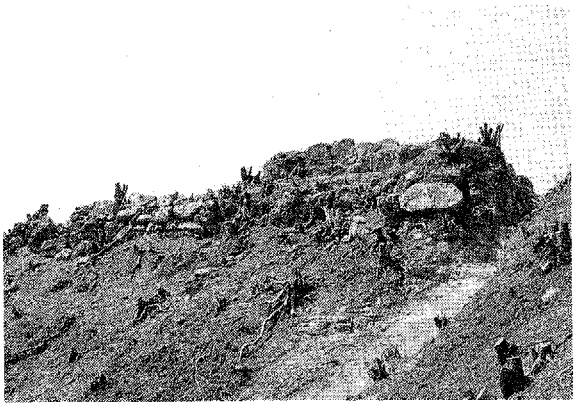
ＳＰ35　実方院の所領を示す榜示石



ＳＰ36　藤倉城南郭全景（北から）

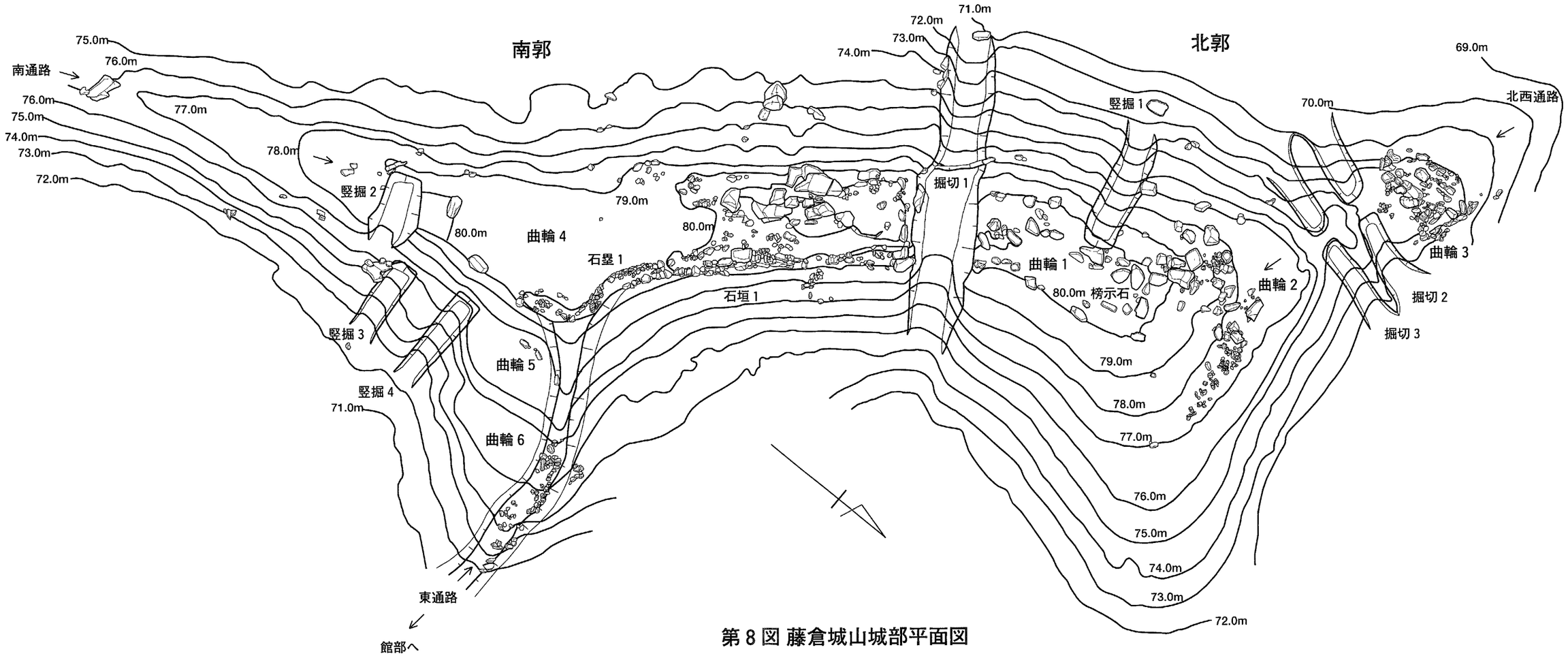


ＳＰ37　藤倉城竪堀2（北から）



ＳＰ38　藤倉城石垣1（北東から）

藤倉城山城部



第 8 図 藤倉城山城部平面図

0 50m

いが強い。

櫓台１

曲輪４の入口部から東に約60m下った尾根筋の緩斜面の北側谷向きに人頭大の石材を幅約3.0m・長さ4.0mのコの字状に４・５段積んだ施設があり、櫓台だと推定される。谷筋から侵入する敵を見張り、横から矢を射かけるための施設であろう。

堀切４

館部の存在する谷に西側から舌状に延びる尾根上には、岩盤を掘削して、堀切４が設けられている。上端幅約2.0m・深さ約1.5mの逆台形状の箱掘りの堀切である。この尾根は館部最上段から山城部への南側からの通路であり、館部と山城部の間の要所に櫓や堀切などが構築されていることがみてとれる。

《南東支城》

藤倉山山塊南東端の標高約60mの尾根頂部に存在する東西約12m・南北約10mの単郭の城である。雑木が生茂り、詳細は不明であるが、西側には狭小な腰曲輪が２段存在し、尾根部南斜面には幅約2.0mの竪堀が存在している（竪堀４）。従来認識されていた藤倉城跡は、この一画のみであった。西側は岩盤の露出した急峻な断崖で、南側はやや緩やかな谷筋となっている。藤倉城の東側の出城であろう。

《南支城》

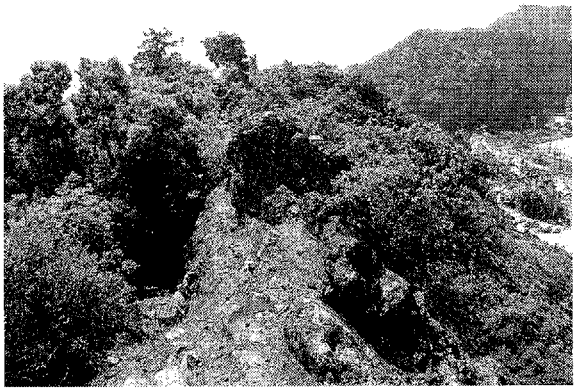
藤倉山山塊南端の標高約54mの尾根頂部に存在する東西約10m・南北約18mの単郭の城である。詳細は不明であるが、北側には狭小な腰曲輪が２段存在し、北側尾根部との鞍部には大規模な堀切が掘削されているようである。頂部の平坦面は岩盤を整形しており、東側では外側に幅約1.5mの犬走りを設けて高さ1.2m程、岩盤を削り残して石塁としている。藤倉城の背後の谷筋からの敵の侵攻に備えた南側の出城であろう。



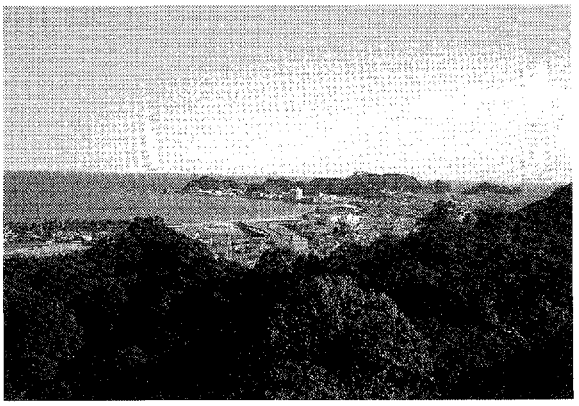
ＳＰ39　藤倉城櫓台１



ＳＰ40　藤倉城堀切４（南東から）

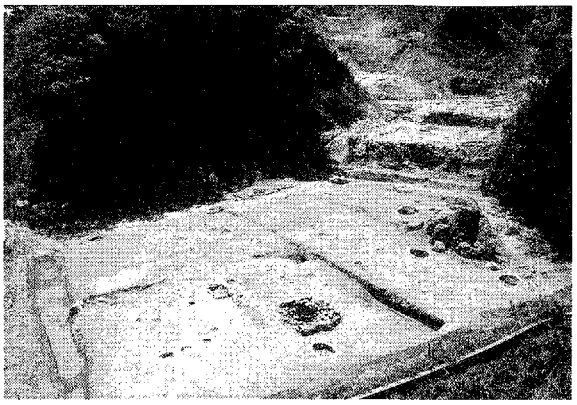


ＳＰ41　藤倉城南郭から南への通路

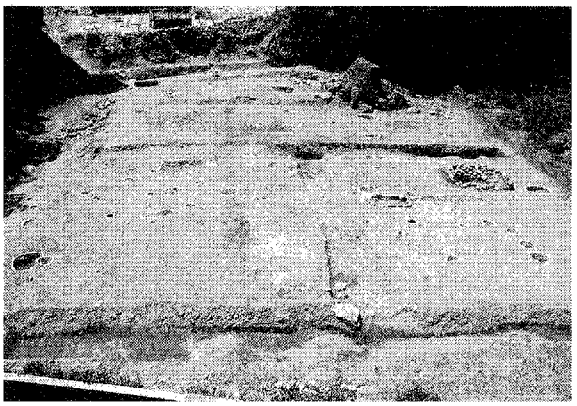


ＳＰ42　藤倉城南郭から熊野灘を望む

第２節　藤倉城跡谷部（館跡）



ＳＰ43　藤倉城館部全景（北から）



ＳＰ44　藤倉城館部Ａ区全景（東から）

館部は間口が狭く、奥行が広い谷部の自然地形を巧みに利用して、構成されている。主屋が存在したと考えられる約1000㎡の平坦部を中心として、その南に２段・西に２段・東に２段の平坦部が造成され、石垣や堀、土塀などで仕切られている。入口部からの各区画をＡ区～Ｇ区として、各区画ごとにまとめてみたい。なお、発掘調査時は排土の都合により、奥部から調査を進行して地区名を付けたため、報告書の名称とは異なる。旧名称を（）内に付す。

《Ａ区》（旧谷Ｇ・Ｈ区）

Ａ区は館の前庭部であり、面積は約1,250㎡である。外周には現存する水路が高さ約1.6ｍの土手上に築かれており、方形区画を成すように不自然に直角に折れ曲がっている。この土手は元来、館の前面を取り囲む土塁ではないかと推定される。内側には堀があり、南側では途切れて陸橋部となっている。館への進入路だと考えられる。この進入路部から奥へ数ｍ入った地点には40～50度の斜め方向に２列の柱列が検出された。館の内部を外から見られないようにする蔀塀でないかと推定される。塀の北側には井戸と溜桝がある。それに隣接してコの字状に柱列が廻っており、馬小屋のような施設であろう。蔀塀は目隠しのほかに、馬反しの役割と敵が侵入した時に前庭の中央部に導いて、攻撃しやすくする防御機能も併せもっていた可能性がある。

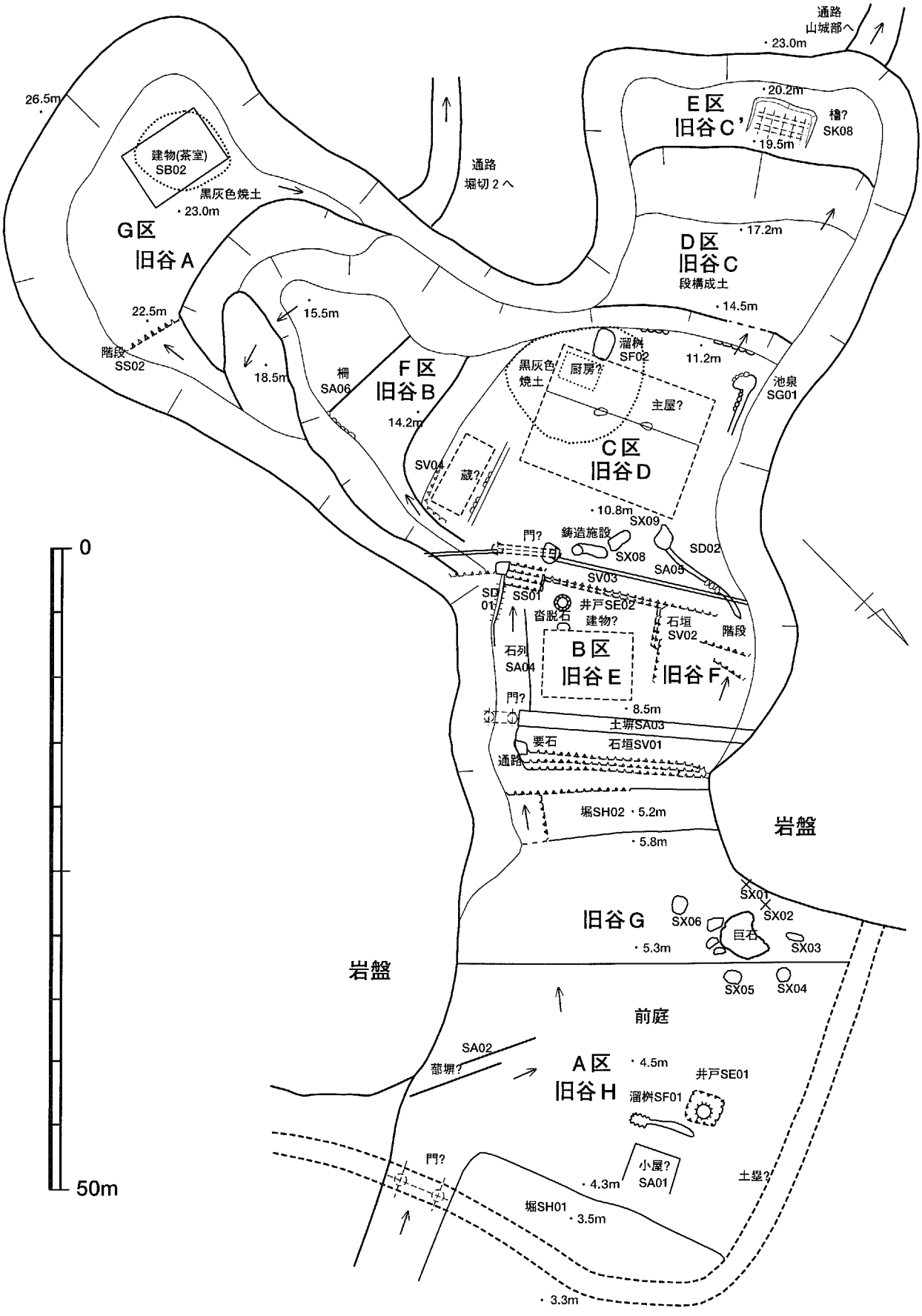
北西部には三角錐状の底辺約７ｍ・高さ約３ｍの巨石が存在し、周辺からは戦国時代末期の墓３基と鎌倉時代の山茶碗を埋置した遺構を２ヶ所検出した。墓は直径約1.5ｍ～2.3ｍ程のほぼ円形で、鉄釘や木質の痕跡から、木製の座棺が納められていたと考えられる。銅銭や刀が副葬されていた。他にも墓の可能性がある土坑がいくつかみられ、墓地であったものと考えられる。

堀ＳＨ０１（谷GSD01）

ＳＨ０１は城館の内堀で、延長約24ｍを検出した。幅は広い所で、約３ｍ、深さは0.65ｍ～0.8ｍで、断面形は逆台形をしている。北側は水路の土手で止まり、南側は途切れており、通路部となっている。出土遺物には、瀬戸美濃、唐津、備前、中国製青花などがあり、上層からは伊万里の皿が出土している。

堀ＳＨ０２（谷H SD02）

ＳＨ０２は石垣ＳＶ０１の前面に掘削された堀で、延長約16ｍを検出した。幅は3.5ｍ～3.8ｍ、深



第9図　藤倉城館部模式図

さは0.7m～0.8mで、断面形は逆台形をしている。堀は元来南北両側の岩盤裾まで、掘削されていたが、南側は陸橋に造り直されている。堀の陸橋部と西肩部の南側6.8mは石垣が積まれていた。

石垣は長さ30cm～80cm大の岩盤の割石を３段前後平積みにしている。五輪塔の風輪を石材に転用しているものもみられた。出土遺物には瀬戸美濃、唐津、備前、中国製青花・白磁・青磁などがある。

井戸ＳＥ０１（谷H SE02）

ＳＥ０１は直径1.2mの円形の石積み井戸で、周囲は一辺3.2m～3.6mの方形に石が組まれ、掘形は長軸4.8m・短軸3.6m・深さ約3.4mである。川原石を円形にやや上広がりに約3.0m小口積みにしており、明瞭な控え積みや裏込め石は見られない。

溜桝ＳＦ０１（谷H SX07）

ＳＦ０１は長辺1.6m・短辺0.8m・深さ0.25mの石積みの溜桝（貯水施設）で、幅0.4m～0.8mの浅い排水溝が取り付いている。長さ30cm前後の河原石を横向きに立てて粘質土で固定している。ＳＥ０１と供に機能していたと考えられる。

土器埋納遺構ＳＸ０１（谷GSX01）

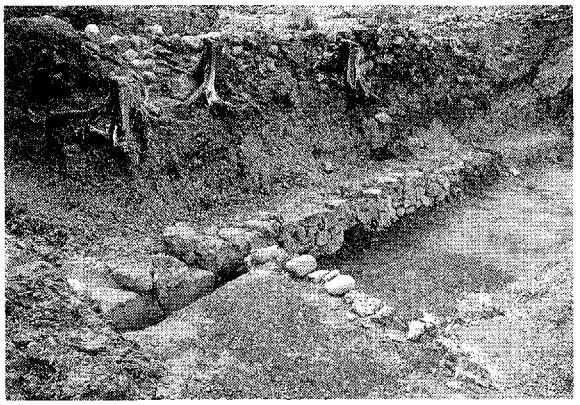
ＳＸ０１はＡ区北西部の切り立った崖裾で検出した土器埋納遺構である。岩盤の窪みに山茶碗９点が重なった状態で置かれていた。山茶碗はすべて渥美５期に属し、12世紀末～13世紀初頭のものである。

土器埋納遺構ＳＸ０２（谷GSX02）

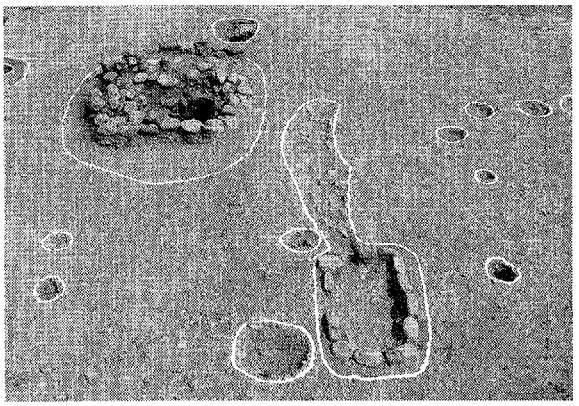
ＳＸ０２はＡ区北西部の巨石の西側で検出した土器埋納遺構である。岩盤の窪みに山茶碗１点、山茶碗小皿９点、鉄剣の破片１点が表面を上にして、置かれていた。土器の胎土及び形態はＳＸ０１と同様で、渥美５期に属し、ほぼ同時期に埋納されたようである。何らかの地鎮遺構だと推定される。

集石遺構ＳＸ０３（谷GSX03）

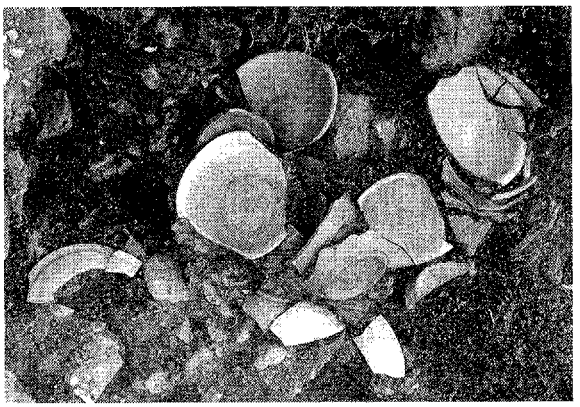
ＳＸ０３はＡ区北西部の巨石の北西部で検出した



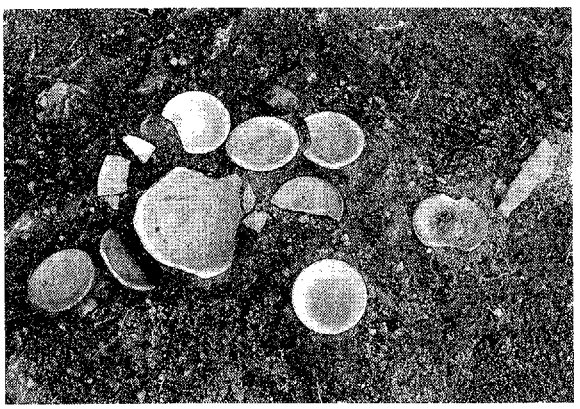
ＳＰ45　藤倉城館部堀SH02



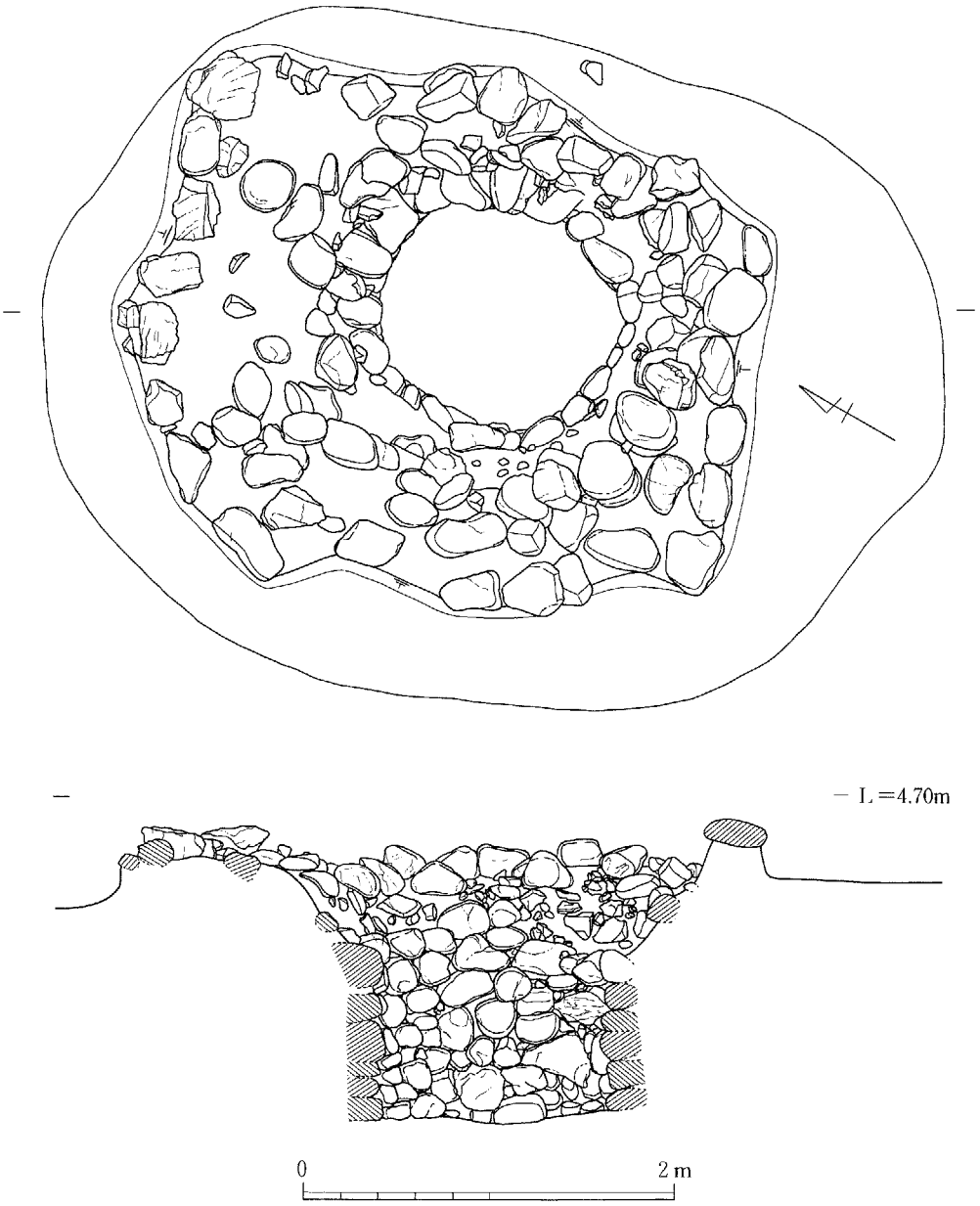
ＳＰ46　藤倉城館部井戸SE01・溜桝SF01



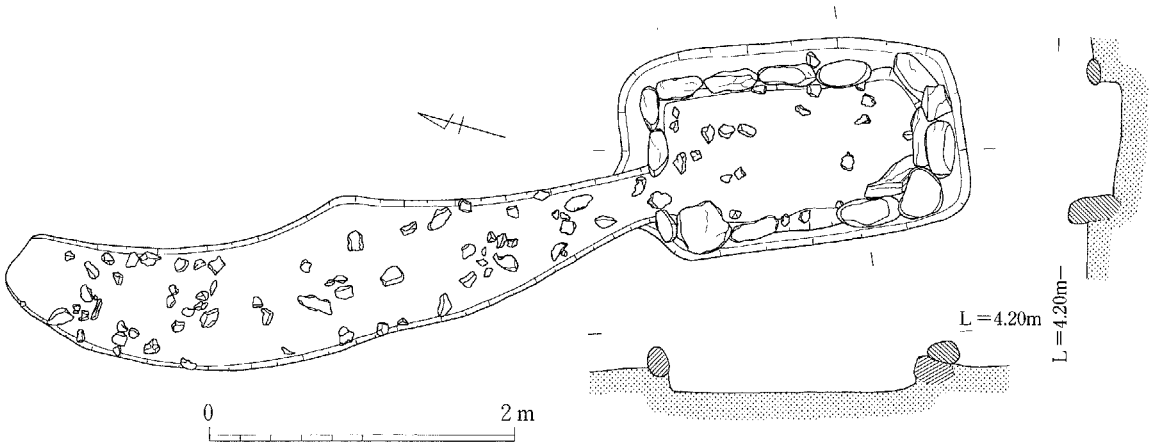
ＳＰ47　藤倉城館部SX01



ＳＰ48　藤倉城館部SX02

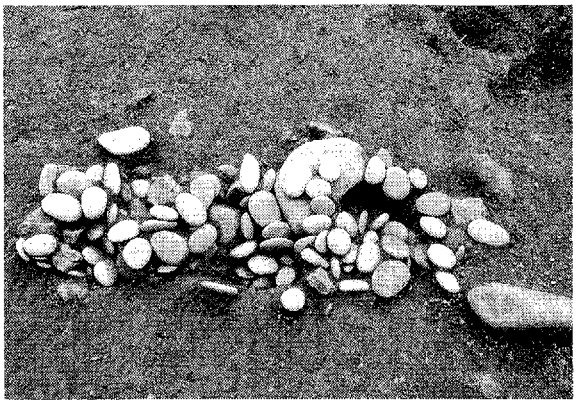


第10図　藤倉城館部井戸SE01

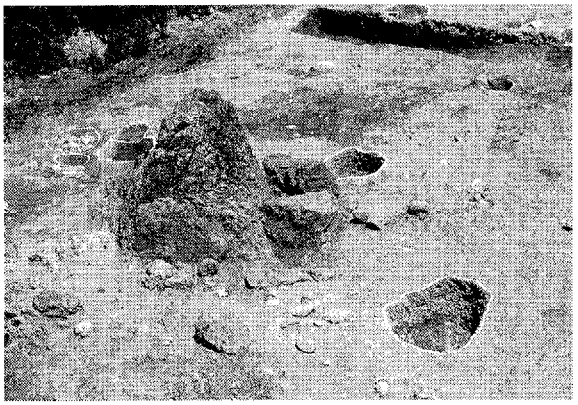


第11図　藤倉城館部溜桝SF01

集石遺構である。細長い楕円形の土坑に直径10～15cmほどの表面が平らで扁平な河原石が水平に並べられ、周囲には直径１～２cmのおはじき状の扁平な小石が敷かれていた。出土遺物は無く、時期は不明であるが、何らかの祭祀遺構であろう。



ＳＰ49　藤倉城館部SX03



ＳＰ50　藤倉城館部墓SX05・06・07

墓ＳＸ０４（谷H SX04）

ＳＸ０４は巨石の東側で検出した直径約1.5m・深さ0.5mの円形の土坑である。底部は平らで、瀬戸美濃皿の小片と銅銭４点が出土した。木製の円形座棺を埋めた墓ではないかと推定される。

墓ＳＸ０５（谷H SX05）

ＳＸ０５は巨石の南側で検出した不整な円形土坑である。長軸1.5m・短軸1.34m・深さ0.65mで、底部は平坦である。上面には五輪塔の風輪が存在し、志野、鉄釉、瀬戸美濃、土師器と銅銭28点が出土した。他に、鉄釘と木片が出土しており、木製の円形座棺を埋めた墓ではないかと推定される。

墓ＳＸ０６（谷GSX06）

ＳＸ０６は巨石の西側で検出した不整な楕円形の土坑である。長軸2.44m・短軸1.8m・深さ0.9mで、底部は平坦である。中国製青花の小片と鉄刀、鉄釘、木片、銅銭４点が出土した。木製の円形座棺を埋めた墓ではないかと推定される。

墓ＳＸ０７（谷H SX08）

ＳＸ０７はＡ区南西部で検出した不整な円形土坑である。長軸1.2m・短軸1.05m・深さ0.3mで、底部は平坦である。瀬戸美濃、土師器などが出土した。木製の円形座棺を埋めた墓ではないかと推定される。

土坑ＳＫ０１（谷H SK04）

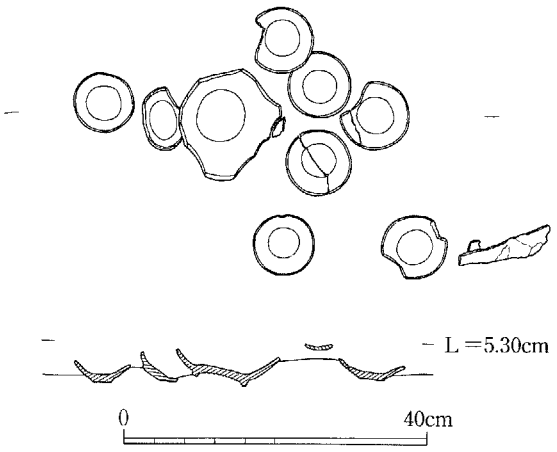
ＳＫ０１はＡ区西部で検出した楕円形土坑で、長軸0.76m・短軸0.66m・深さ0.15mである。白い扁平な河原石に「南無阿弥陀佛…」と墨書された経石が出土した。

柵ＳＡ０１

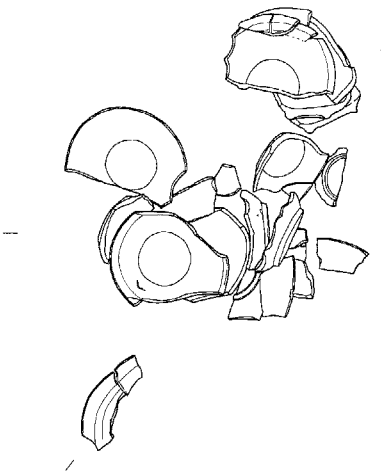
ＳＡ０１は溜桝ＳＦ０１の東側で検出したＬ字状に廻る柱坑群で、柵あるいは馬小屋のような簡易な施設ではないかと考えられる。

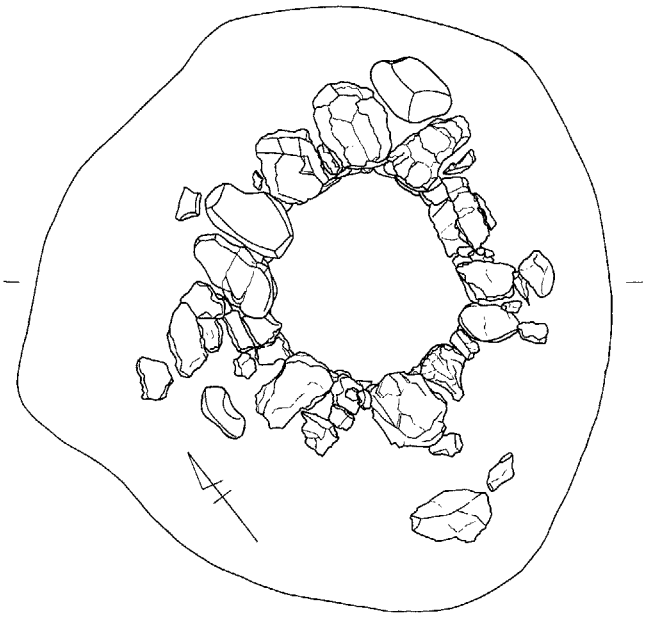
柵ＳＡ０２

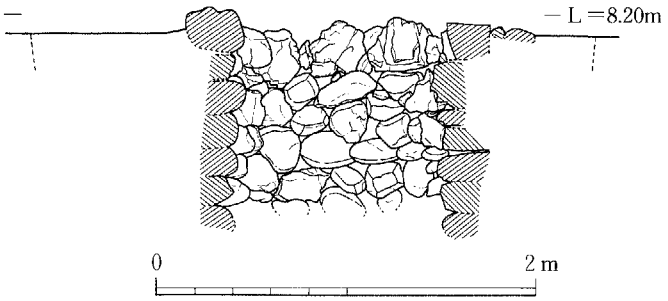
ＳＡ０２は堀ＳＨ０１の途切れた進入路部から、内部に約８mの地点で斜めに延びる直径30～40cm前後の柱穴群である。外部からの遮蔽用の塀塀または馬返し的な機能をもった柵ではないかと推定さ



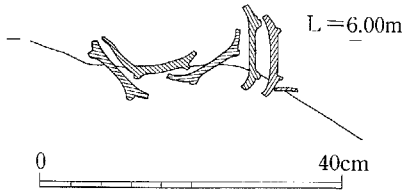
第13図　藤倉城館部土器埋納遺構SX02



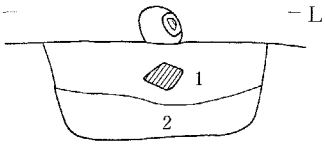




第14図　藤倉城館部井戸SE02

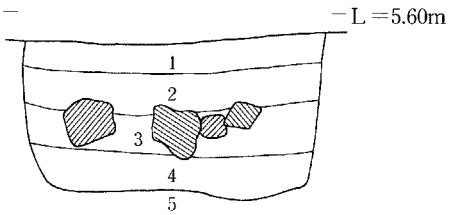


第12図　藤倉城館部土器埋納遺構SX01



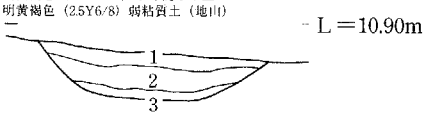
第15図　藤倉城館部墓SX05土層図

1．オリーブ色（5Y6/6）角礫混じり砂礫土
2．黄褐色（2.5Y5/4）弱砂質土



第16図　藤倉城館部墓SX06土層図

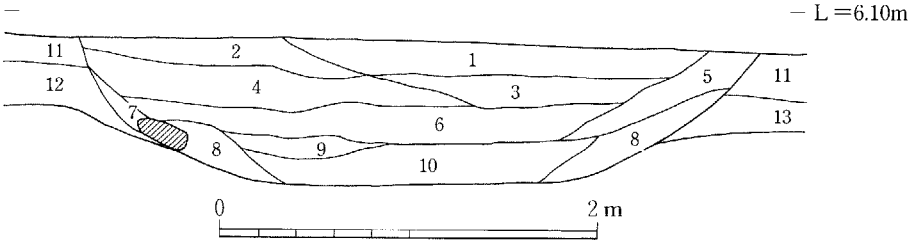
1．オリーブ黄色（5Y6/4）礫混じり土
2．オリーブ色（5Y6/6）礫混じり土
3．オリーブ色（5Y5/4）角礫混じり砂礫土 炭少量含む
4．明黄褐色（10YR6/6）小礫混じり土
5．明黄褐色（2.5Y6/8）弱粘質土（地山）



第17図　藤倉城館部土坑SK05土層図

1．黄褐色（2.5Y5/3）弱砂質土
2．灰オリーブ色（5Y5/3）弱砂質土
3．オリーブ色（5Y5/4）弱砂質土





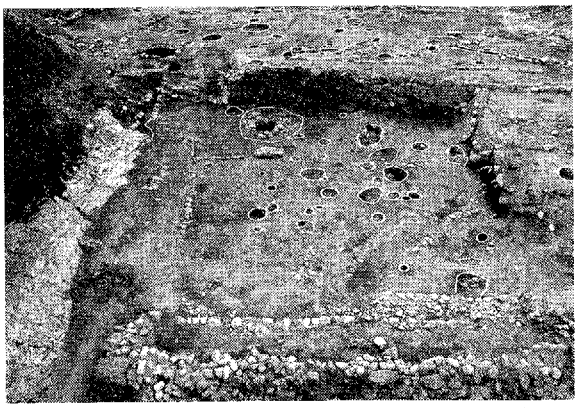
1．浅黄色（5Y7/4）小礫混じり土
2．黄色（5Y7/6）小礫混じり土
3．灰オリーブ色（5Y6/2）小礫混じり土
4．オリーブ色（5Y6/6）小礫混じり土
5．オリーブ色（5Y5/6）土
6．浅黄色（7.5Y7/3）弱粘質土
7．オリーブ黄色（5Y6/4）土
8．にぶい黄色（2.5Y6/4）土
9．にぶい黄色（2.5Y6/3）土
10．オリーブ黄色（5Y6/4）弱粘質土
11．にぶい黄褐色（10YR7/4）砂礫土
12．明黄褐色（2.5Y7/6）礫混じり土
13．灰オリーブ色（5Y5/3）砂礫混じり土

第18図　藤倉城館部堀SH02土層図

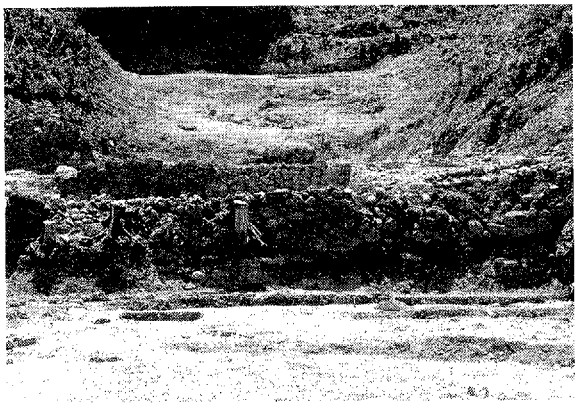
れる。

《B区》（旧谷E・F区）

B区は両側から岩盤が迫り出して間口が狭くなっており、館部の防御面で最重要な地点である。面積は約380㎡である。高さ約3.0mの石垣を前面に築き、内部を埋め立て、平坦化している。石垣の前には幅約3mの空堀を掘削し、背後には堅固な土塁が築かれている。南の壁際は通路として区画され、井戸と沓脱石を備えた3間×4間程度の礎石建物が存在していたようである。



SP51　藤倉城館部B区全景（東から）



SP52　藤倉城館部石垣SV01

石垣SV01（谷E SV01）

SV01は両側から岩盤が迫り出して間口が狭まった地点に築かれた高さ約3.0mの石垣である。

崩落する恐れがあったので、石材の全面的な検出は断念した。石垣は長さ70～80cm・幅40～50cm程度の自然石を平積みにし、人頭大の石材で隙間を詰めている。通路に接する南端部には高さ1.5m・幅1.1mの巨石を据えて、安定化させている。通路部は破壊されており、門等の施設は確認できなかった。藤倉山塊東斜面及び漏斗状に拡がった谷部の降雨がこの地点に集中するため、大雨の際は石垣の間から大量の水が噴き出している。SV01は一見すると粗放な自然石の野面石積みの石垣であるが、自然、地形環境に適した構造だといえるだろう。

石垣SV02（谷E SV02）

SV02はB区北東部のC区とスロープ状に繋がる高まりの南西端部を構成する垂直な石垣で、延長約7.0mを検出した。石垣は長さ40～70cm・幅30～40cm程度の自然石を平積みにし、小型の石材で隙間を詰めている。石垣は造り替えがみられ、内側に接して古い石垣が埋め込まれていた。

土塁SA03

SA03は石垣SV01の上端から約2.4m内側で検出した土塁の基礎石列と考えられる遺構である。両端部はかなり削平されているが、石垣と平行しており、中央部では幅1.0m前後で、人頭大の石材が据えられている。SV02と供に、館部を外部から遮蔽する機能を有していたものと推定される。

石列SA04・沓脱石

SA04は南西壁際の通路と平行する石列で、延長約8.0mを検出した。奥端約2.0mの所から直交して約2.4mの石列が延び、沓脱石と推定される長さ0.14m・幅0.65mの巨石へと続いている。巨石は上部が平坦で掘立柱建物への上り口だと考えられる。

井戸ＳＥ０２

ＳＥ０２は沓脱石の前方約1.5ｍに位置する直径約1.0ｍの円形石組井戸である。長さ40～50cm・幅20～30cmの石材を水平に小口積みにしており、掘方は径約3.0ｍのやや歪んだ円形である。

階段ＳＳ０１

ＳＳ０１はＢ区からＣ区へと上がる階段である。幅約2.5ｍ・比高差約1.2ｍを測る。本来は５～６段の石積み階段だと考えられるが、多数の石材は脱落している。残存する石材は長さ40～50cm・幅20～30cmの丸みを帯びた河原石である。

土坑ＳＫ０２（谷Ｅ SK01）

Ｂ区中央部で検出した楕円形の浅い土坑で、長軸0.90ｍ・短軸0.66ｍ・深さ0.25ｍである。唐津碗や青花碗などが出土した。

溝ＳＤ０１（谷Ｅ SD01）

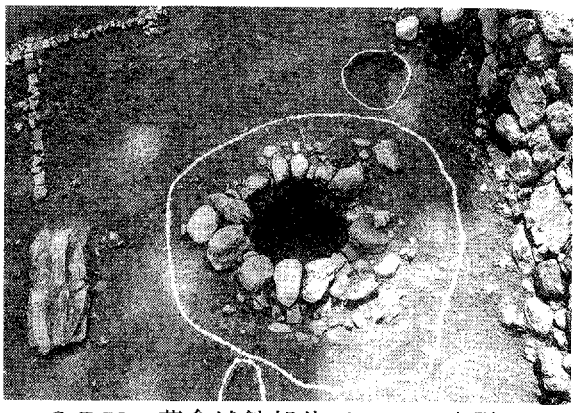
ＳＤ０１は階段ＳＳ０１脇の石組み溝である。延長3.2ｍで、両側に石材を１石ずつ横置きして幅約30cmの溝を構成している。

《Ｃ区》（旧谷Ｄ区）

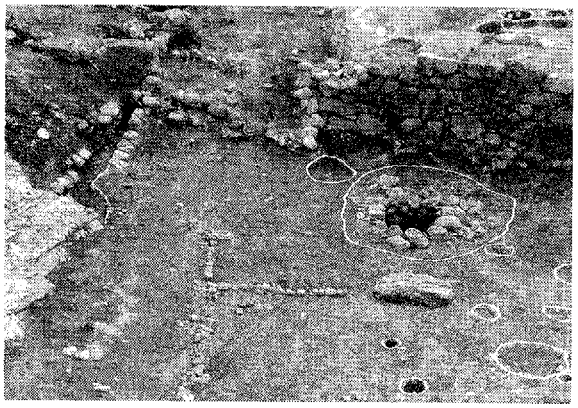
Ｃ区は主屋が存在した区画である。高さ約1.6ｍの石垣と階段が築かれ、土塀と門で仕切られている。主屋はやや規模の大きい礎石建物であろう。南西部に岩盤を刳り抜いた溜桝があり、周辺から多数の土器類や鉄鍋、五徳などが出土しており、厨房施設があったことが窺える。門の左側には石垣と溝で区画されて地面が叩き締められた場所があり、蔵が存在した可能性が高い。他には鋳造施設や池泉と思われる溝を確認した。

石垣ＳＶ０３

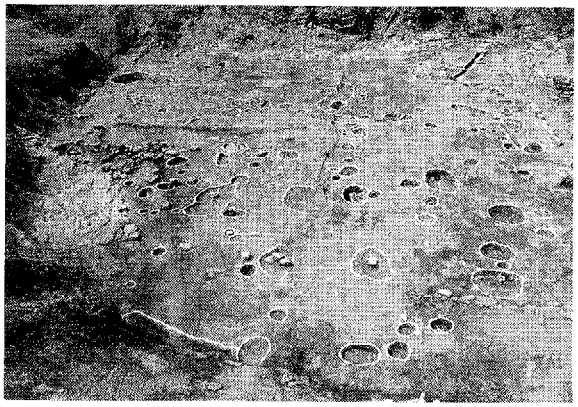
ＳＶ０３はＣ区を区画する高さ約1.6ｍの垂直な石垣で、階段ＳＳ０１と繋がっている。基底部には長さ1.0～1.4ｍ・幅0.6～0.8ｍ程度の大型石材が数石



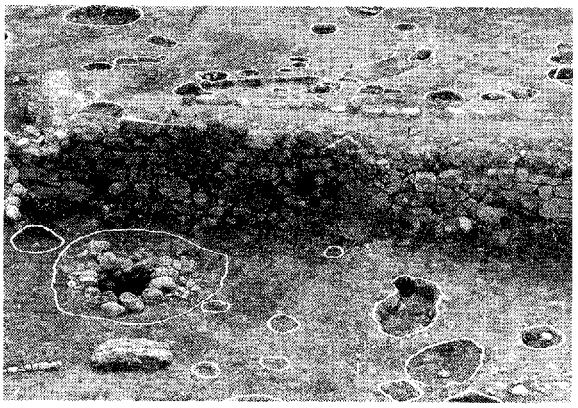
ＳＰ53　藤倉城館部井戸SE02・沓脱石



ＳＰ54　藤倉城館部階段SS01



ＳＰ55　藤倉城館部Ｃ区全景（南から）

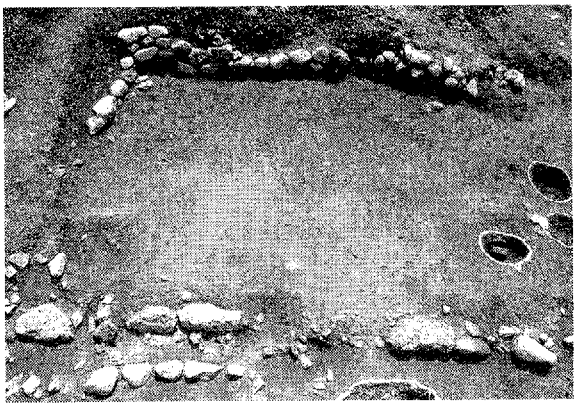


ＳＰ56　藤倉城館部石垣SV03

使用されており、ほかは中型石材が平積みされ、隙間には小型石材が充填されている。階段部左袖部には長さ2.0m・幅1.3mの巨石が据えられている。

石垣ＳＶ０４

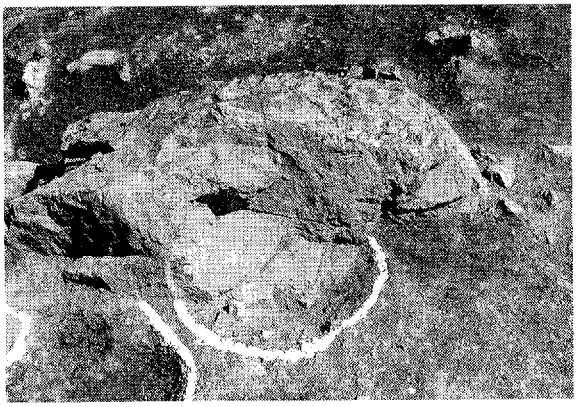
ＳＶ０４は階段から入って左側の隅にＬ字状に築かれた土留め用の石垣である。長さ20～50cm・幅15～30cmの河原石や山塊の岩盤割石が平積みされている。上部は崩れて、４段が部分的に残されている。ＳＶ０４の南辺の背後には、幅1.5m程の平坦な斜面があり、上の段への通路であろう。ＳＶ０４の東側に約4.4m離れて、平行に石組の排水溝が造られており、その間の地面は灰黄色の粘質土が張られて叩き締められていた。この空間には土蔵のような施設があったのではないかと推定される。



ＳＰ57　藤倉城館部石垣SV04

門ＳＢ０１・土塀ＳＡ０５

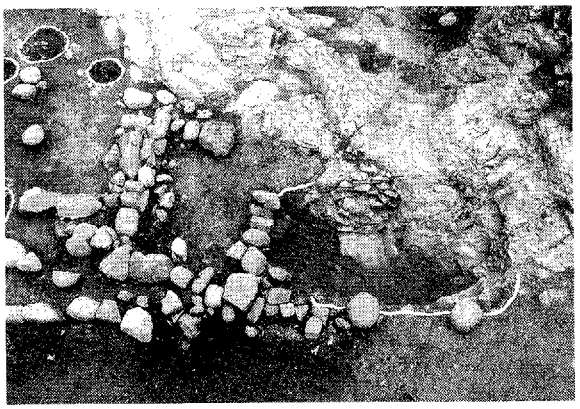
階段ＳＳ０１東辺の延長に長さ2.1m・幅1.0mの岩盤を構成する巨石が据えられている。中央端部には四角形の枘穴が加工されており、門の基底石だと推定される（ＳＢ０１）。西辺の延長部は近代の貯水施設が造られ破壊されて不明である。巨石の長軸と直交し、石垣ＳＶ０３と約1.8m隔てて平行に長さ13mにわたって石列が並んでおり、土塀の基底石だと考えられる（ＳＡ０５）。



ＳＰ58　藤倉城館部門SB01

溜桝ＳＦ０２

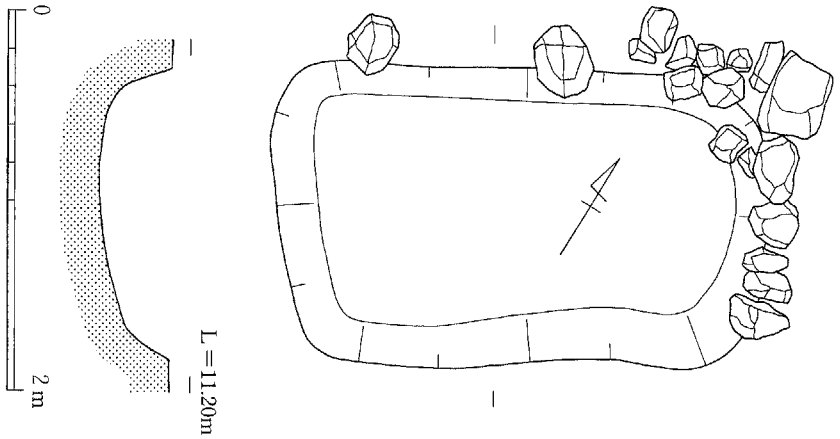
Ｃ区の西隅部は元来、尾根筋から岩脈が張り出しており、それを大規模に整形して平坦化している。その北西部の壁際では長辺2.6m・単辺1.6m・深さ0.4mの隅丸方形に岩盤を掘り窪めて、貯水施設としている（ＳＦ０２）。谷筋から竹樋などで導水していたものと考えられる。近辺では、黒灰色焼土層が10～20cm程度堆積し、鉄製五徳、鉄鍋、唐津、志野、瀬戸美濃などの国産陶器や中国製青磁・白磁・青花の碗・皿類が多数出土した。このことから主屋の厨房施設が付近にあったものだと推定される。



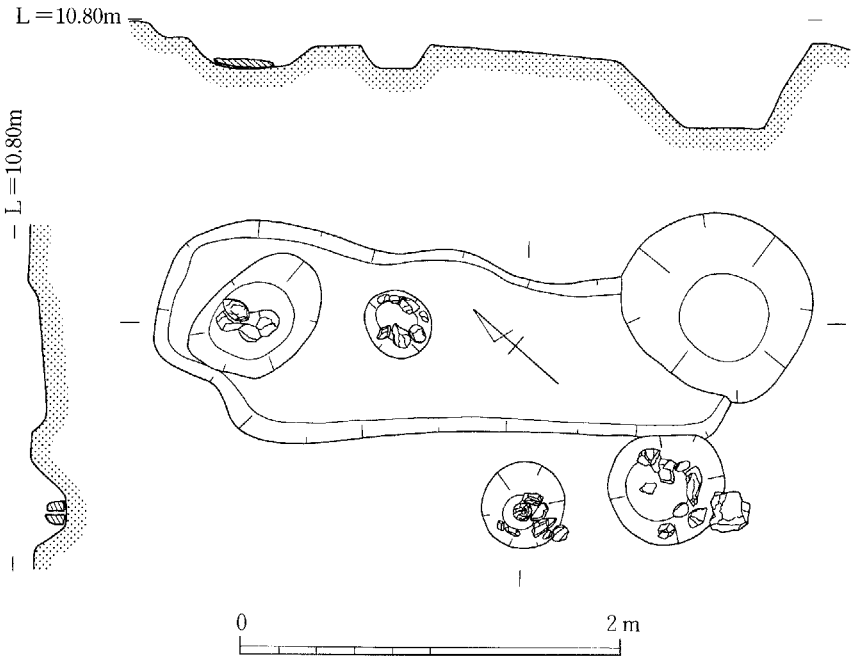
ＳＰ59　藤倉城館部溜桝SF02

鋳造遺構ＳＸ０８・０９（谷ＤＰ４・５・６）

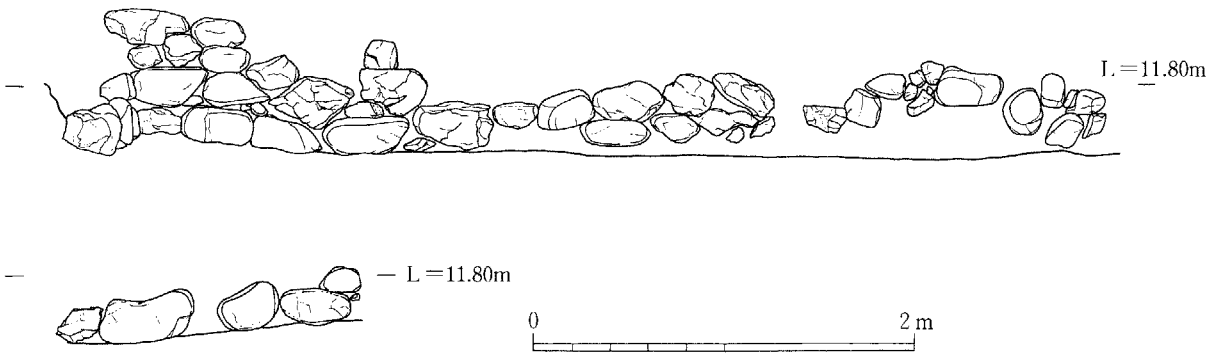
門跡の北側で鉄を鋳造していたと考えられる遺構を確認した。直径約0.8m程の円形土坑に幅約0.9m・長さ約3.0m・深さ0.1mの浅い土坑が取付き、その横の土坑には砂岩質で直径約10cmの鞴の羽口



第19図　藤倉城館部溜桝SF02



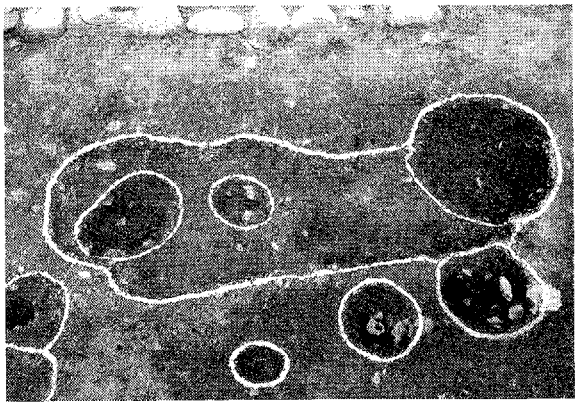
第20図　藤倉城館部鋳造遺構SX08



第21図　藤倉城館部石垣SV04

が直立していた（ＳＸ０８）。土坑の中には溶解した鉄が残り、多量の鉄滓や炭が出土した。

ＳＸ０８の北側に隣接する土坑も長軸2.6m・幅1.0m・深さ0.1mの浅い土坑で、鉄滓や炭が堆積していた。同様の鋳造遺構であろう（ＳＸ０９）。



ＳＰ60　藤倉城館部SX08

土坑ＳＫ０３（谷D SK01）

ＳＫ０３はＣ区西部で検出した長軸1.8m・深さ0.1mの浅い土坑である。唐津皿などが出土した。

土坑ＳＫ０４（谷D SK02）

ＳＫ０４はＣ区北部で検出した台形状の浅い土坑で、長さ2.0m・幅1.7m・深さ0.26mである。瀬戸美濃皿、備前水指、青花皿、銅製刀切羽などが出土した。

土坑ＳＫ０５（谷D SK06）

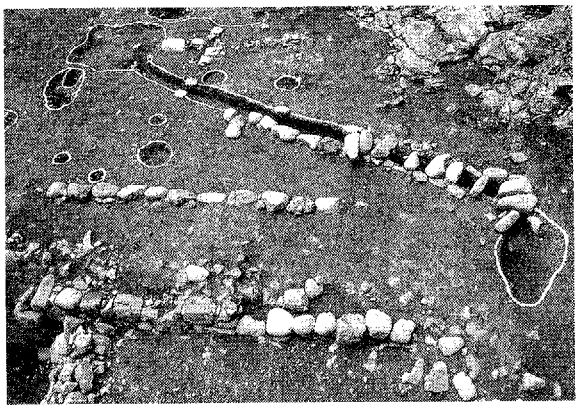
ＳＫ０５はＣ区南部で検出した楕円形の土坑で、長軸1.72m・短軸1.28m・深さ0.4mである。瀬戸美濃天目茶碗や志野皿などが出土した。

土坑ＳＫ０６（谷D SK08）

ＳＫ０６はＣ区中央部で検出した楕円形の土坑で、長軸1.16m・短軸0.9m・深さ0.5mである。上部には長さ約70cmの巨石が水平に据わっていた。唐津碗や青磁碗、砥石、瓦質火鉢などが出土した。

土坑ＳＫ０７（谷D SK11）

ＳＫ０７はＣ区中央部で検出した楕円形の浅い土坑で、長軸0.8m・短軸0.7m・深さ0.22mである。唐津碗や碁石などが出土した。



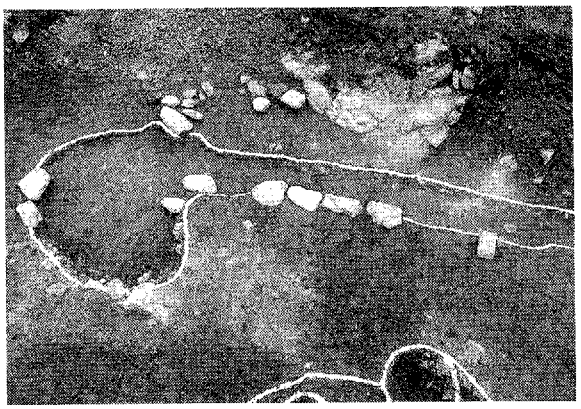
ＳＰ61　藤倉城館部溝SD02

溝ＳＤ０２（谷D SK11）

ＳＤ０２は東部で検出した浅い方形の土坑から延びるＬ字状に屈曲する暗渠排水溝である。一部破壊されていたが、20～30cm大の河原石を一列ずつ横置に並べ、同様の石材で蓋をしている。

池泉ＳＧ０１（谷D SD02）

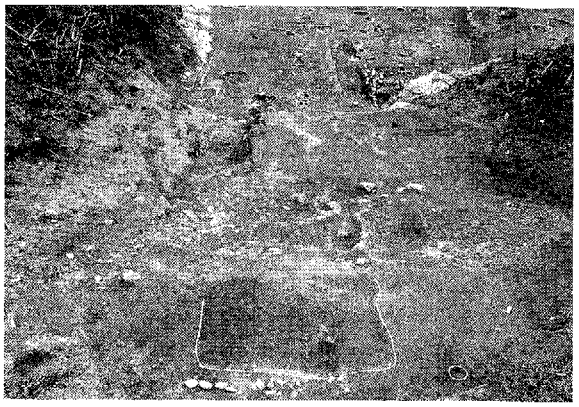
ＳＧ０１は北部隅で検出した池泉と考えられる施設である。長軸2.1m・短軸1.4m・深さ0.3mの楕円形の土坑に幅約0.4mの溝が取り付いている。石材が部分的に遺っており、本来は石組であったと思われる。



ＳＰ62　藤倉城館部池泉SG01

《D区》（旧谷C区）

D区はC区の奥に一段上がった区画で、比高差は約3.3mである。斜面状を呈しており、顕著な遺構は検出できなかったが、遺物包含層からは唐津、瀬戸美濃、志野、備前などの国産陶器や中国製白磁・青磁・青花などが出土した。



SP63　藤倉城館部D・E全景（西から）

《E区》（旧谷C'区）

E区はD区の奥に一段上がった区画で、標高約20.0mである。櫓の基底部と推定される遺構と土坑を検出した。ここから山城へと通路が続いていたようである。

土坑SK08

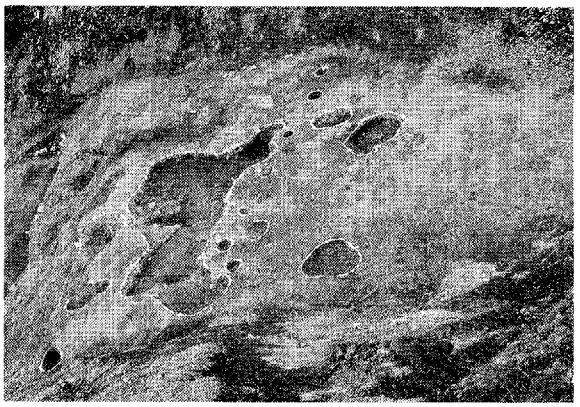
SK08は長さ6.0m・幅3.0mで地盤をコの字状に平坦に削り出した土坑である。背後には土留め用の石列が並んでいる。土坑から正面を向くと、館の入口部から那智川対岸の勝山城を見通す位置にあり、櫓の基底部ではないかと推定される。

ピットP01（谷C' P01）

P01は中央部壁際で検出した長軸58cm・単軸40cm・深さ10cmのピットである。備前大甕の破片が出土した。

《F区》（旧谷B区）

F区はC区の門から左手に入った東側の斜面裾に進入路があり、中央部には柵が1列設けられている。F区とG区の中間には弧状の張り出しがあり、敵が侵入した場合に柵で止めて上方の横から弓矢で攻撃する、横矢掛けの戦法が垣間見られる。



SP64　藤倉城館部F区全景（南西から）

土坑SK09（谷B SK01）

SK09は長さ7.0m・深さ0.3m前後の不整形な土坑である。鉄滓、瀬戸美濃皿、鉄釉摺鉢、土師器皿などが出土した。

柵SA06

C区中央部からやや前面で間口に平行する柱穴群を検出した。木柵の柱痕だと推定される。柱間は1.2m～1.8mである。

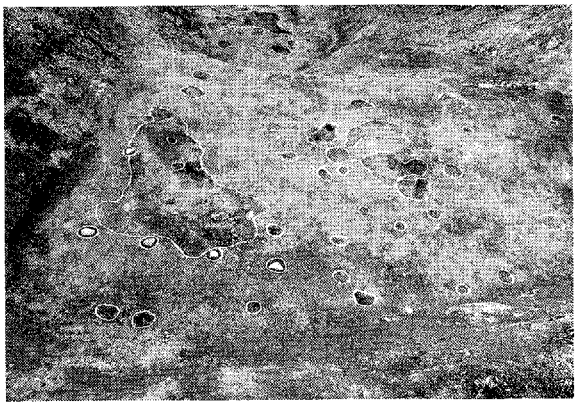
《G区》（旧谷A区）

G区は標高23m前後で、谷部の最高所にあたり、外部からは見えにくい。出入口には石組の階段があり、4間×3間の礎石建物が存在した。茶道や香道に使用された遺物が出土しており、館のくつろぎの空間であったであろうし、館内で最も安全な場所である。尾根筋に山上部への通路が存在し、堀

切４へと続いている。

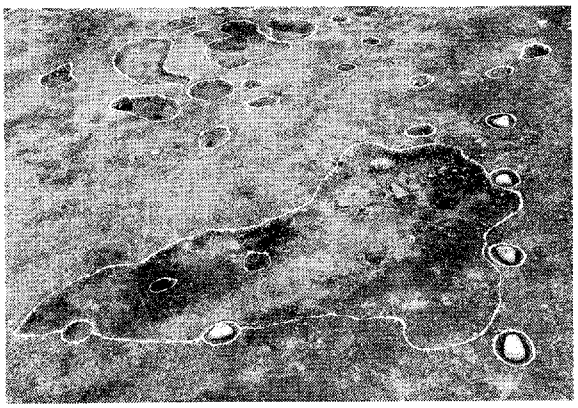
建物ＳＢ０２（谷Ａ SB01）

ＳＢ０２は東西４間・南北３間の礎石建物跡である。柱穴の掘方は直径50～60cm程度で、直径30～40cmの扁平な河原石や上部を平らに加工した岩盤石を礎石としている。礎石は火熱を受けて、表面が赤変している。柱間は約1.6m～1.9mである。南東部の礎石は削平されていた。



ＳＰ65　藤倉城館部Ｇ区全景（南から）

建物跡の周辺や内部の土坑ＳＫ１０から、中国製の染付碗・白磁・青磁、タイ製の四耳壺、美濃瀬戸の天目茶碗・茶壷・香炉、唐津の茶碗・皿、備前の大甕・壷、瓦質の火舎、砂岩製の茶臼、銅銭が出土した。これらの遺物の中でも、茶道具が占める比率が高いことから、茶室的な性格をもった建物が、谷部で最も眺望のきく最上段に存在したことが明らかになった。



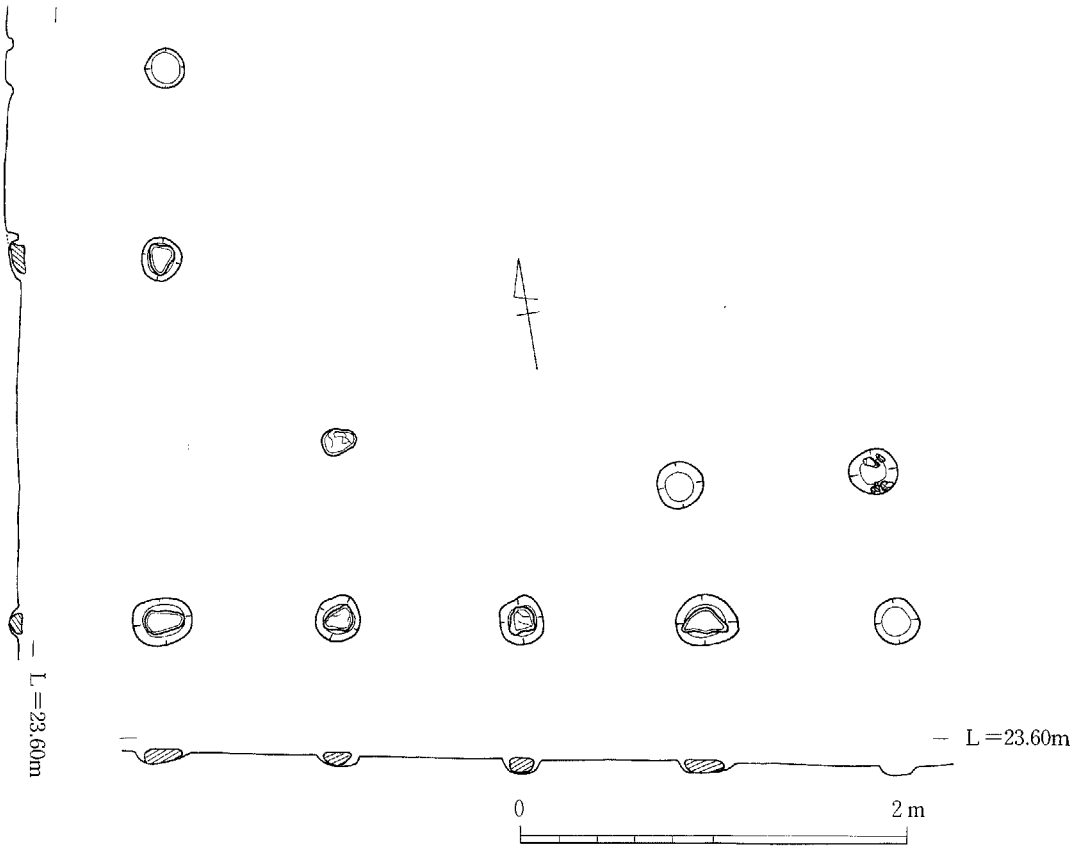
ＳＰ66　藤倉城館部建物SB02

階段ＳＳ０２（谷Ａ SS01）

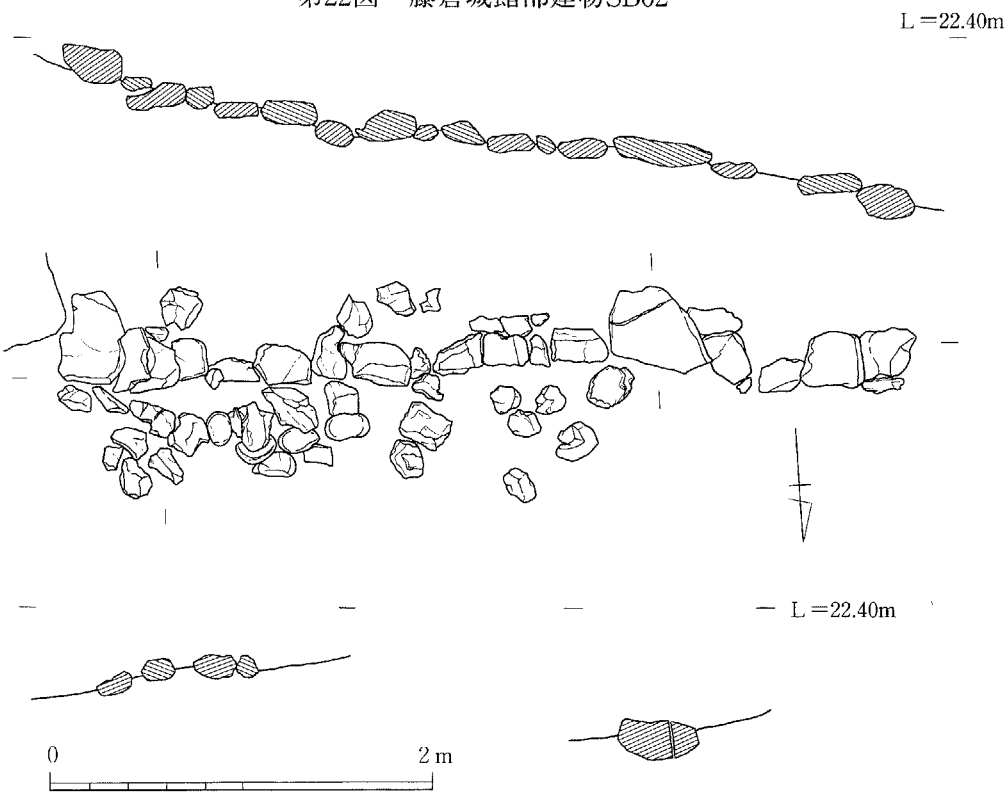
ＳＳ０２はＤ区の入口部にある石組の階段で、削平により、一部のみ遺存していた。南北方向に約4.4mにわたって、扁平な割石が下方に面を揃えて並べられていた。

土坑ＳＫ１０（谷Ａ SK01）

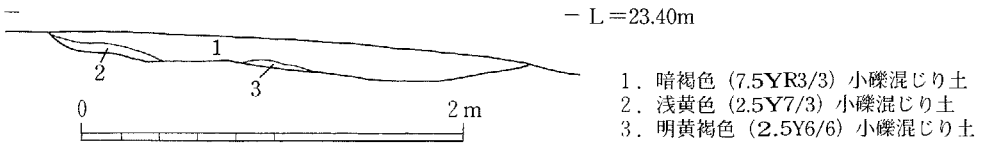
ＳＫ１０はＳＢ０２の内側で検出された、長さ約8.0m・幅約4.0m・深さ0.3m前後の不整形な土坑である。黒灰色焼土や炭が堆積し、ＳＢ０２が火災で焼失した際に、火事場整理のため、掘削されたものであろう。多数の中国製磁器や国産陶器が出土した。



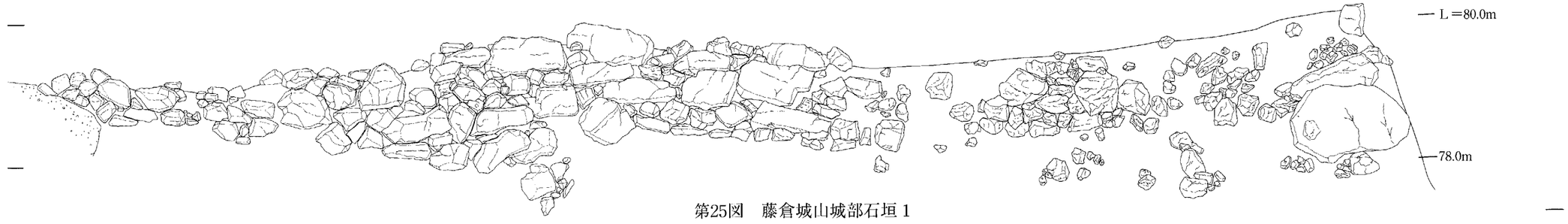
第22図　藤倉城館部建物SB02



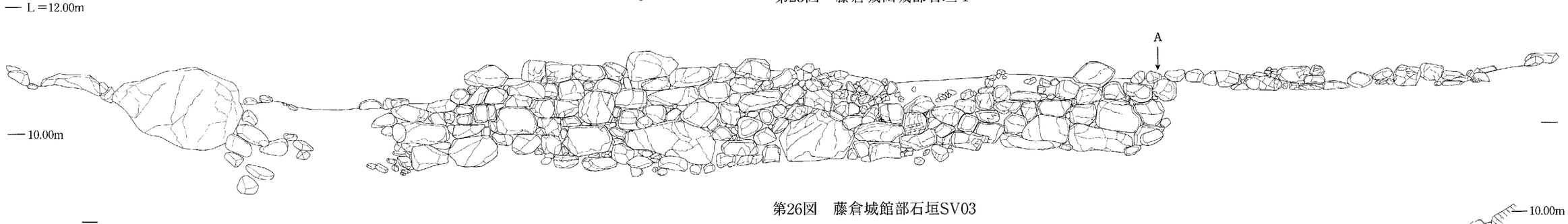
第23図　藤倉城館部階段SS02



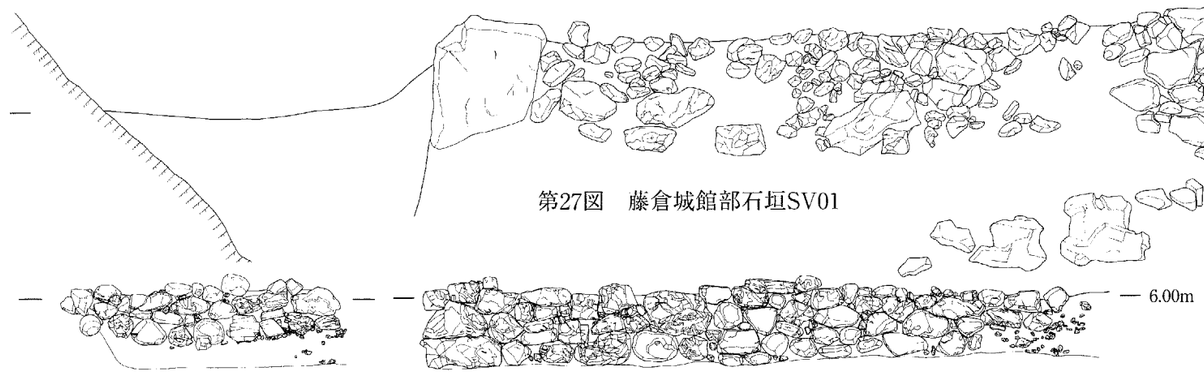
第24図　藤倉城館部土坑SK10土層図



第25図　藤倉城山城部石垣１

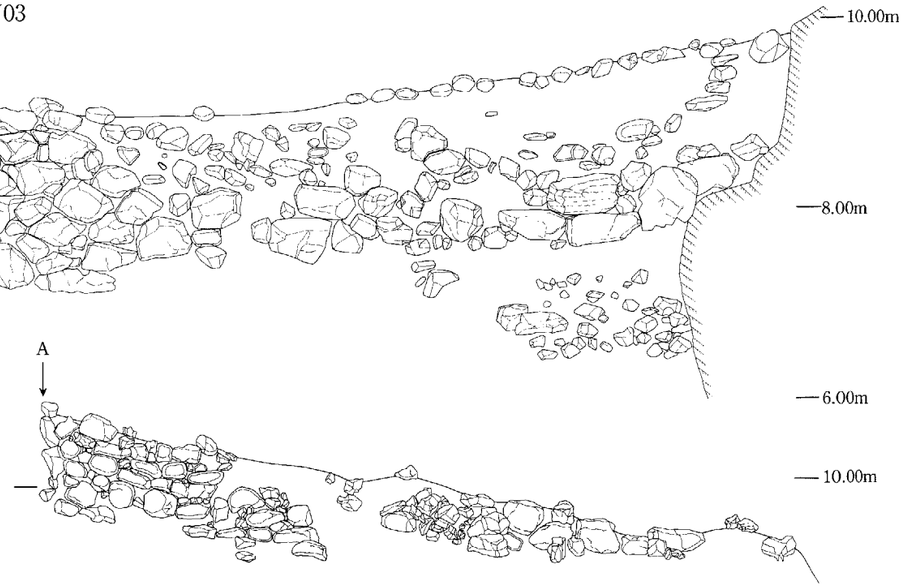


第26図　藤倉城館部石垣SV03



第27図　藤倉城館部石垣SV01

第29図　藤倉城館部堀SH02石積護岸

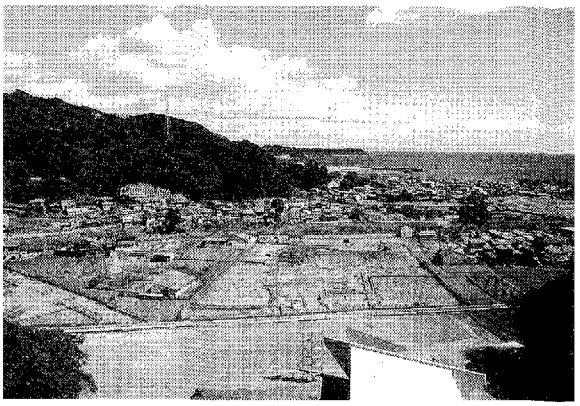


第28図　藤倉城館部石垣SV02

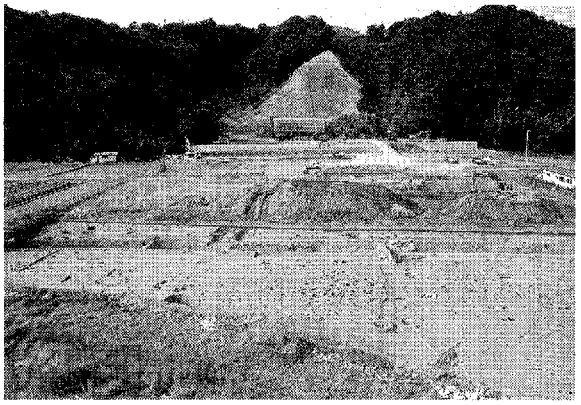
0　5m

第Ⅴ章　川関遺跡

調査地点は、那智勝浦町川関の標高約４ｍ前後の水田地帯である。那智山への入口部という交通の要衝地にあたり那智川の右岸に比較的広い平地が開けており、集落の立地には格好の場所である。平成10年度に実施した藤倉城の試掘調査の際に、前面の水田部の２ヶ所から柱跡や溝が発見され平安時代から鎌倉時代の土器類が出土したことから、これまで未確認であった遺跡が存在することが明らになった。このため、１次調査として川関遺跡の水田部４区画の5,443㎡を平成11年９月～平成12年３月にかけて実施し、２次調査は川関遺跡の水田部９区画の9,625㎡を平成12年６月～平成13年３月にかけて実施した。



ＳＰ67　川関遺跡全景（西から）



ＳＰ68　川関遺跡全景（東から）

第１節　調査区画と基本層序

調査区の位置関係から町道の西側を西地区（１次調査水田部１～３区、２次調査水田部５～７区）、東側を東地区（１次調査水田部４区、２次調査水田部８西区・８東区）、北東の高速道路橋脚部の調査地区を橋脚部地区（２次調査橋脚部１～４区）として記述する。また、東地区では遺構の検索をしやすいようにするため、堀１の西側を区画溝によって３分割し、北からＡ・Ｂ・Ｃ区、東側を２分割しＤ・Ｅ区とする。（第６図）

調査区の土層の堆積状況を柱状模式図としてまとめたのが、第30図である。調査範囲が広いため、各地点で異なるが、基本的な層序は上から①水田耕作土、②水田床土、③室町時代から近世の遺物包含層、④平安時代から鎌倉時代の遺物包含層、⑤地山である。橋脚部２・３・４区から水田部８区にかけてが微高地となっており、遺構密度・出土遺物ともに多い。橋脚部１の北東部や水田部８東区の東部は那智川の氾濫原となっていて、地山面が下がり、湿地状の堆積や砂礫の堆積がみられる。西調査区と東調査区の間の町道下には藤倉山の裾部から南流する自然流路が存在し、低湿地の地形である。西調査区は全体的に地山面が低く、土質もシルト状である。特に南部では湿地状で、下層は粘質土層である。

調査体制の不備と調査期間の制約、遺構密度の高さに、調査員の未熟さも加わり、精緻な発掘調査は今回は出来なかった。そのために、遺構の年代把握や同時性の検証作業が不十分な結果となってしまった。反省する次第である。

報告書作成にあたり、１次調査と２次調査で個別の遺構番号を付した遺構に、新たに連続した遺構

番号を基本的に西から東へ、北から南へと振り直した。このため、煩雑ではあるが、混乱をさけるために、発掘調査時の遺構番号を新番号の横の（）内に付した。了解いただきたい。

基本層序

調査範囲が広いため、各地点で土層の堆積状況はことなるが、調査区ごとの基本層序をまとめてみたい。（第31図）

《西地区　水田部１・３・５・６区》

水田部１・３・５・６区では地山面が山裾部の西側では標高3.8m前後と高く、東側では3.2m前後と低くなっており、土層堆積状況も異なる。南北方向では全体的に北側が高く、南に向かって緩やかに下がっている。水田部５区の西端では上から、①現在の水田耕作土、②水田床土で、③灰白色（５Ｙ７／２）粗砂礫層（地山）である。顕著な遺物包含層はみられないが、水田床土に少量ながら近世の磁器や山茶碗類、白磁などが含まれている。水田部１区の東半部では水田耕作土が複数面みられ、基本的な土層は①水田耕作土、②旧水田耕作土１、③旧水田耕作土２、④灰オリーブ色（５Ｙ５／３）土、⑤暗オリーブ色（５Ｙ４／４）土、⑥オリーブ黄色（５Ｙ６／４）土、⑦明黄褐色（2.5Ｙ６／６）土（地山）である。出土遺物は全体的に少なく、基本的に①をⅠ層、②・③をⅡ層、④をⅢ層、⑤をⅣ層、⑥をⅤ層として取り上げた。出土遺物の下限年代はⅢ層は18世紀後半、Ⅳ層は16世紀後半、Ⅴ層は13世紀後半である。掘立柱建物などの遺構は地山面で検出した。

《西地区　水田部２・７区》

水田部２・７区でも地山面が西北西から南南東にかけて下がっており、標高3.6m～2.6mであり、約1.0mの差がみられる。南端部では上から、①現在の水田耕作土、②水田床土、③旧水田耕作土１、④旧水田耕作土２、⑤オリーブ灰色（10Ｙ５／２）弱粘質土、⑥灰色（10Ｙ４／１）弱粘質土、⑦灰白色（7.5Ｙ７／２）粘質土（地山）である。出土遺物は北部から中央部では少ないが、南東部低地の⑤層と⑥層では山茶碗類や白磁などがやや多く出土した。

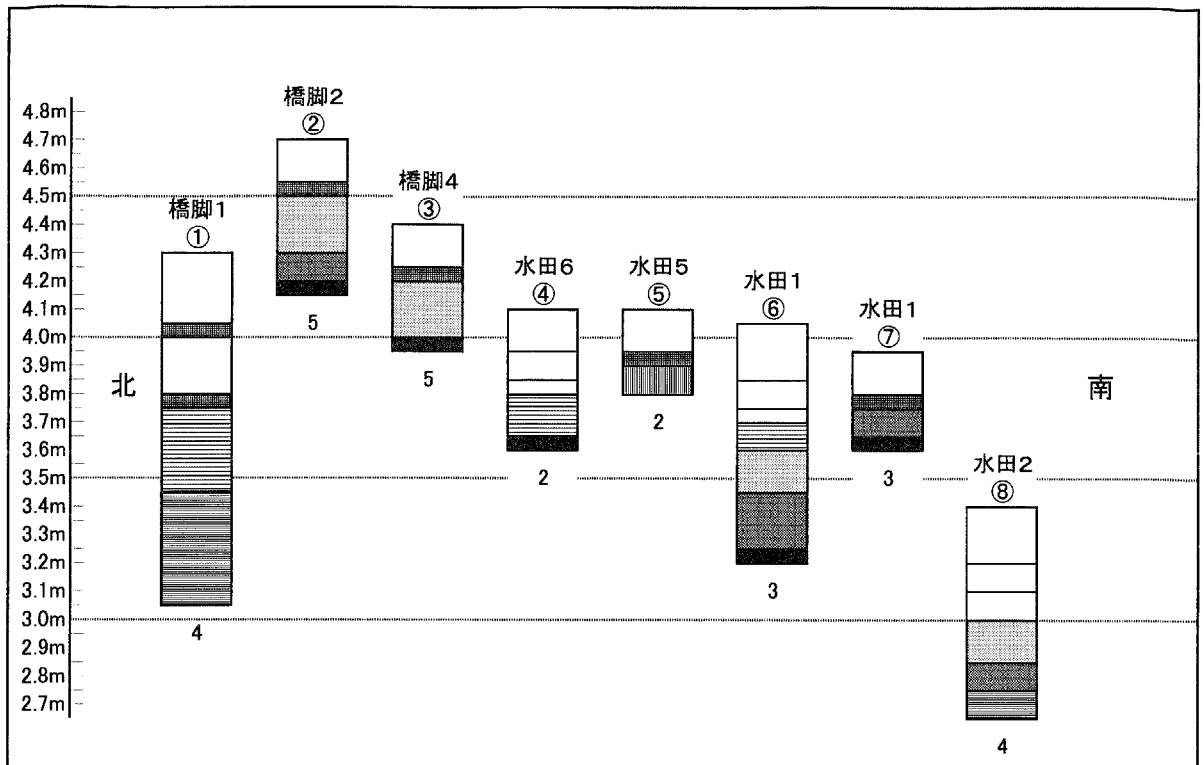
《東地区　水田部４・８区》

東地区では、中央部付近に北側から南北に延びる舌状の微高地が存在し、西側は低地部となり、町道を挟んで西地区に続いている。東側は緩やかに下がっていき、東端では那智川の氾濫原となり、浸食されて、砂礫土が堆積している。

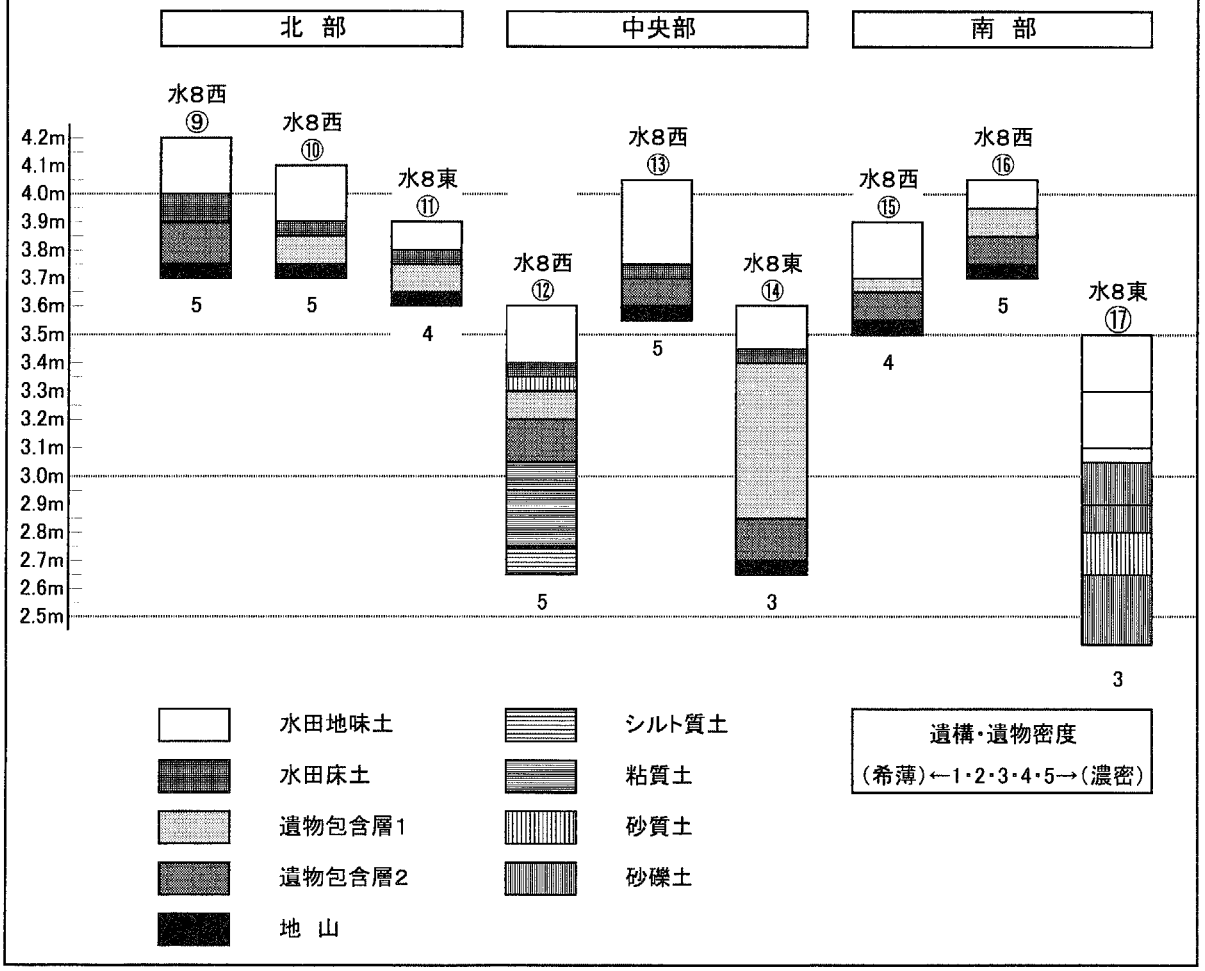
北部から中央部の土層堆積状況は上から、①現在の水田耕作土、②水田床土、③オリーブ褐色（2.5Ｙ４／４）土、④明黄褐色（10ＹＲ６／８）土（地山）である。

南西部の土層堆積状況は上から、①現在の水田耕作土、②旧水田耕作土、③黄色（2.5Ｙ４／４）粗砂、④灰白色（10ＹＲ６／８）シルト、⑤灰白色（10ＹＲ６／８）シルト、⑥オリーブ灰色（10ＹＲ６／８）弱粘質土、⑦暗灰色（10ＹＲ６／８）粘土、⑧明オリーブ灰色（2.5ＧＹ７／１）シルトである。（⑥～⑧は落込みＳＷ０５の埋土）

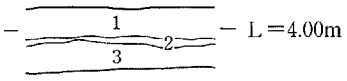
南東部の土層堆積状況は上から、①現在の水田耕作土、②水田床土、③灰黄褐色（10ＹＲ４／２）土、④明黄褐色（2.5Ｙ７／６）土混じり灰黄褐色（10ＹＲ４／２）土、⑤明黄褐色（2.5Ｙ７／６）土（地山）である。



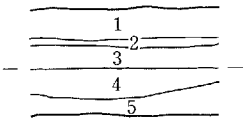
川関遺跡東地区　東西方向土層柱状模式図



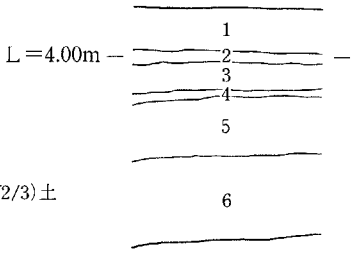
第30図　川関遺跡橋脚部地区・西地区　南北方向土層柱状模式図



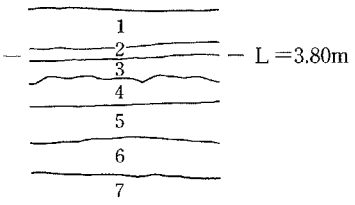
水田部５区　西壁中央部土層⑤
1．水田耕作土
2．水田床土
3．灰白色(5Y7/2)粗砂礫層(地山)



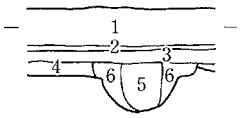
橋脚部２区　東壁土層②
1．水田耕作土
2．水田床土
3．黒褐色(2.5Y3/2)土
4．明黄褐色(10YR6/8)土混じり黒褐色(2.5Y2/3)土
5．明黄褐色(10YR6/8)土(地山)



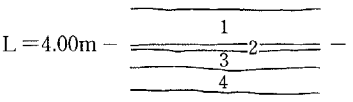
橋脚部１区　東壁土層①
1．水田耕作土
2．水田床土
3．旧水田耕作土
4．旧水田床土
5．赤褐色(2.5Y4/1)土混じり黄灰色(2.5Y1/4)シルト
6．赤褐色(2.5Y4/1)土混じり暗灰色(N3/0)シルト



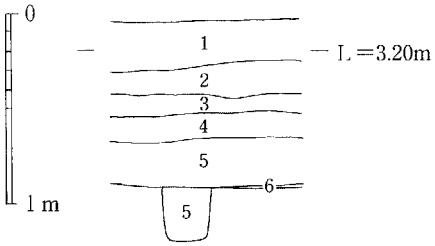
水田部１区　東壁中央部土層⑥
1．水田耕作土
2．旧水田耕作土１
3．旧水田耕作土２
4．灰オリーブ色(5Y5/3)シルト質土
5．暗オリーブ色(5Y4/4)シルト質土
6．オリーブ黄色(5Y6/4)シルト質土
7．明黄褐色(2.5Y6/6)土(地山)



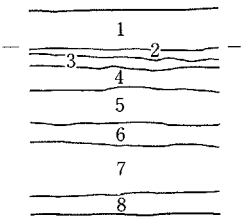
水田部８西区　北壁中央部土層⑩
1．水田耕作土
2．水田床土
3．オリーブ褐色(2.5Y4/4)土
4．明黄褐色(10YR6/8)土(地山)
5．暗灰黄色(2.5Y4/2)土
6．明黄褐色(10YR6/8)土混じり暗灰黄色(2.5Y4/2)土



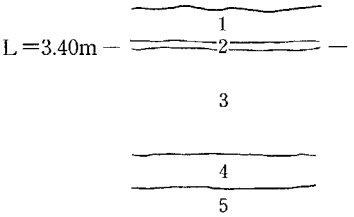
水田部８東区　北壁東部土層⑪
1．水田耕作土
2．水田床土
3．オリーブ褐色(2.5Y4/4)土
4．明黄褐色(10YR6/8)土(地山)



水田部２区　南壁中央部土層
1．水田耕作土
2．旧水田耕作土１
3．旧水田耕作土２
4．オリーブ灰色(10Y5/2)弱粘質土
5．炭・焼土少量混じり灰色(10Y4/1)弱粘質土
6．灰白色(7.5Y7/2)粘質土(地山)

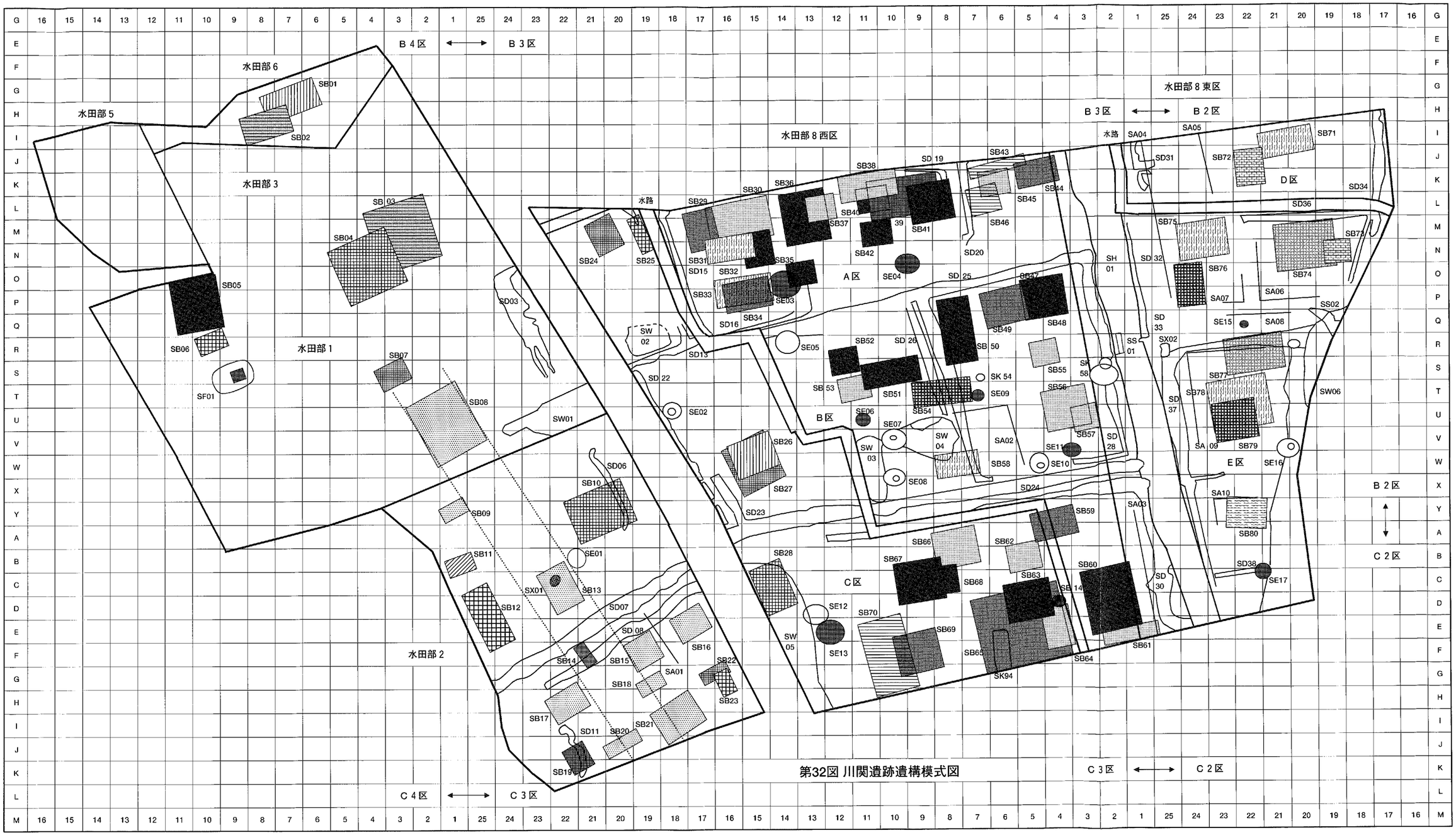


水田部８西区　西壁南部土層⑫
1．水田耕作土
2．旧水田耕作土
3．黄色(2.5Y4/4)粗砂
4．灰白色(10YR6/8)シルト
5．灰白色(10YR6/8)シルト
6．オリーブ灰色(10YR6/8)弱粘質土
7．暗灰色(10YR6/8)粘土
8．明オリーブ灰色(2.5GY7/1)シルト
(⑥～⑧は落込みSW05の埋土)



水田部８東区　東壁南部土層⑭
1．水田耕作土
2．水田床土
3．灰黄褐色(10YR4/2)土
4．明黄褐色(2.5Y7/6)土混じり灰黄褐色土(10YR4/2)土
5．明黄褐色(2.5Y7/6)土(地山)

第31図　川関遺跡地区別土層図



第32図 川関遺跡遺構模式図

《橋脚部地区》

橋脚部地区では２区が水田面・地山面とも、すべての調査地点で最も高く、南側の３区・４区へと徐々に下がっている。黒褐色土層から山茶碗類が多数出土した。１区は那智川に向かって落ち込む湿地状の地形を呈する。

橋脚部１区の基本的な土層堆積状況は上から、①現在の水田耕作土、②水田床土、③旧水田耕作土、④旧水田床土、⑤赤褐色（2.5Y４／１）土混じり黄灰色（2.5Y１／４）シルト、⑥赤褐色（2.5Y４／１）土混じり暗灰色（Ｎ３／０）シルトである。

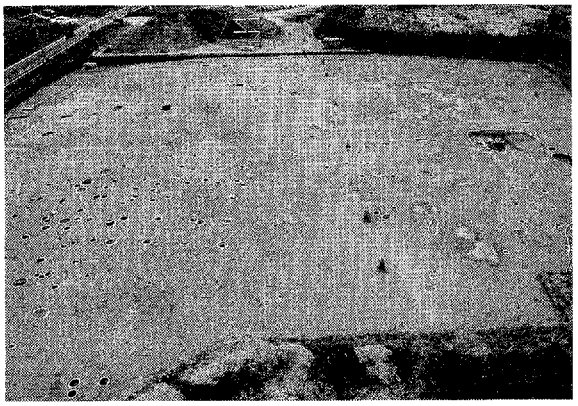
橋脚部２区の基本的な土層堆積状況は上から、①現在の水田耕作土、②水田床土、③黒褐色（2.5Y３／２）土、④明黄褐色（10YR６／８）土混じり黒褐色（2.5Y２／３）土、⑤明黄褐色（10YR６／８）土（地山）である。

第２節　川関遺跡西地区（水田部１・２・３・５・６・７区）

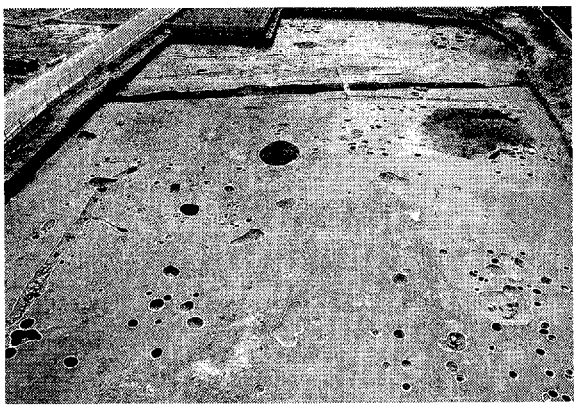
《調査成果》

検出した主な遺構は、平安時代から室町時代前期にかけての掘立柱建物23棟、井戸１基、溜桝１基、溝、土坑、柱穴などである。遺構と遺物の主体となる時期は平安時代末期から鎌倉時代前期にかけてで、それ以降は建物等はまばらで、遺物も少ない。東地区より全体的に標高が低く、南部は低湿地状の地形である。地震の液状化現象による噴砂跡や何らかの祭祀の痕跡だと考えられる溝（ＳＤ０６）、鋳造土坑（ＳＸ０１）など特徴的な遺構も検出された。

建物は全体的な傾向として北部のものが古く、12世紀後半から12世紀末頭のもので、南部の建物は12世紀末から13世紀初頭のものが多い。南部の建物群は建物ＳＢ０８の建物中軸線を地割りの基準として、計画的に配置されているようである。



ＳＰ69　川関遺跡水田部１全景（北から）



ＳＰ70　川関遺跡水田部２全景（北から）

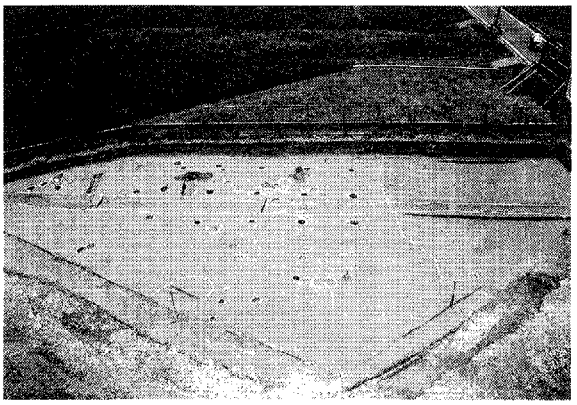
水田部６区の掘立柱建物

建物ＳＢ０１（SB22）

ＳＢ０１は調査区の北東端で検出し、２間×４間を確認したが、北部に延びている可能性がある。柱芯規模で南北辺は8.66m・8.64m、東西辺は4.44m・4.84mで、床面積は現状で約40.1㎡である。主軸方位は真北に対して（以下すべて同様）Ｎ－19°－Ｗで、柱穴の掘方は直径35cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗や土師器の破片が出土しており、12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ０２（SB23）

ＳＢ０２は東西方向に主軸をもつ２間×３間の総柱建物である。南辺は6.9m、東辺は4.26mで、床面積は推定で約32.2㎡である。主軸方位はＮ－17°－Ｗで、柱穴の掘方は直径30cm前後・深さ20cm～30cmである。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

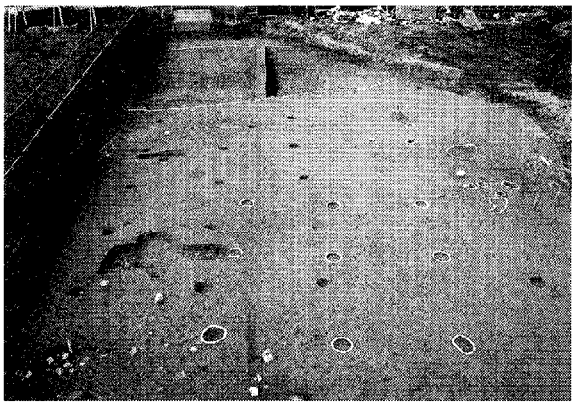


ＳＰ71　川関遺跡水田部６全景（南から）

水田部１・２・７区の掘立柱建物

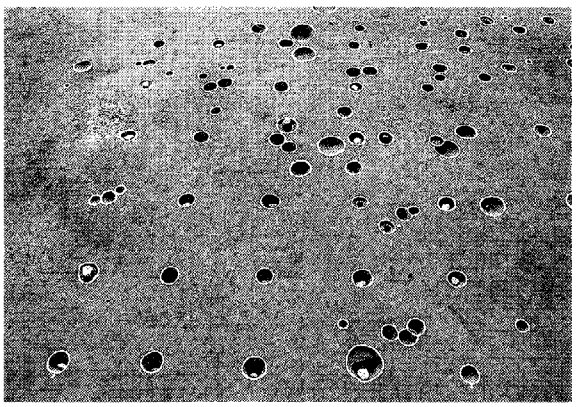
建物ＳＢ０３（SB01）

ＳＢ０３は南北方向に主軸をもつ４間×５間の総柱建物で、南北辺は8.47m・8.35m、東西辺は10.5m・10.52mで、床面積は約88.5㎡を測る。建物の主軸方位はＮ－18°－Ｗで、やや西に振っている。柱穴の掘方は直径40cm前後・深さ10cm～30cmで、底には径30cm・厚さ10cm～15cm程の扁平な河原石が水平に敷かれている。柱間の寸法が2.1m前後で揃っており、目地通りも良く、川関遺跡で最も精巧で堅牢な構造である。蔵状の施設ではないかと推定される。出土遺物には５型式古段階の山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、青磁皿などがあり、12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。



ＳＰ72　川関遺跡水田部６　SB01・02

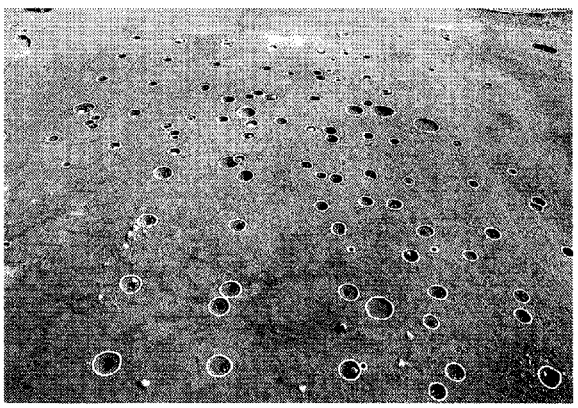
ＳＢ０３の北辺を円弧状に取り囲むように６条の噴砂跡が検出された。大規模な地震によって引き起こされた液状化現象によるものだと推定され、建物が存在した時点で大地震が発生して、建物の上下動での荷重で噴砂が吹き上がった可能性が高い。



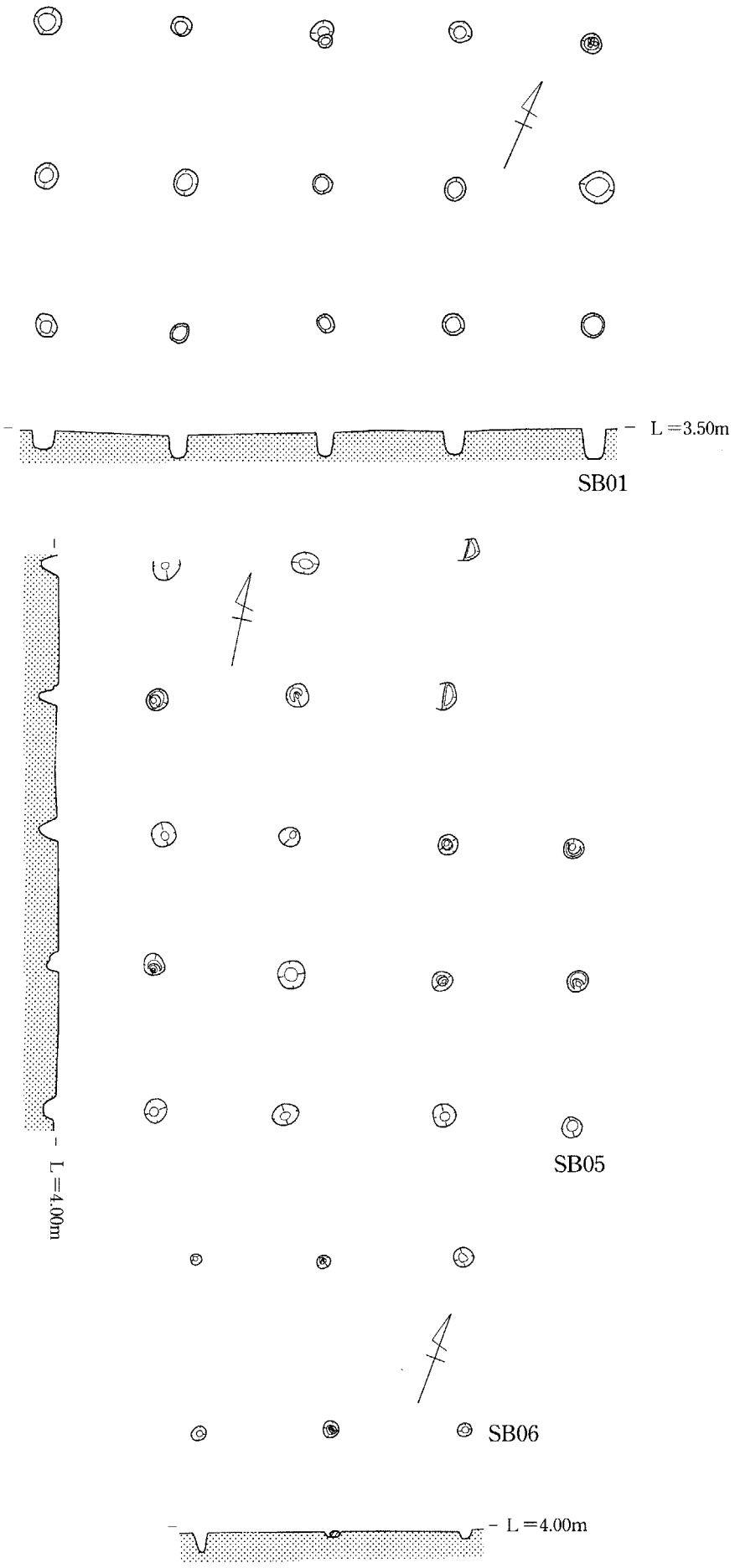
ＳＰ73　川関遺跡水田部１　SB03

建物ＳＢ０４（SB02）

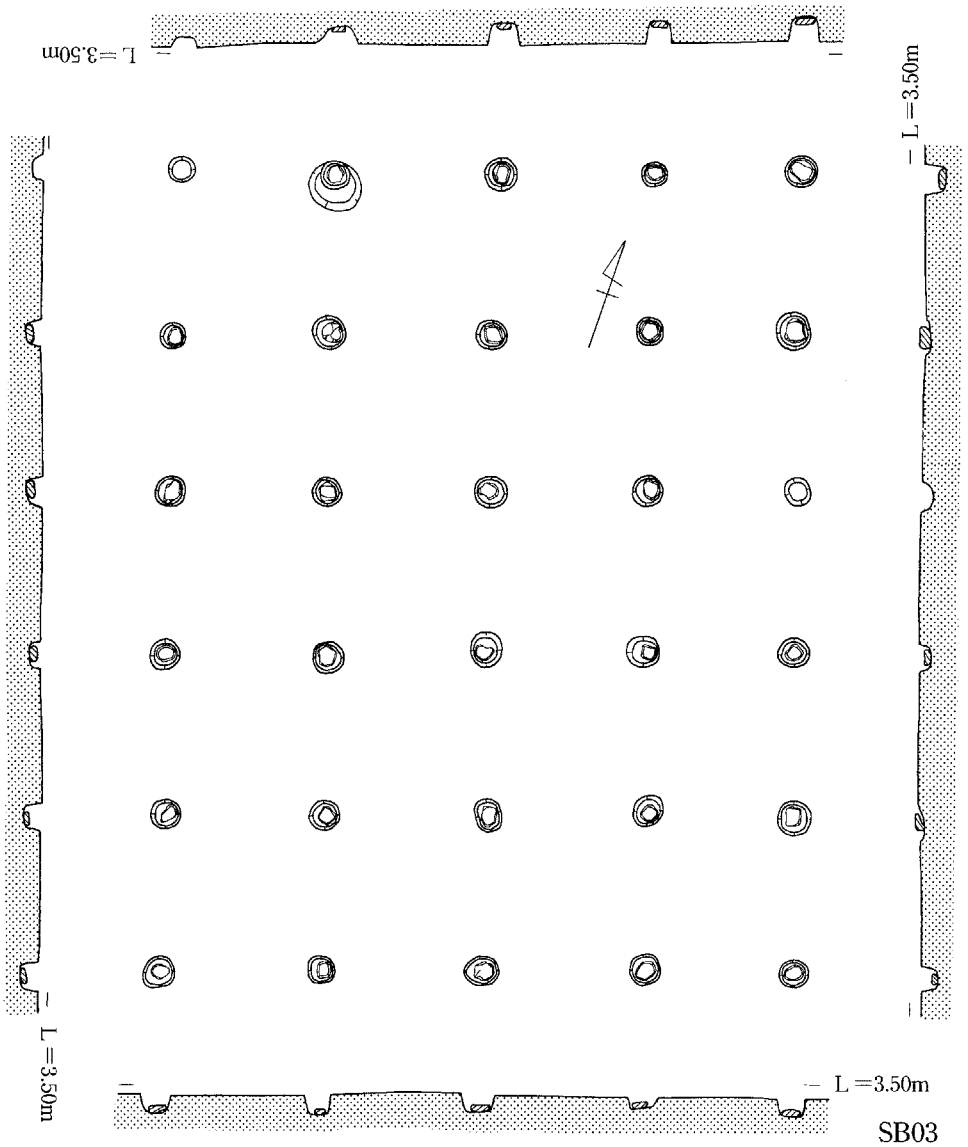
ＳＢ０４は南北方向に主軸をもつ４間×４間の総柱建物で、南北辺は8.72m・8.72m、東西辺は9.67m・9.87mで、床面積は約85.2㎡を測る。主軸方位はＮ－24°－Ｗで、柱穴の掘方は直径40cm前後・深さ15cm～30cmで、直径15cm前後の円柱の痕跡が認められた。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半に廃絶した建物であろう。



ＳＰ74　川関遺跡水田部１　SB04



第33図　川関遺跡掘立柱建物SB01・05・06



第34図　川関遺跡掘立柱建物SB02・03

建物ＳＢ０５（SB04）

ＳＢ０５は南北方向に主軸をもつ３間×４間の総柱建物である。南辺は6.6m、西辺は8.6mで、床面積は推定で約56.8㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径35cm前後・深さ10cm～30cmである。山茶碗の小破片が出土したが時期は断定困難である。

建物ＳＢ０６（SB05）

ＳＢ０６は東西方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。東西辺は2.7m・2.76m、南北辺は4.18m・4.2mで、床面積は約11.4㎡である。主軸方位はＮ－22°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm前後・深さ10cm～20cmである。時期は不明である。

建物ＳＢ０７（SB06）

ＳＢ０７は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は3.7m・4.04m、南北辺は4.32m・5.06mで、床面積は約18.2㎡である。主軸方位はＮ－27°－Ｗで、柱穴の掘方は直径25cm前後・深さ10cm～20cmである。時期は不明である。

建物ＳＢ０８（SB03）

ＳＢ０８は南北方向に主軸をもつ４間×５間の総柱建物である。南北辺は8.27m・8.19m、東西辺は10.44m・10.7mで、床面積は約87.0㎡である。主軸方位はＮ－29°－Ｗで、柱穴の掘方は直径40cm前後・深さ20cm～50cmで、直径15cm前後の円柱の痕跡が認められた。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ０９（SB08）

ＳＢ０９は断定はできないが、東西方向に主軸をもつ１間×３間で、南西部にやや柱間の短い１間の張り出しがみられる建物である。西辺は4.16m、北辺は6.28mである。主軸方位はＮ－28°－Ｗで、柱穴の掘方は直径25～40cm・深さ10cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類や常滑甕がある。13世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ１０（SB07）

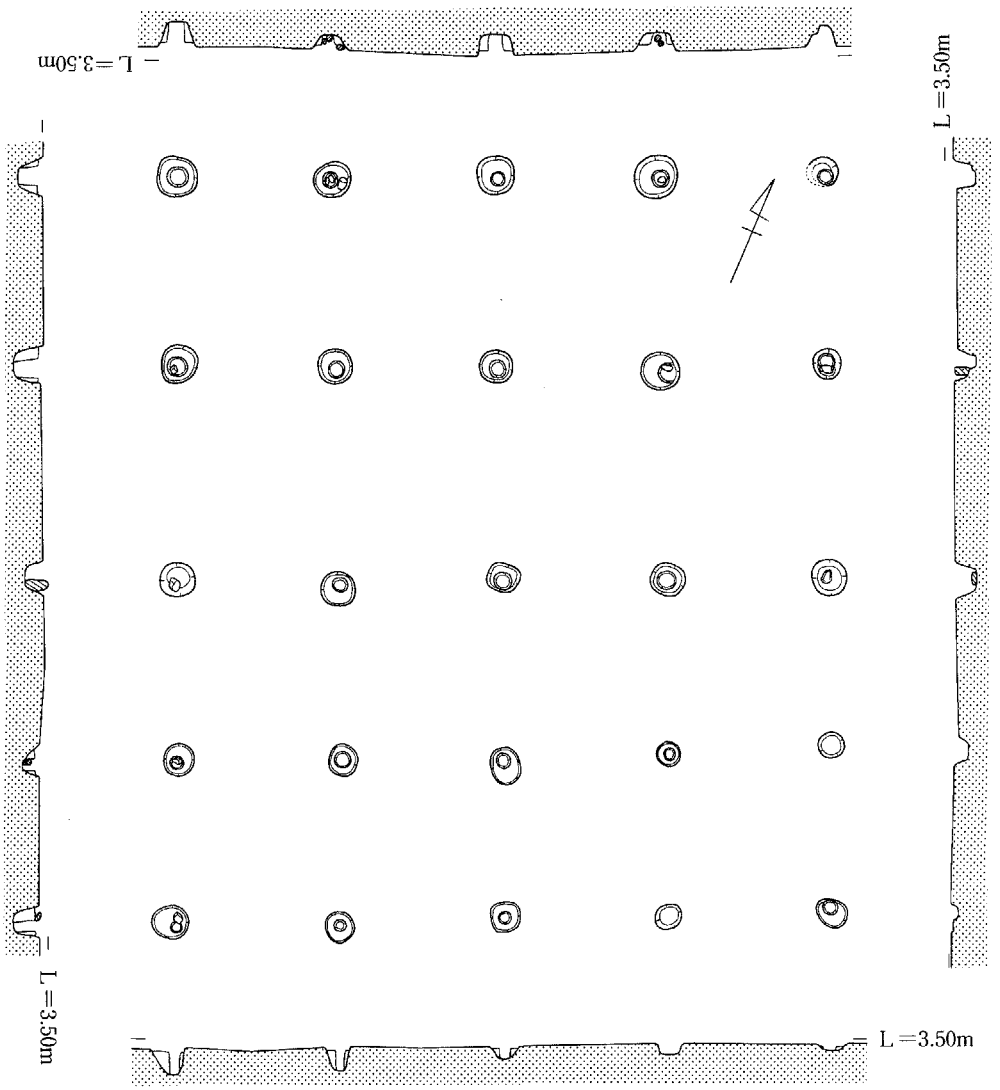
ＳＢ１０は東西方向に主軸をもつ３間×４間の総柱建物である。東西辺は7.5m・7.7m、南北辺は8.62m・8.78mで、床面積は約66.1㎡である。主軸方位はＮ－23°－Ｗで、柱穴の掘方は直径25～40cm前後・深さ20cm～40cmである。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ１１（SB09）

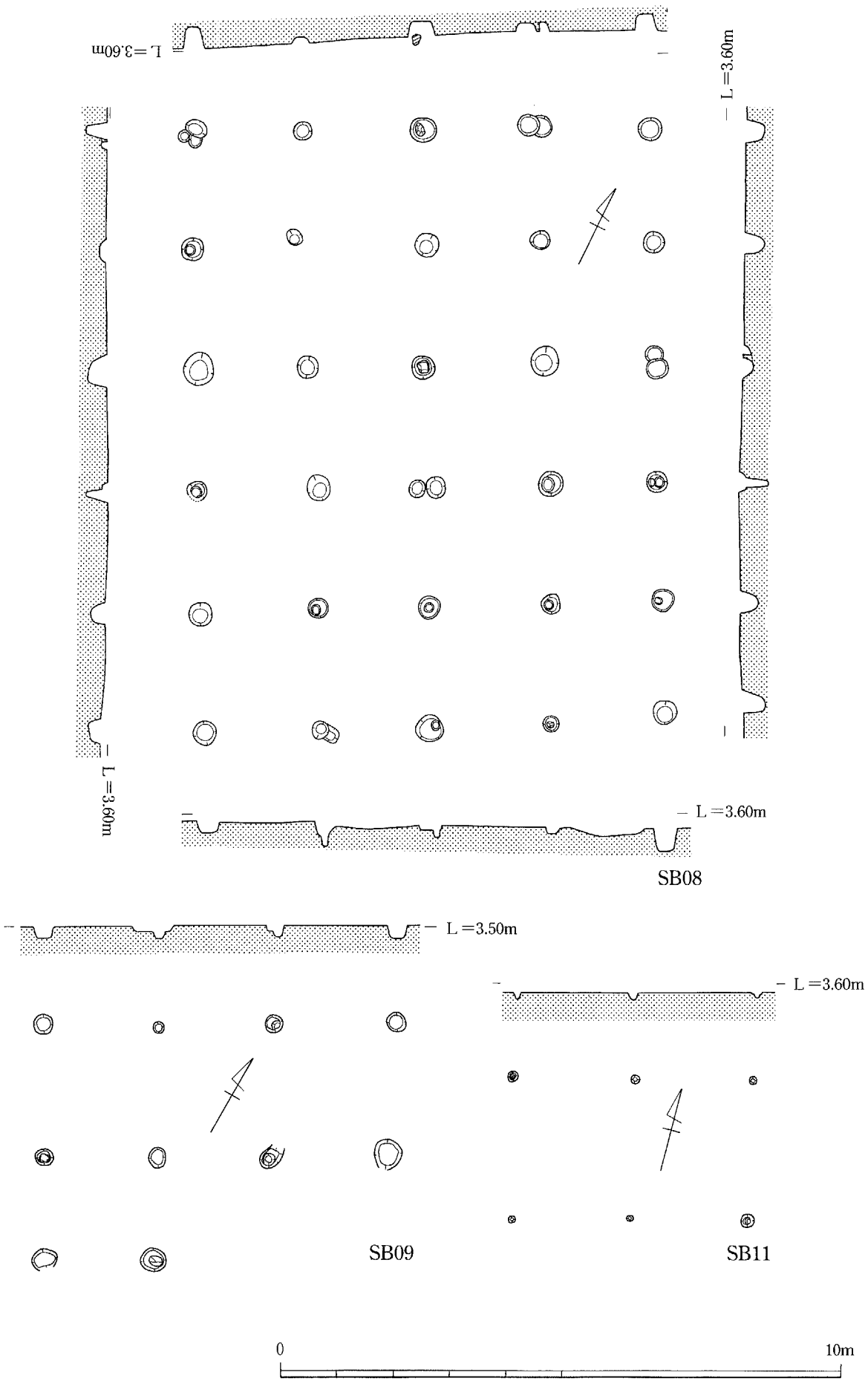
ＳＢ１１は東西方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。東西辺は2.5m・2.54m、南北辺は4.24m・4.29mで、床面積は約10.8㎡である。主軸方位はＮ－20°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm前後・深さ10cm～20cmである。廃絶時期は不明である。

建物ＳＢ１２（SB10）

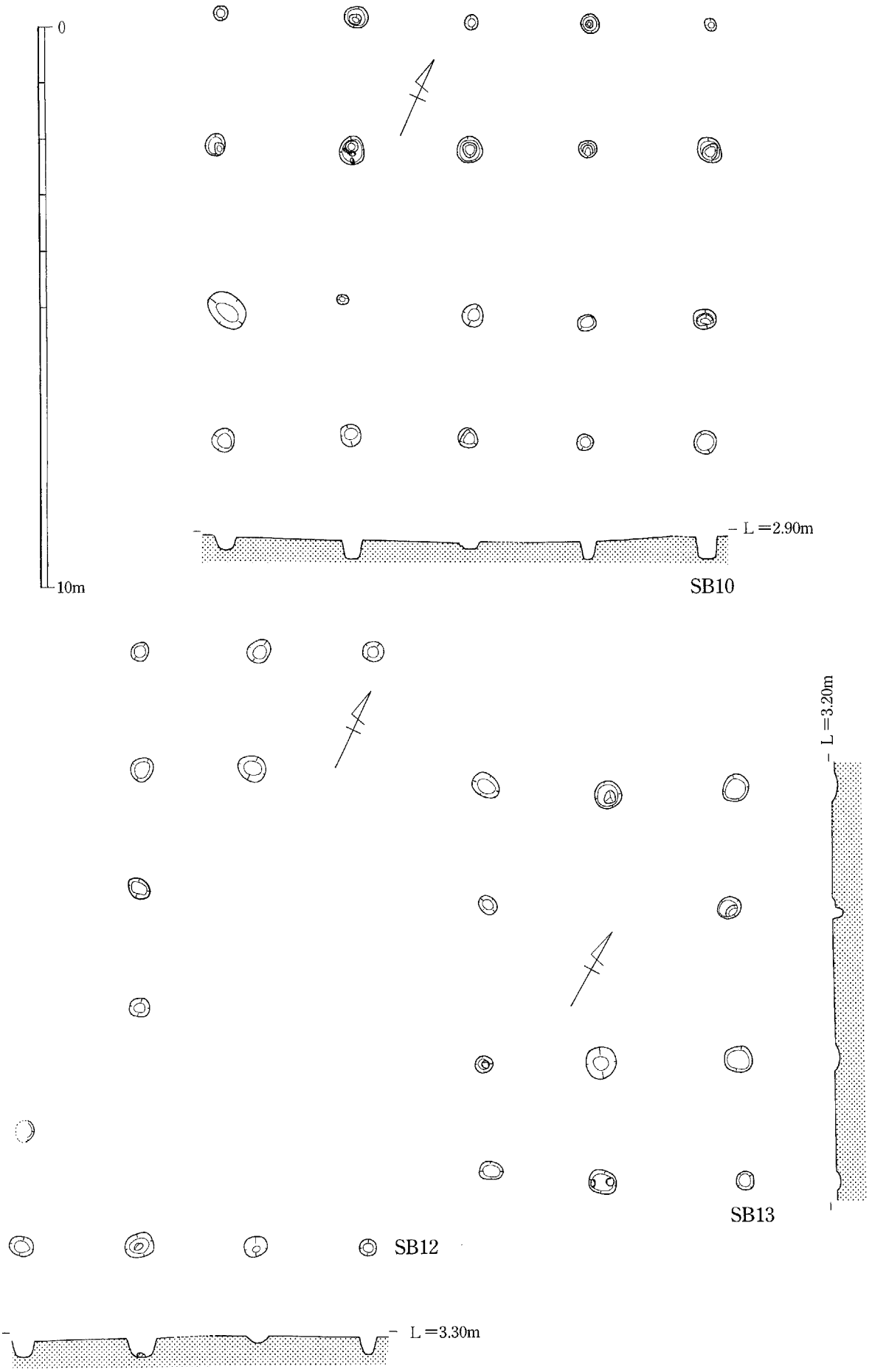
ＳＢ１２は土取り坑により破壊されており、詳細は不明であるが、南北方向に主軸をもつ３間以上×５間の建物である。南辺は6.22m、東西辺は10.6mである。主軸方位はＮ－27°－Ｗで、柱穴の方は直径30cm～40cm・深さ20cm～40cmである。出土遺物には山茶碗類と常滑甕があり、13世紀初め頃に



第35図　川関遺跡掘立柱建物SB04・07



第36図　川関遺跡掘立柱建物SB08・09・11



第37図　川関遺跡掘立柱建物SB10・12・13

廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ１３（SB11）

ＳＢ１３は南北方向に主軸をもつ２間×３間の総柱建物である。南北辺は4.54m・4.46m、東西辺は7.0m・6.9mで、床面積は約31.3㎡である。主軸方位はＮ－28°－Ｗで、柱穴の掘方は直径35cm前後・深さ10cm～30cmである。５型式古段階の山茶碗類や白磁碗が出土しており、12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ１４（SB12）

ＳＢ１４は南北方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。南北辺は2.19m・1.97m、東西辺は4.46m・4.3mで、床面積は約9.1㎡である。主軸方位はＮ－35°－Ｗで、柱穴の掘方は直径25cm前後・深さ10cm～20cmである。６型式の山茶碗類が出土しており、13世紀前半頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ１５（SB14）

ＳＢ１５は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。南北辺は4.32m・4.3m、東西辺は4.8m・4.82mで、床面積は約20.7㎡である。主軸方位はＮ－30°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。４型式新段階の山茶碗類が出土しており、12世紀後半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ１６（SB13）

ＳＢ１６は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は5.06m・4.52m、南北辺は4.88m・4.38mで、床面積は約22.2㎡である。主軸方位はＮ－30°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20～40cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗、土師器、瓦器、白磁などが出土し、13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ１７（SB16）

ＳＢ１７は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は4.32m・4.36m、南北辺は5.22m・5.68mで、床面積は約23.7㎡である。主軸方位はＮ－31°－Ｗで、柱穴の掘方は直径15cm～30cm・深さ20cm～30cmである。山茶碗、土師器、瓦器などが出土し、12世紀末頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ１８（SB15）

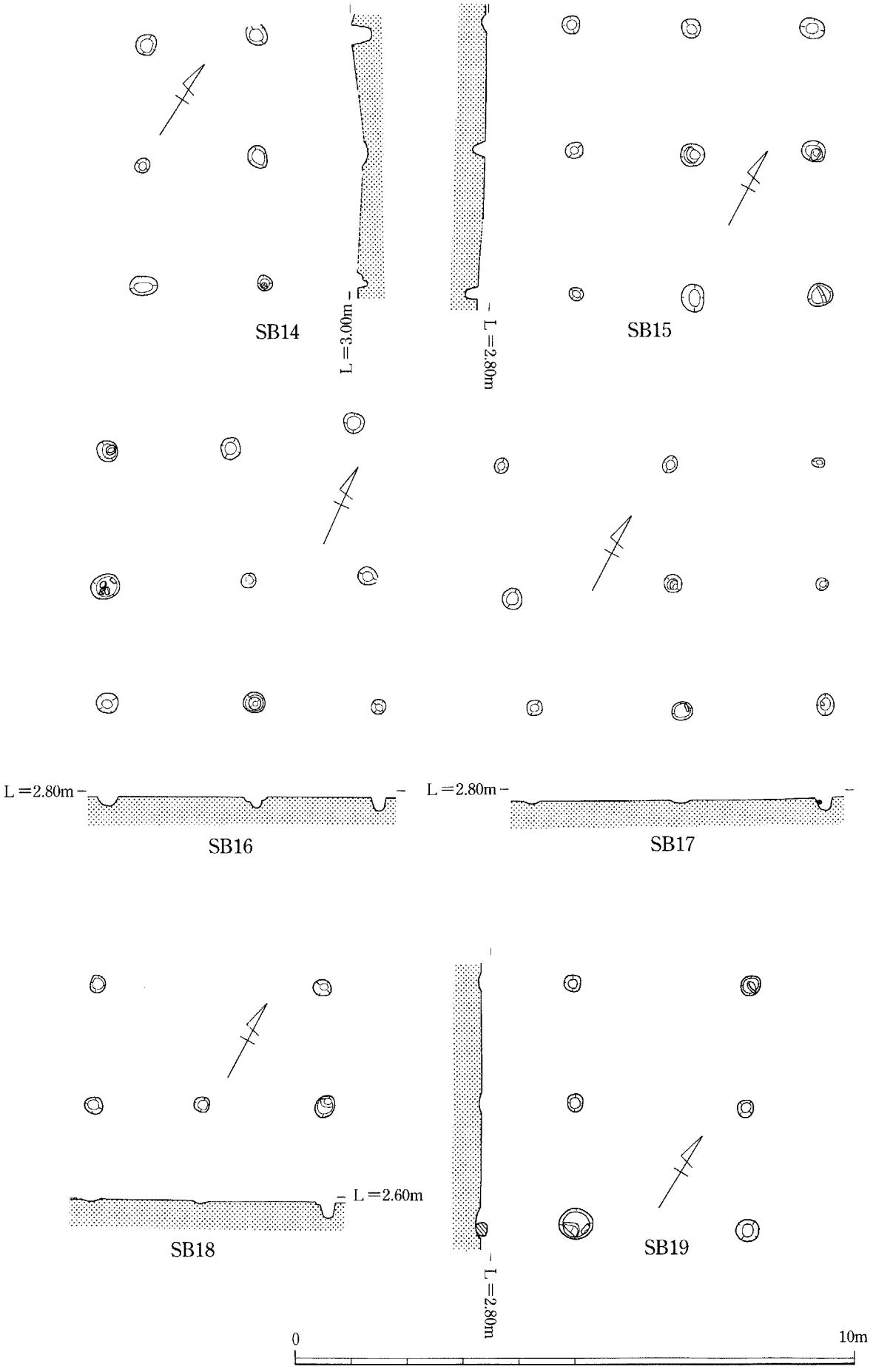
ＳＢ１８は東西方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。東西辺は2.2m・2.1m、南北辺は4.2m・4.1mで、床面積は約8.9㎡である。主軸方位はＮ－29°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm前後・深さ10cm～20cmである。山茶碗、土師器、瓦器などが出土し、13世紀初め頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ１９（SB17）

ＳＢ１９は南北方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。南北辺は3.13m・3.22m、東西辺は4.4m・4.38mで、床面積は約13.9㎡である。主軸方位はＮ－30°－Ｗで、柱穴の掘方は直径25cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗、土師器が出土し、12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ２０（SB21）

ＳＢ２０は東西方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。東西辺は2.12m・2.15m、南北辺は5.88



第38図　川関遺跡掘立柱建物SB14・15・16・17・18・19

m・5.74mで、床面積は約12.4㎡である。主軸方位はN－29°－Wで、柱穴の掘方は直径25cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗が出土し、13世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ２１（SB18）

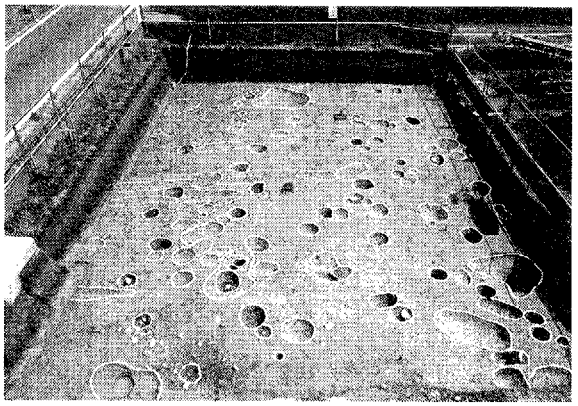
ＳＢ２１は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。東西辺は5.75m・5.96m、南北辺は4.12m・4.24mで、床面積は約24.5㎡である。主軸方位はN－33°－Wで、柱穴の掘方は直径30cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗、土師器、瓦器などが出土し、13世紀初め頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ２２（SB19）

ＳＢ２２は東西方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。東西辺は2.25m・2.03m、南北辺は4.18m・4.27mで、床面積は約9.0㎡である。主軸方位はN－28°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～30cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗、土師器、瓦器、常滑甕、白磁碗などが出土し、13世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ２３（SB20）

ＳＢ２３は南北方向に主軸をもつ１間×２間の建物である。南北辺は2.18m・2.18m、東西辺は4.3m・4.19mで、床面積は約9.3㎡である。主軸方位はN－26°－Wで、柱穴の掘方は直径25cm前後・深さ20cm～30cmである。渥美５型式古段階の山茶碗や土師器などが出土しており、12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。



ＳＰ75　川関遺跡水田部７　SB22・23

柵ＳＡ０１

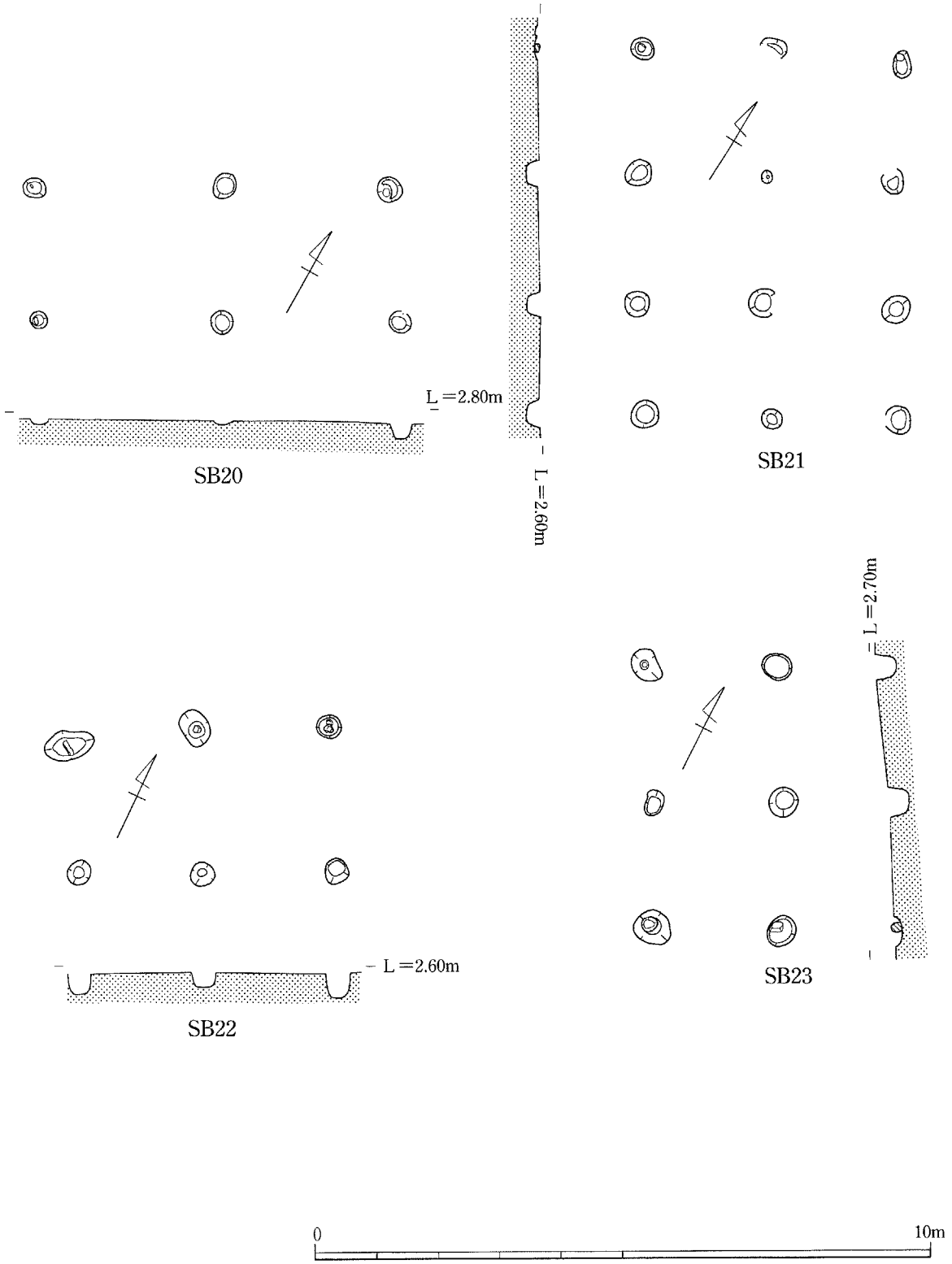
ＳＡ０１はＳＢ１４とＳＢ１８の東に隣接して延びる柱列で、柵だと推定した。延長10.2mで、方位はN－30°－Wである。山茶碗、土師器などが出土し、13世紀初め頃に廃絶したと考えられる。

井戸ＳＥ０１（SE01）

ＳＥ０１は長径3.3m短径2.6m、深さ1.5mの楕円形の素掘りの井戸である。井戸枠や石積みは、確認できなかった。掘削深度が浅く、何らかの理由で築造途中で廃棄された可能性がある。出土遺物には山茶碗類、常滑甕、瓦器椀、土師器皿・甕、白磁皿、青磁皿などがある。13世紀前半に廃棄されている。

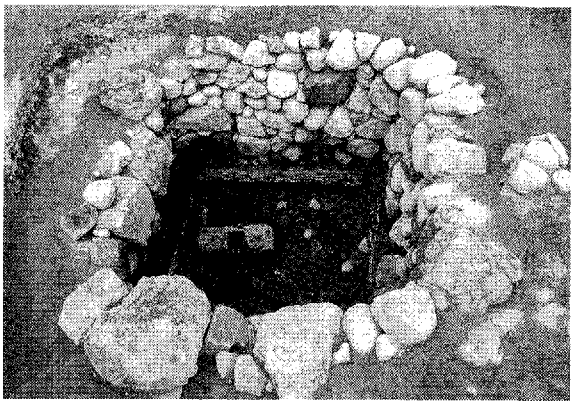
溜桝ＳＦ０１（SF01）

ＳＦ０１は、5.7m×4.4mの長方形の堀形で、20cm～60cm大の石材を一辺約1.8mの隅丸正方形に積んでいる。石積みの底部には径約20cmの胴木が四辺に据えられている。深さは約1.8mで、底部では直径約30cmの木材を方形に刳抜いた部材が出土した。導水管の駒の継手だと考えられる。西側の近世の堆積土の下から竹の節を刳抜いた導水管が検出されており、谷筋から湧水を引っ張り、溜桝の中に落とし込んでいたものと推定される。北西側には炭や焼土が堆積した浅い土坑や楕円形の土坑が有り、

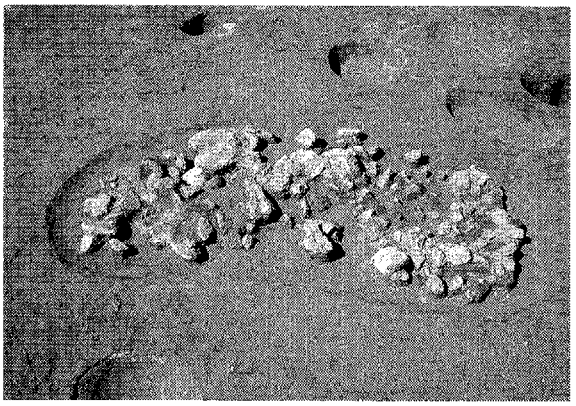


第39図　川関遺跡掘立柱建物SB20・21・22・23

火と水を利用して何らかの生産活動が行われた可能性がある。北側に隣接する建物ＳＢ０６はこれらに伴う作業小屋のような施設であったとも考えられる。石鍋や土師器が少量出土した。14世紀前半に廃絶したようである。



ＳＰ76　川関遺跡水田部１　SF01



ＳＰ77　川関遺跡水田部２　SX01

鋳造土坑ＳＸ０１（SX01）

ＳＸ０１は約2.5m×1.2mの長楕円形で深さ約10cmを測る。土坑内には土師質の厚さ３、４cmの鋳型の破片が散乱していた。細片が多く、破片数も少なかったので、復元は不可能であった。内型と外型があり、角張った部位や平坦な部位があることから、長方形の手水鉢のような物を鋳造した可能性がある。周辺には熱を受けて赤変した直径50cm前後の浅い土坑がいくつかみられる。渥美５型式古段階の山茶碗が出土しており、12世紀末頃の鋳造遺構だと考えられる。

溝ＳＤ０１（水田部５・６区SD03）

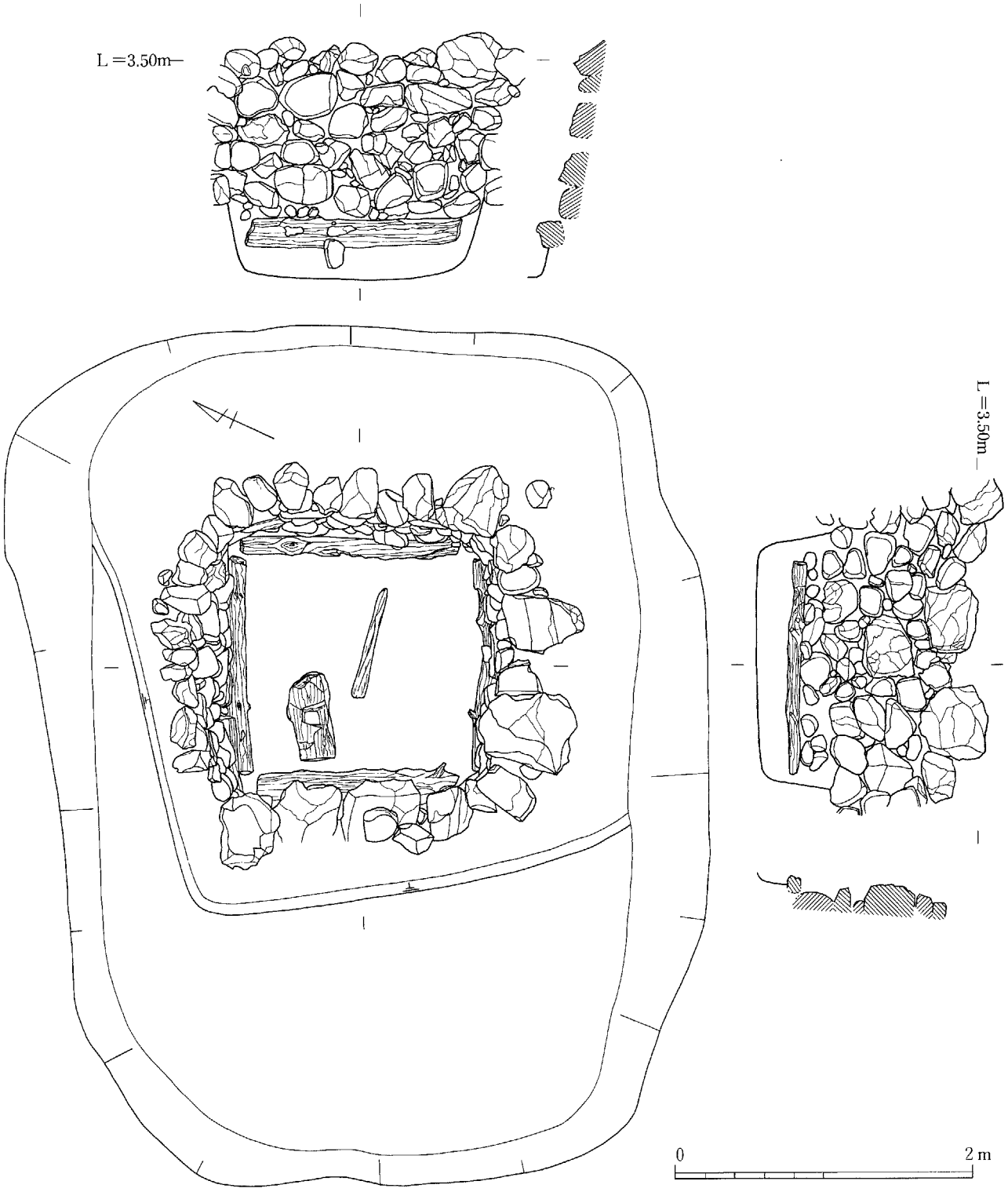
ＳＤ０１は調査区の北部で検出した西南西から東北東に直線状に延びる溝である。幅は0.6～1.4m・深さ0.08～0.25mで、中央部付近が深くなっている。埋土は灰黄褐色（10YR６/２）土である。現在の水田区画とほぼ平行な位置関係にあり、水出耕作に関連する溝だと考えられる。出土遺物には山茶碗、土師器、備前の甕があり、13世紀末頃埋没したものと考えられる。

自然流路ＳＤ０２（水田部６区SD05）

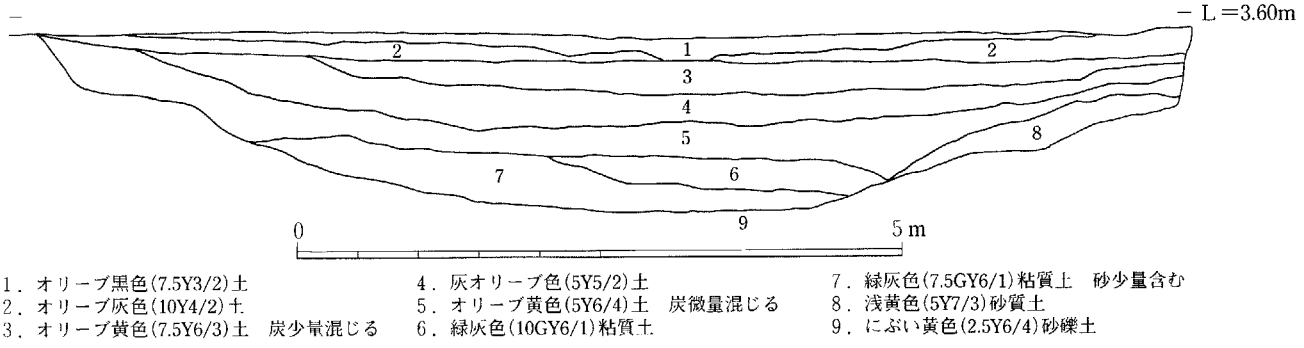
ＳＤ０２は調査区の北東部で検出した北北西から南南東に延びる自然流路である。幅は約8.5m・深さ約0.5mで、壁面は緩やかな勾配である。埋土は上層がオリーブ灰色（10Y４/２）土、中層がオリーブ黄色（5YR６/４）土、下層が砂を含んだ緑灰色（7.5GY６/１）粘質土である。出土遺物には須恵器、山茶碗類、瓦器、土師器、常滑、白磁、土錘、砥石などがあり、13世紀末頃埋没したものと考えられる。藤倉城北部の山裾から現在の町道の下を通り、那智川へと流れていた自然流路だと考えられる。

溝ＳＤ０３（水田部１区SD02・03・04）

ＳＤ０３は調査区の中央東部で検出した不整形な溝である。北北東から南南西に屈曲し、南端部は二股に分かれて途切れている。長さは約20.0mで、幅は1.6m～3.2m・深さ0.1m～0.2mで底部は平坦である。



第40図　川関遺跡溜桝SF01



1．オリーブ黒色(7.5Y3/2)土
2．オリーブ灰色(10Y4/2)土
3．オリーブ黄色(7.5Y6/3)土　炭少量混じる
4．灰オリーブ色(5Y5/2)土
5．オリーブ黄色(5Y6/4)土　炭微量混じる
6．緑灰色(10GY6/1)粘質土
7．緑灰色(7.5GY6/1)粘質土　砂少量含む
8．浅黄色(5Y7/3)砂質土
9．にぶい黄色(2.5Y6/4)砂礫土

第42図　川関遺跡自然流路SD02土層図

溝ＳＤ０４（水田部１区SD06）

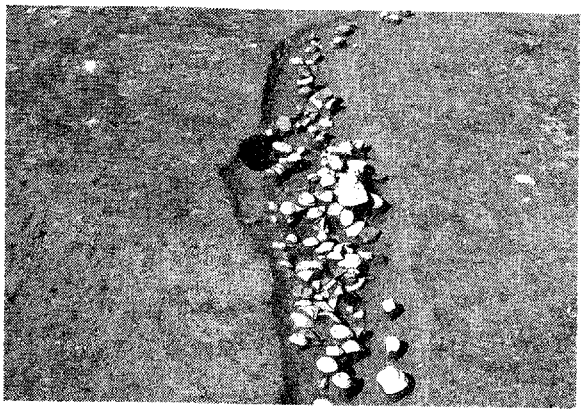
ＳＤ０４は調査区の中央東部で一部を検出した北北西から南南西に延びる溝である。落込みＳＷ０１に流れ込んでいる。12世紀中頃の山茶碗が出土している。

溝ＳＤ０５（水田部１区SD01）

ＳＤ０５は調査区の中央東部で検出した東北東に流れて、落込みＳＷ０１に接続する幅約2.0mの溝である。出土遺物には山茶碗と土師器があり、13世紀初め頃埋没したものと考えられる。

溝ＳＤ０６（水田部２区SD06）

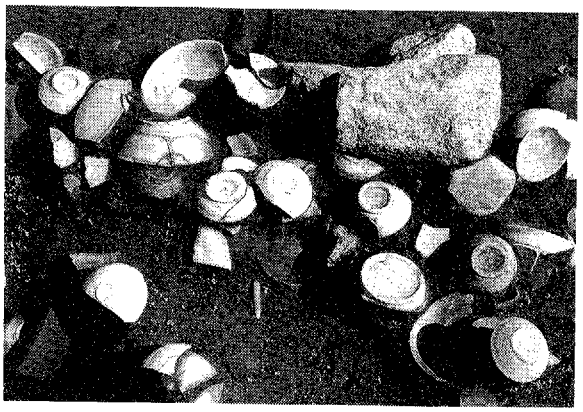
ＳＤ０６は調査区の南東部で検出した南南東に延びる浅い溝である。北端部はやや東に、南端部はやや西に屈曲している。長さは約14.8mで、幅は0.6m～0.8m・深さ0.1m～0.15mである。北側約１／３の部分を中心として山茶碗類や土師器皿、白磁皿などが底部を上にして、水平に伏せて置かれていた。何らかの土器類を使用した祭祀がこの周辺で行われたものと推定される。山茶碗類では高台の付く小碗が小皿より多くみられ、12世紀末頃の一括遺物である。



ＳＰ78　川関遺跡水田部２　SD06

溝ＳＤ０７（水田部２区SD01）

ＳＤ０７は調査区の南部で検出した西南西から東北東に直線的に延びる幹線水路である。溝の断面はＵ字状で、幅は1.5m～2.8m・深さ0.7m～1.0mである。底部の比高差は西端部が東端部より約0.8m高くなっており、藤倉城側の谷部からの排水溝だと考えられる。山茶碗類や白磁碗、青磁碗・合子蓋などが出土しており、14世紀前半頃埋没している。



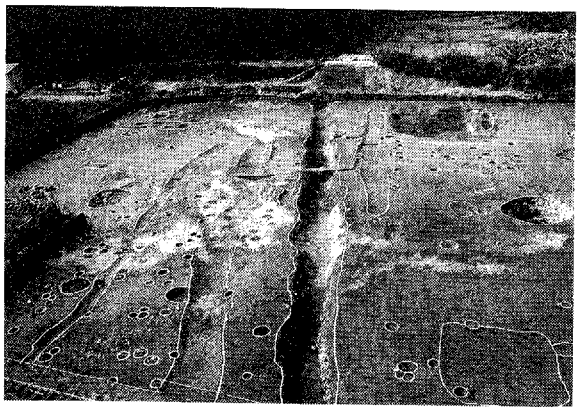
ＳＰ79　川関遺跡　SD06土器出土状況

溝ＳＤ０８（水田部２区SD02）

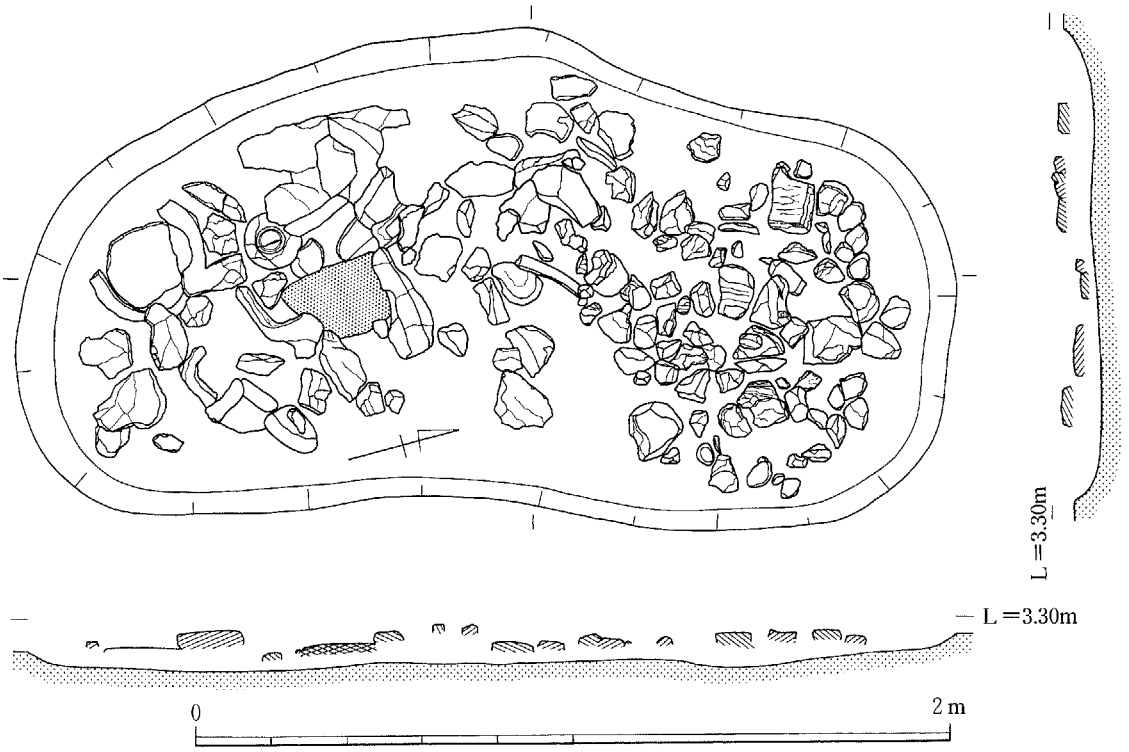
ＳＤ０８はＳＤ０７と約2.4mの間隔で南側を平行に延びる浅い溝である。幅は1.5m～2.0m・深さ0.1m～0.2mで、西端で途切れている。底部の比高差は西端部が東端部より約0.1m高くなっている。山茶碗類が出土しており、13世紀初頭頃埋没している。

溝ＳＤ０９（水田部２区SD05）

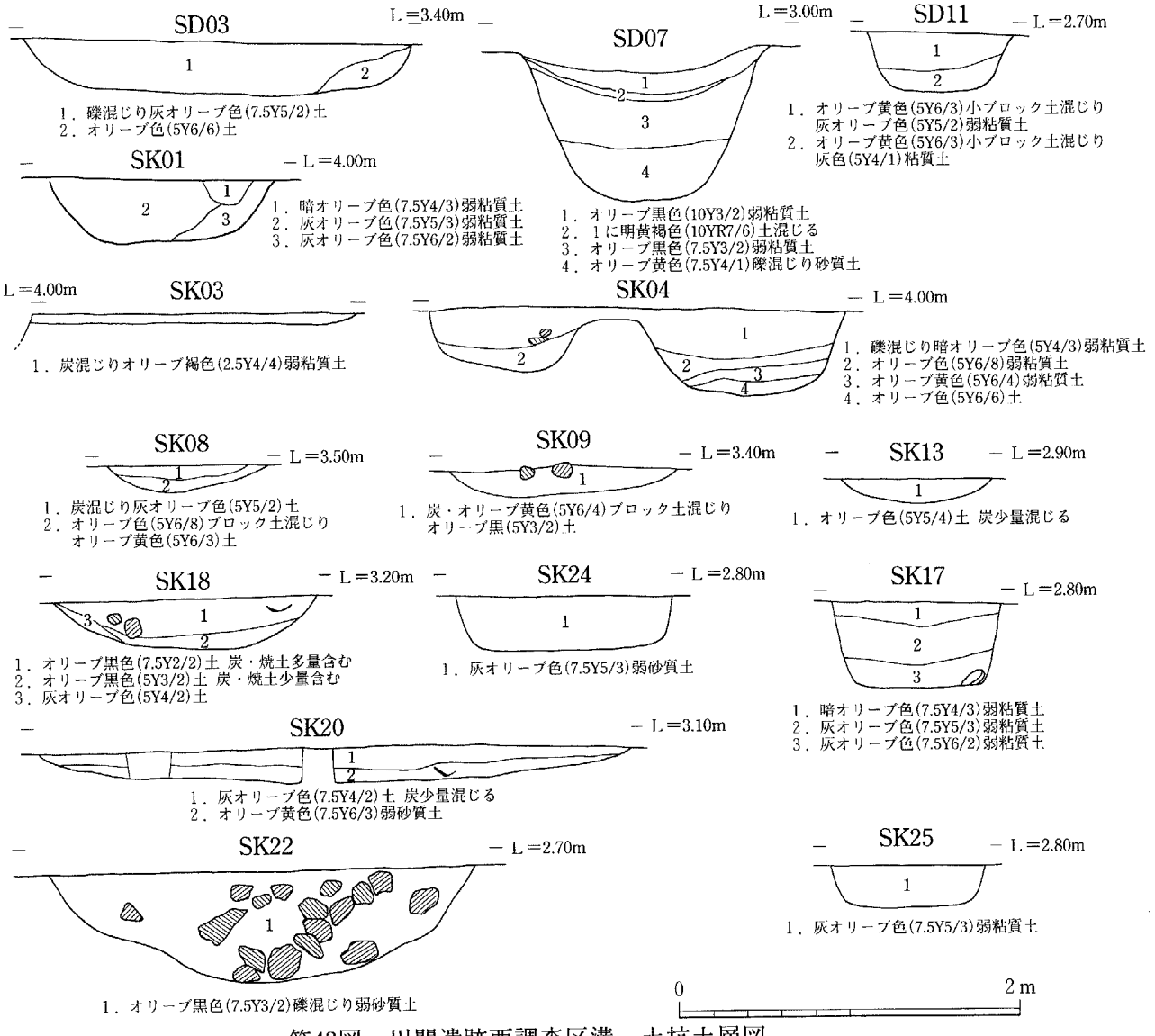
ＳＤ０９はＳＤ０７の北側に隣接して延びる浅い溝である。両端部は途切れており、長さ約19.2m、



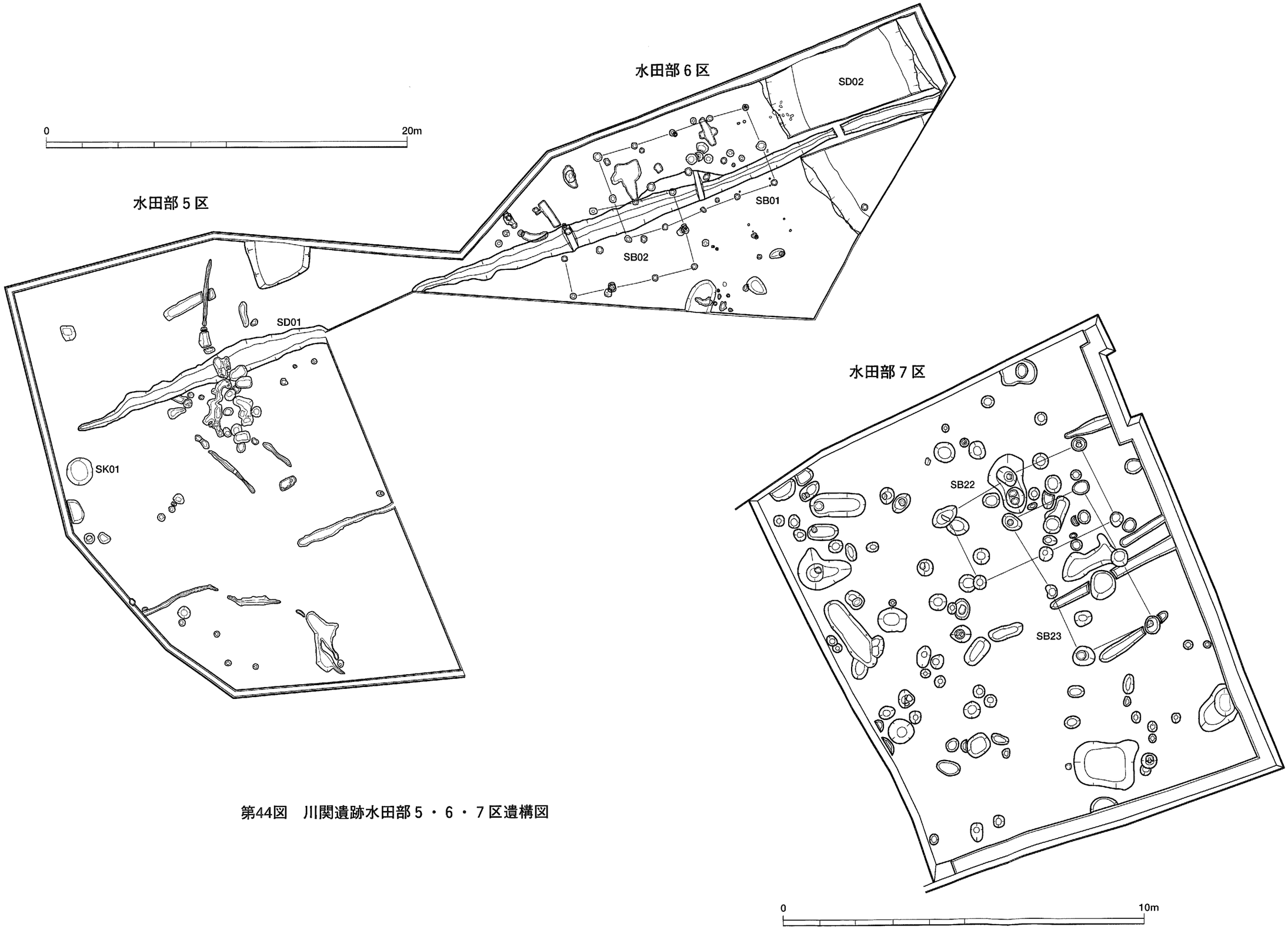
ＳＰ80　川関遺跡水田部２　SD07



第41図　川関遺跡鋳造土坑SX01



第43図　川関遺跡西調査区溝・土坑土層図



第44図　川関遺跡水田部５・６・７区遺構図

幅は0.7m～1.5m・深さ0.1m～0.15mで、東部で、細い溝によってＳＤ０７に接続している。山茶碗類が出土しており、13世紀初頭頃埋没している。

溝ＳＤ１０（水田部２区SD03）

ＳＤ１０は調査区の南部で検出した西南西から東北東にやや屈曲して延びる浅い溝で、一部途切れている。幅は東側が狭くなっており、0.3m～1.2m・深さは0.1m前後である。山茶碗類が出土しており、13世紀初頭頃埋没している。

溝ＳＤ１１（水田部２区SD08）

ＳＤ１１は調査区の南西部で検出した南北方向にやや屈曲して延びる浅い溝である。幅は0.6m～1.0m・深さは0.1m～0.3m前後である。山茶碗類と土師器皿が出土しており、13世紀初頭頃埋没している。

土坑ＳＫ０１（水田部５区SK01）

ＳＫ０１は調査区北西端で検出した直径約1.5mの円形の土坑である。深さは約0.35mで、底部は平坦である。埋土は暗黄灰色（2.5Y５／２）土である。

土坑ＳＫ０２（水田部１区SK16）

ＳＫ０２は調査区北東部で検出した長楕円形の土坑である。長軸1.5m・短軸0.6m・深さは0.15mで、底部は平坦である。13世紀初頭頃の山茶碗が少量出土した。

土坑ＳＫ０３・０４・０５・０６（水田部１区SK07・08・09・10）

ＳＫ０３・０４・０５・０６は溜桝ＳＦ０１の北西側で、まとまって検出された土坑群である。ＳＫ０３は長さ2.0m・幅1.5m・深さ0.05mの隅丸方形の浅い土坑に長さ1.7m・幅約0.4mの突出部が取り付いている。埋土は炭混じりオリーブ褐色（2.5Y４／４）弱粘質土で、底部は部分的に熱を受けて赤く変色していた。ＳＫ０４は長さ2.6m・幅1.6mの隅丸方形の土坑で、北西端と南東端が円形土坑状に一段低くなっている。ＳＫ０６は長楕円形の土坑で長軸1.65m・短軸0.7m・深さ0.45mで、北端部が一段低くなっている。これらの土坑群は何らかの鋳造施設であった可能性もある。

土坑ＳＫ０７（水田部１区SK05）

ＳＫ０７は調査区中央部で検出した隅丸方形の土坑である。長さ1.0m・幅0.9m・深さは0.5mで、断面はＵ字状を呈する。埋土は上層がオリーブ黄色（7.5Y６／３）弱粘質土で、下層が灰オリーブ色（7.5Y５／２）弱粘質土である。13世紀初頭頃の山茶碗類が出土した。

土坑ＳＫ０８（水田部１区SK04）

ＳＫ０８は調査区中央部で検出した隅丸方形の土坑である。長さ1.4m・幅0.96m・深さは0.25mで、断面は浅いＵ字状を呈する。埋土は上層が炭混じり灰オリーブ色（５Ｙ５／２）土で、下層がオリーブ色（５Ｙ６／８）ブロック土混じりオリーブ黄色（５Ｙ６／３）土である。13世紀初頭頃の山茶碗類が出土した。

土坑ＳＫ０９（水田部１区SK03）

ＳＫ０９は調査区中央部で検出した隅丸方形の土坑である。長さ1.32m・幅0.74m・深さは0.15mで、断面は浅いＵ字状を呈する。埋土は炭とオリーブ黄色（５Ｙ６／４）ブロック土混じりオリーブ黒色

（５Ｙ３／２）土である。13世紀前半頃の山茶碗類、土師器、常滑甕、青磁碗が出土した。

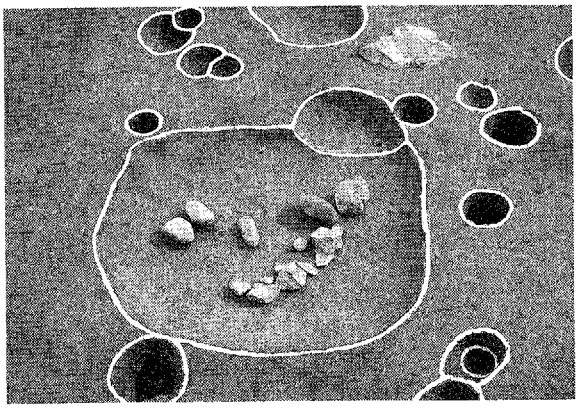
土坑ＳＫ１０（水田部２区SK10）

ＳＫ１０は調査区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.9m・短軸1.76m・深さは0.4mで、西側がやや深くなっている。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器皿、白磁皿が出土した。

土坑ＳＫ１１・１２（水田部２区SK09・24）

ＳＫ１１は調査区中央部で検出した隅丸方形の土坑である。長さ2.3m・幅2.0m・深さは0.2mで、底部は平坦である。10cm～25cm大の川原石と加工痕のみられる台石が中央付近に置かれていた。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類、土師器甕、青磁碗が出土した。

ＳＫ１２はＳＫ１１の南辺部に取り付く、直径約0.8m・深さ約0.15mの半円状の土坑である。山茶碗類が出土している。



ＳＰ81　川関遺跡水田部２　SK11・12

土坑ＳＫ１３（水田部２区SK11）

ＳＫ１３はＳＫ１１の南側で検出した楕円形の土坑である。長軸1.0m・短軸0.8m・深さは0.15mである。断面は浅いＵ字状で、埋土は炭混じりのオリーブ色（５Ｙ５／４）土である。山茶碗類と土師器皿が出土した。

土坑ＳＫ１４（水田部２区SK31）

ＳＫ１４は調査区中央東側で検出した楕円形の土坑である。長軸0.6m・短軸0.5m・深さは0.4mである。12世紀末頃を下限とする山茶碗類と瓦器椀、土師器皿、白磁、青磁が出土した。

土坑ＳＫ１５（水田部２区SK29）

ＳＫ１５は調査区中央部で検出した直径0.66m・深さ0.25mの円形土坑である。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と土師器皿、白磁が出土した。

土坑ＳＫ１６（水田部２区SK28）

ＳＫ１６は調査区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸0.72m・短軸0.64m・深さ0.25mである。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と土師器皿出土した。

土坑ＳＫ１７（水田部２区SK37）

ＳＫ１７は調査区中央部で検出した隅丸方形の土坑である。長さ1.14m・幅1.05m・深さは0.5mである。12世紀末頃を下限とする山茶碗類と瓦器椀、土師器皿、白磁が出土した。

土坑ＳＫ１８（水田部２区SK04）

ＳＫ１８は調査区中央東部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.76m・短軸1.05m・深さは0.3mである。12世紀末頃を下限とする山茶碗類と瓦器椀、土師器皿、白磁が出土した。

土坑ＳＫ１９（水田部２区SK30）

ＳＫ１９は調査区中央東部で検出した長楕円形の土坑である。長軸1.6m・短軸0.62m・深さは0.1m

である。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と土師器皿が出土した。

土坑ＳＫ２０（水田部２区SK02）

ＳＫ２０は調査区中央東部で検出した一辺約3.6m隅丸正方形の土坑である。深さは約0.15mで、底部は平坦であるが、壁の立ち上がりは緩やかで、柱穴がみられないことから、竪穴住居である可能性は低い。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類と土師器皿、白磁が出土した。

土坑ＳＫ２１（水田部２区SK03）

ＳＫ２１は調査区南東部で検出した楕円形の土坑で、長軸1.0m・短軸0.7m・深さは0.15mである。埋土は10cm大の礫と炭・焼土が混じる灰オリーブ色（５Ｙ４／２）弱粘質土である。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と土師器皿、白磁碗や大型の石鍋を再加工した合せ口式の蓋が出土した。

土坑ＳＫ２２（水田部２区SK01）

ＳＫ２２は調査区南部で検出した隅丸三角形の土坑で、長軸2.7m・短軸2.6m・深さは0.55mである。埋土は20cm大の角礫を多く含むオリーブ黒色（7.5Y３／２）弱粘質土である。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と瓦器、青磁碗が出土した。

土坑ＳＫ２３（水田部２区SK34）

ＳＫ２３は調査区南西部で検出した楕円形の土坑で、長軸1.6m・短軸1.24m・深さは0.55mである。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と瓦器、土師器皿が出土した。

土坑ＳＫ２４（水田部２区SK07）

ＳＫ２４は調査区南西部で検出した長方形の土坑で、長辺1.46m・短辺1.12m・深さは0.3mである。断面は箱掘り状を呈し、埋土は灰オリーブ色（7.5Y５／３）弱粘質土である。遺物はみられなかった。

土坑ＳＫ２５（水田部２区SK05）

ＳＫ２５はＳＫ２３の東側に並んで検出された隅丸長方形の土坑で、長辺1.34m・短辺1.06m・深さは0.3mである。断面は箱掘り状を呈し、埋土は灰オリーブ色（7.5Y５／３）弱粘質土である。遺物はみられなかった。

土坑ＳＫ２６（水田部２区SK35）

ＳＫ２６は調査区南西部で検出した楕円形の土坑で、長軸1.6m・短軸1.12m・深さは0.4mである。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と瓦器椀が出土した。

土坑ＳＫ２７・２８・２９・３０・３１（水田部２区SK14・15・16・20・21）

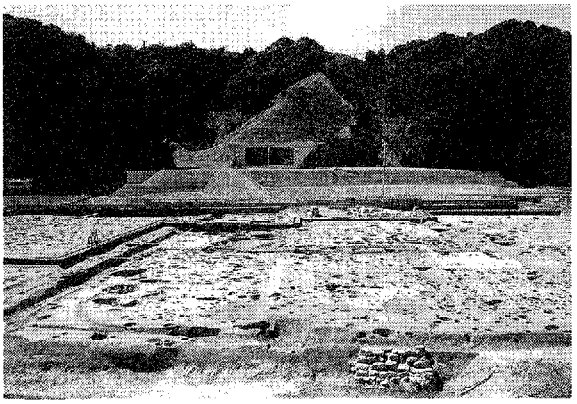
ＳＫ２７～３１は調査区南東部で検出した、直径0.6m～0.8m・深さ0.2m～0.3m前後のすり鉢状の円形土坑である。埋土はすべてオリーブ黄色（５Ｙ６／３）小ブロック土混じり黒色（7.5Y２／１）弱粘質土である。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類と土師器皿が出土した。

落込みＳＷ０１（水田部１区SD01）

ＳＷ０１は調査区の中央東部で検出した湿地状を呈する落込みである。北側は段状で、南側は緩やかに下がっている。西側からは溝ＳＤ０５が流入している。出土遺物には山茶碗と土師器があり、13世紀初頭頃埋没したものと考えられる。

第３節　川関遺跡東地区（水田部４区・８西区・８東区）

東地区は町道から東の那智川の氾濫原までの地点で、平安時代から近世にかけての、57棟以上の建物跡、16基の井戸、墓１基、那智川への通路、大規模な堀など多数の遺構と遺物を検出した。遺跡の営まれた時期は大別すると３時期で、Ⅰ期が平安時代末期から鎌倉時代前期で多数の掘立柱建物や井戸が造営された時期、Ⅱ期が室町時代後期で、区画溝によって、８つの屋敷地が形成された時期、Ⅲ期が戦国時代末期から近世初頭にかけて、南北方向の堀が造営された時期である。なお、各期の間には断絶状態がみられ、人為的・自然環境的な両側面で考察する必要性がある。



ＳＰ82　川関遺跡水田部８西全景（東から）

水田部４・８西区の掘立柱建物

建物ＳＢ２４（SB51）

ＳＢ２４は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は4.54m・3.9m、東西辺は5.66m・6.0mで、床面積は推定で約24.0㎡である。主軸方位はＮ－27°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物はなく、廃絶した時期は不明である。

建物ＳＢ２５（SB50）

ＳＢ２５は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。西辺は6.6mで、主軸方位はＮ－25°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物はなく、廃絶した時期は不明である。

建物ＳＢ２６（SB56）

ＳＢ２６は東西方向に主軸をもつ３間×３間の建物だと推定される。西辺は6.24m、北辺は6.12mである。主軸方位はＮ－21°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ２７（SB52）

ＳＢ２７は南北方向に主軸をもつ３間×４間の建物である。南辺は6.1m、西辺は8.4mで、床面積は推定で約52.3㎡である。主軸方位はＮ－27°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ２８（SB20）

ＳＢ２８は南北４間で、東西２間以上の建物である。東辺は8.56mで、主軸方位はＮ－23°－Ｗである。柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ２９（SB44）

ＳＢ２９は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は4.12m・4.04m、東西辺は6.32m・6.5mで、床面積は推定で約26.2㎡である。主軸方位はＮ－14°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、白磁碗がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ３０（SB43）

ＳＢ３０は東西４間で、南北３間以上の建物である。東西辺は6.32m・6.7m、南北辺は9.24m・9.42mで、床面積は推定で約60.7㎡である。主軸方位はＮ－11°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ３１（SB46）

ＳＢ３１は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。東辺は4.14m、南辺は6.34mで、床面積は推定で約26.2㎡である。主軸方位はＮ－８°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、黒色土器椀、土師器皿、白磁皿がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ３２（SB45）

ＳＢ３２は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は4.32m・4.16m、東西辺は6.18m・6.19mで、床面積は推定で約26.2㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。13世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ３３（SB49）

ＳＢ３３は東西方向に主軸をもつ２間×４間の建物である。東西辺は4.58m・4.5m、南北辺は8.44m・8.46mで、床面積は推定で約38.4㎡である。主軸方位はＮ－８°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、黒色土器椀、瓦器椀、土師器皿がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ３４（SB48）

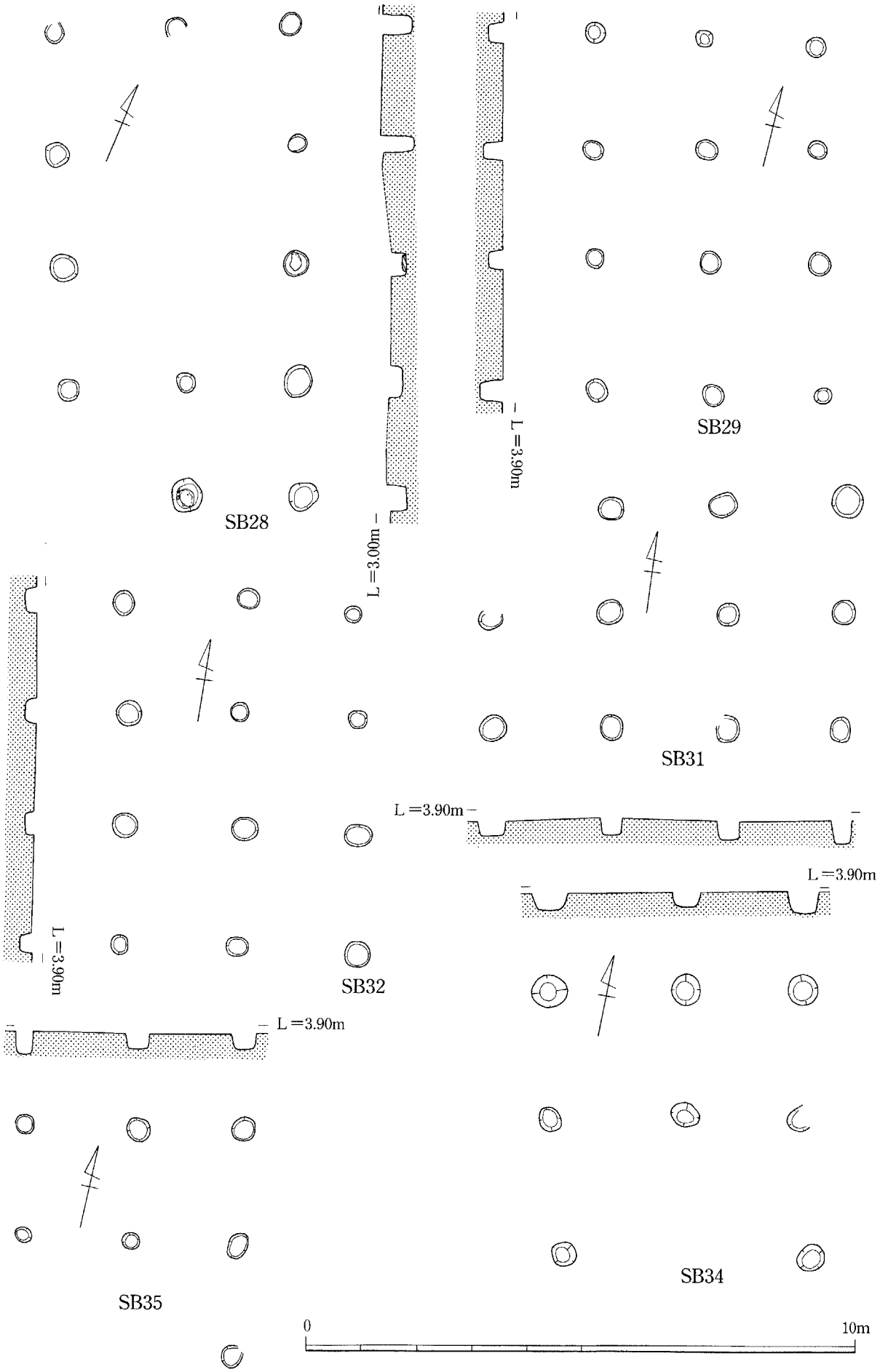
ＳＢ３４は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。南北辺は4.51m・4.64m、東西辺は4.86m・4.78mで、床面積は推定で約22.1㎡である。主軸方位はＮ－11°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には４型式新段階の山茶碗類、黒色土器椀、土師器皿がある。平安時代の12世紀後半頃に廃絶したようである。

建物ＳＢ３５（SB47）

ＳＢ３５は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。北辺は3.96m、東辺は4.1mで、床面積は推定で約16.4㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。



第45図　川関遺跡掘立柱建物SB24・25・26・27



第46図　川関遺跡掘立柱建物SB28・29・31・32・34・35



第47図　川関遺跡掘立柱建物SB30・33・38

建物ＳＢ３６（SB42）

ＳＢ３６は南北方向に主軸をもつ３間×４間の建物である。南北辺は6.84m・7.0m、東西辺は8.54m・8.28mで、床面積は推定で約58.2㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。13世紀初頭に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ３７（SB41）

ＳＢ３７は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東辺は4.24m、南辺は4.38mで、床面積は推定で約18.5㎡である。主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。12世紀末頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ３８（SB38）

ＳＢ３８は東西４間で、南北２間以上の建物である。南北辺は8.44m・8.44mで、主軸方位はＮ－11°－Ｗである。柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ３９（SB37）

ＳＢ３９は東西方向に主軸をもつ３間×５間の建物である。東西辺は6.38m・6.76m、南北辺は10.5m・10.41mで、床面積は推定で約68.7㎡である。主軸方位はＮ－８°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物であろう。



ＳＰ83　川関遺跡水田部８西北部（東から）

建物ＳＢ４０（SB39）

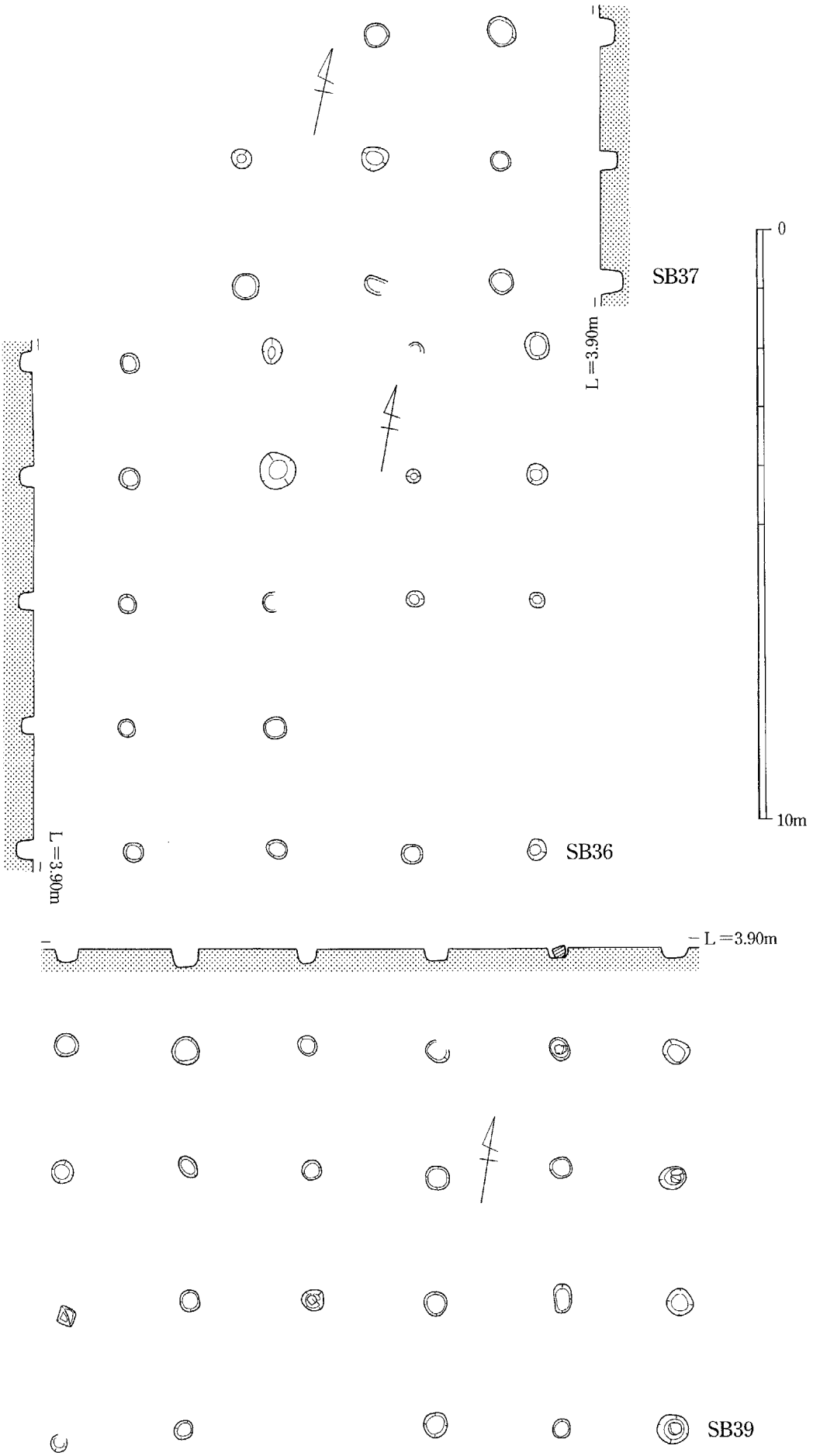
ＳＢ４０は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は4.24m・4.24m、南北辺は4.56m・4.5mで、床面積は推定で約19.2㎡である。主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４１（SB36）

ＳＢ４１は３間×３間の建物である。南北辺は6.38m・6.43m、東西辺は6.35m・6.44mで、床面積は推定で約41.0㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瀬戸美濃天目茶碗・壺がある。15世紀末～16世紀初頭頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ４２（SB40）

ＳＢ４２は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は4.08m・4.02m、南北辺は4.32m・4.3mで、床面積は推定で約17.5㎡である。主軸方位はＮ－７°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～



第48図　川関遺跡掘立柱建物SB36・37・39

35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿がある。13世紀前半頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ４３（SB33）

ＳＢ４３は東西４間で、南北２間以上の建物である。南辺は8.62mで、主軸方位はＮ－15°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿、白磁皿、青花皿がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４４（SB32）

ＳＢ４４は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。東西辺は4.24m・4.4m、南北辺は6.4m・6.46mで、床面積は推定で約27.8㎡である。主軸方位はＮ－12°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、黒色土器椀、瓦器椀、土師器皿・甕がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４５（SB34）

ＳＢ４５は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は4.42m・4.26m、南北辺は4.26m・4.39mで、床面積は約18.7㎡である。主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿・甕がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４６（SB35）

ＳＢ４６は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。南辺は4.3m、東辺は4.52mで、床面積は推定で約20.0㎡である。主軸方位はＮ－15°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、白磁皿がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４７（SB55）

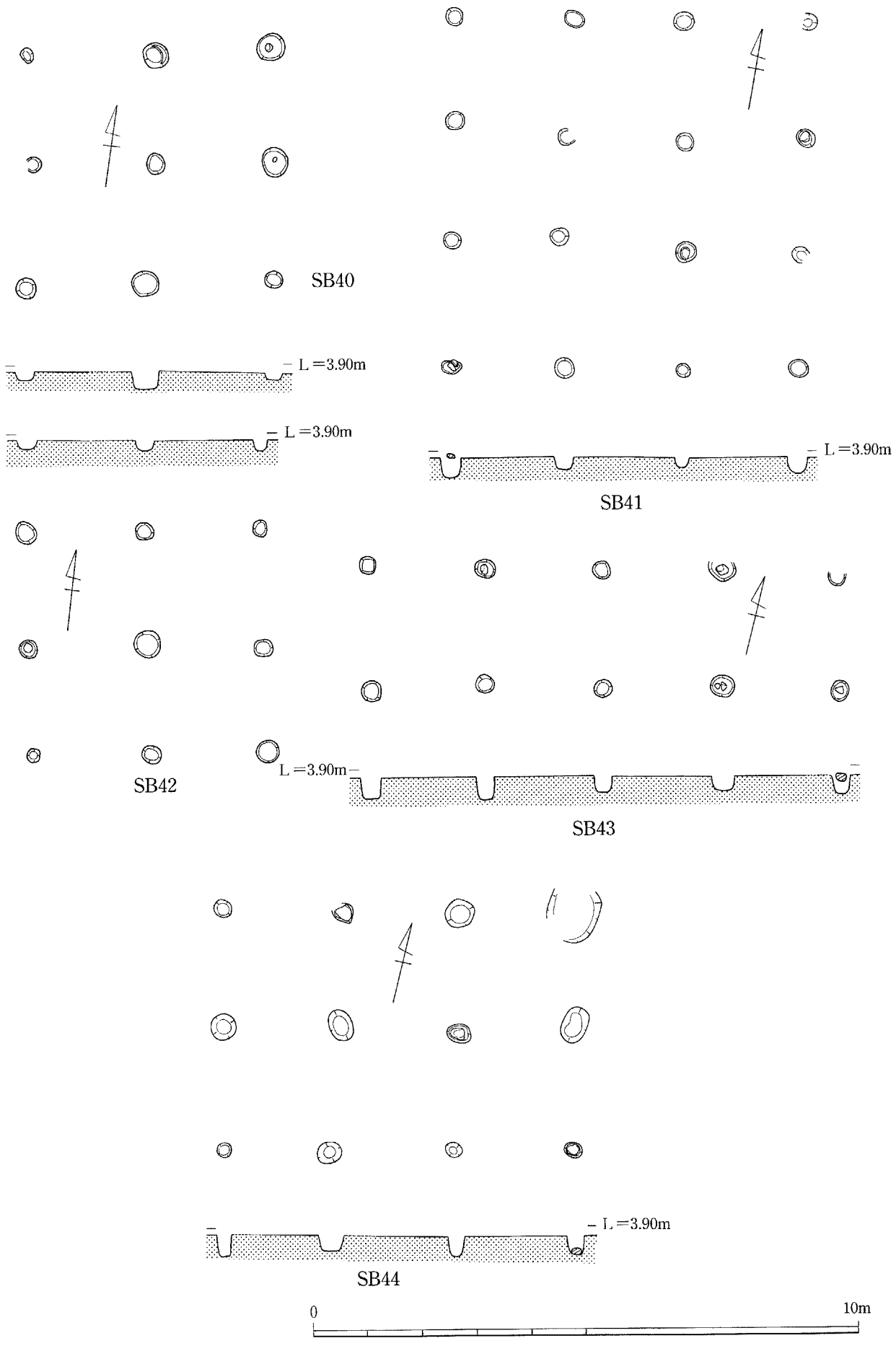
ＳＢ４７は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は4.22m・4.28m、東西辺は5.60m・5.98mで、床面積は推定で約24.6㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４８（SB24）

ＳＢ４８は南北方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南北辺は6.24m・6.32m、東西辺は6.62m・6.3mで、床面積は推定で約40.6㎡である。主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。12世紀後半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ４９（SB25）

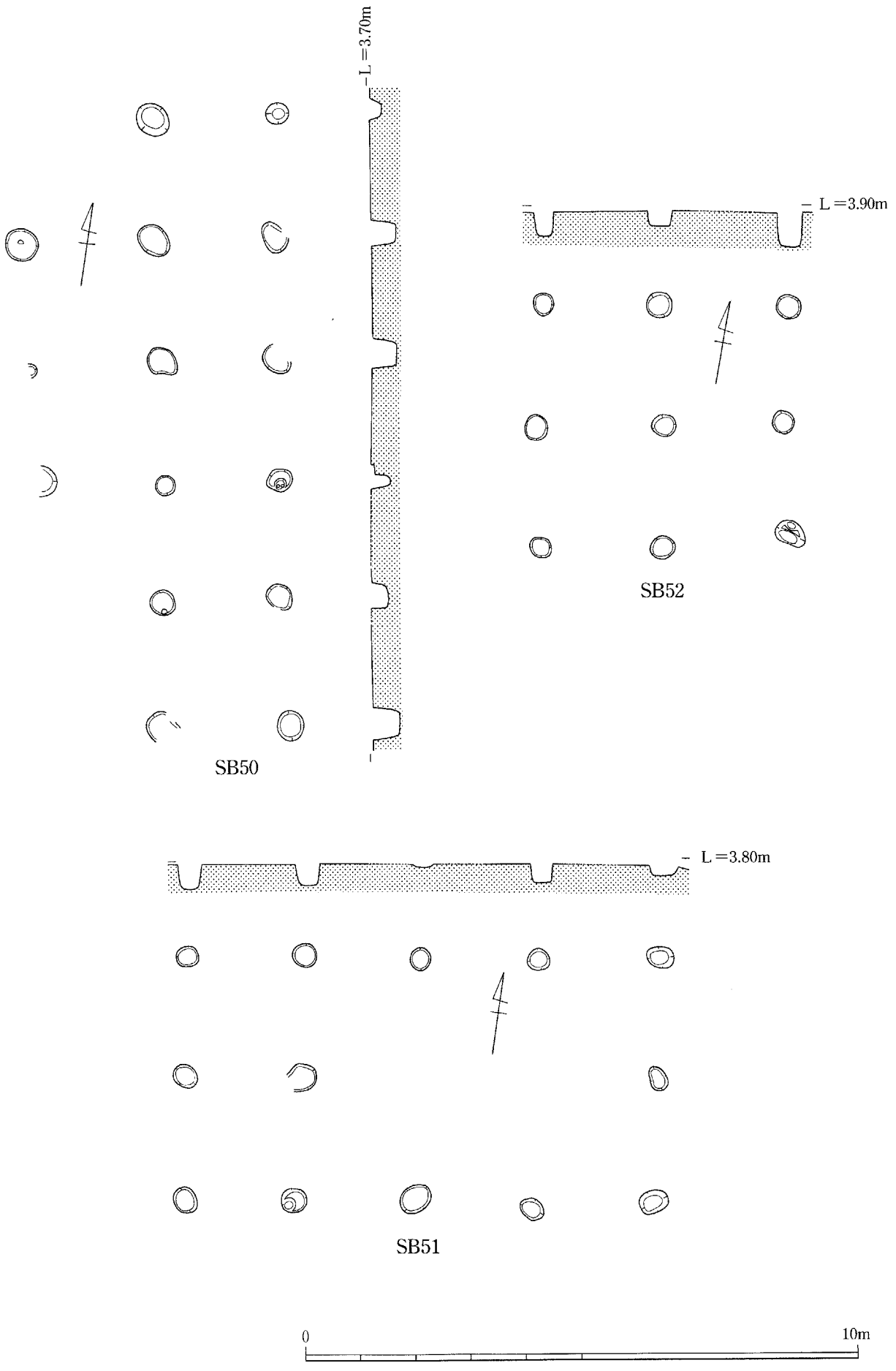
ＳＢ４９は東西方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。東西辺は5.94m・5.94m、南北辺は6.27m・6.04mで、床面積は約36.6㎡である。主軸方位はＮ－14°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前



第49図　川関遺跡掘立柱建物SB40・41・42・43・44



第50図　川関遺跡掘立柱建物SB45・46・47・48・49



第51図　川関遺跡掘立柱建物SB50・51・52

後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５０（SB26）

ＳＢ５０は南北方向に主軸をもつ南北５間で、東西２間以上の建物である。東辺は11.04mで、主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５１（SB29）

ＳＢ５１は東西方向に主軸をもつ２間×４間の建物である。東西辺は4.4m・4.36m、南北辺は8.46m・8.56mで、床面積は推定で約37.3㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５２（SB30）

ＳＢ５２は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は4.14m・4.4m、南北辺は4.48m・4.42mで、床面積は推定で約19.0㎡である。主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿、常滑甕、瀬戸美濃皿がある。室町時代後期の15世紀末～16世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５３（SB31）

ＳＢ５３は東西方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。東西辺は3.9m・4.14m、南北辺は4.58m・4.64mで、床面積は推定で約18.5㎡である。主軸方位はＮ－12°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、黒色土器椀、瓦器椀、土師器皿・甕がある。12世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５４（SB27）

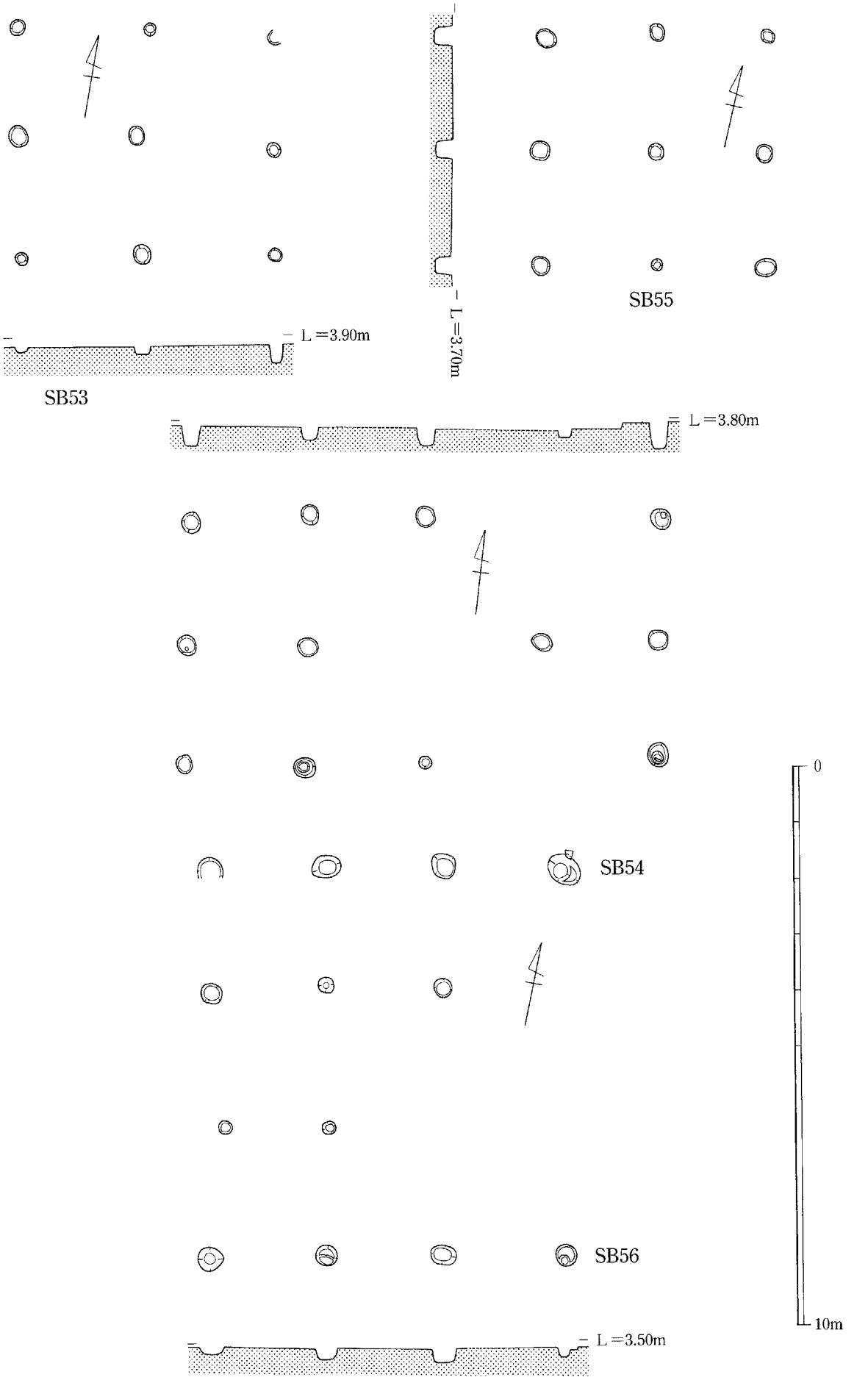
ＳＢ５４は東西方向に主軸をもつ２間×４間の建物である。東西辺は4.24m・4.3m、南北辺は8.52m・8.47mで、床面積は推定で約36.3㎡である。主軸方位はＮ－６°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、常滑甕、青磁碗がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５５（SB23）

ＳＢ５５は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。南北辺は4.04m・3.98m、東西辺は4.18m・4.1mで、床面積は推定で約16.6㎡である。主軸方位はＮ－12°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿・甕、青磁皿がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５６（SB22）

ＳＢ５６は南北方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南北辺は6.4m・6.32m、東西辺は6.95m・6.92mで、床面積は推定で約44.1㎡である。主軸方位はＮ－11°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～



第52図　川関遺跡掘立柱建物SB53・54・55・56

35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器皿、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ５７（SB21）

ＳＢ５７は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。北辺は3.44m、東辺は4.14mで、床面積は推定で約14.1㎡である。主軸方位はＮ－12°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。廃絶時期は13世紀中頃だと推定される。

建物ＳＢ５８（SB28）

ＳＢ５８は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。東辺は3.77m、南辺は6.12mで、床面積は推定で約24.8㎡である。主軸方位はＮ－８°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。廃絶時期は不明である。

建物ＳＢ５９（SB11）

ＳＢ５９は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。東西辺は4.35m・4.39m、南北辺は6.15m・6.35mで、床面積は約27.3㎡である。主軸方位はＮ－13°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。廃絶時期は不明である。

建物ＳＢ６０（SB10）

ＳＢ６０は南北方向に主軸をもつ３間×４間の建物である。南北辺は7.42m・7.3m、東西辺は10.83m・10.62mで、床面積は推定で約78.9㎡である。主軸方位はＮ－12°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿・甕がある。13世紀中葉頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ６１（SB09）

ＳＢ６１は調査区の南側に延びる東西４間以上の建物である。北辺は8.49mで、主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿・甕、常滑甕、白磁碗がある。廃絶時期は12世紀末頃であろう。

建物ＳＢ６２（SB57）

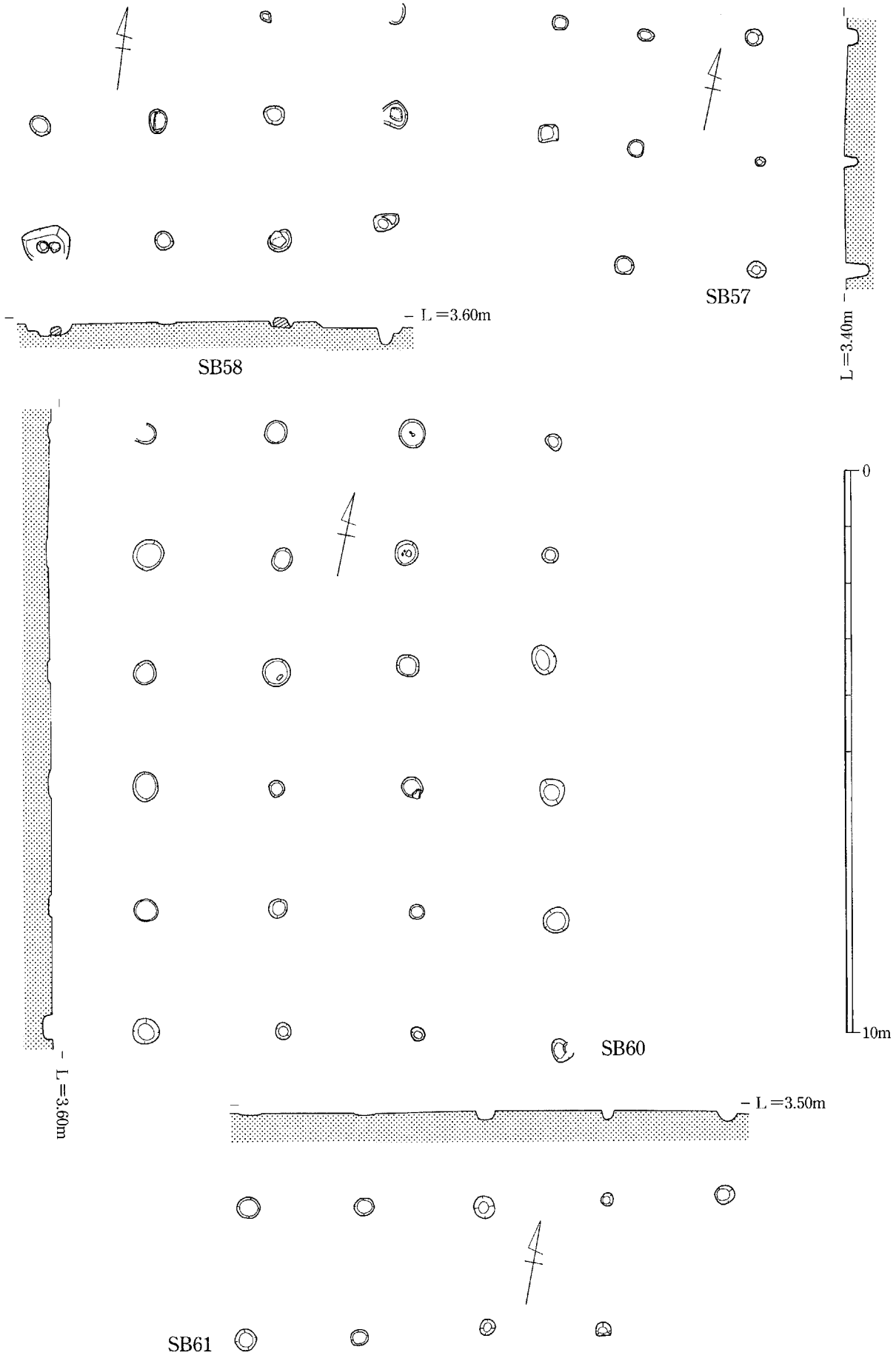
ＳＢ６２は２間×２間の建物である。北辺は4.18m、東辺は4.73mで、床面積は約19.8㎡である。主軸方位はＮ－11°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～30cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ６３（SB12）

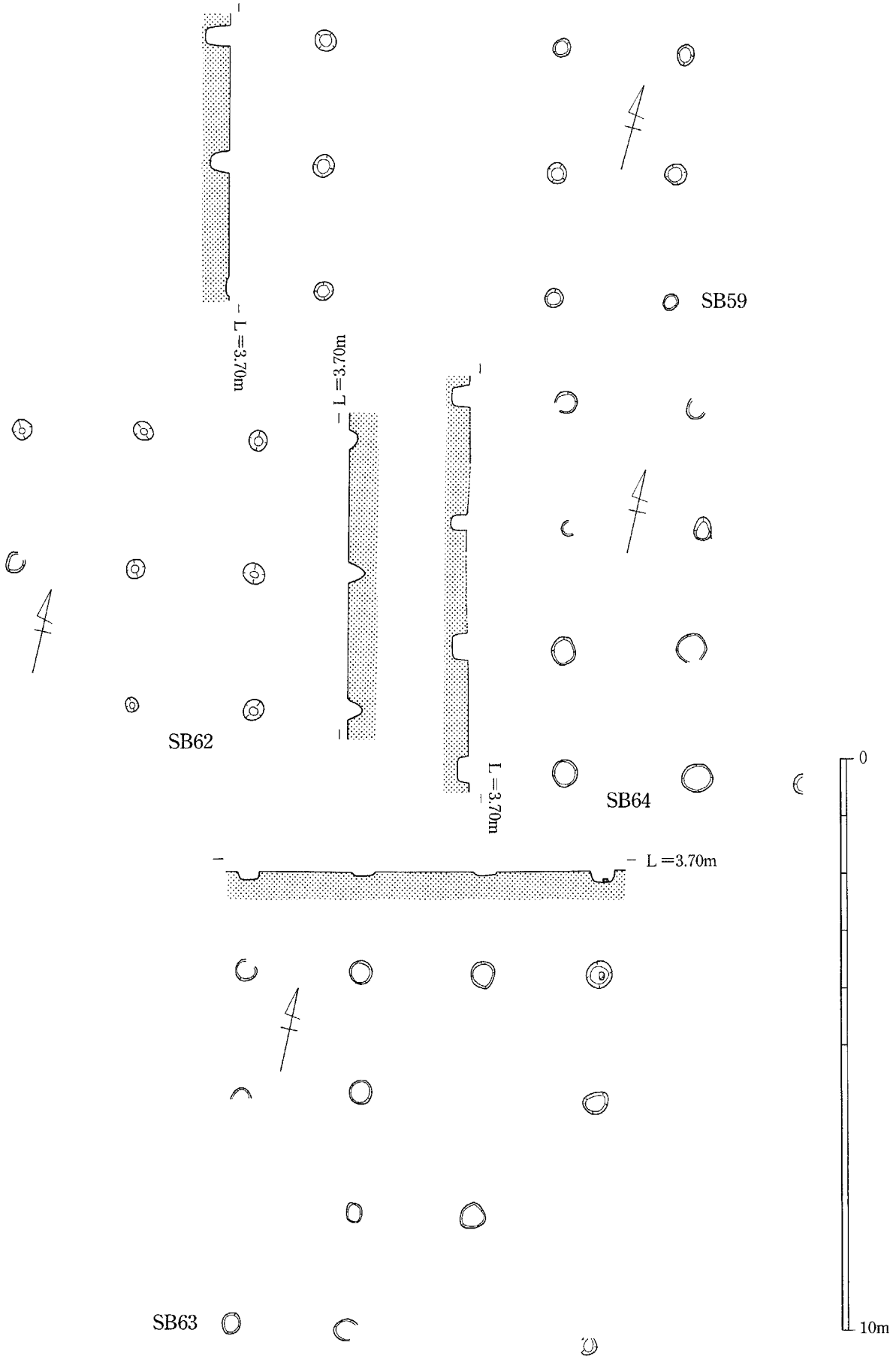
ＳＢ６３は南北方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南北辺は6.3m・6.19m、東西辺は6.48m・6.18mで、床面積は推定で約39.5㎡である。主軸方位はＮ－12°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、土師器皿・甕、白磁碗・皿がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ６４（SB14）

ＳＢ６４は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。西辺は6.52m、南辺は4.2mで、床面積



第53図　川関遺跡掘立柱建物SB57・58・60・61



第54図　川関遺跡掘立柱建物SB59・62・63・64



第55図　川関遺跡掘立柱建物SB65・66

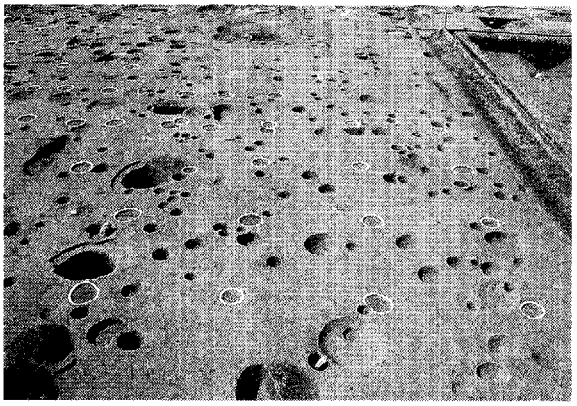
は推定で約31.2㎡である。主軸方位はN－11°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿・甕、白磁碗・壺がある。13世紀前半頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ６５（SB13）

ＳＢ６５は東西６間×南北６間以上の総柱の大型建物である。南北辺は12.58m・12.6m、東西辺は12.44m・12.6mで、床面積は約157.6㎡以上である。主軸方位はN－13°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、瓦器椀、瓦質甕、土師器皿・甕、瀬戸美濃皿、白磁碗・皿、青磁皿がある。15世紀末～16世初頭頃に廃絶した建物であろう。

建物ＳＢ６６（SB15）

ＳＢ６６は南北方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南北辺は6.32m・6.42m、東西辺は6.54m・6.46mで、床面積は約41.4㎡である。主軸方位はN－11°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿、白磁碗がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。



ＳＰ84　川関遺跡水田部８西　SB66

建物ＳＢ６７（SB17）

ＳＢ６７は南北方向に主軸をもつ４間×５間の建物である。南北辺は11.23m・11.2m、東西辺は9.9m・9.79mで、床面積は推定で約110.5㎡である。主軸方位はN－９°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器甕がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ６８（SB16）

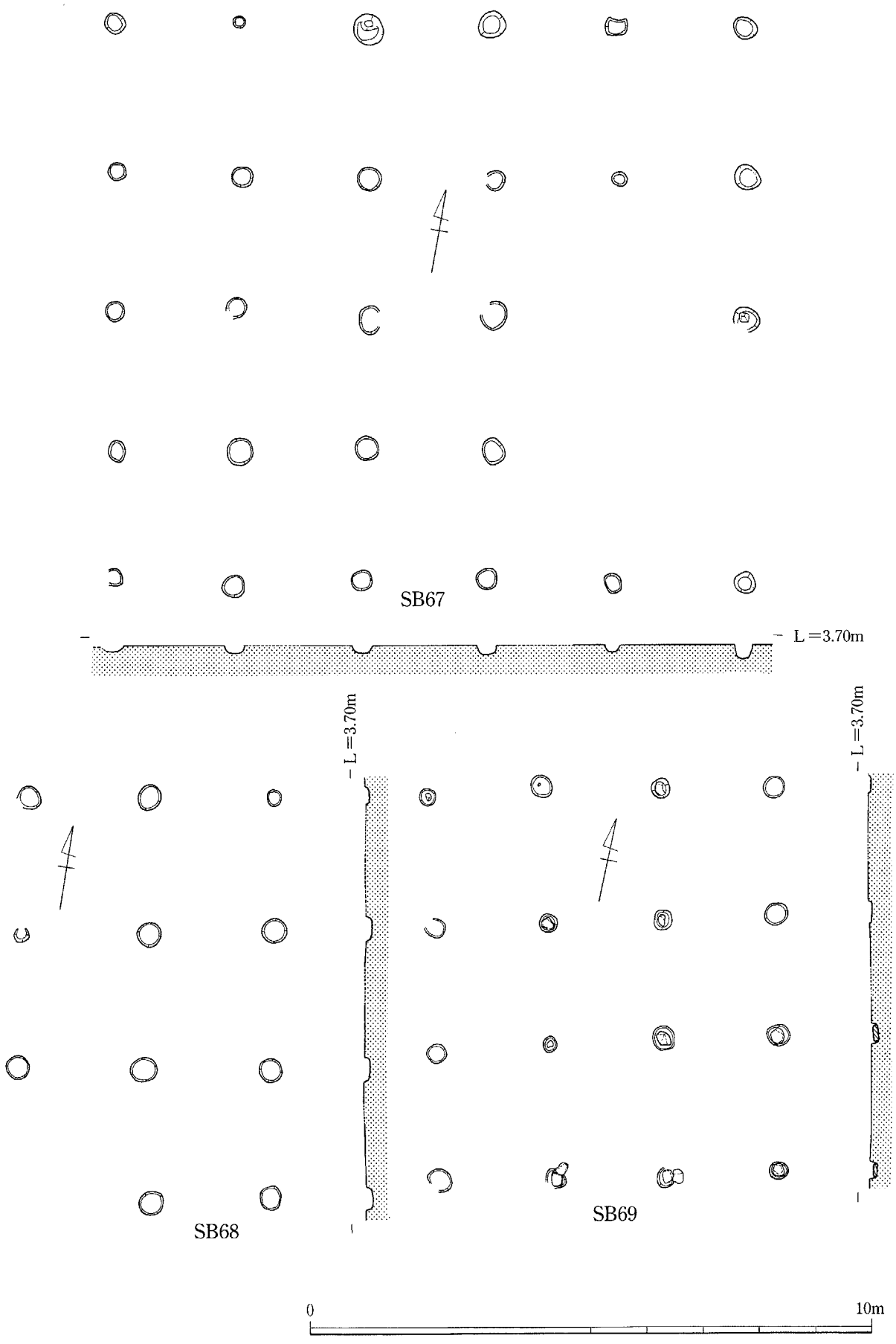
ＳＢ６８は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。東辺は7.11m、北辺は4.34mで、床面積は推定で約30.5㎡である。主軸方位はN－８°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物は無く、廃絶時期は不明である。

建物ＳＢ６９（SB18）

ＳＢ６９は南北方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南北辺は6.04m・6.18m、東西辺は6.76m・6.8mで、床面積は約41.4㎡である。主軸方位はN－13°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７０（SB19）

ＳＢ７０は南北方向に主軸をもつ東西３間で、南北６間以上の建物である。南辺は6.4m、西辺は12.62mで、床面積は推定で約81.6㎡以上である。主軸方位はN－15°－Wで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。山茶碗類が出土しており、13世紀前半頃に廃絶した建物であろう。

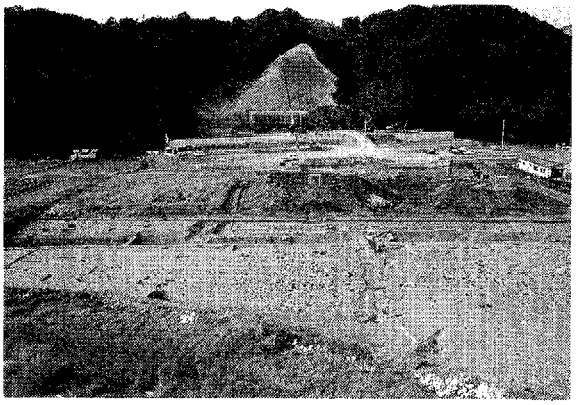


第56図　川関遺跡掘立柱建物SB67・68・69

水田部８東区の掘立柱建物

建物ＳＢ７１（SB08）

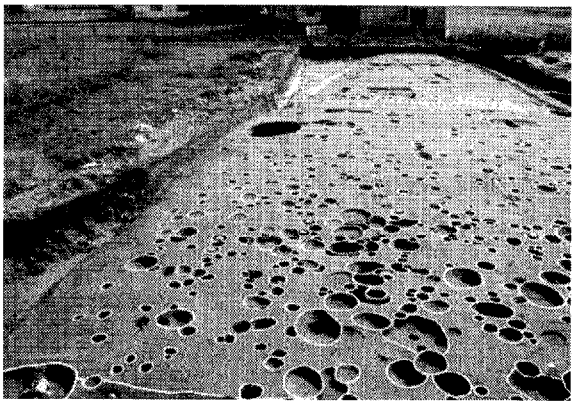
ＳＢ７１は調査区の北側に延びる２間×４間以上の建物である。北辺は8.06mで、主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器甕がある。12世紀中葉頃に廃絶した建物だと推定される。



ＳＰ85　川関遺跡水田部８東全景（東から）

建物ＳＢ７２（SB07）

ＳＢ７２は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は4.16m・4.18m、東西辺は6.04m・6.04mで、床面積は推定で約25.2㎡である。主軸方位はＮ－６°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿、白磁皿がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。



ＳＰ86　川関遺跡水田部８東全景（北から）

建物ＳＢ７３（SB53）

ＳＢ７３は南北方向に主軸をもつ２間×２間の建物である。南北辺は3.8m・3.86m、東西辺は3.96m・4.0mで、床面積は推定で約15.2㎡である。主軸方位はＮ－４°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。13世紀中葉頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７４（SB05）

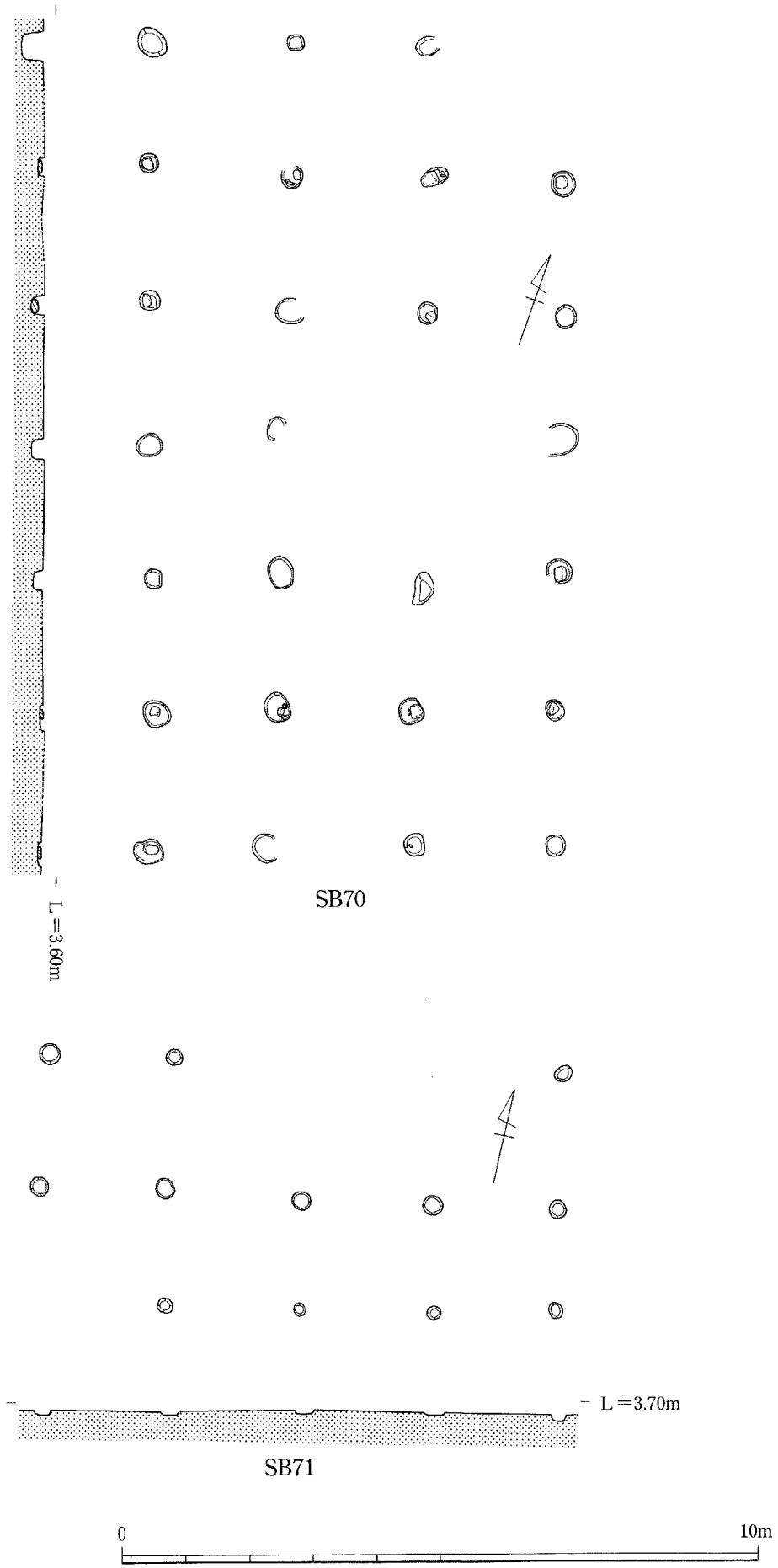
ＳＢ７４は南北方向に主軸をもつ４間×４間の建物である。南辺は8.62m、西辺は8.26mで、床面積は推定で約71.8㎡である。主軸方位はＮ－６°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、白磁碗、青磁碗がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７５（SB06）

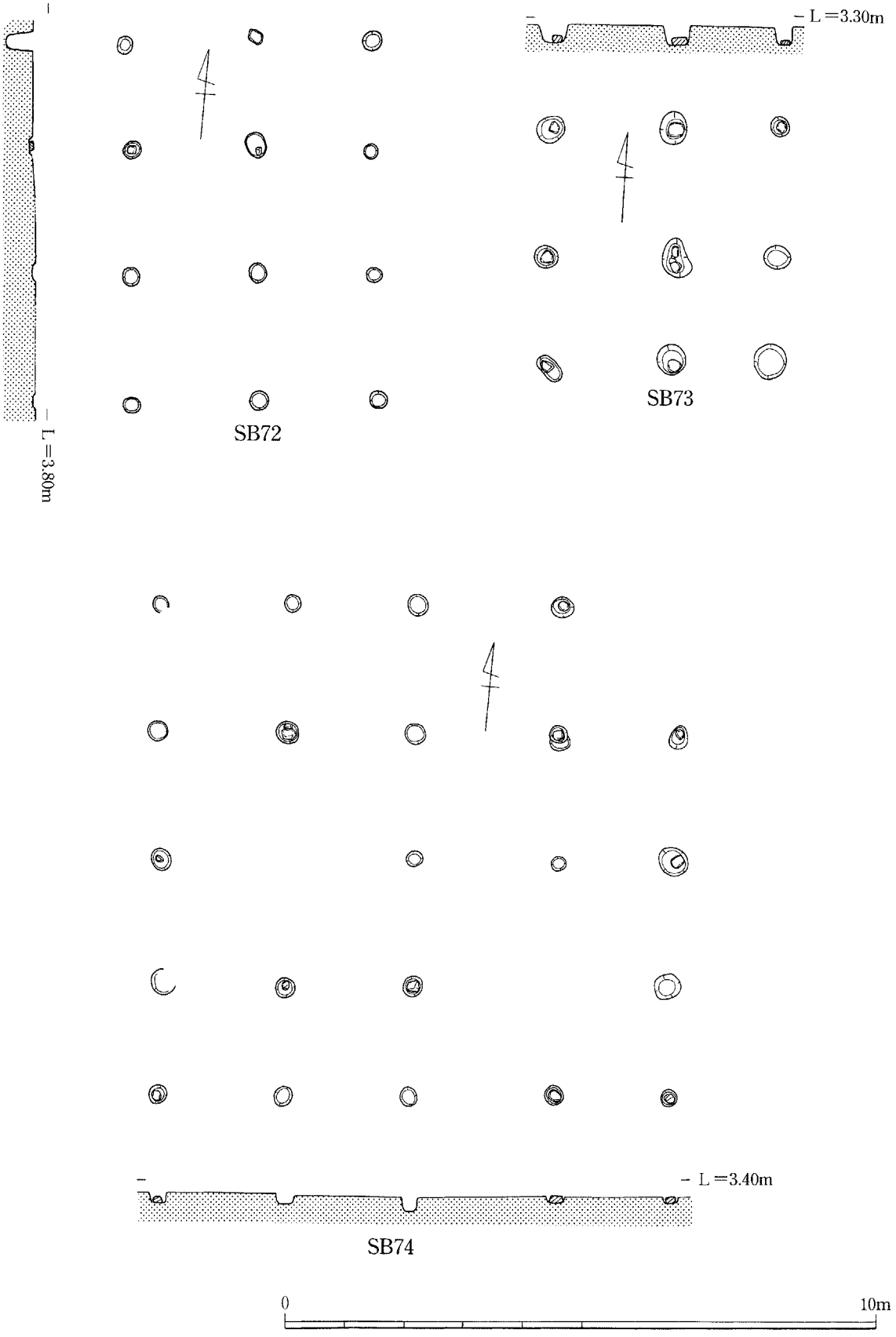
ＳＢ７５は東西方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南辺は7.33m、東辺は6.4mで、床面積は推定で約47.0㎡である。主軸方位はＮ－８°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、白磁碗、青磁碗がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７６（SB54）

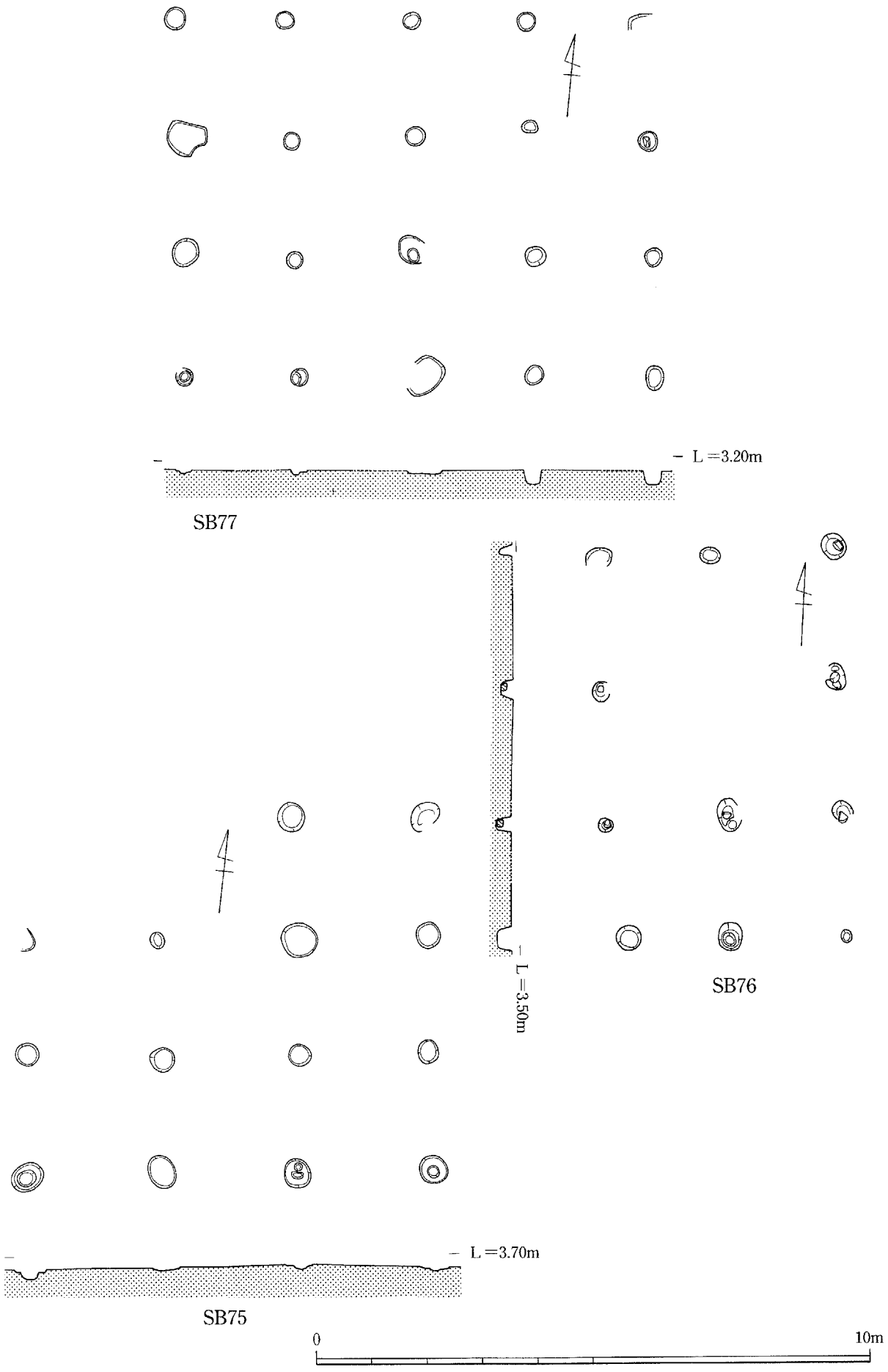
ＳＢ７６は南北方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は3.9m・4.33m、東西辺は7.06m・6.9mで、床面積は推定で約28.7㎡である。主軸方位はＮ－６°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～



第57図　川関遺跡掘立柱建物SB70・71



第58図　川関遺跡掘立柱建物SB72・73・74



第59図　川関遺跡掘立柱建物SB75・76・77

35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕がある。15世紀末頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７７（SB04）

ＳＢ７７は東西方向に主軸をもつ３間×４間の建物である。東西辺は6.42m・6.46m、南北辺は8.48m・8.34mで、床面積は約54.2㎡である。主軸方位はＮ－８°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、常滑甕、瀬戸美濃皿がある。15世紀末～16世紀初め頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７８（SB02）

ＳＢ７８は南北方向に主軸をもつ４間×４間の建物である。南北辺は8.64m・8.82m、東西辺は8.36m・8.98mで、床面積は約75.7㎡である。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿がある。13世紀初頭頃に廃絶した建物だと推定される。

建物ＳＢ７９（SB03）

ＳＢ７９は南北方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。南北辺は6.41m・6.28m、東西辺は6.44m・6.50mで、床面積は約41.1㎡である。主軸方位はＮ－９°－Ｗで、柱穴の掘方は直径20cm～35cm前後・深さ20cm～30cmである。12世紀中頃までの山茶碗と白磁が出土している。

建物ＳＢ８０（SB01）

ＳＢ８０は東西方向に主軸をもつ３間×３間の建物である。東西辺は5.64m・5.42m、南北辺は5.44m・5.55mで、床面積は約30.4㎡である。主軸方位はＮ－２°－Ｅで、川関遺跡の水田８地区の建物の中で唯一、西側に振れている。柱穴の掘方は直径30cm前後・深さ20cm～30cmである。出土遺物は無く、廃絶時期は不明である。

柵ＳＡ０２

ＳＡ０２は西調査区Ｂ区画の南東部で検出したＬ字状の柵である。掘立柱建物ＳＢ５６とほぼ平行で、西に約4.8m隔てて位置する。北辺は延長8.3mで軸方位はＥ－12°－Ｓ、西辺は延長10.6mで軸方位はＮ－11°－Ｗである。

柵ＳＡ０３

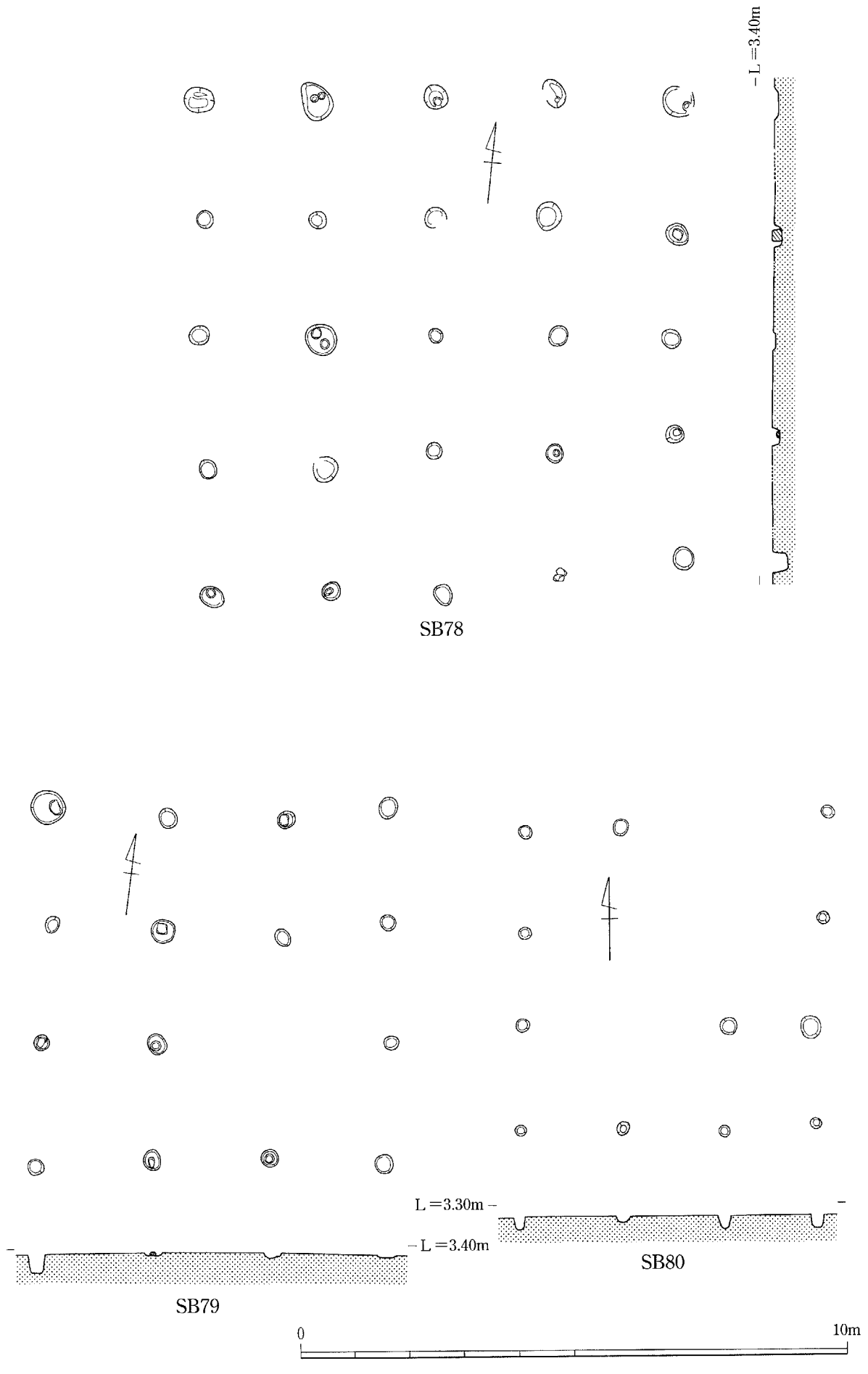
ＳＡ０３は西調査区Ｃ区画の中央部で検出した柵である。掘立柱建物ＳＢ６５の西辺とほぼ平行に、約2.6m隔てて位置する。柵北端の柱穴位置も建物北辺の位置と合致しており、ＳＢ６５に伴う柵だと考えられる。延長6.5mで軸方位はＮ－15°－Ｗである。

柵ＳＡ０４

ＳＡ０４は西調査区Ｄ区画の西端で検出した柵である。延長26.8mで軸方位はＮ－11°－Ｗである。溝ＳＤ３３と約4.0m隔ててほぼ平行に位置している。

柵ＳＡ０５

ＳＡ０５は西調査区Ｄ区画の北西部で検出した柵である。延長9.6mで軸方位はＮ－11°－Ｗである。



第60図　川関遺跡掘立柱建物SB78・79・80

柵ＳＡ０４の東側に約8.8m隔てて、ほぼ平行に位置している。

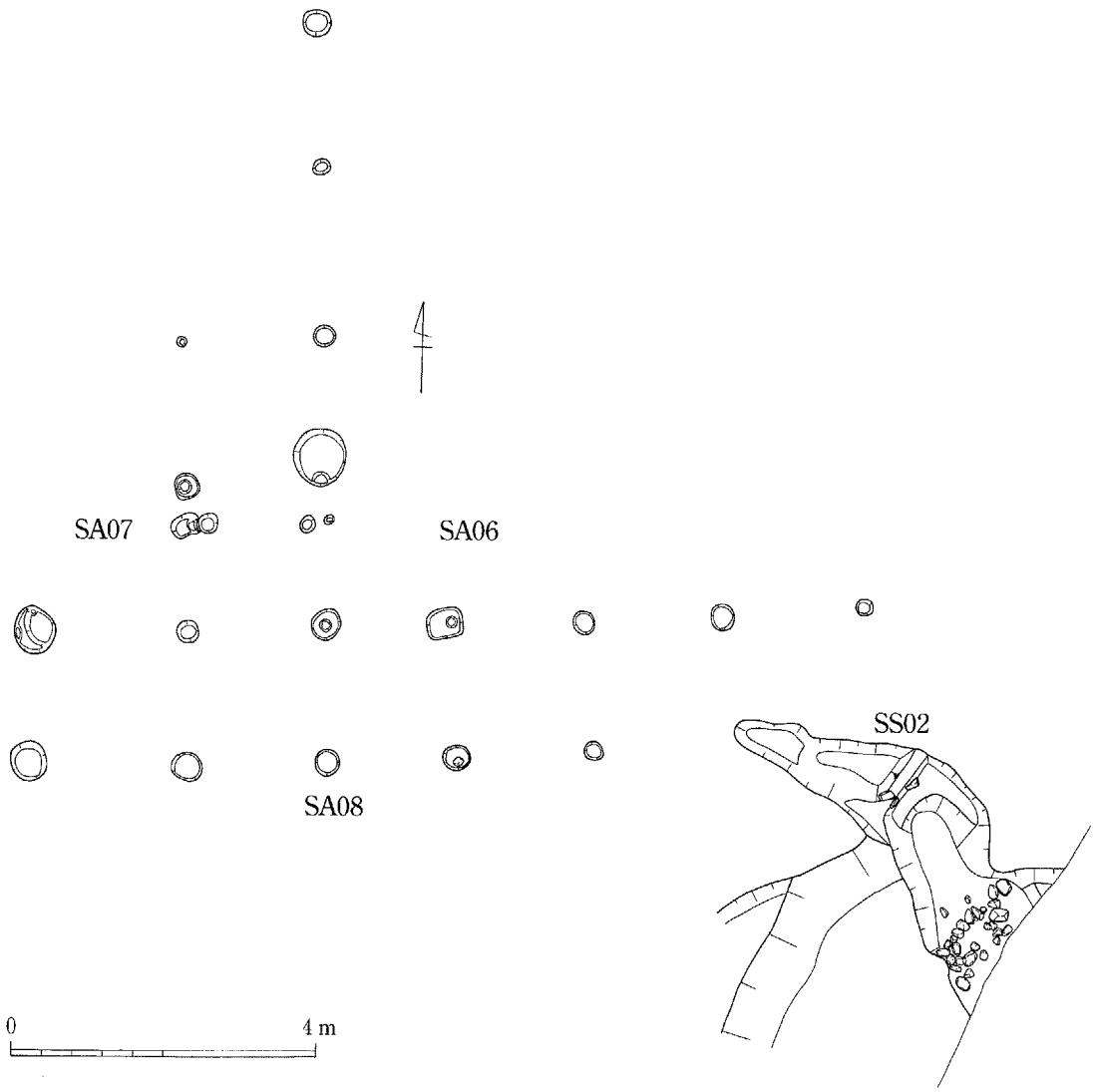
柵ＳＡ０６・０７・０８

ＳＡ０６・０７・０８は西調査区Ｄ区画の南部で検出した柵群である。３つの柵で東・西・北方向へ通じるＴ字路を形成している。それぞれの柵の柱間が一致しており、同時に機能していたものと推定される。また、ＳＡ０６とＳＡ０７の南辺と掘立柱建物ＳＢ７６の南辺が同一軸上にあるため、これらの柵はＳＢ７６に付随するものだと推定される。また、Ｔ字路の東側部には那智川へ降りていく通路ＳＳ０２が存在していて、これらは一連の施設だと推定される。規模は小さいが、那智川右岸の関（川関）の一つであった可能性もある。室町時代の那智参詣曼陀羅図に描かれた関の施設も、柵と板塀の建物１棟で構成された簡便なものである（巻頭図版３下）。

ＳＡ０６の西辺は延長9.8mで軸方位はＮ－４°－Ｗ、南辺は延長8.8mで軸方位はＥ－４°－Ｓである。

ＳＡ０７の東辺は延長4.8mで軸方位はＮ－４°－Ｗ、南辺は延長3.0mで軸方位はＥ－５°－Ｓである。

ＳＡ０８は延長9.2mで軸方位はＥ－４°－Ｓである。



第61図　川関遺跡柵SA６・７・８／通路SS02

柵ＳＡ０９

ＳＡ０９は西調査区Ｅ区画の北西部で検出したＬ字状の柵である。掘立柱建物ＳＢ７９とほぼ平行に位置する。北辺は延長11.8mで軸方位はE－10°－S、西辺は延長15.6mで軸方位はＮ－８°－Wである。

遺物実測図収録

西調査区Ａ区画のPIT出土遺物

西調査区Ｂ区画のPIT出土遺物

西調査区Ｃ区画のPIT出土遺物

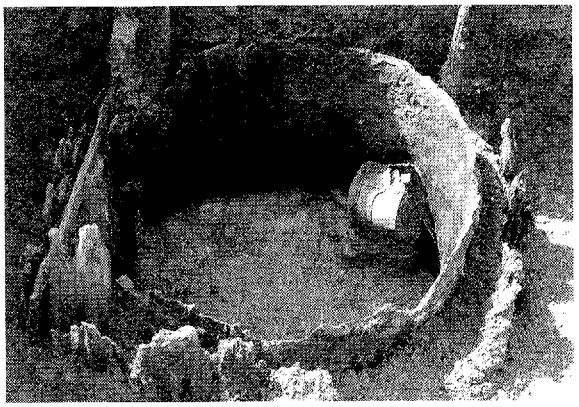
西調査区Ｄ区画のPIT出土遺物

西調査区Ｅ区画のPIT出土遺物

水田部４区・８西区の井戸

井戸ＳＥ０２（SE101）

井戸ＳＥ０２は平面が円形で、検出面で直径約2.6m・深さ1.9mを計る。底部には楠のような広葉樹の直径約1.0mの大木を刳り抜いた井筒が据えられている。その外側には、四隅に柱状の部材を立て、横板と竪板を方形に組んでいる。井筒内から直径約20cmの曲物が出土した。蔓草で巻かれ、内外面にはかすかに朱漆の痕跡がみられる。釣瓶として使用されていたらしい。東播系捏鉢、山茶碗類、常滑甕が出土し、13世紀初頭頃に廃絶している。



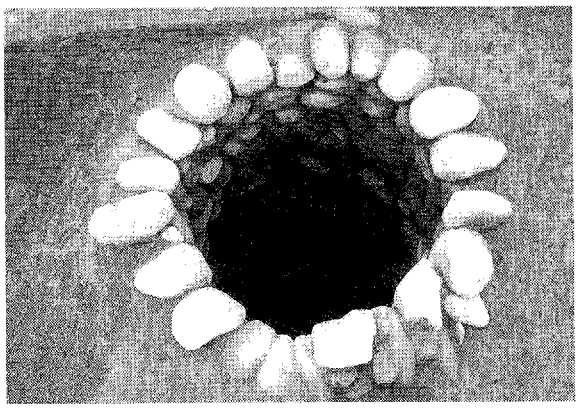
ＳＰ87　川関遺跡水田部４　SE02

井戸ＳＥ０３（SE5152）

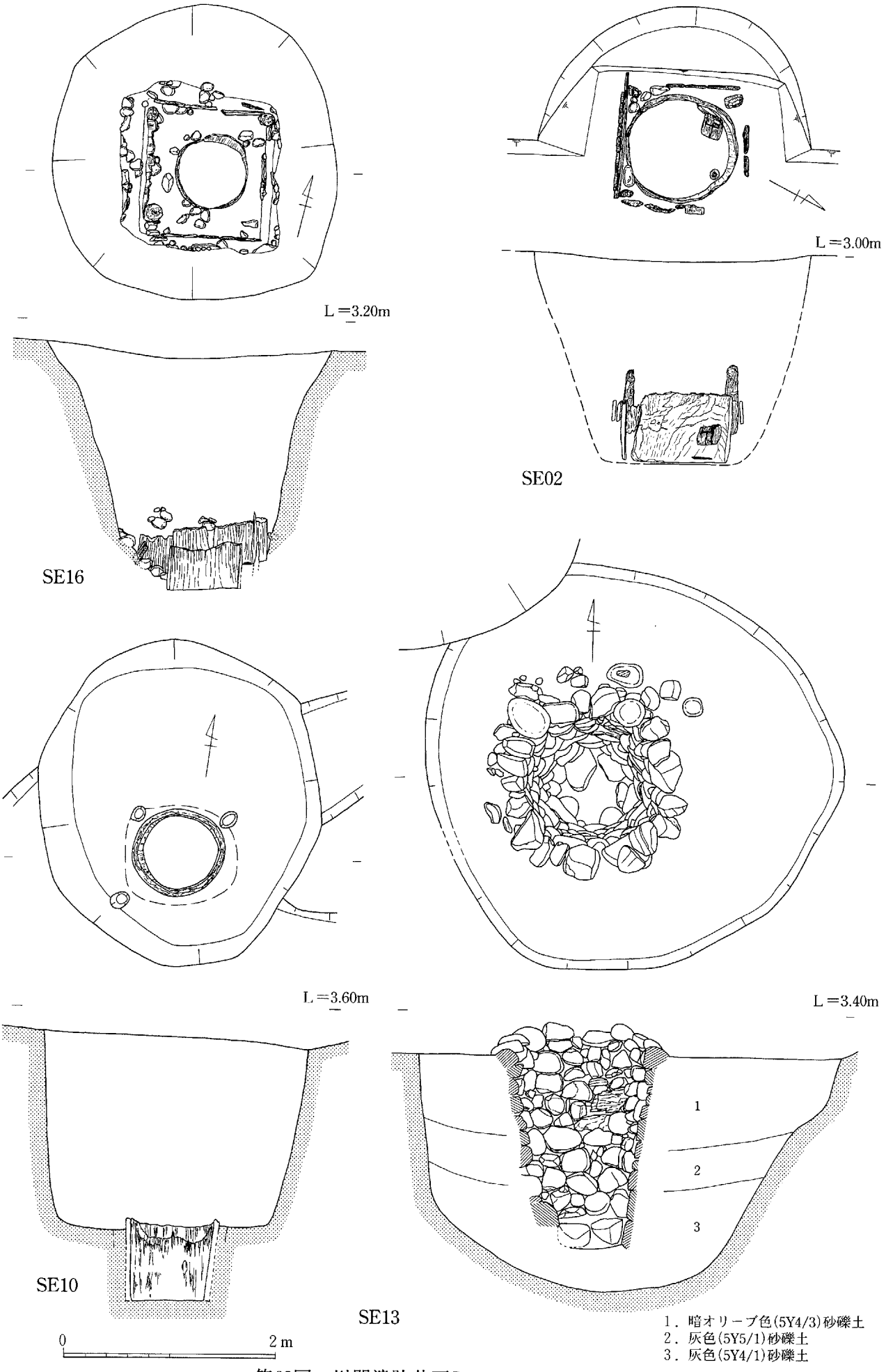
ＳＥ０３は石積みの小型円形井戸である。長辺40～50cm・短辺20～30cm前後の扁平な河原石が10段前後、楕円形状に小口積みされている。石積みはやや乱雑で、隙間が多い。上部径約1.1m・底部径約0.7m・深さ約1.8mである。出土遺物には山茶碗、土師器甕、常滑甕、備前摺鉢・甕、瀬戸美濃摺鉢、青磁碗があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ０４（SE5863）

ＳＥ０４は石積みの小型円形井戸である。長辺40～50cm・短辺20～30cm前後の扁平な河原石が10段前後、楕円形状に小口積みされている。石積みはやや乱雑で、隙間が多い。上部径約1.1m・底部径約0.7m・深さ約1.8mである。出土遺物には山茶碗鉢、土師器皿、青磁碗があり、廃絶時期は13世紀前半頃と推定される。



ＳＰ88　川関遺跡水田部８西　SE04



第62図　川関遺跡井戸SE02・10・13・16

井戸ＳＥ０５（SE2718）

ＳＥ０５は円形に石積みし、底に木枠を据えた井戸である。掘削中に崩壊して危険であったため、完掘できず、規模等は不明である。

井戸ＳＥ０６（SE2567）

ＳＥ０６は石積みの方形井戸である。人頭大の河原石を方形に積んでいたが、写真撮影後、崩落してしまい、詳細な規模等は不明である。出土遺物には山茶碗、土師器皿、常滑甕、備前摺鉢・甕、瀬戸美濃天目茶碗・皿・摺鉢・壺、白磁皿、青磁碗、青花碗があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ０７（SE2119）

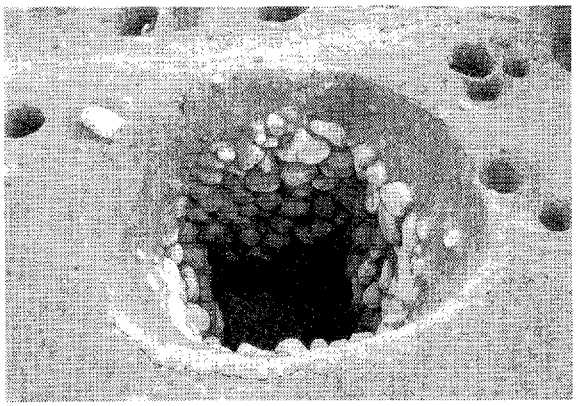
ＳＥ０７は平面がやや歪んだ円形で、径3.5m・深さ2.1ｍを測る。底部中央には広葉樹の直径約0.75mの木を刳抜いた井筒の基底部が残存していた。出土遺物には山茶碗、土師器皿・甕、常滑甕、備前甕、信楽摺鉢、白磁皿、青磁碗・皿があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ０８（SE2117）

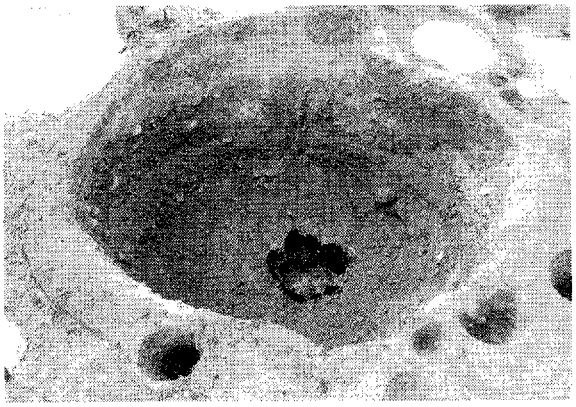
ＳＥ０８は平面がやや歪んだ楕円形で、長軸3.1m・短軸2.85m・深さ2.4mを測る。底部中央には直径約0.65m・高さ約0.4mの曲物を水平に据えて井筒としている。井筒内には釣瓶として使用されていたと考えられる直径約20.0cm・高さ約16.0cmの曲物が斜めに遺存していた。井筒の上端より20cm程上で、直径約40.0cmの曲物の底板が水平に遺存していた。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、瓦器椀、瓦質火鉢、土師器皿・椀・甕、常滑甕、白磁碗・皿、青磁碗などがあり、廃絶時期は13世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ０９（SE2125）

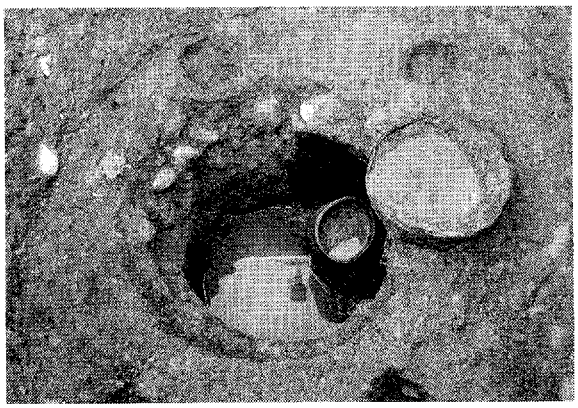
ＳＥ０９は石積みの小型井戸である。底部には長さ30～40cm程度の扁平な河原石が敷かれ、その上に粗く加工した幅15～20cmの板材が四角形に組み合わ



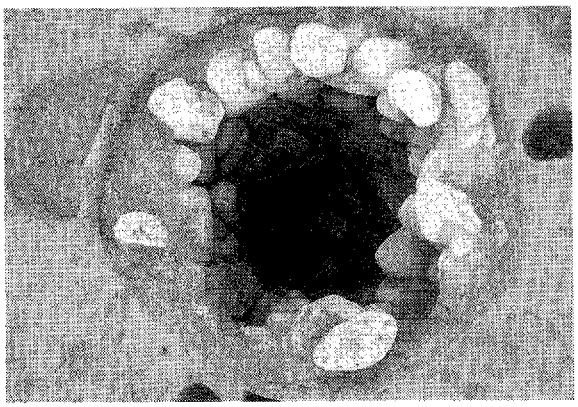
ＳＰ89　川関遺跡水田部８西　SE06



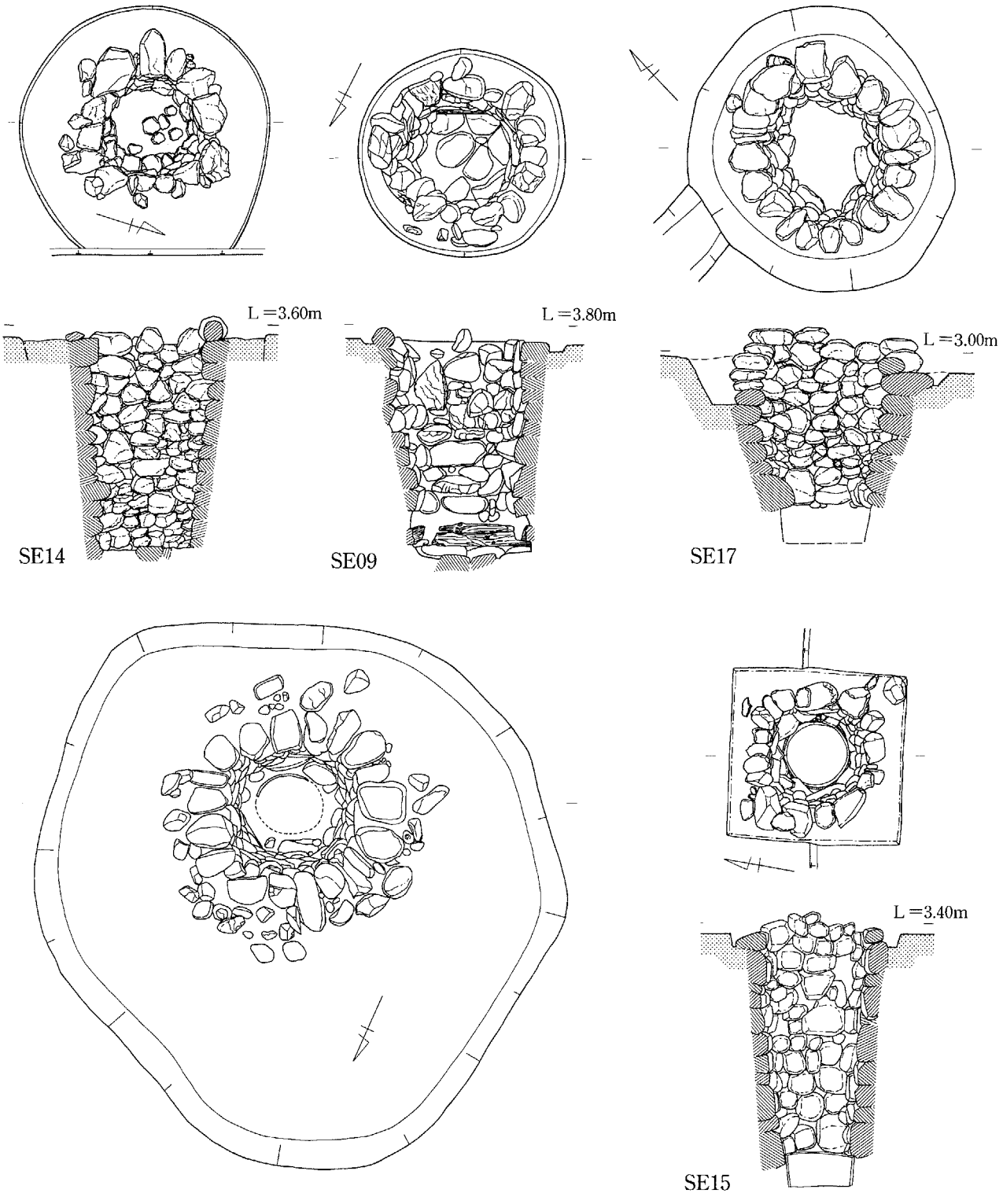
ＳＰ90　川関遺跡水田部８西　SE07



ＳＰ91　川関遺跡水田部８西　SE08



ＳＰ92　川関遺跡水田部８西　SE09



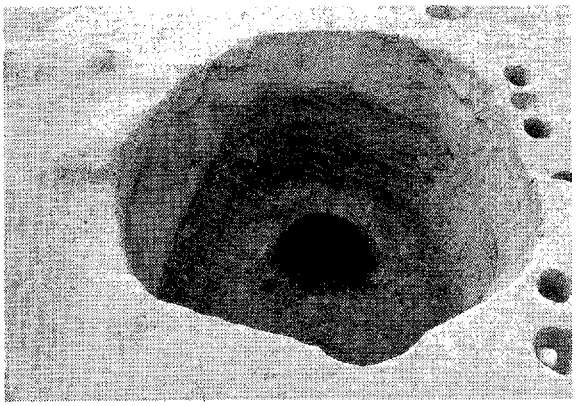
1．黄色(2.5Y7/8)弱粘質土混じり
暗灰黄色(2.5Y5/2)弱粘質土
2．暗灰黄色(2.5Y5/2)弱粘質土混じり
にぶい黄色(2.5Y6/4)砂礫土
3．黄色(2.5Y7/8)弱粘質土混じり
暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土
4．灰オリーブ色(7.5Y6/2)砂礫土
5．黄色(2.5Y7/8)弱粘質土(地山)
6．にぶい黄色(2.5Y6/4)粗砂混じり
浅黄色(2.5Y7/4)細砂
7．灰白色(5Y7/1)細砂
8．黄橙色(10YR7/5)粘質土
9．オリーブ黄色(7.5Y6/3)砂礫土
10．灰白色(7.5Y7/1)粗砂
11．明黄褐色(10YR6/8)粘土
12．暗青灰色(5B3/1)粘土

第63図　川関遺跡井戸SE03・09・14・15・17

されている。その上部には大きさ・形態ともに不揃いの河原石と山塊で取れる石が小口積みと平積みで不規則に円筒状に積まれている。石積みは乱雑で、隙間が多い。上部径約1.0m・底部の一辺約0.9m・深さ約1.8mである。出土遺物には土師器甕、備前摺鉢・甕、青磁碗・壺があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ１０（SE2113）

ＳＥ１０は平面が楕円形で、長軸3.1m・短軸2.6m・深さ2.5mを測る。底部の北側寄りには広葉樹の直径約0.9mの木を刳抜いた井筒が据えられている。その外周には、３ヶ所で杭の痕跡がみられる。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、常滑甕、白磁碗・皿があり、廃絶時期は13世紀前半頃と推定される。



ＳＰ93　川関遺跡水田部８西　SE10

井戸ＳＥ１１（SE2105）

ＳＥ１１は石積みの小型円形井戸である。河原石が部分的に遺っていたが、崩壊が著しく詳細な規模等は不明である。出土遺物には山茶碗、土師器甕、備前摺鉢・甕、瀬戸美濃天目茶碗・摺鉢・壺、白磁皿、青磁碗、青花皿があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ１２（SE2106）

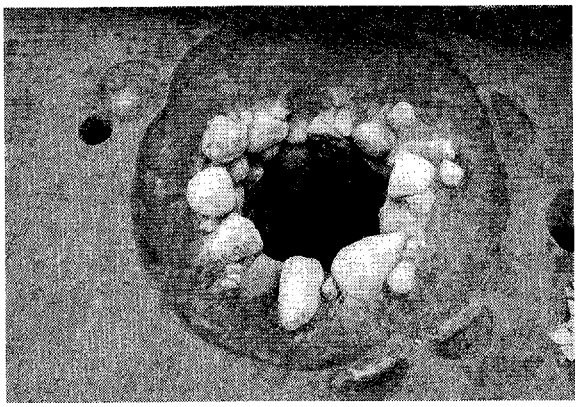
ＳＥ１２は平面が円形で、径約2.8m・深さ約2.0mを測る。底部中央には１辺10cm程の角材で1.0m四方に組まれた井戸枠基底部が部分的に遺存していた。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿・甕、白磁碗があり、廃絶時期は13世紀前半頃と推定される。

ＳＥ１３（SE2102）

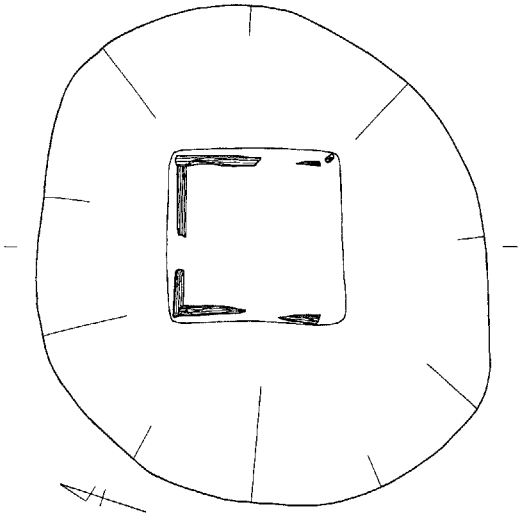
ＳＥ１３は石積みの小型円形井戸である。長辺40～50cm・短辺20～30cm前後の扁平な河原石が10段前後、楕円形状に小口積みされている。石積みはやや乱雑で、隙間が多い。上部径約1.1m・底部径約0.7m・深さ約1.8mである。出土遺物には山茶碗類、土師器皿・甕、常滑甕、白磁皿があり、廃絶時期は13世紀前半頃と推定される。

井戸ＳＥ１４（SE8154）

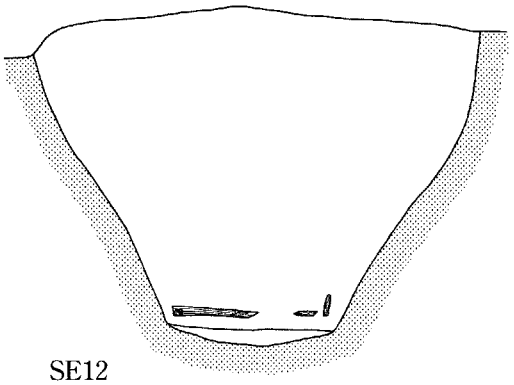
ＳＥ１４は石積みの小型円形井戸である。長辺30～40cm・短辺20～30cm・厚さ20～30cm程の河原石が12段前後、円形状に小口積みされている。石積みはやや乱雑で、隙間が多い。上部径約0.9m・底部径約0.7m・深さ約1.9mである。底部には部分的に扁平な河原石が敷かれている。出土遺物には山茶碗、土師器甕、備前摺鉢・甕、瀬戸美濃天目茶碗・皿・壺、青磁皿、青花碗があり、廃絶時期は16世紀前半



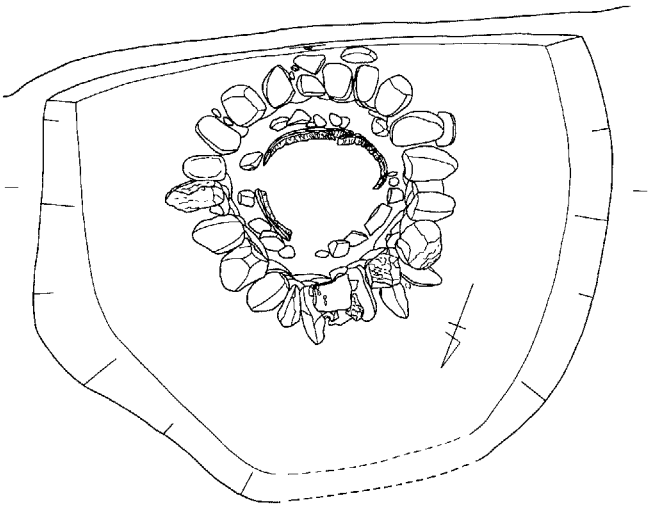
ＳＰ94　川関遺跡水田部８西　SE14



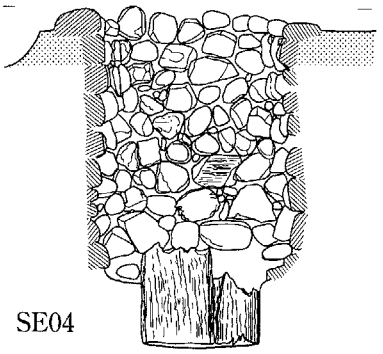
L＝3.20m



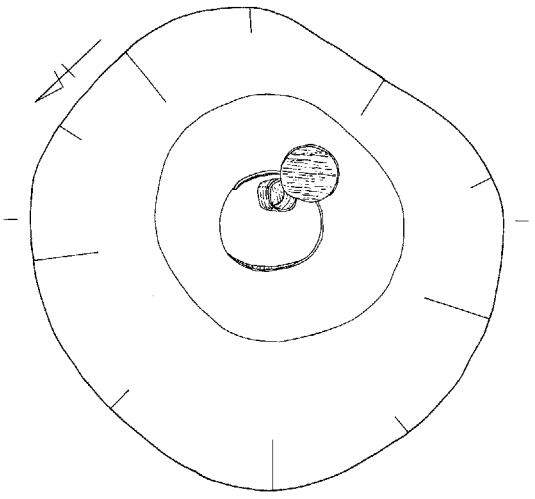
SE12



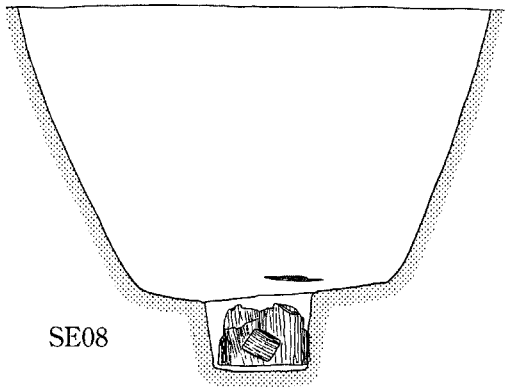
L＝3.70m



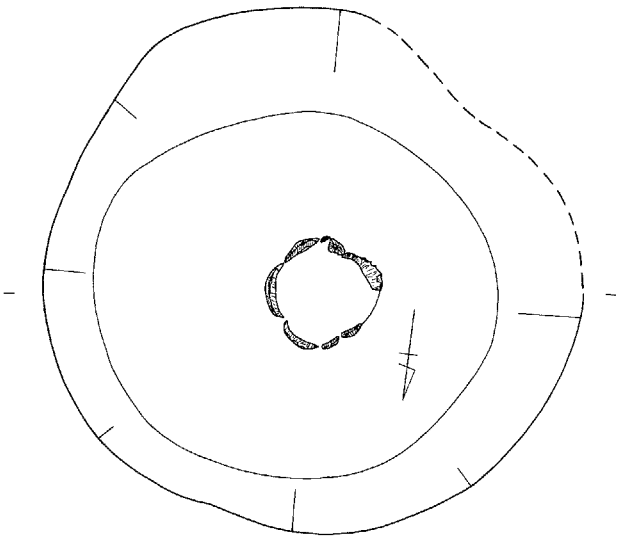
SE04



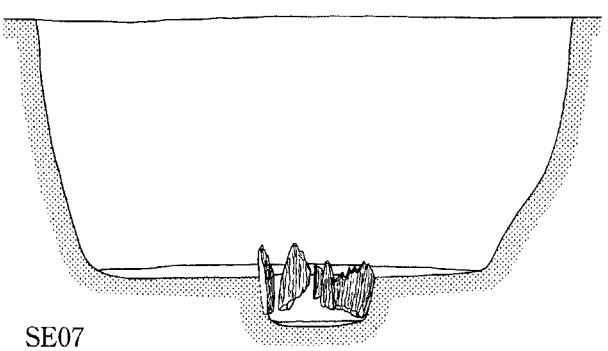
L＝3.50m



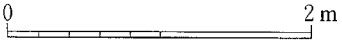
SE08



L＝3.60m



SE07



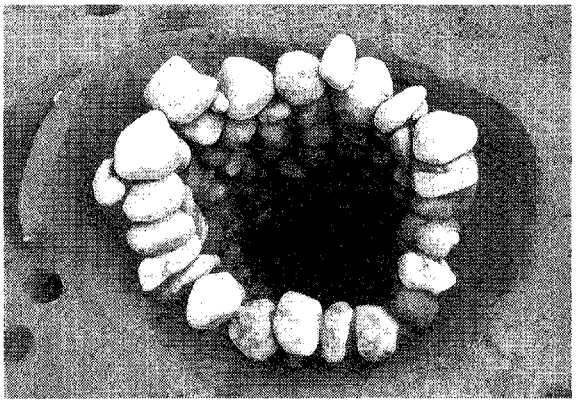
第64図　川関遺跡井戸SE04・07・08・12

頃と推定される。

水田部８東区の井戸

井戸ＳＥ１５（SE717）

ＳＥ１５は石積みの小型円形井戸である。長辺20～60cmの大小の河原石が10段前後、円形状に小口積みと平積みにされている。底部には直径約55cm・高さ約30cmの曲物の痕跡がみられた。上部径約0.8ｍ・深さ約2.1ｍである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗、土師器甕、常滑甕、備前摺鉢・甕、瀬戸美濃天目茶碗・壺、白磁碗、青磁碗があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。



ＳＰ95　川関遺跡水田部８東　SE15

井戸ＳＥ１６（SE175）

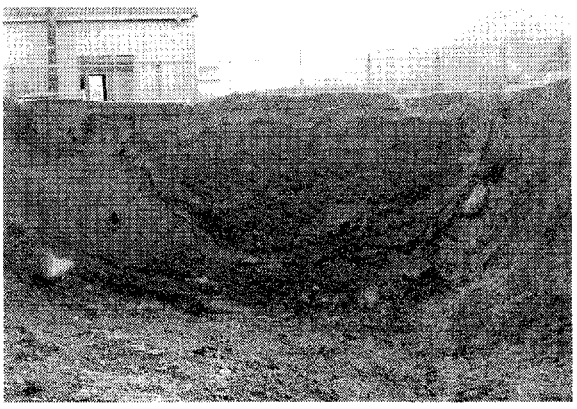
ＳＥ１６は平面が隅丸方形で、径約2.7ｍ・深さ2.2ｍを測る。底部中央には広葉樹の直径約0.7ｍの木を刳抜いた井筒が据えられている。その外側には、四隅に直径15cm前後の丸杭を打ち込み、横桟に丸太を渡して竪板を固定し、方形に組んでいる。出土遺物には須恵器鉢・甕、山茶碗類、瓦器椀、瓦質足付釜、土師器皿・甕、常滑甕、白磁碗・皿があり、廃絶時期は13世紀初頭頃と推定される。

井戸ＳＥ１７（SE03）

ＳＥ１７は石積みの小型円形井戸である。長辺40～50cm・短辺20～30cm前後の扁平な河原石が10段前後、楕円形状に小口積みされている。石積みはやや乱雑で、隙間が多い。上部径約1.1ｍ・底部径約0.7ｍ・深さ約1.8ｍである。出土遺物には須恵器甕、山茶碗、土師器皿・甕、瀬戸美濃摺鉢、白磁皿、青磁皿、青花碗があり、廃絶時期は16世紀前半頃と推定される。

堀ＳＨ０１

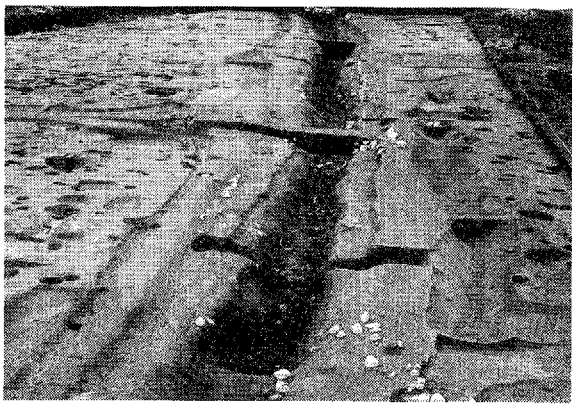
ＳＨ０１は南北方向に延びる幅5.0ｍ前後の堀である。延長約82ｍを検出した。第65図の土層堆積状況からみて、２時期に大別される。上層溝と下層溝として区別して掘削した。ＳＨ０１は区画溝ＳＤ３０の肩部を切り込んで掘削されており、上部は溝ＳＤ１２や水田耕作によって、少なくとも0.4ｍ以上は削平されている。



ＳＰ96　川関遺跡水田部８東　SH01土層

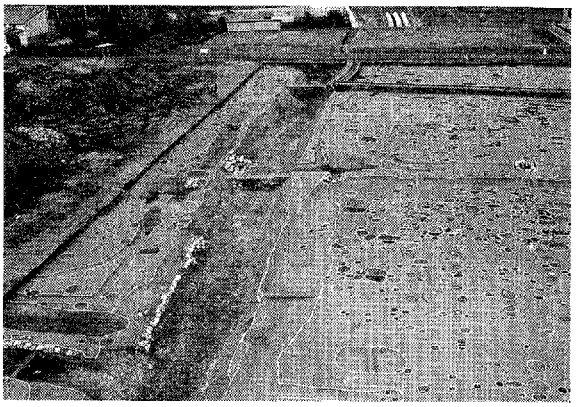
土層の堆積状況は上層溝では、上層が灰色（５Ｙ６／１）土、中層が炭を微量含んだ灰色（５Ｙ５／１）土から灰色（Ｎ５／１）砂質土で、下層が青灰色（５Ｂ６／１）～（５ＢＧ６／１）砂質土である。上層からは瀬戸美濃仏飯具や伊万里染付碗などの19世紀前半の遺物や17世紀前半頃の唐津皿、16世紀後半の中国製青花小坏・白磁小坏などが出土した。中層からは17世紀前半頃の唐津皿、16世紀代の中国製青花皿・青磁碗などが出土した。

下層からは16世紀末～17世紀前半頃の唐津碗・皿や瀬戸美濃天目茶碗・皿類、12世紀～16世紀代の中国製青花・白磁・青磁などが出土した。上層溝の規模は検出面で幅2.2～2.7m・深さ0.6～1.0mで、中層から下層は17世紀前半に埋没し、上層は19世紀前半に埋没したものと推定される。ただし、上層と中層の堆積遺物の年代差が200年近いことから、発掘調査時に堀ＳＨ０１の上層として認識した堆積土は、上面の石積み護岸をもつ溝ＳＤ１２の最下層である可能性が高い。

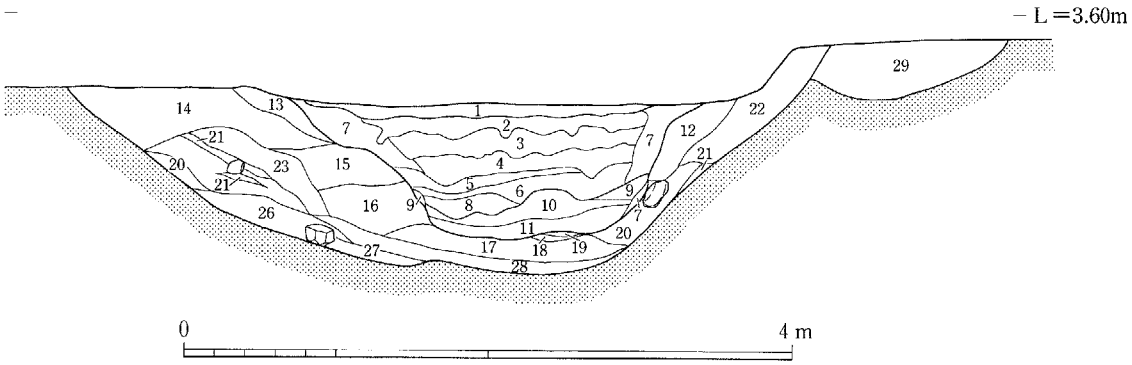


ＳＰ97　川関遺跡水田部８東　SH01上層溝

下層溝は幅5.0～6.0m・深さ1.0～1.2mである。断面形態は逆台形で、底部は平坦である。底部の標高は北端部で約2.2m、南端部で約2.0mである。肩部上面の堆積土は浅黄色（2.5Y８／４）土や灰白色（５Y７／２）土で、肩部下層は灰オリーブ色（５Y６／２）粗砂礫で、最下層は青灰色粗砂礫土である。肩部上下層からは16世紀～17世紀前半頃の唐津碗・皿・向付、瀬戸美濃天目茶碗・皿・鉄釉摺鉢、備前摺鉢・浅鉢、古い時期の常滑甕や山茶碗類、中国製青花皿・青磁碗などが出土した。下層からは16世紀～17世紀前半頃の唐津碗・皿や瀬戸美濃天目茶碗・皿類、志野丸皿・水指、備前摺鉢、常滑甕や山茶碗類、12世紀～16世紀代の中国製青花・白磁・青磁などが出土した。



ＳＰ98　川関遺跡水田部８東　SH01下層溝



1．灰色(5Y6/1)土
2．浅黄色(5Y7/3)砂に少量３の土が混じる
3．炭微量混じり灰色(5Y5/1)土
4．炭微量混じり灰色(5Y4/1)土
5．灰オリーブ色(5Y5/2)砂質土
6．炭微量まじり灰色(7.5Y4/1)土
7．灰白色(5Y7/1)砂質土
8．灰色(N5/1)砂質土
9．青灰色(5B6/1)砂質土
10．木屑少量混じり青灰色(10BG6/1)砂質土
11．青灰色(5BG6/1)砂質土
12．灰黄色(2.5Y6/2)土
13．にぶい黄色(2.5Y6/4)土
14．浅黄色(2.5Y8/4)土
15．灰色(10Y6/1)土
16．灰色(10Y5/1)弱砂質土
17．灰色(10Y5/1)粗砂礫土
18．灰白色(10Y7/1)砂
19．灰色(N5/1)粗砂
20．オリーブ灰色(5GY6/1)弱砂質土
21．灰オリーブ色(5Y6/2)粗砂
22．灰白色(5Y7/2)土
23．灰白色(5Y7/2)砂質土
24．灰白色(5Y7/2)弱砂質土
25．灰オリーブ色(5Y6/2)粗砂
26．灰オリーブ色(5Y6/2)粗砂礫
27．オリーブ黄色(5Y6/3)粗砂・鉄分多量に含む
28．青灰色(5B5/1)粗砂礫土
29．にぶい黄色(2.5Y6/4)土

第65図　川関遺跡堀SH01土層

出土遺物をみてみると、上層溝の中層から下層溝の下層まで、顕著な時期差がみられない。古い時期の山茶碗類や常滑甕などの他に16世紀後半から17世紀第１四半期頃までの唐津、瀬戸美濃、志野などが出土している。上層溝の埋土の大半は下層溝の埋土が再堆積したためだと推定される。下層溝の肩部から出土した唐津大皿の破片が藤倉城跡谷Ａ区堀ＳＨ０２出土の唐津大皿と接合し、志野の皿には藤倉城跡でみられた「亥」の墨書土器と同様の土器が出土していることから、藤倉城とほぼ同時期に機能していた堀である。

土壌の珪藻分析からは、水草が生育するやや不安定な水深で、概して池状の止水域の環境であるという報告を受けた。堀は常時通水していたり、空堀であったのではなく、一定の水を溜めておいて、堰を作って水位を調節して大谷川か那智川に水を落としていたのであろう。

ＳＨ０１は灌漑用水路である可能性もあるが、大規模であり、那智川や河口とつながる運河とするには底面の標高が高い。実方院の所領地であった中村屋敷地を南北に延びる堀であり、勝山城に対峙する藤倉城の防御用堀として、当初は開削された可能性が高いものと推定している。藤倉城のＡ区の前面からは直線距離で約105ｍである。

階段ＳＳ０１

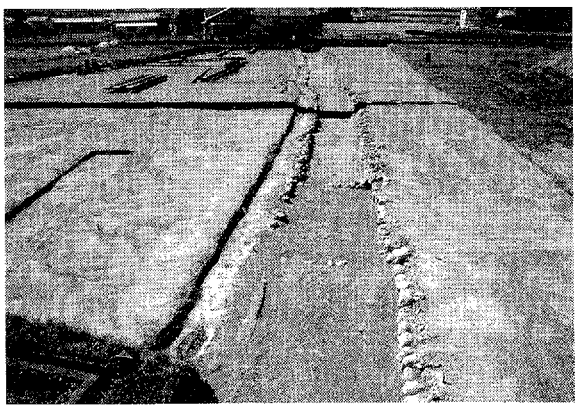
ＳＳ０１はＳＨ０１の中央部よりやや北の西岸で検出した階段状遺構である。下層溝の斜面に張り付くように、長さ50～70㎝・厚さ25㎝前後の河原石が一列につき６・７石、４段に積まれている。裾部にはやや小型の石材が根石として咬まされている。上端部の幅約3.0ｍ、下端部の幅約3.4ｍ、高さ約0.8ｍである。石材の中には角張っていて、平坦面に小石が流水によってドリル状の穴を穿孔する甌穴作用による渦状の窪みをもつものが２点みられる。



ＳＰ99　川関遺跡水田部８東　SS01

溝ＳＤ１２

ＳＤ１２はＳＨ０１を踏襲して造られた近世の水路である。幅2.2ｍ～2.7ｍ・深さ0.3ｍ～0.8ｍで、南端部は北端部より約0.8ｍ低くなっている。底部は平坦で両端部に人頭大の河原石を一列に２～３段積上げて、護岸としている。３ヶ所で、護岸と垂直方向の石積が溝中に設けられて、上下で最大30㎝程の段差となっている。近世末期以降に、灌漑用水として機能していたのだと推定される。



ＳＰ100　川関遺跡水田部８東　SD12

溝ＳＤ１３（SD2203）

ＳＤ１３は水田部８西区の北西端を東西に北側に区画する溝で、幅0.6ｍ～1.4ｍ・深さは0.1ｍ～0.2

mで、西側が0.4m程低くなっている。百台寺２式併行の瀬戸灰釉小碗や尾張３式の山茶碗や13世紀初頭を下限とする山茶碗類が出土している。

溝ＳＤ１４（SD2273）

ＳＤ１４は水出部８西区の北西端部を南北に東側に区画する溝で、中央部が途切れて、南側ではＳＤ１３に接続している。幅0.4m～0.8m・深さは最深部で約0.45mである。出土遺物は皆無である。

溝ＳＤ１５（SD5269）

ＳＤ１５は水田部８西区の北西端部を南北に西側に区画する溝で、ＳＤ１４と約2.2mの間隔で平行している。南端部は途切れて、通路状になっている。断面はＵ字状で、幅0.65m～0.9m・深さは0.1m～0.2mである。出土遺物は13世紀初頭頃を下限とする山茶碗が出土している。

溝ＳＤ１６（SD5266）

ＳＤ１６は水田部８西区の北西端部を北・東側にＬ字状に区画する溝で、ＳＤ１５と一連のものであろう。南北側は5.8mで、端部は途切れている。幅0.6m～1.0m・深さは0.2m前後で、西部がやや低くなっている。13世紀初頭頃の山茶碗、土師器甕、瓦質火鉢が出土している。

溝ＳＤ１７（SD2719）

ＳＤ１７はＳＤ１６の東側に接する東西方向の溝で東端では北向きに屈曲する。断面は逆台形状で、幅約1.0m～1.4m・深さ約0.6m～0.8mである。底部は平坦でほぼ水平である。出土遺物には須恵器甕、山茶碗、瓦質香炉、土師器、常滑甕、瀬戸美濃皿、唐津碗などがあり、16世紀末頃に埋没したと推定される。

溝ＳＤ１８（SD5686）

ＳＤ１８は水田部８西区の北東部を東西に延びる不整形な深さ0.1m前後の浅い溝で、西側は狭まり、ＳＤ１７に接続している。東側約１／３の付近では、幅5.2m・深さ0.8mの湿地状の落ち込みを呈している。出土遺物には須恵器甕、山茶碗類、土師器、常滑、備前、瀬戸美濃、白磁、青磁が出土しており、16世紀前半頃埋没している。

溝ＳＤ１９（SD5736）

ＳＤ１９は水田部８西区の北東部を南・西側にＬ字状に区画する溝で、長さ約5.8mで、端部は途切れている。断面はＵ字状で、幅0.6m～1.0m・深さは0.2m前後である。13世紀初頭頃の山茶碗、白磁碗、青磁碗が出土している。

溝ＳＤ２０（SD5841）

ＳＤ２０は水田部８西区の北東部を南北に区画する溝で、南端部は西に折れ曲がって途切れている。断面はＵ字状で、幅0.6m～1.0m・深さは0.15m～0.4mである。底部は北側が約0.25m低くなっている。13世紀後半頃の白磁皿、青磁碗が出土している。

溝ＳＤ２１（SD5944）

ＳＤ２１はＳＤ２０の南端部に位置する長さ約4.0mの弧状の溝で、両端部は途切れている。断面はＵ字状で、幅0.4m～0.6m・深さは0.1m～0.4mである。山茶碗や15世紀後半頃の瀬戸美濃灰釉皿が出

土している。

溝ＳＤ２２（SD2201）

ＳＤ２２は水田部８西区の西端部を南北に延びる長さ約29.4mの溝で、南部では２ヶ所で途切れている。

溝ＳＤ２３（SD9498）

ＳＤ２３は水田部８西区の西端中央部を南・東側にＬ字状に区画する溝で、東側ではＳＤ２４と接続している。幅1.0m～1.6m・深さは0.3m前後で、底部はほぼ水平である。13世紀初頭頃の山茶碗、土師器甕が出土している。

溝ＳＤ２４（SD2112）

ＳＤ２４は調査区の南西部を東西に直線的に延びる排水用の溝で、東西約31mを検出した。幅は1.4m～2.4m・深さ0.4m～0.8mで断面形はＵ字状である。溝底部のレベルは西端部が東端部より約0.5m低く、東から西へと排水していたことが明らかになった。１次・２次調査区の境界部では地形がやや低くなっており、現存する町道の下には自然流路が存在し、東西からの排水が集まって、下流へと流れていた可能性が高い。出土遺物には山茶碗類、瓦器椀、土師器皿、常滑甕、瀬戸瓶子、備前摺鉢、白磁碗、青磁碗、砥石などがあり、15世紀後半に埋没したものと考えられる。

溝ＳＤ２５（SD1800・2124・2718・3076）

ＳＤ２５は調査区中央部で検出した東西南北の区画溝で、北辺長13.5m・東辺長18.0m・西辺長17.0mを測り、南辺は西半部が途切れている。幅0.7m～1.1m・深さ0.2m～0.5mで、南東部では幅約0.4m・深さ約0.15mと縮小している。出土遺物には山茶碗類、土師器、常滑甕、瀬戸美濃、白磁皿、青磁碗、石鍋などがあり、16世紀前半に埋没したものと考えられる。

溝ＳＤ２６（SD3075）

ＳＤ２６はＳＤ２５の西辺の西側に接するように南北方向に延びる溝で、長さ10.0m・幅1.0m～1.6m・深さ約0.3mである。南部側がやや低くなっている。出土遺物には山茶碗類、瓦質羽釜、土師器、白磁皿、青磁壺などがあり、15世紀後半頃に埋没したと推定される。

溝ＳＤ２７（SD3946）

ＳＤ２７はＳＤ２５の北辺と南に約８m離れて、ほぼ並行に東西方向に延びる溝で、長さ9.4m・幅約1.5m・深さ約0.25mである。東西端で比高差はほとんど無く、平坦である。出土遺物には山茶碗、瓦器、土師器、常滑甕、白磁皿があり、13世紀後半頃に埋没したと推定される。

溝ＳＤ２８（SD7055）

ＳＤ２８は水田部８西区の東端中央部を北・西側にＬ字状に区画する溝で、北側ではＳＤ２５と接続している。幅0.45m～0.6m・深さは0.15m前後で、底部はほぼ水平である。山茶碗、土師器甕、16世紀初頭頃の青花碗が出土している。

溝ＳＤ２９（SD2123）

ＳＤ２９はＳＤ２４とＳＤ３０の間の通路部で検出した幅0.4m～0.5m・深さ0.05m～0.1mの浅い溝

である。山茶碗や土堝、白磁碗が出土している。

溝ＳＤ３０（SD2116・2091）

ＳＤ３０は調査区の南部で検出したＬ字状の溝である。内部で検出した掘立柱建物ＳＢ６０・ＳＢ６５・ＳＢ６７などと方位がほぼ同じで、南北溝際には並行して柵ＳＡ０８が廻るため、屋敷地を区画する溝だと推定される。南北24m以上・東西48m以上で、幅は0.6m～2.0m・深さ0.2m～0.8mで底部はＵ字状である。東西溝の東部では北肩部に河原石を積み、幅・深さともに増大しており、堀ＳＨ０１と溝ＳＤ０１が造られた時に、再度掘削されたものと考えられる。出土遺物には山茶碗、常滑甕、瀬戸美濃、備前、白磁、硯などがあり、16世紀末頃埋没したものと考えられる。

溝ＳＤ３１（SD1667）

ＳＤ３１は水田部８東区の北西端部をＬ字状に区画する深さ0.1m前後の浅い溝である。山茶碗、土師器、瀬戸美濃天目茶碗・皿・壺、白磁碗などが出土しているおり、16世紀初め頃に埋没している。

溝ＳＤ３２（SD1246）

ＳＤ３２は水田部８東区の北西部を南・東側にＬ字状に区画する溝である。幅0.5m～1.5m・深さ0.15m～0.25m前後で、底部は南部が深くなっている。山茶碗が少量出土している。

溝ＳＤ３３（SD1244）

ＳＤ３３は水田部８東区の北西部を南北に延びる溝で、南端部は西に直角に曲がっている。断面はＵ字状で、幅0.25m～0.7m・深さ0.1m～0.3m前後で、底部は南部が0.3m程低くなっている。山茶碗、土師器、白磁皿が出土している。

溝ＳＤ３４（SD1363・755・787）

ＳＤ３４は調査区の北東端部を南北に延びる溝で、溝ＳＤ３６と直交し、二股に分岐している。断面はＵ字状で、幅1.0m・深さ0.15m前後である。山茶碗が出土している。

溝ＳＤ３５（SD1364）

ＳＤ３５はＳＤ３４の西に接するように南北に延びる不整形な溝で、幅1.5m・深さ0.2m前後である。13世紀前半頃の山茶碗と土師器皿が出土している。

溝ＳＤ３６（SD980）

ＳＤ３６は調査区の北東部を東西に延びる溝で、ＳＤ３４と直交している。幅0.8m～1.6m・深さ0.2m～0.4m前後で、中央部付近が深く窪んでいる。山茶碗、土師器、常滑甕、瀬戸美濃天目茶碗・皿・壺、青花皿・碗などが出土しており、17世紀初め頃に埋没している。

溝ＳＤ３７（SD11・698）

ＳＤ３７は調査区の南東部で検出したＬ字状の溝である。掘立柱建物ＳＢ７８と方位がほぼ同じで、内側には並行して柵ＳＡ０６が廻るため、屋敷地を区画する溝だと推定される。南北約12m・東西約10mで、幅は0.8m～1.5m・深さ0.1m～0.3mで底部は平坦である。南部には幅50cm程の溝が取り付いて延びている。出土遺物には山茶碗、土師器、常滑甕、瀬戸灰釉四耳壺、瀬戸美濃天目茶碗・皿・摺鉢、白磁皿、青磁碗などが出土しており、17世紀初め頃に埋没している。

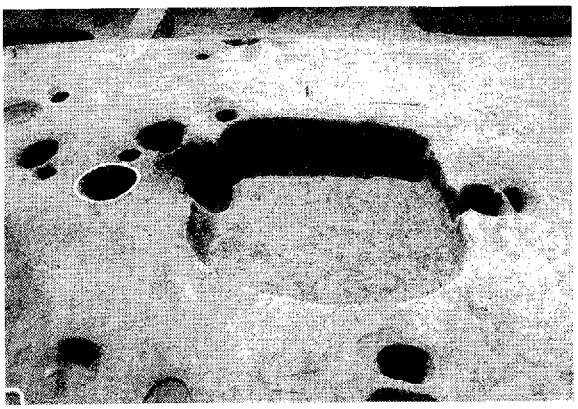
溝ＳＤ３８（SD12）

ＳＤ３８は調査区の南東端部を東西に延びる溝で、井戸ＳＥ１７によって東部が破壊されている。断面はＵ字状で、幅0.6m・深さ0.2m前後である。底部の高さは東側が約0.2m低くなっており、那智川方面へと排水されている。須恵器甕、山茶碗、土師器、白磁皿、青磁皿が出土しており、13世紀前半頃埋没している。

東調査区Ａ区画の土坑

土坑ＳＫ３２（SK5098）

ＳＫ３２は東調査区Ａ区画の南西部で検出した土坑である。平面は一辺約2.2mの隅丸方形で、深さは約0.45m、底部は平坦である。13世紀初頭を下限とする山茶碗類が出土している。



ＳＰ101　川関遺跡水田部８西　SK32

土坑ＳＫ３３（SK5289）

ＳＫ３３は東調査区Ａ区画の北西部で検出した土坑である。平面は一辺約1.5mの隅丸方形で、深さは約0.45m、底部は平坦である。15世紀後半頃を下限とする瀬戸美濃類と山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ３４（SK5306）

ＳＫ３４は東調査区Ａ区画の中央部で検出した土坑である。平面は直径約1.95mの円形で、深さは約0.9m、断面はすり鉢状になっている。中層から上層には、人頭大の河原石が多数埋没していた。13世紀初頭を下限とする山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ３５（SK5323）

ＳＫ３５は東調査区Ａ区画の中央部で検出した土坑である。平面は直径約0.85mの円形で、深さは約0.05mと浅い。山茶碗と15世紀前半の青磁碗が出土している。

土坑ＳＫ３６（SK5344）

ＳＫ３６は東調査区Ａ区画の中央部で検出した土坑である。平面は直径約1.9mの円形で、深さは約1.1m、すり鉢状の断面で底部は平坦である。13世紀初頭を下限とする山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ３７（SK5352）

ＳＫ３７は東調査区Ａ区画の南西部で検出した土坑である。平面は一辺約1.24mの方形で、深さは約0.45mである。四辺は周囲の掘立柱建物の方位とほぼ合致している。13世紀代後半を下限とする青磁碗や山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ３８（SK5270）

ＳＫ３８は東調査区Ａ区画の南部で検出した土坑である。平面は一辺約3.0mの隅丸方形で、深さは約0.4mである。上層には10～20㎝大の角礫を多数含む。16世紀初頭を下限とする山茶碗類、備前擂鉢、信楽壺、青花皿などが出土している。

土坑ＳＫ３９（SK9600）

ＳＫ３９は東調査区Ａ区画の中央部で検出した土坑である。平面は楕円形で、長軸1.2m・短軸0.76m・深さは0.1mである。13世紀前半を下限とする山茶碗類と土師器皿が出土している。

土坑ＳＫ４０（SK1749）

ＳＫ４０は東調査区Ａ区画の東部で検出した土坑である。平面は長楕円形で、長軸1.32m・短軸0.48m・深さは0.1mである。13世紀前半を下限とする山茶碗類と白磁皿が出土している。

遺物実測図収録

土坑ＳＫ４１（SK5613）／土坑ＳＫ４２（SK10003）

東調査区Ｂ区画の土坑

土坑ＳＫ４３（水田４SK101）

ＳＫ４３は東調査区Ｂ区画の北西部で検出した土坑である。平面は楕円形で、短軸1.3m・深さは0.3mである。13世紀前半を下限とする山茶碗類と土師器皿、白磁碗が出土している。

土坑ＳＫ４４（水田４SK107）

ＳＫ４４は東調査区Ｂ区画の西部で検出した土坑である。平面は円形で、直径約0.8m・深さ0.22mである。山茶碗類と百台寺式併行期の灰釉碗が出土している。

土坑ＳＫ４５（SK9459）

ＳＫ４５は東調査区Ｂ区画の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形で、長軸1.32m・短軸1.18m・深さは0.3mである。12世紀中頃の山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ４６（SX2721）

ＳＫ４６は東調査区Ｂ区画の中央北端の溝ＳＤ２５の肩部で検出した土坑である。平面は楕円形で、長軸1.52m・短軸1.22m・深さ約0.3mで、底部は浅い段をなす。15世紀代の瀬戸美濃天目茶碗と土師器土堝、青花皿などが出土している。

土坑ＳＫ４７（SK9397）

ＳＫ４７は東調査区Ｂ区画の南西部で検出した土坑である。平面は楕円形で、長軸1.54m・短軸1.3m・深さは0.3mで、底部は平坦である。13世紀初頭頃の山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ４８（SK2115）

ＳＫ４８は東調査区Ｂ区画の南西部で検出した不整形な土坑である。東西約7.0m・南北約3.8m・深さは0.2m前後で、西側が低くなっている。15世紀代を下限とする山茶碗類や土師器土堝が出土している。

土坑ＳＫ４９（SK2189）

ＳＫ４９は東調査区Ｂ区画の北西部で検出した円形の土坑である。直径約1.2m・深さは0.42mで、底部は平坦である。15世紀末を下限とする瀬戸美濃碗・皿、白磁、青磁などが出土している。

土坑ＳＫ５０（SK2619）

ＳＫ５０は東調査区Ｂ区画の北西部で検出した円形の土坑である。直径約1.0m・深さは0.8mで、底部は平坦で、20cm大の角礫が３石据えられている。13世紀前半を下限とする山茶碗類、土師器皿、青磁皿などが出土している。

土坑ＳＫ５１（SK2762）

ＳＫ５１は東調査区Ｂ区画の中央部で検出した東西方向の楕円形土坑である。長軸1.7m・短軸1.24m・深さは0.15mで、底部は平坦である。13世紀前半を下限とする山茶碗類、常滑甕、白磁皿などが出土している。

土坑ＳＫ５２（SK3016）

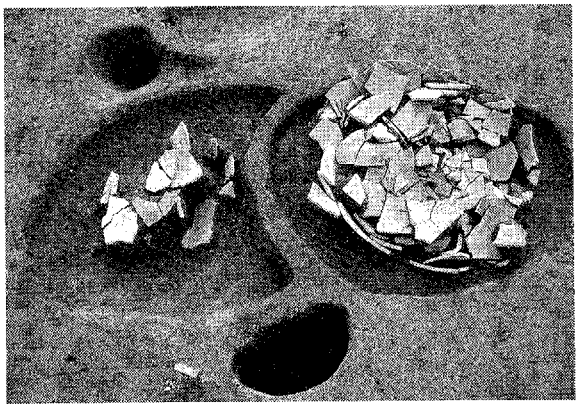
ＳＫ５２は東調査区Ｂ区画の中央部で検出した南北方向に細長い土坑である。長さ5.3m・幅0.6～1.0m・最深部0.4mで、底部は段差があり両端が深くなっている。13世紀前半を下限とする山茶碗類が出土している。

土坑ＳＫ５３（SK2954）

ＳＫ５３は東調査区Ｂ区画の中央部で検出した南北方向の楕円形土坑である。長軸1.46m・短軸1.20m・深さは0.4mで、底部は平坦である。16世紀前半を下限とする山茶碗類、瓦器、土師器、瀬戸美濃、備前、青花、白磁、青磁、砥石などが出土している。

土坑ＳＫ５４（SK9575）

ＳＫ５４は東調査区Ｂ区画の中央部で検出した南北方向の楕円形土坑である。長軸1.0m・短軸0.8m・深さは約0.2mで、底部は浅いすり鉢状である。ほぼ完形に復元しうる15世紀前半頃の備前大甕が１個体出土した。



ＳＰ102　川関遺跡水田部８西　SK54・55

土坑ＳＫ５５（SK3813）

ＳＫ５５はＳＫ５４の南側に隣接する楕円形土坑である。長軸1.0m前後・短軸0.8m・深さは0.2m程度である。15世紀代の完形品に近い播磨系の外面に煤が付着した土堝が数個体出土した。他にも瀬戸美濃皿、東播系捏鉢、備前摺鉢、青磁碗などが出土した。土坑ＳＫ５４とＳＫ５５は同時期に厨房施設として機能していたものだと推定される。

土坑ＳＫ５６（SK3998）

ＳＫ５６は東調査区Ｂ区画の東部で検出した東西方向の楕円形土坑である。長軸1.1m・短軸1.0m・深さは約0.2mで、底部は平坦である。山茶碗類、土師器皿・羽釜、常滑甕、白磁、青磁が出土した。

土坑ＳＫ５７（SK7077）

ＳＫ５７は東調査区Ｂ区画の南東部で検出した東西方向の楕円形土坑である。長軸0.84m・短軸

0.64m・深さは約0.2mで、底部は平坦である。山茶碗類、青磁輪花皿などが出土した。

土坑ＳＫ５８（SK1886）

ＳＫ５８は東調査区Ｂ区画の西端部で検出した東西方向の楕円形土坑である。長軸約4.0m・短軸約3.3m・深さは約0.8mで、断面形はすり鉢状を呈する。16世紀後半の瀬戸美濃天目茶碗や瀬戸灰釉丸碗などが出土した。

土坑ＳＫ５９（SK7600）

ＳＫ５９は溝ＳＤ２４とＳＤ３０の間の通路部で検出した円形土坑である。直径約0.84m・深さ約0.2mで、底部は平坦である。13世紀初頭を下限とする山茶碗類、白磁碗などが出土している。

遺物実測図収録

土坑ＳＫ６０（SK2301）／土坑ＳＫ６１（SK2195）／土坑ＳＫ６２（SK2324）
土坑ＳＫ６３（SK2609）／土坑ＳＫ６４（SK2753）／土坑ＳＫ６５（SK3061）
土坑ＳＫ６６（SK2985）／土坑ＳＫ６７（SK2998）／土坑ＳＫ６８（SK3000）
土坑ＳＫ６９（SK7224）／土坑ＳＫ７０（SK3827）／土坑ＳＫ７１（SK3905）
土坑ＳＫ７２（SK4312）／土坑ＳＫ７３（SK4276）／土坑ＳＫ７４（SX2122）
土坑ＳＫ７５（SK3792）／土坑ＳＫ７６（SK1785）／土坑ＳＫ７７（SK3995）
土坑ＳＫ７８（SK1864）／土坑ＳＫ７９（SK7599）／土坑ＳＫ８０（SK7601）

東調査区Ｃ区の土坑

土坑ＳＫ８１（SK9373）

ＳＫ８１は東調査区Ｃ区画の北西部で検出した円形土坑である。直径約0.7m・深さ約0.7mで、底部は平坦である。13世紀初頭頃の山茶碗類が出土した。

土坑ＳＫ８２（SK2107）

ＳＫ８２は東調査区Ｃ区画の北西部で検出した南北約4.0m・東西約6.4m・深さ約0.1～0.15mの不整形な土坑で、底部は平坦である。13世紀初頭頃の山茶碗、土師器皿、青磁碗が出土した。

土坑ＳＫ８３（SK2109）

ＳＫ８３は東調査区Ｃ区画の北西部で検出した南北方向の長楕円形の土坑である。長軸2.82m・短軸1.16m・深さ0.15mである。15世紀代を下限とする山茶碗類、瓦器椀、土師器土堝、青磁碗などが出土した。

土坑ＳＫ８４（SK9084）

ＳＫ８４は東調査区Ｃ区画の西部で検出した楕円形の土坑である。長軸2.05m・短軸1.74m・深さ0.45mである。13世紀初頭頃の山茶碗類、土師器などが出土した。

土坑ＳＫ８５（SK9094）

ＳＫ８５は東調査区Ｃ区画の西部で検出した円形の土坑である。直径1.5m・深さ0.25mである。13世紀初頭頃の山茶碗類、土師器などが出土した。

深さ0.24mで、底部は平坦である。13世紀後半頃を下限とする山茶碗類、瓦器椀などが出土した。

遺物実測図収録

土坑ＳＫ１１５（SK701）／土坑ＳＫ１１６（SK1361）／土坑ＳＫ１１７（SK1303）

土坑ＳＫ１１８（SK1200）／土坑ＳＫ１１９（SK1002）／土坑ＳＫ１２０（SK1007）

土坑ＳＫ１２１（SK916）

東調査区Ｅ区の土坑

土坑ＳＫ１２２（SK670）

ＳＫ１２２は東調査区Ｅ区画の北東部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.6m・単軸1.26m・深さ0.18mで、上層には10～20cm程の河原石が埋没していた。瀬戸美濃類や山茶碗類、瓦器椀などが出土した。

土坑ＳＫ１２３（SK497）

ＳＫ１２３は東調査区Ｅ区画の北部で検出した円形の土坑である。直径0.9m・深さ0.18mで、底部は平坦である。13世紀後半頃を下限とする山茶碗類、瓦器椀などが出土した。

土坑ＳＫ１２４（SK159）

ＳＫ１２４は東調査区Ｅ区画の中央西部で検出した楕円形の土坑である。長軸2.56m・単軸1.7m・深さ0.18mで、底部は平坦である。13世紀後半頃を下限とする山茶碗類、瓦器椀などが出土した。

土坑ＳＫ１２５（SK152）

ＳＫ１２５は東調査区Ｅ区画の中央部で検出した平面長楕円形の土坑で、長軸1.4m・短軸0.6m・深さ0.8mを測る。断面形はＵ字状を呈する。

土坑ＳＫ１２６（SK153）

ＳＫ１２６はＳＫ１２５の東に隣接する平面長楕円形の土坑で、長軸1.6m・短軸0.8m・深さ0.8mを測る。底部は二段になって、断面形はＵ字状を呈する。播磨系の土堝が出土しており、15世紀に埋没したと推定される。

土坑ＳＫ１２７（SK50）

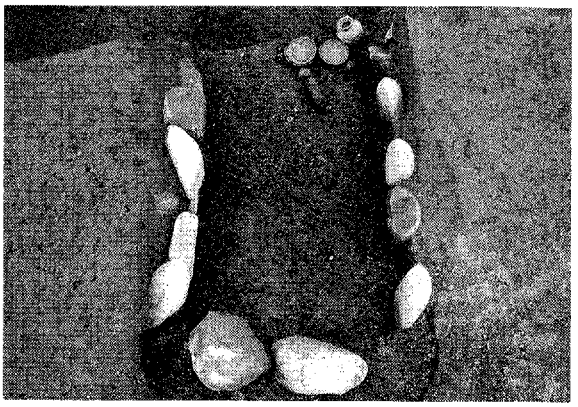
ＳＫ１２７は東調査区Ｅ区画の南部で検出した南北方向に細長い土坑で、長さ2.9m・幅0.76m・深さ0.25mを測る。播磨系の土堝が出土しており、15世紀に埋没したと推定される。

通路ＳＳ０２（SK755・756）

ＳＳ０２は東調査区Ｄ区画の南東端で検出した南東方向に延びる細長い土坑状の遺構で、川関集落から那智川へと降りて行く通路ではないかと推定される。集落側から段状に下がっており、東端では攪乱されているが、河原石を並べた階段状の施設がみられる。降り口部の標高は約3.2mで、階段部は約1.8mで、比高差約1.4mである。柵ＳＡ０６とＳＡ０８との間の通路の東端部に位置しており、これらの柵と同時期に機能していたものと推定される。埋土からは13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類や土師器などが出土しており、鎌倉時代初め頃の船着き場が周辺にあったものと推定される。

前述したように、柵や周辺の掘立柱建物と共に那智川河口部西岸の関の一つであった可能性も考えられる。

墓ＳＸ０２（SK369）


ＳＰ104　川関遺跡水田部８東　SX02

ＳＸ０２は東調査区Ｄ区画の南西東端で検出した東西方向の長方形土坑である。北側が破壊されて、規模は不明であるが、幅約1.2m・深さ約0.3mである。土坑の上辺には20～30cm程の河原石を平積みに並べている。北東部を中心に完形品の備前小壺、瓦器椀、土師器皿や鉄刀などが副葬された状況で出土したためこの土坑を墓であると推定した。鉄釘が数本出土しているため、木棺が納められていた可能性が高い。出土遺物の下限の時期は13世紀初頭頃であり、鎌倉時代初めの墓である。副葬品に山茶碗がみられないことが、この墓の特徴であり、被葬者の出自を示唆しているのかもしれない。

湿地状の低地及び窪地、河川の氾濫原を落込みＳＷとして一括して扱うこととする。

落込みＳＷ０２（SX2204）

ＳＷ０２は東調査区Ａ区画の南西端で検出した東西約6.0m・南北約5.0m・深さ0.15m程度の低地である。13世紀前半頃までの山茶碗類や土師器が出土している。

落込みＳＷ０３（SX2120）

ＳＷ０３は東調査区Ｂ区画の中央南部に位置する南北約10.8mの湿地状の落込みである。底部は複雑な段をなし、最深部で約0.9mを測る。16世紀末頃までの瀬戸美濃、志野、唐津、備前、山茶碗類や土師器、瓦質捏鉢、青花、白磁、青磁などが出土している。

落込みＳＷ０４（SX2121・2122）

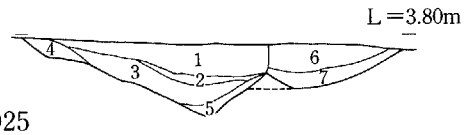
ＳＷ０４はＳＷ０３の東側に位置する東西約8.2m・南北約7.2mの湿地状の落込みである。底部はあまり起伏がなく、最深部で約0.5mを測る。16世紀末頃までの瀬戸美濃、唐津、備前、信楽、山茶碗類や土師器、瓦質捏鉢、青花、白磁、青磁などが出土している。

落込みＳＷ０５（SX2101）

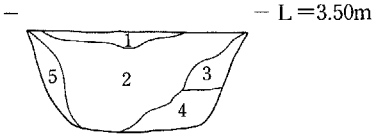
ＳＷ０５は東調査区Ｃ区画の南西部で検出した南北28m以上の窪地である。現存する町道の周辺は自然流路が存在したと考えられ、低地となっている。最深部で約0.9mを測る。16世紀後半頃までの瀬戸美濃、備前、山茶碗類や瓦器、土師器、青花、白磁、青磁などが出土している。

落込みＳＷ０６（東落込み）

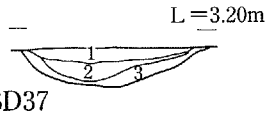
ＳＷ０６は東調査区Ｅ区画の北東部で検出した落込みである。那智川の氾濫によるものだと考えられる。16世紀後半頃までの瀬戸美濃、備前、山茶碗類や瓦器、土師器、青花、白磁、青磁などが出土している。



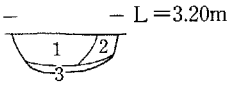
SD25
1．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土 炭少量含む
2．1に明黄褐色(2.5Y6/8)のブロック土混じる
3．オリーブ褐色(2.5Y4/4)弱粘質土 炭少量含む
4．明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土
5．黄褐色(2.5Y5/4)砂質土
6．オリーブ褐色(2.5Y4/4)弱粘質土
7．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土 地山ブロック土混じる



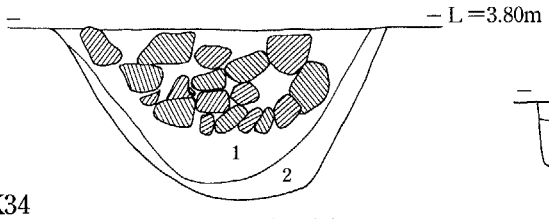
SD36
1．にぶい黄色(2.5Y6/3)土 炭微量含む
2．にぶい黄色(2.5Y6/4)土 炭微量含む
3．淡黄色(2.5Y8/4)土
4．にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土
5．明黄褐色(2.5Y7/6)土 2少量混じる



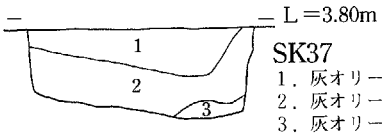
SD37
1．にぶい黄褐色(2.5Y6/4)土
2．にぶい黄褐色(2.5Y6/3)土
3．灰黄褐色(2.5Y6/2)土



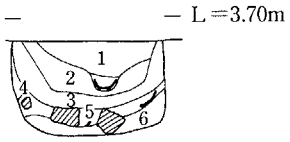
SD38
1．灰オリーブ色(5Y4/2)土
2．灰オリーブ色(5Y5/2)土
3．灰オリーブ色(5Y4/2) 地山土混じる



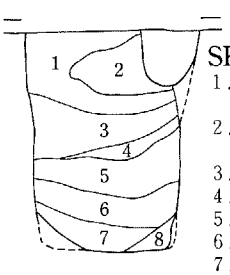
SK34
1．オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 弱粘質土 炭含む
2．黄褐色 (2.5Y5/4) 弱粘質土 炭含む 地山ブロック土混じる



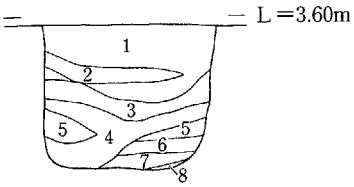
SK37
1．灰オリーブ色(5Y5/2)土 炭微量混じる
2．灰オリーブ色(5Y5/3)土 地山ブロック土混じる
3．灰オリーブ色(5Y4/2)土



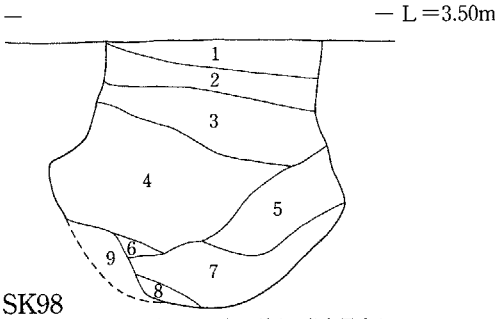
SK86
1．黒褐色(2.5Y3/2)砂質土 炭多量含む 焼土微量含む
2．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土
炭多量含む 焼土微量含む
3．黒褐色(2.5Y3/1)弱粘質土 炭多量含む 焼土微量含む
4．黒褐色(2.5Y3/2)弱粘質土
5．黄褐色(2.5Y5/4)粘質土
6．黄褐色(2.5Y5/3)シルト



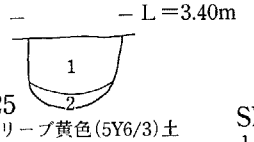
SK88
1．暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質土
地山ブロック土含む 炭・焼土多く含む
2．暗オリーブ褐色(2.5Y3/.3)砂質土
地山ブロック土多く含む 炭・焼土少量含む
3．黒褐色(2.5Y3/2)弱粘質土 地山ブロック土少量含む 炭・焼土少量含む
4．オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土 地山ブロック土多く含む 炭・焼土含む
5．オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土 地山ブロック土少量含む 炭含む
6．暗オリーブ褐色(2.5Y3/.3)粘質土 地山ブロック土多く含む 炭含む
7．暗オリーブ褐色(2.5Y3/.3)粘質土 炭含む
8．黒褐色(2.5Y3/2)粘質土 炭含む



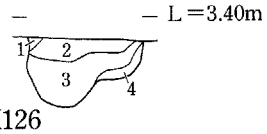
SK92
1．黒褐色(2.5Y3/2)砂質土 炭含む
2．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土 地山ブロック土多く含む
3．黒褐色(2.5Y3/1)弱粘質土 炭・焼土少量含む
4．オリーブ褐色(2.5Y4/3)弱粘質土
5．暗灰黄色(2.5Y4/2)土
6．黄褐色(2.5Y5/4)土
7．黄褐色(2.5Y5/3)土
8．黄褐色(2.5Y5/4)シルト



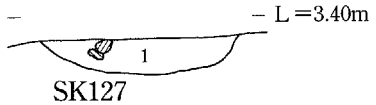
SK98
1．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土 炭少量含む
2．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土
地山ブロック土少量含む 炭少量含む
3．オリーブ褐色(2.5Y4/4)弱粘質土
地山ブロック土少量含む 炭少量含む
4．暗褐色(10YR3/3)弱粘質土
5．オリーブ褐色(2.5Y4/6)弱粘質土
6．黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
7．暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土
8．暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土
9．黄褐色(2.5Y5/6)シルト



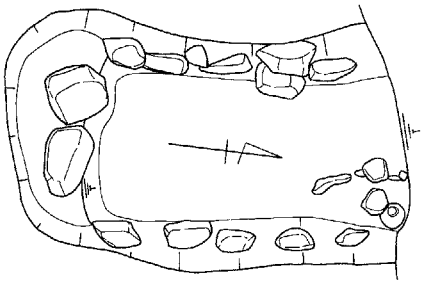
SK125
1．オリーブ黄色(5Y6/3)土
微量の炭混じる
2．オリーブ黄色(5Y6/3)土
地山土混じる



SK126
1．黄色(5Y8/6)土
2．オリーブ黄色(5Y6/3)土
3．灰オリーブ色(5Y6/2)土
4．2・3層の混入土



SK127
1．暗灰色(N3/0)砂質土



SX02

0　2 m

第66図　川関遺跡溝・土坑土層図／墓SX02

落込みＳＷ０７（SV01東落込み・SV02東落込み）

ＳＷ０７は東調査区Ｅ区画の南東部で検出した落込みである。那智川の氾濫によるものだと考えられる。２段に落込んでいるが、出土遺物に年代差は無く、16世紀後半頃までの瀬戸美濃、備前、山茶碗類や瓦器、土師器、青花、白磁、青磁などが出土している。

第４節　橋脚部地区（１・２・３・４区）

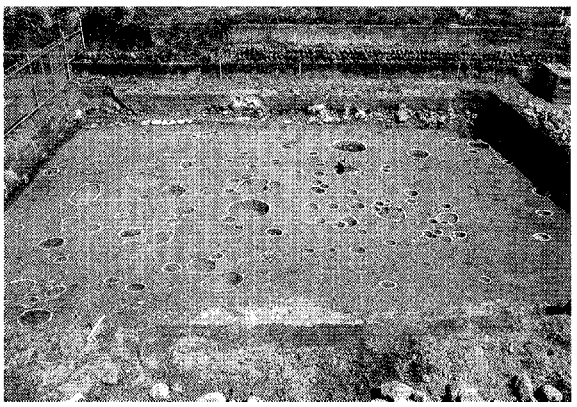
橋脚部地区は遺跡の北東部にあたり、東側から１～４区とした。１区画は、一辺15m前後の四角形状である。掘立柱建物２棟を検出し、山茶碗や瀬戸美濃、常滑、中国製白磁・青磁など多数の遺物が出土した。このため、集落の範囲が北側の水田部分にまで、広がっていることが明らかになった。

地形的には２区が微高地で標高が最も高く、１区の東部から那智側に向かって湿地状の低地となっている。２区からは縄文時代後期の土器がまとまって出土している。

《橋脚部１区》

ＳＢ８１

ＳＢ８１は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。北辺は6.34m、西辺は4.1mで、床面積は推定で約25.4㎡である。主軸方位はＥ－15°－Ｎで、柱穴の掘方は直径30cm～35cm前後・深さ20cm～45cmである。４型式新段階の山茶碗類が出土しており、12世紀後半頃に廃絶した建物である。



ＳＰ105　川関遺跡橋脚部１区全景（南から）

土坑ＳＫ１２８（SK48）

ＳＫ１２８は１区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.15m・単軸1.0m・深さ0.35mで、0.3m程の河原石が数石埋まっていた。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

土坑ＳＫ１２９（SK50）

ＳＫ１２９は１区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.0m・単軸0.9m・深さ0.2mで、底部は平坦である。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

土坑ＳＫ１３０（SK61）

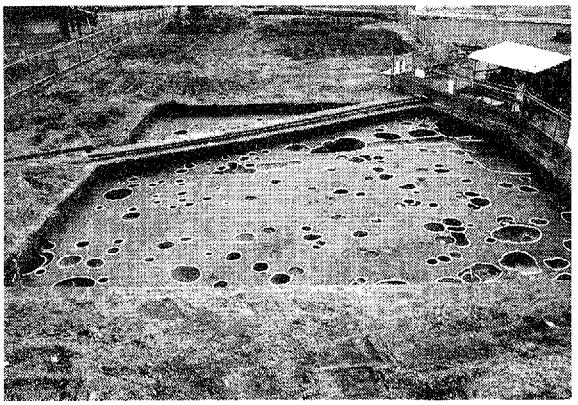
ＳＫ１３０は１区西部で検出した南北方向の長楕円形の土坑である。長軸1.0m・単軸0.9m・深さ0.2mである。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

《橋脚部２区》

ＳＢ８２

ＳＢ８２は東西方向に主軸をもつ２間×３間の建物である。南北辺は6.24m・6.52m、東西辺は4.56m・4.64mで、床面積は約29.4㎡である。主軸方位はＥ－５°－Ｎで、柱穴の掘方は直径30cm～40cm前

後・深さ10cm～25cmである。柱穴の内、８つには長さ20cm前後の扁平な河原石が敷かれていた。４型式新段階の山茶碗類が出土しており、12世紀後半頃に廃絶した建物である。



ＳＰ106　川関遺跡橋脚部２区全景（北から）

溝ＳＤ３９（SD155）

ＳＤ３９は２区南部で検出した東西方向の深さ0.1～0.2m程の浅い溝である。底部は平坦で、比高差もない。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器などとともに、後期の縄文土器片がまとまって出土した。

土坑ＳＫ１３１（SK5）

ＳＫ１３１は２区南部で検出した円形の土坑である。直径約0.7m・深さ約0.3mである。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類とともに後期の縄文土器の破片が出土した。

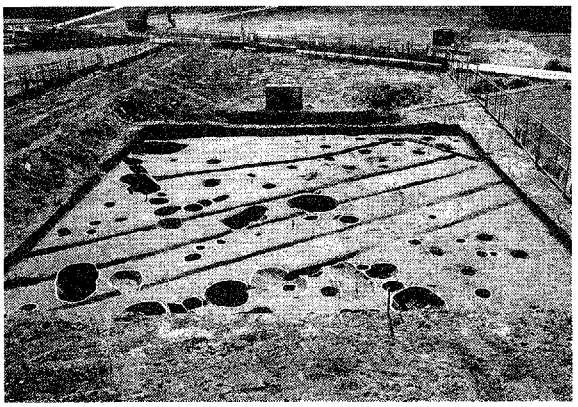
土坑ＳＫ１３２（SK154）

ＳＫ１３２は２区中央部で検出した長楕円形の土坑である。長軸2.54m・短軸1.6mで、西側が深くなっており、約1.05mである。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器、青磁碗などが出土した。

《橋脚部３区》

溝ＳＤ４０（SD01）

ＳＤ４０は３区南部で検出した幅0.4～0.5m・深さ0.2～0.3mの溝である。中央部では東西方向で、西部と東部では屈曲して南北方向である。底部は平坦だが、南部の方が緩やかに低くなっている。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、瓦器椀、土師器、青磁碗が出土した。



ＳＰ107　川関遺跡橋脚部３区全景（北から）

土坑ＳＫ１３３（SK03）

ＳＫ１３３は３区東部で検出した東側がややくびれた長方形の土坑である。長さ2.6m・幅1.2m・深さ0.6mで、底部は平坦である。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

土坑ＳＫ１３４（SK04）

ＳＫ１３４は３区東部で検出した直径約0.6m・深さ約0.6mの円形の土坑である。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

土坑ＳＫ１３５（SK05）

ＳＫ１３５は３区東部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.9m・短軸1.1m・深さ1.0mである。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器などと弥生時代の石斧が出土した。

土坑ＳＫ１３６（SK07）

ＳＫ１３６は３区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.94m・短軸1.2m・深さ0.9mで、断面はすり鉢状である。13世紀中頃を下限とする山茶碗類、土師器、青磁碗などが出土した。

土坑ＳＫ１３７（SK09）

ＳＫ１３７は３区北部で検出した深さ約0.2mの楕円形の土坑である。16世紀を下限とする山茶碗類、土師器、古瀬戸桶、青花皿などが出土した。

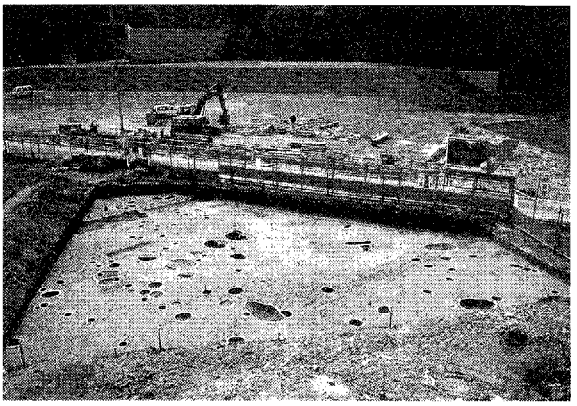
土坑ＳＫ１３８（SK11）

ＳＫ１３８は３区北部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.5m・短軸1.14m・深さ0.2mである。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

《橋脚部４区》

溝ＳＤ４１（SD82）

ＳＤ４１は４区南部で検出した幅1.2～1.8m・深さ約0.2mの東西方向の溝である。底部は平坦であるが、西部の方が緩やかに低くなっている。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器が出土した。



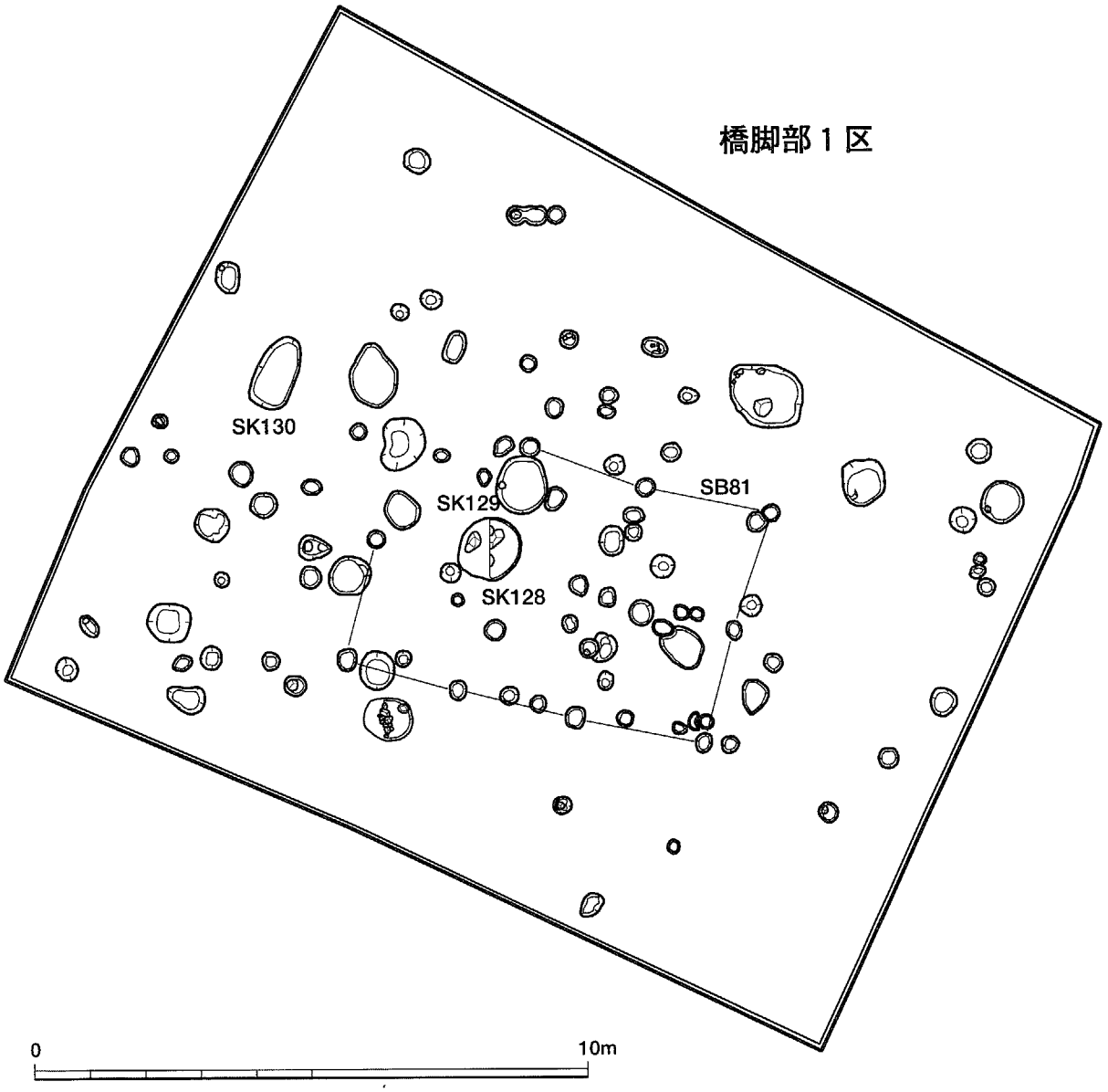
ＳＰ108　川関遺跡橋脚部４区全景（北から）

土坑ＳＫ１３９（SK04）

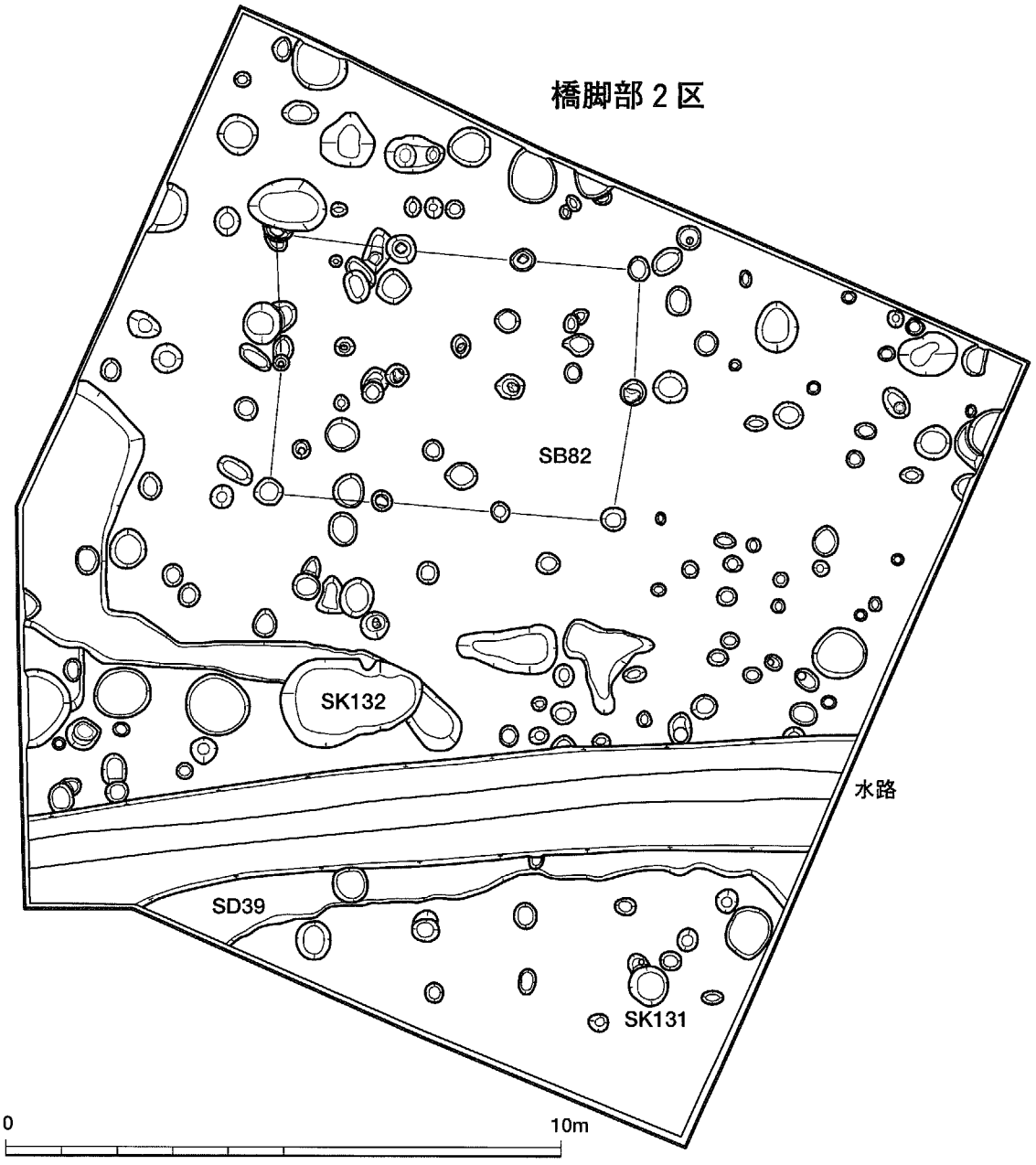
ＳＫ１３９は４区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.2m・短軸1.04m・深さ0.22mである。13世紀初頭頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。

土坑ＳＫ１４０（SK18）

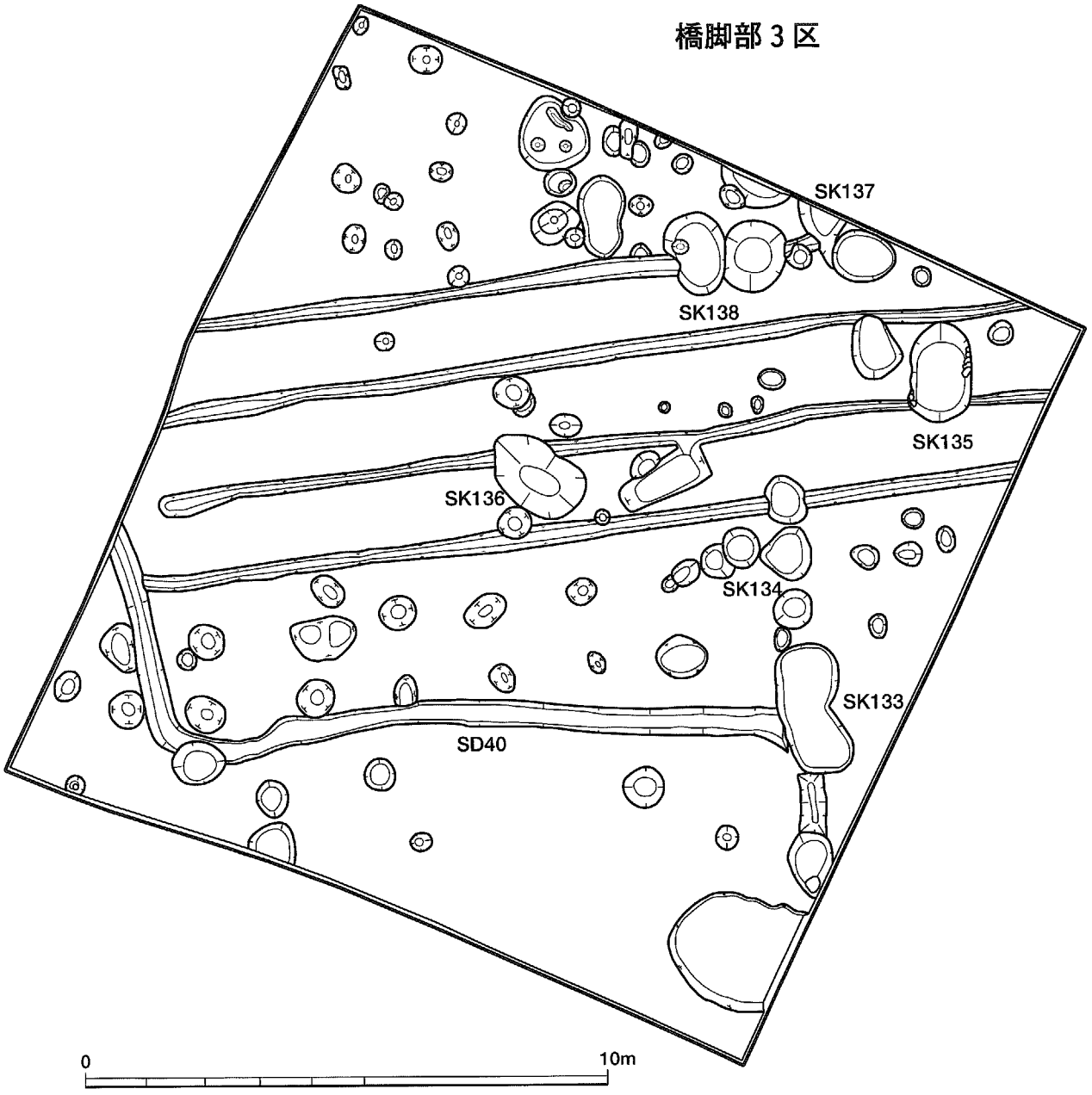
ＳＫ１４０は４区南部で検出した楕円形の土坑である。長軸1.14m・短軸1.02m・深さ0.25mである。20～30cm大の河原石が数石埋まっていた。13世紀前半頃を下限とする山茶碗類、土師器などが出土した。



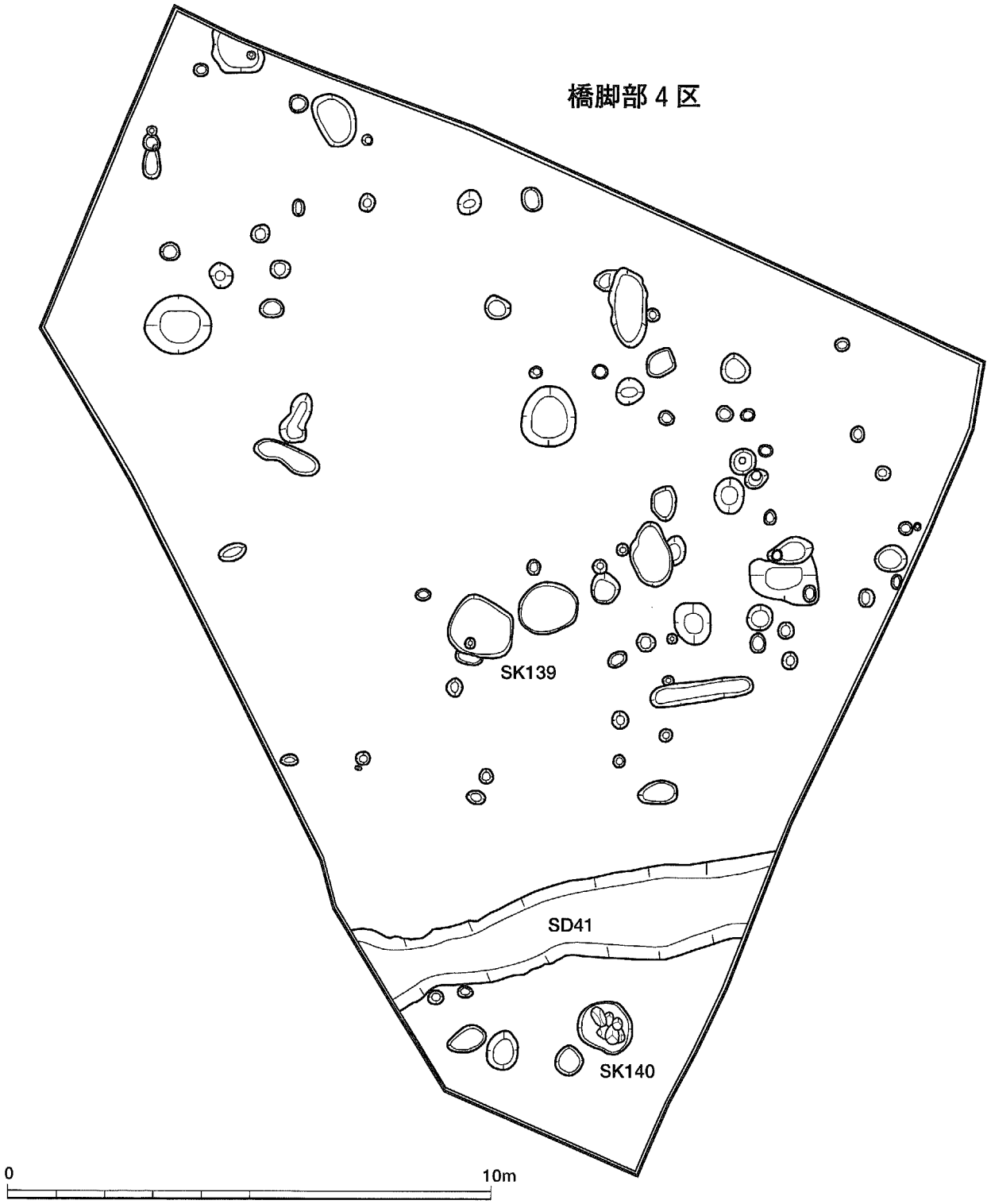
第67図　川関遺跡橋脚部１区遺構図



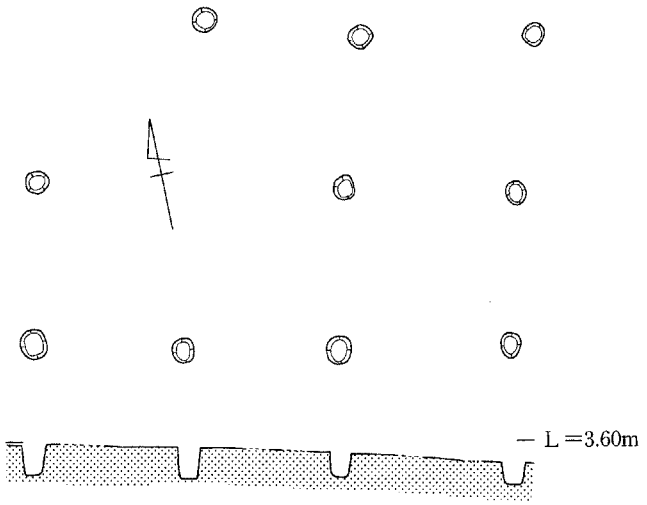
第68図　川関遺跡橋脚部２区遺構図



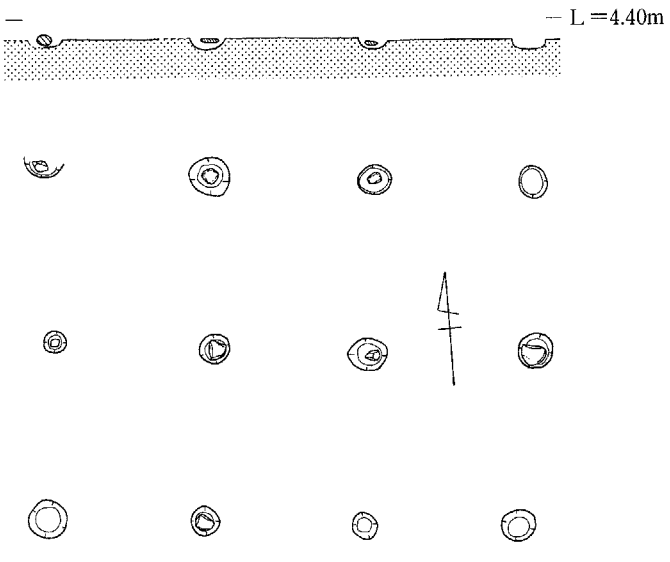
第69図　川関遺跡橋脚部３区遺構図



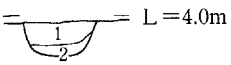
第70図　川関遺跡橋脚部４区遺構図



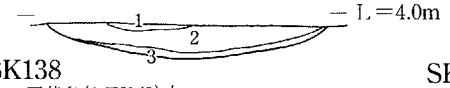
SB81



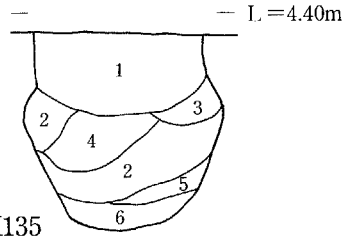
SB82



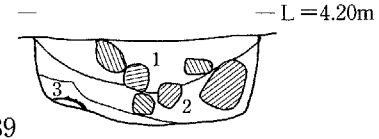
SD40
1．黄褐色(2.5Y5/3)土 炭微量混じる
2．黄褐色(2.5Y5/3)土 地山ブロック土混じる



SK138
1．灰黄色(2.5Y6/2)土
2．暗灰黄色(2.5Y5/2)土 炭微量混じる
3．暗灰黄色(2.5Y5/2)土 地山ブロック土混じる



SK135
1．黄褐色(2.5Y5/4)土 炭微量混じる
2．灰オリーブ色(5Y5/2)土
3．オリーブ褐色(2.5Y4/6)土
4．オリーブ褐色(2.5Y4/4)土
5．オリーブ褐色(2.5Y4/6)土 地山ブロック土混じる
6．オリーブ褐色(5Y6/3)粗砂



SK139
1．灰オリーブ色(2.5Y5/2)砂質土 炭少量混じる
2．灰オリーブ色(2.5Y4/2)土 炭多く混じる
3．灰オリーブ色(2.5Y6/4)土



第71図　川関遺跡橋脚部地区掘立柱建物SB81・82／溝・土坑土層図

第Ⅵ章　考　察　篇

藤倉城跡と川関遺跡の発掘調査地点における歴史的変遷を時代別に概観し、個別事象について論考してみたい。

《概説》

今回の発掘調査地点は、和歌山県東牟婁郡那智勝浦町中村・川関所在の古代末期から近世初頭にかけて営まれた川関遺跡・藤倉城跡である。熊野三山の一つである那智山の表玄関とも言える交通の要衝地にあたり、地政学的には三重県の中心部に近く、東海地域の文化圏と近畿地域の文化圏の狭間に位置していると言えよう。事実、出土遺物の破片数のおよそ7割以上が山茶碗と瀬戸美濃製品を中心とする東海地域からの搬入品である。また戦国時代末期から近世初頭にかけては、東方からは瀬戸美濃、志野の土器、西方からは唐津、備前、中国や朝鮮・東南アジア産の土器がもたらされ、太平洋側の東西土器文化の交流地点である。

今回の発掘調査成果が和歌山県のみならず、三重県や東海地域の歴史像、さらには文献史学の研究にも新たな展望をもたらすことができれば幸いである。発掘調査中および出土遺物整理中にご教示いただいた各分野の研究者の方々にお礼申し上げたい。とりわけ、山茶碗と瀬戸美濃土器の分類には藤澤良祐氏、中近世と海外の土器分類には森村健一氏、城館の構造分析には中井一夫氏と白石博則氏、県内の土器分析に北野亮介氏、地震考古学の分野では寒川旭氏、の各氏には大変お世話になった。

今回の調査で出土遺物の大半を占めるのは、東海地域の山茶碗類である。平安時代末期から鎌倉時代にかけて、生産地域で技術革新が進み大量生産が可能となった。消費地では供給過多ともいえる夥しい量の製品が搬入されており、破片も摩滅しにくく調査現場では顕在化しやすい。一方、遺存率の低い有機質の木製品の椀と皿類や可塑製が高く再利用されやすい鉄製品や青銅製品の出土量は、使用頻度の割には顕在化しにくい可能性がある。この点も考慮して発掘調査地点における歴史像の復元を行なってみたい。

第1節　川関遺跡・藤倉城の変遷について

【1縄文時代後期】

橋脚部2区で縄文時代後期前半の中津式土器の破片がまとまって出土しており、周辺に当該期の遺跡が存在する可能性がある。

【2弥生時代中期～後期】

水田部8西地区で、弥生時代中期の把手付壺や後期の高坏、蛤刃形石斧などが出土しており、周辺に弥生時代の遺跡が存在する可能性がある。

【3古墳時代】

古墳時代では6世紀後半の須恵器の提瓶が1点出している。他に遺構・遺物は認められない。飛鳥

時代から平安時代中期までの遺構・遺物は一部の土器以外は認められない。

【４平安時代後期】

12世紀後半から集落が当地で本格的に営まれ始める。掘立柱建物跡や木枠井戸、溝、土坑などが多数検出された。百台寺式併行期の灰釉陶器や山茶碗の南部系渥美３期の輪花碗や口径が大きめの小碗など、古い型式の土器は北東部の微高地周辺から多く出土する傾向がみられる。このことから、那智川の氾濫を避けて微高地周辺から集落が営まれ始めたことが窺える。

【５鎌倉時代】

平安時代末期から鎌倉時代初めに集落の最盛期を迎える。多数の掘立柱建物や木枠井戸、溝、土坑などが検出され、山茶碗類や瓦器類、土師器などの国産土器と中国製白磁・青磁が多数出土している。山茶碗では渥美や尾張産の４・５期の製品が多数を占める。磁器では口縁が玉縁状のⅣ類白磁碗が顕著である。墨書土器の資料から、那智川左岸の海浜集落が「浜宮」、右岸の川関遺跡周辺は「戌宮」と呼ばれていた可能性がある（第７節参照）。鎌倉時代後期以降は遺物・遺構ともに希薄な状態を呈しており、集落は衰退している。

【６室町時代】

室町時代後期には集落が再び活気をとり戻し、東地区を中心に東西・南北に幅１ｍ前後の溝で区画された屋敷地が成立している。屋敷地は８区画あり、狭いもので約792㎡（240坪）で、広いもので1400㎡（424坪）以上ある。掘建柱建物が集住する共同の集落から、個人が一定の土地を区画して所有する屋敷地へと変貌している。文献資料では文安４（1447）年の那智山実方院米良氏一族の遺産相続の文書に『坂本中村本居屋敷』や『今居タル中村之屋敷』の記述があり、調査地点の周辺の字名『中村』と合致する。検出した屋敷地が実方院関連の『中村屋敷』である可能性が高い（註１）。

川関遺跡の室町時代以降の造営主体者が那智山の有力社家であった実方院であることはほぼ間違いないであろう。出土遺物では瀬戸美濃の灰釉陶器が多く、時期的には大窯１・２期の製品が多い。15世紀末から16世紀初頭に集落は再び盛期を迎えている。

【７戦国時代末期～近世初頭】

藤倉城の山城と館が築かれている。本格的な築造時期は那智川対岸に位置する那智山の塩崎廊之坊の勝山城と戦闘状態となっていく天正元（1573）年前後であろう。水田部には堀が掘削されている。眼前の脅威であった勝山城が天正９（1581）年に堀内氏の軍勢によって陥落した後は、藤倉城は戦国期の城塞からしだいに性格を変え、那智山の表玄関としての接客・饗応の施設として機能していたものと推定される。それ故に江戸幕府による城割り等の破脚を免れたのであろう。藤倉城は西暦1630年頃火災により焼失している。羽柴秀吉の天正13（1585）年の紀州平定後は、海浜部の拠点集落であった天満を中心に港湾施設と宿場町と道路の整備が進んだのではないかと考えられる。藤倉城と川関遺跡周辺は那智山への通過点となり、可耕地面積の極めて少ない当地において水田化されて有効利用されたのであろう。

第２節　藤倉城と勝山城の構造について

【１藤倉城の構造】

藤倉城は標高81ｍの藤倉山山頂部に築かれた本城と、南の尾根上と南東部尾根上に築かれた２つの支城と麓の谷部に段を造成した館部、水田部に掘削された堀からなる大規模な城館跡である。これらの施設は地形を巧みに利用した防御性の高い構造となっている。他の尾根上にも堀切や竪堀、櫓などが築かれており堅固な構えである。陣形の面から言えば鶴翼の型をしている。

本城は急峻な尾根上に築かれており、規模は南北約100ｍ・東西約40ｍで、中央部には大規模な堀切が掘削され南北に分割されている。堀切から切出した石材で石垣と石塁を築いている。南部からの進入路は歩行困難な屏風のように切立った岩盤で、内側には竪堀を掘削し、横に巨石を配している。北部からの進入路には連続する堀切を掘削し、周囲には巨石を配している。

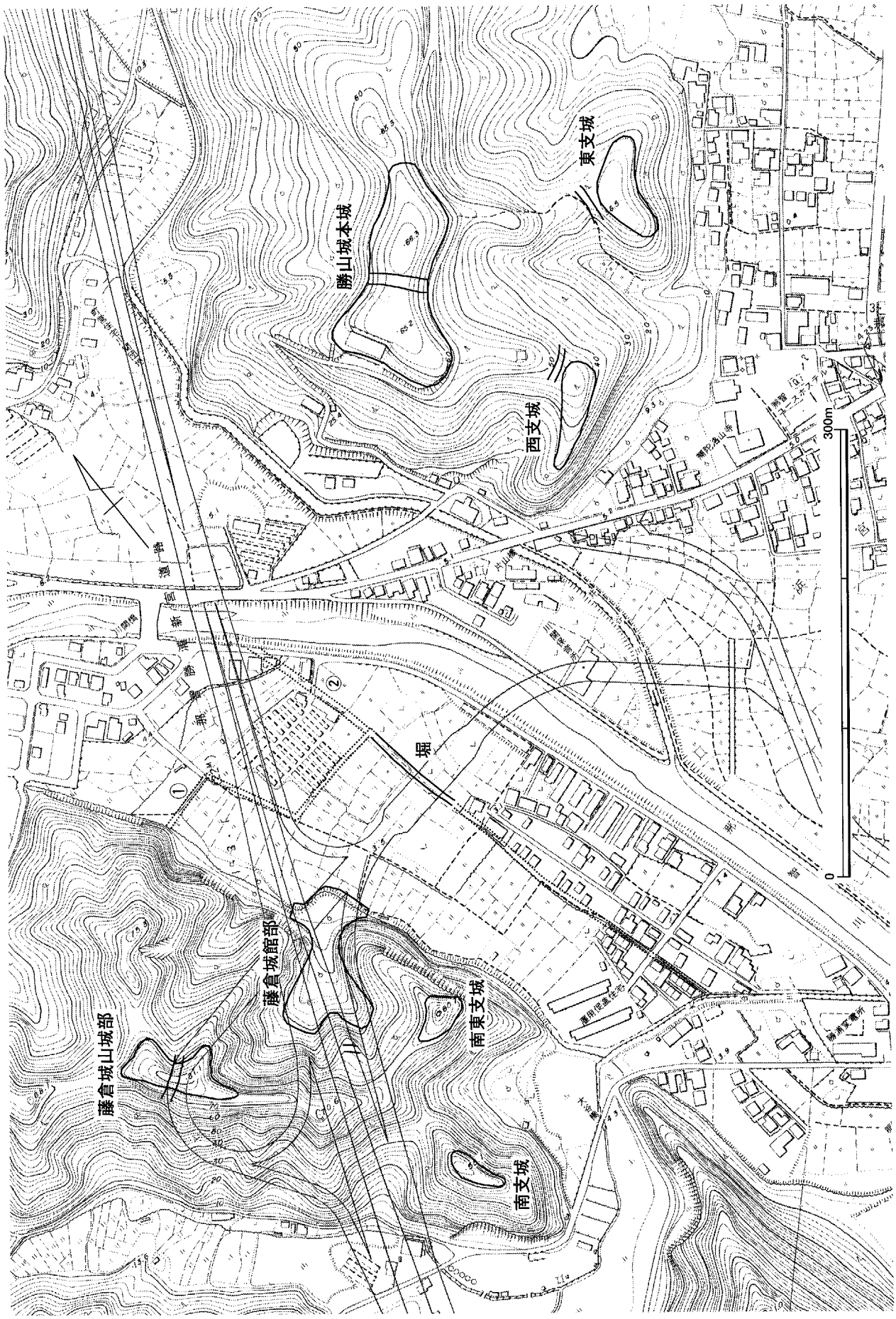
館部は前庭部を方形の土塁で囲み、内側には空堀を掘削している。両側から岩盤がせり出して、間口の狭い場所に高さ約３ｍの石垣を積み、前面には空堀を掘削し、内部には土塀を築いている。山城と館部の石垣は自然石の野面石積みで、隅部などの要所には巨石を配する特徴を示す。勝山城側に正対する西側の最上段には物見櫓状の施設が築かれていた可能性が高い。外部から見通しにくい南側の最上段には４間×３間の茶室が築かれている。井戸は館内と前庭部に１基ずつ掘削され、谷筋には溜桝も掘削され飲料水が確保されている。館を取囲むように本城と２つの支城が築かれ、前面の水田部には堀が掘削されている。これらの諸施設の規模は東西240ｍ・南北260ｍに及んでいる。

【２勝山城の構造】

勝山城は那智勝浦町浜ノ宮の補陀洛山寺北方の勝山と呼ばれている丘陵地に所在する。文献資料では那智山の有力社家廊之坊塩崎氏が築城したと記されており、城館の遺構が現存している。発掘調査は行われていないが、和歌山県城郭研究会の諸氏により現地踏査が行われ、白石博則氏によって縄張図が公表されている（註２）。また、平成８年度に和歌山県教育委員会によって本城部の測量調査が実施されている（註３）。これらの調査成果と現地踏査をもとに、地図上で勝山城の縄張図を復元したのが第73図である。

勝山城は標高約70ｍの尾根上に本城が築かれ、南東の支尾根上と南西の支尾根上に支城が築かれている。本城は尾根中央部に河原石を表面に葺いた幅６～８ｍの大規模な堀切を設けて、東西に分割している。西郭と東郭とする。東郭は顕著な防御施設がみられないため城郭として認識されていない場合もあるが、平坦化された方形区画が存在し、城郭の機能を有していたものと考えられる。西郭は上下２段の曲輪と西側の帯曲輪から構成される。上段は南北約30ｍ・東西約20ｍで、周囲を幅３ｍ前後の土塁が囲み、北西部に井戸が存在する。下段は南北約20ｍ・東西約８ｍで西側に虎口がある。

東部の支城は東西方向のこぶ状の小さな尾根上に連続する３つの曲輪が存在し、堀切で区画されて竪堀がみられる。西側尾根との間には幅３ｍ程の堀切が掘られている。西部の支城は尾根の最高所に南北約10ｍ・東西約14ｍの平坦にならされた曲輪が存在し、西側斜面に堀切で区画された３つの細長い曲輪が続いている。北側と東側の裾部には竪堀と土塁が設けられている。北側の尾根筋とは幅４ｍ



第72図　藤倉城・勝山城城館位置図

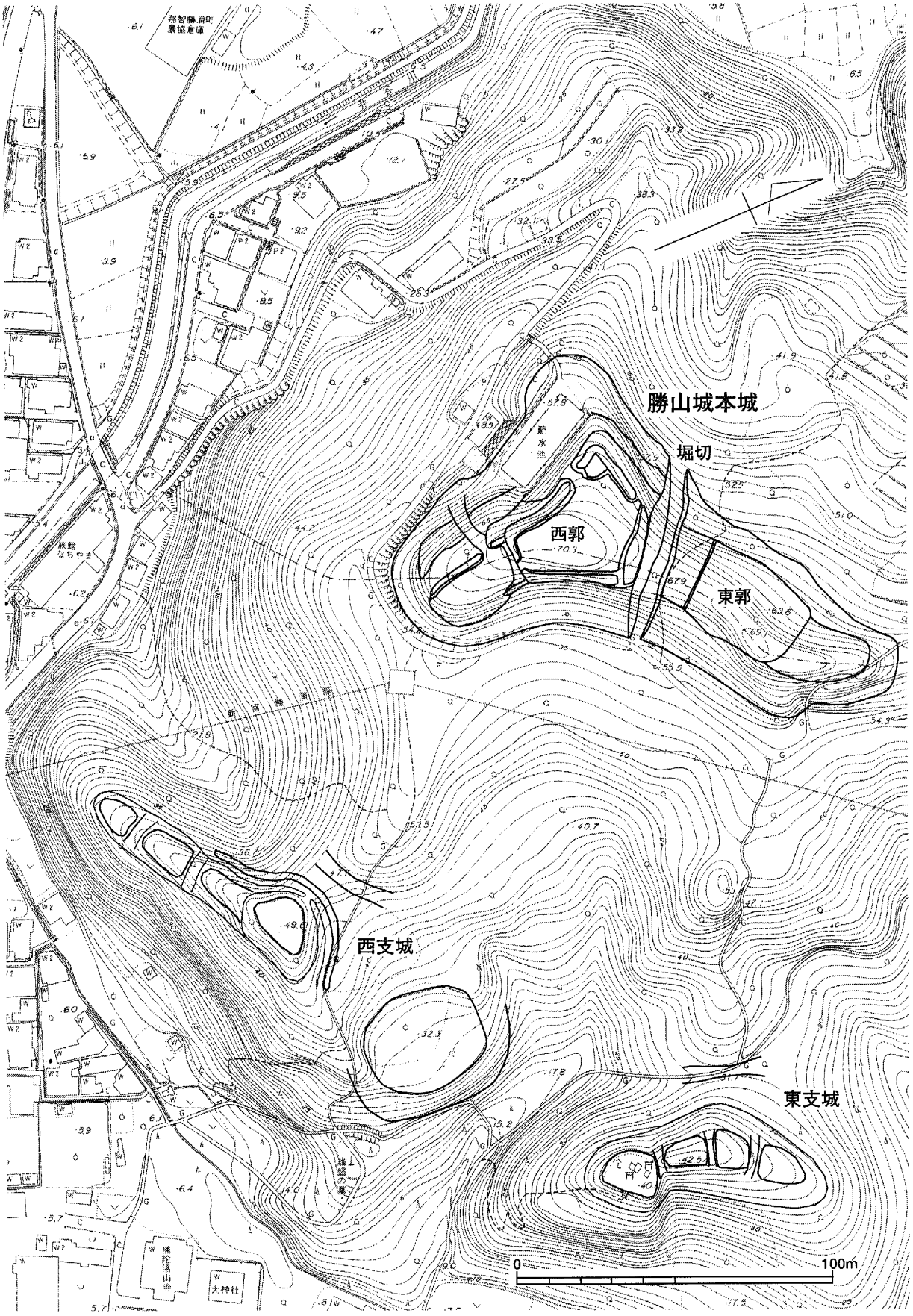
程の堀切が掘削されて分断されている。西支城の東側の谷間には平坦に造成された約30m四方の空間があり、屋敷地ではないかと推定される。勝山城の範囲も東西240m・南北220mと大規模なものである。

【3藤倉城と勝山城「石の城」と「土の城」】

藤倉城と勝山城を比較検討してみたい。両城の位置関係を地図上で表したのが第72図である。藤倉城館部と勝山城本城とは直線距離でわずか300mしか離れていない。那智山の入口部で東西に分かれて覇権争いを行なっていた。

両城では天正年間には戦闘状態にあり、藤倉城方が新宮を拠点とする戦国大名堀内氏と連合し勝利している。藤倉城はその後、1600年の関ヶ原の合戦で後ろ盾としていた堀内氏を失ったが、1605年の慶長南海地震、江戸幕府の1615年の一国一城令による城割りも免れて、1630年頃まで存続している。その間に館部は、出土遺物や石垣の様相から改築されている可能性が高い。勝山城は天正9（1581）年の落城時の遺構だと考えられる。藤倉城と勝山城は同時代に同一地域で、ともに那智山の有力社家が築造したため、類似性が強い。藤倉城は勝山城をモデルとして、築城された可能性が高いのではないかと考えられるのである。本城部の中央に大規模な堀切を掘削して2分割する手法や、隣接する海岸側の支尾根上に出城を築いている点、箱掘状の堀切と虎口の通路部などに類似性がみられる。しかし、象徴的に言えば、藤倉城は「石の城館」で、勝山城は「土の城館」と呼べるだろう。藤倉城は熊野酸性凝灰岩が褶曲作用によって隆起した山塊に立地し、屹立した硬質の岩盤で出来ている。一方、勝山山塊は軟質な岩盤と土砂で出来ている。本城の中央部を大規模な堀切で分割しているのは同一手法であるが、地盤の違いから藤倉城では切出した岩盤で石垣と石塁を築いているのに対して、勝山城では掘削した土砂で土塁を築いている。勝山城方では大型石材の調達は困難で、大規模な石垣や石塁は築かれていない。那智川の河原で入手可能な20～60cm程の丸い河原石を井戸や堀切の葺石に使用している。藤倉城方では発掘調査中にも上部から自然現象で大小の岩石が崩落して来ており、崖面には不安定な巨石が点在して危険であった。重要な部位にはこれらの手近にある巨石が使用されている。館内の石垣ＳＶ０１の隅部の巨石や沓脱ぎ石、門ＳＢ０１の礎石などである。しかしながら、勝山城とは反対に土砂が不足していたと考えられる。このため、防御機能・灌漑機能と併せて水田部に大規模な堀が掘削され、この土砂が館部前庭部の土塁及び段構成土の埋め立てに補充されたのではないかと推定される。堀は地形図から推定すると藤倉山塊の麓から東に延びて、方形区画を成すように折れ曲がり、館部の前面で勝山城側に張り出し、南に延びて、大谷川に接続していたと推定する案①と、そのまま南北に延びており、那智川に堰を造り、取水口としていた案②が考えられる（第72図）。

地形的にみても、藤倉城方の前面は人が登攀不可能な垂直に近い岩盤が切り立っているのに対して、勝山城方は海側になだらかな丘陵で、特に東側の尾根筋からは侵入しやすい。ただし、藤倉城側に面した山裾を井谷川という河川が流れていて堀の役目を果たしている。これに対抗する形でも、藤倉城側にも大規模な堀が掘削されたのであろう。「土の城」勝山城は「石の城」藤倉城に構造的・地形的・政治経済的動向から必然的に敗北している。天正9（1581）年4月29日の勝山城、落城の瞬間である。



第73図　勝山城遺構模式図

第３節　藤倉城跡出土遺物について

藤倉城跡出土土器については、すべての破片について可能な限り個体識別を行い、器種別、地区別に分類した。ただし、隣接する水田部の川関遺跡に帰属すると考えられる山茶碗埋納土坑などの出土遺物については除外した。また小破片については限界があり、とりわけ、土師器や白磁などについてはある程度の誤差があると思われるが、全体的な傾向は把握できたものと考えている。藤倉城出土遺物の分類地区名は、土器の出土地点の注記をもとに発掘調査時の地区名で行ったので、奥から谷Ａ区として、入口部が谷Ｈ区である。報告書文章の記述とは反対になるので留意願いたい。遺物の大部分は谷Ｄ区と谷Ａ区の黒灰色焼土層と谷Ｃ区の段構成土から出土している（第９図参照）。

【１瀬戸美濃・志野・織部】

藤倉城跡出土の瀬戸美濃系土器の個体数は382点で、器種ごとに地区別にまとめたのが表３である。また、時期別にまとめたのが表４～６である。藤倉城における瀬戸美濃系土器の特色を探ってみたい。

志野は127点で約33.3%、天目茶碗は110点で約28.8%、鉄釉陶器は60点で約15.7%、灰釉陶器は73点で約19.1%、織部は１点で約0.3%である。全体的な傾向として皿類では志野が多く、天目茶碗の占める割合が約３割と異常な高さを示す。鉄釉摺鉢も37点と１割近い高比率である。地区別では主屋が存在した谷Ｄ区が約54.7%と過半数を占め、谷Ｃ区約13.6%、谷Ａ区約9.4%と続いている。谷Ｃ区では段構成土に多数の遺物が含まれており、遺物包含層はすべて調査した。やや時期の古い鉄釉陶器や灰釉陶器が多く、志野は少ない。天正の戦時後に館を改築した際に、谷Ｄ区の古い時期の遺物を含んだ土砂を谷Ｃ区の方に掻き上げて埋立てたものと推定される。志野は谷Ｄ区に集中しており、105点（82.7%）出土している。谷Ａ区には茶室と推定される４間×３間の掘立柱建物が存在していたが、出土遺物もそれを物語っている。瀬戸美濃系土器36点のうち、小天目茶碗６点を含む天目茶碗が22点（61.1%）と圧倒的多数を占め、鉄釉燭台・灰釉筒形香炉・錆釉花瓶など茶室に相応しい土器が出土している。

時期別にみてみると、天目茶碗は古瀬戸の後Ⅲ期が１点、後Ⅳ期が10点、大窯１期が11点、大窯２期が10点、大窯３期が７点、大窯４期が13点、と14世紀中頃から17世紀初頭まで平均的に継続してみられ、連房式登窯製品の１小期から２小期が45点と増加している。小天目茶碗は15世紀中頃の後Ⅳ古期から16世紀前半の大窯２期のものである。鉄釉摺鉢も15世紀中頃の後Ⅳ古期から連房式の３小期の17世紀前半まで継続してみられる。灰釉の端反皿は16世紀前半、丸皿は16世紀中頃、内禿皿は16世紀後半に多くみられ、16世紀末から志野皿が大量に増加している。志野皿は大窯４期のものが９点みられるが、他は１小期を中心とする連房式登窯製品である。

【２肥前系陶器】

藤倉城跡出土の肥前系陶器の個体数は213点で、器種ごとに地区別にまとめたのが表７である。

種類別の個体数は皿が112個体で約52.6%、碗が46個体で約21.6%、向付が30個体で約14.1%、鉢が７個体で約3.3%、壺が７個体で約3.3%、徳利が５個体で約2.4%である。器種は多種多様であるが、皿類の重ね焼痕はほとんどが胎土目痕で、砂目痕の皿はわずかに数点のみである。年代的特徴を顕著

表3 藤倉城跡瀬戸美濃系土器地区別個体数表

	器種	個体数	全器種別比率C	個体数	全系統別比率D	谷A		谷B		谷C		谷D		谷E		谷F		谷G		谷H	
						個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率
1	志野丸皿	101	26.44			1	0.99			3	2.97	87	86.14	2	1.98	1	0.99	1	0.99	6	5.94
2	志野輪禿皿	3	0.79									3	100.00								
3	志野向付	7	1.83									6	85.71							1	14.29
4	志野丸椀	2	0.52	127	33.25							2	100.00								
5	志野茶碗	2	0.52							1	50.00	1	50.00								
6	志野小碗	1	0.26																	1	100.00
7	鉄絵皿	11	2.88							2	18.18	6	54.55	2	18.18					1	9.09
8	天目茶碗	99	25.92			16	16.16	4	4.04	15	15.15	45	45.45	6	6.06	4	4.04	4	4.04	5	5.05
9	小天目茶碗	10	2.62	110	28.80	6	60.00			2	20.00									2	20.00
10	白天目茶碗	1	0.26									1	100.00								
11	鉄釉摺鉢	37	9.69			3	8.11			4	10.81	15	40.54	1	2.70	2	5.41	3	8.11	9	24.32
12	鉄釉丸皿	2	0.52							1	50.00			1	50.00						
13	鉄釉端反皿	1	0.26							1	100.00										
14	鉄釉稜皿	2	0.52							1	50.00	1	50.00								
15	鉄釉内禿皿	3	0.79	60	15.71					2	66.67									1	33.33
16	鉄釉輪禿皿	1	0.26											1	100.00						
17	鉄釉丸碗	11	2.88									8	72.73	1	9.09	1	9.09			1	9.09
18	鉄釉燭台	3	0.79			3	100.00														
19	灰釉丸皿	16	4.19			1	6.25			3	18.75	7	43.75			1	6.25	3	18.75	1	6.25
20	灰釉端反皿	12	3.14							1	8.33	6	50.00	1	8.33	2	16.67	1	8.33	1	8.33
21	灰釉稜皿	9	2.36			1	11.11			5	55.56	2	22.22							1	11.11
22	灰釉内禿皿	17	4.45			2	11.76			6	35.29	6	35.29	1	5.88					2	11.76
23	灰釉輪禿皿	2	0.52																	2	100.00
24	灰釉腰折皿	1	0.26							1	100.00										
25	灰釉折縁皿	1	0.26											1	100.00						
26	灰釉直縁大皿	1	0.26																	1	100.00
27	灰釉丸碗	2	0.52	73	19.11					1	50.00	1	50.00								
28	灰釉小碗	1	0.26									1	100.00								
29	灰釉小鉢	1	0.26							1	100.00										
30	灰釉壺・瓶	1	0.26									1	100.00								
31	灰釉盤類	1	0.26																	1	100.00
32	灰釉筒形香炉	6	1.57			1	16.67			1	16.67	1	16.67					2	33.33	1	16.67
33	灰釉筒形容器	1	0.26									1	100.00								
34	灰釉燭台	1	0.26									1	100.00								
35	織部花生	1	0.26	1	0.26							1	100.00								
36	黄瀬戸内禿皿	2	0.52									2	100.00								
37	黄瀬戸輪禿皿	2	0.52	5	1.31							2	100.00								
38	黄瀬戸丸碗	1	0.26											1	100.00						
39	錆釉花瓶	4	1.05	4	1.05	1	25.00	1	25.00	1	25.00	1	25.00								
40	脚付浅鉢	1	0.26	1	0.26							1	100.0								
41	不明	1	0.26	1	0.26	1	100.00														
		382		382		36	9.42	5	1.31	52	13.61	209	54.71	18	4.71	11	2.88	14	3.66	37	9.69

表4 藤倉城跡瀬戸美濃系土器時期別個体数表1

地区	器種	数	地区別比率A	器種別比率B	年代	1450			1480			1530			1560			1590			1610											
					～後Ⅲ期	後Ⅳ古	～	後Ⅳ新	～	大Ⅰ前	～	大Ⅰ後	～	大Ⅱ前	～	大Ⅱ後	～	大Ⅲ前	～	大Ⅲ後	～	大Ⅳ前	～	大Ⅳ後	～	大Ⅳ末	～	Ⅰ期	～	Ⅱ期	～	Ⅲ期	不明
谷D	志野丸皿	87	41.63	86.14																		8				27	33	12	2	5	
	志野輪禿皿	3	1.44	100.00																							3				
	志野向付	6	2.87	85.71																		5						1			
	志野丸椀	2	0.96	100.00																						2					
	志野茶碗	1	0.48	50.00																		1									
	鉄絵皿	6	2.87	54.55																		2				4					
	天目茶碗	45	21.53	45.45	後Ⅲ期1			5			3				2				1			1				8	12	3	Ⅰ～Ⅲ期8		
	白天目茶碗	1	0.48	100.00																								1			
	鉄釉摺鉢	15	7.18	40.54				3												2					5		2	1				2
	鉄釉稜皿	1	0.48	50.00																											
	鉄釉丸碗	8	3.83	72.73																						1	6	1			
	灰釉丸皿	7	3.35	43.75										4				1													2
	灰釉端反皿	6	2.87	50.00							4																				2
	灰釉稜皿	2	0.96	22.22	後Ⅰ～Ⅱ期1																1										
	灰釉内禿皿	6	2.87	35.29																1	5										
	灰釉丸碗	1	0.48	50.00																1											
	灰釉小碗	1	0.48	100.00																	1										
	灰釉壺・瓶	1	0.48	100.00			1																								
	灰釉筒形香炉	1	0.48	16.67							1																				
	灰釉筒形容器	1	0.48	100.00																		1									
	灰釉燭台	1	0.48	100.00	後Ⅲ～Ⅳ期1																										
	織部花生	1	0.48	100.00																						1					
	黄瀬戸内禿皿	2	0.96	100.00																	2										
	黄瀬戸輪禿皿	2	0.96	100.00																	2										
	錆釉花瓶	1	0.48	25.00								1																			
	脚付浅鉢	1	0.48	25.00																							1				
		209	54.71																												
谷A	志野丸皿	1	2.78	0.99												1										1					
	天目茶碗	16	44.44	16.16				3			2					1			1			1		4			1	3				
	小天目茶碗	6	16.67	60.00				1			5																				
	鉄釉摺鉢	3	8.33	8.11										1								1									1
	鉄釉燭台	3	8.33	100.00			3																								
	灰釉丸皿	1	1.39	6.25																											
	灰釉端反皿		1.39																												1
	灰釉稜皿	1	2.78	11.11										1																	
	灰釉内禿皿	2	5.56	11.76																2											
	灰釉筒形香炉	1	2.78	16.67														1													
	錆釉花瓶	1	2.78	25.00								1																			
	不明	1	2.78	100.00																											1
		36	9.42																												

表5 藤倉城跡瀬戸美濃系土器時期別個体数表2

地区	器種	数	地区別比率A	器種別比率B	年代	1450			1480				1530				1560				1590				1610									
					～後Ⅲ期		後Ⅳ古	～	後Ⅳ新	～	大Ⅰ前	～	大Ⅰ後	～	大Ⅱ前	～	大Ⅱ後	～	大Ⅲ前	～	大Ⅲ後	～	大Ⅳ前	～	大Ⅳ後	～	大Ⅳ末	～	Ⅰ期	～	Ⅱ期	～	Ⅲ期	不明
谷C	志野丸皿	3	5.77	2.97																				1				2					
	志野茶碗	1	1.92	50.00																				1									
	鉄絵皿	2	3.85	18.18																				1				1					
	天目茶碗	15	28.85	15.15							2			1		4			1				3					1		2			1
	小天目茶碗	2	3.85	20.00					1					1																			
	鉄釉摺鉢	4	7.69	10.81															1		1						1						1
	鉄釉稜皿	1	1.92	50.00												1																	
	鉄釉丸皿	1	1.92	100.00												1																	
	鉄釉端反皿	1	1.92	50.00										1																			
	鉄釉内禿皿	2	3.85	66.67															1		1												
	灰釉丸皿	3	5.77	18.75											1	2																	
	灰釉端反皿	1	1.92	8.33							1																						
	灰釉稜皿	5	9.62	55.56																		2	3										
	灰釉内禿皿	6	11.54	35.29																	3	2	1										
	灰釉腰折皿	1	1.92	100.00					1																								
	灰釉丸碗	1	1.92	50.00																										1			
	灰釉小鉢	1	1.92	100.00																													
	灰釉筒形香炉	1	1.92	16.67			1																										
	錆釉花瓶	1	1.92	25.00									1																				
		52	13.61																														
谷B	天目茶碗	4	80.00	4.04							1				1									1					1				
	錆釉花瓶	1	20.00	25.00									1																				
		5	1.31																														
谷E	志野丸皿	2	11.11	1.98																								2					
	鉄絵皿	2	11.11	18.18																								1				1	
	天目茶碗	6	33.33	6.06					1		2						1											1					1
	鉄釉摺鉢	1	5.56	2.70																												1	
	鉄釉丸皿	1	5.56	50.00															1														
	鉄釉輪禿皿	1	5.56	100.00																	1			1									
	鉄釉丸碗	1	5.56	9.09																													
	灰釉丸皿	1	2.78	8.33																													1
	灰釉端反皿		2.78																														
	灰釉内禿皿	1	5.56	5.88																	1												
	灰釉折縁皿	1	5.56	100.00																			1										
	黄瀬戸丸碗	1	5.56	100.00																	1												
		18	4.71																														

表6 藤倉城跡瀬戸美濃系土器時期別個体数表3

地区	器種	数	全器種別比率C		年代	1450				1480			1530				1560			1590				1610										
					～後Ⅲ期		後Ⅳ古	～	後Ⅳ新	～	大Ⅰ前	～	大Ⅰ後	～	大Ⅱ前	～	大Ⅱ後	～	大Ⅲ前	～	大Ⅲ後	～	大Ⅳ前	～	大Ⅳ後	～	大Ⅳ末	～	Ⅰ期	～	Ⅱ期	～	Ⅲ期	不明
谷	志野丸皿	1	9.09	0.99																								1					
谷	天目茶碗	4	36.36	4.04																1	1	1	1										
谷	鉄釉摺鉢	2	18.18	5.41								1													1								
谷	鉄釉丸碗	1	9.09	9.09																								1					
F	灰釉丸皿	1	9.09	6.25										1																			
F	灰釉端反皿	2	18.18	16.67							1																						1
		11	2.88																														
谷	志野丸皿	1	7.14	0.99																								1					
谷	天目茶碗	4	28.57	4.04					1			1											1									1	
谷	鉄釉摺鉢	3	21.43	8.11							1																						2
G	灰釉丸皿	3	21.43	18.75										1	1	1																	
G	灰釉端反皿	1	7.14	8.33										1																			
G	灰釉筒形香炉	2	14.29	33.33							1			1																			
		14	3.66																														
谷	志野丸皿	6	16.22	5.94																								1	4	1			
谷	志野小碗	1	2.70	14.29																								1					
谷	志野向付	1	2.70	100.00																				1									
谷	鉄絵皿	1	2.70	9.09																								1					
谷	天目茶碗	5	13.51	5.05															1				2						1	1			
谷	小天目茶碗	2	5.41	20.00					1		1																						
谷	鉄釉摺鉢	9	24.32	24.32							1								2		1		1					1					3
谷	鉄釉丸碗	1	2.70	33.33																													
谷	鉄釉内禿皿	1	2.70	9.09															1														
谷	灰釉丸皿	1	2.70	6.25																	1												
谷	灰釉端反皿	1	2.70	8.33																	1												
H	灰釉稜皿	1	2.70	11.11																			1										1
H	灰釉内禿皿	2	5.41	11.76																	1		1										
H	灰釉輪禿皿	2	5.41	100.00																			2										
H	灰釉直縁大皿	1	2.70	100.00	後Ⅰ～Ⅱ期1																												
H	灰釉盤類	1	2.70	100.00	中Ⅰ～Ⅱ期1																												
H	灰釉筒形香炉	1	2.70	16.67										1																			
		37	9.69																														
	天目茶碗	99	25.92		1		10				11			10				7			13							12	22	11			2
	小天目茶碗	10	2.62				3				6			1																			
	鉄釉摺鉢	37	9.69				3				3			1				7			9							3	1			1	9
	灰釉丸皿	16	4.19								1			13				2															
	灰釉内禿皿	17	4.45															8			9												
	灰釉端反皿	12	3.14								6			1				1															4
	志野丸皿	101	26.44																		9							32	40	13	2	5	

表7 藤倉城跡肥前系陶器地区別個体数表

	器種	個体数	全器種別比率C	個体数	全系統別比率D	谷A		谷B		谷C		谷D		谷E		谷F		谷G		谷H	
						個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率
1	中丸皿	38	17.84	112	52.58	1	2.63	1	2.63	2	5.26	23	60.53	1	2.63	2	5.26			8	21.05
2	腰折皿	32	15.02					2	6.25	3	9.38	25	78.13							2	6.25
3	輪花皿	11	5.16							3	27.27	8	72.73								
4	朝鮮唐津輪花皿	1	0.47																	1	100.00
5	溝縁口縁皿	5	2.35									5	100.00								
6	砂目溝縁口縁皿	1	0.47									1	100.00								
7	砂目腰折皿	2	0.94									2	100.00								
8	絵唐津中皿	2	0.94							1	50.00	1	50.00								
9	内禿中皿	1	0.47																	1	100.00
10	四方皿	1	0.47							1	100.00										
11	大皿	11	5.16							1	9.09	10	90.91								
12	絵唐津大皿	2	0.94									2	100.00								
13	朝鮮唐津大皿	4	1.88									2	50.00					1	25.00	1	25.00
14	黒唐津大皿	1	0.47									1	100.00								
15	茶碗	21	9.86	46	21.60							14	66.67	1	4.76	2	9.52	2	9.52	2	9.52
16	皮鯨茶碗	1	0.47									1	100.00								
17	絵唐津茶碗	2	0.94									1	50.00			1	50.00				
18	天目形茶碗	4	1.88									2	50.00					2	50.00		
19	平茶碗	13	6.10							1	7.69	9	69.23	1	7.69	2	15.38				
20	皮鯨平茶碗	4	1.88									4	100.00								
21	斑絵唐津筒茶碗	1	0.47			1	100.00														
22	向付A	12	5.63	30	14.08							12	100.00								
23	向付B	13	6.10							1	7.69	12	92.31								
24	向付C	2	0.94									2	100.00								
25	向付D	3	1.41									3	100.00								
26	鉢	2	0.94	7	3.29							2	100.00								
27	絵唐津鉢	4	1.88									4	100.00								
28	黒唐津鉢	1	0.47									1	100.00								
29	黒唐津盤	1	0.47	2	0.94							1	100.00								
30	絵唐津盤	1	0.47							1	100.00										
31	壺	2	0.94	7	3.29			1	50.00	1	50.00										
32	絵唐津壺	2	0.94																	2	100.00
33	黒唐津壺	2	0.94			1	50.00			1	50.00										
34	朝鮮唐津壺	1	0.47					1	100.00												
35	徳利	2	0.94	5	2.35							2	100.00								
36	染付徳利	1	0.47									1	100.00								
37	朝鮮唐津徳利	1	0.47									1	100.00								
38	黒唐津徳利	1	0.47																	1	100.00
39	鍋	1	0.47	1	0.47	1	100.00														
40	朝鮮唐津水指	1	0.47	1	0.47					1	100.00										
41	香炉	2	0.94	2	0.94					1	50.00	1	50.00								
		213	100.00	213	100.00	4	1.88	5	2.35	18	8.45	153	71.83	3	1.41	7	3.29	5	2.35	18	8.45

に示している。地区別では谷D区が約71.8%と圧倒的多数を占め、谷C区と谷H区が約8.5%、谷F区が約3.3%と続いている。

【3 土師器類】

藤倉城跡出土の土師器類の個体数は172点である。表9に器種ごとに地区別にまとめている。土師器は、南伊勢系土器、畿内系土器、播磨系土器に大別される。在地では土器生産を行っていない。

種類別の個体数は皿が多数を占め、97個体で約56.4%であり、内訳は南伊勢系皿が74個体（76.3%）で、畿内系皿が23個体（23.7%）である。土堝と焙烙類は72個体が出土しており41.9%を占める。内訳は南伊勢系土堝・焙烙が41個体（56.9%）で、畿内系土堝が6個体（8.3%）で、播磨系土堝は25個体（34.7%）である。他には、南伊勢系十能の注口部と坩堝、焼塩壺蓋が1点ずつ出土している。

地区別では谷D区が約57.0%と多数を占め、谷C区が17.4%、谷H区が約7.0%、谷F区が約5.2%と続いている。谷A区は約1.7%と極端に少ない。

このように、藤倉城では土師器類は南伊勢系の土器が主流を占め、土鍋では播磨系土器が3割強を占めている。

【4 青花】

藤倉城跡出土の青花の個体数は144点である。器種ごとに地区別にまとめたのが表8である。器種設定は基本的に小野正敏氏の分類基準（註4）に従ったが、16世紀末以降にみられる粗製の陶器質の胎土で、内底面の釉を輪状に掻き取るものが多い碗と皿を鈴木秀典氏の分類案（註5）によってG群とし、小坏は森毅氏の分類案（註6）に従った。

青花の器種別の割合は、碗は46個体で約31.9%、皿が91個体で約63.2%、小坏が7個体で約4.9%である。それぞれの器種の内訳は碗では、C群（6個体）・D群（0個体）・E群（1個体）・F群（35個体）・G群（4個体）で、皿ではB1群（25個体）・C群（4個体）・B2群（4個体）・E群（48個体）・F群（1個体）・G群（9個体）、小坏はI類（7個体）である。碗F群（24.3%）・皿B1群（17.4%）・皿E群（33.3%）が多数を占める。土器の年代観からすると、C群の碗やB2群の皿など、15世紀末から16世紀中頃に盛行する古いタイプの青花類が比較的多くみられるのに対して、16世紀中頃から後半にみられる碗E類と皿B2類は少ない。また、他の土器類と同様に、16世紀末から17世紀初め頃の碗F群と皿E群が主流を占め、G群の碗と皿もやや多い。

地区別では谷D区が約40.3%と多数を占め、谷A区が21.5%、谷C地区が約17.4%、谷F区が約7.6%と続いており、他の土器類と比較すると谷A区の比率が高い。

【5 白磁・青磁】

藤倉城跡出土の中国製白磁の個体数は88点で、青磁の個体数は31点である。朝鮮製磁器と推定される土器は16点である。器種ごとに地区別にまとめたのが表8である。

中国製白磁の種類別の個体数は皿が多数を占め、72個体で約81.8%、碗が8個体で約9.1%、小坏が6個体で約6.8%、鉢が2個体で約2.3%である。端反皿が54個体で全体の約61.4%を占めている。地区別では谷D区が約46.6%と多数を占め、谷C区が25.0%、谷A区が約10.2%、谷H区が約6.8%と続いて

表8 藤倉城跡青花・白磁・青磁地区別個体数表

		器種	個体数	全器種別比率C	個体数	全系統別比率D	谷A		谷B		谷C		谷D		谷E		谷F		谷G		谷H	
							個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率
1	青花	青花碗C群	6	4.17	46	31.94	1	16.67	1	16.67			2	33.33					2	33.33		
2		青花碗D群	0	0.00																		
3		青花碗E群	1	0.70									1	100.00								
4		青花碗F群	35	24.31			6	17.14			5	14.29	8	22.86	1		6	17.14	5	14.29	4	11.43
5		青花碗G群	4	2.78			3	75.00							1	25.00						
6		青花皿B1群	25	17.36	91	63.19	2	8.00			6	24.00	15	60.00	1	4.00	1	4.00				
7		青花皿C群	4	2.78			1	25.00			1	25.00	1	25.00	1	25.00						
8		青花皿B2群	4	2.78			1	25.00			2	50.00	1	25.00								
9		青花皿E群	48	33.33			14	29.17			6	12.50	22	45.83			4	8.33			2	4.17
10		青花皿F群	1	0.70			1	100.00														
11		青花皿G群	9	6.25			2	22.22	1	11.11	2	22.22	4	44.44								
12		青花小坏	7	4.86	7	4.86					3	42.86	4	57.14								
		小計	144	100.00	144	100.00	31	21.53	2	1.39	25	17.36	58	40.28	4	2.78	11	7.64	7	4.86	6	4.17
1	中国製白磁	端反皿E−2b	23	26.14	72	81.81	4	17.39			9	39.13	8	34.78	1	4.35	1	4.35				
2		端反皿E−2	31	35.23			1	3.23			1	3.23	22	70.97			2	6.45	1	3.23	4	12.90
3		稜花皿E−2	3	3.41							2	66.67			1	33.33						
4		碁笥底皿E−3	1	1.14			1	100.00														
5		丸皿E−1	3	3.41							1	33.33	1	33.33					1	33.33		
6		菊皿E−4	1	1.14																	1	100.00
7		皿 D	8	9.09							4	50.00	3	37.50							1	12.50
8		皿 B	1	1.14			1	100.00														
9		小皿E−2	1	1.14									1	100.00								
10		端反碗E−2	2	2.27	8	9.09							2	100.00								
11		碗E−3	1	1.14							1											
12		碗 B	1	1.14									1	100.00								
13		型押印花碗	1	1.14									1	100.00								
14		碗Ⅳ類	1	1.14			1	100.00											2	100.00		
15		碗Ⅴ類	2	2.27															1	16.67		
16		小 坏	6	6.82	6	6.82	1	16.67			2	33.33	2	33.33								
17		水 注	2	2.27	2	2.27					2	100.00										
		小計	88		88	100.00	9	10.23			22	25.00	41	46.59	2	2.27	3	3.41	5	5.68	6	6.82
1	中国製青磁	菊 皿	8	25.81	8	25.81	1	12.50	1	12.50	2	25.00	4	50.00								
2		碗 A	6	19.35	14	45.16	1	16.67			1	16.67	1	16.67	2	33.33					1	16.67
3		碗B−1	1	3.23									1	100.00								
4		碗B−2	3	9.68							1	33.33	1	33.33							1	33.33
5		碗無文	4	12.90									2	50.00							2	50.00
6		盤	6	19.35	6	19.35	1	16.67					1	16.67	1	16.67	2	33.33			1	16.67
7		壺	2	6.45	2	6.45	1	50.00	1	50.00												
8		香 炉	1	3.23	1	3.23	1	100.00														
		小計	31		31	100.00	5	16.13	2	6.45	4	12.90	10	32.26	3	9.68	2	6.45			5	16.13
1	朝鮮製白磁	青灰色釉碗	1	6.67	2	13.33					1	100.00										
2		青灰色釉皿	1	6.67															1	100.00		
3		皿E−2	9	60.00	13	86.67					3	33.33	4	44.44	2	22.22						
4		中 皿	1	6.67							1	100.00										
5		碗	3	20.00							1	33.33	2	66.67								
		小計	15		15	100.00					6	40.00	6	40.00	2	13.33			1	6.67		
1		朝鮮製青磁碗	1	100.00	1	100.00					1	100.00										
		小計	1		1	100.00					100.00											

いる。他の土器類と比較して谷Ｃ区の比率が高い。

中国製青磁の種類別の個体数は碗が14個体で約45.2%、菊皿が８個体で約25.8%、盤が６個体で約19.4%、壺・鉢が２個体で約6.5%、香炉が１個体で約3.2%である。地区別では谷Ｄ区が約32.3%、谷Ａ区と谷Ｈ区が約16.1%、谷Ｃ区が約12.9%と続いており、分散傾向がみられる。

【６外国産の陶磁器】

藤倉城跡からは、和歌山県下ではあまり類例のない外国産の陶磁器が何点か出土している。その概要について記す。

322はタイ製の四耳壺である。破片が約１／３程度しかなく、正確な大きさは不明であるが、器高約56cm・口径と底径はともに22cm前後である。タイのノイ川窯系で、16世紀末から17世紀初頭頃の壺だと考えられる。底部から直線状に体部が延び、肩部は張っている。頸基部と耳の接合部には１条と３条の沈線が廻る。体部外面上半にはオリーブ灰色の釉がかかり、断面は暗赤褐色である。内外面には幅３cm前後のケズリ痕がみられる。187はベトナム産の可能性が高い水指である。内外面は赤褐色で、断面はにぶい赤褐色である。胎土には１～３㎜ほどの白い石粒と茶褐色の石粒が少量混入する。焼成堅緻で、内外面にはロクロ痕がみられ、体部はややふくらんでいる。223はベトナム産の可能性が高い壺である。同一個体と考えられる破片が数点あり、併せて記述する。外面は明赤褐色で、内面はにぶい橙色で、断面は赤褐色である。胎土には１㎜ほどの白い石粒と茶褐色の石粒が少量混入し、白い石粒が融解して部分的に白斑状を呈する。焼成堅緻で、体部内面上部には青海波文状の当具痕がみられる。肩部には１条の凸線が廻る。底径は約17cmで、底部には白い微細な砂粒が全面に付着する。399は朝鮮半島製だと考えられる甕である。体部の厚さは約３㎜で、焼成堅緻で、非常に硬質である。内外面は浅黄色で、口縁部と断面はにぶい赤褐色を呈する。口縁部は水平に短く外反し、端部は垂下する。外面はタタキ整形後ナデられ、体部内面上部には青海波文状の当具痕がみられる。体部外面には幅２㎜程の沈線が２条廻る。400は399と同類の朝鮮半島製だと考えられる甕である。体部の厚さは約３～５㎜で、焼成堅緻で、硬質である。整形調整技法は399と同様であるが、口縁はくの字状に上方に短く外反し、部分的に淡黄緑色の釉がみられる。401も399や400と同類の朝鮮半島製だと考えられる甕である。体部の厚さは約３㎜で、焼成堅緻で、非常に硬質である。外面は光沢のある暗緑灰色～にぶい赤褐色の釉がかかり、口縁と内面は浅黄灰色で、断面はにぶい赤褐色を呈する。口縁部はくの字状に短く外反し、端部を折り返して水平に仕上げている。外面の一部には横長の格子タタキ目痕があり、部分的に１～２cm前後の気泡による瘤がみられる。402は中国製の可能性が高い、壺の体部上半の破片である。内外面には褐色の釉がかかり、断面はにぶい黄橙色を呈する。厚さは５～９㎜で、ロクロ痕による凹凸がみられる。403も中国産と推定される壺の底部の破片である。外面には黒褐色の釉がかかり、内面は橙色で、断面は灰黄色である。厚さは５㎜前後で、ロクロ痕がみられる。底部は平底で、１cmほどの胎土目痕がみられる。404も中国産と推定される小型の褐釉四耳壺である。外面には黒褐色釉が上部約２／３に施され、内面と断面は褐灰色である。接合部の間隔が約３cmの小さな耳がみられる。405も中国製の可能性が高い壺である。徳利状の形態をしており、口径は約８cmである。外面と口縁内

面にはにぶい褐色の釉がかかり、断面は灰黄褐色である。胎土には1㎜ほどの白い石粒が少量混入する。19は中国南部産の華南彩釉陶小皿である。口径は約8㎝で、底径は約4㎝である。口縁部は稜花になっており、水平に短く屈曲する。体部外面にも型押し整形されたような稜花文がみられ、内外面にはコバルトブルーの鮮やかな釉がかかる。胎土は灰白色で1㎜前後の砂粒を微量含む。

【7藤倉城出土土器の器種別組成比率と地区別出土比率について】

藤倉城出土土器の器種別組成比率と地区別出土比率をまとめたのが表9である。藤倉城に帰属すると考えられる土器の個体数は1123個体であった。その器種別組成比率をみて特徴的なのが、土師器類の少なさと瀬戸美濃系土器の多さである。土師器類は172個体しかなく、比率では15.3%である。三重県の南伊勢系の器壁の薄い土師器が主流を占める。手づくねの厚さ1～2㎜程度の皿が多く、耐久性はきわめて低い。

瀬戸美濃系土器は志野や織部を含むと382点で、34.0%である。この中には志野の皿類が115個体含まれ、灯明皿として使用されていたものもいくつかあり、土師器皿の少なさを補完していたものと考えられる。天目茶碗も110個体あり、土器全体の9.8%を占める。唐津は213個体で、19.0%である。近世初頭の藤倉城においても、古代・中世の川関遺跡と同様に、土器流通の面では東海地域と結び付きが強いと言えよう。

青花・白磁・青磁の合計は263点で、23.4%を占める。かなり高い比率である。備前は少なく、甕2個体・壺10個体・摺鉢34個体・徳利3個体である。摺鉢においても、瀬戸美濃の鉄釉摺鉢は37個体確認しており、備前摺鉢を凌駕している。

次に地区別の土器出土比率をみてみたい。藤倉城では谷D区に主屋があり、谷E区にも4間×3間程度の建物があり、谷A区には茶室と推定される4間×3間の建物が存在した。谷C区では段構成土から多数の土器が出土した。谷D区の南西部と谷A区の南西部では類似した黒灰色の焼土層がみられ、建物が同時に焼失したと推定される。このことから、谷Cの土器類の多くは16世紀末頃の館を改築した時点でのやや古い土器様相を示し、谷D区と谷A区の土器の多くは1630年前後の館廃絶時の土器様相を示しているものとの推測が成り立つ。

地区別の土器個体数を上位から示すと、①谷D区（601個体 53.52%）、②谷C区（181個体 16.12%）、③谷A区（94個体 8.37%）、④谷H区（91個体 8.10%）、⑤谷F区（45個体 4.01%）、⑥谷E区（44個体 3.92%）、⑦谷G区（42個体 3.74%）、⑧谷B区（25個体 2.23%）である。主屋が存在した谷D区の出土遺物数が圧倒的に多く5割以上であり、次いで、谷C区と谷A区が多い。

各器種別の比率をみてみると、かなりのばらつきがあり、非常に興味深い結果が得られた。瀬戸美濃系土器全体ではD区の比率は約54.7%と高いが、比較的他の地区にも分散している。しかしながら志野に限ってみれば、D区の比率は105個体で82.7%と集中しており、ほとんどが志野丸皿である。A区ではわずか1個体、C区では6個体しかみられない。時期的に志野に先行する、摺鉢を除いた鉄釉類と灰釉類ではD区は39.1%と36.7%なのに対して、C区は21.7%と26.0%と比率が高くなる。やはり出土遺物の時期的な差違が反映されており、D区の焼土層には新しい時期の土器が多く、C区の段構

表9 藤倉城跡地区別土器個体数表

	器種	個体数	全器種別比率C	個体数	全系統別比率D	谷A		谷B		谷C		谷D		谷E		谷F		谷G		谷H	
						個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率	個体数	比率
1	瀬戸美濃	382	34.02	382	34.02	36	9.42	5	1.31	52	13.61	209	54.71	4.71	4.69	11	2.88	14	3.66	37	9.69
2	唐津	213	18.97	213	18.97	4	1.88	5	2.35	18	8.45	153	71.83	3	1.41	7	3.29	5	2.35	18	8.45
3	伊万里皿	6	0.53	6	0.53									6	100.00						
4	備前甕	2	0.18	49	4.36									1	50.00					1	50.00
	備前壺	10	0.89			3	30.00	1	10.00	1	10.00	3	30.00			1	10.00			1	10.00
	備前擂鉢	34	3.03					1	2.94	14	41.18	12	35.29					3	8.82	4	11.77
	備前徳利	3	0.27					1	33.33	1	33.33	1	33.33								
5	丹波壺	1	0.09	1	0.09					1	100.00										
6	信楽花生	1	0.09	1	0.09											1	100.00				
	楽焼椀	3	0.27	3	0.27							3	100.00								
7	瓦質火鉢	3	0.27	3	0.27	1	33.33					1	33.33							1	33.33
8	南伊勢系土師器皿	74	6.59	172	15.32	1	1.35	3	4.05	16	21.62	42	56.76	1	1.35	4	5.41	4	5.41	3	4.05
	畿内系土師器皿	23	2.05			1	4.35			2	8.70	15	65.22	2	8.70	1	4.35	1	4.35	1	4.35
	南伊勢系土鍋・焙烙	41	3.65					2	4.88	5	12.20	27	65.85			1	2.44	1	2.44	5	12.20
	播磨系土鍋	25	2.23			1	4.00	1	4.00	6	24.00	9	36.00	2	8.00	3	12.00	1	4.00	2	8.00
	畿内系土鍋	6	0.53					2	33.33	1	16.67	2	33.33							1	16.67
	南伊勢系十能	1	0.09									1	100.00								
	土師器坩堝	1	0.09									1	100.00								
	土師器塩焼壺蓋	1	0.09									1	100.00								
9	青花	144	12.82	144	12.82	31	21.53	2	1.39	25	17.36	58	40.28	4	2.78	11	7.64	7	4.86	6	4.17
10	白磁	88	7.84	88	7.84	9	10.23			22	25.00	41	46.59	2	2.27	3	3.41	5	5.68	6	6.82
11	青磁	31	2.76	31	2.76	5	16.13	2	6.45	4	12.90	10	32.26	3	9.68	2	6.45			5	16.13
12	朝鮮製磁器	16	1.42	16	1.42					7	43.75	6	37.50	2	12.50			1	6.25		
13	タイ製四耳壺	1	0.09	1	0.09	1	100.00														
14	ベトナム製?水指	1	0.09	2	0.18							1	100.00								
	ベトナム製?壺	1	0.09									1	100.00								
15	華南彩釉陶小皿	1	0.09	1	0.09					1	100.00										
16	中国製鉄釉壺	2	0.18	7	0.62					2	100.00										
	中国製褐釉壺	5	0.44			1	20.00					4	80.00								
17	朝鮮製叩目甕	3	0.27	3	0.27					3	100.00										
総計		1123	100.00	1123	100.00	94	8.37	25	2.23	181	16.12	601	53.52	44	3.92	45	4.01	42	3.74	91	8.10

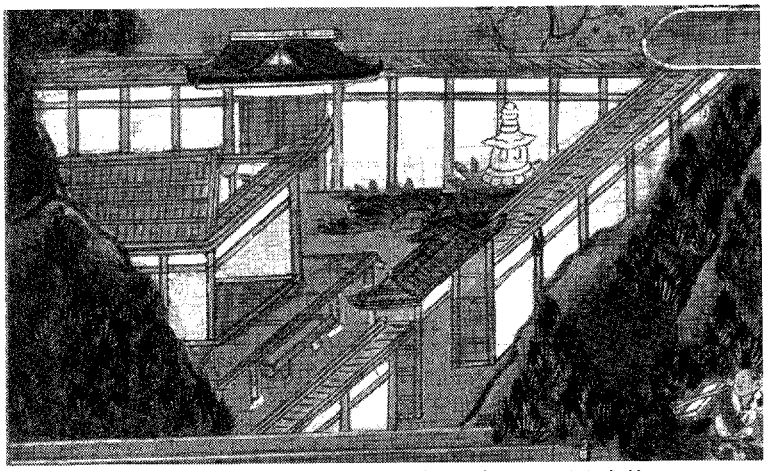
成土には古い時期の土器が多い。同様の理由で、唐津もD区に71.8%の土器が集中している。天目茶碗についてはD区が40.91%、A区が20.0%、C区が15.45%となっており、A区の比率が高い。特に古い時期の小天目茶碗では6割を占めている。青花ではD区が40.28%、A区が21.53%、C区が17.36%となっており、やはりA区の比率が高い。

A区の出土遺物を見ていくと茶道具と香道関係の遺物は多いが、土師器と志野と唐津は極端に少ない。また、外国産の青花や青磁の比率が高く、瀬戸美濃でも古い時期のものが多い。やはりA区の建物は茶室であり、京都や堺などの流行に敏感であった実方院米良氏が外国産のタイ製四耳壺やベトナム製壺をはじめ、いわゆる珍品や奢侈品、骨董的価値が高い土器類を収集していたものと推察される。それだけの威信財を購入する経済力を保持していたようである。同時期に廃絶したものの、主屋部D区の日常の生活空間と、館部の最上段に位置するA区の非日常的な茶室の遊興空間との性格の差違が、土器類の器種構成比率に端的に表れている。

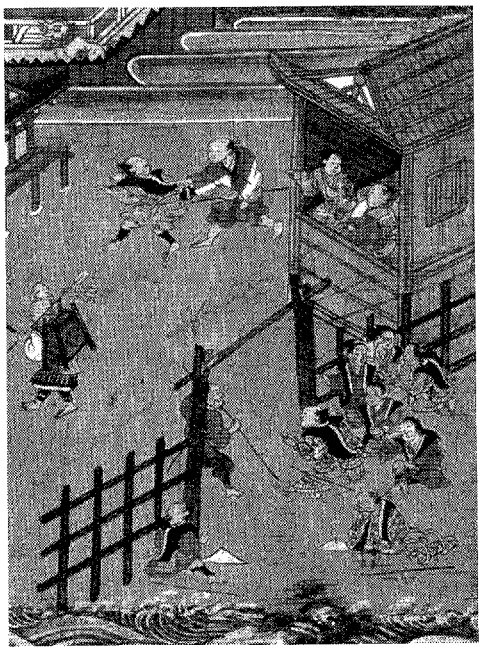
第4節　川関遺跡集落の変遷について

川関遺跡で復元可能であった掘立柱建物は総数82棟である。水田部8区では膨大な数のピットが検出されており、恣意性を排除するために1間×2間以下の建物の復元はあえてしなかったが、この中には小規模な建物や柵が数多く含まれている可能性が高い。また、室町時代から近世初頭にかけて、礎石建物が存在していた可能性があるが、判然としない。室町時代に描かれた熊野那智山宮曼陀羅（巻頭カラー図版3下）も参照して、掘立柱建物を規模・方位・立地・出土遺物などから分析してみたい。

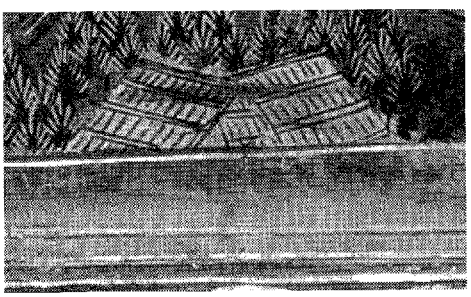
第74図　那智参詣曼陀羅図に描かれた建物1



①土塀で囲まれた柿葺（板葺）入母屋建物

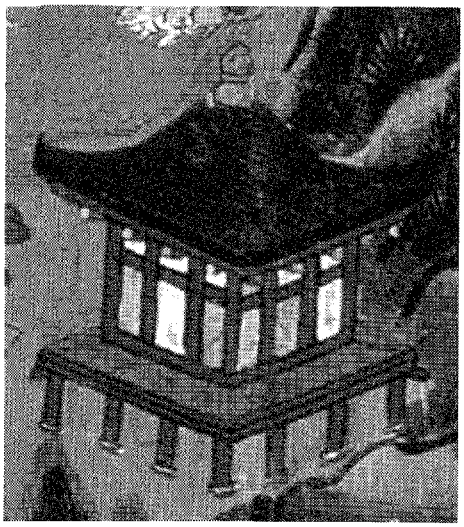


②柿葺入母屋建物の関所施設

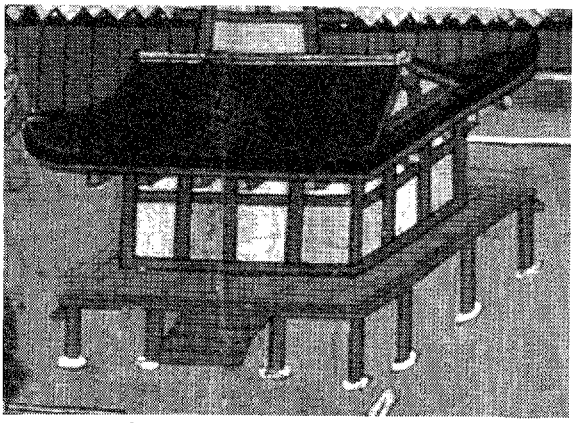


③茅葺切妻屋根と推定される建物

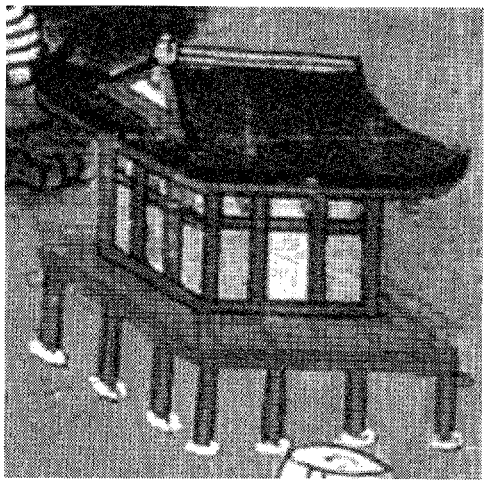
第75図　那智参詣曼陀羅図に描かれた建物 2



④桧皮葺宝形屋根の建物



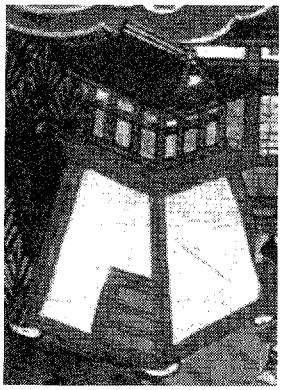
⑥桧皮葺入母屋屋根の建物



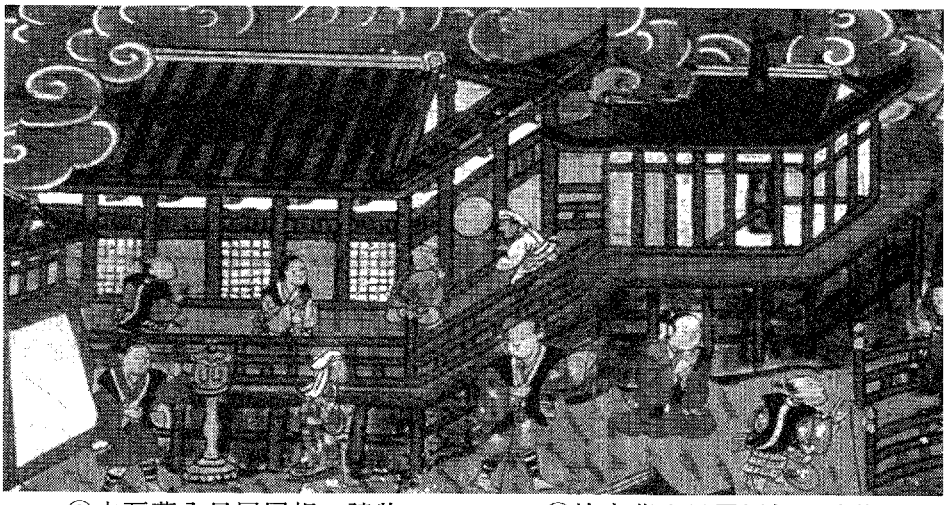
⑤桧皮葺入母屋屋根の建物



⑦桧皮葺入母屋屋根の社殿



⑧桧皮葺入母屋
屋根の鐘楼



⑨本瓦葺入母屋屋根の建物

⑩桧皮葺入母屋屋根の建物

【那智参詣曼陀羅に描かれた建物について】

室町時代後期の那智参詣曼陀羅には社殿や堂塔、門など多数の建物が描かれている。海岸部では関所だと考えられる施設も描かれており、川関遺跡の建物を考える上で、参考となる資料である。

描かれた建物を分析してみたい。建物は那智大社関連の社殿系統のものと、屋敷系統のものに大別出来る。挿図の①から③は後者で、④から⑩は前者である。屋根の形式では入母屋の建物が多数を占める。他には④の宝形の建物と③の切妻の小屋状の施設がみられる。屋根の葺材をみてみると、断定はできないが、⑨の本瓦葺と、桧の皮で葺いた桧皮葺④～⑧・⑩、薄い板を葺いた柿葺①・②、茅葺の可能性がある③の4種類がみられる。建物には掘立柱建物よりも礎石建物が多く、社殿系統のほとんどの建物では四方に切目縁を巡らしている。傾斜地の建物では⑩のように基礎部を井桁状に組むものもみられる。川関遺跡では屋敷系統の建物が多数であったと推定される。基本的には柿葺入母屋の建物が主流であろう。しかしながら、3間四方や4間四方で、正方形の間尺をした建物の中には、④のような社殿系統の宝形屋根の堂宇が含まれている可能性がある。川関遺跡で室町時代後期以降の建物の検出数が少ないのは、礎石建物で痕跡が確認できなかったものが多数あったものと推定される。

【1掘立柱建物の分析】

①規模（柱間数・柱間長・面積）

A型（1×2間）SB06・11・14・18・19・20・22・23

桁行1間・梁間2間の掘立柱建物である。西地区で8棟検出した。梁間と桁行の長さがほぼ等しいものと（SB14・18・22・23）、梁間が長いもの（SB06・11・19）、桁行が長いもの（SB20）に分類できる。床面積は8.7㎡～13.9㎡で、現在の畳に換算すれば5畳半～8畳半程度である。建物の方位は南北棟が3棟（SB14・19・23）、東西棟が5棟（SB06・11・18・20・22）である。柱の堀方は直径10～20cm前後のもの（SB06・11）と、直径25～40cm前後のものがみられる。前者は土間に素屋根を架けた作業小屋のような施設であろう。

B型（2×2間）SB07・15・16・17・34・35・37・40・42・45・46・52・53・55・57・62・73

桁行2間・梁間2間の掘立柱建物である。17棟検出した。建物の棟方向を断定するのは困難であるので長辺方向を梁とすると、梁間と桁行の長さがほぼ等しいものと（SB16・34・35・37・40・42・45・46・52・55・73）、梁間が長いもの（SB07・15・17・53・57・62）に分類できる。桁行・梁間は概ね2.0m～2.2m・2.0m～2.4mで、床面積は14.1㎡～23.7㎡であり、9畳～15畳半程度である。柱の堀方は直径25～40cm前後である。正方形の建物はSB55など少数で、一辺の長さが不揃いで、角度が歪んでいる建物が多数である。とりわけ西部で検出した建物にその傾向が強い。

C型（2×3間）SB02・13・21・31・32・44・47・58・59・64・68・72・76・81・82

桁行2間・梁間3間の掘立柱建物である。15棟検出した。梁間と桁行の長さがほぼ等しいものと（SB02・13・21・31・32・44・59・64・72・81）、梁間が長いもの（SB47・82）、桁行が長いもの（SB25・58・68・76）に分類できる。床面積は24.5㎡～31.3㎡で、15畳半～19畳程度である。建物の方位は南北棟が6棟（SB13・21・32・47・72・76）、東西棟が9棟（SB02・31・44・58・59・

64・68・81・82）である。柱の堀方は直径25～40cm前後である。ＳＢ72のように建物の中心軸がずれて、桁間の長さが不揃いの建物もみられる。

Ｄ型（２×４間）ＳＢ33・51・54

桁行２間・梁間４間の掘立柱建物である。東地区の中央から北西部で３棟検出した。すべて東西棟で、梁間と桁行の長さがほぼ等しいものと（ＳＢ51・54）、梁間がやや長いもの（ＳＢ33）がある。床面積は36.3㎡～38.4㎡で、23畳程度である。建物の方位は東西方向から６～10°北に振っている。柱堀方は直径25～40cm前後である。

Ｅ型（３×３間）ＳＢ26・41・48・49・56・63・66・69・79・80

桁行３間・梁間３間の掘立柱建物である。東地区で10棟検出した。梁間と桁行の長さがほぼ等しいものが多く（ＳＢ26・41・48・49・63・66・79・80）、梁間が長いもの（ＳＢ56・69）は少ない。柱間の平均長は７尺（2.10m）前後にまとまっており、他の型の建物よりばらつきが少ない。ＳＢ80は川関遺跡で唯一、柱間長が６尺を基準として、方位も若干東に振っている。柱穴堀方も小さく、時期的に新しい建物の可能性が高い。ＳＢ69は柱穴底に石を敷いている。床面積は30.5㎡～41.8㎡で、19畳～26畳程度である。柱穴堀方は直径25～40cm前後である。

Ｆ型（３×４間）ＳＢ05・10・27・36・60・77

梁間４間・桁行３間の掘立柱建物である。６棟検出した。梁間と桁行の長さがほぼ等しいものと（ＳＢ05・27・77）、梁間が長いもの（ＳＢ36・60）、桁行が長いもの（ＳＢ10）に分類できる。床面積は54.2㎡～78.9㎡で、現在の畳に換算すれば33畳半～49畳程度である。建物の方位は南北棟が４棟（ＳＢ05・27・36・60）、東西棟が２棟（ＳＢ10・77）である。

Ｇ型（３×５間）ＳＢ39

梁間５間・桁行３間の掘立柱建物である。東地区の中央北部で１棟検出した。ＳＢ39は梁間の平均長2.19m・桁行平均長2.09mの東西棟の総柱建物である。東端の梁間が他より20cm前後狭くなっている。主軸方位は東西方向から西に８°振っている。床面積は68.7㎡で、42畳程度である。柱の堀方は直径30～45cm前後である。

Ｈ型（３×６間）ＳＢ70

梁間６間・桁行３間の掘立柱建物である。東地区の南西部で１棟検出した。ＳＢ70は梁間６間以上・桁行３間で総柱の大型掘立柱建物である。建物は南北棟で、梁間の平均値は2.1m、桁行の平均値は2.13mとほぼ等しい。規模は西辺12.62m・南辺6.4mであり、長辺は東に隣接するＳＢ68と同規模である。床面積は約81㎡である。

Ｉ型（４×４間）ＳＢ04・74・78

桁行４間・梁間４間の掘立柱建物である。西地区で１棟、東地区で２棟の３棟検出した。梁間と桁行の長さがほぼ等しいものと（ＳＢ74・78）、梁間が長い南北棟のもの（ＳＢ04）がある。西地区のＳＢ04は柱間の距離と目地通りや柱穴規模が均質化しており規格性が高いが、東地区のＳＢ74・78は柱間の距離や目地通りや辺長にばらつきが大きい。床面積は75.7㎡～85.2㎡で、47畳～52畳程度である。

J型（4×5間）SB03・08・67

桁行4間・梁間5間の掘立柱建物である。西地区で1棟、東地区で2棟の3棟検出した。西地区のSB03・08は梁間と桁行の長さがほぼ等しい南北棟で、東地区のSB67は梁間が長い東西棟である。SB03は川関遺跡で最も規格性が高く精緻な構造の建物である。梁間と桁行の長さの平均は、どちらも7尺（2.11m）を基準として、目地通りや柱穴規模が均質化しており、すべての柱穴底には径25cm～30cm前後の河原石を敷いている。建物は蔵として使用されていたのではないだろうか。建物の周辺を取り囲むように大規模な噴砂が確認されており、蔵の荷重により南海大地震で液状化現象が起きたものと推定される。他の2棟も、周囲の小型建物と比較すると辺長や角度の点において整っている。床面積は87.0㎡～110.5㎡で、現在の畳に換算すれば54畳～68畳程度である。

K型（6×6間）SB65

水田部8西区の南部で検出したSB65は梁間6間・桁行6間で総柱の大型掘立柱建物である。梁間の平均値は2.1mで、桁行の平均値は2.09mとほぼ等しく、建物は北辺12.6m・南辺12.58m・西辺12.6m・東辺12.44mであり、正方形を指向して建てられている。柱間寸法や柱穴規模のばらつきは平均化しており、四方縁や庇等の有無及び位置を推定することは困難である。床面積は約157.6㎡で、現在の畳に換算すれば約100畳近くあり、室町時代後期の川関集落の中心的な建物であろう。周辺からは瓦類が出土しておらず、屋根は桧皮葺か柿葺だと推定される。

②建物の柱間寸法について

川関遺跡で検出された掘立柱建物の柱間の平均値について、桁行を縦軸に、梁間を横軸にして表にした（表10）。柱間7尺（2.12m）前後のものが多く、梁間は2.0～2.4m、桁行は2.0～2.2mに集中する。西調査区の建物にばらつきが大きいが、作業小屋のような小型建物が多いことに起因している。総じて、大型の建物ほど柱間寸法は整っており、E型の3間四方の建物も柱間寸法は比較的整っている。

建物柱穴出土遺物から推定した年代別と建物の型式別に分類した柱間寸法の平均値は以下のようになる。

表10　川関遺跡掘立柱建物柱間寸法表

建物の類型	数	梁　間	桁行	建物の類型	数	梁　間	桁　行
12世紀中葉の建物	2	2.05m	2.28m	C型建物（2×3）	15	2.11m	2.15m
12世紀後半の建物	7	2.28m	2.13m	D型建物（2×4）	3	2.20m	2.12m
12世紀末の建物	15	2.30m	2.18m	E型建物（3×3）	9	2.11m	2.05m
13世紀初頭の建物	19	2.19m	2.13m	F型建物（3×4）	7	2.23m	2.18m
13世紀前半の建物	19	2.26m	2.11m	G型建物（3×5）	1	2.19m	2.09m
13世紀中葉の建物	2	2.21m	2.04m	H型建物（3×6）	1	2.10m	2.13m
15世紀末頃の建物	3	2.18m	2.28m	I型建物（4×4）	3	2.26m	2.14m
A型建物（1×2）	8	2.34m	2.28m	J型建物（4×5）	3	2.21m	2.16m
B型建物（2×2）	17	2.26m	2.09m	K型建物（6×6）	1	2.10m	2.09m

これをみる限りでは、川関遺跡の掘建柱建物の柱間寸法は平安時代末期から室町時代後期まで、ほとんど変化がみられない。

③建物の方位について

掘立柱建物の方位を南北棟・東西棟の建物方向を除外して、真北方向との角度差をまとめたのが表13である。この表で明らかなように水田部1～7区の西地区と東地区の水田部4・8西区、水田部8東区・橋脚部地区では顕著な差違が認められる。西地区の掘立柱建物はSB05が10°西に振っていて、それ以外は17°～35°西に振っている。その中でも27°～30°西に振る建物が多数を占める。水田部4・8西区では9°と10°をピークとして6°～15°西に振る建物群のまとまりがあり（SB29～70)、西部に位置する建物SB24～28の5棟が21°～27°西に振っている。この視点で見れば、東地区の西部の建物は西地区の建物群と関連の深い建物で、西地区のSB05は東地区の建物群と関連の深い建物だと言えよう。水田部8東区ではSB80が1°東に振っており、他は4°～10°西に振っている。橋脚部では5°と15°東に振る建物がみられる。このように西側に位置する建物ほど、方位が西に振っており、東側の那智川に近い建物ほど西に振る角度が漸次減少していき、北東部の橋脚地区では東に振っていく現象がみられる。これらは偏角の差などによる時期的な差違ではなく、地形的に影響されたものだと理解される。

④建物の時期について

掘建柱建物を構成する柱穴から出土した遺物の下限の時期をまとめたのが表15である。出土遺物の大半が山茶碗であるので、藤澤氏の編年案に依拠した土器型式で分類した。ただし、柱穴出土遺物については量が少なく細片なうえ、柱を立てる際には堀方に含まれる古い遺物が混入し、柱穴が抜き取られたり、埋没していく際には建物より新しい遺物が混入するため、掘立柱建物の時期を断定することは困難である。全体的に室町時代の屋敷地に伴う建物が少なすぎるので、出土遺物から平安時代や鎌倉時代と推定した掘立柱建物の中には実証することは不可能であるが、室町時代の建物が何棟か含まれている可能性が高い。

山茶碗4型式古段階（12世紀中葉）の土器を下限とする建物は3棟、山茶碗4型式新段階（12世紀後半）の土器を下限とする建物は5棟、山茶碗5型式古段階（12世紀末）の土器を下限とする建物は14棟、山茶碗5型式新段階（13世紀初頭）の土器を下限とする建物は21棟、山茶碗6型式段階（13世紀前半）の土器を下限とする建物は20棟、山茶碗7型式段階（13世紀中葉）の土器を下限とする建物は3棟、瀬戸灰釉陶器大窯1・2期（15世紀末～16世紀初頭）の土器を下限とする建物は5棟確認された。

全体的な傾向として、12世紀中頃から集落が営まれ始め、13世紀初頭から13世紀前半にピークを迎えて、その後衰退し、15世紀後半から16世紀初頭にかけて再び集落が営まれているようである。西地区や橋脚地区ではやや古い時期の建物が多いと推定される。

【2周辺地形の復元について】

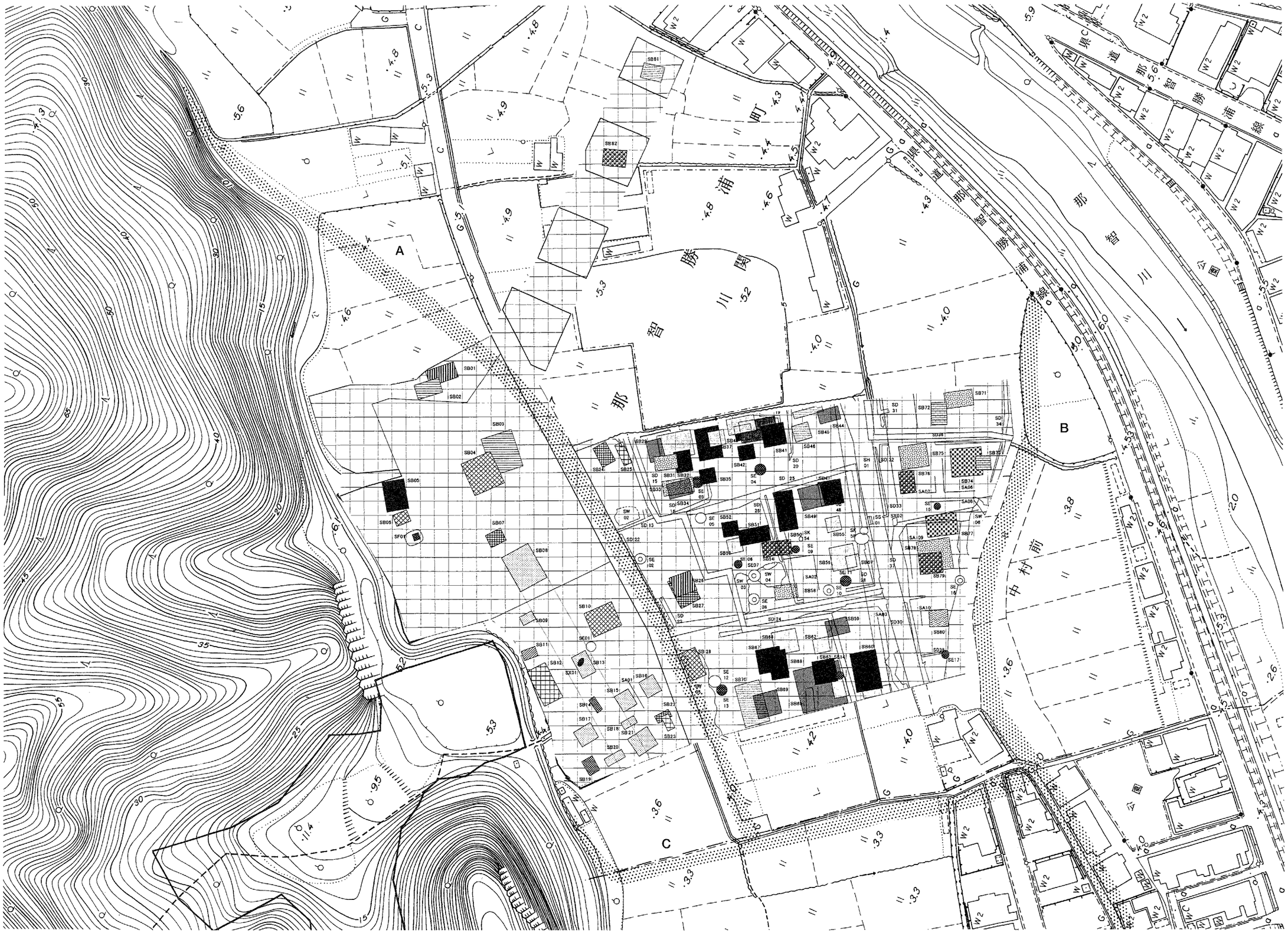
現在の地形及び地図、発掘調査成果から、調査地周辺の地形をみていきたい（第84図参照)。

Aのラインが那智川の氾濫原の推定線である。川関8東地区の試掘トレンチでは、砂礫層であるこ

とが確認されている。Bのラインが北部山際から南西部へと続く自然流路の推定線である。水田部6区と水田部4・8西区で確認されている。この自然流路に水田部2区と水田部8西区の両側から溝によって排水されている。Cのラインが藤倉山塊からすり鉢状の谷部に集中した降雨による自然流路だと推定される。現状の水田が周囲の水田より0.3～0.5m程低くなっており、水田部2区の南西部からは低湿地状の地形を呈する。

掘建柱建物の遺構検出面の標高をまとめたのが、表14である。西地区では山裾に近いSB05・06が標高3.8～4.0mに位置するが、3.2～3.6mに9棟存在し、低地の2.4～2.8mにも9棟存在する。水田部4・8西区では、微高地である標高3.6～3.8mに25棟、3.4～3.6mに13棟が存在し、西部の低地部では掘建柱建物は希薄である。水田部8東区では、標高3.2～3.6mに掘建柱建物が8棟位置している。橋脚部1区では東部が低湿地となっており、標高3.2～3.4mに1棟位置している。橋脚部2区は微高地にあたり、標高4.2～4.4mに1棟位置している。

以上のような状況から、発掘調査地点周辺では、水田部8西区の中央部から橋脚部2区までが微高地で、水田部2区の南西部は低湿地であり、東地区西端の現存する町道の東隣りを自然流路が南下していたものと理解できる。



第76図　川関遺跡遺構模式図

表11 川関遺跡掘立柱建物一覧表

地区	建物名	概要 主軸	概要 総柱	型	規模 柱間数	規模 北辺長	規模 南辺長	規模 西辺長	規模 東辺長	規模 面積	方位	梁間 平均値	桁行 平均値	出土遺物 年代	備考
水田部1-7区	SB01		○		2×4以上	8.64	8.66	4.84	4.44	40.1	19°W	2.32	2.16	12C末	旧SB22
	SB02		○	C	2×3	6.90		4.26			17°W	2.14	2.29	12C中葉	旧SB23
	SB03	南北	○	J	4×5	8.35	8.47	10.52	10.50	88.5	18°W	2.11	2.11	12C末	旧SB01
	SB04		○	I	4×4	8.72	8.72	9.87	9.67	85.2	24°W	2.45	2.17	13C前半	旧SB02
	SB05	南北	○	F	3×4	6.60		8.60			10°W	2.21	2.16	不明	旧SB04
	SB06	東西	○	A	1×2	4.20	4.18	2.76	2.70	11.4	22°W	2.71	2.10	不明	旧SB05
	SB07		○	B	2×2	5.06	4.32	4.04	3.70	18.2	27°W	2.33	1.93	不明	旧SB06
	SB08	南北	○	J	4×5	8.19	8.27	10.70	10.44	87.0	29°W	2.06	2.12	13C初頭	旧SB03
	SB09	東西			(1×3)	6.28		4.16			28°W	2.34	2.05	13C初頭	旧SB08
	SB10	東西	○	F	3×4	8.78	8.62	7.70	7.50	66.1	23°W	2.18	2.53	13C初頭	旧SB07
	SB11	東西		A	1×2	4.29	4.24	2.54	2.50	10.8	20°W	2.14	2.51	不明	旧SB09
	SB12		○		3×5以上	6.22		10.60			27°W	2.06	2.11	13C初頭	旧SB10
	SB13	南北	○	C	2×3	4.46	4.54	6.90	7.00	31.3	28°W	2.25	2.32	12C末	旧SB11
	SB14	南北		A	1×2	1.97	2.19	4.30	4.46	9.1	35°W	2.08	2.19	13C前半	旧SB12
	SB15		○	B	2×2	4.30	4.32	4.82	4.80	20.7	30°W	2.41	2.16	12C後半	旧SB14
	SB16		○	B	2×2	4.38	4.88	4.52	5.06	22.2	30°W	2.40	2.32	13C前半	旧SB13
	SB17		○	B	2×2	5.68	5.22	4.36	4.32	23.7	31°W	2.73	2.17	12C末	旧SB16
	SB18	東西		A	1×2	4.10	4.20	2.10	2.20	8.9	29°W	2.10	2.07	13C前半	旧SB15
	SB19	南北		A	1×2	3.22	3.13	4.38	4.40	13.9	30°W	3.13	2.20	12C末	旧SB17
	SB20	東西		A	1×2	5.74	5.88	2.15	2.12	12.4	29°W	2.16	2.91	13C初頭	旧SB21
	SB21	南北	○	C	2×3	4.24	4.12	5.96	5.75	24.5	33°W	2.09	1.95	13C初頭	旧SB18
	SB22	東西		A	1×2	4.27	4.18	2.03	2.25	9.0	28°W	2.20	2.12	13C初頭	旧SB19
	SB23	南北		A	1×2	2.18	2.18	4.19	4.30	9.3	26°W	2.16	2.13	12C末	旧SB20
水田部4・8西区	SB24	南北	×		2×3以上	3.90	4.54	6.00	5.66	24.0	27°W	2.11	1.94	不明	旧SB51
	SB25	南北	○		(2×3)	1.85		6.60			25°W	1.84	2.17	不明	旧SB50
	SB26		○	E	3×3	6.12		6.24			21°W	2.11	2.02	13C初頭	旧SB56
	SB27	南北	○	F	3×4	6.10		8.40			27°W	2.04	2.09	13C前半	旧SB52
	SB28		○		2×4以上	4.30		8.56			23°W	2.14	2.15	13C前半	旧SB20
	SB29	南北	○		2×3以上	4.04	4.12	6.50	6.32	26.2	14°W	2.04	2.14	13C前半	旧SB44
	SB30		○		3×4以上	9.42	9.24	6.70	6.32	60.7	11°W	2.17	2.33	12C末	旧SB43
	SB31	東西	○	C	2×3	6.34		4.14			8°W	2.03	2.14	13C初頭	旧SB46
	SB32	南北	○	C	2×3	4.16	4.32	6.19	6.18	26.2	10°W	2.12	2.06	13C初頭	旧SB45
	SB33	東西	○	D	2×4	8.46	8.44	4.50	4.58	38.4	8°W	2.27	2.11	12C末	旧SB49
	SB34		○	B	2×2	4.64	4.51	4.78	4.86	22.1	11°W	2.36	2.30	不明	旧SB48
	SB35		○	B	2×2	3.96		4.10			10°W	2.03	1.97	13C前半	旧SB47
	SB36	南北	○	F	3×4	7.00	6.84	8.28	8.54	58.2	10°W	2.31	2.10	13C初頭	旧SB42
	SB37		○	B	2×2	4.38		4.24			9°W	2.21	2.14	12C末	旧SB41
	SB38		○		2×4以上	8.44	8.44	4.46	4.46	37.6	9°W	2.23	2.11	12C末	旧SB38
	SB39	東西	○	G	3×5	10.41	10.50	6.76	6.38	68.7	8°W	2.19	2.09	13C初頭	旧SB37
	SB40		○	B	2×2	4.50	4.56	4.24	4.24	19.2	9°W	2.27	2.12	13C初頭	旧SB39
	SB41		○	E	3×3	6.43	6.38	6.44	6.35	41.0	10°W	2.14	2.13	～16C初	旧SB36
	SB42		○	B	2×2	4.30	4.32	4.02	4.08	17.5	7°W	2.16	2.03	13C前半	旧SB40
	SB43		○		1×4以上	8.62		2.30	2.07	18.8	15°W	2.16	2.16	13C前半	旧SB33
	SB44	東西	○	C	2×3	6.46	6.40	4.40	4.24	27.8	12°W	2.16	2.14	12C末	旧SB32
	SB45		○	B	2×2	4.39	4.26	4.26	4.42	18.7	9°W	2.17	2.17	13C初頭	旧SB34
	SB46		○	B	2×2	4.30		4.52			15°W	2.26	2.14	12C末	旧SB35
	SB47	南北	○	C	2×3	4.28	4.22	5.98	5.60	24.6	10°W	2.13	1.93	13C前半	旧SB55

地区	建物名	概要		型	規模					方位	梁間	桁行	出土遺物	備考
		主軸	総柱		柱間数	北 南 辺長	西 東		面積		平均値	平均値	年代	
水田部4・8西区	SB48		○	E	3×3	6.32 6.24	6.30 6.62		40.6	9°W	2.15	2.09	12C後半	旧SB24
	SB49		○	E	3×3	6.04 6.27	5.94 5.94		36.6	14°W	2.05	1.98	13C前半	旧SB25
	SB50		○		2×5以上		11.04			9°W	2.21	2.23	13C前半	旧SB26
	SB51	東西	○	D	2×4	8.56 8.46	4.36 4.40		37.3	10°W	2.19	2.13	12C末	旧SB29
	SB52		○	B	2×2	4.42 4.48	4.40 4.14		19.0	9°W	2.23	2.14	12C末	旧SB30
	SB53		○	B	2×2	4.64 4.58	4.14 3.90		18.5	12°W	2.31	2.01	～16C初	旧SB31
	SB54	東西	○	D	2×4	8.47 8.52	4.30 4.24		36.3	6°W	2.14	2.13	13C前半	旧SB27
	SB55		○	B	2×2	3.98 4.04	4.10 4.18		16.6	12°W	2.07	2.01	13C前半	旧SB23
	SB56		○	E	3×3	6.32 6.40	6.92 6.95		44.1	11°W	2.31	2.12	13C前半	旧SB22
	SB57		○	B	2×2	3.44	4.14			12°W	2.07	1.81	13C中葉	旧SB21
	SB58	東西	○	C	2×3	6.12	3.77			8°W	1.94	2.09	不明	旧SB28
	SB59	東西	○	C	2×3	6.35 6.15	4.39 4.35		27.3	13°W	2.19	2.09	不明	旧SB11
	SB60	南北	○	F	3×4	7.30 7.42	10.62 10.83		78.9	12°W	2.43	2.15	13C中葉	旧SB10
	SB61		○		2×4以上	8.49	2.35			10°W	2.28	2.13	不明	旧SB09
	SB62		○	B	2×2	4.18	4.73			11°W	2.37	2.11	13C前半	旧SB57
	SB63		○	E	3×3	6.19 6.30	6.18 6.48		39.5	12°W	2.11	2.08	13C前半	旧SB12
	SB64	東西	○	C	2×3	4.20	6.52			11°W	2.10	2.17	13C前半	旧SB14
	SB65		○	K	6×6以上	12.60 12.58	12.60 12.44		157.6	13°W	2.10	2.09	～16C初	旧SB13
	SB66		○	E	3×3	6.42 6.32	6.46 6.54		41.4	11°W	2.17	2.12	13C初頭	旧SB15
	SB67	東西	○	J	4×5	11.20 11.23	9.79 9.90		110.5	9°W	2.47	2.25	13C初頭	旧SB17
	SB68	東西	○	C	2×3	4.34	7.11			8°W	2.17	2.37	不明	旧SB16
	SB69		○	E	3×3	6.18 6.04	6.80 6.76		41.4	13°W	2.26	2.04	13C初頭	旧SB18
	SB70	南北	○	H	3×6以上	6.40	12.62			15°W	2.10	2.13	13C前半	旧SB19
水田部8東区	SB71		○		2×4以上	8.06	3.72			10°W	1.91	2.02	12C中葉	旧SB08
	SB72	南北	○	C	2×3	4.18 4.16	6.04 6.04		25.2	6°W	2.09	2.01	13C初頭	旧SB07
	SB73		○	B	2×2	3.86 3.80	4.00 3.96		15.2	4°W	1.99	1.92	13C中葉	旧SB53
	SB74		○	I	4×4	8.62	8.26			6°W	2.16	2.07	13C初頭	旧SB05
	SB75	東西	○		(3×3)	7.33	6.40			8°W	2.45	2.13	13C初頭	旧SB06
	SB76	南北	○	C	2×3	4.33 3.90	6.90 7.06		28.7	6°W	2.06	2.33	～16C初	旧SB54
	SB77	東西	○	F	3×4	8.34 8.48	6.46 6.42		54.2	8°W	2.14	2.11	13C前半	旧SB04
	SB78		○	I	4×4	8.82 8.64	8.98 8.36		75.7	10°W	2.18	2.17	13C初頭	旧SB02
	SB79		○	E	3×3	6.28 6.41	6.50 6.44		41.1	9°W	2.16	2.12	12C中葉	旧SB03
	SB80		×	E	3×3	5.55 5.44	5.42 5.64		30.4	2°E	1.84	1.83	不明	旧SB01
橋脚地区	SB81	東西	○	C	2×3	6.34	4.10			15°W	2.12	2.12	12C後半	旧SB24
	SB82	東西	○	C	2×3	6.52 6.24	4.64 4.56		29.4	5°W	2.30	2.13	12C後半	旧SB25

表12 川関遺跡掘立柱建物規模別分類表

型	柱間数	水田部1～7区	水田部4・8区	橋脚地区
A	1×2	06 11 14 18 19 20 22 23 8棟		
B	2×2	07 15 16 17 4棟	34 35 37 40 42 45 46 52 53 55 57 62 73 13棟	
C	2×3	02 13 21 3棟	31 32 44 47 58 59 64 68 72 76 10棟	81 82 2棟
D	2×4		33 51 54 3棟	
E	3×3		26 41 48 49 63 66 69 79 80 9棟	
F	3×4	05 10 2棟	27 36 56 60 77 5棟	
G	3×5		39 1棟	
H	3×6		70 1棟	
I	4×4	04 1棟	74 78 2棟	
J	4×5	03 08 2棟	67 1棟	
K	6×6		65 1棟	

表13　川関遺跡掘立柱建物方位別一覧表

建物方位	水田部1～7区	水田部4・8西区	水田部8東区	橋脚地区
N 15° E				81
N 5° E				82
N 1° E			80	
N 0° S				
N 1°～3° W				
N 4° W			73	
N 5° W				
N 6° W		54	72 74 76	
N 7° W		42		
N 8° W		31 33 39 58 68	75 77	
N 9° W		37 38 40 45 48 50 52 67	79	
N 10° W	05	32 35 36 41 47 51 61	71 78	
N 11° W		30 34 56 64 66		
N 12° W		44 53 55 57 60 63		
N 13° W		59 65 69		
N 14° W		29 49		
N 15° W		43 46 70		
N 16° W				
N 17° W	02			
N 18° W	03			
N 19° W	01			
N 20° W	11			
N 21° W		26		
N 22° W	06			
N 23° W	10	28		
N 24° W	04			
N 25° W		25		
N 26° W	23			
N 27° W	07 12	24 27		
N 28° W	09 13 22			
N 29° W	08 18 20			
N 30° W	15 16 19			
N 31° W	17			
N 32° W				
N 33° W	21			
N 34° W				
N 35° W	14			

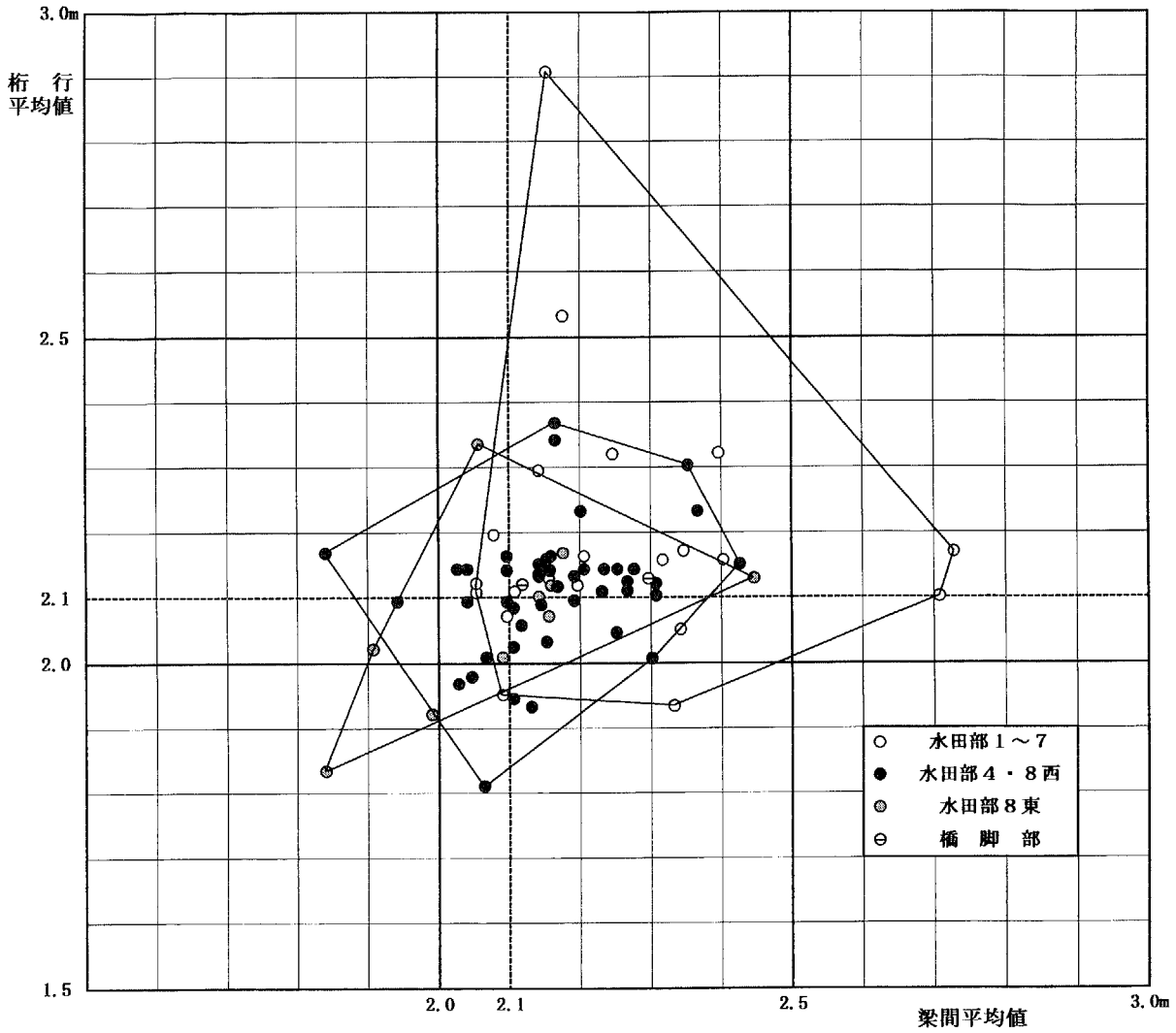
表14　川関遺跡掘立柱建物標高別一覧表

検出面標高	水田部1～7区	水田部4・8西区	水田部8東区	橋脚地区
4.20～4.40m				82
4.00～4.20m				
3.80～4.00m	05 06			
3.60～3.80m		29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 54 55	72	
3.40～3.60m	07 08 09 11	56 57 59 60 61 63 64 65 66 67 68 69 70	71 75 76	
3.20～3.40m	01 02 03 04 12	25 26 27	73 74 77 78 79	81
3.00～3.20m	13	24		
2.80～3.00m	10 14	28		
2.60～2.80m	15 16 17 19 20			
2.40～2.60m	18 21 22 23			

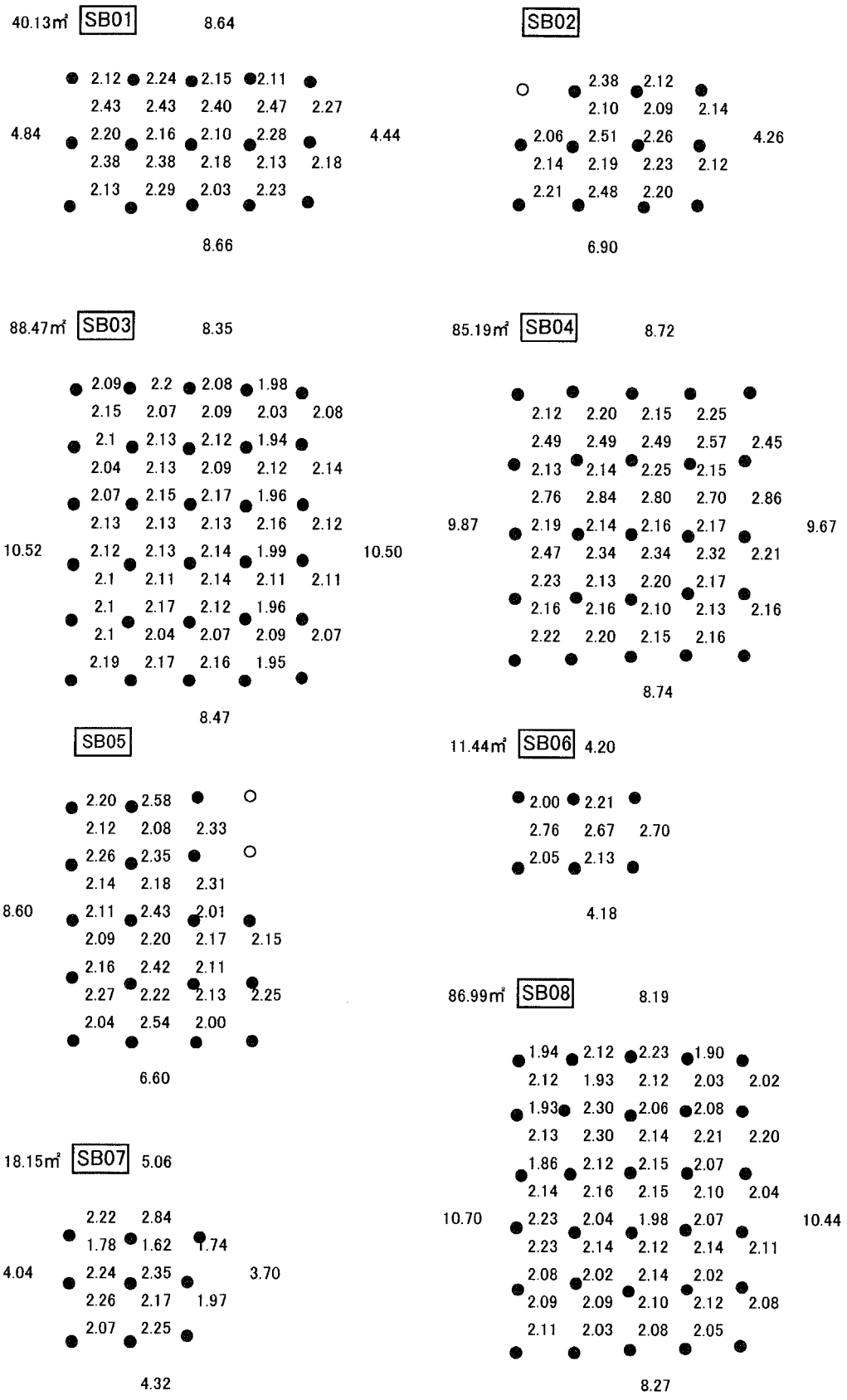
表15　川関遺跡掘立柱建物時期別一覧表

柱穴出土遺物年代	水田部1～7区	水田部4・8西区	水田部8東区	橋脚地区
山茶碗4型式古(12C中葉)	02		71 79	
山茶碗4型式新(12C後半)	15	34 48		81 82
山茶碗5型式古(12C末)	01 03 13 17 19 23	30 33 37 38 44 46 51 52		
山茶碗5型式新(13C初頭)	08 09 10 12 20 21 22	26 31 32 36 39 40 45 66 67 69	72 74 75 78	
山茶碗6型式(13C前半)	04 14 16 18	27 28 29 35 42 43 47 49 50 54 55 56 62 63 64 70		
山茶碗7型式(13C中葉)		57 60	73	
瀬戸大窯1・2期(15C末～16C初)		41 53 65	76 77	

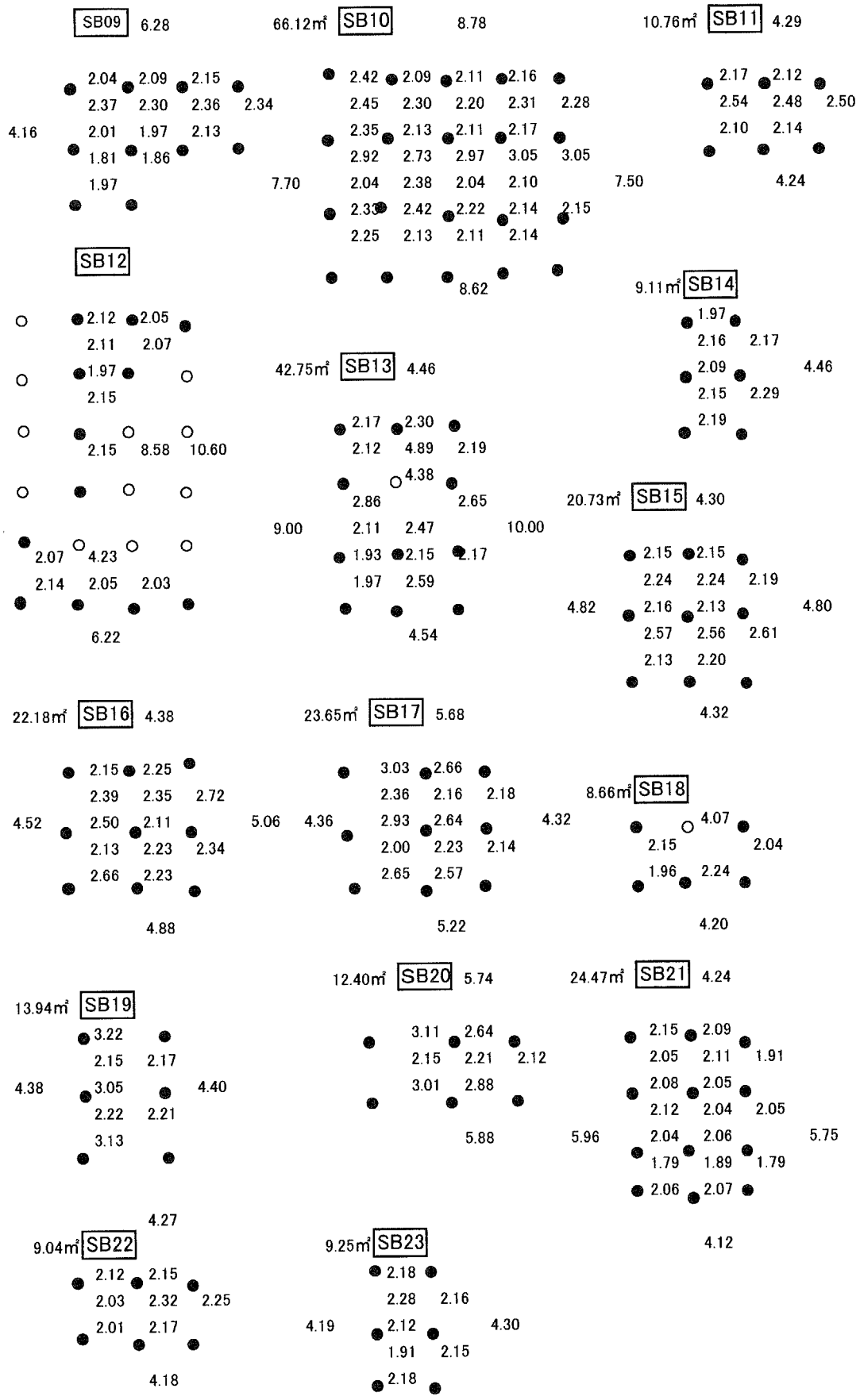
表16　川関遺跡掘立柱建物桁行・梁間平均値分布表



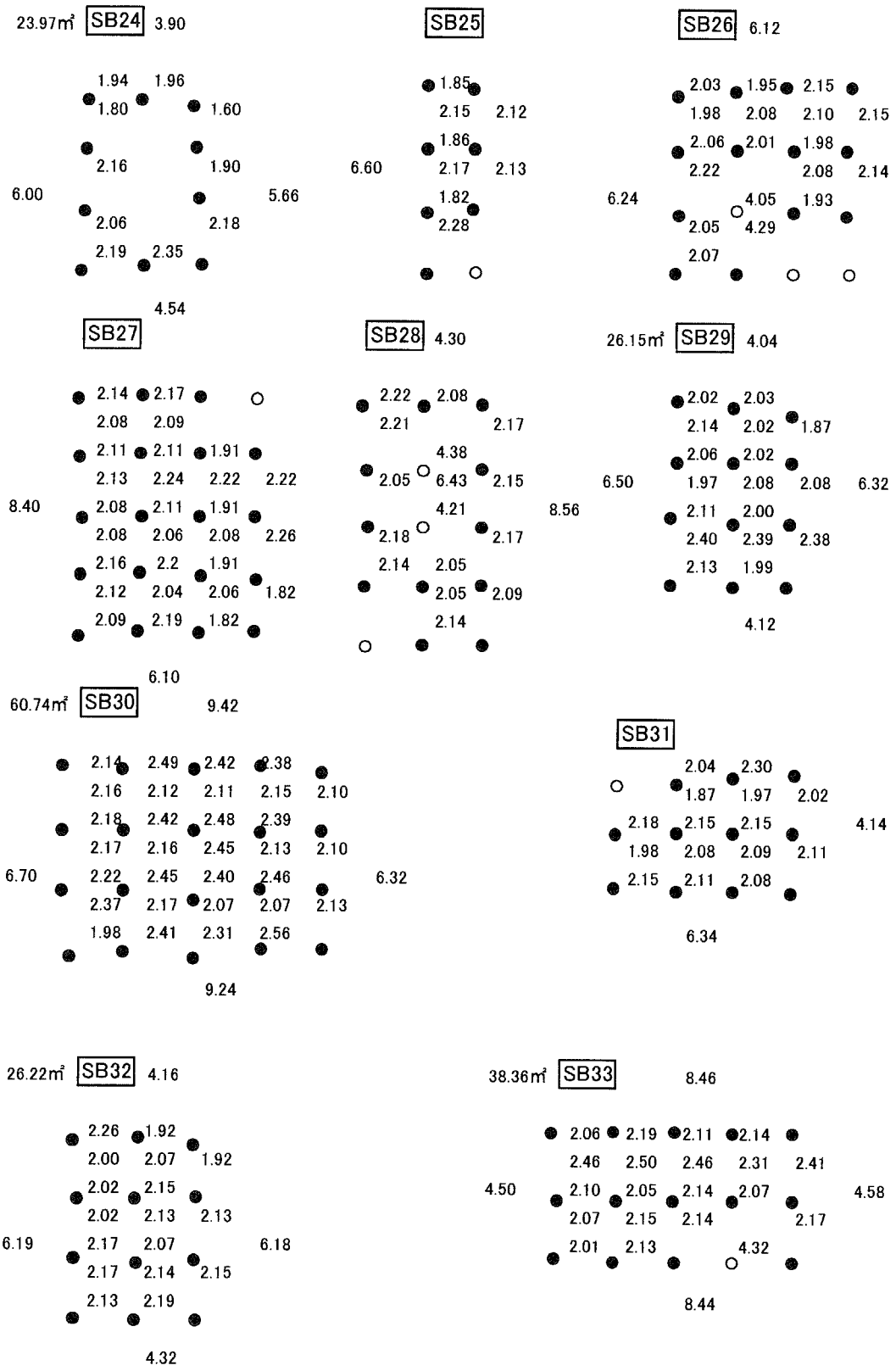
第77図　川関遺跡西調査区掘立柱建物模式図1



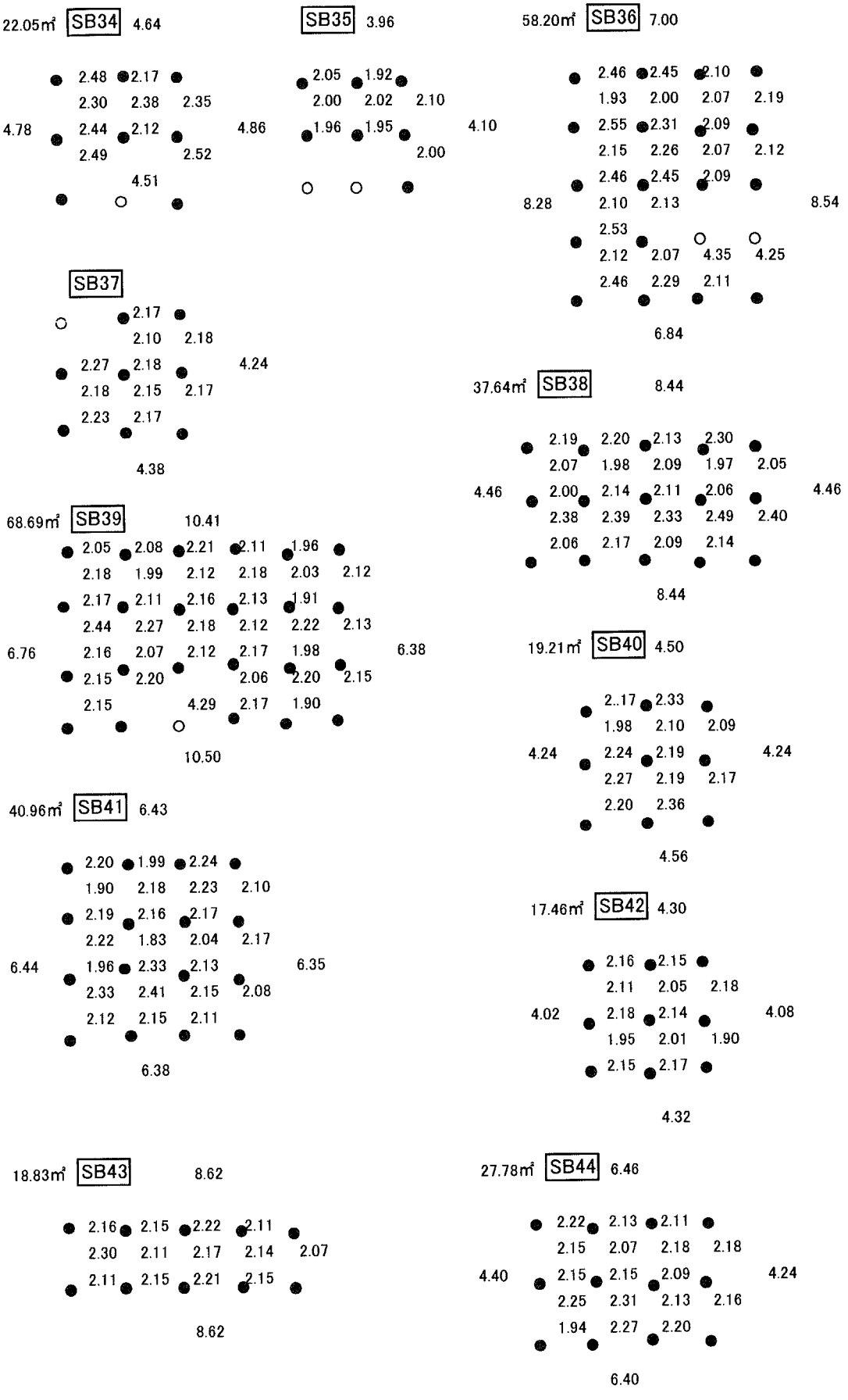
第78図　川関遺跡西調査区掘立柱建物模式図２



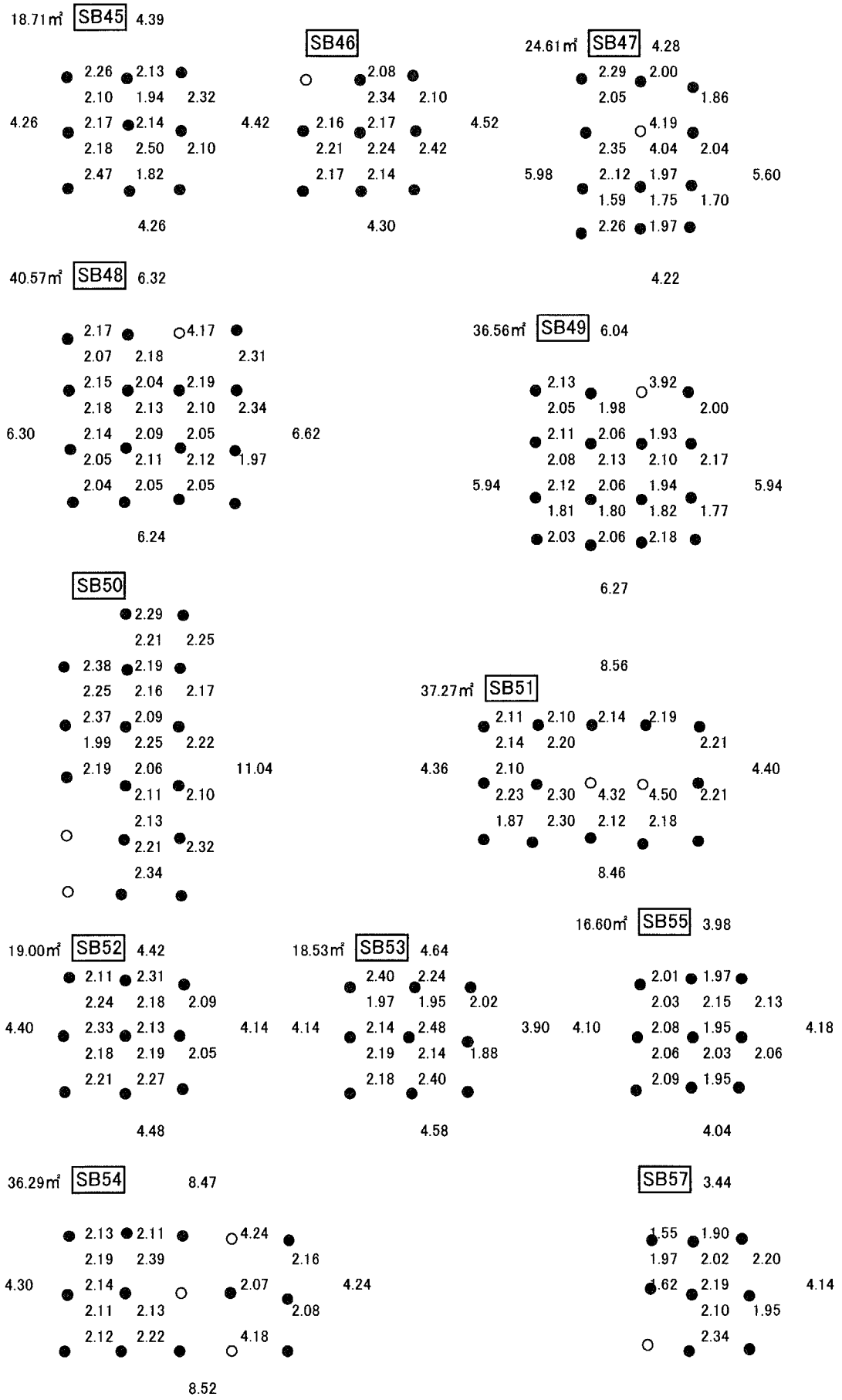
第79図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図1



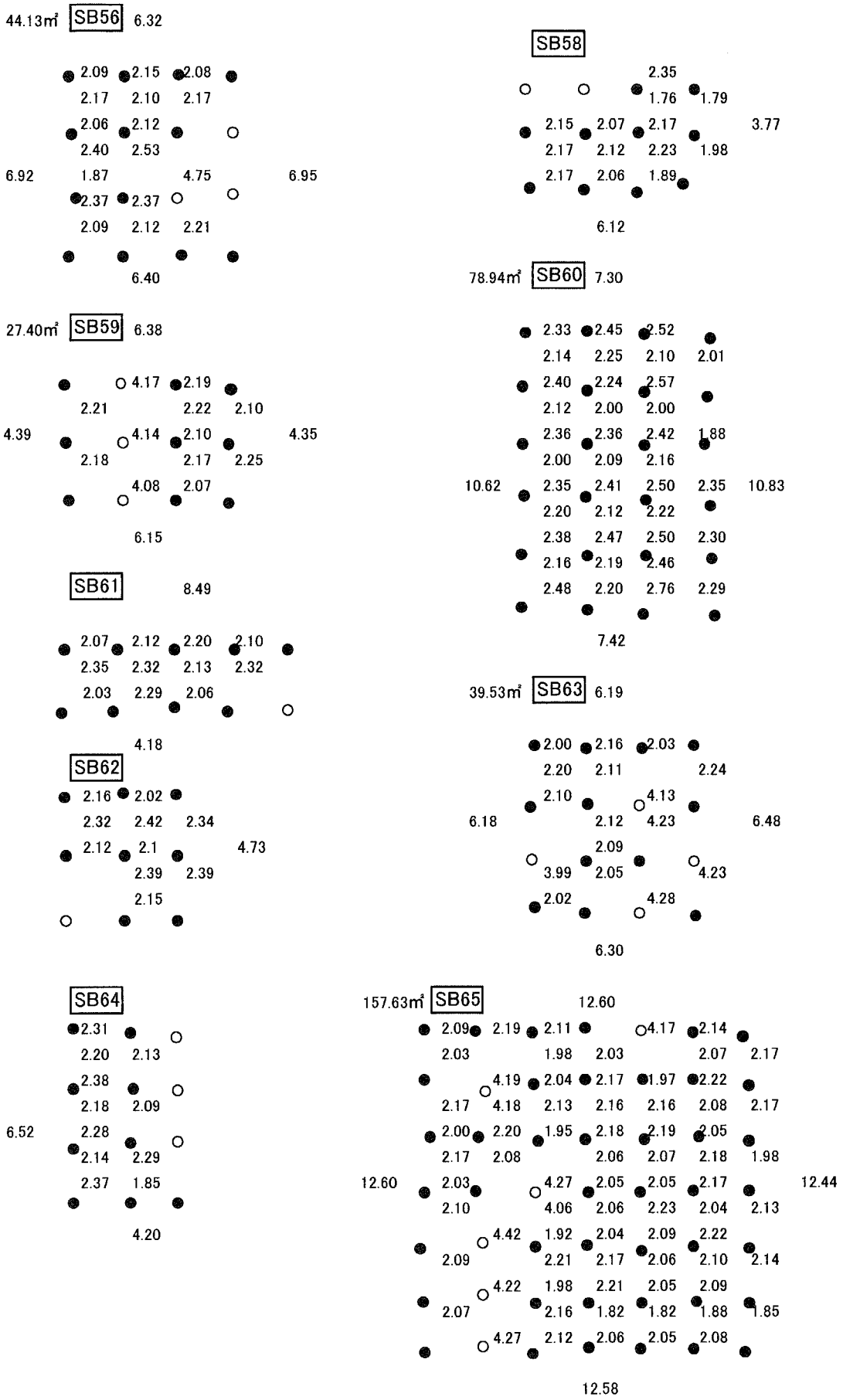
第80図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図２



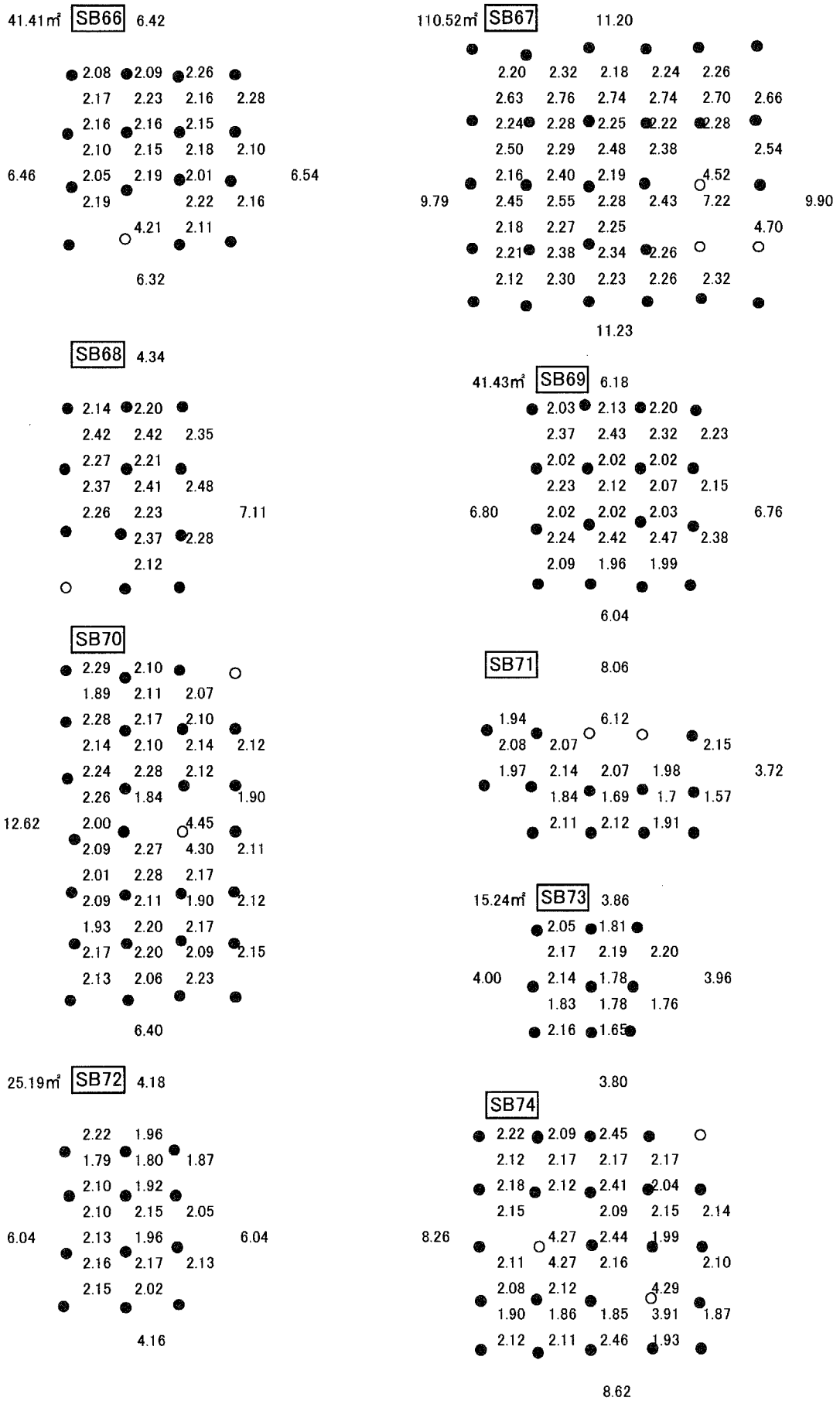
第81図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図 3



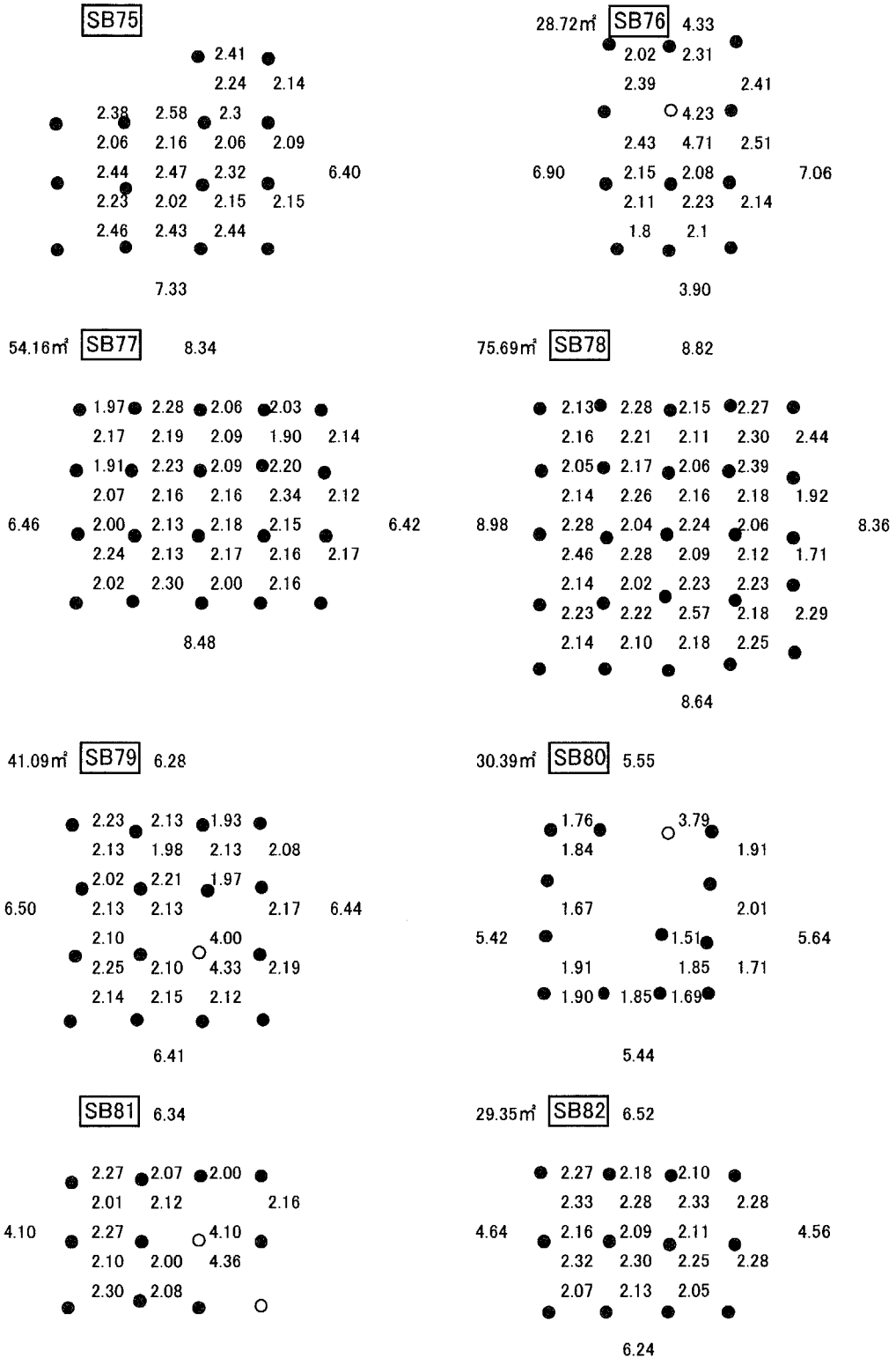
第82図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図４



第83図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図5



第84図　川関遺跡東調査区掘立柱建物模式図 6



第５節　自然災害と川関遺跡の動向について

川関遺跡は標高４ｍ前後の水田地帯で、那智川の河口に近く那智湾も熊野灘から漏斗状にすぼまっており、津波の被害を被りやすい地形である。昭和19年12月７日の東南海大地震では、津波が那智川に沿って遡り、川関周辺でも甚大な被害が生じている。

川関遺跡を巨大地震が襲ったことが調査中に判明した。水田部１区の建物ＳＢ０３の北辺を円弧状に取り囲むように６条の噴砂跡が検出された。大規模な地震によって引き起こされた液状化現象によるものだと推定され、建物が存在した時点で大地震が発生して、建物の上下動での荷重で噴砂が吹き上がった可能性が高い。現地でご指導いただいた寒川旭氏によると、「噴出した砂の中には数cm大の礫も含まれることから、南海大地震等の巨大地震が引き起こした液状化現象である可能性が高い。」と推定された。以下、検討してみたい。

建物ＳＢ０３は前述したように川関遺跡で最も規格性が高く、すべての柱穴底に礎石を敷いた堅牢な建物で、蔵ではないかと推定される。建物だけでなく内部の収納物の荷重が倍加して、この建物の周囲だけ液状化現象が生じた可能性もある。またＳＢ０３周辺は地盤がシルト状で、軟弱であったことも要因の一つであろう。

建物ＳＢ０３の柱穴からは山茶碗の破片等が出土しており、下限の土器が渥美５期古段階である。現在の編年案では12世紀末頃と考えられており、ＳＢ０３は12世紀末には廃絶したものと推定される。ＳＢ０３は建替えの痕跡が認められず、この頃に被災したものと考えられる。

この前後の紀伊半島周辺における地震の文献資料は以下の通りである。

①治承四年（1180）11月26日　「那智山地強くふるい、余震三日にわたった。」『大日本地震資料』

②正嘉元年（1257）３月３日　「大地震、津波押し寄す、疫病流行す。」『熊野年代記』

③元徳三年（1331）７月３日　「大地震、大津浪島崩れ現れ民家倒壊、流失多し、金王丸島頭出し橋杭岩沖島出て、鬼ケ島うかび上がる、大勝浦浚われる。」『熊野年代記』

④正平十五年（1360）10月４日　「翌日また強震、その翌朝津波、尾鷲より兵庫の間被害あり。」『大日本地震資料』

⑤正平十六年（1361）６月24日　「畿内、南海道の一部地震、紀伊も激震、」『紀州災異誌』

また、文献資料による、南海地震と東海地震の発生年代は以下の通りである。

	地震発生年代	南海地震	東海地震
1	684（天武13）年	白鳳南海地震	
2	887（仁和３）年	仁和南海地震	
3	1096（嘉保３・永長元）年		永長東海地震
4	1099（承徳３・康和元）年	康和南海地震	
5	1361（正平16）年	正平南海地震	

6	1498（明応７）年		明応東海地震
7	1605（慶長９）年	慶長南海地震	
8	1707（宝永４）年	宝永南海地震	
9	1854（嘉永７・安政元）年	安政南海地震	安政東海地震
10	1944（昭和19）年		東南海地震
11	1946（昭和21）年	昭和南海地震	

表17　南海地震・東海地震発生年代一覧表

近年、寒川旭氏ら地震の専門家によって、発掘調査現場で地震の痕跡が確認され、文献資料では確認されていない地震の検証が精力的に行われている。今回、川関遺跡で確認された噴砂は12世紀後半頃の大地震で、1099年の康和南海地震と1361年の正平南海地震との間の262年の空白期間を埋める南海地震の候補の一つとなろう。そうすると、川関遺跡では南海地震と東海地震の巨大地震に３回、藤倉城では１回遭遇していることになる。遺跡の動向と自然災害との因果関係について考察してみたい。

川関遺跡の集落をみてもわかるように、大震災や津波の被害を被ってもすべての遺跡が途絶するのではなく、密集した集落が屋敷地へと変貌する契機であったり、土地が再開発されて発展していく可能性も充分に考えられるのである。

川関遺跡では蔵と推定した掘立柱建物ＳＢ０３が廃絶した後、ほぼ同じ地点の西側に掘立柱建物ＳＢ０４が建てられている。建物の構造分析から蔵であることの実証は困難であるが、ＳＢ０３の後継施設である可能性は高い。遺物をみてみると、13世紀初頭の遺物が大半であるが、13世紀前半に下る山茶碗小皿もＳＢ０４の柱穴から出土している。建物の床面積はＳＢ０３が88.5㎡で、ＳＢ０４が85.2㎡であり、後継施設としての機能を充分に担っている。同じ場所に同規模の建物を立替える必要性があったものと理解される。

また、ほぼ同時期に南東部に新たな建物群が建てられている。建物ＳＢ０８を地割りの中軸線とする建物群である。川関集落全体で震災による甚大な被害にあったと考えられるが、比較的短期間で復興したものと考えられる。那智山の所領が没収される承久の乱（1221年）以前で、集落には復興し得る経済的基盤があったのであろう。

震災や津波以外でも、当地は年間降水量が3000㎜をはるかに超える本州一の多雨地帯であり、那智川流域でも集中豪雨や台風によって、しばしば氾濫による被害が引き起こされている。実際に川関遺跡周辺と対岸の低地部が近世前後に水田化された後、現在でもあまり宅地化されていないのは那智川の氾濫によるものであろう。

第６節　川関遺跡出土の日常雑器類の変遷について

今回の発掘調査で川関遺跡から出土した古代から近世初頭にかけての日常雑器類の変遷を概観してみたい。一覧表にまとめたのが表18である。

11世紀代では、供膳具として黒色土器椀が少量みられ、同時期の多段横ナデ技法で作られた土師器皿もみられる。やがて紀伊型や和泉型の瓦器椀が出現し、東海地方からは百台寺式の灰釉陶器碗が移入されている。中国製白磁碗Ⅳ１ａのタイプも多く、四耳壺もみられる。貯蔵具では、東海地方産の須恵器の甕や壺がみられる。煮沸具では紀北地域の土師器の甕がみられる。

12世紀代前半からは山茶碗類が圧倒的多数を占めるようになる。北部系の胎土が精良な尾張３型式の山茶碗と南部系の渥美３型式の山茶碗がほぼ同時期に移入され、数量的には後者が多い。とりわけ、口縁端部を３ないし４輪化にして、波状に口縁部から付け掛けに施釉した山茶碗が多くみられる。瓦器類と土師器は紀北地域の土器がみられるが、相対的に数は少ない。

12世紀後半から13世紀初頭にかけては、渥美４・５型式の山茶碗類が川関遺跡の出土遺物数では最も多く、尾張４・５型式の山茶碗類がそれに続いている。この時期に小碗の高台が退化して小皿へと変遷するが、西調査区の溝ＳＤ０６の一括遺物では両者が混在している。中国製の白磁皿・碗も増加し、玉縁状口縁の白磁碗Ⅳ１ａのタイプが多く、合子類も多い。土師器類では紀北地域の土器が減少し、南伊勢地方の器壁の非常に薄い皿や口縁端部が屈曲する底の浅い土堝が増加してくる。

貯蔵具では山茶碗系統の甕と壺が多い。調理具でも山茶碗系統の鉢や片口が多いが、東播系の捏鉢も一定量移入されている。煮沸具では南伊勢地方の土堝が増加し、石鍋も多くみられる。

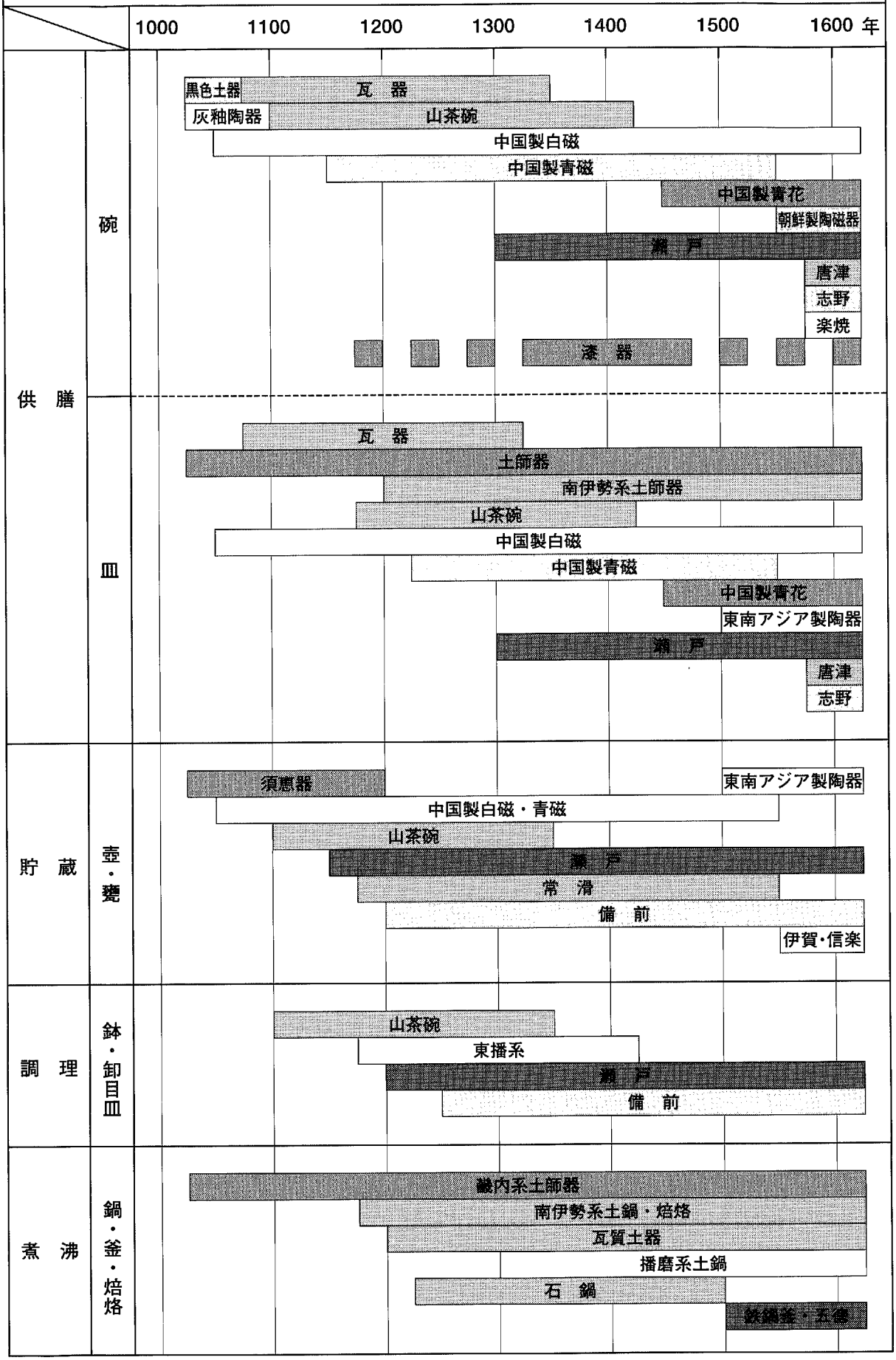
13世紀前半以降は徐々に土器の出土量が減少していく。南部系山茶碗では６型式の碗がみられるが、それ以降の型式の土器はほとんどみられない。北部系の山茶碗は一定量が引き続きもたらされている。瓦器椀は法量が減少し、高台が退化している。土師器類は南伊勢地方のものが多い。貯蔵具と調理具では、瀬戸と常滑の甕・壺・鉢が増加してくる。また、備前の擂鉢と壺も出現しており、石鍋もみられる。白磁と青磁も一定量移入されている。

14世紀代は遺物の出土量が激減している。山茶碗では大畑大洞式や大畑大洞新式の北部系山茶碗がみられる。瀬戸灰釉の卸皿や壺類も少量みられる。中国製白磁・青磁・青花も一定量みられる。集落は全体的に衰退期の様相を呈している。

15世紀代は再び遺物の出土量が増加している。しかしながら、ほとんどすべて川関東地区の微高地周辺からであり、西地区の低地部は集落が途絶している。

北部系山茶碗の大洞東式が少量出土している。瀬戸製品が多量に移入され始めている。供膳具では灰釉端反皿や丸皿が多く、天目茶碗も多くみられる。中国製天目茶碗も少量存在する。調理具では瀬戸錆釉擂鉢と備前擂鉢がほぼ同数程度もたらされている。貯蔵具では常滑甕が多いが、備前大甕も少数みられる。煮沸具は南伊勢系土堝と播磨地方の外面にタタキ目があり、短い鍔をもつ土堝が主流を占める。瓦質の脚付き釜や火鉢と風炉類も出現している。中国製品では景徳鎮窯や漳洲窯産の青花が増加しており、白磁・青磁も多くみられる。

表18 藤倉城跡・川関遺跡出土日常雑器変遷表



16世紀代から17世紀初頭の遺物は大半が掘ＳＨ０１から出土しており、集落の他の地域からの出土量はあまり多くない。瀬戸美濃製品が多数を占めるが、唐津や備前も一定量みられ、青花・白磁・青磁も出土している。鉄鍋の破片がみられることから、煮沸具として鉄製品が一般化していたものと考えられる。藤倉城跡出土遺物と比較すると、志野や唐津の比率が低く、瀬戸美濃製品の中では天目茶碗の比率が少ない。16世紀代には勝山城方との緊張関係が高まり、集落の拠点を藤倉城の館部へと移動していったのであろう。堀ＳＨ０１から出土した唐津大皿の破片が藤倉城跡のＡ区の堀ＳＨ０２の唐津大皿と同一個体であったので、藤倉城の廃絶時期と堀の埋没時期がほぼ同じ頃であったことが明らかになった。川関遺跡では17世紀中頃以降の遺物はあまり出土せず、集落は水田化されていったものと推定される。

第７節　墨書土器について

川関遺跡と藤倉城跡から出土した墨書土器についてまとめてみたい。大多数が山茶碗の外底部に墨書されたものであるが、志野皿や中国製白磁皿や壺に墨書されたものや朱書きのものもみられる。墨書の内容を分類すると以下のようになる。

①数字や年号に関するもの

「六」「十」「十一」「六十」「亥」

②個人名や坊院に関するもの

「円教坊」「乗禅」「定明」「若法師」「廊」「信」「蓮」「桂」

③地名に関するもの

「いぬみや」「黒犬」「ミヤ」「ミヤつ」「井」「川」「たき」「大多支」

④位置や形状に関するもの

「上」「大」

⑤一般的名詞

「汁」「駕」「木」「己」「上料」

⑥文章の一部

「一心無」「不也」

⑦その他

鳥の絵、梵字や花押と推定されるもの

この中で、いくつかの事例について取り上げてみたい。

１山茶碗の実方院関連の「十」

実方院米良氏は十方院とも書き、「十」が家印であった。出土遺物には「十」と墨書された土器がかなりの点数みられる。それらは単に数字や記号を表したものではなく、米良氏の印を意識して書かれた可能性もある。ただし、古墳時代の須恵器のヘラ記号や、古代から中世の墨書土器でも×や十は多数見られるため、あくまで推測の域をでない。また、花押についても人物が特定可能な明瞭な筆跡

のものはほとんど無い。

2 山茶碗の「圓教坊」「定明」「乗禅」「廊」「桂」などの坊院関係名について

那智山及び米良氏と川関遺跡・藤倉城跡の関係についての論考を阪本敏行氏がまとめている（註1）。阪本氏は圓教坊については、文献資料で13世紀前半から中頃の尊勝院潮崎氏系統の人物に円道坊、持円坊の名があり、時代が下った近世末期の社僧坊舎には、潮崎四院五坊の中に円乗院・円海院の院名があるのに対して、米良二院五坊の中には円の名が付くそれらしいものがないことを指摘されている。米良氏や潮崎氏の系譜には墨書土器の坊院関係名と合致するものは見られない。「廊」は潮崎廊之坊に由来する可能性が高い。これらの墨書土器の資料からは、鎌倉時代前半までの川関遺跡の造営主体者が実方院米良氏とは断定できない。むしろ、潮崎氏に関連すると推定される墨書土器がみられるのである。当時はまだ、両派閥による支配権争いは緩やかで、川関遺跡の中で那智山の他の有力社家達とも共同生活を送っていたのではないかと考えられる。

3 山茶碗の「いぬみや」について

「いぬみや」「黒犬」「ミヤ」「ミヤつ」などの墨書山茶碗が出土しており、川関遺跡周辺が鎌倉時代に「戌宮」と呼ばれていた可能性が生じてきた。戌は方角でいえば北北西にあたり、海浜部の「浜宮」に相対する呼び名であったのではないかと推定される。「黒犬」は「玄い戌宮」（くらい戌の方角の宮）を表現したものかもしれない。地形と方位から考えると、現在の天満神社周辺からの視点で「浜宮」・「戌宮」と呼び、区別していたのではないだろうか。当時すでに天満神社周辺には、拠点的な船着き場、港湾施設等が有り、そこからの視覚的・方位的な位置関係で呼ばれていた可能性がある。海浜部の明るい那智湾に面した浜宮と、鬱蒼とした那智原始林を背景とする戌宮を対比して象徴的に呼ばれていたのかもしれない。

宮と呼ばれるからには一般的な集落ではなく、那智山関連の社寺仏閣の類の建物も存在していた可能性が高く、合子や梅瓶などの出土遺物の内容からも肯首される。

4 志野皿の「亥」について

藤倉城館部と川関遺跡の堀から外底部に「亥」と墨書された志野皿が5点出土している。当初は漠然と十二支の亥か方角の北を表したものと推定していた。しかしながら、川関遺跡が「いぬみや」であると推定されたことから、時代が下った藤倉城から出土した「亥」の志野皿も十二支の年号ではなく、方角の亥（北）であり、「戌宮」が転訛した「亥宮」を表現したものである可能性が生じてきた。近世初頭の藤倉城では土師皿とともに志野丸皿が低位の日常雑器であり、光を反射させ、油を浸透させにくい長石釉の白い地肌を活用して灯明皿にも転用されている。土師皿より高級感があり、油の容量も多い志野皿を来客用か携帯用の灯明皿として使用し、他の志野皿と区別するために外底部に宿坊の屋号略号のように一字で「亥」と裏書きしたものではないかと推定される。出土地点にもかなりのばらつきがあり、食器用のセットとは考え難い。

第8節　まとめ

那智山内で、有力社家として覇権争いを行っていた後世の「東座廊之坊塩崎氏」と「西座米良氏」は、元来、那智川河口部の「那智川の東に展開する浜宮」と「西に展開する戌宮」に共同の生活基盤を置いていたのであろう。やがて、時代の変遷とともに抗争が激化し、東岸と西岸に別れて居住し始め、生活空間の性格を《宮・関（平安時代後期）→館・関（鎌倉時代）→屋敷（室町時代）→城館（戦国時代）》へと変貌させていった。最終的に「勝山城」と「藤倉城」を築いて武装化し、戦国大名堀内氏の那智山攻略という外圧の下で、最終決戦に至り、西座実方院米良氏方の勝利となって近世前夜に歴史的な対立劇は終焉している。発掘調査で明らかになった川関遺跡と藤倉城の遺構と遺物はこれらの歴史的変遷を物語っているのではないだろうか。

註

1　阪本敏行「熊野那智の一山組織と目良氏・川関遺跡・藤倉城について」和歌山地方史研究会『和歌山地方史研究』41　2001

2　水島大二監修『定本和歌山県の城』1995

3　和歌山県教育委員会『和歌山県中世城館跡詳細分布調査報告書』1998

4　小野正敏「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2　1982

5　鈴木秀典「17世紀の貿易当時に関する研究成果」『貿易陶磁研究』No.10　1990

6　森　毅「16世紀後半から17世紀初頭の陶磁器」『難波宮址の研究』第九　1992

参考文献

1　和歌山地方史研究会『和歌山地方史研究』41　2001

播磨良紀「堀内氏と那智－戦国・織豊期の紀南支配を通じて－」

阪本敏行「熊野那智の一山組織と目良氏・川関遺跡・藤倉城について」

白石博則「城郭史研究から見た藤倉城」

黒石哲夫「藤倉城跡・川関遺跡第一次発掘調査の成果」

村田　弘「発掘調査報告 川関遺跡の発掘調査」

2　和歌山県史編纂委員会『和歌山県史』考古資料1983

3　那智勝浦町『那智勝浦町史』上巻　1980

4　中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』1995

5　貿易陶磁研究会『貿易陶磁研究』No.2　1982

森田　勉「14～16世紀の白磁の分類と編年」

上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」

小野正敏「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」

6　森村健一「15～17世紀における東南アジア陶磁器からみた陶磁の日本文化史」
国立歴史民俗博物館研究報告第94集　2002
7　藤澤良祐「中世瀬戸窯の動態」財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第５輯　1997
8　藤澤良祐「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10輯　2002
9　藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」三重県埋蔵文化財センター研究紀要第３号　1994
10　中野晴久「知多（常滑）古窯址群の山茶碗について」三重県埋蔵文化財センター研究紀要第３号　1994
11　前川嘉宏「三重県における山茶碗の出土状況」三重県埋蔵文化財センター研究紀要第３号　1994
12　伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する覚書」三重県埋蔵文化財センター研究紀要第８号　1999
13　青木　修「片口鉢の研究－中世知多古窯群を中心として－」財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第１輯　1993
14　岡本直久「消費地から見た山茶碗－遺構内供伴遺物による各生産地編年対比－」財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第１輯　1993
15　三重県埋蔵文化財センター『多気遺跡群発掘調査報告－一志郡美杉村上多気所在－』1993
16　寒川　旭　日本を知る『地震　なまずの活動史』2001

藤倉城跡出土遺物

表19　藤倉城跡出土遺物観察表1

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1	A区	3J	A区表土	伊万里染付碗	17C前		8.8		(4.8)	施釉	
2	A区	7F	A区 茶褐色土	唐津徳利			7.6		(3.5)	施釉	
3	A区	3E	A区 暗黄灰色土	瀬戸鉄釉天目茶碗	16C後		10.7		(4.5)	施釉	
4	A区	3I	A区 暗黄灰色土	瀬戸鉄釉小碗			7.9	3.8	5.5	施釉	唐津系
5	A区	4C	A区 暗黄灰色土	瀬戸錆釉内禿皿	16C末	大窯3期前	10.0	5.0	2.1	施釉	見込胎土目痕3? 高台内輪ﾄﾞﾁ痕
6	A区	4II	A区 暗黄灰色土	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期			(6.2)	ﾛｸﾛ　3条凹線	
7	A区	5C	A区 暗黄灰色土	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期			(7.2)	ﾛｸﾛ　2条凹線	摺目4/1cm～？
8	A区	3I	A区 暗黄灰色土	中国製青花碗	16C末～17C初	小野Ｆ群		4.2	(2.75)	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
9	A区	S	A区表土	伊万里染付碗	18C前			4.3	(3.4)	施釉　高台畳付～高台内面釉削取	
10	A区	9E	A区 暗茶褐色土	唐津碗	16C末～17C初			4.4	(2.8)	施釉	
11	A区	11G	A区 暗褐色土	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	8.1	5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3 片口 自然釉
12	A区	11G	A区 暗褐色土	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.4	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
13	A区	3E	SH01	唐津碗	17C初			4.0	(2.5)	施釉	内外面貫入
14	A区	2F	SH01	唐津皿	17C初			4.8	(2.2)	施釉	内面貫入
15	A区	3E	SH01	唐津皿	17C前		12.9	4.7	3.6 3.7	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	
16	A区	3D	SH01	志野皿	16C末～17C初		11.6	7.0	2.3	施釉	
17	A区	3E	SH01	志野向付	16C末～17C初		12.0		(3.4)	施釉	
18	A区	2G	SH01	瓦質火鉢	16C?		20.0		(27.5)	ﾛｸﾛ　口縁～外面ﾐｶﾞｷ	
19	A区	3D	SH01	華南彩釉陶小皿	16C後半?		8.0	4.0	(1.2)	施釉	
20	A区	10J	SH02	唐津碗	16C末～17C初			4.4	(4.2)	施釉	見込重焼痕
21	A区	10J	SH02	唐津盤	17C初			7.8	(5.7)	施釉	見込胎土目痕4
22	A区	11I	SH02	瀬戸灰釉丸皿	16C後	大窯2期	9.5	5.6	2.35	施釉	ｶﾀﾊﾞﾐ文 内外面貫入
23	A区	10J	SH02	瀬戸灰釉端反か丸皿	16C前?	大窯1･2期?		8.2	(3.0)	施釉	内外面貫入　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
24	A区	10I	SH02	鉄絵皿	16C末～17C初	大窯1期	11.6	6.6	2.4	施釉	内面貫入　高台内胎土目痕3
25	A区	10J	SH02	瀬戸灰釉筒形香炉	16C前	大窯1期?	8.8	7.0	6.1 6.6	施釉	三足　二次焼成
26	A区	10I	SH02	絵唐津大皿	17C初		32.0	11.6	9.0	施釉	見込胎土目痕4
27	A区	10I	SH02	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期	30.2		(10.0)	ﾛｸﾛ　1条凹線　縁帯直下粘土紐接合痕	
28	A区	9J	SH02	備前摺鉢	16C後	備前Ⅴ期	28.0	9.7	12.6	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切　3条凹線	摺目Ⓤ8/2cmⓉ16/3.2cm
29	A区	11I	SH02	土師器小皿	16C末～17C初		8.4		(1.7)	ﾅﾃﾞ指押	灯明皿転用　口縁ｽｽ
30	A区	10J	SH02	土師器小皿	16C末～17C初		3.8		(1.9)	ﾅﾃﾞ	内外面ﾏﾒﾂ
31	A区	10J	SH02	中国製青花碗	16C末～17C初	小野Ｆ群		5.0	(3.15)	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯　内外面貫入
32	A区	9J	SH02	中国製青花碗	16C末～17C初	小野Ｆ群		4.4	(2.0)	施釉	漳州窯「福」高台内面～高台内砂粒
33	A区	11I	SH02	朝鮮製皿				6.6	(2.2)	施釉	李朝　見込重焼痕 高台内面砂粒
34	A区	5E	SF01	土師器小皿	16C末～17C初		10.1	7.7	1.75	ﾅﾃﾞ	南伊勢系
35	A区	11G	SX01	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.6	6.2	5.5 5.6	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	輪花3
36	A区	11G	SX01	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.1	5.7 5.8	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	輪花3
37	A区	11G	SX01	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.8	8.2	5.2 5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切で板目圧痕	輪花3
38	A区	11G	SX01	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.5	6.8	5.5 5.6	ﾛｸﾛ　静止糸切	輪花3
39	A区	11G	SX01	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	7.8	6.0 6.1	ﾛｸﾛ　静止糸切?	輪花3
40	A区	11G	SX01	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.7	5.9 6.0	ﾛｸﾛ　静止糸切	

表20　藤倉城跡出土遺物観察表２

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
41	A区	11G	SX01	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	18.0	8.2	5.3 5.4	ﾛｸﾛ　静止糸切?	輪花3
42	A区	11G	SX01	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.9	8.0	6.25 6.3	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ削	
43	A区	11G	SX01	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	7.8	5.9	ﾛｸﾛ　静止糸切	
44	A区	11F	SX02	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.4	7.6	5.05 5.1	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切　ﾅﾃﾞ	
45	A区	11F	SX02	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.2	7.8	5.7	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
46	A区	11G	SX01	山茶碗	12C中	渥美4	15.1	7.9	6.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	
47	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	4.4	2.15 2.2	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
48	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.1	3.45	2.05 2.1	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
49	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	4.2	2.0	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
50	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	4.4	2.1 2.2	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
51	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.1	3.8	2.1	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	見込輪ﾄﾞﾁ痕　自然釉
52	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	3.9	2.3	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
53	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.0	2.2	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
54	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	3.7	2.0	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
55	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.3	2.0	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	自然釉
56	A区	11F	SX02	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.1	2.2	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
57	B区	14K	B区包含層	絵唐津碗	17C初		10.6	4.5	6.6	施釉	
58	B区	14K	B区包含層	唐津碗	17C初		10.6	3.95	5.7	施釉	
59	B区	12K	B区包含層	唐津平茶碗	17C初		10.8	4.8	3.2	施釉	
60	B区	12K	B区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	大窯4期前	11.6	4.6	6.3	施釉	二次焼成　体部内面茶煎痕
61	B区	12K	B区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.7		(4.5)	施釉	
62	B区	12K	B区包含層	瀬戸灰釉端反皿	16C末	大窯1期	10.2	5.8	2.4	施釉	内外面貫入
63	B区	12K・9J	B区包含層	瀬戸鉄釉摺鉢	16C末		28.8		(7.1)	ﾛｸﾛ	摺目9/2.2cm
64	B区	14J	B区包含層	伊賀花生壺	16C			12.6	(12.7)	内面:ﾅﾃﾞ 体部内面粘土紐接合痕　外面:ﾅﾃﾞ	自然釉
65	B区	12K	B区包含層	土師器小皿	16C末～17C初		7.3	5.8	1.25	手づくね	灯明皿転用? 内面ｽｽ
66	B区	12K	B区包含層	土師器上場	16C後?		22.3		(8.4)	内面:ﾅﾃﾞﾊｹ　外面:ﾅﾃﾞｹｽﾞﾘ	体部外面下部ｽｽ
67	B区	14C	B区包含層	中国製青花皿	16C後	小野B1群	14.0		(2.5)	施釉	景徳鎮窯
68	B区	12K	B区包含層	中国製青花碗	16C末～17C初	小野F群		5.55	(1.95)	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
69	B区	12K	B区包含層	中国製青花碗	16C末～17C初	小野F群		4.6	(1.8)	施釉	漳州窯
70	B区	11K	B区包含層	中国製青花碗	16C末～17C初	小野F群		4.8	(2.35)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ　高台畳付釉削取	漳州窯　高台内面～高台内砂粒多量
71	B区	11K	B区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野F群	10.0	5.7	2.3	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
72	B区	12K	B区包含層	中国製青磁盤	14C?			12.2	(2.2)	施釉	草花文
73	B区		B区包含層	伊万里染付皿	17C前			4.5	(1.5)	施釉	高台畳付砂粒
74	B区		B区包含層	備前壺	15C後	備前Ⅳ期	27.4		(18.7)	ﾛｸﾛ　口縁内面一部ﾊｹ?	自然釉
75	B区		B区包含層	中国製青磁碗	15C			5.6	(2.3)	施釉	龍泉窯　高台内面重焼痕
76	B区	12P	B区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後			4.2	(1.5)	施釉	
77	B区	12P	B区包含層	瀬戸灰釉折縁皿	16C末	大窯4期前	11.2	6.4	2.0	施釉	
78	B区	13N	B区包含層	中国製染付皿	16C末～17C初		12.4		(2.3)	施釉	
79	B区	12K	B区包含層	中国製染付皿	16C末～17C初		11.2		(1.8)	施釉	
80	B区	11M	B区包含層	中国製青花小杯	16C末		6.9	3.05	4.3	施釉	景徳鎮窯

表21　藤倉城跡出土遺物観察表３

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
81	B区	14N	SV01	瀬戸美濃碗	16C末			5.8	(2.9)	施釉　高台内ハミ成形	
82	B区	14N	SV01	瀬戸鉄釉輪禿輪花皿	16C末～	大窯3期後	11.4	5.6	2.65	施釉　見込釉削取	高台内輪ﾄﾞﾁ痕
83	B区	11K	SV01	鼠志野皿	16C末～17C初			6.2	(1.25)	施釉	高台内胎土目痕3
84	B区	22N	SE02	伊万里白磁碗	17C初		11.9	4.5	7.15	施釉	高台畳付～高台内面胎土目痕3
85	B区	13L	SK02	中国製青花皿				4.6	(3.0)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
86	B区	13L	SK02	中国製青花碗	16C末～17C初	小野Ｆ群	15.1	5.8	4.8	施釉	漳州窯
87	C区	SW	C区包含層	伊万里染付皿				5.5	(1.75)	施釉	
88	C区	SW	C区包含層	唐津皿	17C初			3.8	(1.6)	施釉	見込胎土目痕4
89	C区	SW	C区包含層	唐津皿	17C初			5.4	(2.5)	施釉	見込･高台砂目圧痕4
90	C区	SW･17Q	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	12.2	6.6	2.7	施釉	墨書「亥」　胎土目痕3
91	C区	SW	C区包含層	土師器土堝	16C?		36.4		(4.3)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞﾊｹ	南伊勢系　外面ｽｽ
92	C区	SW	C区包含層	中国製青花皿	16C後	小野Ｂ群		9.0	(1.3)	施釉	景徳鎮窯　高台畳付砂粒
93	C区	W	C区包含層	中国製白磁小杯	16C後		5.6		(3.2)	施釉	
94	C区	18S	C区包含層	伊万里染付碗	17C前			5.4	(3.0)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込重焼痕　高台内面～高台内砂粒
95	C区	17S	C区包含層	唐津碗	17C初		10.7	4.3	6.4	施釉	
96	C区	18S	C区包含層	唐津碗	17C初		11.0	4.5	6.45	施釉	
97	C区	16R･17S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		12.4	5.0	6.1	施釉	内外面貫入
98	C区	16S	C区包含層	唐津碗	17C初			5.2	(4.2)	施釉　ｹｽﾞﾘ	
99	C区	18S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		10.6	3.6	3.4 3.5	施釉	
100	C区	18S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		10.4	4.2	3.5 3.6	施釉	
101	C区	18S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		12.0	5.4	4.5	施釉	
102	C区	18S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		10.2	4.2	3.1	施釉	
103	C区	18S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		10.5	3.3	3.35 3.4	施釉	
104	C区	18S	C区包含層	唐津平茶碗	17C初		10.2	4.0	2.9	施釉	
105	C区	18S	C区包含層	唐津平皿	17C初		12.7	4.5	3.4 3.5	施釉	高台内胎土目痕4
106	C区	SW	C区包含層	唐津平皿	17C初		10.7	4.7	3.5 3.55	施釉	見込胎土目痕3
107	C区	18S	C区包含層	唐津平皿	17C初		13.2	5.0	3.5	施釉	見込胎土目痕4?
108	C区	17･18R･S	C区包含層	唐津皿	17C初		13.1	4.5	3.45	施釉	見込胎土目痕4
109	C区	17S	C区包含層	唐津皿	17C初		12.8	2.7	3.0	施釉	見込胎土目痕4
110	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初			4.0	(2.7)	施釉	見込胎土目痕4
111	C区	15S	C区包含層	唐津皿				5.9	(3.7)	施釉	
112	C区	16R	C区包含層	唐津皿	17C初			4.3	(2.4)	施釉	内面貫入　見込胎土目痕4
113	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初			5.4	(2.4)	施釉	
114	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初			5.0	(2.0)	施釉	見込･高台畳付胎土目痕4
115	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初		11.8	3.9	3.55	施釉	見込胎土目痕4
116	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初			4.6	(2.1)	施釉	内面貫入
117	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初			4.6	(2.0)	施釉	見込胎土目痕4
118	C区	18S	C区包含層	唐津皿	17C初			5.0	(1.9)	施釉	内外面貫入
119	C区	12R	C区包含層	唐津稜花皿	17C初		13.2	5.2	4.3	施釉	花弁16？
120	C区	18S	C区包含層	唐津溝縁皿	17C前		12.3	4.3	3.1 3.2	施釉	見込砂目痕3

表22　藤倉城跡出土遺物観察表4

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
121	C区	18S	C区包含層	絵唐津向付?	17C初		12.0	4.0	5.0	施釉	見込·体部外面胎土目痕4
122	C区	18S	C区包含層	絵唐津向付	17C初		12.4	4.5	4.25 4.7	施釉	見込胎土目痕4?
123	C区	18S	C区包含層	絵唐津向付	17C前		14.0	5.0	4.8	施釉	全体歪み　見込·高台畳付砂目痕
124	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	2小期	11.5	4.2	7.7	施釉	
125	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	1小期	11.2	4.6	7.25 7.3	施釉	
126	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C		11.0		(6.0)	施釉	
127	C区	16S	C区包含層	瀬戸美濃白天目茶碗	17C前		11.6		(6.2)	施釉	内外面貫入
128	C区	16S	C区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C			4.8	(2.25)	施釉	
129	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C			4.9	(2.3)	施釉	
130	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃灰釉皿	16C後		10.0	5.0	1.6	施釉	内外面貫入
131	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃稜皿	16C後	大窯4期前	10.5	5.8	2.5	施釉	内外面貫入　輪ﾄﾞﾁ痕　ｶﾞﾗｽ質釉
132	C区	18S	C区包含層	瀬戸灰釉内禿皿	16C末	大窯4期前	13.2	7.6	2.2	施釉	高台内輪ﾄﾞﾁ痕
133	C区	18S	C区包含層	黄瀬戸輪禿皿	16C末～17C初	大窯4期前	13.3	6.8	1.2 1.3	施釉	見込·高台内輪ﾄﾞﾁ痕
134	C区	17S	C区包含層	鉄絵皿	16C末～17C初	1小期	11.4	6.4	2.4	施釉	
135	C区	17S	C区包含層	瀬戸灰釉端反皿?	15C末～16C初	大窯1期		4.8	(1.4)	施釉	梅花印　内外面貫入　高台内重焼痕
136	C区	18S	C区包含層	瀬戸灰釉端反皿	16C後	大窯1期	10.4	5.3	2.6 2.7	施釉　高台畳付釉削取	輪花　菊印　胎土目痕2　ｶﾞﾗｽ質釉
137	C区	18R	C区包含層	瀬戸灰釉燭台				6.0	(4.65)	施釉　回転糸切	
138	C区	18S	C区包含層	瀬戸脚付浅鉢	16C後半?		21.4		7.6	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
139	C区	18S	C区包含層	瀬戸鉄釉摺鉢	17C初		28.0		(9.8)	ﾛｸﾛ	摺目10/2.6cm?
140	C区	18S	C区包含層	瀬戸美濃鉄釉摺鉢	15C末		29.0	9.4	11.6		摺目8/2.2cm
141	C区	18R	C区包含層	絵志野皿	16C末～17C初		11.1	6.4	2.0	施釉	内外面貫入　高台内胎土目痕
142	C区	16S	C区包含層	瀬戸美濃絵志野皿	16C末～17C初		13.0	8.4	2.3	施釉	
143	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	3小期	11.2	6.6	2.1	施釉	内外面貫入　見込胎土目痕3
144	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	3小期	10.8	6.4	2.25 2.3	施釉	二次焼成?　高台内胎土目痕3
145	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	11.8	6.6	2.5 2.6	施釉	高台内胎土目痕3
146	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	12.1	6.6	2.9	施釉	内面貫入
147	C区	17S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	12.2	6.6	3.5	施釉	内外面貫入　見込·高台内胎土目痕4?
148	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	11.1	6.9	1.7 1.8	施釉	内面貫入　見込胎土目痕3?
149	C区	17S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初		10.8	6.8	2.5	施釉	高台内胎土目痕
150	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	11.2	6.3	2.6	施釉	高台内胎土目痕3
151	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	12.4	6.8	3.0	施釉	内外面貫入　高台内胎土目痕
152	C区	18S	C区包含層	志野皿	16C末～17C初		11.7	6.8	2.1	施釉	内外面貫入
153	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	11.4	6.4	2.1 2.25	施釉	内外面貫入　見込·高台内胎土目痕3
154	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	10.0	5.9	2.2 2.3	施釉	内面貫入　見込·高台内胎土目痕3
155	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	11.2	6.4	2.2	施釉	見込·高台内胎土目痕3
156	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	大4後期	11.2	6.4	2.35 2.4	施釉	内外面貫入　見込·高台内胎土目痕3
157	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	3小期	11.4	7.0	2.2	施釉	内外面貫入
158	C区	15S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初		10.8	7.5	2.2	施釉	内外面貫入　見込·高台内胎土目痕
159	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	2小期	11.0	6.8	2.4	施釉	内外面貫入
160	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1·2小期	11.4	6.6	2.8	施釉	墨書「亥」　内面貫入　見込胎土目痕

表23　藤倉城跡出土遺物観察表5

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
161	C区	18S	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	12.2	6.8	3.15 3.3	施釉	墨書「亥」 内外面貫入 胎土目痕3
162	C区	17S・16R	C区包含層	志野向付	16C末～17C初	大4後期		7.8	(1.8)	施釉	内面貫入
163	C区	15S	C区包含層	備前壺	15C後	備前Ⅳ期	13.0		(7.0)	ﾛｸﾛ	自然釉
164	C区	17S	C区包含層	備前壺?	16C	備前Ⅴ期		8.5	(3.5)	ﾛｸﾛ 回転糸切	
165	C区	16S	C区包含層	備前摺鉢	16C	備前Ⅴ期		12.0	(2.7)	ﾛｸﾛ 回転糸切 ﾍﾗ削によるはみだし痕	
166	C区	18S	C区包含層	備前摺鉢	16C	備前Ⅴ期		10.6	(5.6)	ﾛｸﾛ 回転糸切	摺目㊤?㊦17/3.2cm
167	C区	15T	C区包含層	土師器小皿	17C初		7.6		(1.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	南伊勢系
168	C区	15S	C区包含層	土師器坩堝			7.4		3.1	調整不明	内外面ｽｽ 外面溶解物付着
169	C区	18S	C区包含層	土師器塩壺蓋	17C初?				(1.85)	外面:指押 ﾅﾃﾞ?	内外面ﾏﾒﾂ
170	C区	18S	C区包含層	土師器土堝	16C末～17C初		36.6		(3.4)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	南伊勢系
171	C区	15R	C区包含層	中国製青花碗	16C末	小野Ｆ群	10.2		(4.1)	施釉	漳州窯
172	C区	18S	C区包含層	中国製青花碗	16C後	小野Ｆ群	11.6		(5.4)	施釉	漳州窯 内面型押文
173	C区	SW	C区包含層	中国製青花碗	16C後	小野Ｆ群		4.0	1.5	施釉 内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯 内外面貫入
174	C区	18S	C区包含層	中国製青花皿	16C後	小野Ｂ1群	14.2	8.4	2.8	施釉 高台畳付釉削取	景徳鎮窯 内外面貫入
175	C区	17S	C区包含層	中国製青花皿	16C末		11.85	5.6	3.2	施釉 内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯 高台内面砂粒
176	C区	18S	C区包含層	中国製青花小杯	16C後			2.4	(1.4)	施釉 高台畳付釉削取	漳州窯
177	C区	18S	C区包含層	中国製青花小坏	16C後			2.6	(2.1)	施釉	景徳鎮窯
178	C区	18S・17O	C区包含層	中国製白磁碗			12.6		(3.5)	施釉	体部内面窓形型押文
179	C区		C区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野Ｃ群	11.0	4.6	3.1	施釉 高台畳付釉削取	
180	C区	17R	C区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野Ｃ群	18.0	10.8	3.8	施釉 高台畳付釉削取	
181	C区	18S	C区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野Ｃ群	8.0		(2.15)	施釉	
182	C区	18S	C区包含層	中国製白磁丸皿	15C	小野Ｂ群	10.9	3.7	2.9	施釉	
183	C区	17S	C区包含層	中国製青磁盤	13C前		11.2		(1.6)	施釉	
184	C区	18R	C区包含層	中国製青磁盤	13C前			10.8	(2.2)	施釉	鏑蓮弁文
185	C区	18R	C区包含層	中国製青磁盤	13C前			10.8	(5.3)	施釉	鏑蓮弁文
186	C区	18S	C区包含層	中国製青磁香炉				6.2	(3.7)	施釉	三足
187	C区	16R・SW	C区包含層	ベトナム製壺	16C末?			17.4	(6.1)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
188	C区	14S	C区包含層	唐津碗	17C初		11.4	5.0	3.6	施釉	内外面貫入
189	C区	16Q	C区包含層	唐津皿	16C末～17C初		11.8	4.0	3.3	施釉	見込胎土目痕4
190	C区	16Q	C区包含層	唐津皿	16C末～17C初			4.2	(2.5)	施釉	
191	C区	17N	C区包含層	唐津皿	17C初			5.0	(2.1)	施釉	内面貫入
192	C区	14Q	C区包含層	唐津大皿	17C初			9.9	(3.0)	施釉	
193	C区	14S	C区包含層	唐津盤?鉢?	17C初			6.4	(3.8)	施釉	見込砂目圧痕
194	C区	17O	C区包含層	唐津杯?	17C初		9.4		(4.6)	施釉	外面草花文
195	C区	14S	C区包含層	瀬戸美濃丸碗	16C末?	1小期	11.0		(5.0)	施釉	
196	C区	12R	C区包含層	鉄絵皿	16C末～17C初	1小期	11.4	5.8	2.2	施釉	見込胎土目痕?
197	C区	17O	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	12.2	7.0	2.5 2.6	施釉	灯明皿転用 墨書「亥」 内外面貫入
198	C区	14O	C区包含層	志野丸皿	16C末～17C初		10.6	6.3	2.2	施釉	内面貫入 高台内重焼痕
199	C区	17O	C区包含層	瀬戸美濃筒形容器	16C?		12.3		(4.8)	施釉	天目
200	C区	14C	C区包含層	備前摺鉢	16C後	備前Ⅴ期	29.0		(10.15)	ﾛｸﾛ	縁帯部直下重焼痕

表24　藤倉城跡出土遺物観察表6

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
201	C区	14C・SW	C区包含層	備前摺鉢	16C後	備前Ⅴ期			(8.85)	ﾛｸﾛ　3条凹線	摺目8/2cm
202	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		6.6		1.0	手づくね	南伊勢系
203	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		7.4	4.0	1.4	手づくね	南伊勢系
204	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		8.0	4.0	1.5	手づくね	南伊勢系　全体歪み
205	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		8.0		1.4	手づくね	南伊勢系
206	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		8.6	4.6	1.5	手づくね	南伊勢系
207	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		10.6	8.2	(1.65)	手づくね	南伊勢系
208	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		10.7		(2.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	畿内系
209	C区	14S	C区包含層	土師器小皿	16C後～17C初?		10.0	7.7	1.75	手づくね	南伊勢系
210	C区	14S	C区包含層	土師器砲烙	16C後～17C初?		38.0		(8.3)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 板ﾅﾃﾞ (2.5cm幅)	南伊勢系
211	C区	16N	C区包含層	中国製青花碗	16C末	小野Ｆ群		4.8	(2.15)	施釉	漳州窯
212	C区	13Q	C区包含層	中国製青花皿	16C後	小野Ｂ1群	11.6	5.2	2.3	施釉	景徳鎮窯　高台外面砂粒
213	C区	16R	C区包含層	中国製青花皿	16C末	小野Ｂ1群		6.2	(1.1)	施釉	漳州窯　高台内面～高台内砂粒
214	C区	14O	C区包含層	中国製青花皿	16C末	小野Ｂ1群	9.1	4.7	2.1	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
215	C区	13P	C区包含層	中国製青花小杯	16C後		5.8	2.6	3.4	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯「福」
216	C区	17Q	C区包含層	中国製青花小坏	16C末			6.7	(3.8)	施釉	景徳鎮窯
217	C区	14O	SV03	瀬戸美濃天目茶碗	16C前		13.1	5.3	6.4	施釉	
218	C区	14O	SV03	織部花生	16C末～17C初			9.3	(2.6)	施釉	外面貫入　内面に直径7㎜大の釉付着
219	C区	22N	SX08	鞴羽口			長10.2	幅9.75	厚10.0		溶解物付着
220	C区	15R	SK03	唐津皿	16C末～17C初			5.0	(3.0)	施釉	
221	C区	15R	SK03	中国製青磁鉢	14C	Ⅰ1?	17.9		(7.0)	施釉	
222	C区	15M	SK04	瀬戸美濃丸皿	16C末～17C初		12.0	6.7	2.4	施釉	内外面貫入
223	C区	15M	SK04	ベトナム製?水指	16C		8.2		(7.2)	ﾛｸﾛ	
224	C区	15M	SK04	中国製青花皿	16C中	小野Ｂ1群		6.2	(1.7)	施釉	景徳鎮窯
225	C区	15M	SK04	中国製青花皿	16C後			8.0	(1.6)	施釉	漳州窯　高台畳付砂粒
226	C区	14P	SK05	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.0		(5.6)	施釉	
227	C区	14P	SK05	志野丸小皿	16C末～17C初	1小期	8.5	4.8	1.9 2.0	施釉	
228	C区	15P	SK06	唐津碗	16C後		11.0	3.7	6.3 6.6	施釉	
229	C区	15P	SK06	瓦器火鉢	16C前?		15.7	12.4	7.05	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
230	C区	15P	SK06	中国製青磁碗	14C			7.0	(5.0)	施釉	龍泉窯
231	C区	19N	SG01	唐津皿	16C末～17C初			5.0	(2.4)	施釉	見込胎土目痕4
232	C区	15R	P1	唐津碗			10.0	4.4	5.8	施釉　体部外面沈線5 高台畳付釉削取	内外面貫入
233	C区	15R	P1	中国製青花碗	16C末	小野Ｆ群	17.1		4.1	施釉	漳州窯
234	D区	S	D区包含層	唐津皿	16C末～17C初			5.4	(2.8)	施釉	見込胎土目痕
235	D区	S	D区包含層	唐津皿	16C末～17C初		11.3	4.2	2.8	施釉	見込胎土目痕4
236	D区	M	D区包含層	唐津皿	17C前		12.3	4.6	3.8	施釉	見込・体部外面胎土目痕4
237	D区	M	D区包含層	唐津稜花皿	16C末		11.8	4.3	3.0	施釉	口縁歪み
238	D区	M	D区包含層	唐津壺?	17C?		17.6		(3.7)	施釉	
239	D区	M	D区包含層	朝鮮唐津壺	17C?			10.6	(5.9)	施釉	
240	D区	N	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.8		(5.75)	施釉	

表25　藤倉城跡出土遺物観察表7

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
241	D区	M	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後～16C末		11.6		(4.9)	施釉	
242	D区	C	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.3	4.6	6.6 6.7	施釉	
243	D区	S	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C中	大窯4期末	12.2	4.9	6.3	施釉	ﾍﾗ記号×
244	D区	M	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.2		(4.3)	施釉	
245	D区	S	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		8.4		(3.3)	施釉	
246	D区	N	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後			4.2	(2.1)	施釉	
247	D区	N	D区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後			4.4	(1.9)	施釉	
248	D区	N	D区包含層	瀬戸鉄釉内禿皿?	16C後		9.8	5.8	2.2	施釉	高台内輪ﾄﾞﾁ痕
249	D区	N	D区包含層	瀬戸灰釉綾皿	16C後		10.3	6.3	2.2	施釉	内面貫入　見込・高台内輪ﾄﾞﾁ痕
250	D区	S	D区包含層	瀬戸灰釉綾皿	16C後		10.4	5.2	2.5	施釉	内外面貫入　内底・外底輪ﾄﾞﾁ痕
251	D区	N	D区包含層	瀬戸灰釉綾皿	16C後		10.6	5.5	2.6	施釉	見込・高台内輪ﾄﾞﾁ痕
252	D区	M	D区包含層	瀬戸鉄釉稜皿	16C末		10.2	6.4	2.1	施釉	
253	D区	S	D区包含層	瀬戸美濃平皿	16C後		13.6	8.4	1.9	施釉	内外面貫入
254	D区	S	D区包含層	瀬戸灰釉丸皿	16C後		8.8	5.2	2.2	施釉	ｶﾀﾊﾞﾐ文　内外面貫
255	D区	N	D区包含層	瀬戸鉄釉輪花稜皿	16C後		10.1	5.2	2.75	施釉	内禿 高台内輪ﾄﾞﾁ痕
256	D区	C	D区包含層	鉄絵皿	17C初	1小期	10.6	5.1	2.2	施釉	高台内胎土目痕4?
257	D区	M･14S	D区包含層	志野丸皿	17C前半	2･3小期	11.1	7.0	2.4	施釉	内外面貫入　見込胎土目痕3
258	D区	SW	D区包含層	志野丸皿	17C前半	3小期	11.4	6.4	2.0	施釉	内外面貫入　高台内胎土目痕
259	D区	M	D区包含層	志野丸皿	17C初	1小期	10.8	6.2	2.6	施釉	内外面貫入　見込胎土目痕
260	D区	SW	D区包含層	志野茶碗	17C前		12.0		(5.3)	施釉	内外面貫入
261	D区	S	D区包含層	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期			(5.1)	ﾛｸﾛ　3条凹線	摺目9/2.3cm　縁帯部黄ｺﾞﾏ釉
262	D区	N	D区包含層	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期			(6.5)	ﾛｸﾛ　2条凹線	体部内面黄ｺﾞﾏ釉
263	D区	N	D区包含層	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期	29.0		(7.5)	ﾛｸﾛ　2条凹線	摺目9/2.7cm～
264	D区	C	D区包含層	備前摺鉢	16C前	備前Ⅴ期			(8.0)	ﾛｸﾛ　2条凹線	摺目10/2.8cm
265	D区	M	D区包含層	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期			(8.8)	ﾛｸﾛ　指押　2条凹線	縁帯部･体部内面黄ｺﾞﾏ釉
266	D区	SW	D区包含層	備前摺鉢	16C	備前Ⅴ期		12.4	(8.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	摺目8/2.2cm
267	D区	N	D区包含層	備前摺鉢	16C	備前Ⅴ期		11.6	(9.65)	ﾛｸﾛ　回転糸切	摺目17/3.3cm 11/2.8cm
268	D区	S	D区包含層	備前摺鉢	16C中	備前Ⅴ期			(6.9)	ﾛｸﾛ　2条凹線	摺目7/2.5cm～? 自然釉
269	D区	S	D区包含層	備前水指?	16C?	備前Ⅴ期?	14.8		(5.0)	ﾛｸﾛ	
270	D区	N	D区包含層	土師器小皿	13C?		5.6		1.1	手づくね	南伊勢系　全体歪み
271	D区	N	D区包含層	土師器小皿	13C?		6.4		1.5	手づくね	南伊勢系　全体歪み
272	D区	N	D区包含層	土師器小皿	15C		10.0		(1.8)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	口縁ｽｽ
273	D区	M	D区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初		9.0	4.6	2.6	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯
274	D区	M	D区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初		10.0	5.8	2.6 2.7	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
275	D区	SW	D区包含層	中国製青花小坏	16C末			2.4	(2.7)	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
276	D区	M	D区包含層	中国製青花小坏	16C後		6.2		(2.7)	施釉	景徳鎮窯
277	D区	C	D区包含層	中国製白磁皿	16C末		10.3	5.65	2.6	施釉　高台畳付釉削取	内面ｺﾝﾆｬｸ印?
278	D区	N	D区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野C群	10.6	5.2	3.1	施釉	内外面貫入　高台畳付～内面砂粒
279	D区	N	D区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野C群	6.0	6.6	3.1	施釉　高台畳付釉削取	
280	D区	S	D区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野C群	14.2	7.4	3.3	施釉　高台畳付釉削取	

表26　藤倉城跡出土遺物観察表８

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
281	D区	N	D区包含層	中国製白磁皿	16C後	小野C群	14.5	8.2	3.5	施釉　高台畳付釉削取	
282	D区	S	D区包含層	中国製青磁碗	15C?			4.7	(2.3)	施釉	龍泉窯　陰刻
283	D区	S	D区包含層	中国製青磁菊皿	16C末～17C初		9.3	4.6	2.0	施釉　高台畳付釉削取	
284	E区	N	E区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C中?		6.0		(5.6)	施釉	
285	E区	M	E区包含層	唐津褐釉壺	17C?		14.6		(3.5)	施釉	
286	E区	M	E区包含層	絵唐津鉢?	16C末～17C初		30.0	20.6	6.6	施釉	内外面貫入　外底砂粒
287	E区	M	E区包含層	瀬戸灰釉丸皿	16C中		9.3	5.2	2.55	施釉	ｿｷﾞ内外面貫入　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
288	E区	M	E区包含層	瀬戸灰釉内禿皿	16C後		10.6	6.2	2.4	施釉	輪花　ｿｷﾞ貫入　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
289	E区	M	E区包含層	朝鮮製皿				5.1	(1.6)	施釉　高台畳付釉削取	李朝　内外面貫入
290	E区	M	E区包含層	朝鮮製碗	16C?			4.4	(2.7)	施釉	李朝　重焼痕4　見込ﾋﾟﾝ留痕
291	E区	N	E区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初		10.0	5.8	2.55	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯　高台畳付砂粒
292	E区	M	E区包含層	中国製青花皿	16C後	小野C群		2.9	(1.7)	施釉　外面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯　蕉葉文　貫入　碁笥底
293	E区	M	E区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	10.8	3.7	3.3	施釉	漳州窯　内外面貫入
294	F区	E	F区包含層	絵唐津皿	16C末			4.4	(3.0)	施釉	見込胎土目痕4
295	F区	ME	F区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C中?		12.4		(6.4)	施釉	
296	F区	N	F区包含層	備前徳利				12.0	(6.8)	ﾛｸﾛ　ｹｽﾞﾘ　体部外面ｹｽﾞﾘ	
297	F区	13U	SK09	備前鶴首徳利			6.0		(3.3)	ﾛｸﾛ	
298	F区	14U	SK09	中国製青花皿	16C後	小野B1群	11.2	6.2	2.8	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯　高台畳付砂粒
299	G区	SW	G区包含層	中国製白磁皿	16C末～17C初			4.6	(2.1)	施釉	
300	G区	SW	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.0	5.3	3.1	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯　内外面貫入
301	G区	14C	G区包含層	瀬戸美濃天目小碗	16C後		8.0	3.2	4.0	施釉	二次焼成
302	G区	14C	G区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.9		(5.7)	施釉	
303	G区	14C	G区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	15C後		11.0		(5.0)	施釉	外面二次焼成
304	G区	14C	G区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後		11.3		(5.5)	施釉	二次焼成
305	G区	10A	G区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C?			3.4	(1.2)	施釉	
306	G区	10A	G区包含層	瀬戸美濃丸皿	16C後			4.4	(1.6)	施釉	ｶﾀﾊﾞﾐ文　貫入　高台内胎土目痕3?
307	G区	10A	G区包含層	瀬戸美濃小皿	16C後?		8.4	4.6	2.1	施釉	内外面貫入
308	G区	14C	G区包含層	瀬戸美濃筒型香炉	16C後?	大窯3期前?	9.6	7.4	6.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	三足　無釉
309	G区	M	G区包含層	志野丸皿	16C末～17C初	1小期	11.2	6.0	2.7	施釉	内外面貫入　高台内胎土目痕3
310	G区	14C	G区包含層	備前壺	15C前	備前Ⅳ期	9.8	12.0	21.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	外面肩部波状文
311	G区	14C	G区包含層	備前壺	15C	備前Ⅳ期	13.0	14.0	20.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
312	G区	SW・14C	G区包含層	瓦質火舎	15C後		42.0		(11.6)	ﾛｸﾛ	貼付突帯
313	G区	14C	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.6	5.4	3.2	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
314	G区	14C	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	12.0	5.6	3.1 3.2	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	龍泉窯　底部砂粒
315	G区	14C	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	12.0	5.5	2.9 3.1	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯　高台畳付砂粒
316	G区	14C	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.05	5.6	3.25	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯　高台内砂目圧痕
317	G区	14B	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.6		(2.6)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
318	G区	14B	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.2	5.0	3.2	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
319	G区	14C	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.0		(2.8)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
320	G区	10A	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野E群	11.4	6.0	3.3	施釉	漳州窯　内外面貫入

表27　藤倉城跡出土遺物観察表9

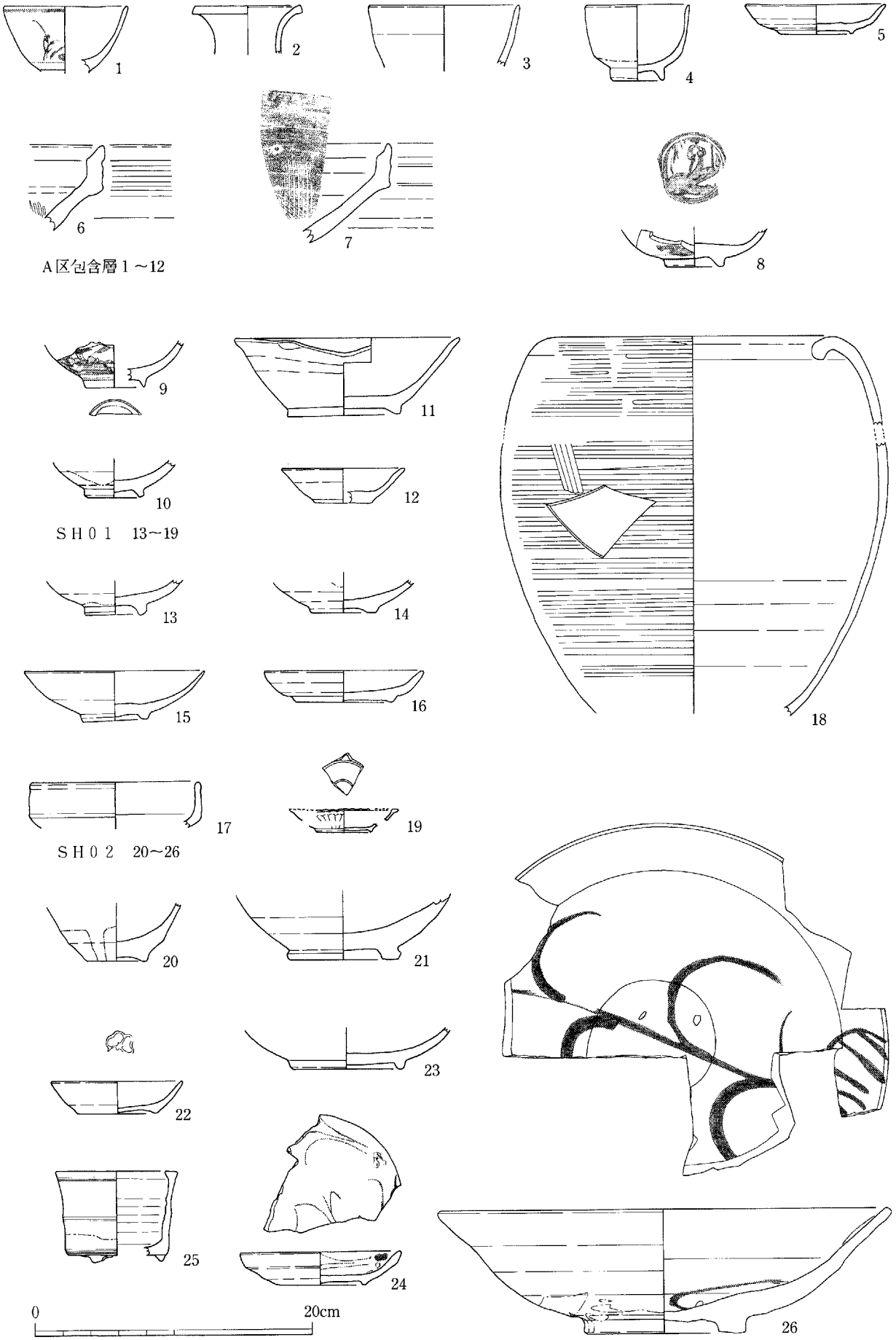
図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
321	G区	SW	G区包含層	中国製青花皿	16C末～17C初	小野F群		14.0	(1.9)	施釉	漳州窯　底部砂粒
322	G区	14C	G区包含層	タイ製四耳壺	16C末～17C初		22.0	22.0	56.3	ｹｽﾞﾘ　3条凹線 1条凹線	自然釉
323	G区	14C	G区包含層	外国製四耳壺	16C		10.8		(8.6)	ﾛｸﾛ	自然釉
324	G区	13D	P2	中国製青花碗	16C後～17C前	小野F群	12.7		(4.15)	施釉	漳州窯
325	G区	14B	P3	中国製青磁菊皿			9.3		(1.7)	施釉	
326	G区	14B	SK10	絵唐津碗	16C末			5.8	(5.1)	施釉	内外面貫入
327	G区	14C	SK10	備前壺	15C後	備前Ⅳ期	13.4	19.6	(14.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切　体部外面下部ｹｽﾞﾘ	自然釉
328	G区	14C	SK10	中国製青花皿	16C中	小野C群	10.0	3.2	2.5	施釉　底部釉削取	漳州窯　碁笥底
329	G区	14B	SK10	中国製青花皿	16C後～17C前	小野E群	10.0	2.8	3.3	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
330	G区	14C	SK10	中国製白磁皿	16C後	小野C群	12.4	7.0	2.6	施釉　高台畳付釉削取	
331	G区	14B	SK10	中国製青磁碗	15C	小野B群	15.6		(5.0)	施釉	雷文
332	D区	N	D区包含層	丸瓦				幅15.4	厚2.7	内面:ｹｽﾞﾘ　外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
333	B区	13J	B区包含層	丸瓦					厚 0.9～1.2		
334	A区	11J	SH02	丸瓦					厚1.2～1.7	内面:ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	
335	B区	12K	B区包含層	平瓦					厚2.5～2.6		
336	C区	19N	SG01	唐津皿	17C前			5.2	(1.7)	施釉	面子転用　見込・高台畳付砂目圧痕4
337	A区	2G	SH01	瀬戸美濃天目茶碗	16C後?			4.2	(1.4)	施釉	面子転用
338	B区	12K	B区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後			4.1	(1.3)	施釉	面子転用
339	A区	3E	SH01	瀬戸美濃天目茶碗	16C後?			4.4	(1.0)	施釉	面子転用
340	A区	11E	A区包含層	瀬戸美濃天目茶碗				4.0	(1.0)	施釉	面子転用
341	F区	NE	F区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C前?			4.45	(1.0)	施釉	面子転用
342	A区	3D	SH01	瀬戸美濃天目茶碗	16C後?			3.0	(1.1)	施釉	面子転用
343	G区	12C	G区包含層	瀬戸美濃天目茶碗	16C?			3.4	(0.8)	施釉	面子転用
344	C区	18S	C区包含層	投石			長7.5	幅6.55	厚5.3		
345	C区	16S	C区包含層	投石			長5.9	幅5.1	厚4.0		
346	C区	17O	C区包含層	投石			長3.1	幅2.8	厚2.7	面取	
347	C区	18S	C区包含層	投石			径4.1～4.33		厚1.2		
348	B区	12O	SD01	碁石			径2.2～2.35		厚0.53		
349	G区	14C	SK10	碁石			径2.15～2.2		厚0.6		
350	D区	S	D区包含層	碁石			径2.15～2.25		厚0.5		
351	C区	15P	SK07	碁石			径2.1～2.2		厚0.8		
352	G区	12A	G区包含層	碁石			径2.15～2.2		厚0.5		
353	C区	17S	C区包含層	碁石			径1.9～2.3		厚0.75		
354	B区	14K	B区包含層	碁石			径2.0～2.1		厚0.65		
355	C区	17P	C区包含層	碁石			径1.95～2.25		厚0.6		
356	C区	17S	C区包含層	双六駒			径2.8～2.9		厚0.7		
357	C区	13Q	C区包含層	砥石			長18.4	幅3.4	厚3.7		使用面3
358	C区	18S	C区包含層	砥石			長17.0	幅5.2	厚4.4		
359	C区	15P	SK06	砥石			長(12.0)	幅7.0	厚1.9		使用面5
360	C区	18R	C区包含層	硯			長(6.5)	幅1.6	厚0.8		砥石転用　使用面2

表28　藤倉城跡出土遺物観察表10

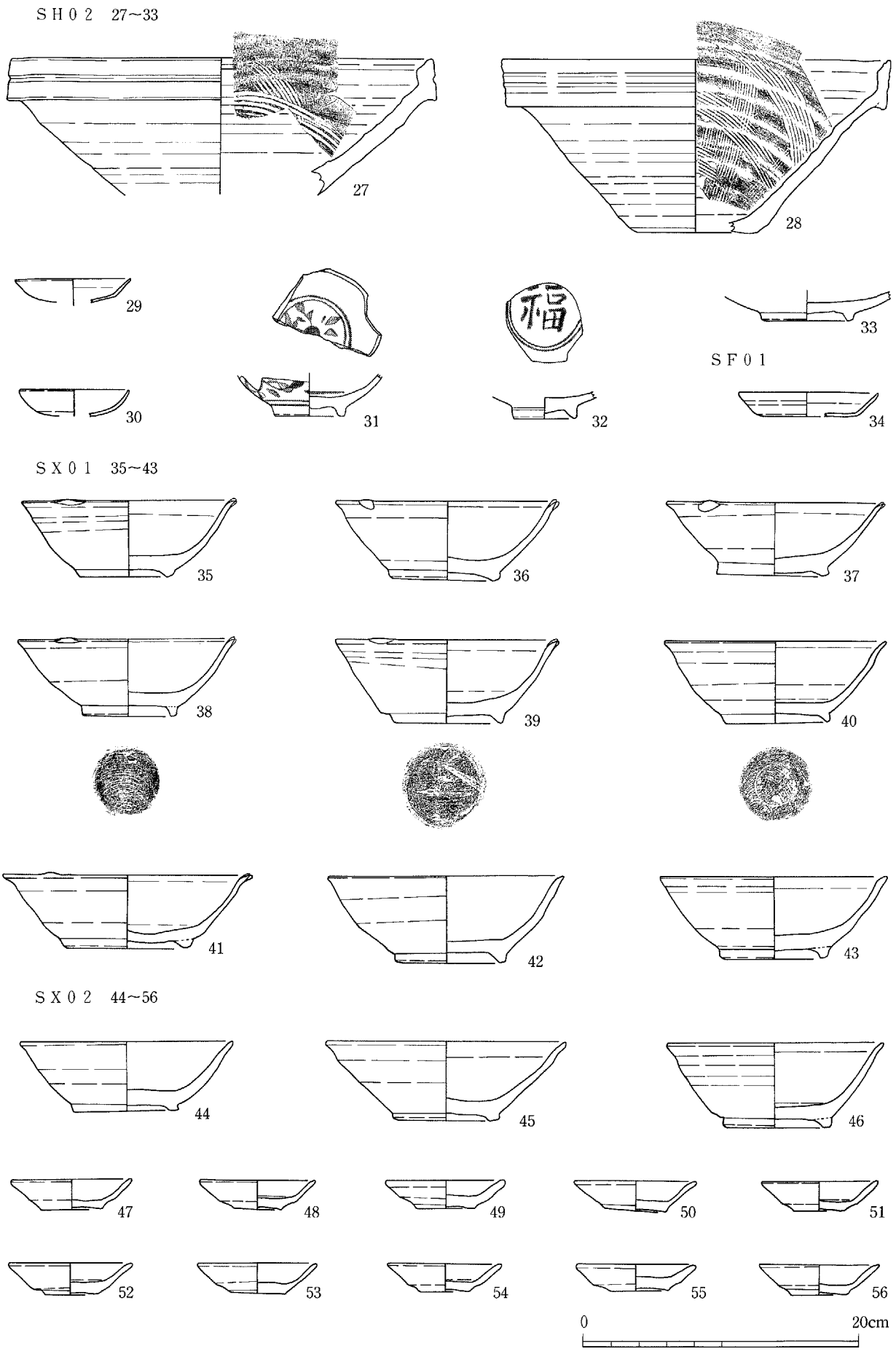
図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
361	A区	4C	SH01	硯			長(5.3)	幅2.8	厚0.9		砥石転用　使用面3
362	C区	N	D区包含層	硯			長(6.45)	幅6.2	厚2.4		砥石転用　使用面6
363	A区	9F	SX05	五輪塔水輪			径24.3～24.8				
364	A区	9K	SH01	五輪塔水輪			径21.5～22.4				梵字
365	A区	W	A区包含層	経石			長4.85	幅4.3	厚1.1		墨書「是」
366	A区	5I	SK01	経石			長9.7	幅6.8	厚3.6		墨書「南無阿弥陀佛・・・」
367	A区	14C	G区包含層	茶臼							
368	A区	14C	G区包含層	茶臼							
369	A区	3H	SX07	鉄製鎹			長(11.6)	幅1.3	厚 0.2～1.3		
370	C区	15S	C区包含層	銅製鏡			径(7.0)				
371	C区	17N	C区包含層	青銅製飾金具			長4.05	幅4.1	厚0.45		線刻
372	F区	14V	F区包含層	青銅製刀目貫金具			長1.55	幅3.25	厚0.4		
373	C区	18S	C区包含層	青銅製刀目貫金具			長1.5	幅3.1	厚0.15		
374	C区	19P	SK04	青銅製切羽			長3.6	幅2.0	厚0.1		
375	B区	12P	B区包含層	青銅製釣針			長1.8	幅0.2	厚0.25		
376	B区	12P	B区包含層	青銅製鋲			長1.5	幅0.7	厚0.7		
377	B区	12K	B区包含層	銅銭			径24.8㎜	厚0.7㎜			天聖元寶　真書
378	B区	12P	B区包含層	銅銭			径23.8㎜	厚0.7㎜			熙寧元寶　真書
379	C区	18S	C区包含層	銅銭			径(23.0㎜)	厚0.7㎜			治平通寶　篆書
380	C区	18S	C区包含層	銅銭			径23.1㎜	厚0.8㎜			元祐通寶
381	C区	18S	C区包含層	銅銭			径22.2㎜	厚1.0㎜			大中通寶
382	C区	18S	C区包含層	銅銭			径24.0㎜	厚0.8㎜			永楽通寶
383	C区	18S	C区包含層	銅銭			径23.6㎜	厚1.0㎜			元祐通寶
384	C区	18S	C区包含層	銅銭			径23.8㎜	厚1.0㎜			元豊通寶
385	C区	15T	C区包含層	銅銭			径21.0㎜	厚1.3㎜		背面に１文字	洪武通寶
386	C区	18S	C区包含層	銅銭			径23.8㎜	厚0.9㎜			不明
387	C区	15M	C区包含層	銅銭			径23.8㎜	厚1.0㎜			開元通寶
388	C区	16P	C区包含層	銅銭			径22.0㎜	厚0.6㎜			不明
389	C区	18S	C区包含層	銅銭			径24.0㎜	厚0.9㎜			元豊通寶
390	C区	16S	C区包含層	銅銭			径24.2㎜	厚1.2㎜			元祐通寶
391	D区	N	D区包含層	銅銭			径24.2㎜	厚0.7㎜			□□元寶
392	D区	N	D区包含層	銅銭			径(22.2㎜)	厚0.7㎜			政和通寶
393	D区	N	D区包含層	銅銭			径23.8㎜	厚0.9㎜			□元通寶
394	D区	C	D区包含層	銅銭			径23.5㎜	厚0.7㎜			元豊通寶
395	D区	N	D区包含層	銅銭			径23.0㎜	厚0.7㎜			開元通寶
396	F区	S E	F区包含層	銅銭			径24.2㎜	厚0.6㎜			天禧通寶
397	A区	9F	SX05	銅銭						28枚固着	開元通寶他
398	山城	北郭	堀切２北腐食上	銅銭			径22.8㎜	厚0.8㎜			不明
399	D区	N	D区包含層	朝鮮製甕						外面　ﾀﾀｷ ﾅﾃﾞ 2条沈線 内面　青海波文	巻頭カラー図版８
400	D区	M	D区包含層	朝鮮製甕						外面　ﾀﾀｷ ﾅﾃﾞ 施釉　内面　青海波文	巻頭カラー図版８

表29　藤倉城跡出土遺物観察表11

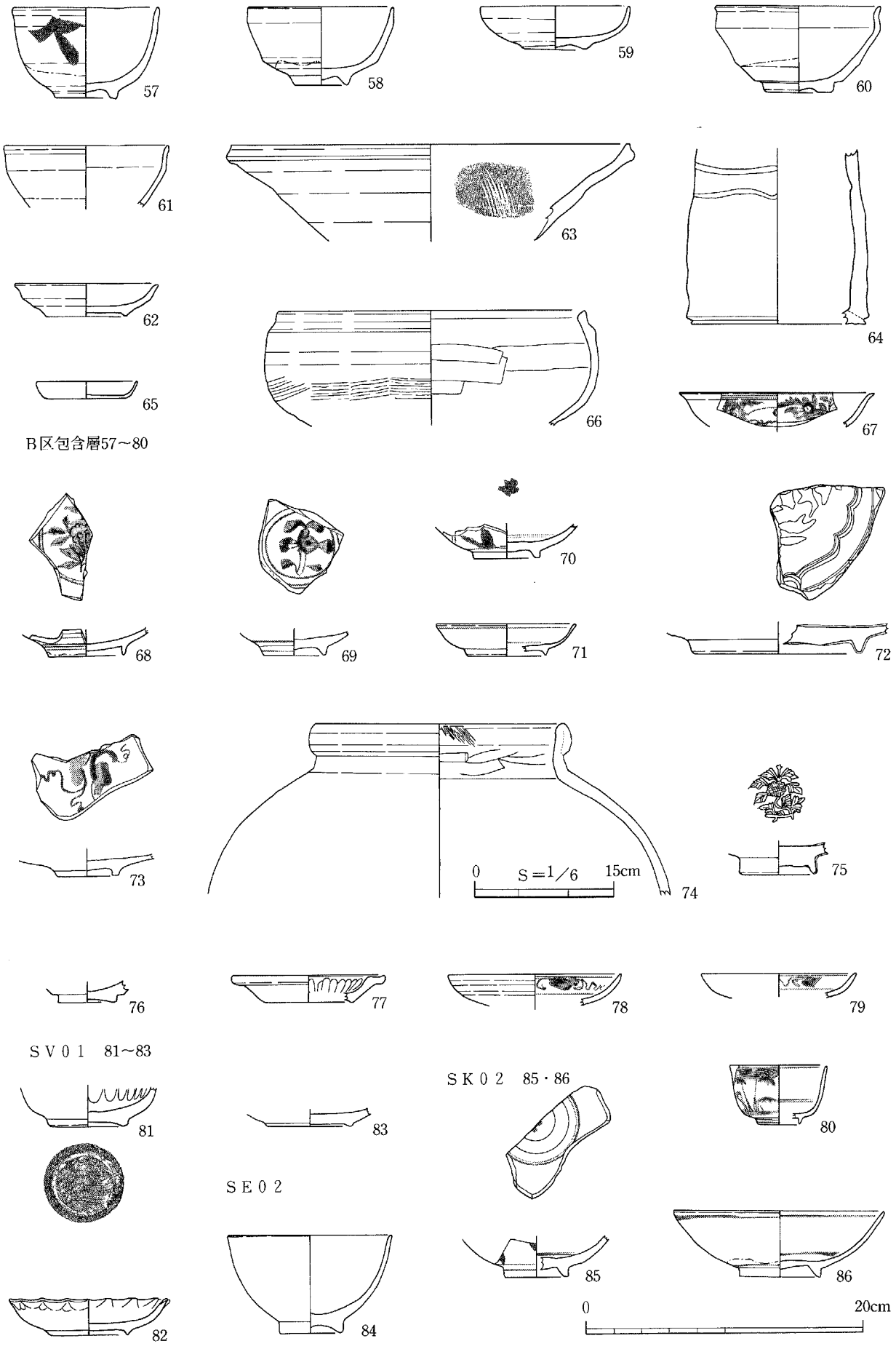
図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
401	D区	N	D区包含層	朝鮮製 甕						外面　ﾀﾀｷ ﾅﾃﾞ 施釉　内面　青海波文	巻頭カラー図版8
402	C区	17Q	C区包含層	中国製　壺						施釉　内外面　ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	巻頭カラー図版8
403	C区	17S	C区包含層	中国製　壺						施釉　内外面　ﾛｸﾛ　ｹｽﾞﾘ	巻頭カラー図版8
404	G区	14C	G区包含層	中国製 四耳壺						施釉　内外面　ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ　外底　胎土目痕	巻頭カラー図版8
405	C区	15R	C区包含層	中国製　壺						施釉　内外面　ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	巻頭カラー図版8



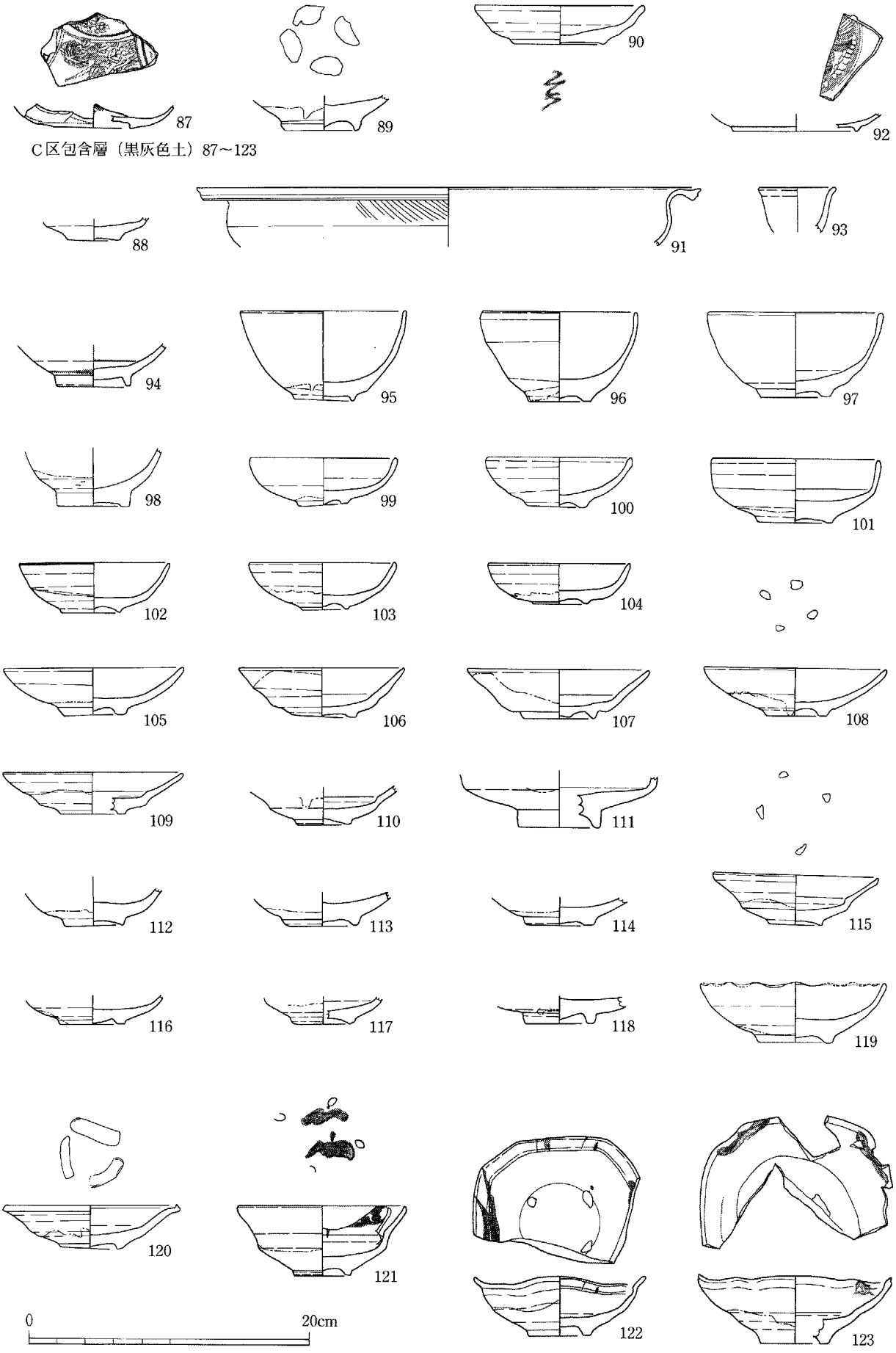
第85図　藤倉城跡遺物実測図1



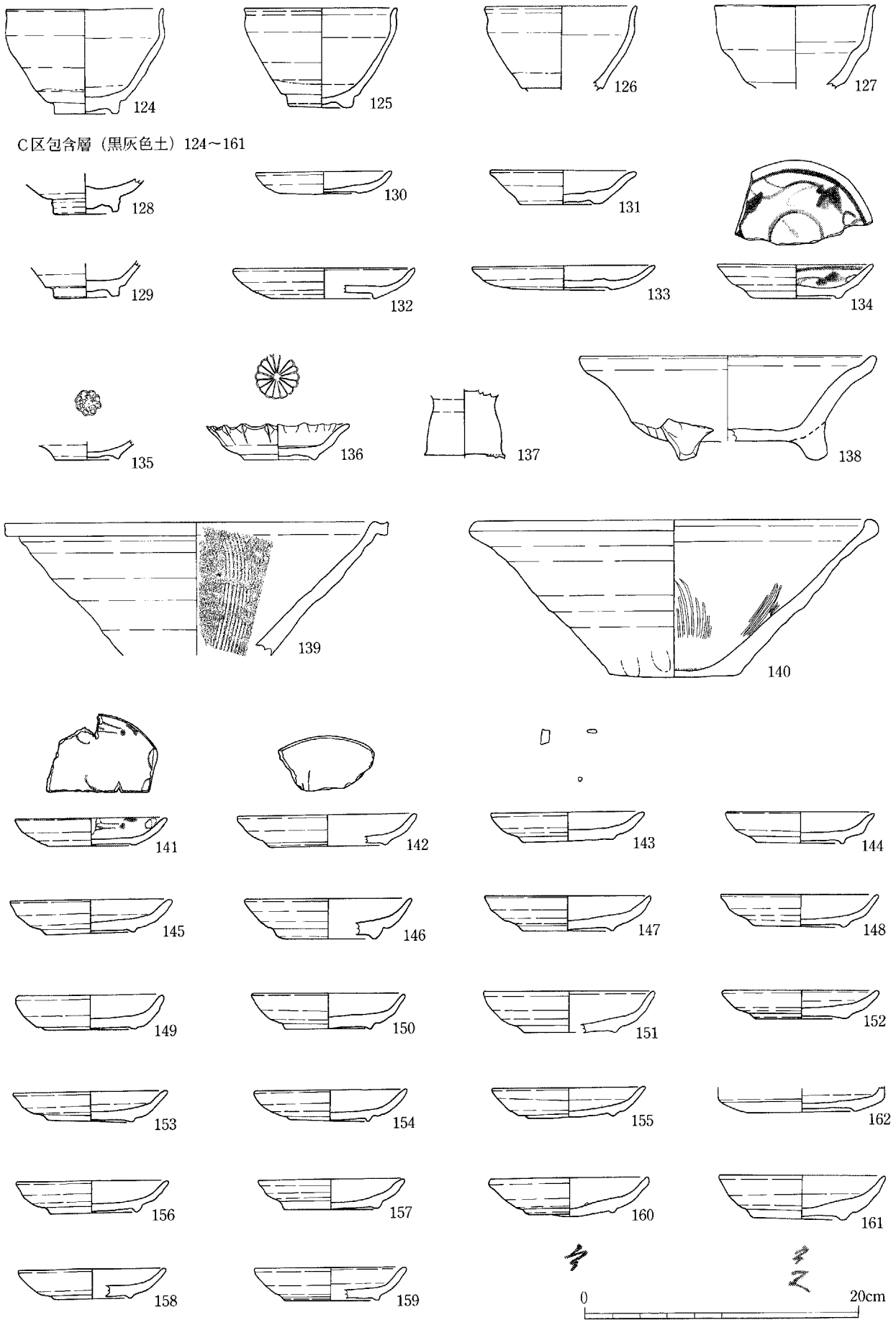
第86図　藤倉城跡遺物実測図２



第87図　藤倉城跡遺物実測図 3

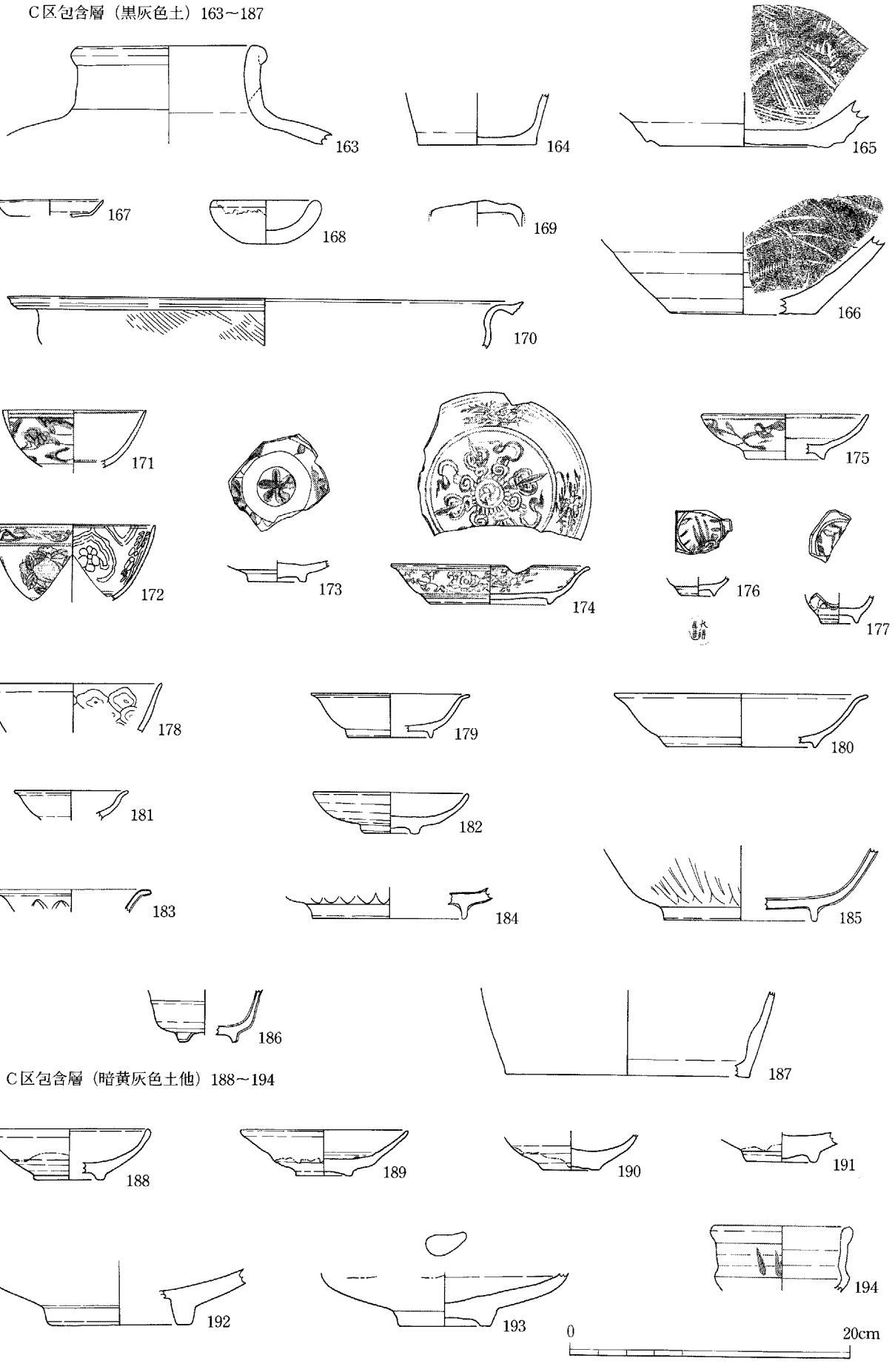


第88図　藤倉城跡遺物実測図４



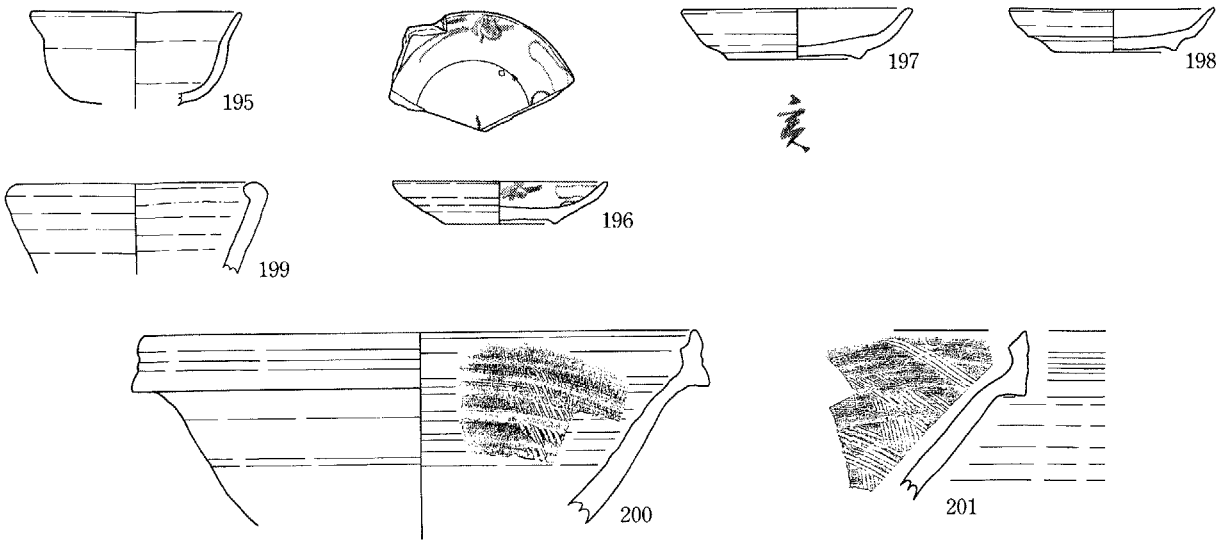
第89図　藤倉城跡遺物実測図５

C区包含層（黒灰色土）163～187

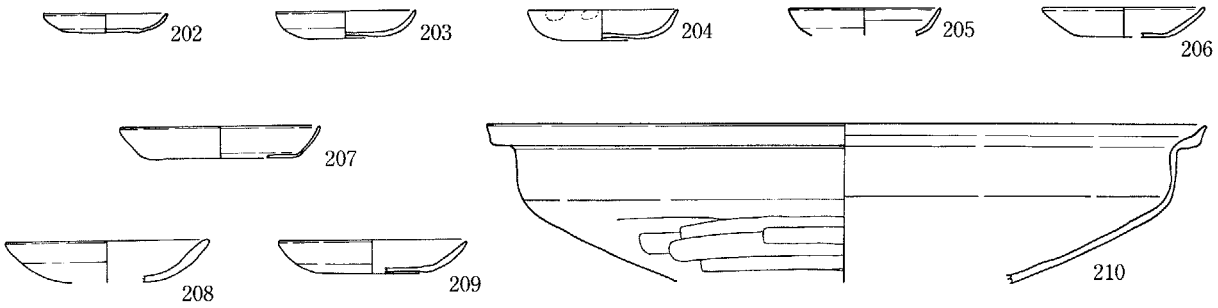


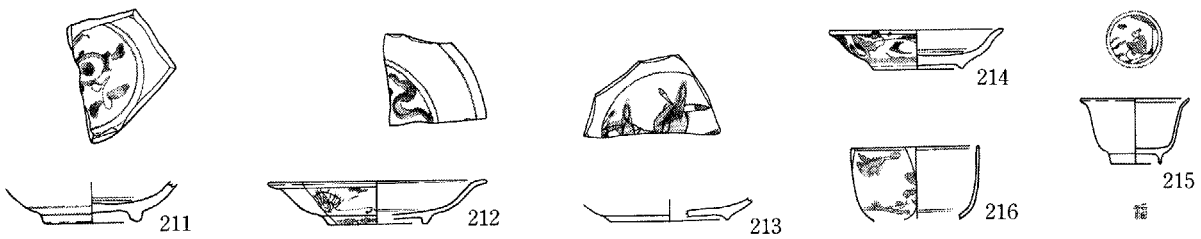
C区包含層（暗黄灰色土他）188～194

第90図　藤倉城跡遺物実測図 6



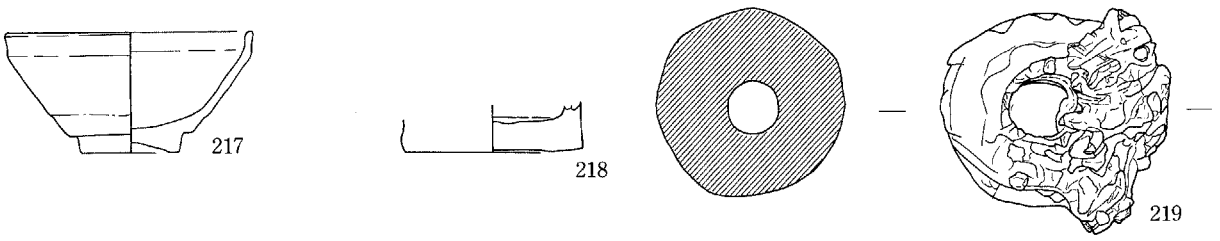
C区包含層（暗黄灰色土他）195～216



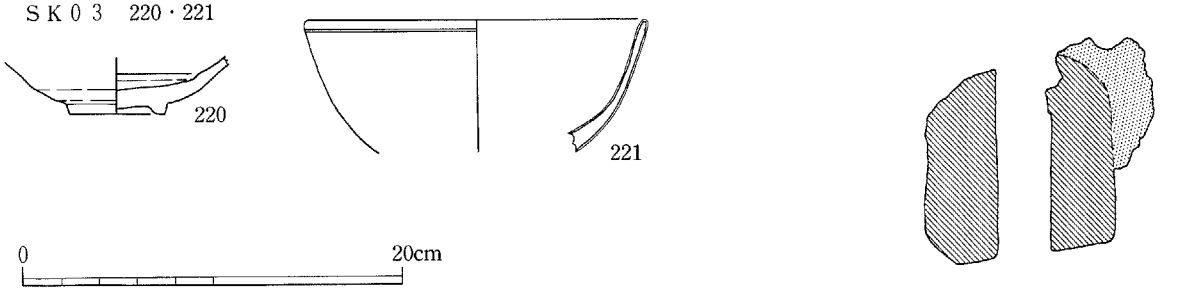


SV03　217・218

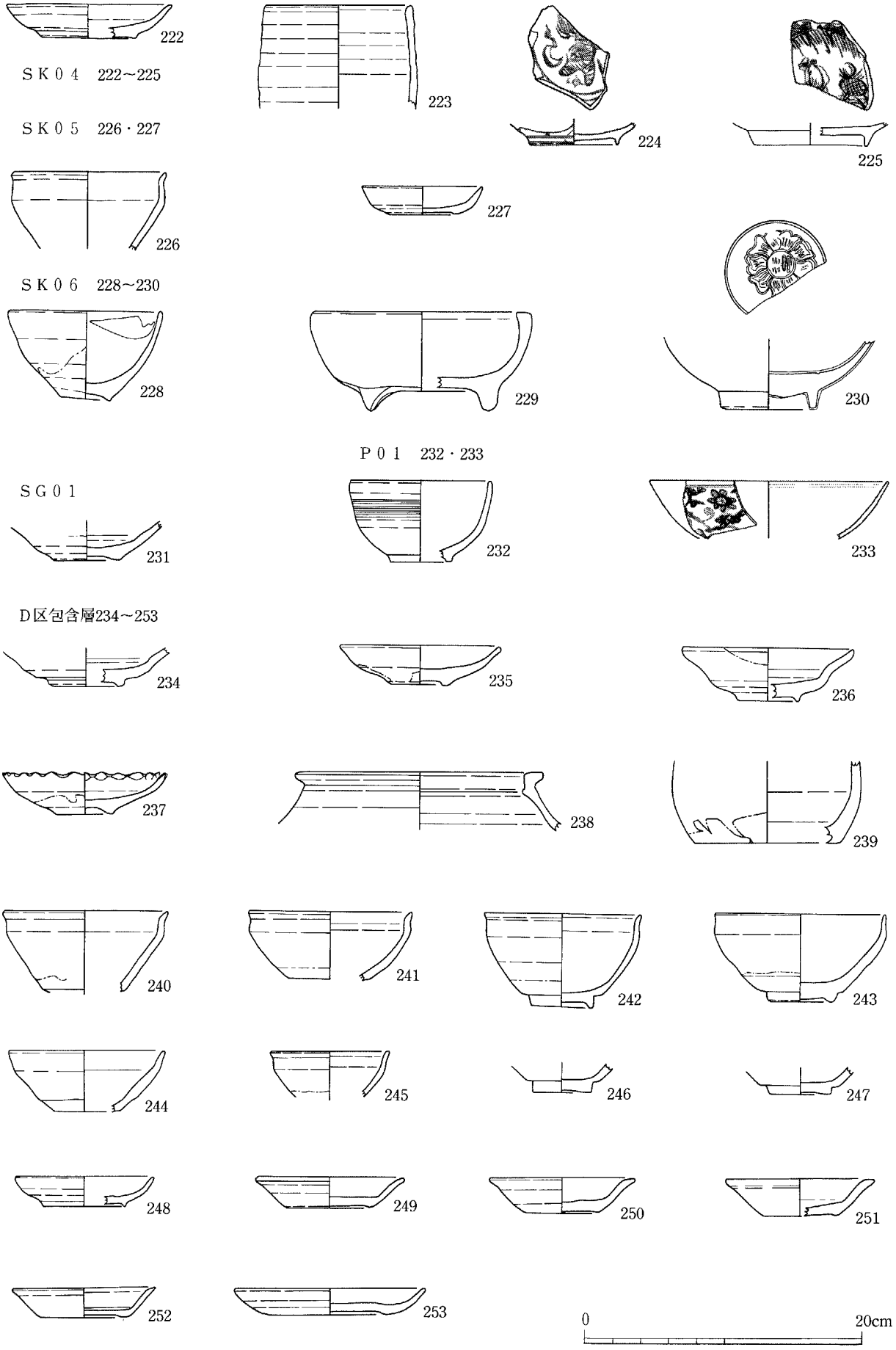
SX08　219



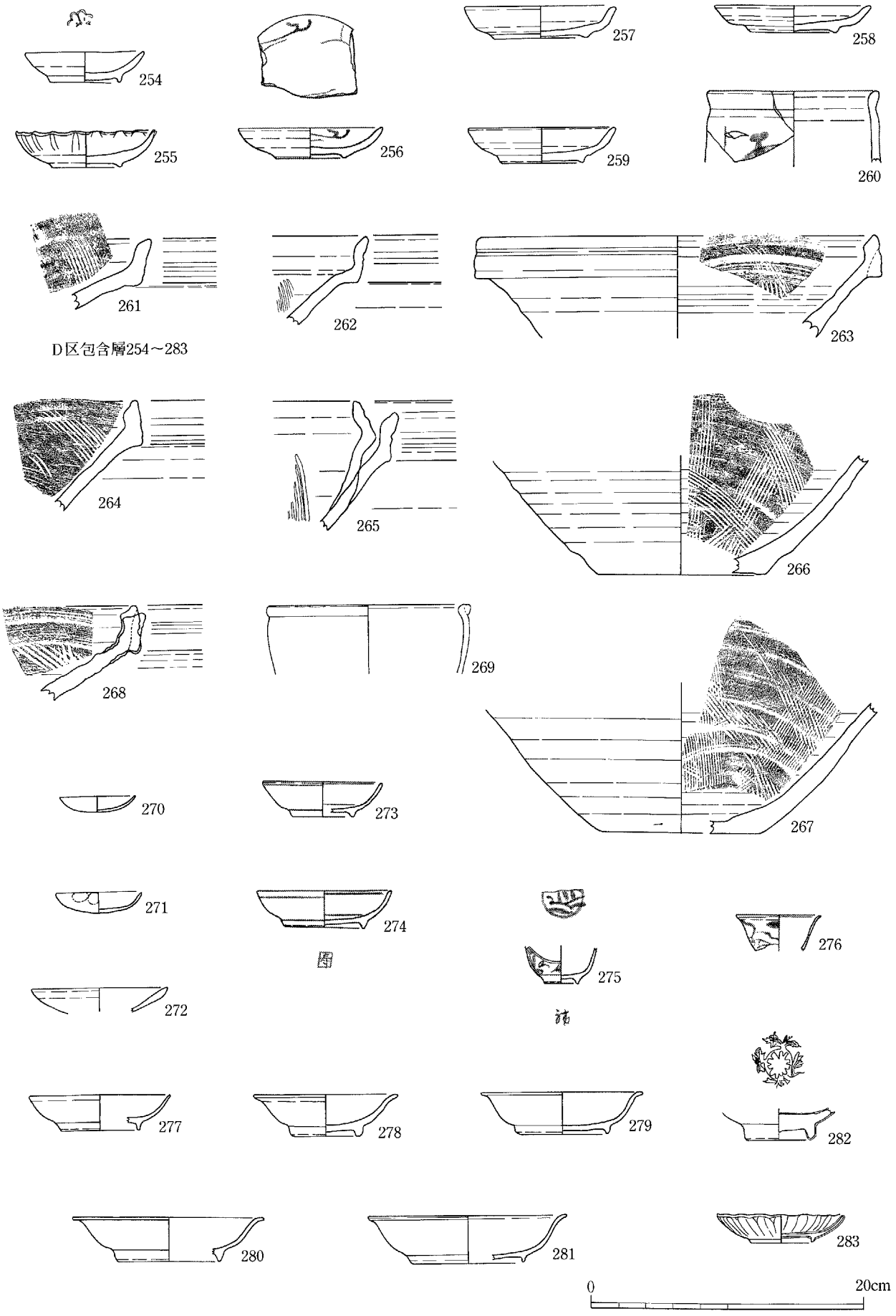
SK03　220・221



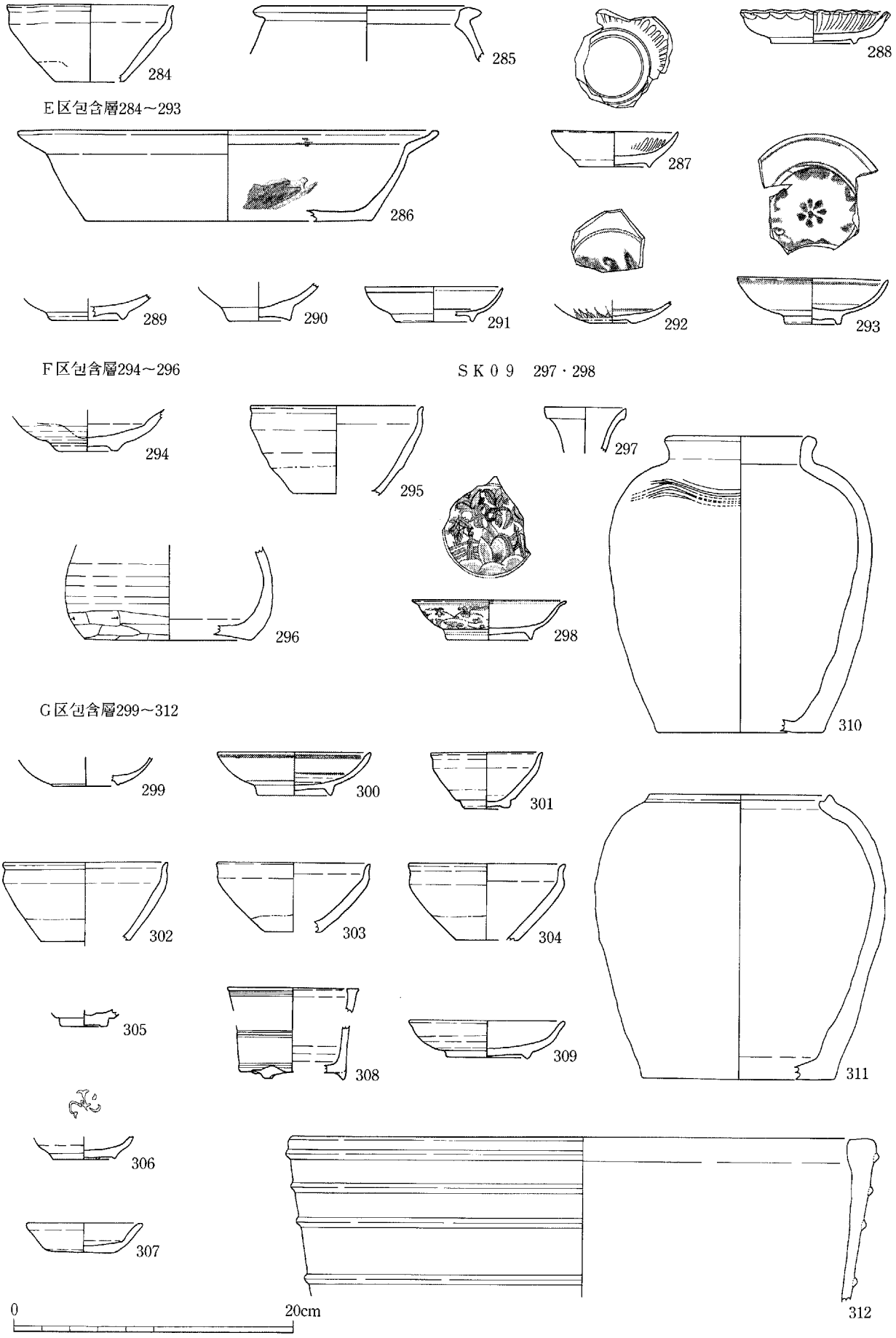
第91図　藤倉城跡遺物実測図７



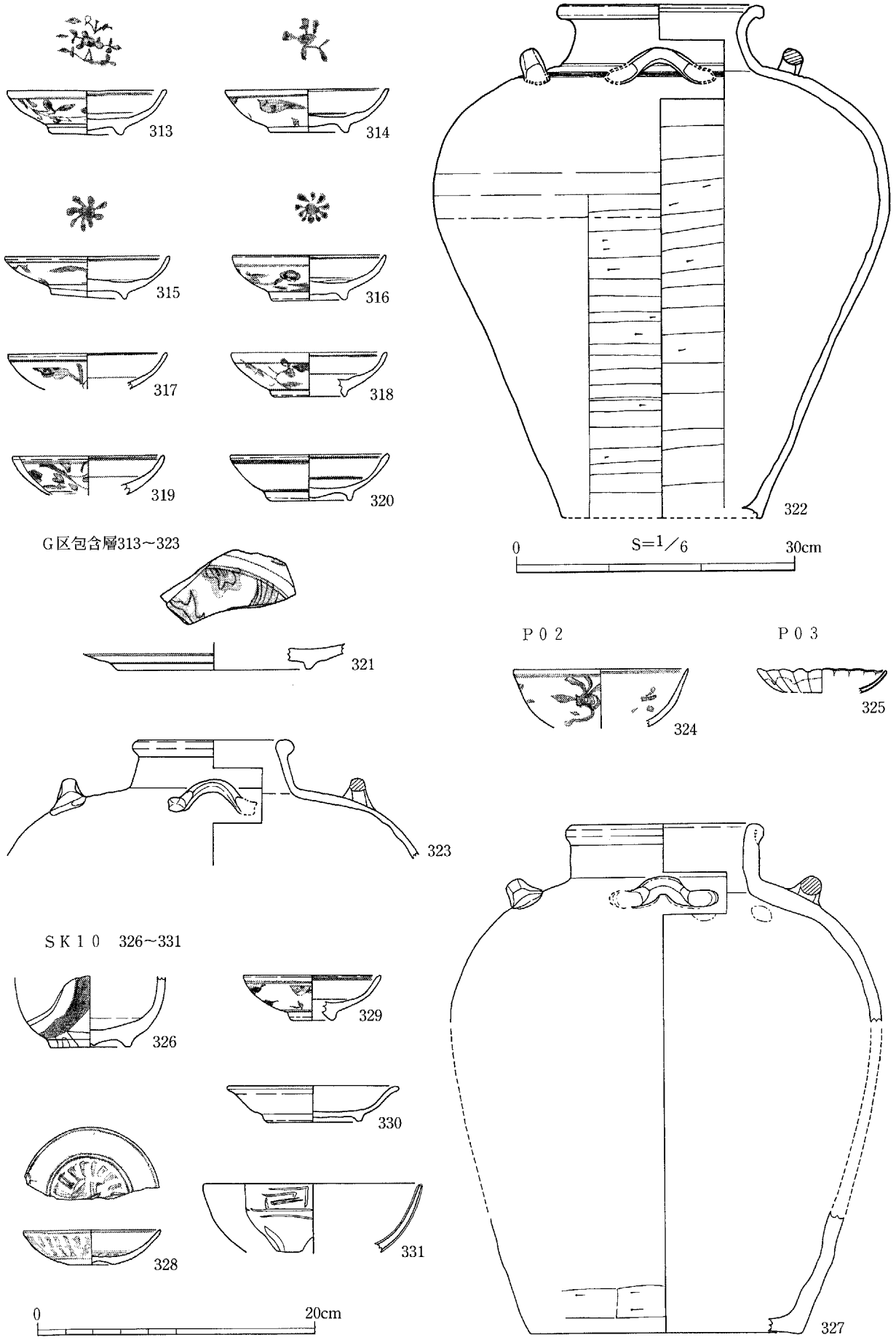
第92図　藤倉城跡遺物実測図８



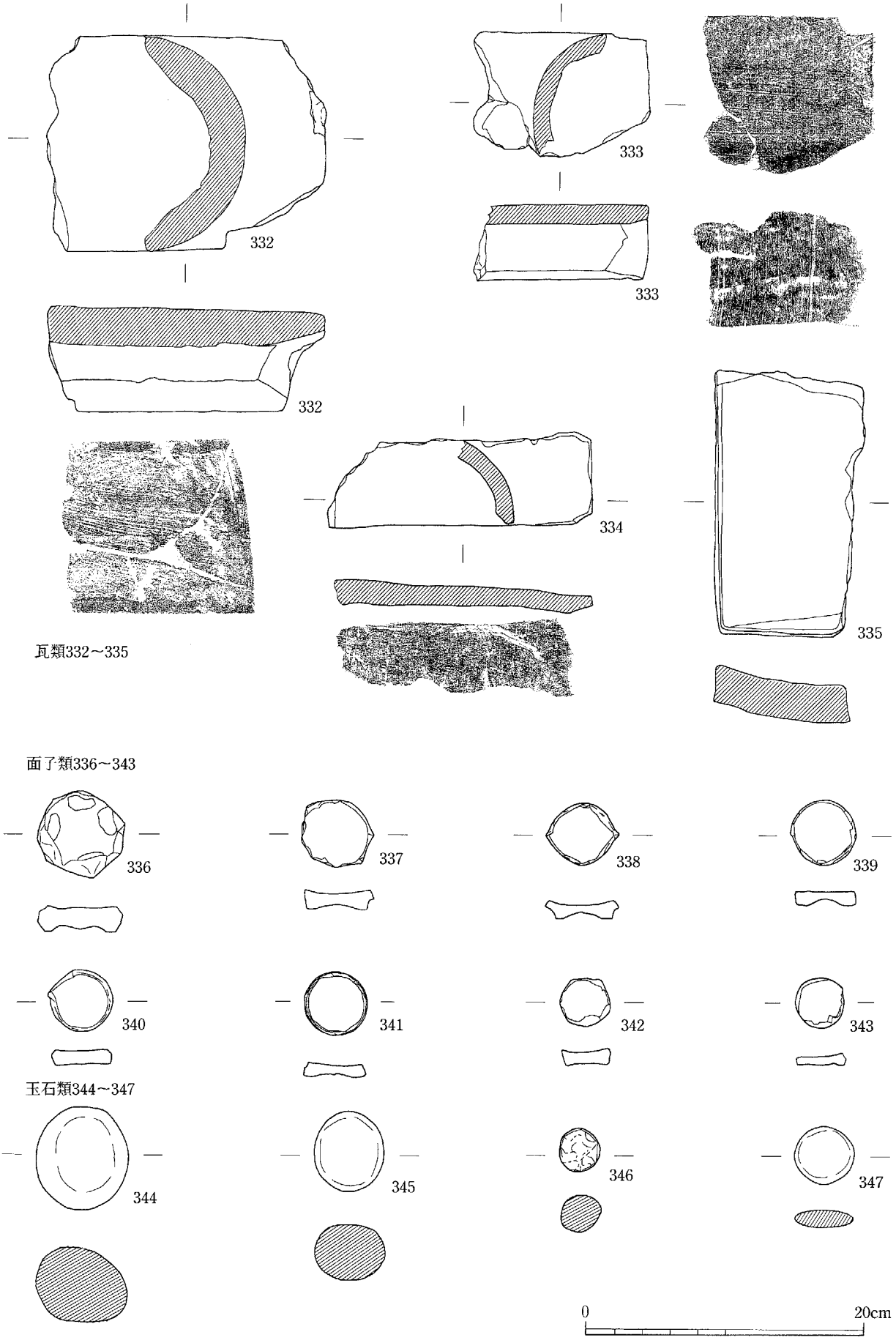
第93図　藤倉城跡遺物実測図 9



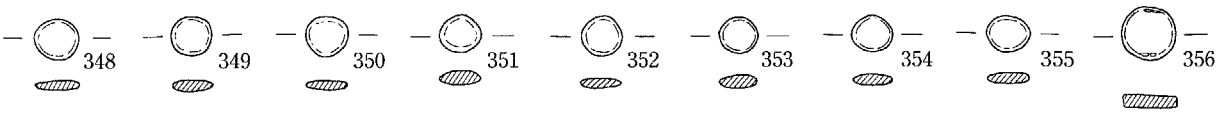
第94図　藤倉城跡遺物実測図10



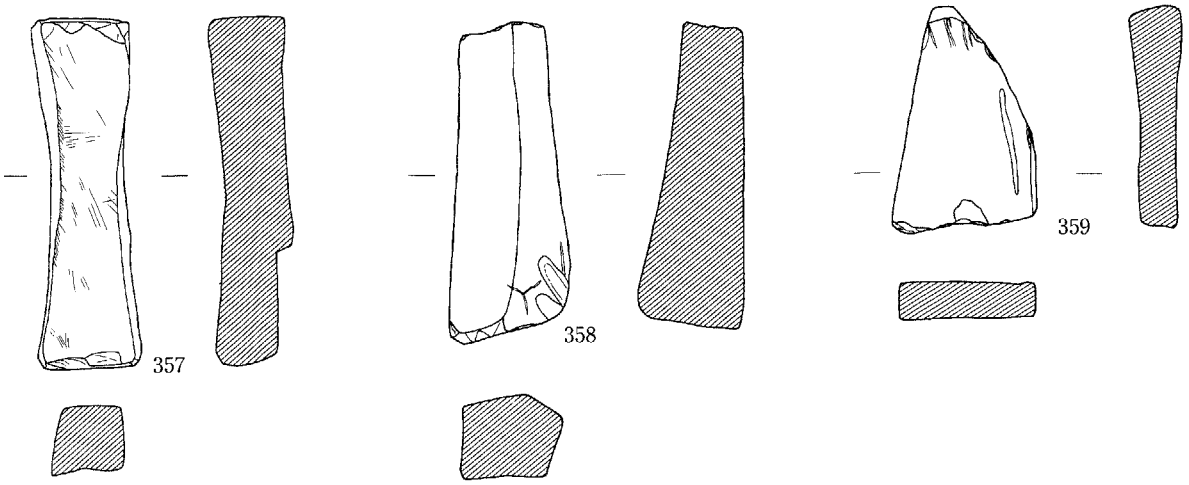
第95図　藤倉城跡遺物実測図11



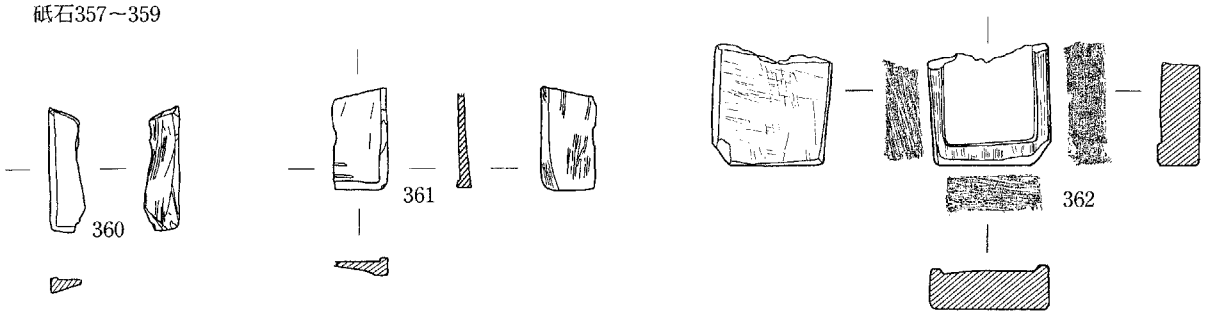
第96図　藤倉城跡遺物実測図12



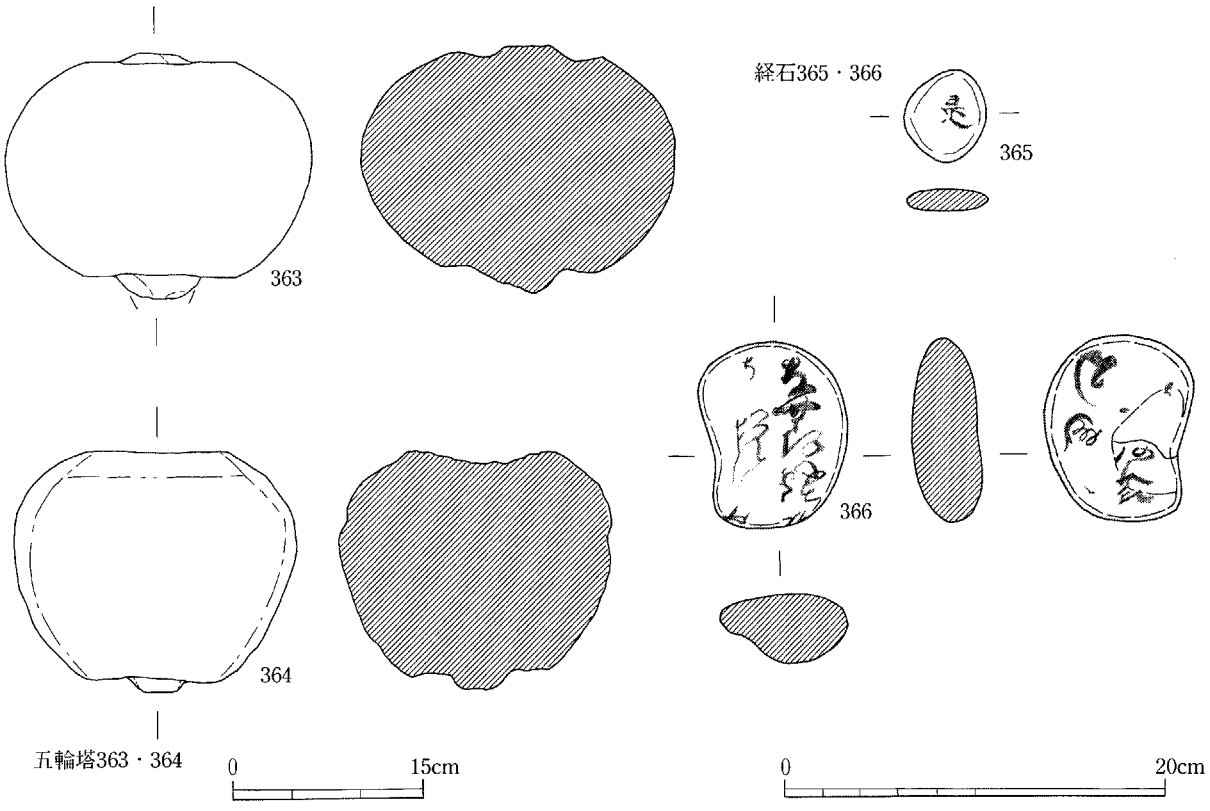
碁石348～355　双六駒356



砥石357～359



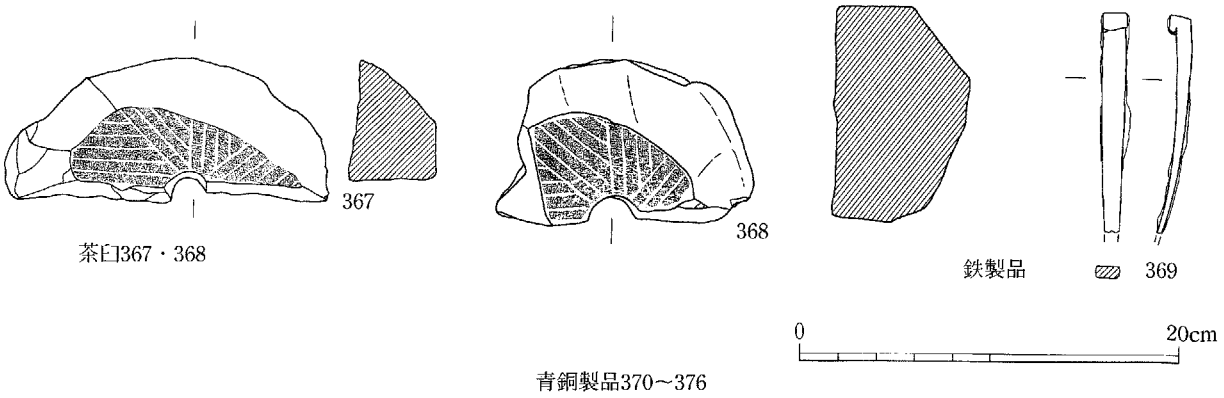
硯360～362



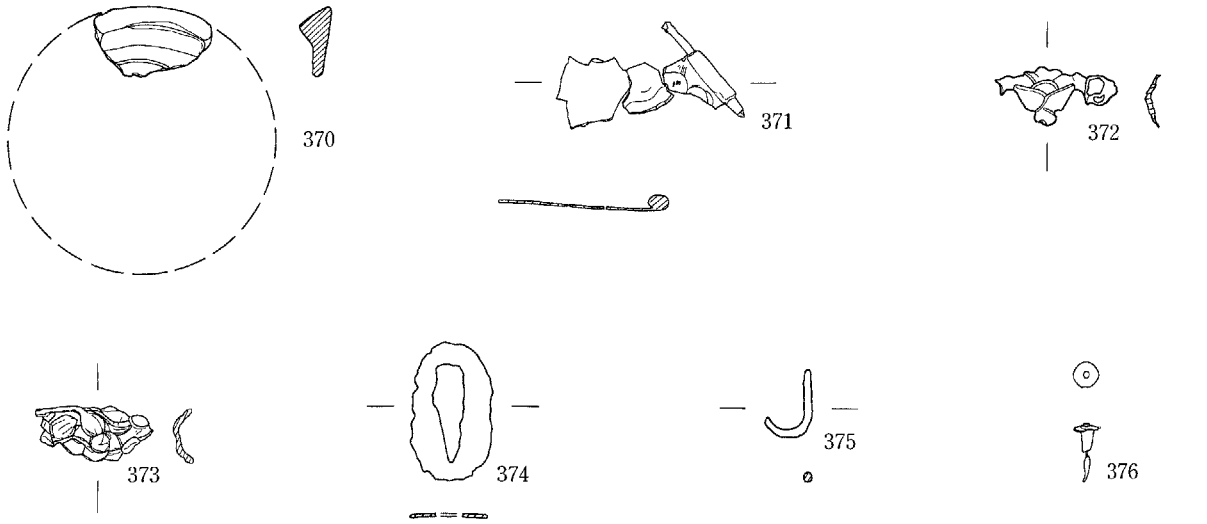
経石365・366

五輪塔363・364

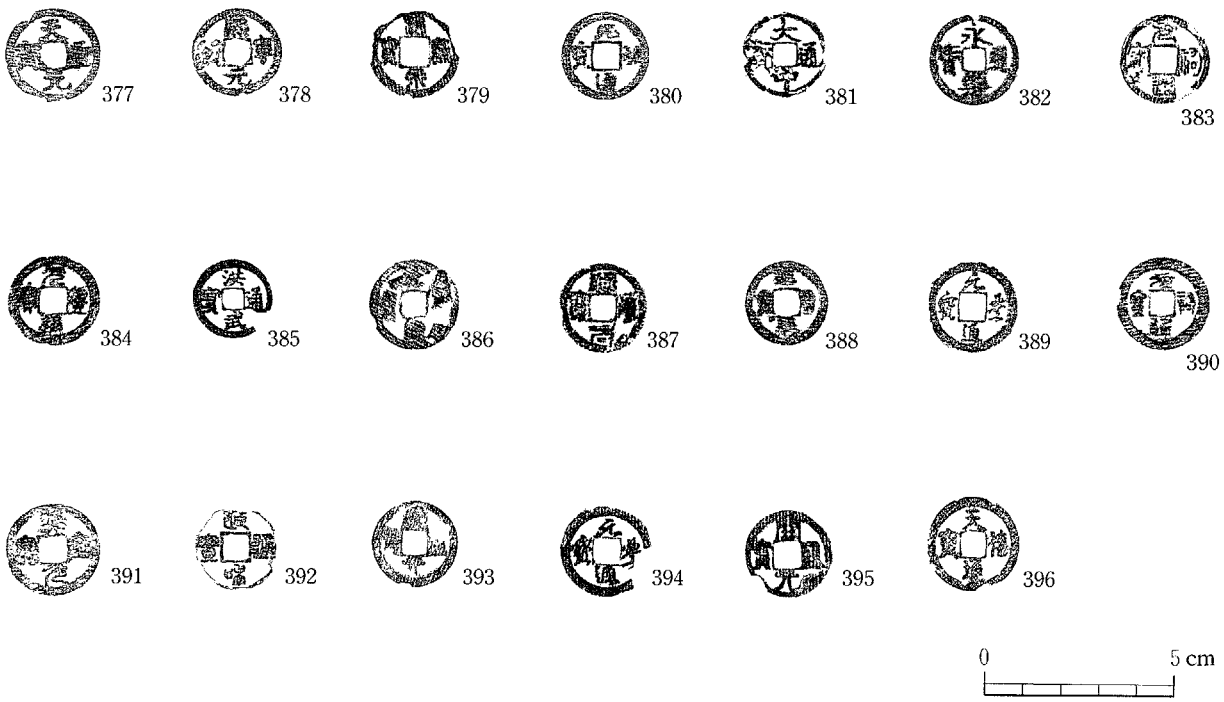
第97図　藤倉城跡遺物実測図13



青銅製品370～376



銅銭377～396



第98図　藤倉城跡遺物実測図14

川関遺跡出土遺物

表30　川関遺跡出土遺物観察表1

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0001	水田5	4B 13J	水田5 2層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.6	(2.1)	施釉	
0002	水田6	4B 5F	水田6 2層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.8		(3.4)	施釉	
0003	水田6	4B 9H	水田6 3層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		8.0	(1.8)	施釉	
0004	水田6	4B 5F	水田6 2層	中国製白磁壺	10C中		6.4		(1.7)	施釉	
0005	水田6	4B 5F	水田6 3層	中国製青磁碗				5.6	(1.9)	施釉	
0006	水田6	4B 5F	水田6 3層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.8	(1.6)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	見込重焼痕
0007	水田1	4B 11U	水田1 3層	伊万里碗	18C中			4.4	(2.4)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷ	外面貫入
0008	水田1	4B 11R	水田1 1～3層	伊万里小皿 (紅皿?)	17C末～18C初		5.9	2.1	1.7	施釉	
0009	水田1	4B 12P	水田1 3層	伊万里皿	18C後		13.1	8.0	4.0 4.1	施釉	
0010	水田1	4B 8M	水田1 4層	渥美短頸壺	12C中	渥美4	12.4		(8.2)	輪積	自然釉
0011	水田1	4B 1J	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	18.2	7.6	5.9	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0012	水田1	3B 22Q	水田1 4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.8	5.25	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0013	水田1	3B 25V	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.6	6.8	6.8	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ?	
0014	水田1	4B 5Q	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美?5	16.0	5.4	4.9	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0015	水田1	4B 4M	水田1 3～4層	山茶碗	12C中	尾張4	16.8	9.3	5.0	ﾛｸﾛ ﾍﾗ切?	見込重焼痕　自然釉
0016	水田1	4B 1X	水田1 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.8	8.0	5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0017	水田1	3B 21T	水田1 4層	山茶碗	12C中	尾張?4	17.0	9.4	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0018	水田1	4B 4N	水田1 3～4層	山茶碗	12C中	尾張?4	17.8	9.8	6.2	ﾛｸﾛ　回転糸切?でﾅﾃﾞ	籾
0019	水田1	4B 3I	水田1 4層	山茶碗	13C前	渥美6	16.4	9.6	5.1	ﾛｸﾛ ﾊｹ	自然釉 口縁・高台内歪み
0020	水田1	4B 2N	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	19.0	10.0	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0021	水田1	3B 25L	水田1 4層	山茶碗	13C前	渥美6	17.0	9.6	4.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0022	水田1	4B 3L	水田1 3～4層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.9	5.3	3.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0023	水田1	4B 4L	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.5	4.9	3.1 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0024	水田1	4B 4Q	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.6	4.2	2.9	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0025	水田1	4B 4N	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.9	5.6	2.6	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	籾
0026	水田1	4B 5O	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	5.4	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ	自然釉
0027	水田1	4B 7N	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.6	6.0	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0028	水田1	4B 22U	水田1 4層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.2	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0029	水田1	4B 7N	水田1 3～4層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	4.4	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0030	水田1	4B	水田1 3～4層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.4	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0031	水田1	4B 3H	水田1 3～4層	瓦器小椀	12C後～13C初		8.7	2.75	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0032	水田1	4B 3H	水田1 3～4層	瓦器小椀	13C初			4.0	(2.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0033	水田1	4B 5Q	水田1 3～4層	瓦器椀	12C中～12C後			4.4	(1.1)	内面:ﾐｶﾞｷ? 外面:ﾅﾃﾞ	
0034	水田1	4B 1K	水田1 3～4層	土師器 高台付皿	12C後～13C前			9.1	(3.4)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ	
0035	水田1	3B 22S	水田1 3～4層	土師器土釜	13C				(7.7)	ﾅﾃﾞ	三足
0036	水田1	4B 3I	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.4		(4.7)	施釉	
0037	水田1	4B 4H	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.6		(3.4)	施釉	
0038	水田1	3B 21T	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a	16.0		(3.0)	施釉	内外面貫入
0039	水田1	4B 4L	水田1 3～4層	中国製白磁碗	12C後～13C前	Ⅷ3	15.8		(3.6)	施釉	
0040	水田1	3B 22S	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅴ1a		6.3	(4.4)	施釉	

表31　川関遺跡出土遺物観察表2

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0041	水田1	3B 24S	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		8.0	(3.5)	施釉	
0042	水田2	3B 19C	水田1 4～5層	中国製白磁碗	12C後	不明		6.3	(2.8)	施釉	
0043	水田1	4B 5O	水田1 3～4層	中国製白磁碗	12C後～13C初	Ⅴ4c		4.4	(2.5)	施釉	
0044	水田1	3B 24R	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.0	(2.1)	施釉	
0045	水田1	4B 1K	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C中			6.0	(2.1)	施釉	
0046	水田1	3B 25M	水田1 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		4.6	(1.9)	施釉	
0047	水田1	3B 4H	水田1 3～4層	中国製白磁皿	11C後～12C前		9.6	4.0	2.5	施釉	内外面貫入
0048	水田1	3B 7A	水田1 3～4層	中国製白磁皿	12C後～13C初	Ⅷ1d	10.4		(2.15)	施釉	
0049	水田1	3B 5W	水田1 3～4層	中国製白磁皿	12C後～13C初			4.0	(1.6)	施釉	
0050	水田1	3B 1Q·3O	水田1 3～4層	中国製白磁皿	12C前?		15.8		(2.9)	施釉	
0051	水田1	3B 3T	水田1 3～4層	中国製白磁皿	12C後～13C初			3.6	(1.0)	施釉	梅花文
0052	水田1	3B 11Q	水田1 2～4層	中国製小杯	16C後		7.8	2.4	3.2	施釉	
0053	水田1	3B 1I	水田1 3～4層	中国製青磁端反碗	13C中		12.4		(3.4)	施釉	鎬蓮弁文
0054	水田2	3C	水田2 2～3層	瀬戸美濃丸碗	16C後	3～4小期		4.4	(2.8)	施釉	
0055	水田2	3C 21E	水田2 4～5層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	8.3	5.9 5.95	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	輪花4　黒粘土紐 施釉
0056	水田2	3B 19W	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.8	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「乗禅」　籾 自然釉
0057	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.5	8.3	5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0058	水田2	3B 20X	水田2 4～5層	山茶碗	12C中	尾張4	16.4	7.2	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0059	水田2	3C 20A	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.1	8.4	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0060	水田2	3B 20V	水田2 4～6層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.0	8.9	4.9	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	高台内籾
0061	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.0	7.6	5.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0062	水田2	3B 21V	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.8	7.4	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0063	水田2	3B 22Y	水田2 4～5層	山茶碗	13C前	渥美6	16.8	8.0	4.7	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ	籾
0064	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	17.0	9.2	4.5 4.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0065	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	山茶碗	12C後～13C初?	尾張5?	16.6	7.0	4.5 4.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	赤褐発色　自然釉
0066	水田2	3C 23I	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.4	(4.7)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
0067	水田2	3C	水田2 2～3層	山茶碗	12C中	渥美4		6.4	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0068	水田2	3C 20H	水田2 4～5層	山茶碗	12C中	尾張4		8.2	(2.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0069	水田2	3B 24W	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.9	2.5 2.6	ﾛｸﾛ　静止糸切?	籾
0070	水田2	3C 20A	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.5	4.4	2.9 3.0	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉 内外面釉たまり
0071	水田2	3C 19I	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.4	3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0072	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	山茶碗小碗	11C後～12C初?	尾張3?	9.6	4.6	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0073	水田2	3C 23I	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.7	4.3	2.4 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0074	水田2	3C 21B	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	尾張4	8.9	4.4	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0075	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.2	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　白然釉
0076	水田3	4B 8K	水田2 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.5	2.95 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0077	水田2	3B 22V	水田2 4～6層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	3.9	2.8 2.85	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	内面降灰
0078	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.2	3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0079	水田2	3B 22V	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.5	5.0	2.65	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0080	水田2	3C 23J	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.6	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	

表32　川関遺跡出土遺物観察表3

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0081	水田2	3B 19W	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.8	5.0	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書 不明　自然釉
0082	水田2	3B 21X	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.8	5.4	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0083	水田2	3C 17D	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.6	4.8	2.95 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0084	水田2	3B 20Y	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	4.3	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾
0085	水田2	3C 21A	水田2 4～5層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.4	5.0	2.9 3.0	ﾛｸﾛ　静止糸切	見込重焼痕　自然釉
0086	水田2	3C 18I	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.0	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ	籾　自然釉
0087	水田2	3C 22B	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.3	3.8	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0088	水田2	3B 21X	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.8	5.0	2.75 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0089	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	尾張4	8.8	5.0	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0090	水田2	3B 20V	水田2 4～6層	山茶碗小碗	11C後～12C初?	尾張3?	9.3	4.9	2.85 2.9	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	見込重焼痕　自然釉
0091	水田2	3C 19C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.2	2.1	ﾛｸﾛ　静止糸切?	
0092	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	3.7	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0093	水田2	3B 20X	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	尾張4	9.4	5.0	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0094	水田2	3C	水田2 2～3層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.5	2.65 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0095	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.6	2.8	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0096	水田2	3C 19D	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	3.3	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0097	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.9	2.7 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
0098	水田2	3C 20C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	11C後～12C初?	尾張3?	10.2	6.4	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	白然釉
0099	水田2	3C 23I	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.6	3.9	2.9 2.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0100	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	5.2	2.55 2.65	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐
0101	水田2	3C 20C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.4	2.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾　自然釉
0102	水田2	3B 20X	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	5.1	2.4 2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0103	水田2	3C	水田2 2～3層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	5.4	2.5 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0104	水田2	3C	水田2 2～3層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	3.3	2.3 2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0105	水田2	3B 22Y	水田2 4～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	4.4	2.1 2.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0106	水田2	3C 19G	水田2 4～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	3.3	2.5 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0107	水田2	3C 1A	水田2 4～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.8	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0108	水田2	3C 22G	水田2 4～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.4	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0109	水田2	3C 18H	水田2 4～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.6	4.5	2.1	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
0110	水田2	4C 2Y	水田2 4～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.7	4.5	2.35 2.45	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0111	水田2	3B 20V	水田2 2～3層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.6	4.4	2.1 2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0112	水田2	3C 20A	水田2 4～5層	山茶碗鉢?		渥美？		9.9	(3.45)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0113	水田2	3C 18B	水田2 5層	瓦器椀	12C中		14.8	5.8	5.7	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	内外面摩滅
0114	水田2	3B	水田2 2～3層	土師器皿	12C後		13.8		(3.0)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押	
0115	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	土師器皿	12C後		14.1	4.6	2.3	内面:ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
0116	水田2	3B 19W	水田2 4～5層	土師器皿	12C後		13.6		(2.7)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0117	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	土師器皿	12C後		14.0	7.0	3.4 3.5	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	
0118	水田2	3C 20A	水田2 4～5層	土師器小皿	12C		8.7	1.6	2.8	内面:指押 ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
0119	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	土師器小皿	12C後		9.4		1.7	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押	
0120	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	土師器小皿	12C後～13C前		8.4		(1.5)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	

表33　川関遺跡出土遺物観察表4

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0121	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	土師器小皿	12C後～13C前		10.4		(1.1)	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ ナデ?	
0122	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	土師器小皿	12C後		8.0	5.6	1.2	ロクロ　回転糸切	内外面摩滅著
0123	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	土師器小皿	12C後		8.9	6.7	1.6 1.7	ロクロ　回転糸切	
0124	水田2	3C 19D	水田2 4～5層	土師器小皿	12C後		11.0	8.4	1.9		内外面摩滅著
0125	水田2	3C 19A	水田2 4～5層	土師器小皿	15C		10.6		(2.6)	ロクロ	
0126	水田2	3C 19D	水田2 4～5層	土師器羽釜	15C?		18.0		(6.05)	内面:ナデ 外面:ナデ	貼付突帯 体部外面ススス
0127	水田2	3B 21V	水田2 4～6層	土師器鉢?	13C?			11.0	(2.3)	ロクロ ナデ	
0128	水田2	3C 23I	水田2 4～5層	東播系捏鉢	12C前		23.7		(7.2)	ロクロ	
0129	水田2	4B 6K	水田2 3～4層	備前摺鉢	14C	備前Ⅲ期	27.9		(6.6)	ロクロ	摺目9/1.9cm
0130	水田2	3B 20W	水田2 4～5層	須恵器摺鉢	12C?			10.7	(2.3)	ロクロ　粘土紐接合痕 底部未調整?	
0131	水田2	3C	水田2 2～3層	中国製青花皿	16C			4.8	(1.7)	施釉	景徳鎮窯
0132	水田2	3B 21Y	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅱ2	16.0		(4.7)	施釉　外面ケズリ	
0133	水田2	3C 19G	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	14.4		(4.7)	施釉	
0134	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.6		(3.5)	施釉	
0135	水田2	3C 21A	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.2		(4.5)	施釉	
0136	水田2	3C 21B	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.4		(3.2)	施釉	
0137	水田2	3C 22F	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.4	(4.6)	施釉	
0138	水田2	3B 24W	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		8.2	(3.0)	施釉	
0139	水田2	3C 6J	水田2 3～4層	中国製白磁碗	12C後～13C前	Ⅴ4c	10.6		(3.2)	施釉	
0140	水田2	3C 23H	水田2 4～5層	中国製白磁碗	12C後			5.6	(2.4)	施釉	内外面貫入
0141	水田2	3C 19D	水田2 4～5層	中国製白磁端反碗	11C後～12C前		11.1	4.0	3.6	施釉	
0142	水田2	3C 19B	水田2 4～5層	中国製白磁碗	12C中～12C後	Ⅶ3a		7.2	(1.8)	施釉	劃花文　面子転用?
0143	水田2	3C 20D	水田2 4～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.2	(2.9)	施釉	面子転用?
0144	水田2	3B 19X	水田2 4～5層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅳ1a	10.2	3.8	2.6	施釉	
0145	水田2	3B 22V	水田2 4～6層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅱ1	15.4		(3.6)	施釉	内外面貫入
0146	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅴ2	8.6	3.0	2.4	施釉　回転糸切	内外面貫入
0147	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	中国製白磁皿	12C後～13C前		10.2	5.4	2.7	施釉　内面蛇ノ目釉ハギ	
0148	水田2	3C 21A	水田2 4～5層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅴ2		3.6	(1.1)	施釉	
0149	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	中国製青磁碗	13C前	Ⅰ5a		4.6	(3.8)	施釉	鎬蓮弁文
0150	水田2	3C 20G	水田2 4～5層	中国製青磁皿	12C後～13C前	Ⅰ1b		6.4	(1.2)	施釉	内外面貫入
0151	水田2	3C 24J	水田2 4～5層	石鍋	12C後		18.4		(4.8)	内面:ミガキ ケズリ 外面:ミガキ	鍔穿孔
0152	水田7	3C 17I	水田7 包含層	瀬戸灰釉卸皿	12C後～13C前	後		7.7	(1.55)	ロクロ　回転糸切	見込卸目
0153	水田7	3C 17I	水田7 包含層	瀬戸灰釉内剥皿	16C末	大窯3後期		4.8	(1.2)	施釉	高台内重焼痕
0154	水田7	3C 17G	水田7 包含層	常滑甕	12C後	中野3	29.95		(4.6)	自然釉	
0155	水田7	3C 18H	水田7 包含層	山茶碗	12C中	渥美4	15.4	8.1	6.1	ロクロ　回転糸切	輪花4　施釉
0156	水田7	3C 17G	水田7 包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.6	7.5	4.6	ロクロ　回転糸切	施釉
0157	水田7	3C 15・16H・I	水田7 包含層	山茶碗	12C中	渥美4	18.2	8.0	5.1	ロクロ　回転糸切	施釉
0158	水田7	3C 16H	水田7 包含層	山茶碗	12C中	渥美4	16.0	7.6	4.7	ロクロ　回転糸切	自然釉
0159	水田7	3C 16I	水田7 包含層	山茶碗	12C中	渥美4	15.8	7.8	5.5	ロクロ　回転糸切	自然釉
0160	水田7	3C 18H	水田7 包含層	山茶碗	12C後～13C初?	渥美5?	16.1		(4.55)	ロクロ	北部系　自然釉

表34　川関遺跡出土遺物観察表5

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0161	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		8.2	(3.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　施釉
0162	水田7	3C 15H	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		8.0	(3.95)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
0163	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.8	(3.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0164	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.0	(3.0)	ﾛｸﾛ 回転糸切?	自然釉
0165	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.0	(3.15)	ﾛｸﾛ 回転糸切でﾅﾃﾞ?	
0166	水田7	3C 16II	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		4.0	(4.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0167	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.8	(3.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0168	水田7	3C 16G	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.4	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0169	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.6	(1.8)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ?	黒粘土紐
0170	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗	12C中	尾張4		8.35	(3.2)	ﾛｸﾛ 回転糸切でﾅﾃﾞ	籾
0171	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗	12C中	尾張4		7.8	(2.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0172	水田7	3C 16G	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	5.0	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0173	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.5	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0174	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.2	2.8	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0175	水田7	3C 17G	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.25	4.9	2.95 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0176	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	4.6	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0177	水田7	3C 16G	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	5.2	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0178	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	5.8	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0179	水田7	3C 15I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.4	2.5	ﾛｸﾛ 回転糸切?	自然釉
0180	水田7	3C 17I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	3.8	2.6 2.75	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ?	籾　自然釉
0181	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.6	8.7	2.55 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0182	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	4.2	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0183	水田7	3C 15H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	4.3	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0184	水田7	3C 16G	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	5.3	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0185	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.2	5.4	2.55	ﾛｸﾛ 回転糸切?	自然釉
0186	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	6.6	4.4	2.5	ﾛｸﾛ 回転糸切?	
0187	水田7	3C 18G	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	4.0	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0188	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.7	5.7	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0189	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.2	(2.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0190	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.6	(2.3)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0191	水田7	3C 17I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.25	(2.45)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
0192	水田7	3C 16II	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.0	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0193	水田7	3C 17I	水田7包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.6	(1.4)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0194	水田7	3C 18H	水田7包含層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.85	5.2	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0195	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.1	2.5	ﾛｸﾛ ﾍﾗ切?	自然釉
0196	水田7	3C 15I	水田7包含層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.4	6.0	1.85	ﾛｸﾛ 回転糸切?	自然釉
0197	水田7	3C 18H	水田7包含層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.7	4.4	1.9	ﾛｸﾛ 回転糸切でﾅﾃﾞ	自然釉
0198	水田7	3C 17H	水田7包含層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		3.7	(1.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0199	水田7	3C 16I	水田7包含層	瓦器椀	12C後～13C前			3.9	(1.7)	外面:指押 ﾅﾃﾞ	見込斜線暗文
0200	水田6	3C 5I	水田7包含層	瓦器椀	12C後			5.0	(1.2)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	

表35　川関遺跡出土遺物観察表6

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0201	水田7	3C 17I	水田7包含層	瓦器椀	12C中		15.1	6.5	5.95	内面:ミガキ 外面:ナデ 指押	見込斜格子暗文 口縁内面沈線1条
0202	水田7	3C 17G	水田7包含層	瓦器椀	12C後～13C前		15.5	4.7	5.0		内外面摩滅
0203	水田7	3C 16H	水田7包含層	瓦器椀	12C後			4.9	(1.4)	内面:ミガキ 外面:ナデ	
0204	水田7	3C 16H	水田7包含層	瓦器椀	12C後			5.4	(1.2)	内面:ナデ ミガキ 外面:ナデ	
0205	水田7	3C 16I	水田7包含層	瓦器椀	12C後			4.1	(3.2)	外面:指押 ナデ	内面摩滅
0206	水田7	3C 15I	水田7包含層	瓦器椀	12C後			6.0	(3.2)	外面:指押 ナデ ミガキ	見込斜格子暗文
0207	水田7	3C 16H	水田7包含層	土師器皿	12C後		14.4		3.6	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ 指押 ナデ	
0208	水田7	3C 18H	水田7包含層	土師器小皿	12C後		9.9	3.9	1.65	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ 指押 ナデ	
0209	水田7	3C 16I	水田7包含層	土師器小皿	12C後		9.8	5.8	1.2	手づくね	
0210	水田7	3C 17G	水田7包含層	土師器小皿	12C後		8.8	6.6	1.95	ロクロ 回転糸切	
0211	水田7	3C 16H	水田7包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.4		(3.2)	施釉	
0212	水田7	3C 16G	水田7包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	17.0		(3.6)	施釉	
0213	水田7	3C 17H	水田7包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	17.0		(3.2)	施釉	
0214	水田7	3C 16H	水田7包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.4	(3.5)	施釉	
0215	水田7	3C 16G	水田7包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.2		(4.6)	施釉	
0216	水田7	3C 17H	水田7包含層	中国製白磁碗			9.5		(2.4)	施釉	
0217	水田7	3C 16H	水田7包含層	中国製白磁碗	12C後～13C前	Ⅷ		5.2	(2.35)	施釉	
0218	水田7	3C 16G	水田7包含層	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅱ1？		6.2	(1.8)	施釉	
0219	水田7	3C 16G·I	水田7包含層	中国製白磁皿	11C後～12C前			3.9	(1.55)	施釉	外面貫入
0220	水田7	3C 15·16H·I	水田7包含層	中国製白磁皿	12C後～13C前			6.0	(1.35)	ロクロ 回転糸切	
0221	水田7	3C 16I	水田7包含層	中国製青磁碗	13C前	Ⅰ5b	9.2		(2.6)	施釉	蓮弁文
0222	水田7	3C 16I	水田7包含層	中国製青磁皿	12C後	Ⅰ1b		5.6	(0.9)	施釉	劃花文
0223	水田7	3C 17I	水田7包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美?5	15.0	7.0	4.9 5.0	ロクロ 回転糸切	墨書「大」 籾
0224	水田1	4B 1T	水田1 3～4層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	15.6	7.4	5.4	ロクロ 回転糸切	墨書 籾
0225	水田2	3C 16E	水田2 5層	山茶碗	12C中?	尾張4?		8.7	(2.2)	ロクロ 回転糸切	墨書「中□」 籾
0226	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.7	(3.55)	ロクロ 回転糸切?	体部外面墨書「井」?
0227	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.3	(2.6)	ロクロ 回転糸切	墨書「十」
0228	水田7	3C 16H	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.9	(2.35)	ロクロ 回転糸切	墨書
0229	水田1	4B 3K	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(2.0)	ロクロ 回転糸切?	墨書
0230	水田1	4B 2I	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.8	(3.6)	ロクロ 回転糸切?	墨書
0231	水田7	3C 15I	水田1 3～4層	山茶碗	12C中	渥美4		7.4	(1.7)	ロクロ 回転糸切	墨書「黒犬」
0232	水田1	3B 25U	水田1 4層	山茶碗	12C中	渥美4		7.7	(2.0)	ロクロ 回転糸切?	墨書「十」 籾
0233	水田1	3B 25U	水田1 4層	山茶碗	12C中	渥美4		7.6	(2.8)	ロクロ 回転糸切?	墨書「桂」? 自然釉
0234	水田1	4B 1J	水田1 3～4層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(2.4)	ロクロ 回転糸切	墨書 自然釉
0235	水田7	3C 16I	水田7包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(1.9)	ロクロ 回転糸切	墨書 籾
0236	水田1	3B 25U	水田1 4層	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3		6.7	(2.4)	ロクロ 回転糸切	墨書「乗禅」 籾 内面墨
0237	水田1	4B 1J	水田1 3～4層	山茶碗	12C中	尾張?4		8.0	(2.0)	ロクロ 回転糸切	墨書「たき」
0238	水田1	4B 1Q	水田1 3～4層	山茶碗	13C前	渥美6		8.6	(2.95)	ロクロ 回転糸切	墨書
0239	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.6	(2.5)	ロクロ 回転糸切でナデ	墨書「上」
0240	水田7	3C 17I	水田7包含層	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		6.8	(1.8)	ロクロ 回転糸切	墨書「六十」 籾

表36　川関遺跡出土遺物観察表7

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0241	水田1	3B 22T	水田1 4層	山茶碗	13C前	渥美6		7.8	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	墨書
0242	水田1	3B 25T	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.3	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切?	墨書　自然釉
0243	水田1	4B 6V	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	5.2	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「桂」　自然釉
0244	水田1	4B 5R	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	5.0	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0245	水田2	3B 21V	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中～13C初?	渥美4?5?	9.0		(1.7)	ﾛｸﾛ	墨書 外側「天」
0246	水田2	3C 18C	水田2 4～5層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.6	(1.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
0247	水田1	4B 8P	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.1	(1.7)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	墨書「十」　籾
0248	水田1	4B 6O	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(1.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	墨書　籾
0249	水田1	4B 3P	水田1 3～4層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
0250	水田1	4B 1V	水田1 3～4層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.0	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「大」
0251	水田1	4B 15Q	水田1 暗黄灰色土	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.8	(1.75)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	墨書
0252	水田1	4B	水田1 2～3層	中国製白磁皿	11C後	不明		3.7	(1.3)	施釉	墨書「十」? 内外面貫入
0253	水田6	4B 8H	SB01	山茶碗	12C中	渥美4		3.8	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0254	水田6	4B 7H	SB01	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(2.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「ひ」
0255	水田6	4B 7I	SB02	山茶碗	12C中	尾張?4		7.4	(2.65)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0256	水田6	4B 7I	SB02	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	5.4	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0257	水田6	4B 7H	SB02	山茶碗	12C中	渥美4		4.3	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0258	水田1	4B 2L	SB03	山茶碗	12C中～13C初?	渥美4?5?		8.0	(3.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
0259	水田1	4B 2N	SB03	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		10.25	(2.05)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0260	水田1	4B 3L	SB03	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5	27.4	11.8	9.7	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0261	水田1	4B 1N	SB03	須恵器捏鉢	12C後～13C初		25.6		(5.3)	ﾛｸﾛ	内面摩滅　口縁ｽｽ
0262	水田1	4B 4N	SB04	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	15.1	9.0	5.1	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0263	水田1	4B 4N	SB04	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	17.0	8.0	4.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
0264	水田1	4B 4O	SB04	山茶碗	12C後～13C前	渥美5～6	16.4	8.0	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0265	水田1	4B 3N	SB04	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.6	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0266	水田1	4B 4M	SB04	山茶碗	12C中	尾張4		8.2	(3.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0267	水田1	4B 4N	SB04	山茶碗鉢				14.0	(5.6)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0268	水田1	4B 3N	SB04	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.2	4.4	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0269	水田1	4B 3O	SB04	瓦器小皿	13C初		9.6		(2.0)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0270	水田1	4B 3O	SB04	瓦器椀	12C後			5.4	(0.9)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ	
0271	水田1	4B 2V	SB08	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0272	水田1	4B 2U	SB08	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0273	水田1	3B 25V	SB08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.4	3.5	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0274	水田2	3C 21A	SB10	山茶碗鉢		尾張	17.6		(5.2)	ﾛｸﾛ	片口
0275	水田2	3B 19Y	SB10	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.7	(2.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾　自然釉
0276	水田2	3B 21Y	SB10	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	3.6	3.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0277	水田2	3B 21Y	SB10	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅵ1b	13.4	4.6	4.5	施釉	劃花文
0278	水田2	3C 21F	SB14	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		8.2	(3.3)	ﾛｸﾛ　板目圧痕でﾅﾃﾞ	籾
0279	水田2	3C 17E	SB16	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.0		(3.3)	施釉	二次焼成
0280	水田2	3C 17E	SB16	山茶碗小皿	12C後～13C初?	渥美5?	8.0	4.4	1.75 1.8	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	墨書　自然釉

表37　川関遺跡出土遺物観察表8

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0281	水田2	3C 22I	SB17	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.95	7.1	5.1 5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　黒粘土紐 施釉
0282	水田2	3C 21H	SB17	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	18.0	7.8	4.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0283	水田2	3C 23H	SB17	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.4	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	施釉
0284	水田2	3C 23H	SB17	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	4.1	2.75	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉 内面釉たまり
0285	水田2	3C 18G	SB18	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	5.2	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0286	水田2	3C 18G	SB18	山茶碗小皿	13C前	渥美6	9.0	4.6	1.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0287	水田2	3C	SB19	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.4	8.8	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0288	水田2	3C 22J	SB19	土師器大皿	12C後		15.2		(2.85)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	外面ｽｽ
0289	水田2	3C 19J	SB20	山茶碗	12C中	渥美4		7.9	(3.0)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	黒粘土紐
0290	水田2	3C 19J	SB20	山茶碗小碗	12C中	渥美4	7.7	4.9	2.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0291	水田2	3C 18H	SB21	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.6	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0292	水田7	3C 16G	SB22	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.3	5.2	3.2 3.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0293	水田7	3C 16G	SB22	土師器小皿	12C後		8.8	6.6	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0294	水田7	3C 16G	SB23	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		7.4	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　見込重焼痕
0295	水田7	3C 16G	SB23	山茶碗	12C中	渥美4		6.9	(4.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0296	水田7	3C 16G	SB23	山茶碗小皿	12C後～13C初	尾張?5	9.2	5.0	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0297	水田2	3C 18F	SA01	山茶碗輪花碗	12C中?	渥美4?	16.2	6.8	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　白然釉
0298	水田2	3C 18F	SA01	土師器小皿	12C後		8.4	5.4	1.6 1.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0299	水田5	4B 13N	水田5 PIT	山茶碗	12C中	尾張?4		7.0	(2.9)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
0300	水田1	4B 2T	水田1 PIT	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.7	8.1	5.8	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	輪花4　黒粘土紐 施釉
0301	水田1	4B 1T	水田1 PIT	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	8.6	5.7 5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4
0302	水田1	4B 2N	水田1 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	18.8	10.6	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0303	水田1	3B 23Q	水田1 PIT	山茶碗	12C中	尾張4	18.8	10.1	5.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0304	水田1	4B 2X	水田1 PIT	山茶碗	11C後～12C初?	渥美3?	16.0	6.4	5.05	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0305	水田1	4B 2U	水田1 PIT	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		6.8	(4.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0306	水田1	4B 2X	水田1 PIT	山茶碗	12C中	尾張4		8.8	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉 見込重焼痕
0307	水田1	4B 2X	水田1 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.7	(2.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0308	水田1	4B 3N	水田1 PIT	山茶碗小碗	11C後～12C初?	尾張3?	10.3	5.4	3.35 3.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0309	水田1	4B 8Y	水田1 PIT	山茶碗小碗	12C中	尾張4	9.0	4.6	2.75	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0310	水田1	3B 25V	水田1 PIT	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.2	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0311	水田1	4B 3N	水田1 PIT	山茶碗 片口小皿	12C後～13C初	尾張?5	9.4	4.6	2.6 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	赤褐発色　自然釉
0312	水田1	4B 4X	水田1 PIT	瓦器椀			13.0	3.4	3.9		内外面摩滅
0313	水田1	4B 2T	水田1 PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	V3a	16.6		(3.7)	施釉	
0314	水田1	4B 3V	水田1 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.1	6.1	5.9 6.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「いぬみや」 「上」　自然釉
0315	水田2	4C 1A	水田2 PIT	広口瓶	11C後～12C中	渥美3～4		10.8	(15.1)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0316	水田2	4C 1A	水田2 PIT	広口壺	12C後	尾張3併行		11.2	(19.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0317	水田2	4B 1Y	水田2 PIT	常滑甕	12C中	中野5	21.0		(6.8)	ﾛｸﾛ　体部内面上部粘土紐接合痕	自然釉
0318	水田2	3C 17F	水田2 PIT	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.7	7.6	6.0 6.1	ﾛｸﾛ　静止糸切?	輪花4　自然釉
0319	水田2	3C 19E	水田2 PIT	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.8	8.2	5.7	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	輪花3　自然釉
0320	水田2	3C 19F	水田2 PIT	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0		(3.7)	ﾛｸﾛ	輪花3　施釉

表38　川関遺跡出土遺物観察表9

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0321	水田2	3B 20V	水田2 PIT	山茶碗	12C中	渥美4古	17.6	8.2	5.8 5.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0322	水田2	3B 20V	水田2 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	7.9	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0323	水田2	3C 19G	水田2 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.8	8.0	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0324	水田2	3B 20V	水田2 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	18.0	9.0	5.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0325	水田2	4C 2A	水田2 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.8	9.2	4.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0326	水田2	4B 2Y	水田2 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.8		(5.2)	ﾛｸﾛ	高台剥離
0327	水田2	3C 23E	水田2 PIT	山茶碗	13C前	尾張6	15.1	7.6	6.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0328	水田2	3C 19G	水田2 PIT	山茶碗		尾張5	16.0	6.2	5.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0329	水田2	3B 21V	水田2 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.6	4.3	6.2	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ　体部内面下部粘土紐接合痕	二次焼成　自然釉
0330	水田2	3C 19G	水田2 PIT	山茶碗	12C中	渥美4	15.7	8.1	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0331	水田2	4B 2Y	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	5.8	3.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0332	水田2	3C 18I	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.2	3.1 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	赤褐発色　自然釉
0333	水田2	3C 22K	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	3.9	3.1 3.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0334	水田2	3C 18F	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.4	2.5 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0335	水田2	3C 18F	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	4.2	2.75 2.8	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0336	水田2	3B 19X	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	3.9	2.9	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	自然釉　内外面砂粒
0337	水田2	3B 21V	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.0	2.75	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0338	水田2	3C 19E	水田2 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	3.8	2.25 2.35	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾
0339	水田2	3C 18J	水田2 PIT	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	5.4		(2.5)	ﾛｸﾛ	
0340	水田2	3C 20G	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.4	2.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0341	水田2	3C 19F	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	5.4	2.7	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	
0342	水田2	3B 19W	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.4	4.7	2.7	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0343	水田2	3C 23C	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.2	2.3 2.4	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
0344	水田2	3C 20A	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初?	渥美5?	8.6	4.0	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0345	水田2	3C 19F	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	12.0	3.8	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0346	水田2	3C 20G	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	3.6	2.35	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0347	水田2	4C 1A	水田2 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	5.4	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0348	水田2	4B 1Y	水田2 PIT	山茶碗小皿	13C前	渥美6	9.0	5.1	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0349	水田2	3C 25A	水田2 PIT	山茶碗小皿	13C前	渥美6	7.8	4.4	1.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0350	水田2	3C 18B	水田2 PIT	土師器小皿			8.5	5.7	1.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	内外面黒斑
0351	水田2	3C 23I	水田2 PIT	瓦器椀	12C中		15.2	6.2	4.9	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0352	水田2	3B 20Y	水田2 PIT	瓦器椀	12C後		16.5	6.1	4.5	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0353	水田2	3C 23I	水田2 PIT	瓦器椀	12C後		14.4		(4.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0354	水田2	3B 18Y	水田2 PIT	瓦器椀	12C後		14.6	5.75	4.5 4.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	外面上部1条沈線
0355	水田2	3C 18I	水田2 PIT	瓦器椀	12C中			5.4	(2.15)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押	格子状暗文?
0356	水田2	4C 1A	水田2 PIT	瓦器小椀	12C中～12C後			5.2	(2.1)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押	内面摩滅
0357	水田2	3C 18B	水田2 PIT	瓦器椀	12C中			6.4	(1.6)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押	
0358	水田2	3C 23I	水田2 PIT	瓦器椀	12C後			5.4	(0.8)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	
0359	水田2	3B 20V	水田2 PIT	土師器皿			14.0	4.0	2.9	手づくねでﾅﾃﾞ	
0360	水田2	3C 23D	水田2 PIT	土師器小皿	12C後		9.8	(1.9)	2.75	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	

表39　川関遺跡出土遺物観察表10

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0361	水田2	4B 2X	水田2 PIT	土師器小皿	12C後		9.0		(1.4)	ﾅﾃﾞ	
0362	水田2	3C 18G	水田2 PIT	土師器小皿	12C後～13C初		9.8	8.0	1.35	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0363	水田2	3C 19G	水田2 PIT	土師器羽釜	12C中		22.5		(6.3)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	
0364	水田2	3C 20E	水田2 PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.0		(5.4)	施釉	内外面貫入
0365	水田2	3C 18B	水田2 PIT	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a		7.2	(3.5)	施釉	
0366	水田2	3B 20V	水田2 PIT	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅳ1	10.0	3.1	2.4 2.45	施釉	内外面貫入
0367	水田7	3C 17H	水田7 PIT	山茶碗	12C中	渥美4	17.0	7.8	5.5	ﾛｸﾛ 回転糸切	
0368	水田7	3C 16I	水田7 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(3.3)	ﾛｸﾛ 回転糸切	
0369	水田7	3C 17G	水田7 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	3.8	2.9 3.0	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	見込重焼痕
0370	水田7	3C 17H	水田7 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.9	3.0	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0371	水田7	3C 17I	水田7 PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	3.9	3.0	ﾛｸﾛ 回転糸切	灯明皿転用　口縁ｽｽ
0372	水田7	3C 17I	水田7 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.2	2.7	ﾛｸﾛ 回転糸切	自然釉
0373	水田7	3C 17H	水田7 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.1	2.6 2.65	ﾛｸﾛ 回転糸切	
0374	水田7	3C 17F	水田7 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	3.9	2.3 2.5	ﾛｸﾛ 回転糸切	自然釉
0375	水田7	3C 17G	水田7 PIT	中国製白磁碗	12C後～13C前	Ⅷ?	14.0		(3.8)	施釉	
0376	水田7	3C 17H	水田7 PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.2	(2.8)	施釉	
0377	水田7	3C 16G	水田7 PIT	中国製白磁皿	11C後～12C前			4.0	(1.1)	施釉	
0378	水田2	3C 21·22B	SE01中層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.3	(3.1)	ﾛｸﾛ 回転糸切	
0379	水田2	3C 21·22B	SE01中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.1	2.5	ﾛｸﾛ 回転糸切?	
0380	水田2	3C 21·22B	SE01中層	山茶碗	13C前	渥美6		6.8	(1.8)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	墨書「ミヤ？」
0381	水田2	3C 21·22B	SE01中層	子持器台	12C後～13C初		9.0	4.4	2.3 2.4	ﾛｸﾛ	
0382	水田1	3C 21·22B	SF01中層	滑石製石鍋	12C後		20.0		(6.2)	口縁外面·体部外面ｹｽﾞﾘ	
0383	水田2	3C 22C	SX01下層	山茶碗	12C後～13C初		15.8	7.2	5.75 6.0	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
0384	水田6	4B 5G	SD01	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.3	(2.4)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	自然釉
0385	水田6	4B 5G	SD01	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.4	(2.4)	ﾛｸﾛ 回転糸切	籾
0386	水田6	4B 5G	SD01	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.45	(1.9)		
0387	水田6	4B 4E·4F	SD02下層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		7.2	(4.9)	ﾛｸﾛ 回転糸切?	
0388	水田6	4B 5F	SD02下層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		8.4	(2.6)	ﾛｸﾛ 回転糸切	自然釉
0389	水田6	4B 5F	SD02上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.8	(3.1)	ﾛｸﾛ 静止糸切	自然釉
0390	水田6	4B 4G	SD02下層	山茶碗	11C後～12C中	尾張3～4		7.75	(2.3)	ﾛｸﾛ 回転糸切	
0391	水田6	4B 4G	SD02上層	山茶碗	12C後～13C前	渥美5～6		8.0	(2.2)	ﾛｸﾛ 回転糸切	自然釉　高台剥離
0392	水田6	4B 5F	SD02上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(1.9)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	黒粘土紐
0393	水田6	4B 4F	SD02上層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5		3.4	(1.2)	ﾛｸﾛ 回転糸切	
0394	水田6	4B 5F	SD02下層	瓦器椀	12C中		16.0		(4.3)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0395	水田6	4B 5H	SD02	瓦器椀	12C中～12C後		15.6	5.2	4.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
0396	水田6	4B 4E·4F	SD02下層	土師器大皿	12C後		16.0		(3.6)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0397	水田6	4B 5F	SD02上層	土師器小皿	12C後		9.6		1.45	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押	
0398	水田6	4B 5F	SD02上層	土師器小皿	12C後		8.2		(1.3)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0399	水田6	4B 5G	SD02	土師器小皿	12C後		9.0		(1.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0400	水田6	4B 5F	SD02上層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.0	(1.95)	施釉	

表40　川関遺跡出土遺物観察表11

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0401	水田6	4B 5F	SD02上層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.4	(1.7)	施釉	
0402	水田6	4B 4F	SD02上層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅵ	10.2	4.0	2.9	施釉	
0403	水田6	4B 5F	SD02上層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅵ		3.2	(1.2)	底部露胎	
0404	水田1	3B 23U	SW01下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.3	5.5 5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0405	水田1	3B 23U	SW01下層	山茶碗	12C中	渥美4		8.2	(2.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0406	水田1	3B 23U	SW01下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.6	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾　見込黒粘土紐
0407	水田1	3C 22U	SW01下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	3.7	2.3 2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0408	水田1	3C 22U	SW01下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.7	2.1 2.2	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0409	水田1	3C 22U	SW01下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.4	2.4 2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0410	水田1	3C 22U	SW01下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.4	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0411	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗片口碗	12C後～13C前		8.0		(4.2)	ﾛｸﾛ	片口　自然釉
0412	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗 輪花小碗	12C中	渥美4	10.4	4.6	3.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　見込重焼痕 籾　自然釉
0413	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	8.7	5.25	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4?　籾
0414	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.6	8.7	5.35	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0415	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	8.6	5.3	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾
0416	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	8.5	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　白然釉
0417	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.1	9.2	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0418	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.7	8.8	5.2	ﾛｸﾛ　静止糸切	籾　自然釉
0419	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.6	7.2	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　籾 自然釉
0420	水田2	3B 21W	SD06 中～下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	8.3	5.3	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0421	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.8	7.5	4.5 4.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　内面墨?　自然釉
0422	水田2	3B 20X	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.3	8.1	5.4	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	見込重焼痕　籾 自然釉
0423	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.2	8.6	5.3	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0424	水田2	3B 20X	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.6	8.1	5.3 5.4	ﾛｸﾛ　静止糸切	籾　自然釉
0425	水田2	3B 21V	SD06下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.9	7.3	5.45	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0426	水田2	3B 20X	SD06	山茶碗小碗			9.4	5.3	3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾　自然釉
0427	水田2	3B 21V	SD06 中～下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.9	5.3	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0428	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	5.2	3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0429	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.9	4.7	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉 高台内面砂粒
0430	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	7.8	3.7	2.1 2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0431	水田2	3B 20X	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	5.2	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0432	水田2	3B 21V	SD06下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	5.45	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	内面墨?　籾 自然釉
0433	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.4	2.65 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0434	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.5	2.9 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0435	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.3	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0436	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	3.8	2.5	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
0437	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	5.6	2.8	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0438	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	3.5	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0439	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	4.8	2.7	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0440	水田2	3B 20X	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.8	2.3	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉

表41　川関遺跡出土遺物観察表12

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0441	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	3.8	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾　自然釉
0442	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.5	4.7	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　籾 自然釉
0443	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.4	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0444	水田2	3B 21W	SD06 中～下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.2	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0445	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.2	2.6	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	見込重焼痕　籾 自然釉
0446	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.8	4.8	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0447	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.8	5.2	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0448	水田2	3B 21W	SD06下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.1	2.6	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0449	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.5	4.7	2.9	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0450	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.8	2.6	ﾛｸﾛ　静止糸切	自然釉
0451	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	5.0	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0452	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	4.2	3.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0453	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗			9.1	4.6	3.0 3.1	ﾛｸﾛ　静止糸切?	自然釉
0454	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗小碗			10.2	4.8	2.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0455	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.5	2.6 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	赤褐発色　自然釉
0456	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.7	4.9	2.3 2.4	ﾛｸﾛ　静止糸切?	自然釉
0457	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	5.0	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0458	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	5.6	1.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0459	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.5	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切?	内面墨
0460	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	3.9	2.4 2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0461	水田2	3B 21V	SD06下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.1	3.8	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0462	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.2	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0463	水田2	3B 21V	SD06中層	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5		11.4	(6.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0464	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5	28.9		(10.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切 体部外面下部ﾍﾗ削	輪花3?
0465	水田2	3B 21W	SD06	瓦器椀	12C後		16.6	4.2	5.6	内面:ﾐｶﾞｷ　外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0466	水田2	3B 21W	SD06	瓦器椀	12C		15.2	6.0	4.8	内面:ﾐｶﾞｷ　外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	
0467	水田2	3B 21W	SD06	瓦器椀	12C中～12C後		15.0	5.0	4.6	ﾐｶﾞｷ 指押 内面:ﾐｶﾞｷ　外面:ﾅﾃﾞ	内外面摩滅
0468	水田2	3B 21V	SD06中層	瓦器椀	12C中～12C後		16.0	6.0	5.3	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	内外面摩滅
0469	水田2	3B 21W	SD06	瓦器椀			16.4		(5.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	内外面摩滅
0470	水田2	3B 21W	SD06 中～下層	瓦器小皿	12C～13C前		8.8	3.7	1.8	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
0471	水田2	3B 20X	SD06	土師器大皿	12C後		15.0		3.3	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0472	水田2	3B 21W	SD06	土師器皿	12C後		14.0	8.6	3.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0473	水田2	3B 21W	SD06	土師器皿	12C後		14.4	9.0	3.3	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0474	水田2	3B 21W	SD06	土師器皿	12C後		14.4	7.1	3.5 3.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0475	水田2	3B 21W	SD06下層	土師器皿	12C後		14.7	7.9	3.4 3.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	灯明皿転用?　口縁ｽｽ
0476	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		10.1	7.2	2.0	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	
0477	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.4	6.4	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0478	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		8.9	6.2	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0479	水田2	3B 21V	SD06 中～下層	土師器小皿	12C中		9.6	6.4	1.75	ﾛｸﾛ　回転糸切	内外面摩滅
0480	水田2	3B 20X	SD06 中～下層	土師器小皿	12C～13C前		9.4	7.0	1.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	

表42　川関遺跡出土遺物観察表13

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0481	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		8.6	6.2	1.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0482	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		8.5	6.4	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0483	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		8.4	5.8	1.4 1.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0484	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		8.1	5.9	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0485	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		8.0	5.8	1.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	内外面摩滅
0486	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		8.2	4.6	1.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0487	水田2	3B 21W	SD06 中～下層	土師器小皿	12C～13C前		7.6	6.1	1.4	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ　調整不明	内外面摩滅
0488	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C中		7.6	5.2	1.4		内外面摩滅
0489	水田2	3B 21V	SD06下層	土師器小皿	12C中		9.6		1.4	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0490	水田2	3B 21V	SD06下層	土師器小皿	12C中		8.6		1.25	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押	
0491	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		11.0		1.45	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0492	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		10.6	6.0	1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 手づくねでﾅﾃﾞ	
0493	水田2	3B 20X	SD06	土師器小皿	12C後		10.0		1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0494	水田2	3B 20X	SD06	土師器小皿	12C後		9.6		(1.55)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0495	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C～13C前		9.8		1.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0496	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.4		1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0497	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		10.0	5.25	1.5 1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0498	水田2	3B 21V	SD06中層	土師器小皿	12C後～13C前		9.8		(1.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0499	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		9.6		(1.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0500	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		8.4		1.55	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅
0501	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		9.5		2.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0502	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.6		(1.8)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0503	水田2	3B 20X	SD06	土師器小皿	12C後		9.4		2.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0504	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.6		1.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0505	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.2		1.9	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0506	水田2	3B 21V	SD06中層	土師器小皿	12C後～13C前		9.2		2.1	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0507	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.8		2.1	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0508	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		9.6		1.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	口縁～体部粘土紐接合痕
0509	水田2	3B 21V	SD06	土師器小皿	12C後		9.4		1.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0510	水田2	3B 21W	SD06 中～下層	土師器小皿	12C～13C前		9.2		(2.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0511	水田2	3B 20X	SD06	土師器小皿	12C後		9.0		1.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0512	水田2	3B 21W	SD06	土師器小皿	12C後		9.0		(1.6)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0513	水田2	3B 21V	SD06下層	土師器小皿	12C中		8.4		(1.5)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0514	水田2	3B 21V	SD06中層	土師器小皿	12C中		9.2		(1.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0515	水田2	3B 21W	SD06	土師器小壺	12C～13C前		7.0	6.0	4.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	外面ｽｽ
0516	水田2	3B 21W	SD06	土師器甕	12C後		22.0		(4.3)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0517	水田2	3B 21W	SD06	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1b	16.4		(4.2)	施釉	
0518	水田2	3B 21W	SD06	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅶ	12.2	4.6	2.7	施釉	
0519	水田2	3B 21W	SD06	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅶ	9.6	2.9	2.2	施釉	内外面貫入
0520	水田2	3B 21W	SD06中層	中国製白磁皿	12C?	不明	10.4		(2.0)	施釉	

表43　川関遺跡出土遺物観察表14

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0521	水田2	3C 23F	SD07上層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.1	7.2	5.65 5.7	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	輪花4　施釉
0522	水田2	3C 24G	SD07上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.3	(4.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0523	水田2	3C 23F	SD07上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.8	(2.1)	ﾛｸﾛ　ﾖｺﾅﾃﾞ　回転糸切	自然釉
0524	水田2	3C 20D	SD07下層	山茶碗	12C後～13C初?	渥美5?		14.8	(5.35)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0525	水田2	3C 18C	SD07下層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.2	(2.8)	施釉	
0526	水田2	3C 23F	SD07上層	中国製青磁碗	14C	Ⅳ		4.8	(4.6)	施釉	
0527	水田2	3C 21E	SD08	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		9.4	(3.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　自然釉
0528	水田2	3C 24G	SD08	山茶碗小碗	12C中	尾張4		3.8	(2.1)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0529	水田2	3C 21E	SD08	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5		14.2	(2.65)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0530	水田2	3C 20G	SD08	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		3.8	(1.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0531	水田2	3C 22J	SD10	土師器大皿	12C後～13C前		15.0		2.3	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0532	水田2	3C 22J	SD10	土師器小皿	12C後～13C前		7.9	6.2	1.75	手づくね	
0533	水田6	4B 4F	SD02下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.0	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「十」　自然釉
0534	水田1	3B 22S	SD06	山茶碗	12C中	尾張?4		9.0	(2.95)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
0535	水田2	3B 21W	SD06	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	18.0	10.0	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「乗禅」
0536	水田2	3B 21V	SD06	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.2	4.5	3.1 3.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
0537	水田2	3C 23F	SD07上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.8	(3.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
0538	水田2	3C 21E	SD07上層	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3		8.2	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	墨書
0539	水田2	3C 23F	SD07上層	山茶碗小碗			9.2	4.8	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切?	墨書「定明」
0540	水田2	3C 23F	SD07上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.9	(2.65)	ﾛｸﾛ　見込一部ﾊｹ	墨書　自然釉
0541	水田1	4B 3K	SK02	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(2.35)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0542	水田1	4B 10S	SK04	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		7.6	(2.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
0543	水田1	4B 2U	SK07	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.3	(1.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
0544	水田1	4B 1V	SK08	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		9.2	(3.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0545	水田1	4B 1V	SK08	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.0	(1.7)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	墨書
0546	水田1	3B 25V	SK09	山茶碗	12C後～13C前	渥美5～6		7.6	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0547	水田1	3B 25V	SK09	瓦器椀	12C後		15.8	5.1	5.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0548	水田2	4B 2Y	SK10	山茶碗	13C前	尾張6	13.8	6.4	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0549	水田2	4B 2Y	SK10	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.4	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「烏の絵」?　籾
0550	水田2	4B 2Y	SK10	土師器小皿	12C後～13C前		8.3		(1.8)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0551	水田2	4B 2Y	SK10	中国製白磁皿	11C中～12C前	Ⅱ1a		4.3	(1.5)	施釉	内外面貫入
0552	水田2	3B 25Y	SK11	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.0	6.2	5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0553	水田2	3B 25Y	SK11	中国製青磁碗	12C中～12C後	Ⅰ4a	14.8		(5.1)	施釉	
0554	水田2	3B 25Y	SK11	土師器甕			31.0		(7.7)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ ｹｽﾞﾘ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	
0555	水田2	3B 25Y	SK12	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	3.9	2.4	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0556	水田2	3C 25A	SK13	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.5	2.0	ﾛｸﾛ　静止糸切	口縁外面重焼痕 自然釉
0557	水田2	3C 25A	SK13	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.9	4.4	2.5 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0558	水田2	3B 21V	SK14	瓦器椀	12C中			6.0	(1.2)	内面:指押 ﾐｶﾞｷ 外面:指押	
0559	水田2	3B 21V	SK14	土師器台付皿脚部	12C後			11.0	(2.7)		外面一部朱痕? 内外面摩滅
0560	水田2	3B 21V	SK14	中国製白磁皿	11C中～12C前	不明		5.8	(1.7)	施釉	

表44　川関遺跡出土遺物観察表15

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0561	水田2	3B 22X	SK15	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.3	8.0	4.2 4.4	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ	
0562	水田2	3B 22W	SK16	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.4	9.1	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0563	水田2	3B 21Y	SK17	土師器皿	12C後		14.5		3.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0564	水田2	3B 20Y	SK18	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.0	8.7	6.2 6.4	ﾛｸﾛ　静止糸切?	輪花4　施釉
0565	水田2	3B 20Y	SK18	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.0	8.2	5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　施釉
0566	水田2	3B 20Y	SK18	山茶碗	12C中	渥美4		8.1	(3.0)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0567	水田2	3B 20Y	SK18	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.5	(1.95)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾
0568	水田2	3B 20Y	SK18	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(1.45)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0569	水田2	3B 21V	SK19	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.2	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾　自然釉
0570	水田2	3B 21V	SK19	土師器小皿	12C後～13C前		10.0		1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0571	水田2	3C 19A	SK20下層	山茶碗輪花碗	11C後～12C中	?3～4	15.2	6.8	5.2 5.4	ﾛｸﾛ　静止糸切	輪花4　籾
0572	水田2	3C 19A	SK20	山茶碗	13C前	渥美6	17.8	9.2	5.1	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0573	水田2	3C 19A	SK20	山茶碗小碗	12C中	尾張?4		4.8	(1.85)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾　自然釉
0574	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	7.5	5.8 6.1	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	輪花3
0575	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.8	6.8	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0576	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗	13C前	尾張6		7.1	(3.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0577	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.4	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0578	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗小皿			8.6	3.9	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0579	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.3	1.9 2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0580	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	3.8	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0581	水田2	3C 23E	SK21	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5		10.6	(4.0)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	見込重焼痕　自然釉 見込剥離
0582	水田2	3C 23E	SK21	土師器小皿	12C後～13C前		10.6		(2.2)		内外面摩滅著
0583	水田2	3C 23E	SK21	中国製白磁碗	12C中～12C後	V4c		5.0	(2.2)	施釉	劃花文
0584	水田2	3C 19G	SK22 上～中層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	8.0	6.0 6.1	ﾛｸﾛ　回転糸切?	輪花3
0585	水田2	3C 19G	SK22	山茶碗	12C中	渥美4		7.8	(4.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0586	水田2	3C 19G	SK22 上～中層	山茶碗	12C中	渥美4		8.0	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0587	水田2	3C 19G	SK22	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0588	水田2	3C 19G	SK22 上～中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	3.5	3.8	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0589	水田2	3C 19G	SK22	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.2	2.55	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0590	水田2	3C 19G	SK22	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.8	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0591	水田2	3C 19G	SK22	瓦器椀	12C後			4.0	(1.1)	外面:ﾅﾃﾞ	内外面摩滅
0592	水田2	3C 22I	SK23	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		10.0	(3.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0593	水田2	3C 22I	SK23	瓦器椀	12C中～12C後			4.6	(2.3)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0594	水田2	3C 22I	SK23	土師器小皿	12C後～13C前		8.0		2.55	手づくね	南伊勢系
0595	水田2	3C 22I	SK23	土師器小皿	12C後～13C前		8.0		(2.1)	手づくね	南伊勢系
0596	水田2	3C 22K	SK26	瓦器椀	12C中～12C後		14.7	5.15	4.95 5.15	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 指押	
0597	水田2	3C 18I	SK27	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.0	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0598	水田2	3C 19I	SK27	石鍋	12C中～12C後		32.1		(9.0)	体部外面ﾉﾐ成形	外面ｽｽ
0599	水田2	3C 19I	SK28	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	7.0	5.2 5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　自然釉
0600	水田2	3C 19I	SK28	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.2	2.85 2.9	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉

表45　川関遺跡出土遺物観察表16

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0601	水田2	3C 19I	SK28	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	4.0	2.7 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0602	水田2	3C 18H	SK29	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	3.3	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
0603	水田2	3C 18I	SK30	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		9.6	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0604	水田2	3C 18I	SK30	瓦器椀	12C後			2.3	(1.4)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ	体部外面摩滅
0605	水田2	3C 18I	SK30	土師器大皿	12C後				(2.1)		内外面摩滅
0606	水田2	3C 18I	SK31	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.2	(3.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0607	水田1	3B 23Q	水田1 3～4層	中国製白磁小壺				4.6	(3.4)	施釉	
0608	水田2	3C 23K	水田2 4～5層	中国製白磁小壺	12C後～13C前			5.6	(2.8)	施釉	
0609	水田1	4B 1Q	水田1 3～4層	中国製白磁小壺?				3.2	(1.4)	施釉	
0610	水田1	4B 4S	水田1 3～4層	中国製青白磁梅瓶	13C		4.1			施釉	
0611	水田7	3C15·16H·I	水田7 包含層	中国製青白磁合子蓋	12C後～13C前		4.6		1.65	施釉	
0612	水田1	3B 24O	水田1 3～4層	中国製青白磁合子蓋	12C後～13C初		8.0		(2.2)	施釉	
0613	水田1	4B 5P	水田1 3～4層	中国製青白磁合子蓋	12C中		4.8		1.55	施釉	
0614	水田2	3C	水田2 2～3層	中国製青白磁合子蓋	12C		5.9		(1.8)	施釉	
0615	水田2	3C 18C	SD07下層	中国製青磁合子蓋	13C				(1.8)	施釉	草魚文
0616	水田7	3C 16G	水田7 4～5層	土師質土錘			長4.2	径1.3～1.4			
0617	水田6	4B 5F	SD02上層	土師質土錘			長4.0	径1.3～1.4			
0618	水田1	4B 6P	水田1 3～4層	土師器土錘			長4.2	径0.9～1.2			
0619	水田7	3C 15H	水田7 4～5層	土師質土錘			長6.3	幅5.25	厚(3.9)		
0620	水田7	3C 17I	水田7 PIT	土師質土錘			長9.1	幅4.2	厚4.4		
0621	水田2	3C 23E	SK21	滑石製蓋			(16.5)	9.55	3.3	内外面ﾉﾐ成形	石鍋 蓋転用
0622	水田2	3C 16D	SK18	砥石			長7.8	幅1.7	厚0.7		使用面3
0623	水田1	4B 2U	水田1 3～4層	硯			長(4.8)	5.5幅	1.45厚		使用面1
0624	水田7	3C 16H	水田7 4～5層	鞴羽口	12C後～13C前		長8.8	径7.0～7.3		砂岩製	溶解物付着
0625	水田2	3B 25Y	SK11	台石			長10.9	幅10.5	厚4.9		
0626	水田2	3C 23F	SD07上層	投石			径5.3～6.1		厚4.5		
0627	水田2	3C 23J	水田2 4～5層	碁石			径2.05～2.13		厚0.65		
0628	水田1	4B 2R	水田1 PIT	石錘?			長4.6	径1.95～2.0			
0629	水田1	4B 11Q	水田1 2～3層	銅銭			径23.8㎜　厚0.8㎜				至道元寶　行書
0630	水田1	4B 11Q	水田1 2～3層	銅銭			径23.0㎜　厚0.7㎜				元豊通寶　篆書
0631	水田1	4B 11R	水田1 1～3層	銅銭			径23.7㎜　厚0.8㎜				淳　元寶
0632	水田1	4B 11T	水田1 1～3層	銅銭			径24.0㎜　厚1.0㎜				永樂通寶
0633	水田1	4B 11T	水田1 1～3層	銅銭			厚0.8㎜				永樂通寶
0634	水田1	4B 11T	水田1 1～3層	銅銭			厚0.7㎜				寛永通寶
0635	水田1	4B 11T	水田1 1～3層	銅銭			径24.0㎜　厚1.0㎜				寛永通寶
0636	水田1	4B 11R	水田1 1～3層	銅銭			径24.0㎜　厚1.0㎜				寛永通寶
0637	水田1	4B 11R	水田1 1～3層	銅銭			径23.9㎜　厚0.8㎜				嘉祐通寶
0638	水田1	4B 11R	水田1 2～3層	銅銭			径23.8㎜　厚0.8㎜				元豊通寶　真書
0639	水田1	4B 11Q	水田1 1～3層	銅銭			径25.1㎜　厚1.0㎜				寛永通寶
0640	水田1	4B 11P	水田1 1～3層	銅銭			径24.0㎜　厚1.0㎜				寛永通寶

表46　川関遺跡出土遺物観察表17

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0641	水田1	4B 11R	水田1 1～3層	銅銭			径24.9㎜　厚1.1㎜				寛永通寶
0642	水田1	4B 11R	水田1 1～3層	銅銭			径24.2㎜　厚1.0㎜				寛永通寶
0643	水田4	16V	水田4 3～4層	常滑甕	14C前	中野6b	38.0		(5.1)	ﾛｸﾛ	
0644	水田4	18V	水田4 3～5層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	3.4	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0645	水田4	16V	水田4 3～4層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.6	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0646	水田4	17U	水田4 3～5層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.6	(3.8)	施釉	
0647	水田4	17U	水田4 3～5層	土師器土鍋	15C		21.0		(9.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ 格子ﾀﾀｷ	播磨系
0648	水田4	15V	水田4 3～4層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	14.0		(4.1)	施釉	
0649	水田4	16V	水田4 3～4層	中国製青磁皿	12C後～13C前	Ⅰ1b		3.0	(1.6)	施釉	劃花文
0650	水田8西	B3 11W	水田4 2層	唐津皿	17C初		14.0	4.4	4.0 4.1	施釉	見込･高台畳付胎土目痕4
0651	水田8西	B3 5M	水田4 2層	瀬戸灰釉豆皿	16C	大窯1期	5.6	2.8	1.2	施釉	菊印　内外面貫入
0652	水田8西	B3 12N	水田4 2層	古瀬戸灰釉盤	13C前	後Ⅳ古		13.6	(3.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0653	水田8西	B3 18P	水田4 2層	山茶碗輪花碗	11C後～12C初	尾張3	17.0	7.4	6.0 6.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　見込重焼痕　自然釉
0654	水田8西	B3 19O	水田4 2層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.0	9.2	6.0 6.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　施釉
0655	水田8西	B3 20N	水田4 2層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	7.8	6.1 6.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　自然釉
0656	水田8西	B3 6R	水田4 2層	山茶碗輪花碗	12C後	渥美4新	16.0	6.8	5.6 5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3
0657	水田8西	B3 19O	水田8西 包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(4.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0658	水田8西	B3 6K	水田8西 包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0659	水田8西	B3 19Q	水田8西 包含層	山茶碗	13C前	尾張6	16.0	7.0	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0660	水田8西	B3 19O	水田8西 包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(4.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0661	水田8西	B3 7Y	水田8西 包含層	山茶碗	13C前	尾張6	15.0	6.6	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0662	水田8西	B3 14M	水田8西 包含層	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	17.7	9.5	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切 板目圧痕	籾
0663	水田8西	B3 7R	水田8西 包含層	山茶碗	13C中	明和7	13.7	6.1	5.9	ﾛｸﾛ　静止糸切 外面一部ﾊｹ	北部系　見込重焼痕 籾　自然釉
0664	水田8西	B3 19S	水田8西 包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	11.0	5.0	3.5	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
0665	水田8西	B3 19Q	水田8西 包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.6	6.1	3.05 3.1	ﾛｸﾛ　回転糸切?	見込重焼痕　自然釉
0666	水田8西	B3 15M	水田8西 包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.4	3.8	2.9 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0667	水田8西	B3 11R	水田8西 包含層	山茶碗小碗	12C後	尾張4新	9.0	4.0	2.5 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切？	自然釉
0668	水田8西	B3 19S	水田8西 包含層	山茶碗小碗	12C末	渥美5古	8.6	4.7	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕
0669	水田8西	B3 19Q	水田8西 包含層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.4	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0670	水田8西	B3 20P	水田8西 包含層	山茶碗小碗	12C後	渥美4新	8.6	3.5	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0671	水田8西	B3 21O	水田8西 包含層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.6	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0672	水田8西	C3 10C	水田8西 包含層	山茶碗 片口鉢	13C中	尾張7	29.6	13.9	13.1	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切 体部外面下部ｹｽﾞﾘ	自然釉
0673	水田8西	B3 17M	水田8西 包含層	瓦器椀	12C中		15.2	8.0	5.8	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ 指押	
0674	水田8西	B3	水田8西 包含層	瓦質火舎	15C中				(9.6)		外面上部唐草文突帯2　全体摩滅
0675	水田8西	B3 11R	水田8西 包含層	土師器小皿	12C中～12C後		9.4	8.1	1.7 1.75	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0676	水田8西	B3 14W	水田8西 包含層	土師器皿	13C初		12.6	6.0	2.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0677	水田8西	B3 19R	水田8西 包含層	中国製青花皿	15C後～16C前	小野C群		6.0	(1.8)	施釉	碁笥底　漳州窯
0678	水田8西	B3 20N	水田8西 包含層	中国製青花皿	15C後	小野B群		4.6	(2.1)	施釉	漳州窯　高台内面～高台内砂粒
0679	水田8西	B3 7N	水田8西 包含層	中国製白磁皿	15C	小野B群		3.4	(1.2)	施釉	朱書
0680	水田8西	B3 12N	水田8西 包含層	中国製青磁碗	16C	小野C群	10.2		(3.85)	施釉	口縁歪み

表47　川関遺跡出土遺物観察表18

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0681	水田8西	B3 4T	水田8西包含層	石鍋					(5.3)	内面:研磨　外面:ノミ成形	
0682	水田8西	C3 14A	水田8西包含層	石鍋	13C中～13C後		18.8		(8.1)	ｹｽﾞﾘ	鍔摩滅
0683	水田8西	C3 9D	水田8西包含層	鉄鍋					(2.8)		
0684	水田8西	B3 19O	水田8西包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		7.8	(2.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0685	水田8西	B3 22M	水田8西包含層	山茶碗	12C後	尾張4新		8.4	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「六十」　籾
0686	水田8西	B3 11U	水田8西包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(3.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
0687	水田8西	B3 20M	水田8西包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.1	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「桂？」 自然釉
0688	水田8西	B3 20N	水田8西包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.1	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
0689	水田8西	B3 16N	水田8西包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		7.0	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0690	水田8西	B3 20O	水田8西包含層	山茶碗	12C後～13C初?	渥美5?		7.9	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0691	水田8西	B3 20M	水田8西包含層	山茶碗小碗	12C末	渥美5古	8.4	4.1	2.75 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「ゆ」
0692	水田8西	C3 2E	水田8西包含層	中国製白磁皿	14C		11.4	4.6	3.15	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	墨書「廊」 内外面貫入
0693	水田8東	B2	水田8東包含層	中国製青花碗	16C後	小野F群		4.4	(2.2)	施釉	漳州窯
0694	水田8東	B2	水田8東包含層	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a		7.2	(3.6)	施釉	
0695	水田8東	B2	水田8東包含層	中国製白磁杯	12C後	Ⅰ1a	13.4		(2.5)	施釉	
0696	水田8東	B2	水田8東包含層	中国製青磁碗	15C			6.6	(2.3)	施釉	草花文?
0697	水田8東	B3 4N	水田8東包含層	唐津碗	16C末～17C初			4.6	(2.7)	施釉	
0698	水田8東	B3 1P	水田8東包含層	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	後Ⅳ新	12.3	4.1	6.2	施釉	高台畳付～高台内面胎土目痕3
0699	水田8東	B3 22N	水田8東包含層	瀬戸灰釉端反皿	15C末	大窯1期	9.2	5.0	2.2	施釉	梅印　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
0700	水田8東	C3 2A	水田8東包含層	瀬戸灰釉丸皿	16C前～中	大窯2期	10.4	4.0	2.5	施釉	菊印　高台内輪ﾄﾞﾁ痕　ｶﾞﾗｽ質釉
0701	水田8東	C2 24E	水田8東包含層	瀬戸灰釉腰折皿	17C初	後Ⅳ新	11.2	4.7	2.3	施釉	二次焼成　見込胎土目痕3
0702	水田8東	B3 2U	水田8東包含層	瀬戸灰釉腰折皿	15C後	後Ⅳ新	12.8	5.0	2.6	施釉	見込重焼痕3
0703	水田8東	B2 17L	水田8東包含層	瀬戸灰釉腰折皿	15C後	後Ⅳ新		4.0	(1.4)	施釉	見込輪ﾄﾞﾁ痕
0704	水田8東	B2 21S	水田8東包含層	瀬戸灰釉縁釉小皿	15C後	後Ⅰ	13.0	7.0	3.2	施釉	内外面貫入
0705	水田8東	B3 2V	水田8東包含層	瀬戸灰釉腰折皿	15C後	後Ⅳ新		5.6	(1.0)	施釉	墨書「三？」 内外面貫入
0706	水田8東	B2 25N	水田8東包含層	瀬戸灰釉卸皿	14C後	後Ⅰ	11.6	5.5	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切　施釉	見込卸目
0707	水田8東	B3 3R～M	水田8東包含層	瀬戸鉄釉仏花瓶大	14C?	中期Ⅰ?Ⅱ?		(6.0)	(5.75)	施釉	外面菊印　外面貫入
0708	水田8東	B5 1R	水田8東包含層	瀬戸鉄釉仏花瓶	14C?	中期Ⅰ?Ⅱ?		6.2	(4.25)	施釉	自然釉
0709	水田8東	B5 1R	水田8東包含層	瀬戸鉄釉仏花瓶大	14C?	中期Ⅰ?Ⅱ?			(2.5)	施釉	
0710	水田8東	B3 3O	水田8東包含層	瀬戸美濃鉄釉茶入	16C	大窯1期		4.4	(4.5)	施釉	
0711	水田8東	B2 22N	水田8東包含層	志野皿	17C初			7.0	(1.2)	施釉	高台畳付砂粒
0712	水田8東	B2 20S	水田8東包含層	瀬戸美濃錆釉摺鉢	15C後	大窯1期	30.0		(6.8)	施釉	
0713	水田8東	B2 25U	水田8東包含層	備前壺	15C後	備前Ⅳ期	12.4		(6.5)	ﾛｸﾛ 体部内面粘土紐接合痕	外面黄ｺﾞﾏ釉
0714	水田8東	B2 22Q	水田8東包含層	備前壺	15C後	備前Ⅳ期	11.0		(6.7)	ﾛｸﾛ	肩部波状文・黄ｺﾞﾏ釉 自然釉
0715	水田8東	B2 20U	水田8東包含層	備前徳利	15C	備前Ⅳ期		6.0	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0716	水田8東	B3 1P	水田8東包含層	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	28.0		(10.6)	ﾛｸﾛ	摺目11/2.7cm
0717	水田8東	B2 21R	水田8東包含層	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期		12.6	(8.3)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	摺目8/2.4cm
0718	水田8東	B2 25O	水田8東包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.5	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　黒粘土紐
0719	水田8東	B2 23N	水田8東包含層	山茶碗	12C前	渥美4古	16.3	7.1	5.45 5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0720	水田8東	B2 21M	水田8東包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	13.4	5.5	(5.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉 高台畳付剥離

表48　川関遺跡出土遺物観察表19

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0721	水田8東	B2 23K	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.9	5.0	3.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0722	水田8東	B2 21L	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.0	3.0 3.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0723	水田8東	B2 21I	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	3.6	2.4	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0724	水田8東	B2 22N	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	4.4	2.65	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	見込重焼痕　自然釉
0725	水田8東	B2 20R	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(1.4)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0726	水田8東	B2 23K	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.9	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0727	水田8東	B2 23N	水田8東包含層	山茶碗小碗	13C前	渥美6	8.0	5.1	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0728	水田8東	B2 23K	水田8東包含層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.5	4.8	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0729	水田8東	B5 1R	水田8東包含層	瓦器椀	13C前		13.1	4.7	4.4	外面:指押 ﾅﾃﾞ	和泉系?　内面摩滅
0730	水田8東	B2 19I	水田8東包含層	土師器小皿	13C?			4.7	(1.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0731	水田8東	B2 25R	水田8東包含層	土師器小皿	15C		10.0		(3.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0732	水田8東	B2 24T	水田8東包含層	土師器小皿	13C?		10.0	7.4	1.6	手づくね	南伊勢系
0733	水田8東	B2 22S	水田8東包含層	土師器小皿	13C		7.8	5.0	(1.25)	内面:指押 ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	南伊勢系
0734	水田8東	B2 21S	水田8東包含層	土師器小皿	13C		6.0		1.2	手づくね	南伊勢系
0735	水田8東	B5 1R	水田8東包含層	土師器羽釜	12C後?				(3.9)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 指押	体部外面ｽｽ
0736	水田8東	B2 20Q	水田8東包含層	土師器土堝	15C		21.2		(5.6)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
0737	水田8東	B2 22R	水田8東包含層	土師器土堝	15C		31.0		(9.7)	内面:ﾅﾃﾞ 斜格子ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ
0738	水田8東	B2 20S	水田8東包含層	土師器土堝	15C		22.2		(11.6)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
0739	水田8東	B3 1P	水田8東包含層	土師器土鍋	15C		20.0		(10.2)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系 体部外面下部ｽｽ
0740	水田8東	B2 23R	水田8東包含層	弥生土器高坏脚部	弥生後期	V様式			(5.7)		全体摩滅
0741	水田8東	B2 25N	水田8東包含層	中国製青花碗	16C	小野E群	14.6		(3.1)	施釉	
0742	水田8東	B3 2W	水田8東包含層	中国製青花碗	16C			4.6	(3.3)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯　内外面貫入
0743	水田8東	B2 20R	水田8東包含層	中国製青花杯	15C後～16C前	小野B1群		5.0	(1.8)	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯 内外面貫入
0744	水田8東	B2 25Q	水田8東包含層	中国製青花皿	16C	小野B1群		6.4	(1.8)	施釉	漳州窯
0745	水田8東	B2 17L	水田8東包含層	中国製白磁碗	11C後～12C初	Ⅳ1a	14.0		(3.8)	施釉	
0746	水田8東	B2 21K	水田8東包含層	中国製白磁碗	15C	小野B群		4.1	(2.1)	施釉	割高台3　体部8角形
0747	水田8東	B2 24Y	水田8東包含層	中国製白磁皿	14C			4.2	(1.5)	施釉	
0748	水田8東	B2 22R	水田8東包含層	中国製白磁皿	15C	小野B群	9.0	4.6	2.1	施釉	割高台4 見込重焼痕4
0749	水田8東	B2 25K	水田8東包含層	中国製白磁皿	16C後	小野C群	10.0	5.2	2.5	施釉　高台畳付釉削取	高台内面下部砂粒
0750	水田8東	B3 1Y	水田8東包含層	中国製白磁皿	16C後	小野C群		12.0	(1.5)	施釉	
0751	水田8東	B2 23R·S	水田8東包含層	中国製青磁碗	15C	小野C群	12.1		(5.5)	施釉	蓮弁文?
0752	水田8東	B3 3P	水田8東包含層	中国製青磁碗	12C後	I 1b		4.4	(2.8)	施釉	劃花文
0753	水田8東	B2 21R	水田8東包含層	中国製青磁碗	15C			5.4	(1.9)	施釉	
0754	水田8東	B2 20R	水田8東包含層	中国製青磁碗				6.0	(1.6)	施釉	
0755	水田8東	B2 22R	水田8東包含層	中国製青磁碗	12C後	I 2a		6.6	(3.9)	施釉	
0756	水田8東	B2 22S	水田8東包含層	中国製青磁皿	12C後～13C前	I 1b		3.6	(1.7)	施釉	
0757	水田8東	B2 21Q	水田8東包含層	中国製青磁皿	12C後～13C初	I 1b	10.4		(2.0)	施釉	
0758	水田8東	B3 1N	水田8東包含層	石鍋	12C後						
0759	水田8東	B5 1R	水田8東包含層	石鍋	12C後		38.9		(6.0)	ノミ状工具による調整	内外面摩滅
0760	水田8西	C3 14D	SB28	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	9.8	5.55	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4

表49　川関遺跡出土遺物観察表20

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0761	水田8西	C3 14D	SB28	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(2.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0762	水田8西	C3 14D	SB28	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.9	4.3	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0763	水田8西	C3 14D	SB28	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(2.3)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0764	水田8西	C3 13C	SB28	土師器小皿	13C前		9.6		(2.7)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0765	水田8西	C3 13C	SB28	土師器小皿	13C前		8.2		(1.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0766	水田8西	C3 13C	SB28	土師器小皿	13C前		6.8		1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0767	水田8西	C3 14D	SB28	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅴ1a?	13.3		(2.6)	施釉	内外面貫入
0768	水田8西	C3 13C	SB28	中国製白磁皿	13C？			4.2	(0.9)	施釉	
0769	水田8西	C3 14D	SB28	中国製青磁碗	12C中～12C後	Ⅷ	12.6		(1.9)	施釉	
0770	水田8西	B3 14M	SB30	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.6	(1.8)		墨書「蓮」
0771	水田8西	B3 14L	SB30	土師器小皿	？		9.2		(1.6)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	灯明皿　一部剥離 体部粘土三重
0772	水田8西	B3 16N	SB31	山茶碗	12C後～13C前?	渥美5?6?		7.0	(4.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0773	水田8西	B3 14N	SB32	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.4		(4.3)	ﾛｸﾛ	輪花4　施釉
0774	水田8西	B3 13M	SB32	山茶碗	12C中	渥美4	14.5	5.8	5.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0775	水田8西	B3 16P	SB33	山茶碗	12C中	渥美4	16.6	6.6	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0776	水田8西	B3 14P	SB33	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.0	6.7	5.45 5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0777	水田8西	B3 13M	SB33	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.7	(3.9)	施釉	
0778	水田8西	B3 16P	SB33	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.2	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0779	水田8西	B3 15P	SB34	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.3	6.0	3.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0780	水田8西	B3 13L	SB37	山茶碗	12C中	尾張?4	16.0	7.3	5.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾
0781	水田8西	B3 16N	SB37	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.6	5.2	3.25	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0782	水田8西	B3 11L	SB37	山茶碗片口鉢	12C中	尾張4	30.0	13.0	11.4	ﾛｸﾛ　回転糸切 体部外面下一部ｹｽﾞﾘ	自然釉
0783	水田8西	B3 11L	SB37	山茶碗	12C中	尾張4		8.2	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0784	水田8西	B3 11K	SB40	瓦器椀	12C前～12C中			6.0	(1.3)	内面:ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ	
0785	水田8西	B3 7J	SB43	山茶碗小碗	12C中～13C初	渥美4?5?	9.6		(2.5)	ﾛｸﾛ	
0786	水田8西	B3 6K	SB43	中国製白磁碗	11C中?	ⅩⅠ1	14.0		(3.4)	施釉	
0787	水田8西	B3 7L	SB43	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.0	(1.25)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0788	水田8西	B3 7L	SB46	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.7	4.3	2.1 2.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0789	水田8西	B3 6L	SB46	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.3	1.95 2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0790	水田8西	B3 7L	SB46	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.0	(1.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0791	水田8西	B3 7K	SB46	瓦器椀	13C初			4.0	(0.8)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	
0792	水田8西	B3 7L	SB46	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅴ1a		6.2	(2.85)	施釉	
0793	水田8西	B3 7P	SB49	山茶碗		明和	15.6		(4.2)	ﾛｸﾛ	自然釉
0794	水田8西	B3 5P	SB49	土師器小皿	12C後～13C初		11.2		2.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 板目圧痕	
0795	水田8西	B3 5P	SB49	土師器小皿	12C後～13C初		11.0		2.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0796	水田8西	B3 6Q	SB49	土師器小皿	13C前		10.0		2.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0797	水田8西	B3 12S	SB51	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.4	5.9 6.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　自然釉
0798	水田8西	B3 11R	SB51	山茶碗	12C中	渥美4	16.4	7.3	5.8	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0799	水田8西	B3 11T	SB52	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.4	(2.2)	施釉	内外面貫入
0800	水田8西	B3 6P	SB52	土師器小皿	12C後～13C初		10.6		(2.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	

表50　川関遺跡出土遺物観察表21

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0801	水田8西	B3 3U	SB57	山茶碗	13C中	明和? 大畑大洞?	12.8		(3.0)	ﾛｸﾛ	北部系　自然釉
0802	水田8西	B3 5Y	SB59	土師器羽釜	13C		29.1		(4.1)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ?　指押	南伊勢系 体部外面ｽｽ
0803	水田8東	C3 1E	SB61	土師器小皿	12C後～13C初		9.4	6.2	1.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	全体摩滅
0804	水田8西	C3 6C	SB63	山茶碗			15.6		(3.85)	ﾛｸﾛ	
0805	水田8西	C3 4C	SB63	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	16.6	6.6	5.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0806	水田8西	C3 5E	SB64	土師器大皿			18.0		(3.1)	内面:多段ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:多段ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0807	水田8西	C3 3F	SB65	山茶碗	13C前	尾張6	14.0	5.2	4.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0808	水田8西	C3 6D	SB65	山茶碗	12C後～13C初	尾張?5		8.2	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0809	水田8西	C3 4F	SB65	山茶碗小皿	12C中	渥美4	9.4	5.3	2.65 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0810	水田8西	C3 4F	SB65	山茶碗	12C中	尾張?4		4.6	(1.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0811	水田8西	C3 6E	SB65	瓦器椀	12C中～12C後			4.8	(1.4)	内面:ﾐｶﾞｷ　外面:ﾅﾃﾞ	
0812	水田8西	C3 5D	SB65	土師器皿	12C後～13C初		12.6	7.0	2.2	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0813	水田8西	C3 6D･5F	SB65	土師器小皿	12C後～13C初		9.0		1.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0814	水田8西	C3 5D	SB65	中国製白磁皿	16C	小野C群		6.0	(1.3)	施釉　高台畳付～高台内釉剥取	
0815	水田8西	C3 9B	SB70	山茶碗	13C前～13C中	白土原? 明和?	14.0		(4.0)	ﾛｸﾛ	
0816	水田8西	C3 10G	SB70	土師器小皿	13C前		8.6		(1.5)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0817	水田8東	B2 18N	SB73	中国製白磁皿	12C後～13C初	Ⅷ2b	13.0	5.1	2.75	施釉	劃花文
0818	水田8東	B2 18N	SB73	山茶碗小皿	13C前	渥美6	9.0	4.5	1.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
0819	水田8東	B2 22N	SB75	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	17.2	7.8	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0820	水田8東	B2 22N	SB75	土師器皿	13C前		14.0	6.1	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切？	
0821	水田8東	B2 24P	SB76	瀬戸美濃 大目茶碗	15C後	大窯1期	11.8		(4.35)	施釉	
0822	水田8東	B2 21S	SB77	山茶碗	12C中	渥美4		7.8	(2.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0823	水田8東	B2 22S	SB77	山茶碗系 広口瓶	11C後～12C初	尾張3併行				ﾛｸﾛ	自然釉
0824	水田8東	B2 22R	SB77	中国製青磁碗	12C中～12C後	Ⅰ2a	17.0		(5.4)	施釉	劃花文　内外面貫入
0825	水田8東	B2 23V	SB79	中国製白磁碗	12C前	Ⅴ1a?	14.4		(3.0)	施釉	内外面貫入
0826	水田8西	B3 17M	A区画PIT	山茶碗			17.2	7.2	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0827	水田8西	B3 16P	A区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4	16.6	8.1	(5.4 5.6)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0828	水田8西	B3 15N	A区画PIT	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張?3	8.4	4.0	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0829	水田8西	B3 14M	A区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.0	(4.6)	施釉	
0830	水田8西	B3 12M	A区画PIT	中国製白磁皿	15C	小野D群	10.0	3.7	2.45	施釉	
0831	水田8西	B3 12L	A区画PIT	中国製青磁杯	14C	Ⅲ3a	17.4		(3.1)	施釉	
0832	水田8西	B3 10M	A区画PIT	土師器土堝	13C?		28.8		15.7	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾊｹ	南伊勢系 外面下部ｽｽ
0833	水田8西	B3 9L	A区画PIT	中国製白磁皿	14C			5.6	(1.6)	施釉	
0834	水田8西	B3 12O	A区画PIT	中国製白磁皿	15C	小野D群	9.2	2.5	3.0	施釉	
0835	水田8西	B3 9K	A区画PIT	土師器小皿	15C?		9.6	4.4	1.65	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0836	水田8西	B3 11P	A区画PIT	土師器土堝	13C		27.6		(4.1)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	南伊勢系　外面ｽｽ
0837	水田8西	B3 11O	A区画PIT	中国製白磁皿	13C	Ⅸ1c	10.2		(2.6)	施釉	
0838	水田8西	B3 10L	A区画PIT	中国製白磁皿	13C		12.8		(2.5)	施釉　口縁端部～口縁内面釉剥取	
0839	水田8西	B3 8M	A区画PIT	土師器小皿	?		10.0		1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0840	水田8西	B3 8L	A区画PIT	中国製白磁皿	12C			5.0	(1.8)	施釉	

表51　川関遺跡出土遺物観察表22

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0841	水田8西	B3 7K	A区画PIT	瓦器椀	12C中～12C後		15.4	4.6	5.5	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0842	水田8西	B3 6K	A区画PIT	弥生土器鉢				4.4	(2.9)		脚部　全体摩滅
0843	水田8西	B3 5L	A区画PIT	中国製白磁皿				3.8	(0.9)	施釉	
0844	水田8西	B3 5L	A区画PIT	瀬戸灰釉端反皿	15C後	大窯1期	11.8	6.4	2.4	施釉	ｶｸﾊﾞﾐ文? 高台内輪ﾄﾞﾁ痕
0845	水田8西	B3 5N	A区画PIT	土師器小皿	15C		9.6		(2.6)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0846	水田8西	B3 4J	A区画PIT	瀬戸灰釉端反?丸?皿	16C前	大窯1?2?期		5.6	(1.4)	施釉	高台内輪ﾄﾞﾁ痕 見込ｶﾞﾗｽ質釉
0847	水田8西	B3 5L	A区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.2	(2.1)	施釉	
0848	水田8西	B3 3K	A区画PIT	山茶碗	13C中	明和		5.0	(2.15)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0849	水田8西	B3 7M	A区画PIT	土師器土堝	15C		26.5		(13.25)	内面:ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	体部外面ｽｽ
0850	水田8西	B3 5K	A区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.4	2.7 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0851	水田8西	B3 5N	A区画PIT	後期縄文土器	縄文後期	中津式			(6.1)	沈線　磨消縄文	
0852	水田8西	B3 5O	A区画PIT	瓦器椀	15C?		12.0		3.9	ﾛｸﾛ	
0853	水田8西	B3 4O	A区画PIT	中国製白磁碗	12C後	Ⅷ3?		6.6	(1.7)	施釉	
0854	水田8西	B3 6N	A区画PIT	備前摺鉢	15C後	備前Ⅳ期	30.6		(6.5)	ﾛｸﾛ	体部内面･外面縁帯 一部黄ｺﾞﾏ釉
0855	水田8西	B3 5N	A区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	5.0	2.3	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
0856	水田8西	B3 5N	A区画PIT	中国製白磁四耳壺	11C後～12C前	Ⅲ2	11.0		(1.5)	施釉	
0857	水田8西	B3 5N	A区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.0	(2.5)	施釉	
0858	水田8西	B3 5N	A区画PIT	中国製青磁碗	14C	Ⅲ2		4.0	(2.15)	施釉　高台畳付釉削取	
0859	水田4	B3 14U	B区画PIT	土師器土堝	15C		23.4		(3.0)	ﾅﾃﾞ	
0860	水田8東	B3 3R	B区画PIT	土師器小皿	13C		8.0		(2.1)	手づくね	南伊勢系
0861	水田8東	B3 3T	B区画PIT	土師器土堝	15C		18.4		(5.5)	ﾛｸﾛ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
0862	水田8東	B3 3V	B区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		7.3	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0863	水田8東	B3 1W	B区画PIT	土師器土堝	13C		27.0		(4.4)	ﾛｸﾛ	南伊勢系
0864	水田8西	B3 13V	B区画PIT	土師器大皿	12C後～13C前?		16.4		(2.5)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0865	水田8西	B3 13V	B区画PIT	土師器大皿	12C後～13C前?		15.4		(2.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0866	水田8西	B3 11T	B区画PIT	山茶碗	12C中	尾張4		9.0	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0867	水田8西	B3 11U	B区画PIT	瓦器椀	12C中～12C後		15.4	5.3	5.6 5.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾐｶﾞｷ	内面一部摩滅
0868	水田8西	B3 11U	B区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.0	2.7 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0869	水田8西	B3 11U	B区画PIT	土師器小皿	13C?		10.0		(1.7)	手づくね	南伊勢系?
0870	水田8西	B3 11U	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.15	(1.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0871	水田8西	B3 11U	B区画PIT	中国製青磁碗	13C前	Ⅰ5b	14.8		(3.8)	施釉	鏑蓮弁文
0872	水田8西	B3 11U	B区画PIT	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.9	7.7	6.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　籾　自然釉
0873	水田8西	B3 11U	B区画PIT	土師器小皿	13C		7.6		2.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0874	水田8西	B3 11R	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	4.2	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	赤褐発色　自然釉
0875	水田8西	B3 11R	B区画PIT	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	16.6	7.6	4.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0876	水田8西	B3 11T･S	B区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	10.0	4.6	3.5	施釉	
0877	水田8西	B3 10T	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(2.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0878	水田8西	B3 11Q	B区画PIT	瀬戸灰釉広口瓶	11C		25.0		(8.0)		自然釉
0879	水田8西	B3 11R	B区画PIT	土師器皿	12C後～13C初		13.4	8.4	1.9	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0880	水田8西	B3 11R	B区画PIT	瓦器椀	12C中～12C後			5.3	(3.0)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	

表52　川関遺跡出土遺物観察表23

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
0881	水田8西	B3 10T	B区画PIT	山茶碗			16.2	5.6	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0882	水田8西	B3 9U	B区画PIT	山茶碗	12C中	尾張4	16.8	9.2	5.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0883	水田8西	B3 9S	B区画PIT	中国製青花皿	16C前	小野C群		6.5	(1.1)	施釉	漳州窯
0884	水田8西	B3 9S	B区画PIT	中国製白磁皿	16C	小野C群		7.0	(1.3)	施釉	
0885	水田8西	B3 10R	B区画PIT	土師器小皿	15C?		10.0		(1.7)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0886	水田8西	B3 9S	B区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		8.2	(5.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0887	水田8西	B3 10R	B区画PIT	土師器土堝	15C		28.0		(5.6)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ 格子ﾀﾀｷ	
0888	水田8西	B3 9S	B区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C初	Ⅳ1a		6.4	(4.8)	施釉	
0889	水田8西	B3 10S	B区画PIT	土師器土堝	13C		28.0		(5.7)	内面:ﾅﾃﾞ	南伊勢系
0890	水田8西	B3 10Q	B区画PIT	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	大窯2期	12.0	4.3	6.4	施釉	
0891	水田8西	B3 9R	B区画PIT	瀬戸広口瓶	12C	尾張3～4併行	17.6		(3.7)	ﾛｸﾛ	自然釉
0892	水田8西	B3 11S	B区画PIT	土師器大皿	12C後～13C前		15.0	7.4	2.75	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0893	水田8西	B3 10P	B区画PIT	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期			(5.4 6.4)	ﾛｸﾛ	
0894	水田8西	B3 7S	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.9	5.0	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0895	水田8西	B3 6T	B区画PIT	土師器小皿	13C初		6.4	4.0	1.4	手づくね	
0896	水田8西	B3 7R	B区画PIT	山茶碗	13C前?	渥美6?		7.6	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切？	
0897	水田8西	B3 8S	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.4	(3.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0898	水田8西	B3 5R	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(4.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	施釉
0899	水田8西	B3 5R	B区画PIT	山茶碗	13C前	渥美6		8.6	(4.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	施釉
0900	水田8西	B3 8R	B区画PIT	瓦器椀	12C後～13C初		14.8	5.6	5.25	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押	
0901	水田8西	B3 6Q	B区画PIT	備前鉢	15C	備前Ⅳ期	12.4	13.2	8.3	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	
0902	水田8西	B3 6Q	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	16.0	8.2	4.9 5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　籾 自然釉
0903	水田8西	B3 5Q	B区画PIT	山茶碗	13C前	白土原		6.0	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
0904	水田8西	B3 4Q	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	2.1	4.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0905	水田8西	B3 5P	B区画PIT	土師器小皿	12C後～13C初		10.8		(3.3)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0906	水田8西	B3 4Q	B区画PIT	弥生土器高坏	弥生中期	Ⅳ様式			(5.1)	ﾐｶﾞｷ	全体摩滅
0907	水田8西	B3 4P	B区画PIT	瓦器椀	12C中～13C後			4.4	(1.2)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
0908	水田8西	B3 5O	B区画PIT	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5		2.8	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0909	水田8西	B3 6P	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.1	5.3	ﾛｸﾛ　外面ﾍﾗ状工具痕	見込重焼痕　籾 自然釉
0910	水田8西	B3 6P	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.5	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0911	水田8西	B3 4O	B区画PIT	土師器小皿	13C前		9.4	6.4	1.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0912	水田8西	B3 4O	B区画PIT	土師器小皿	13C前		9.0	6.8	1.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0913	水田8西	B3 4O	B区画PIT	土師器小皿	13C前		9.2		1.5 1.55	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0914	水田8西	B3 4O	B区画PIT	土師器小皿	13C前		9.4	6.2	1.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0915	水田8西	B3 5U	B区画PIT	瀬戸美濃大目茶碗	16C初	大窯1期後	11.2		(5.6)	施釉	
0916	水田8西	B3 4U	B区画PIT	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	26.2		(6.5)	ﾛｸﾛ	摺目7/2.7cm
0917	水田8西	B3 6W	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.0	(2.6)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	籾
0918	水田8西	B3 6W	B区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	V3a?		6.2	(2.4)	施釉	
0919	水田8西	B3 9X	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.0	(1.4)	施釉	
0920	水田8西	B3 9Y	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.9	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	

表53　川関遺跡出土遺物観察表24

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0921	水田8西	B3 15W	B区画PIT	山茶碗片口碗	12C中～13C初	渥美4～5	8.6		(3.15)	ﾛｸﾛ	
0922	水田8西	B3 4W	B区画PIT	中国製青磁碗	14C		12.6		(2.8)	施釉	
0923	水田8東	B3 1V	C区画PIT	瀬戸灰釉端反皿	15C末～16C初	大窯1期	11.1	6.6	2.55 2.6	施釉	菊印　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
0924	水田8東	B3 1V	C区画PIT	瀬戸灰釉端反皿	15C末～16C初	大窯1期	12.0	6.2	2.6	施釉	菊印　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
0925	水田8東	B3 1V	C区画PIT	瀬戸灰釉端反皿	15C末～16C初	大窯1期	11.0	6.1	2.8 2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	内外面貫入 高台内輪ﾄﾞﾁ痕
0926	水田8東	B3 2Y	C区画PIT	中国製白磁皿	16C	小野C群		3.3	(1.3)	施釉 高台畳付釉削取	
0927	水田8東	C3 1E	C区画PIT	土師器土堝	13C		28.0		(7.5)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞﾊｹ ｹｽﾞﾘ	南伊勢系　外面ｽｽ
0928	水田8東	C3 1E	C区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.4	3.5	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	自然釉
0929	水田8東	C3 1E	C区画PIT	東播系捏鉢	12C前		28.6		(4.9)	ﾛｸﾛ	自然釉
0930	水田8東	B3 3P	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4	16.2	7.8	6.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0931	水田8西	C3 3F	C区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	13.6		(5.1)	施釉	内外面貫入
0932	水田8西	C3 2D	C区画PIT	土師器小皿	13C前		10.0		(1.6)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0933	水田8西	C3 2C	C区画PIT	中国製白磁皿	12C後～13C前	V4c	14.0		(2.5)	施釉	
0934	水田8西	C3 2E	C区画PIT	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.4	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
0935	水田8西	C3 3E	C区画PIT	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.9	5.1	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0936	水田8西	C3 2D	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	尾張4	8.9	4.4	2.0	ﾛｸﾛ　ﾍﾗおこし?	自然釉
0937	水田8西	C3 2B	C区画PIT	瀬戸灰釉卸皿	15C後	後Ⅳ新		5.6	(1.8)	内面:ﾛｸﾛ 卸目 外面:ﾛｸﾛ ﾊｹ?	外底少量施釉
0938	水田8西	C3 4X	C区画PIT	志野丸皿	16C末～17C初	Ⅱ小期	13.4	7.0	2.7	施釉	
0939	水田8西	C3 4X	C区画PIT	中国製青磁碗	12C後	Ⅰ4a		5.4	(2.2)	施釉	
0940	水田8西	C3 4F	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	5.3	3.1 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切?	見込重焼痕　自然釉
0941	水田8西	C3 4F	C区画PIT	中国製白磁皿	15C	小野B群		4.0	(1.45)	施釉	
0942	水田8西	C3 5F	C区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.8	(2.0)	施釉	
0943	水田8西	C3 5E	C区画PIT	中国製白磁碗	12C?			6.2	(2.3)	施釉	
0944	水田8西	C3 4C	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		9.1	(2.7)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾　自然釉
0945	水田8西	C3 4C	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	18.0	7.0	5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0946	水田8西	C3 6D	C区画PIT	中国製白磁碗	12C前			7.0	(2.0)	施釉	
0947	水田8西	C3 6B	C区画PIT	土師器小皿	13C?		10.0		(2.7)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ　指押	
0948	水田8西	C3 6C	C区画PIT	土師器小皿	13C前		9.0		(1.8)	ﾛｸﾛ	
0949	水田8西	C3 6C	C区画PIT	弥生土器把手付鉢?			長(10.5)	幅2.6	厚1.8		把手位置 竪横断定できず
0950	水田8西	C3 6C	C区画PIT	中国製白磁皿	15C	小野D群		4.0	(2.0)	施釉	割高台4
0951	水田8西	C3 10D	C区画PIT	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.0	6.3	6.3 6.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4
0952	水田8西	C3 8E	C区画PIT	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3		7.6	(3.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0953	水田8西	C3 9D	C区画PIT	山茶碗	13C中	明和		5.0	(4.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	北部系　籾
0954	水田8西	C3 9D	C区画PIT	瓦器椀	14C前		10.8	4.7	2.95 3.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0955	水田8西	C3 9D	C区画PIT	土師器小皿	13C初		6.6		(0.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0956	水田8西	C3 8F	C区画PIT	石鍋	13C初		24.3		(5.9)	ノミ状工具による調整	
0957	水田8西	C3 8F	C区画PIT	常滑摺鉢	14C後	中野8	31.2	12.6	12.0	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞﾊｹ状工具によるｹｽﾞﾘ	口縁内面端部刻目
0958	水田8西	C3 10A	C区画PIT	瀬戸灰釉広口瓶	11C			16.4	(11.2)	ﾛｸﾛ 体部内面粘土紐接合痕	
0959	水田8西	C3 10B	C区画PIT	山茶碗片口鉢	12C後～13C初	渥美5	26.2	12.9	12.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0960	水田8西	C3 10C	C区画PIT	土師器大皿	12C後～13C初		17.9	14.4	1.65	ﾛｸﾛ　回転糸切　指押	

表54　川関遺跡出土遺物観察表25

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
0961	水田8西	C3 10P	C区画PIT	中国製白磁碗	12C後～13C前	Ⅷ3	14.4		(2.9)	施釉	
0962	水田8西	C3 8D	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		7.0	(3.1)	ﾛｸﾛ　静止糸切	自然釉
0963	水田8西	C3 7G	C区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	17.2		(2.1)	施釉	
0964	水田8西	C3 9D	C区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.4	2.15 2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0965	水田8西	C3 10F	C区画PIT	土師器小皿	13C初		9.0		1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0966	水田8西	C3 10E	C区画PIT	土師器小皿	13C前		7.6		1.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0967	水田8西	C3 10G	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4		5.4	(2.4)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
0968	水田8西	C3 10G	C区画PIT	瓦器小皿	13C前		7.3	3.0	1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
0969	水田8西	C3 10F	C区画PIT	土師器小皿	12C後～13C前		9.6		1.1	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0970	水田8西	C3 10F	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	3.5	3.1 3.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0971	水田8西	C3 10F	C区画PIT	瓦器椀	12C後			4.0	(0.9)	内面:ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0972	水田8西	C3 10F	C区画PIT	土師器小皿	12C後～13C初		9.6		(1.7)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0973	水田8西	C3 10F	C区画PIT	瓦器椀	13C後		14.0	5.1	(3.8)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	内外面摩滅
0974	水田8西	C3 11E	C区画PIT	中国製白磁皿	12C前	Ⅵ1a?	11.0		(2.0)	施釉	
0975	水田8西	C3 11E	C区画PIT	土師器皿	12C後～13C初		13.6		(2.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0976	水田8西	C3 11E	C区画PIT	土師器坏	12C後		8.0	5.5	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0977	水田8西	C3 10G	C区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.6	4.0	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0978	水田8西	C3 10F	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.7	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉　高台内砂粒
0979	水田8西	C3 11E	C区画PIT	土師器小皿	13C初		10.0		2.2	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
0980	水田8西	C3 12D	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	尾張?5		8.1	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0981	水田8西	C3 11G	C区画PIT	山茶碗小皿	13C前	尾張6	8.0	5.2	1.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0982	水田8西	C3 13D	C区画PIT	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.6	4.3	1.8 1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0983	水田8西	C3 14C	C区画PIT	瀬戸美濃 天目茶碗	15C後	大窯2期	11.4		(6.6)	施釉	
0984	水田8西	C3 13D	C区画PIT	山茶碗	13C前	尾張6		6.6	(4.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
0985	水田8西	C3 14C	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0		(3.5)	ﾛｸﾛ	自然釉
0986	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4	16.0		(5.3)	ﾛｸﾛ	施釉
0987	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		8.2	(4.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐　施釉
0988	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		6.6	(3.5)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	見込気泡
0989	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(3.3)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	黒粘土紐　自然釉 高台歪み著しい
0990	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		6.6	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐　自然釉
0991	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	3.7	2.55 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
0992	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	5.2	2.3 2.35	ﾛｸﾛ　回転糸切	高台畳付胎土目痕3 自然釉
0993	水田8西	C3 15B	C区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		3.6	(1.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
0994	水田8西	C3 15B	C区画PIT	土師器皿	12C後～13C前		14.8		(1.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
0995	水田8西	C3 14B	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.5	(1.2)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
0996	水田8西	C3 15C	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.6	(1.2)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾
0997	水田8西	C3 14C	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.8	(4.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	高台畳付砂粒
0998	水田8西	C3 12H	C区画PIT	土師器小皿	13C?		10.1		(2.1)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
0999	水田8西	C3 14D	C区画PIT	石鍋	12C中				(4.5)	ｹｽﾞﾘ	
1000	水田8西	B3 16X	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4		5.0	(2.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	黒粘土紐　自然釉

表55　川関遺跡出土遺物観察表26

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
1001	水田8西	B3 15Y	C区画PIT	山茶碗	13C前	渥美6	15.0	6.8	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1002	水田8西	B3 15X	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		6.6	(4.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
1003	水田8西	B3 15X	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		7.0	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1004	水田8西	B3 15X	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.4	4.7	2.95 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1005	水田8西	B3 15X	C区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.4	(2.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1006	水田8西	B3 15X	C区画PIT	山茶碗短頸壺	12C中	渥美4	14.6		(4.2)	ﾛｸﾛ	
1007	水田8西	B3 16X	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.7	(3.25)	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　籾
1008	水田8西	B3 16X	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1009	水田8西	B3 16X	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.5	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1010	水田8西	B3 15X	C区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		8.3	(2.8)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	黒粘土紐
1011	水田8西	B3 14W	C区画PIT	山茶碗片口碗	13C前?	渥美6?	15.0	8.0	(5.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	高台剥離
1012	水田8西	B3 14W	C区画PIT	瓦器小椀	13C初		10.6		(3.5)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1013	水田8西	B3 14W	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(3.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒円盤　籾
1014	水田8西	B3 15W	C区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.6	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1015	水田8西	B3 14X	C区画PIT	中国製青磁皿	11C後～12C前	Ⅵ1a	10.0		(2.2)	施釉	
1016	水田8西	B3 16W	C区画PIT	瓦器椀	12C中		15.9	5.5	5.8	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
1017	水田8西	B3 15X	C区画PIT	土師器土堝	15C		22.3		(9.1)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ
1018	水田8西	B3 8T	C区画PIT	備前摺鉢	13C後	備前Ⅱ期	32.0		(8.4)	ﾛｸﾛ　ｹｽﾞﾘ	
1019	水田8東	B2 18O	D区画PIT	中国製青磁碗	12C前	Ⅲ2b	16.4		(3.0)	施釉	
1020	水田8東	B2 19N	D区画PIT	瓦器椀	13C後～14C前		13.8	2.8	2.8	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅
1021	水田8東	B2 18N	D区画PIT	瓦質火鉢脚部	15C?						
1022	水田8東	B2 18N	D区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅴ3a		5.8	(2.6)	施釉	
1023	水田8東	B2 19N	D区画PIT	中国製白磁碗	12C前?				(2.7)	施釉	劃花文
1024	水田8東	B2 21M	D区画PIT	中国製白磁皿	12C中～12C後		11.2		(1.5)	施釉	
1025	水田8東	B2 20O	D区画PIT	中国製白磁皿	13C前		10.0		(2.0)	施釉	
1026	水田8東	B2 21P	D区画PIT	山茶碗 輪花小碗	12C前	渥美4古	10.4	5.2	3.1 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花5　自然釉
1027	水田8東	B2 21N	D区画PIT	山茶碗	12C中	渥美4		7.6	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1028	水田8東	B2 21M	D区画PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.6		(2.5)	施釉	
1029	水田8東	B2 21N	D区画PIT	黒色土器椀	12C中		14.2	5.6	5.1	見込:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	全体摩滅
1030	水田8東	B2 22N	D区画PIT	瓦器椀	12C後		13.6		(5.4)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
1031	水田8東	B2 22O	D区画PIT	黒色土器椀	12C			7.2	(1.6)	ﾖｺﾅﾃﾞ	全体摩滅
1032	水田8東	B2 22P	D区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美?5	16.0	7.8	4.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	卸目?　自然釉
1033	水田8東	B2 23N	D区画PIT	瓦器椀	13C後		13.0	3.4	3.4	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	和泉系?　内面摩滅
1034	水田8東	B2 23Q	D区画PIT	土師器土堝	15C		19.6		(10.7)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1035	水田8東	B2 24Q	D区画PIT	瓦器椀	13C前		11.7	4.9	3.9 4.0	内面:ﾐｶﾞｷ? 外面:指押 ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	内面摩滅著しい
1036	水田8東	B2 23P	D区画PIT	土師器皿	12C後～13C初		10.6	7.65	1.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	内外面摩滅著しい
1037	水田8東	B2 23P	D区画PIT	土師器皿	12C後～13C初			6.8	(1.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	内外面摩滅著しい
1038	水田8東	B2 23P	D区画PIT	中国製白磁碗	12C前	Ⅱ1	13.8		(4.15)	施釉	
1039	水田8東	B2 24P	D区画PIT	備前摺鉢	16C後	備前Ⅴ期	33.4		8.0	ﾛｸﾛ	摺目8/2.2cm
1040	水田8東	B2 24P	D区画PIT	土師器土堝	15C		23.4		(11.05)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	外面ｽｽ

表56　川関遺跡出土遺物観察表27

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1041	水田8東	B2 24P	D区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	5.0	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切？	自然釉
1042	水田8東	B2 24P	D区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.2	4.75	2.95 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1043	水田8東	B2 24P	D区画PIT	中国製白磁皿	12C後	V2?		3.8	(2.3)	施釉	
1044	水田8東	B2 24O	D区画PIT	中国製白磁皿	13C前			6.8	(1.3)	施釉	
1045	水田8東	B2 24N	D区画PIT	瀬戸灰釉 緑釉小皿	14C後	後Ⅰ	15.0		(2.7)	施釉	内外面貫入
1046	水田8東	B2 22L	D区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	4.9	2.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	口縁内面強いﾅﾃﾞ線 口剥　籾
1047	水田8東	B2 23K	D区画PIT	瀬戸灰釉皿		中期Ⅰ?Ⅱ?		4.4	(2.0)	施釉　回転糸切	灯明皿転用　二次焼成　体部外面ｽｽ
1048	水田8東	B2 23L	D区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	16.4	8.4	5.0	ﾛｸﾛ　静止糸切?	籾　自然釉
1049	水田8東	B2 24J	D区画PIT	東播系捏鉢				9.8	(2.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	高台剥離
1050	水田8東	B2 21U	E区画PIT	中国製白磁碗	12C前	V3a	15.3		(5.0)	施釉	
1051	水田8東	C2 23U	E区画PIT	瓦器椀	12C後		16.6	5.6	5.5	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾐｶﾞｷ	和泉型?
1052	水田8東	B2 23S	E区画PIT	瀬戸灰釉平碗	14C初	中期Ⅰ		4.8	(1.4)	施釉	内外面貫入
1053	水田8東	B2 23T	E区画PIT	中国製白磁碗	12C前	Ⅳ1a	16.4		(1.6)	施釉	
1054	水田8東	B2 23T	E区画PIT	山茶碗	12C中～13C初?	渥美4?5?	16.4		(5.3)	ﾛｸﾛ	
1055	水田8東	B2 22T	E区画PIT	山茶碗	12C?	尾張4?	17.1		(4.2)	ﾛｸﾛ	赤褐発色
1056	水田8東	B2 21T	E区画PIT	山茶碗皿?	14C中	大畑大洞新	8.0	4.6	1.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1057	水田8東	B2 22T	E区画PIT	土師器小皿	12C後		11.0		2.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1058	水田8東	B2 22S	E区画PIT	土師器小皿	12C後?		8.8		(1.55)	ﾅﾃﾞ	二次焼成
1059	水田8東	B2 22S	E区画PIT	土師器小皿	13C前		9.0	6.1	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1060	水田8東	B2 21S	E区画PIT	土師器土堝	15C後		21.7		(10.05)	内面:ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ 格子ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ
1061	水田8東	B2 21T	E区画PIT	土師器小皿	12C後～13C初		8.2	5.0	1.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
1062	水田8東	B2 19Q	E区画PIT	山茶碗	12C中	尾張4	16.0	7.8	4.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1063	水田8東	B2 19Q	E区画PIT	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.3	4.7	2.7 2.75	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
1064	水田8東	B2 21R	E区画PIT	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		5.8	(1.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1065	水田8東	B2 21R	E区画PIT	中国製白磁碗				5.8	(2.3)	施釉	
1066	水田8東	B2 23T	E区画PIT	中国製白磁 四耳壺	12C前	Ⅲ3			(2.0)	施釉	
1067	水田8東	B3 4K	E区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	尾張5		8.4	(3.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「十」
1068	水田8西	B3 12M	A区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.9	7.4	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1069	水田8西	B3 6P	B区画PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	7.2	5.4 5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「乃」　籾
1070	水田8西	B3 11U	B区画PIT	山茶碗	14C初	大畑大洞	13.0	4.0	5.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　墨書「汁」 自然釉
1071	水田8西	B3 10L	A区画PIT	山茶碗	13C前	尾張6		4.7	(2.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「已」　籾
1072	水田8東	B2 22N	D区画PIT	山茶碗小碗	12C中	尾張?4	9.6	5.8	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「ヤ」
1073	水田8西	B3 4Q	B区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.6	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「井」
1074	水田8東	B2 22U	E区画PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	5.0	2.0 2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「信？」自然釉
1075	水田4	B3 18U	SE02上層	水瓶?	11C後～12C前	尾張3～4 併行		9.6	(14.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	肩部沈線2
1076	水田4	B3 18U	SE02上層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	7.4	6.2 6.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3
1077	水田4	B3 18U	SE02	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.6	7.9	6.0	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	輪花3　自然釉
1078	水田4	B3 18U	SE02上層	山茶碗	12C中	渥美4	16.4	7.4	6.45	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	籾
1079	水田4	B3 18U	SE02中層	山茶碗	12C中	尾張4		9.2	(3.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1080	水田4	B3 18U	SE02 最上層	山茶碗	12C中	渥美4		7.3	(3.4)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉

表57　川関遺跡出土遺物観察表28

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1081	水田4	B3 18U	SE02 井筒内	山茶碗	11C後～12C初?	尾張3?		7.6	(2.35)	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　自然釉
1082	水田4	B3 18U	SE02 最上層	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(3.4)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
1083	水田4	B3 18U	SE02上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		9.2	(2.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1084	水田4	B3 18U	SE02中層	山茶碗小碗	11C後～12C初?	尾張3?	9.2	4.6	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1085	水田4	B3 18U	SE02上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	4.1	2.2	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	ｶﾞﾗｽ質自然釉
1086	水田4	B3 18U	SE02 井筒内底	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.3	4.2	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1087	水田4	B3 18U	SE02上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.4	(1.6)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	籾
1088	水田4	B3 18U	SE02上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	3.8	2.2 2.3	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
1089	水田4	B3 18U	SE02 井筒内	中国製白磁皿	11C後～12C前			3.6	(1.3)	施釉	
1090	水田8西	B3 9N	SE04上層	中国製白磁四耳壺	12C前	Ⅲ3		7.4	(5.2)	施釉	
1091	水田8西	B3 11U	SE06上層	瀬戸美濃摺鉢	16C前	大窯Ⅰ期	26.0		(7.3)	施釉	摺目5/1.0cm
1092	水田8西	B3 10W	SE07	山茶碗小皿	12C中	渥美4	8.5	4.4	2.6		自然釉
1093	水田8西	B3 10W	SE07	備前摺鉢				11.8	(8.7)	ｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ	摺目10/2.7cm
1094	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.8	7.5	5.4	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切で板目圧痕	自然釉　高台一部ｽｽ
1095	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.4	7.8	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1096	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗	12C中	尾張4	15.7	7.2	4.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1097	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗	12C後～13C初	尾張?5	15.2	6.7	4.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1098	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗	12C中	尾張4		7.4	(3.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1099	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗	12C中	渥美4		8.0	(2.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐　施釉
1100	水田8西	B3 10X	SE08下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		9.0	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐
1101	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.1		(2.2)	ﾛｸﾛ	高台剥離
1102	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.0	2.25	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1103	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.5	4.0	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉（粒）
1104	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.0	2.25	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1105	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.7	4.5	2.5 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1106	水田8西	B3 10X	SE08下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.1	2.05 2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	灯明皿転用　自然釉 内外面ｽｽ
1107	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.8	3.0	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1108	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	3.6	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1109	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.4	1.9	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
1110	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.9	3.4	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1111	水田8西	B3 10X	SE08	瓦器皿	13C初		9.0	7.4	1.4 1.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1112	水田8西	B3 10X	SE08	瓦器羽釜	13C前		19.6		(8.0)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	貼付突帯 内外面摩滅
1113	水田8西	B3 10X	SE08	土師器小皿	13C初		8.0	4.85	1.55	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ?	
1114	水田8西	B3 10X	SE08	土師器小皿	13C初		9.0	7.8	1.7	ﾛｸﾛ　静止糸切	
1115	水田8西	B3 10X	SE08	土師器竈						内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ	貼付突帯
1116	水田8西	B3 10X	SE08	須恵器杯				9.4	(3.5)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
1117	水田8西	B3 10X	SE08	中国製白磁碗	12C後～13C初	Ⅷ3	16.2	6.8	5.8	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込砂粒
1118	水田8西	B3 10X	SE08	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	17.2		(4.5)	施釉	
1119	水田8西	B3 10X	SE08	中国製白磁碗	12C後～13C初	Ⅷ3		7.8	(2.7)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込砂粒
1120	水田8西	B3 10X	SE08下層	中国製白磁碗	12C後～13C初	Ⅷ3		6.1	(2.9)	施釉	

表58　川関遺跡出土遺物観察表29

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1121	水田8西	B3 10X	SE08	中国製白磁碗	12C中～13C初			6.4	(1.8)	施釉	
1122	水田8西	B3 10X	SE08	中国製青磁碗	13C初?			6.0	(3.6)	施釉	
1123	水田8西	B3 10X	SE08	中国製青磁碗	13C前	Ⅰ5a?		4.6	(2.4)	施釉	
1124	水田8西	B3 7T	SE09上層	備前摺鉢	16C初	備前Ⅴ期	29.0		(5.2)	ﾛｸﾛ	摺目8/3.0cm
1125	水田8西	B3 7T	SE09上層	中国製青花碗	15C後	小野Ｂ群	14.0		(5.0)	施釉	漳州窯
1126	水田8西	B3 7T	SE09上層	中国製青磁盤	14C			14.8	(2.1)	施釉	
1127	水田8西	B3 5W	SE10	瀬戸灰釉端反皿	15C末	大窯1期	9.1	5.0	2.25	施釉	菊印　見込胎土目痕 高台内輪ﾄﾞﾁ痕
1128	水田8西	B3 5W	SE10	備前鉢			22.7		(3.45)	ﾛｸﾛ回転糸切　体部外面ﾍﾗ状工具による沈線	
1129	水田8西	B3 5W	SE10木枠部内	山茶碗	13C前	渥美6	15.2	6.6	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1130	水田8西	B3 5W	SE10堀方上層	山茶碗片口鉢	12C中～13C初	渥美4?5?		15.0	(4.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1131	水田8西	B3 5W	SE10	瓦器椀	13C初		13.6	4.6	4.4	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	内面摩滅
1132	水田8西	B3 5W	SE10	瓦器椀	13C初		12.9	4.5	4.0	内面:指押 ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
1133	水田8西	B3 5W	SE10	瓦器椀	12C後～13C初			4.0	(1.1)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 高台内:ﾅﾃﾞ	体部外面摩滅
1134	水田8西	B3 5W	SE10	中国製白磁碗	11C中～12C初	Ⅳ1a	14.9		(3.9)	施釉	
1135	水田8西	B3 5W	SE10	中国製白磁碗	13C初		9.2		(2.1)	施釉	
1136	水田8西	B3 3V	SE11	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	26.0	10.0	11.5	ﾛｸﾛ　底部未調整	摺目8/2.2cm
1137	水田8西	B3 3V	SE11	中国製青花碁笥底皿	15C後	小野Ｃ群		3.2	(1.9)	施釉	漳州窯
1138	水田8西	B3 3V	SE11	山茶碗	12C中	尾張4			(2.4)	ﾛｸﾛ	籾　自然釉
1139	水田8西	C3 13E	SE12下層	山茶碗	12C中	渥美4	16.7	8.0	5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花数不明 見込重焼痕　施釉
1140	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	14.6	7.5	6.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐
1141	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.5	6.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1142	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	13C前	尾張6	16.6	7.4	5.3	ﾛｸﾛ　ｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ	
1143	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C中	尾張4	16.6	8.8	5.1 5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1144	水田8西	C3 13E	SE12	山茶碗	12C中	渥美4	16.7	8.0	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	施釉
1145	水田8西	C3 13E	SE12	山茶碗	13C前	渥美6	15.8	7.6	4.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1146	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	13C前	尾張6	16.4	6.8	6.0	ﾛｸﾛ　静止糸切	籾　自然釉
1147	水田8西	C3 13E	SE12掘方	山茶碗	13C前	渥美?6	16.4	7.6	4.9	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	自然釉
1148	水田8西	C3 13E	SE12木枠部内	山茶碗	13C前	尾張?6	16.0	9.0	3.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	外底胎土目痕4 自然釉　高台無
1149	水田8西	C3 13E	SE12木枠部内	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(3.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1150	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C中	渥美4		8.1	(3.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐　籾
1151	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C中	渥美4		7.6	(2.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	黒粘土紐　自然釉
1152	水田8西	C3 13D	SE12掘方	山茶碗	11C後～12C初?	渥美3?		7.6	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐 見込重焼痕
1153	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小碗	12C前	渥美4古	9.4	4.5	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込胎土目痕4 自然釉
1154	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	4.8	2.9 2.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1155	水田8西	C3 13E	SE12壁面部	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.0	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1156	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	7.6	3.6	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1157	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.1	4.4	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1158	水田8西	C3 13E	SE12木枠部	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	9.8	4.4	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1159	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	5.2	2.55	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1160	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.8	2.1 2.2	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切で板目圧痕	自然釉

表59　川関遺跡出土遺物観察表30

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1161	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.1	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1162	水田8西	C3 13E	SE12 木枠部	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.2	4.0	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1163	水田8西	C3 13E	SE12 最下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	3.7	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切?	
1164	水田8西	C3 13E	SE12	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.0	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1165	水田8西	C3 13E	SE12掘方	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	2.1	4.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1166	水田8西	C3 12E	SE12下層	土師器小皿	12C後～13C初		9.3	6.0	1.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1167	水田8西	C3 13D	SE12上層	土師器小皿	12C後～13C初		9.4	6.0	1.2	ﾛｸﾛ　回転糸切 見込切込2条	
1168	水田8西	C3 13E	SE12掘方	中国製青白磁	12C前	Ⅴ3a		6.6	(3.6)	施釉	内外面貫入
1169	水田8西	C3 12E	SE13 堀方上層	石鍋	12C後		29.0		(5.5)	内外面ﾉﾐ成形	内外面ｽｽ
1170	水田8西	C3 4D	SE14掘方	瀬戸鉄釉壺	15C後?	後Ⅳ		12.4	(6.7)	施釉	
1171	水田8西	C3 4D	SE14下層	備前甕	15C後		21.1		(4.9)	ﾛｸﾛ	
1172	水田8西	C3 4D	SE14掘方	土師器土堝	15C		19.5		(5.7)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	外面ｽｽ
1173	水田8西	C3 4D	SE14下層	中国製青花碗			12.1		(3.4)	施釉	
1174	水田8西	C3 4E	SE14上層	中国製青花碗	15C後	小野Ｂ群	13.0		(2.9)	施釉	
1175	水田8西	C3 4E	SE14下層	中国製青花小坏	16C後	小野Ｅ群	5.6		(2.5)	施釉	漳州窯
1176	水田8西	C3 4E	SE14上層	中国製青花皿	15C後～16C初	小野Ｃ群		4.0	(1.4)	施釉	碁笥底　漳州窯 体部外面下部砂粒
1177	水田8東	B2 22Q	SE15上層	瀬戸美濃天目茶碗	15C末～16C初	大窯1期	11.6	4.4	6.3	施釉	
1178	水田8東	B2 22Q	SE15堀方	瀬戸美濃天目茶碗	16C前	大窯2期		4.2	(2.7)	施釉	
1179	水田8東	B2 22Q	SE15下層	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C末～16C初	大窯1?2?期		4.4	(2.0)	施釉	菊印　高台内輪ﾄﾞﾁ痕
1180	水田8東	B3 21V·W	SE16	山茶碗	13C前	尾張6	15.0	6.6	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切 見込指頭痕	
1181	水田8東	B2 20V	SE16	山茶碗	13C前	渥美6	17.0	8.4	4.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1182	水田8東	B2 21V	SE16下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(3.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1183	水田8東	B2 21V	SE16 木枠部内	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.2	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1184	水田8東	B2 21V·W	SE16	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.8	2.4 2.55	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1185	水田8東	B2 21V	SE16上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	4.9	2.4 2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1186	水田8東	B2 21V	SE16下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	3.9	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1187	水田8東	B2 21V	SE16下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.2	2.3 2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1188	水田8東	B2 21V·W	SE16	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	10.0	4.2	3.2	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	自然釉
1189	水田8東	B2 20V	SE16	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	4.8	1.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1190	水田8東	B2 20V	SE16	瓦器椀	13C前			5.5	(2.6)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾐｶﾞｷ	
1191	水田8東	B2 21V	SE16下層	土師器大皿	12C後		15.6	10.1	3.2 3.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	口縁～体部外面摩滅
1192	水田8東	B2 21V	SE16上層	土師器小皿	12C後～13C前		8.2	5.5	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1193	水田8東	B2 21V	SE16上層	中国製白磁碗	12C前	Ⅴ1a		5.8	(2.2)	施釉	
1194	水田8東	B2 21V	SE16下層	中国製青磁碗	12C中～12C後	Ⅰ2a		5.6	(5.0)	施釉	内外面貫入
1195	水田8東	C2 21C	SE17	中国製青花碗	16C後	小野Ｅ群	18.6		(3.1)	施釉	漳州窯
1196	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.2	(3.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「十」　籾
1197	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C中	渥美4		7.4	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾　自然釉
1198	水田8西	C3 13D	SE12上層	山茶碗	12C中	渥美4		7.25	(3.05)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「十」　籾 自然釉
1199	水田8西	C3 13E	SE12	山茶碗	12C中	渥美4		8.8	(2.95)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「大」　自然釉
1200	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗	13C初	尾張5新		7.4	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　見込重焼痕 籾　自然釉

表60　川関遺跡出土遺物観察表31

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
1201	水田8西	C3 13E	SE12	山茶碗	12C中	渥美4		7.8	(2.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「上料」
1202	水田8西	B3 5W	SE10下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.2	(2.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1203	水田8西	C3 13E	SE12 壁面部	山茶碗	12C中	渥美4		7.7	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「若法師」　籾
1204	水田8西	C3 13E	SE12 壁面部	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(2.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1205	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.7	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1206	水田8西	C3 13E	SE12 壁面部	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.2	(1.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「阿」
1207	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.2	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「ミヤ？」　籾
1208	水田8西	B3 10X	SE08下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(2.6)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	墨書　自然釉
1209	水田8東	B2 20V	SE16	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.0	(2.05)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
1210	水田8西	C3 12E	SE13	山茶碗	13C前	尾張6		6.4	(2.0)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	墨書　籾
1211	水田8西	B3 10X	SE08下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.3	2.8 2.85	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	墨書「不也」
1212	水田8東	B2 21V·W	SE16	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	4.6	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「一栄」
1213	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.6	3.6	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1214	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.6	(1.4)		墨書?
1215	水田8西	B3 10X	SE08	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		5.2	(1.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1216	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5		4.0	(1.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「十」　自然釉
1217	水田8西	B3 5W	SE10	山茶碗小皿	13C前	渥美6		4.7	(0.75)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	墨書
1218	水田8東	B3 2P	SH01上層溝上層	瀬戸美濃染付	19C初		5.7		(2.0)	施釉	伊万里?
1219	水田8東	B3 2J	SH01上層溝上層	瀬戸美濃仏餉具	19C			3.8	(2.3)	施釉	
1220	水田8東	B3	SH01上層溝上層	伊万里染付徳利?	17C?			6.6	(4.6)	施釉	
1221	水田8東		SH01上層溝上層	唐津皿	17C			4.2	(2.35)	施釉	見込胎土目痕
1222	水田8東	B3 2L	SH01上層溝上層	中国製白磁小坏	16C	森田E群		2.2	(1.7)	施釉	内外面貫入
1223	水田8東	B2 25Y	SH01上層溝上層	中国製青花小坏	16C	小野F群		2.6	(2.3)	施釉　高台外面釉削取	漳州窯
1224	水田8東	C2 24C	SH01上層溝中層	国産陶器				4.8	(3.1)	施釉	内外面貫入
1225	水田8東	C2 24A	SH01上層溝中層	瀬戸美濃輪花皿	16C			4.6	(1.3)	施釉	内外面貫入
1226	水田8東	B3 2M	SH01上層溝中層	瀬戸灰釉端反?丸?皿	16C前	大窯1?2?期		7.0	(1.0)	施釉	菊印　内外面貫入 高台内胎土目痕
1227	水田8東	C2 25B	SH01上層溝中層	備前小壺	16C?	備前V期		7.0	(4.6)	施釉　ｹｽﾞﾘ	自然釉
1228	水田8東	B3 2M	SH01上層溝中層	中国製青花小皿	16C初			6.2	(1.4)	施釉	漳州窯　内外面貫入
1229	水田8東	C2 24E	SH01上層溝中層	中国製青白磁香炉				6.0	(1.9)	施釉	三足
1230	水田8東	B3 1Q	SH01上層溝中層	中国製青磁碗	15C末～16C前?			3.2	(1.2)	施釉	内外面貫入
1231	水田8東	B3 2J	SH01上層溝下層	唐津皿	16C末			3.8	(2.0)	施釉	見込胎土目痕2
1232	水田8東	B3 25Y	SH01上層溝下層	唐津小碗				3.8	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切　施釉	
1233	水田8東	B3 2K	SH01上層溝下層	瀬戸美濃天目茶碗	16C	4小期	11.2	4.4	6.9	施釉	
1234	水田8東	B2 25W	SH01上層溝下層	瀬戸灰釉仏花瓶?	14C後	後I	体6.65		(3.5)	施釉	内外面貫入
1235	水田8東	B3 2J	SH01上層溝下層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	大窯3期		4.0	(1.2)	施釉	
1236	水田8東	B2 25X	SH01上層溝下層	備前摺鉢	16C	備前V期	33.6		(7.4)	ﾛｸﾛ	摺目6/2cm
1237	水田8東	B2 20	SH01上層溝下層	中国天目茶碗	14C後			3.6	(2.4)	施釉	
1238	水田8東	B2 25W	SH01上層溝下層	中国製白磁碗	12C後	碗VI1a		6.2	(4.35)	施釉	
1239	水田8東	B3 2N	SH01上層溝下層	中国製青花小坏	16C	小野F群	5.2		(2.1)	施釉	漳州窯
1240	水田8東	B2 24Y	SH01上層溝下層	中国製白磁小坏	16C		3.1	3.0	2.0	施釉	

表61　川関遺跡出土遺物観察表32

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1241	水田8東	B3 1T	SH01上層溝下層	中国製青磁盤	14C			9.2	(2.1)	施釉	内外面貫入
1242	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	唐津天目形茶碗	17C			3.6	(2.7)	施釉	
1243	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	唐津Ⅲ	17C前？			5.0	(1.9)	施釉	
1244	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	唐津Ⅲ	17C			3.7	(2.1)	施釉	見込胎土目痕4
1245	水田8東	B3 2K	SH01下層溝肩部	唐津Ⅲ	17C前				(2.9)	施釉	
1246	水田8東	B3 2K	SH01下層溝肩部	唐津Ⅲ	17C前			5.3	(2.0)	施釉	見込砂目圧痕3?
1247	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	唐津向付	17C前			4.4	(2.2)	施釉	内外面貫入 見込胎土目痕4
1248	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	大窯3後期	11.8		(5.2)	施釉	
1249	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	後Ⅳ新	11.4		(4.0)	施釉	
1250	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	大1	11.7	4.5	6.3	施釉	
1251	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	瀬戸灰釉豆Ⅲ	15C末～16C初	大窯1期	5.2	3.4	1.25	施釉	菊印　内外面貫入 外底胎土目痕
1252	水田8東		SH01下層溝肩部	瀬戸灰釉袴腰型香炉	15C前	後Ⅱ～Ⅲ	肩9.0	5.8	(2.0)	施釉	三足
1253	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	志野丸Ⅲ	17C初	2小期	10.6	2.35	6.4	施釉	
1254	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	志野丸Ⅲ	17C初	2小期	12.3	6.5	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切　施釉	墨書「亥」 高台内胎土目痕4
1255	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	備前？	16C後		15.2	14.8	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	菊印　自然釉
1256	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	19.3	12.4	5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1257	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	瀬戸錆釉摺鉢	15C末～16C初	大窯1期	29.2		(5.0)	施釉 内面一部ﾊｹ	摺目10/2cm
1258	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	備前摺鉢	16C	備前Ⅴ期	28.2		(4.9)	ﾛｸﾛ	
1259	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	常滑甕	13C中	中野6a			(11.15)	内面:ﾛｸﾛ ｹｽﾞﾘ 外面:ﾛｸﾛ ﾊｹ ﾅﾃﾞ	白然釉
1260	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	山茶碗	12C中	渥美4		8.4	(3.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1261	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	須恵器甕					(6.6)	ｹｽﾞﾘ ﾀﾀｷ	亀山?
1262	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	土師器鍋	15C		18.0		(6.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　貼付突帯 体部内面摩滅
1263	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	土師器土堝	15C		19.8	21.3	(8.3)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾀﾀｷ	播磨系　内底・外面ｽｽ 外底摩滅
1264	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	土師器土堝	15C		19.25		(9.3)	内面:ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1265	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青花碗	15C	小野Ｂ群	14.0		(4.9)	施釉	漳州窯
1266	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青花Ⅲ	15C末～16C前	小野Ｃ群		4.2	(2.0)	施釉	漳州窯
1267	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青花Ⅲ	16C	小野Ｅ群	11.6		(2.8)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	漳州窯
1268	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	中国製青花小坏	16C	小野Ｆ群		2.8	(2.1)	施釉	漳州窯
1269	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青花小坏	16C	小野Ｆ群		2.4	(1.6)	施釉	漳州窯「福」
1270	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製白磁碗	14C			6.0	(2.5)	施釉	
1271	水田8東		SH01下層溝肩部	中国製白磁碗	12C後	Ⅴ4c		6.2	(4.0)	施釉	劃花文
1272	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	中国製白磁碗				6.0	(1.8)	施釉	同安窯　劃花文
1273	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製白磁Ⅲ	15C	森田Ｄ群		4.2	(1.2)	施釉　高台畳付釉削取	割高台4 見込胎土目痕4
1274	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製白磁Ⅲ	15C?		14.2	7.0	2.5	施釉	
1275	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製白磁Ⅲ	14C		13.3	6.5	2.05	施釉	
1276	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	中国製白磁Ⅲ				6.0	(1.6)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	
1277	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	中国製青磁Ⅲ				4.8	(1.2)	施釉	
1278	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青磁碗	15C			6.2	(1.7)	施釉	
1279	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青磁碗	15C			5.6	(1.6)	施釉	内外面貫入
1280	水田8東	B2	SH01下層溝肩部	中国製青磁碗	15C後	小野Ｃ群		5.2	(3.0)	施釉	内外面貫入

表62　川関遺跡出土遺物観察表33

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1281	水田8東	B3	SH01下層溝肩部	中国製青磁碗	14C	碗Ⅰ5a		4.8	(3.4)	施釉	内外面貫入
1282	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	中国製青磁壺	14C			5.2	(4.3)	施釉	龍泉窯
1283	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	中国製青磁輪花皿	15C		12.6		(2.0)	施釉	
1284	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	中国製青磁八角皿	14C後		13.4	5.4	3.0	施釉	双魚文　内外面貫入
1285	水田8東	B3	SH01下層溝最下層	捏鉢?				9.7	(4.8)	ﾛｸﾛ　外底未調整	
1286	水田8東	C2	SH01下層溝最下層	備前摺鉢	16C前	備前Ⅴ期			(3.5)	ﾛｸﾛ	
1287	水田8東	B2	SH01下層溝最下層	中国製青磁碗				5.2	(3.0)	施釉	
1288	水田8東	B3	SH01下層溝最下層	中国製青磁碗	15C?			6.2	(2.0)	施釉	
1289	水田8東	B3	SH01下層溝最下層	中国製青磁碗	14C			7.3	(2.1)	施釉	内外面貫入
1290	水田8東	C2	SH01下層溝最下層	備前摺鉢	16C	備前Ⅴ期	28.8		(6.1)	ﾛｸﾛ	
1291	水田8東	C2 24B	SD12石積裏込	瀬戸？小壺				3.6	(2.0)	施釉	
1292	水田8東	B3 2S	SD12石積裏込	中国製青磁碗	14C	碗Ⅰ5a		5.6	(2.5)	施釉	鏑蓮弁文
1293	水田8西	B3 19R	SD13	瀬戸灰釉小碗	11C	百台寺2併行	10.4	5.4	2.5	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	北部系
1294	水田8西	B3 19R	SD13	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.6	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1295	水田8西	B3 19R	SD13	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		8.0	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	北部系
1296	水田8西	B3 19R	SD13	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		7.6	(3.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	北部系
1297	水田8西	B3 17O	SD15	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3	15.7	7.0	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1298	水田8西	B3 13Q	SD17下層	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期			(7.45)		
1299	水田8西	B3	SD17	瓦質脚付香炉?	15C		15.8		(5.65)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	
1300	水田8西	B3 12P	SD17	山茶碗	12C中	尾張4		7.2	(1.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系
1301	水田8西	B3 12P	SD17	山茶碗	11C後～12C初	?3		6.1	(2.25)	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　白磁碗（Ⅳ1a類）模倣
1302	水田8西	B3 12P	SD17	土師器土堝	15C		20.7		(7.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	つまみ出し突帯 外面ｽｽ
1303	水田8西	B3 12P	SD17	土師器土堝	13C		28.7		(4.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ	南伊勢型
1304	水田8西	B3 12P	SD17	中国製白磁皿	14C?				(2.5)	施釉	
1305	水田8西	B3	SD18	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	大窯2期	11.0		(4.7)	施釉	
1306	水田8西	B3	SD18	備前摺鉢	16C初	備前Ⅴ期	27.0		(7.15)	ﾛｸﾛ	摺目8/2.9cm 内面黄ｺﾞﾏ釉
1307	水田8西	B3	SD18	中国製白磁碗	13C後	Ⅸ2?		5.8	(2.1)	施釉	内外面貫入
1308	水田8西	B3 7K	SD20	中国製白磁皿	13C中～13C後	Ⅸ1c	10.2		(2.3)	施釉　口縁釉削取	
1309	水田8西	B3 7K	SD20	中国製青磁碗	13C後	Ⅲ2		2.3	(2.9)	施釉	
1310	水田8西	B3	SD21	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後	大窯1?2?期		6.0	(1.2)	施釉	
1311	水田8西	B3	SD21	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.2	5.4	1.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1312	水田8西	C3 14A	SD24	常滑片口鉢	13C中	中野6a	29.8	16.4	9.9	ﾛｸﾛ　体部外面下部ｹｽﾞﾘ	ﾊｹ目12/1.8cm 自然釉　底部砂粒
1313	水田8西	B3 13Y	SD24	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期			(7.0)	ﾛｸﾛ 工具による押圧調整	
1314	水田8西	B3 4X	SD24	常滑甕	14C後	中野6a			(9.7)	ﾛｸﾛ	
1315	水田8西	B3 8X	SD24	古瀬戸瓶子	14C前		体18.6		(13.0)	施釉 内面粘土紐接合痕	外面貫入
1316	水田8西	B3 3W	SD24	山茶碗	13C中	明和	12.4	4.8	5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系
1317	水田8西	B3 3W	SD24	山茶碗	13C中	明和	14.4	4.3	5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　籾 施釉
1318	水田8西	B3 3W	SD24	山茶碗	13C中	明和	13.6	4.7	5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　籾　自然釉
1319	水田8西	C3 15A	SD24	山茶碗	13C中	明和	13.0	5.4	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　籾
1320	水田8西	B3 3W	SD24	山茶碗	13C中	明和		4.8	(4.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	北部系　籾

表63　川関遺跡出土遺物観察表34

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
1321	水田8西	13H	SD24	山茶碗	13C前	尾張6	14.2	5.8	5.65 5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1322	水田8西	B3 3W	SD24	山茶碗	13C中	明和	14.4		(4.6)	ﾛｸﾛ	北部系
1323	水田8西	B3 12Y	SD24	山茶碗	12C後	谷迫間		7.45	(3.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1324	水田8東	B3 2W	SD24	山茶碗	13C前	尾張6		6.8	(2.35)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
1325	水田8西	B3 12Y	SD24	山茶碗	12C中	渥美4		7.4	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐 ｶﾞﾗｽ質自然釉
1326	水田8西	B3 8X	SD24	山茶碗	13C前	渥美6		5.3	(1.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	黒粘土紐
1327	水田8西	B3 8X	SD24	山茶碗	12C中	渥美4		6.6	(2.0)	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	黒粘土紐　籾
1328	水田8東	B3 2W	SD24	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.2	(2.7)	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	
1329	水田8西	B3 13Y	SD24	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(2.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1330	水田8西	B3 10Y	SD24	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	11.2	6.2	3.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1331	水田8西	13H	SD24	山茶碗小碗	12C前	尾張4古	9.5	5.6	3.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1332	水田8西	C3 14A	SD24	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.4	(1.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	黒粘土紐
1333	水田8西	C3 15A	SD24	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.6	6.4	1.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	灯明皿転用 内面～外面一部ｽｽ
1334	水田8西	C3 14A	SD24	山茶碗小皿	13C前	尾張6	7.6	5.1	1.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1335	水田8東	B3 2W	SD24	山茶碗鉢	13C前～13C中?	尾張6?7?		12.1	(10.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切？ ｹｽﾞﾘ	自然釉
1336	水田8西	B3 3W	SD24	山茶碗鉢	13C中	尾張7	26.7	10.0	9.55	ﾛｸﾛ　回転糸切 外面一部ﾊｹ	自然釉
1337	水田8西	13H	SD24	瓦器椀	13C後		13.2		(2.7)	外面:指押 ﾅﾃﾞ	内面摩滅
1338	水田8西	B3 6X	SD24	瓦器椀			13.0	5.6	3.1	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	内外面摩滅
1339	水田8西	C3 15A	SD24	瓦器椀	13C後～14C前		11.8		(2.75)	体部外面指頭痕	内外面摩滅　高台無
1340	水田8西	B3 8X	SD24	瓦器椀	14C初		12.0	7.0	3.5	内面:ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅　高台無
1341	水田8西	B3 8X	SD24	瓦器小椀	13C後？		9.5	2.25	2.95		内外面摩滅
1342	水田8西	B3 13Y	SD24	土師器皿	12C後～13C初		13.2		2.4	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1343	水田8西	B3 8X	SD24	土師器皿	12C後～13C初		13.0		2.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1344	水田8西	B3 7X	SD24	土師器皿	12C後～13C初		12.8	6.8	2.4	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	内外面摩滅
1345	水田8西	C3 14A	SD24	土師器小皿	13C前		9.0	7.8	2.6	ﾛｸﾛ　静止糸切	口縁歪み
1346	水田8西	B3 7X	SD24	土師器小皿	13C前		7.8	6.3	(1.35)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 底未調整	全体歪み
1347	水田8西	B3 9Y	SD24	土師器小皿	13C前		9.0	7.7	1.5	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1348	水田8西	C3 16A	SD24	土師器小皿	13C前		7.5	6.5	1.2	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1349	水田8西	C3 14A	SD24	土師器羽釜	15C		25.0		(5.5)	内面:ﾅﾃﾞ	体部外面ｽｽ 貼付突帯
1350	水田8東	B3 2W	SD24	土師器土鍋	15C		20.4		(3.5)	ﾅﾃﾞ	体部外面ｽｽ　鍔剥落
1351	水田8西	B3 10Y	SD24	竈庇			長7.8	幅4.9	厚2.7	ﾖｺﾅﾃﾞ　指押　ﾅﾃﾞ	
1352	水田8西	C3 15A	SD24	東播系捏鉢	13C前		12.8		(4.8)	ﾛｸﾛ	
1353	水田8西	C3 13H	SD24	須恵器蓋?			13.8		(2.7)	ﾛｸﾛ	
1354	水田8西	B3 12Y	SD24	中国製白磁碗	12C前	Ⅳ1a		6.9	(2.0)	施釉　外底ﾍﾗ跡	
1355	水田8西	B3 4X	SD24	中国製白磁碗				6.4	(2.0)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	内外面貫入
1356	水田8西	C3 14A	SD24	中国製白磁碗	12C前	Ⅴ3a			(2.3)	施釉	
1357	水田8西	C3 14A	SD24	中国製白磁皿	13C前		9.4		(1.9)	施釉	
1358	水田8西	B3 7X	SD24	中国製白磁皿	13C前		8.0		(2.0)	施釉	
1359	水田8西	13H	SD24	中国製染付 稜花皿?	15C?		20.0		(1.7)	施釉	
1360	水田8西	B3 6X	SD24	中国製青磁皿	13C前	Ⅷ1b		5.0	(1.1)	施釉	劃花文

表64　川関遺跡出土遺物観察表35

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1361	水田8西	B3 13Y	SD24	中国製青磁碗	13C前	I 5a		4.8	(2.5)	施釉	鎬蓮弁文
1362	水田8西	B3 10Y	SD24	中国製青磁碗				5.2	(1.7)	施釉	
1363	水田8西	B3 4X	SD24	中国製青磁碗			14.4		(3.4)	施釉	
1364	水田8西	C3 15E	SD24	石鍋	14C後		23.8		(8.5)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾉﾐ状工具によるｹｽﾞﾘ	外面ｽｽ
1365	水田8西	B3 8U	SD25	古瀬戸四耳壺	13C初?	前Ⅱ			(3.7)	ﾛｸﾛ	白然釉
1366	水田8東	B3 3N	SD25	瀬戸灰釉端反?丸?皿	16C	大窯1?2?期		4.0	(1.1)	施釉	内外面貫入 高台内輪ﾄﾞﾁ痕
1367	水田8西	B3	SD25	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	3.3	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1368	水田8西	B3 8S	SD25	山茶碗	15C初	大洞東		4.8	(1.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	北部系
1369	水田8西	B3 8U	SD25	土師器小皿	12C後?		11.5		(3.0)		内外面摩滅
1370	水田8西	B3	SD25	瀬戸美濃筒型香炉	14C後～15C	後Ⅰ?Ⅱ?	10.0		(6.3)	施釉	内外面貫入
1371	水田8東	B3 3N	SD25	瀬戸美濃盤	14C末～15C初	後Ⅰ?Ⅱ?		13.0	(4.4)	施釉	三足
1372	水田8東	B3 3P	SD25	瀬戸美濃盤	14C後	後Ⅰ?Ⅱ?		20.0	(6.8)	施釉	三足　見込胎土目痕
1373	水田8西	B3	SD25	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	29.0		(8.2)	ﾛｸﾛ	摺目3/1.0cm
1374	水田8東	B3 3E	SD25	瓦質火舎	15C		長(15.6)	幅(10.35)	高(7.7)	板目圧痕	内外面摩滅
1375	水田8西	B3 8U	SD25	常滑壺	13C初	渥美4新	26.0		(5.8)	ﾛｸﾛ	
1376	水田8東	B3 3P	SD25	土師器土堝	15C		31.6		(3.8)	内面:ﾛｸﾛ ﾊｹ　外面:ﾛｸﾛ	つまみ出し突帯
1377	水田8東	B3 3N	SD25	播磨系土鍋	15C		22.0		(4.25)	内面:ﾅﾃﾞ ﾍﾗ状工具痕 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　体部外面ｽｽ
1378	水田8西	B3	SD25	土師器土堝	15C		22.0		(6.4)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ
1379	水田8東	B3 3P	SD25	土師器土堝	15C		20.1		(9.45)	内面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾀﾀｷ 外面:ﾊｹ ﾅﾃﾞ	播磨系　内外面ｽｽ つまみ出し突帯
1380	水田8東	B3 3P	SD25	東播系捏鉢	13C前		22.0		(3.0)	ﾛｸﾛ	自然釉
1381	水田8西	B3	SD25	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	17.0		(1.8)	施釉	
1382	水田8東	B3 3N	SD25	中国製口磁四耳壺	10C後				(4.1)	施釉	
1383	水田8東	B3 3N	SD25	中国製青花小杯	16C後			8.2	(3.9)	施釉	景徳鎮窯 内外面貫入
1384	水田8東	B3 3N	SD25	中国製染付皿	16C末	小野E群	12.6	2.4	(3.0)	施釉	
1385	水田8東	B3 3N	SD25	中国製青磁碗	15C	小野C群			(2.5)	施釉　高台畳付釉削取	二次焼成
1386	水田8西	B3	SD25	中国製青磁碗				4.0	(2.4)	施釉	面子代用　内面印判
1387	水田8東	B3 3P	SD25	中国製青磁碗	13C後?			7.0	(3.8)	施釉	
1388	水田8西	B3	SD25	中国製青磁盤	14C前		24.0	4.8	(2.5)	施釉	
1389	水田8西	B3 21O	SD25	中国製青磁盤	14C前		23.6		6.0	施釉	体部内面丸ノミ彫
1390	水田8西	B3 9R	SD26	備前摺鉢	14C前	備前Ⅲ期	32.0	8.0	(7.5)	ﾛｸﾛ	摺目10/3.1cm
1391	水田8西	B3 11R	SD26	山茶碗小碗	12C中	渥美4			(1.75)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
1392	水田8西	B3 9Q	SD26	中国製白磁四耳壺	11C後～12C前	Ⅲ3	9.4	4.1	(1.25)	施釉	
1393	水田8西	B3 8U	SD26	中国製青磁碗	15C				(4.2)	施釉	見込草花文?
1394	水田8西	B3 9Q	SD26	中国製青磁碗	15C?			5.3	(1.95)	施釉	見込花文?
1395	水田8西	B3 11R	SD26	瓦質羽釜	15C		23.1	6.1	(7.2)	内面:ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	全体歪み著しい 鍔下ｽｽ
1396	水田8西	B3 8U	SD26	李朝朝鮮碗	12C前?		16.6		(4.4)	施釉	体部外面下部貫入
1397	水田8西	B3 12L	SD27	中国製白磁皿					(1.9)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	
1398	水田8西	B3 2W	SD28	中国製染付碗	15C後～16C初	小野C群	9.8	4.5	(2.5)	施釉	
1399	水田8西	B3 7U	SD29	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅵ1a			(2.2)	施釉	
1400	水田8西	B3 7U	SD29	土師器土堝	15C		28.4	7.1	(7.4)	ﾛｸﾛ 体部外面ｹｽﾞﾘ?でﾅﾃﾞ	外面一部ｽｽ

表65　川関遺跡出土遺物観察表36

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1401	水田8東	B3 1X·2X	SD30	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C末～16C初	大窯1?2?期		8.0	(1.7)	施釉	内外面貫入 体部外面釉たまり
1402	水田8西	B3 3X	SD30	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後～16C前	大窯1?2?期		8.0	(1.3)	施釉	菊花文
1403	水田8西	B3 3X	SD30	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後～16C前	大窯1?2?期		9.2	(1.8)	施釉	菊花文
1404	水田8東	B3 1X·2X	SD30	瀬戸美濃天目茶碗	16C前～中	大窯2期	10.4		(5.2)	施釉	
1405	水田8東	B3 1X·2X	SD30	瀬戸錆釉摺鉢	15C末～16C初	大窯1期		10.2	(4.0)	施釉　外底ハケによるナデ	摺目10/2.5cm
1406	水田8東	B3 1X·2X	SD30	備前摺鉢	15C末～16C前	備前Ⅴ期	30.6		(6.0)	ロクロ	
1407	水田8東	C2 25C	SD30	常滑甕	15C前	中野10			(6.5)	ロクロ	
1408	水田8東	C2 25C	SD30	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.1	3.0 3.15	ロクロ　回転糸切	自然釉
1409	水田8東	C2 25D	SD30	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	2.6	4.8	ロクロ　回転糸切	自然釉
1410	水田8西	B3 6Y	SD30	山茶碗小椀	12C中	尾張?4	8.5	4.1	2.7	ロクロ　回転糸切	自然釉
1411	水田8東	C2 25D	SD30	土師器土堝	15C		20.5		(7.7)	内面:ナデ ハケ? 外面:ナデ 指押 タタキ	口縁・体部外面ススI
1412	水田8東	B3 1X·2X	SD30	中国製白磁皿?	14C	皿B?			(2.8)	施釉	
1413	水田8西	B3 6Y	SD30	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	15.8		(4.0)	施釉	
1414	水田8西	B3 3X	SD30	中国製青磁碗	14C？			3.7	(2.0)	施釉　高台内釉ハギ	
1415	水田8東	C2 25C	SD30	中国製青磁碗	14C後			5.7	(4.9)	施釉	
1416	水田8東	B3 1K	SD31	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	14.0		(2.1)	施釉	玉縁口縁
1417	水田8東	B2 19M·20M	SD36	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C末～16C初	大窯1?2?期		6.6	(1.15)	施釉	菊印
1418	水田8東	B2 21M	SD36	中国製青花皿	15C末～16C前	小野B1群		6.0	(1.5)	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯
1419	水田8東	B2 21M	SD36	中国製青花碗	16C末～17C前	小野F群	12.8		(4.3)	施釉	漳州窯
1420	水田8東	B2 21M·20M	SD36	瀬戸美濃天目茶碗	15C末	大窯1期	12.4	4.3	7.0	施釉	
1421	水田8東	C3 23D	SD37	瀬戸美濃小天目茶碗	16C	大窯1期		3.2	(2.3)	施釉	
1422	水田8東	B2 25T·U	SD37	瀬戸灰釉縁釉小皿	15C中	後Ⅳ古	10.0		(1.9)	ロクロ	自然釉
1423	水田8東	B2 25T·U	SD37	瀬戸灰釉四耳壺	13C中	前Ⅲ?Ⅳ?		11.2	(4.8)	施釉	
1424	水田8東	B2 25T·U	SD37	備前摺鉢	15C前	備前Ⅳ期			(6.7)	ロクロ	摺目8/2.1cm
1425	水田8東	B2 24R	SD37	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	7.3	3.85	2.6	ロクロ　回転糸切	
1426	水田8東	B2 25T·U	SD37	瀬戸灰釉縁釉小皿	15C中	後Ⅳ古		4.6	(1.3)	ロクロ　回転糸切	
1427	水田8東	B2 25V	SD37	土師器土堝	17C前		34.6		(5.0)		南伊勢系　外面ススI
1428	水田8東	B2 25V	SD37	土師器土堝	17C前		29.4		(9.6)	内面:ナデ ハケ 外面:ナデ ケズリ	南伊勢系　外面ススI
1429	水田8東	B2 22R	SD37	中国製白磁皿	13C中～13C後	Ⅸ1c		5.0	(0.9)	施釉	墨書?　外面貫入 口剥
1430	水田8東	B2 21R	SD37	中国製青磁碗	15C前	小野B群	12.1		(3.7)	施釉	
1431	水田8東	B2 21R	SD37	中国製青磁碗	14C中		16.2		(3.0)	施釉	
1432	水田8東	C2 23C	SD38	山茶碗	12C中	渥美4		8.0	(2.1)	ロクロ　回転糸切	
1433	水田8東	C2 23C	SD38	中国製白磁皿	13C		9.0		(2.55)	施釉	口剥
1434	水田8東	B3 2W	SD38	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.6	(2.7)	ロクロ　回転糸切でナデ?	墨書「円教房」　籾
1435	水田8西	B3 10Y	SD38	山茶碗	12C中	尾張4		8.4	(1.7)	ロクロ　回転糸切	墨書
1436	水田8西	B3 13P	SD38	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.2	(1.5)	ロクロ　回転糸切	墨書
1437	水田8東	B3 3N	SD38	中国製白磁皿	11C中	XI3		5.7	(2.55)	施釉	朱書「十一」 内外面貫入
1438	水田8東	C2 25C	SD38	中国製青磁皿	14C?		9.6	4.8	2.8	施釉	墨書　三葉文
1439	水田8西	B3 13Y	SD38	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.0	(1.4)	ロクロ　回転糸切	墨書「十」
1440	水田8西	C3 16A	SD38	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.2	4.8	1.8	ロクロ　回転糸切	墨書「井」

表66　川関遺跡出土遺物観察表37

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1441	水田8西	B3 15P	SK32	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.2	7.3	6.1 6.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4
1442	水田8西	B3 15P	SK32	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	7.1	6.1 6.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　施釉
1443	水田8西	B3 15P	SK32	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	14.7	7.2	5.15 5.3	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	籾　自然釉
1444	水田8西	B3 15P	SK32	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	3.7	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1445	水田8西	B3 13N	SK33	瀬戸美濃端反皿	15C後	大窯1期	9.0	4.8	2.35	施釉	菊花文
1446	水田8西	B3 13M	SK33	土師器皿	13C		14.8	9.6	2.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	南伊勢系?
1447	水田8西	B3 13M	SK33	土師器小皿	13C		9.6		1.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 手づくね	南伊勢系
1448	水田8西	B3 13M	SK33	土師器土堝	13C		33.0		(9.9)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	南伊勢系
1449	水田8西	B3 13M	SK33	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.8	7.0	6.3	施釉	内面貫入
1450	水田8西	B3 12M	SK35	中国製青磁碗	15C前	小野B群		5.6	(3.35)	施釉	印花文
1451	水田8西	B3 11L	SK36	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	3.9	2.85 2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1452	水田8西	B3 12O	SK37	中国製青磁碗	13C後	Ⅰ5a?		5.0	(2.0)	施釉	草花文?
1453	水田8西	B3 10O	SK38	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	28.0	14.0	12.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	摺目7/3cm
1454	水田8西	B3 10O	SK38	信楽壺	16C		14.8		(6.0)	ﾛｸﾛ	自然釉
1455	水田8西	B3 10O	SK38	中国製青花碗	15C後～16C前?		8.8		(3.5)	施釉	景徳鎮窯
1456	水田8西	B3 10O	SK38	中国製青花皿	15C後～16C初	小野C群	10.8	7.0	2.4	施釉	碁笥底　漳州窯
1457	水田8西	B3 10N	SK39	土師器小皿	13C		6.7	5.4	1.45	手づくね　板目圧痕	南伊勢系
1458	水田8東	B3 3M	SK40	中国製白磁皿	13C		9.0		(2.1)	施釉　口縁・体部外面底部釉削取	外面貫入　口剥
1459	水田8西	B3 11O	SK41	土師器土堝	15C		22.2		(4.3)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	播磨系 つまみ出し突帯
1460	水田8西	B3 11N	SK41	土師器土堝	15C		23.4		(7.4)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1461	水田8西	B3 13P	SK42	備前?捏鉢	13C前	備前?Ⅱ期	28.8		(6.1)	ﾛｸﾛ	
1462	水田8西	B3 13P	SK42	土師器皿	13C前		11.9	3.4	2.75	内面:指押 ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
1463	水田4	B3 16S	SK43	土師器皿			12.0		(2.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1464	水田4	B3 16S	SK43	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.0		(3.1)	施釉	
1465	水田4	B3 16W	SK44	瀬戸灰釉碗	11C	百台寺		7.0	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1466	水田8西	B3 13X	SK45	山茶碗	12C中	渥美4		7.4	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1467	水田8西	B3 13X	SK45	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.6	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1468	水田8西	B3 12Q	SK46	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	大窯2期	11.6		(5.6)	施釉	
1469	水田8西	B3 12Q	SK46	土師器土堝	15C		20.6		(5.3)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1470	水田8西	B3 12Q	SK46	土師器土堝	15C		24.0		(5.7)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ	播磨系 つまみ出し突帯
1471	水田8西	B3 12Q	SK46	中国製青花皿	15C	小野B群		11.3	(1.75)	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯
1472	水田8西	B3 14Y	SK48	土師器土堝	13C		26.4		(4.6)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	南伊勢系
1473	水田8西	B3 14Y	SK48	土師器土堝	15C		25.0		(6.5)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　口縁ｽｽ
1474	水田8西	B3 13S	SK49	瀬戸鉄釉筒形碗	15C後	大窯3期		5.2	(1.2)	施釉	
1475	水田8西	B3 11T	SK50	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.0	(3.3)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
1476	水田8西	B3 11T	SK50	土師器小皿	13C前		10.2	7.0	1.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押	
1477	水田8西	B3 11T	SK50	土師器小皿	12C後～13C前		8.0	4.2	1.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1478	水田8西	B3 11T	SK50	中国製青磁皿	13C前	Ⅰ1b		5.4	(1.9)	施釉	劃花文
1479	水田8西	B3 10S	SK51	中国製白磁碗	12C前	Ⅷ2?		7.0	(3.8)	施釉	
1480	水田8西	B3 10Q	SK52	山茶碗小碗	12C中	尾張4		5.0	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾?

表67　川関遺跡出土遺物観察表38

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1481	水田8西	B3 10Q	SK52	須恵器提瓶						内面:ﾅﾃﾞ 外面:回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部2状沈線
1482	水田8西	B3 9S	SK53	瀬戸美濃鉄釉摺鉢	15C後?	大窯1期		10.4	(8.7)	施釉	摺目 18/3.0cm体部8/1.8cm見込
1483	水田8西	B3 9S	SK53	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		6.6	(2.9)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1484	水田8西	B3 9S	SK53	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.6	(1.8)	施釉	
1485	水田8西	B3 9S	SK53	中国製青花碗	15C後	小野D群		5.4	(4.9)	施釉	漳州窯
1486	水田8西	B3 9S	SK53	中国製青磁皿	14C		13.4	5.0	3.0	施釉	内外面貫入
1487	水田8西	B3 9S	SK53	中国製青磁輪花皿	14C		13.2		(2.7)	施釉	
1488	水田8西	B3 7S	SK54	備前大甕	15C前	備前Ⅳ期	46.2	43.2	87.8	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ	肩部ﾍﾗ記号× 外面下部剥離
1489	水田8西	B3 7T・5K	SK55	瓦質風炉	15C			25.1	(25.2)	内面:ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ 外面:ﾐｶﾞｷ ﾅﾃﾞ	
1490	水田8西	B3 7T	SK55	土師器土堝	15C		16.6		(8.9)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1491	水田8西	B3 7T	SK55	土師器土堝	15C		19.5		(7.6)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1492	水田8西	B3 7T	SK55	土師器土堝	15C		25.2		(11.5)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1493	水田8西	B3 7T	SK55	土師器土堝	15C		24.0		(11.0)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ 粘土紐接合痕	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1494	水田8西	B3 7T	SK55	土師器土堝	15C		22.7		(6.85)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ
1495	水田8西	B3 7T	SK55	土師器土堝	15C		21.6		(12.7)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	播磨系　外面ｽｽ つまみ出し突帯
1496	水田8西	B3 7T	SK55	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.8		(1.9)	ﾛｸﾛ	
1497	水田8西	B3 7T	SK55	中国製青磁碗	15C	小野C群		5.4	(2.75)	施釉	
1498	水田8西	B3 5R	SK56	土師器皿	13C			3.8	(1.5)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ	
1499	水田8西	B3 5R	SK56	土師器小皿	13C		8.6		1.4	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1500	水田8西	B3 5R	SK56	土師器羽釜	15C		22.6		(3.8)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ	
1501	水田8西	B3 5R	SK56	中国製白磁皿	12C後～13C前?		15.0		(2.0)	施釉	
1502	水田8西	B3 5R	SK56	中国製青磁皿	12C中～12C後	Ⅰ1b		4.4	(1.0)	施釉	陽刻
1503	水田8西	B3 4T	SK57	中国製青磁輪花皿	14C		11.4	5.2	3.0	施釉	内外面貫入
1504	水田8東	B3 2S	SK58	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	大窯3前期	10.8	3.6	5.7	施釉	
1505	水田8東	B3 2S	SK58	瀬戸灰釉丸碗	16C後?	大窯1期		4.8	(2.75)	施釉	高台内輪ﾄﾞﾁ痕 見込釉たまり
1506	水田8西	B3 7Y	SK58	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.5	7.2	5.2 5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　籾　自然釉
1507	水田8西	B3 7Y	SK59	山茶碗片口小碗	12C後～13C初	渥美5	9.4	4.0	3.1 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1508	水田8西	B3 7Y	SK59	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5		16.6	(6.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1509	水田8西	B3 7Y	SK59	中国製白磁碗	11C後～12C初	Ⅴ1a		5.8	(2.3)	施釉	
1510	水田8西	B3 7Y	SK59	中国製白磁碗	11C後～12C初	Ⅳ1a		7.4	(2.6)	施釉	
1511	水田8西	B3 19Q	SK60	山茶碗	12C中	渥美4		7.95	(4.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕
1512	水田8西	B3 12S	SK61	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.8	(3.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1513	水田8西	B3 12S	SK61	瓦器椀	12C後～13C前			4.0	(2.4)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押	
1514	水田8西	B3 12S	SK62	瀬戸広口瓶	11C後～12C初	尾張3併行		20.0	(12.35)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
1515	水田8西	B3 12S	SK62	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	17.2	7.2	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1516	水田8西	B3 12S	SK62	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	16.9		(3.1)	施釉	
1517	水田8西	B3 11T	SK63	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.4	7.6	5.8 5.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　見込重焼痕 施釉
1518	水田8西	B3 11T	SK63	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.6	(3.3)	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	
1519	水田8西	B3 11T	SK63	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.9	4.4	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1520	水田8西	B3 11T	SK63	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.6	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉

表68　川関遺跡出土遺物観察表39

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1521	水田8西	B3 10R	SK64	土師器小皿	13C初		7.8	4.6	1.6		全体摩滅著
1522	水田8西	B3 8T	SK65	瀬戸鉄釉端反皿	15C後	大窯1期	10.8	6.4	2.5	施釉	菊印
1523	水田8西	B3 8T	SK65	備前摺鉢	15C後	備前Ⅳ期	30.2		(6.4)	ﾛｸﾛ	摺目
1524	水田8西	B3 8T	SK65	瓦器椀	12C後～13C前			5.6	(1.2)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:手づくねでﾅﾃﾞ	見込暗文
1525	水田8西	B3 8T	SK65	土師器土堝	13C前		27.1		(3.8)	内面:指押 ﾊｹ ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾊｹ ﾅﾃﾞ	南伊勢系　外面ｽｽ
1526	水田8西	B3 8T	SK65	中国製青磁盤	14C					施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	見込草花文?
1527	水田8西	B3 10S	SK66	土師器小皿	12C後～13C初		9.8	3.0	1.8	ﾅﾃﾞ	二次焼成
1528	水田8西	B3 10R	SK67	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		6.9	(2.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ	
1529	水田8西	B3 10R	SK67	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		3.5	(1.1)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
1530	水田8西	B3 10R	SK67	瀬戸片口鉢	12C後～13C初	渥美5		12.1	(4.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1531	水田8西	B3 10R	SK68	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.6	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1532	水田8西	B3 10R	SK68	中国製青磁壺?			14.7体		(3.8)	施釉	三足?
1533	水田8西	B3 7V	SK69	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.8	7.1	5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1534	水田8西	B3 7S	SK70	瀬戸美濃天目茶碗	16C前	大窯2期	12.3	4.4	6.65 7.0	施釉	
1535	水田8西	B3 6R	SK71	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	17.0	7.6	6.2 6.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　自然釉
1536	水田8西	B3 6R	SK71	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5		4.0	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1537	水田8西	B3 6R	SK71	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.0	2.1	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	体部外面重焼痕 自然釉
1538	水田8西	B3 6R	SK71	瓦器椀	12C後～13C初			4.8	(1.5)	外面:ﾅﾃﾞ	内面摩滅
1539	水田8西	B3 4P	SK72	山茶碗	13C前	尾張6	14.4	6.7	5.25 5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1540	水田8西	B3 4P	SK72	山茶碗	13C前	尾張6	15.5	7.0	5.35	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1541	水田8西	B3 4P	SK72	中国製青磁碗	12C中～12C後	Ⅰ4a	16.6	6.3	7.0	施釉	劃花文　内外面貫入
1542	水田8西	B3 4P	SK73	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	7.4	6.15 6.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1543	水田8西	B3 4P	SK73	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.0	2.2 2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1544	水田8西	B3 9U	SK74	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後～16C前	大窯1?2?期		5.6	(1.8)	施釉	内外面貫入
1545	水田8西	B3 9U	SK74	中国製白磁四耳壺	11C後			8.2	(2.2)	施釉	
1546	水田8西	B3 7T	SK75	土師器小皿	12C後～13C前		7.4	5.0	1.8	手づくね	南伊勢系　灯明皿転用　口縁ｽｽ
1547	水田8東	B3 3P	SK76	山茶碗	12C中	渥美4		4.3	(1.75)	ﾛｸﾛ　回転糸切 高台内指頭痕	自然釉 体部外面･高台ｽｽ
1548	水田8東	B3 2V	SK78	中国製染付碗	16C	小野Ｆ群	9.8		(2.25)	施釉	
1549	水田8西	B3 8Y	SK79	山茶碗	12C中	渥美4		7.7	(3.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1550	水田8西	B3 8Y	SK79	山茶碗	13C前	渥美6		7.9	(3.6)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
1551	水田8西	B3 8W	SK80	瀬戸美濃天目茶碗	15C後～16C前	大窯1期		4.0	(1.3)	施釉	
1552	水田8西	B3 8W	SK80	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.4	(2.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1553	水田8西	B3 8W	SK80	土師器小皿	12C後～13C初		8.2	6.5	1.4 1.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1554	水田8西	C3 14B	SK81	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.0	2.15 2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1555	水田8西	C3 10D	SK82	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		6.1	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1556	水田8西	C3 10D	SK82	瓦器椀			12.4	6.5	3.0	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
1557	水田8西	C3 10D	SK82	土師器小皿	12C後		10.6	2.9		内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1558	水田8西	C3 10D	SK82	土師器小皿	12C後		10.6		(2.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1559	水田8西	C3 10D	SK82	土師器小皿	13C前		10.3		(2.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1560	水田8西	C3 10C	SK83	須恵器鉢	13C前	渥美6	30.0		(8.5)	ﾛｸﾛ	自然釉

表69　川関遺跡出土遺物観察表40

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1561	水田8西	C3 11C	SK83	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3	15.4	6.8	5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1562	水田8西	C3 10C	SK83	土師器羽釜	15C				(3.2)	内面:ﾅﾃﾞ　外面:ﾅﾃﾞ	金雲母少量含む
1563	水田8西	C3 11C	SK83	土師器高台付大皿			17.0	7.1	6.0 6.1	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1564	水田8西	C3 11D	SK84	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	7.4	6.2 6.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3
1565	水田8西	C3 11D	SK84	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.0	7.4	5.5 5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　自然釉
1566	水田8西	C3 11D	SK84	山茶碗	12C中	渥美4	15.4	7.75	5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1567	水田8西	C3 11E	SK84	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.6	4.4	3.2 3.25	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1568	水田8西	B3 11D	SK84	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	4.0	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1569	水田8西	C3 11E	SK84	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	4.0	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1570	水田8西	C3 11E	SK84	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.3	3.8	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1571	水田8西	C3 11D	SK84	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.4	2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1572	水田8西	B3 11D	SK84	土師器土塁	15C後		21.6		(10.1)	内面:ﾅﾃﾞ ﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞ ﾀﾀｷ	外面ｽｽ
1573	水田8西	C3 11D	SK85	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.0	7.4	5.75 5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1574	水田8西	C3 11D	SK85	山茶碗	12C中	渥美4	17.4	8.4	5.9	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切?	
1575	水田8西	C3 11D	SK85	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4		(2.1)	ﾛｸﾛ	
1576	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.8	7.5	5.8 5.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　見込重焼痕 籾　施釉
1577	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.8	8.4	6.0 6.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3
1578	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.8	8.0	5.9 6.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　籾　自然釉
1579	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.6	8.3	5.9 6.1	ﾛｸﾛ　高台板目圧痕	輪花3　自然釉
1580	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.7	8.0	6.0 6.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4　自然釉
1581	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花椀	12C後～13C初	渥美5	15.0	6.8	6.0 6.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花4
1582	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	8.2	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1583	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.1	4.4	2.7 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	口縁歪み
1584	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.9	4.9	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1585	水田8西	C3 9D	SK87	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0		(4.5)	ﾛｸﾛ	輪花3?4?
1586	水田8西	C3 9D	SK87	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	4.6	3.3	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ?	
1587	水田8西	C3 8C	SK88	山茶碗	12C中	渥美4	16.0	7.6	5.9 6.0	ﾛｸﾛ　静止糸切　ﾖｺﾅﾃﾞ	見込重焼痕　自然釉
1588	水田8西	B3 8C	SK88	瓦器椀	14C前		12.2	3.7	3.2	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	内面摩滅
1589	水田8西	C3 8C	SK88	土師器皿	14C?		12.0		(3.5)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1590	水田8西	C3 8C	SK88	中国製青磁碗	13C前	I 5b	16.4	5.0	7.0	施釉	鎬蓮弁文
1591	水田8西	C3 8D	SK89	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.6	7.0	5.2 5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　自然釉
1592	水田8西	C3 8D	SK89	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.7	4.5	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1593	水田8西	C3 8D	SK89	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.2	3.9	2.95 3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1594	水田8西	C3 8D	SK89	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.2	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	灯明皿転用
1595	水田8西	C3 7B	SK90	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3		8.0	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1596	水田8西	C3 7B	SK90	山茶碗小碗	12C中	渥美4		3.8	(1.7)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ	
1597	水田8西	C3 7B	SK90	土師器小皿	12C後～13C前		12.0	6.4	3.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1598	水田8西	C3 7B	SK90	中国製白磁碗	11C後～12C前	V 3a	16.6	6.0	6.7	施釉	
1599	水田8西	C3 6B	SK91	瓦器椀			11.6	5.2	3.65 3.7	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
1600	水田8西	C3 6B	SK91	瓦器椀	13C後		13.0	3.3	3.2	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	

表70　川関遺跡出土遺物観察表41

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1601	水田8西	C3 6D	SK92	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.4	4.3	1.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1602	水田8西	C3 6D	SK93	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	7.6	5.05	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1603	水田8西	C3 6D	SK93	土師器土鍋	15C		23.2		(10.7)	内面:ﾅﾃﾞﾊｹ 外面:ﾅﾃﾞﾀﾀｷ	播磨系　内外面ｽｽ
1604	水田8西	C3 6D	SK93	中国製青花小碗	16C		7.2	2.9	4.0	施釉	漳州窯
1605	水田8西	C3 6F	SK94	備前水屋甕	15C後～16C初	備前Ⅴ期	21.6		(12.8)	ﾛｸﾛ　体部内面指押	
1606	水田8西	C3 6F	SK95	中国製青花碗	15C後～16C前			4.35	(3.9)	施釉	漳州窯
1607	水田8西	C3 4C	SK96	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張?3	9.4	5.2	3.15 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1608	水田8西	C3 4C	SK96	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	3.5	2.6 2.65	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1609	水田8西	C3 4C	SK96	土師器小皿	13C		8.2	6.0	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	口縁歪み
1610	水田8西	C3 4C	SK96	土師器小皿	12C後～13C前		10.6		(3.7)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	灯明皿転用 口縁一部ｽｽ
1611	水田8西	C3 4C	SK96	土師器小皿	12C後～13C前		9.2		2.3	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	内外面摩滅
1612	水田8西	C3 4C	SK96	土師器小皿	12C後～13C前		11.2		(2.3)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1613	水田8西	C3 3C	SK97	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期			(6.8)	ﾛｸﾛ	
1614	水田8西	C3 3C	SK97	瀬戸美濃鉄釉摺鉢	15C後	大窯4期後	29.4		(9.65)	施釉	
1615	水田8西	C3 2C	SK98	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	9.0	3.8	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1616	水田8西	C3 2C	SK98	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.8	4.0	2.1 2.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1617	水田8西	C3 2B	SK98	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.8	(2.1)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	
1618	水田8西	C3 2B	SK98	中国製青磁碗	12C後	Ⅰ6b				施釉	
1619	水田8西	C3 15B	SK99	山茶碗	11C後～12C初	尾張？3		7.8	(2.0)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1620	水田8西	C3 15C	SK100	山茶碗片口鉢	12C後～13C初	渥美5	31.2	15.2	11.7 11.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1621	水田8西	C3 15B	SK100	瓦器椀	12C中		15.6	5.8	5.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
1622	水田8西	C3 9F	SK103	山茶碗小碗	13C前	渥美6	8.8	6.4	2.85	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ?	
1623	水田8西	C3 6B	SK104	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.3	7.5	5.7 5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　籾　自然釉
1624	水田8西	C3 6B	SK104	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.4	7.8	5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1625	水田8西	C3 6B	SK104	山茶碗	12C中	渥美4		8.2	(3.4)	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
1626	水田8西	C3 6B	SK104	山茶碗	12C中～13C初?	渥美4?5?		6.4	(3.45)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1627	水田8西	C3 6B	SK104	山茶碗	12C中	渥美4		7.9	(2.65)	ﾛｸﾛ　回転糸切でﾅﾃﾞ	自然釉
1628	水田8西	C3 3D	SK105	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	大窯2期		4.8	(3.4)		
1629	水田8西	C3 3D	SK105	中国製青磁輪花皿	14C後～15C初		11.8	4.6	2.75	施釉	
1630	水田8西	C3 3D	SK105	中国製青花碗	15C	小野Ｂ群		4.0	(5.5)	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯
1631	水田8西	C3 2A	SK107	瀬戸美濃天目茶碗	16C初	大窯1期後	11.4	4.8	5.4	施釉	
1632	水田8東	C3 1C	SK109	瀬戸美濃天目茶碗	15C後～16C前	大窯1期	11.6	4.4	7.3	施釉	
1633	水田8東	C3 1C	SK109	瀬戸灰釉端反皿	15C後	大窯1期	9.4	4.9	2.35	施釉	ｶﾀﾊﾞﾐ文　内外面貫入
1634	水田8東	B2 24I	SK110	石鍋	13C		32.1		(6.5)	ﾊｹ状工具による調整	鍔穿孔　体部外面ｽｽ
1635	水田8東	B2 24I	SK110	土師器小皿			10.1	4.7	3.2		内外面摩滅
1636	水田8東	B2 23K	SK111	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		8.0	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1637	水田8東	B2 23K	SK111	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	4.8	3.3	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉　高台畳付～高台内面砂粒
1638	水田8東	B2 23K	SK111	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	4.2	2.75	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1639	水田8東	B2 23K	SK111	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.4	2.2 2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	白然釉
1640	水田8東	B2 22N	SK113	常滑壺	15C後～16C前?		11.4		(5.3)	ﾛｸﾛ	

表71　川関遺跡出土遺物観察表42

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
1641	水田8東	B2 24O	SK114	瀬戸鉄釉仏餉具	15C後	後Ⅳ新		4.1	(2.5)	施釉	
1642	水田8東	B2 24O	SK114	中国製青花皿	16C	小野E群		7.6	(1.4)	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯
1643	水田8東	B2 24Q	SK115	土師器土鍋	15C		20.2		(7.4)	内面:ハケ ナデ 外面:タタキ ナデ	外面ススI
1644	水田8東	B2 17H	SK116	中国製白磁四耳壺	11C後～12C前	Ⅲ2		8.0	(3.8)	施釉	
1645	水田8東	B2 24M	SK117	土師器小皿			9.2		(1.2)	手づくね	南伊勢系? 内外面摩滅
1646	水田8東	B2 24Q·25Q	SK118	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後	大窯1?2?期		6.6	(1.8)	施釉	カタハミ文? 高台内輪ドチ痕
1647	水田8東	B2 24Q·25Q	SK118	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後	大窯1?2?期		5.2	(2.3)	施釉	菊印　高台内輪ドチ痕　ガラス質釉
1648	水田8東	B2 22N	SK119	瀬戸灰釉端反皿	15C後	大窯1期	11.2	5.8	2.5	施釉	菊印
1649	水田8東	B2 22O	SK120	瀬戸灰釉端反?丸?皿	15C後	大窯1?2?期		5.4	(2.1)	施釉	菊印　高台内輪ドチ痕
1650	水田8東	B2 22O	SK120	土師器小皿			9.4		(0.9)	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ 指押	
1651	水田8東	B2 21O	SK121	山茶碗	14C中	大畑大洞新	11.65	4.1	4.9	ロクロ　回転糸切	北部系　自然釉
1652	水田8東	B2 20R	SK122	瀬戸美濃天目茶碗	16C	大窯1期	12.0		(5.9)	施釉	
1653	水田8東	B2 22S	SK123	山茶碗小皿	12C後～13C初	尾張5	10.4	5.2	2.1	ロクロ　回転糸切	
1654	水田8東	B2 22S	SK123	土師器小皿	13C初?		8.2		(1.3)	ナデ　外底指頭痕	南伊勢系
1655	水田8西	B3 6R	SK71	山茶碗片口輪花碗	12C中	渥美4	20.0	9.8	7.9 8.1	ロクロ　ヘラ切　外面一部ハケ	輪花3　墨書 見込重焼痕　自然釉
1656	水田8西	B3 15W	SK47	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.5	(6.1)	ロクロ　回転糸切	墨書 外側「大」
1657	水田8西	B3 4P	SK73	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.0	7.1	5.65 5.7	ロクロ　回転糸切	墨書　自然釉
1658	水田8西	C3 8D	SK89	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	3.6	2.7	ロクロ　回転糸切	墨書
1659	水田8西	C3 9D	SK86	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	15.0	6.4	5.9 6.0	ロクロ　回転糸切?	墨書　輪花3　自然釉
1660	水田8西	C3 14D	SK102	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.6	(3.5)	ロクロ　回転糸切	墨書「十」　自然釉
1661	水田8西	C3 11D	SK84	山茶碗	12C中	渥美4		7.0	(4.1)	ロクロ　回転糸切	墨書　自然釉
1662	水田8東	B2 23K	SK112	山茶碗小皿	12C後～13C前?	渥美5?6?		7.0	(1.4)	ロクロ　回転糸切	墨書「カ」
1663	水田8西	C3 9D	SK87	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.8	(2.0)	ロクロ　回転糸切	墨書
1664	水田8西	B3 5S	SK77	山茶碗	12C中～13C初?	渥美4?5?		8.6	(2.4)	ロクロ　回転糸切	墨書
1665	水田8西	C3 2B	SK108	山茶碗	12C後～13C初	渥美5		7.3	(2.9)	ロクロ　回転糸切	墨書　籾
1666	水田8西	C3 11D	SK84	山茶碗	12C中	渥美4		8.1	(4.3)	ロクロ　回転糸切	籾　施釉
1667	水田8西	B3 10K	SK101	中国製白磁四耳壺	13C前			7.3	(10.0)	施釉	墨書　見込砂粒
1668	水田8東	B2 18Q	SS02	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	15.6	8.1	5.1	ロクロ　回転糸切	籾　自然釉
1669	水田8東	B2 18Q	SS02	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	3.7	2.45 2.5	ロクロ　回転糸切?	籾
1670	水田8東	B2 19Q	SS02	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.1	5.0	2.7	ロクロ　回転糸切	
1671	水田8東	B2 19Q	SS02	土師器台付皿	13C前?			9.6	(3.5)	高台:ヨコナデ	脚部·体部内面底部摩滅
1672	水田8東	B2 19Q	SS02	土師器台付皿	13C前?			5.15	(1.0)	体部外面底部:ナデ 高台内:指押	体部内面底部摩滅
1673	水田8東	B2 18Q	SS02	土師器小皿	12C中～12C後		9.0		(1.35)	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ 指押 ナデ	
1674	水田8東	B2 25R	SX02	備前小壺	12C後～13C初?	備前Ⅱ期	8.0	12.4	9.0	ロクロ　回転糸切　ケズリ	自然釉
1675	水田8東	B2 25R	SX02	瓦器椀	12C後～13C初?		15.0	5.15	5.3	内面:ミガキ 外面:ナデ 指押 ミガキ	
1676	水田8東	B2 25R	SX02	土師器小皿	12C後～13C初?		7.1	4.0	1.2	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ 指押	
1677	水田8東	B2 25R	SX02	土師器小皿	12C中～12C後		8.8		1.4 1.5	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ ナデ	
1678	水田8東	B2 25R	SX02	土師器小皿	12C後～13C初?		9.35	6.5	1.45	静止糸切	全体摩滅
1679	水田8東	B2 25R	SX02	土師器小皿	12C後～13C初?		9.0	5.0	1.15	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ 指押	
1680	水田8東	B2 25R	SX02	土師器小皿	12C後～13C初?		9.0	6.0	1.2	内面:ヨコナデ ヘラ状工具による切込? 外面:ヨコナデ 指押	

表72　川関遺跡出土遺物観察表43

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
1681	水田8東	B2 25R	SX02	土師器小皿	12C後～13C初?		9.1	5.5	1.3	内外面:ヨコナデ 指押 ヘラ状工具の切込?	
1682	水田8東	B2 25R	SX02	土師器皿	12C後～13C初?		13.6	9.8	2.6	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ ナデ	
1683	水田8東	B2 25R	SX02	土師器皿	12C後～13C初?		14.2		3.1	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ ナデ	
1684	水田8東	B2 25R	SX02	土師器皿	12C後～13C初?		14.6		2.8 2.9	内面:ヨコナデ ナデ 外面:ヨコナデ ナデ	
1685	水田8西	B3 19R	SW02	山茶碗	11C後～12C初	尾張?3	16.2	7.2	5.5	ロクロ　回転糸切	北部系
1686	水田8西	B3 19R	SW02	山茶碗	11C後～12C初	?3		5.2	(1.7)	ロクロ　ナデ	北部系?　自然釉
1687	水田8西	B3 19R	SW02	土師器卸皿	13C前?		6.14		1.3	内面:ナデ　外面:ナデ	
1688	水田8西	B3 11W	SW03	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	大窯3期	10.4		(4.05)	施釉	
1689	水田8西	B3 11W·X	SW03	瀬戸美濃鉄釉丸碗	15C末～16C初	大窯1?2?期			(4.2)	施釉	
1690	水田8西	B3 11W	SW03	瀬戸灰釉腰折皿	15C後	後Ⅳ新	8.4	2.5	2.05	施釉	内外面貫入
1691	水田8西	B3 11W	SW03	瀬戸美濃花瓶	15C後	後Ⅳ新		6.8	(5.7)	施釉	
1692	水田8西	B3 11W	SW03	山茶碗小碗				4.0	(2.2)	ロクロ　回転糸切	赤褐発色
1693	水田8西	B3 11V·6X	SW03下層	中国製白磁四耳壺?	12C初		10.0		(3.0)	施釉	
1694	水田8西	B3 11V	SW03下層	中国製白磁碗	12C後～13C初	Ⅷ3		4.6	(2.0)	施釉	
1695	水田8西	B3 11X	SW03	中国製青磁碗	15C後～16C前	小野C群		4.3	(3.5)	施釉 高台内蛇ノ目釉ハギ	蓮弁文　内外面貫入
1696	水田8西	B3 11V·X	SW03	朝鮮製白磁碗?			11.6	4.8	7.8	施釉	
1697	水田8西	B3 11V	SW03下層	瓦質捏鉢	15C			15.6	(6.3)		内外面摩滅
1698	水田8西	B3 9V	SW05	唐津碗	17C前		11.4	5.8	3.2	施釉	見込胎土目痕4
1699	水田8西	B3 8U	SW05	瀬戸美濃端反皿	15C末	大窯1期	12.4	7.2	3.2	施釉	菊印　高台内胎土目痕
1700	水田8西	B3 9U	SW05	瀬戸美濃緑釉皿	15C後～16C前		9.6	5.8	2.5	施釉	内外面貫入
1701	水田8西	B3 9V	SW05	古瀬戸盤	15C後	後Ⅳ新		12.1	(7.0)	ロクロ　施釉　ナデ	三足
1702	水田8西	B3 8W	SW05	山茶碗	13C前	尾張6	14.6	6.8	4.65 4.7	ロクロ　静止糸切	見込重焼痕　自然釉
1703	水田8西	B3 9V	SW05	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	2.2	4.4	ロクロ　回転糸切	
1704	水田8西	B3 9U	SW05	土師器土堝	15C		23.0		(7.8)	内面:ヨコナデ ナデ ハケ 外面:ヨコナデ ナデ タタキ	播磨系　外面ｽｽつまみ出し突帯
1705	水田8西	B3 8W	SW05	中国製青花碗	15C後～16C前	小野E群	12.0		(3.9)	施釉	景徳鎮窯
1706	水田8西	B3 9V	SW05	中国製青花碗	16C	小野B群		6.6	(1.7)	施釉　高台畳付釉削取	景徳鎮窯
1707	水田8西	B3 8V	SW05	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a		6.4	(2.3)	施釉	
1708	水田8西	B3 8V	SW05	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.2	(1.5)	施釉	
1709	水田8西	B3 8V	SW05	中国製青磁皿			10.2		1.4	施釉	劃花文?
1710	水田8西	C3 13H	SW05下層	古瀬戸灰釉長頸壺	9C～10C			8.9	(6.1)	ロクロ　回転糸切	籾　自然釉
1711	水田8西	C3 14C	SW05上層	瀬戸美濃天目茶碗	15C後～16C前	大窯1期		4.2	(3.65)	施釉	
1712	水田8西	C3 14E	SW05中層	瀬戸短頸壺	11C後～12C中?	尾張3?4?	22.6		(10.1)	ロクロ	自然釉
1713	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗鉢	12C後～13C初	渥美5	24.0		8.2	ロクロ	
1714	水田8西	C3 13F	SW05下層	渥美甕	13C?		44.2		(8.1)	ロクロ	
1715	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.2	7.3	6.1 6.2	ロクロ　回転糸切	輪花4?　籾　施釉
1716	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	15.8	7.7	6.1	ロクロ　回転糸切	輪花4　見込重焼痕 高台畳付砂粒
1717	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	7.0	5.6 5.8	ロクロ　回転糸切	輪花4　自然釉
1718	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.0	7.6	5.0 5.2	ロクロ　回転糸切で板目圧痕　見込指頭痕	輪花4　施釉
1719	水田8西	C3 13D	SW05中層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.3	7.7	5.4 5.6	ロクロ　回転糸切	輪花4　施釉
1720	水田8西	C3 14C	SW05中層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	17.6	6.6	6.3 6.5	ロクロ　回転糸切	輪花3　施釉

表73　川関遺跡出土遺物観察表44

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1721	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	8.8	5.7 5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切　施釉	輪花3　施釉
1722	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗輪花碗	12C中	渥美4	16.0	7.0	5.7 5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花3　施釉
1723	水田8西	C3 14E	SW05中層	山茶碗	12C中	渥美4	17.3	7.9	6.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1724	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗	12C中	尾張?4	16.3	7.5	5.3 5.4	ﾛｸﾛ　静止糸切	自然釉
1725	水田8西	C3 13C	SW05 東肩部	山茶碗	12C後～13C初	尾張?5	17.9	8.9	5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1726	水田8西	C3 13F	SW05中層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.5	7.9	4.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1727	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	7.8	5.0 5.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1728	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗	12C中	渥美4	16.5	8.8	5.05 5.1	ﾛｸﾛ　静止糸切	
1729	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.7	8.0	5.3 5.5	ﾛｸﾛ　回転糸切で板目圧痕　見込ﾅﾃﾞ	籾
1730	水田8西	C3 12E	SW05	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	17.0	7.2	4.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1731	水田8西	C3 13F	SW05中層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.5	9.0	5.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1732	水田8西	C3 13G	SW05 東肩部	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	16.0	7.0	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1733	水田8西	C3 13F	SW05下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	14.9	8.1	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉 全体歪み著しい
1734	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗	12C中	渥美4		6.9	(3.5)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1735	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	3.8	3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1736	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.4	3.4	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	自然釉
1737	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	6.2	2.75	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1738	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	3.8	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	赤褐発色　籾 自然釉
1739	水田8西	C3 13F	SW05下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	5.2	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1740	水田8西	C3 13G	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	4.5	3.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1741	水田8西	C3 13G	SW05中層	山茶碗小碗	12C前	尾張4古	9.8	5.35	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1742	水田8西	C3 15D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	5.0	3.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1743	水田8西	C3 14C	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.1	2.95	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ	見込重焼痕
1744	水田8西	C3 13F	SW05下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	4.1	2.2 2.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1745	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	5.0	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1746	水田8西	C3 13G	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	尾張?4	8.4	4.2	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1747	水田8西	C3 13G	SW05下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.1	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1748	水田8西	C3 13H	SW05上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	4.2	2.55 2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1749	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.2	3.9	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1750	水田8西	C3 13F	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.7	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
1751	水田8西	C3 14D	SW05	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	5.25	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1752	水田8西	C3 13G	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	4.4	2.8 2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1753	水田8西	C3 13F	SW05上層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.6	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1754	水田8西	C3 14E	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.1	2.6 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1755	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		4.6	(1.7)	ﾛｸﾛ 外底部ノミ状工具で調整	自然釉
1756	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小皿	12C中?	渥美4?	9.2	2.9	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1757	水田8西	C3 13G	SW05下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.3	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1758	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.6	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1759	水田8西	C3 13C	SW05上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	3.7	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1760	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.1	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	口縁外面重焼痕 自然釉

表74　川関遺跡出土遺物観察表45

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1761	水田8西	C3 13H	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	4.4	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1762	水田8西	C3 13F	SW05下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.6	4.6	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1763	水田8西	B3 13E	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	4.1	2.8 2.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1764	水田8西	C3 13F	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.4	2.05 2.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1765	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.7	4.7	2.15	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1766	水田8西	C3 13G	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.2	4.6	2.1 2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1767	水田8西	C3 13D	SW05上層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	3.7	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1768	水田8西	C3 13G	SW05下層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.0	4.8	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1769	水田8西	C3 13E	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.2	3.7	2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	口縁歪み　自然釉
1770	水田8西	C3 13E	SW05中層	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.2	5.6	2.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1771	水田8西	C3 14D	SW05中層	渥美片口鉢	12C中～13C初?	渥美4?5?		13.4	(5.5)	ﾛｸﾛ ﾅﾃﾞ 体部外面下部ｹｽﾞﾘ	自然釉
1772	水田8西	C3 13H	SW05中層	瓦器椀	12C後		15.4	4.4	5.0	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
1773	水田8西	C3 13F	SW05中層	瓦器椀	12C後		14.0	5.0	5.1	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾐｶﾞｷ	口縁歪み
1774	水田8西	C3 13G	SW05下層	瓦器椀	12C後～13C初		16.0	5.0	4.8	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1775	水田8西	C3 14D	SW05中層	瓦器椀	13C初		14.6	4.1	4.7	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
1776	水田8西	C3 13E	SW05中層	瓦器椀	12C末～13C初			4.2	(1.9)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	体部外面摩滅
1777	水田8西	C3 13G	SW05中層	瓦器椀	12C後			5.0	(1.3)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	
1778	水田8西	C3 13F	SW05中層	瓦器椀	13C前		16.0	4.4	4.8	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1779	水田8西	C3 13F	SW05下層	瓦器椀	13C初		15.4		(3.8)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
1780	水田8西	C3 14G	SW05下層	瓦器椀	12C後～13C初		17.8		4.0	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	和泉系?
1781	水田8西	C3 14G	SW05下層	瓦器小皿	13C初		9.0		1.9	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
1782	水田8西	C3 14G	SW05下層	瓦器小皿	13C初		9.1		2.05	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1783	水田8西	C3 13F	SW05下層	瓦器小皿	12C末～13C前		10.0		2.4	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 指押	
1784	水田8西	C3 13H	SW05上層	土師器大皿	12C後～13C初?		15.9	9.0	3.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1785	水田8西	C3 14G	SW05下層	土師器皿	12C後		14.0		(2.6)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1786	水田8西	C3 13G	SW05下層	土師器皿	12C後		14.2		(2.5)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1787	水田8西	C3 13G	SW05下層	土師器大皿	13C初		15.45		(2.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	外面摩滅
1788	水田8西	C3 14D	SW05	土師器大皿			15.4		(2.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1789	水田8西	B3 13H	SW05下層	土師器小皿	12C後～13C初		9.0	6.3	1.85 2.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1790	水田8西	C3 13H	SW05上層	土師器小皿	12C後～13C初		9.0	6.2	1.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1791	水田8西	C3 14G	SW05下層	土師器小皿	13C前		9.6	7.9	2.25	内外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1792	水田8西	C3 14G	SW05下層	土師器小皿	12C後～13C初		9.35		2.85	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1793	水田8西	C3 14G	SW05下層	土師器小皿	12C後～13C初		9.8		(1.6)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ	
1794	水田8西	C3 14B	SW05	土師器羽釜	15C		25.1		(6.1)	内面:ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	体部外面ｽｽ
1795	水田8西	C3 14D	SW05	東播系捏鉢	12C後		27.0		(9.1)	ﾛｸﾛ	
1796	水田8西	C3 13G	SW05下層	東播系 片口捏鉢	13C初		32.0		(8.95)	ﾛｸﾛ	自然釉
1797	水田8西	C3 15B	SW05上層	東播系甕	12C後?		25.0		(8.0)	内面:指押 ﾅﾃﾞ 外面:回転ﾅﾃﾞ	
1798	水田8西	C3 14G	SW05下層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅵ1b	13.6	5.0	4.4	施釉	劃花紋　内外面貫入
1799	水田8西	C3 13E	SW05中層	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a	13.4		(3.7)	施釉	
1800	水田8西	C3 13F	SW05下層	中国製白磁碗				3.4	(2.2)	施釉	

表75　川関遺跡出土遺物観察表46

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1801	水田8西	C3 13G	SW05中層	中国製白磁碗	12C中～13C初	Ⅷ3		6.6	(3.3)	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	
1802	水田8西	C3 13G	SW05下層	中国製白磁碗	12C前?			5.0	(3.0)	施釉	
1803	水田8西	C3 13D	SW05中層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.4	(3.8)	施釉	内外面貫入
1804	水田8西	C3 14D	SW05中層	中国製白磁碗	12C後～13C初			5.8	(3.4)	施釉	
1805	水田8西	C3 13F	SW05中層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a?		7.8	(3.9)	施釉	
1806	水田8西	C3 13H	SW05中層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		6.4	(3.1)	施釉	
1807	水田8西	C3 15C	SW05中層	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a		6.3	(3.4)	施釉	
1808	水田8西	C3 14D	SW05中層	中国製白磁碗	11C中～12C前	Ⅳ1a		6.6	(2.2)	施釉	
1809	水田8西	C3 13E	SW05中層	中国製白磁皿	15C		11.9	6.7	2.4	施釉	碁笥底　型押文3
1810	水田8西	C3 14B	SW05上層	中国製白磁皿	13C初		10.8	6.0	2.5	施釉	
1811	水田8西	C3 14A	SW05上層	中国製染付?皿	15C後～16C初	小野C群		3.2	(1.1)	施釉	碁笥底　内外面貫入
1812	水田8西	C3 14E	SW05中層	中国製白磁皿	11C後～12C前	Ⅵ1a		3.1	(2.2)	施釉	
1813	水田8西	C3 14E	SW05中層	中国製四耳壺?	13C前?				(6.1)	施釉	内外面摩滅
1814	水田8西	C3 13G	SW05下層	中国製鉄釉花瓶				8.6	(6.9)	施釉	外面貫入
1815	水田8東	B2 20X	SW07上層	瀬戸美濃天目茶碗	16C後	大窯3後期	11.0		(5.4)	施釉	
1816	水田8東	B2 20X	SW07最下層	瀬戸美濃天目茶碗	15C末～16C前	大窯1期	11.2		(5.6)	施釉	
1817	水田8東	B2 20X	SW07	瀬戸鉄釉平碗	16C	大窯1期		4.6	(2.7)	施釉	
1818	水田8東	B2 19Q	SW07	瀬戸鉄釉縁釉小皿	15C前	後Ⅲ	10.0	5.1	2.4 2.5	ﾛｸﾛ　施釉	
1819	水田8東	B2 20S	SW07	瀬戸灰釉端反皿	15C末	大窯1期	11.8	6.0	2.9 3.0	施釉	菊印　内外面貫入
1820	水田8東	B2 20X	SW07上層	瀬戸灰釉端反皿	15C後	大窯1期	11.4	6.2	2.7	施釉	菊印　内外面貫入
1821	水田8東	B2 20X	SW07上層	瀬戸灰釉豆皿	15C末	大窯1期	5.8	3.2	1.2	施釉	菊印
1822	水田8東	B2 20S	SW07	古瀬戸鉄釉脚付壺	15C後	後Ⅳ新	12.2径	12.6	20.3	外面上部ﾉﾐ状工具で彫刻　施釉	三足
1823	水田8東	C2 20D	SW07	備前摺鉢	15C	備前Ⅳ期	27.8	14.4	(11.9)	ﾛｸﾛ　縁帯:ﾖｺﾅﾃﾞ 底部:ﾊｹによるﾅﾃﾞ	摺目10/3.2cm 縁帯黄ｺﾞﾏ釉
1824	水田8東	B2 20S	SW07	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.8	4.2	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
1825	水田8東	B2 20S	SW07	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	7.4	3.4	2.1	ﾛｸﾛ　回転糸切?	自然釉
1826	水田8東	B2 19R	SW07	瓦器椀	12C後		15.4	6.6	4.85	内面:ﾅﾃﾞﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞﾐｶﾞｷ	和泉系?
1827	水田8東	B2 20X	SW07最下層	中国製青花碗	16C末～17C前	小野F群		4.2	(2.45)	施釉	漳州窯　底部砂粒
1828	水田8東	B2 19Q	SW07	中国製青花碗				4.8	(1.6)	施釉	漳州窯
1829	水田8東	B2 20X	SW07最下層	中国製青花皿	15C末～16C	小野C群	10.0	5.8	2.4	施釉	漳州窯　碁笥底
1830	水田8東	B2 19Q	SW07	中国製青花皿	15C末～16C前	小野C群		6.0	(0.9)	施釉　高台釉削取	漳州窯　碁笥底
1831	水田8東	B2 19Q	SW07最下層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a?	15.35		(5.25)	施釉	
1832	水田8東	B2 20S	SW07	中国製白磁皿	15C	小野B群	9.0	4.0	2.2	施釉	割高台4　見込胎土目痕4　貫入
1833	水田8東	C3 20A	SW07	中国製白磁皿	16C後	小野C群	10.6	5.4	2.7	施釉　高台畳付～高台外面釉削取	
1834	水田8東	B2 19R	SW07	中国製青磁碗	15C後～16C前	小野C群	13.4		(4.6)	施釉	蓮弁文
1835	水田8東	B2 20S	SW07	中国製青磁碗	13C前～13C中	Ⅰ5a	12.2		(3.7)	施釉	蓮弁文
1836	水田8東	B2 20T	SW07	中国製青磁碗	15C			5.8	(2.7)	施釉	内外面貫入
1837	水田8東	B2 19Q	SW07	中国製青磁皿				3.8	(1.45)	施釉	内外面貫入
1838	水田8東	B2 20X	SW07上層	南方?染付	16C末～17C前		8.2	4.8	2.8	施釉	二次焼成
1839	水田8東	C2 21A	SW07石積掘方	瀬戸美濃天目茶碗	16C	大窯1期		4.35	(5.65)	施釉	
1840	水田8東	C2 21A	SW07石積掘方	瀬戸灰釉稜花皿	16C前	大窯1期	11.2	5.5	2.4	施釉	菊印 口縁内面稜花文

表76　川関遺跡出土遺物観察表47

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1841	水田8東	B2 20B	SW07 石積掘方	中国製染付碗	15C	小野B群		9.6	(3.2)	施釉	外面花折文 内面芭蕉文
1842	水田8東	B2 20B	SW07 石積掘方	中国製青磁碗	15C	Ⅳ1		4.35	(3.35)	施釉	
1843	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.6	9.0	5.1 5.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾　自然釉
1844	水田8西	C3 15C	SW05中層	山茶碗	13C前	渥美6	16.9	9.5	5.2	ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ　見込指頭痕	墨書「六十」　籾
1845	水田8西	B3 13F	SW05下層	山茶碗	12C中	渥美4		8.2	(2.4)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
1846	水田8西	C3 14A	SW07上層	山茶碗	12C中	渥美4		7.7	(2.75)	ﾛｸﾛ　静止糸切	墨書「十」　籾
1847	水田8西	C3 14D	SW05中層	山茶碗	12C中	渥美4		6.6	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾
1848	水田8西	C3 12Y	SW07上層	山茶碗	12C中	渥美4		6.7	(2.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
1849	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗	12C中	渥美4		7.1	(1.7)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「一心無」
1850	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗	12C中	渥美4		5.4	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　自然釉
1851	水田8西	C3 13F	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.4	3.6	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書　籾　自然釉
1852	水田8西	C3 13G	SW05中層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	4.5	2.75 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「十」
1853	水田8西	C3 14G	SW05下層	山茶碗小碗	12C中	渥美4		5.2	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「上」
1854	水田8西	C3 14C	SW07上層	中国製白磁皿	15C	小野B群		3.6	(1.0)	施釉	割高台4　墨書
1855	水田8西	C3 13F	SW05下層	中国製白磁碗	15C	小野B群		2.4	(1.1)	施釉	朱書　内外面貫入
1856	水田8東	B2 20R	SW06	石鍋	12C後		長4.85	幅4.15	厚3.1		温石転用
1857	水田8西	C3 13F	SW05下層	石鍋				22.8	(6.7)	内面:研磨 外面:ノミ成形	外面ｽｽ
1858	水田8西	B3 7T	SE09上層	丸瓦			長9.2	幅1.9	厚(5.4)	凹面:ｺﾋﾞｷ痕 凹凸面:ｹｽﾞﾘでﾅﾃﾞ	
1859	水田8西	B3 3Y	SK106	丸瓦					(9.1)	ｹｽﾞﾘ	ｺﾋﾞｷ痕　縄目跡
1860	水田8西	B3 11U	SE06上層	丸瓦				高6.4	厚1.8	内面:ｹｽﾞﾘ ｺﾋﾞｷ痕 外面:ｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ	
1861	水田8西	C3 13F	SW05中層	平瓦			長11.2	幅11.9	厚3.5		外面縄席文
1862	水田8西	B3 3X	SD30	軒平瓦	15C?		軒高4.3		厚2.5	内面:ｹｽﾞﾘ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ	均整唐草文様
1863	水田8西	B3 11S	B区画PIT	中国製白磁小壺	12C後～13C初		3.0		(2.9)	施釉	
1864	水田8西	B3 11X	SW03	瀬戸合子蓋		後Ⅰ?Ⅱ?				施釉	
1865	水田8東	B2 22M	D区画PIT	中国製青白磁合子蓋	12C後～13C前		5.0		(2.0)	施釉	
1866	水田4	B3 18U	SE02上層	中国製青白磁合子蓋	12C			6.0	(1.8)	施釉	
1867	水田8東	B2 25M	水田8東包含層	中国製青白磁合子蓋	12C		6.2		(1.9)	施釉	
1868	水田8東	B2 20R	SW06	中国製青白磁合子蓋	12C		5.0		(2.6)	施釉	
1869	水田8西	C3 13C	C区画PIT	中国製青白磁合子蓋	12C			4.2	(1.4)	施釉	
1870	水田8西	C3 4F	C区画PIT	中国製青白磁合子蓋	12C		4.2		(1.4)	施釉	
1871	水田8西	C3 10D	SK81	中国製青白磁合子蓋	12C		3.8		1.4	施釉	
1872	水田8東	B2 21V	E区画PIT	中国製青白磁合子蓋	13C前？		5.8	3.9	1.0	施釉	
1873	水田8西	C3 14C	C区画PIT	中国製青白磁合子蓋	12C				(3.5)	施釉	
1874	水田8東	B3 2W	水田8東包含層	瀬戸美濃天目茶碗	15C末	大窯1期		4.2	(1.1)	施釉	面子転用
1875	水田8西	B3 9T	B区画PIT	瀬戸美濃天目茶碗	16C初	大窯1期後		4.6	(1.1)	ﾛｸﾛ　回転糸切	面子転用
1876	水田8西	B3 9L	A区画PIT	瀬戸美濃平碗	16C後～17C初	大窯3～4期		4.6	(1.8)	ﾛｸﾛ　回転糸切　施釉	面子転用
1877	水田8東	B3 3N	SD25	瀬戸灰釉腰折皿	15C後	後Ⅳ新		4.6	(0.85)	施釉	面子転用　見込貫入 見込胎土目痕
1878	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	後Ⅳ新		4.0	(0.9)	施釉	面子転用
1879	水田8東	B3 1X·2X	SD31	瀬戸美濃天目茶碗	15C末～16C初	大窯1期		4.2	(1.2)	施釉	面子転用
1880	水田8西	B3 11U	SE06上層	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	大窯Ⅲ期		3.9	(1.6)	施釉	面子転用 高台畳付胎土目痕3

表77　川関遺跡出土遺物観察表48

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1881	水田8東	B2 22Q	B2 22Q	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a			(1.5)	施釉	
1882	水田8西	B3	B3	中国製青磁碗	15C	小野C群		4.4	(2.3)	施釉	面子転用 見込文字刻印
1883	水田8西	B3 9Y	B3 9Y	中国製青磁碗	12C後	Ⅰ2a		6.2	(1.9)	施釉	面子転用 内外面貫入
1884	水田8西	B3 15X	B3 15X	土師質 鞴羽口							
1885	水田8西	C3 13E	C3 13E	土師質 鞴羽口							珪酸
1886	水田8東	B2 21V	B2 21V	土錘			長4.7	径3.2～3.3		体部側面指頭痕?	全体摩滅
1887	水田8東	B2	B2	土錘			長4.0	径1.2～1.3			二次焼成
1888	水田8東	B2 18O	B2 18O	土錘			長3.4	径1.4～1.5			
1889	水田8東	B2 21V	B2 21V	土錘			長4.3	径1.5～1.6			
1890	水田8東	B3 1J	B3 1J	土錘			長3.1	径1.2～1.5			
1891	水田8東	B3 1V	B3 1V	玉石			径4.8～5.0		厚1.7		
1892	水田8東	B2 2N	B2 2N	玉石			径4.6～5.0		厚1.2		
1893	水田8東	C2 25A	C2 25A	砥石			長6.2	幅5.35	厚1.4		砂岩　使用面5
1894	水田8東	C2	C2	砥石			長5.8	幅2.75	厚1.2		使用面4
1895	水田8西	C3 16A	C3 16A	砥石			長6.1	幅3.45	厚0.8		使用面5
1896	水田8東	B2 22L	B2 22L	砥石			長8.05	幅4.35	厚8.5		使用面4
1897	水田8東	C2	C2	砥石			長11.7	幅4.8	厚2.8		使用面2
1898	水田8東	B2 23N	B2 23N	砥石			長8.6	幅4.7	厚4.4		使用面4
1899	水田8西	B3 9S	B3 9S	砥石			長6.8	幅4.1	厚0.9		使用面4
1900	水田4	16V	16V	砥石			長8.5	幅2.4	厚1.5		使用面2
1901	水田8西	B3 15W	B3 15W	砥石			長3.85	幅3.9	厚0.75		
1902	水田8西	B3 3X	B3 3X	硯			長8.9	幅7.9	厚2.25	ノミ状工具によるｹｽﾞﾘ	側面剥離
1903	水田8西	B3	B3	硯			長11.2	幅6.8	厚2.3		
1904	水田8東	B2 21V·21W	B2 21V·21W	石鍋	13C前		長4.6	幅10.1	厚1.1	ﾐｶﾞｷ　ｹｽﾞﾘ	温石転用　内面摩滅
1905	水田8西	B3	B3	石鍋			長10.45	幅8.6	厚1.5	内面:ｹｽﾞﾘ　外面:ｹｽﾞﾘ	温石転用
1906	水田8東	B3 2K	B3 2K	石鍋			長7.0	幅5.4	厚1.8		温石転用
1907	水田8西	C3 14F	C3 14F	温石			長6.7	幅4.7	厚2.35		
1908	水田8東	B2 21K	B2 21K	軽石			長5.8	幅3.7	厚2.85		
1909	水田8西	B3 12Q	B3 12Q	蛤刃形石斧	弥生		長(9.45)	幅5.2	厚3.5		
1910	水田8東	B2 25K	B2 25K	蛤刃形石斧	弥生						
1911	水田4	B3 18U	B3 18U	凹石			長9.15	幅8.6	厚3.95		
1912	水田4	B3 18U	B3 18U	箸			長(11.3)	幅0.55	厚0.45		
1913	水田4	B3 18U	B3 18U	箸			長(13.85)	幅0.55	厚0.4		
1914	水田4	B3 18U	B3 18U	箸			長(15.0)	幅0.6	厚0.6		
1915	水田4	B3 18U	B3 18U	箸			長(19.1)	幅0.8	厚0.5		
1916	水田4	B3 18U	B3 18U	箸			長24.6	幅0.6	厚0.4		
1917	水田4	B3 18U	B3 18U	棒			長(23.9)	幅0.75	厚0.7		
1918	水田4	B3 18U	B3 18U	短冊			長(14.5)	幅(0.75)	厚0.35		両端部焼痕
1919	水田4	B3 18U	B3 18U	短冊			長(14.6)	幅(1.2)	厚0.3		先端焼痕
1920	水田4	B3 18U	B3 18U	短冊			長18.3	幅1.25	厚0.3		

表78　川関遺跡出土遺物観察表49

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
1921	水田4	B3 18U	SE02 井筒内	曲物側板			長(7.8)	幅(3.35)	厚0.3		
1922	水田8西	B3 5W	SE10 木枠内	木杭							
1923	水田4	B3 18U	SE02 井筒内	曲物底			長(17.1)	幅(4.1)	厚0.7		
1924	水田8西	B3 5W	SE10 木枠内	曲物底							
1925	水田4	B3 18U	SE02 井筒内	曲物底			長(14.8)	幅(3.75)	厚0.6		
1926	水田8西	B3 10X	SE08	曲物			径19～22	厚0.8	高14.0		釣瓶転用?
1927	水田8東	B2 20V	SE16	曲物底			径(30.0)	～(35.5)	厚(1.3)		
1928	水田8東	B2 25R	SX01	鉄刀			長30.6	幅2.4・2.6	厚1.0・0.3		2本融着
1929	水田8東	B2 25R	SX01	鉄釘			長5.8	幅0.5	厚0.4		
1930	水田8東	B2 25R	SX01	鉄釘			長6.8	幅0.5	厚0.5		
1931	水田8東	B2 25R	SX01	鉄釘			長7.2	幅0.7	厚0.5		
1932	水田8東	B3 2W	水田8東包含層	銅製品			長5.6	幅0.9	厚0.5		
1933	水田8東	C2	SH01下層溝肩部	煙管吸口金具			長(2.7)	幅0.8	厚1.0		
1934	橋脚部1	A3 19J	橋脚1包含層	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	16.65	7.5	5.65	ロクロ　回転糸切	自然釉
1935	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	渥美4	16.2	7.65	5.9		赤褐発色
1936	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	尾張4	17.0	6.7	5.5	ロクロ　回転糸切	籾　自然釉
1937	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	16.6	7.6	5.55 5.6	ロクロ　回転糸切	
1938	橋脚部1	A3 16K	橋脚1包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	16.55	8.55	5.3 5.5	ロクロ　回転糸切	籾　施釉
1939	橋脚部1	A3 19S	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	尾張4	16.4	7.75	4.9 5.0	ロクロ　回転糸切	口縁外面重焼痕　籾自然釉
1940	橋脚部1	A3 16J	橋脚1包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	17.0	6.8	5.25	ロクロ　回転糸切	自然釉
1941	橋脚部1	A3 16L	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	尾張4	16.6	8.6	5.3 5.35	ロクロ　回転糸切	口縁1ヶ所切込　外底部重焼痕
1942	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	尾張4	16.6	8.35	5.0 5.1	ロクロ　回転糸切	自然釉
1943	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	15.9	8.5	5.4	ロクロ　回転糸切	籾　自然釉
1944	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	15.9	8.2	4.75	ロクロ　回転糸切	
1945	橋脚部1	A3 19J	橋脚1包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	15.9	7.0	4.55 4.6	ロクロ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1946	橋脚部1	A3 19K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.2	5.3	3.0	ロクロ　回転糸切	籾　自然釉
1947	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.0	4.8	3.5	ロクロ　回転糸切	籾　自然釉
1948	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	10.6	5.2	3.5 3.6	ロクロ　回転糸切	自然釉
1949	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美?4	10.0	5.2	3.15	ロクロ　静止糸切	自然釉
1950	橋脚部1	A3 16K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	11.0	5.8	3.1	ロクロ　回転糸切	自然釉
1951	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.95	4.75	3.0 3.1	ロクロ　回転糸切	自然釉
1952	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C前	渥美4古	10.1	5.1	2.7	ロクロ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1953	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	10.2	5.6	3.3	ロクロ　回転糸切	自然釉
1954	橋脚部1	A3 17K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C前	渥美4古	10.2	5.3	3.1 3.2	ロクロ　回転糸切	自然釉
1955	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	5.2	3.0	ロクロ　回転糸切	自然釉
1956	橋脚部1	A3 16L	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	4.2	3.5	ロクロ　回転糸切	自然釉
1957	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.6	4.8	3.3	ロクロ　回転糸切	自然釉　内面釉たまり
1958	橋脚部1	A3 19J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.2	5.6	3.0	ロクロ　回転糸切	自然釉
1959	橋脚部1	A3 17K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	9.3	5.85	3.2	ロクロ　回転糸切	自然釉
1960	橋脚部1	A3	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.0	4.4	3.2	ロクロ　回転糸切	自然釉

表79　川関遺跡出土遺物観察表50

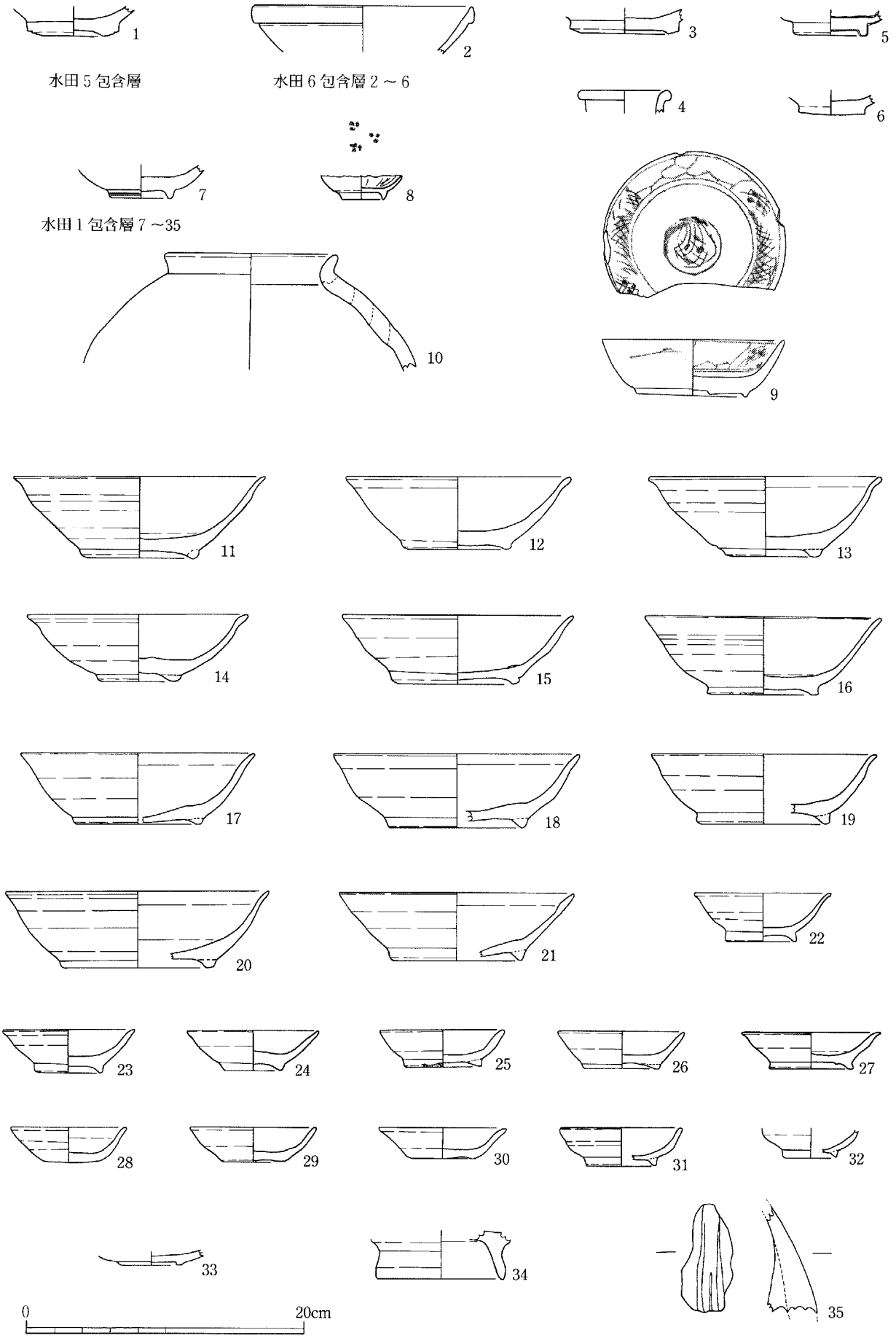
図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
1961	橋脚部1	A3 19J·18L	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C前	渥美4古	10.5	5.1	2.7 2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1962	橋脚部1	A3 18L	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.8	4.7	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1963	橋脚部1	A3	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C後	渥美4新	9.0	4.1	3.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1964	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	尾張4	9.4	5.0	2.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕 ｶﾞﾗｽ質自然釉
1965	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C前	渥美4古	9.8	4.7	2.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1966	橋脚部1	A3 17K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	10.0	5.7	3.1 3.2	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1967	橋脚部1	A3 15K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	10.0	4.2	2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1968	橋脚部1	A3 16J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.0	5.25	2.85	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1969	橋脚部1	A3 17K	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C後	渥美4新	9.3	4.5	2.9 2.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1970	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗鉢	12C中	渥美?4		14.7	7.9	ﾛｸﾛ　回転糸切　ﾊｹ	見込重焼痕　自然釉
1971	橋脚部1	A3 16L	橋脚1包含層	土師器椀	12C中～12C後			6.4	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1972	橋脚部1	A3 19J	橋脚1包含層	瓦器椀	12C中～12C後		16.0		(4.7)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾐｶﾞｷ	
1973	橋脚部1	A3	橋脚1包含層	瓦器椀	13C前		11.9	4.8	4.0	内面:指押 ﾅﾃﾞ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
1974	橋脚部1	A3 19J	橋脚1包含層	土師器高坏			18.25		(3.45)	ﾛｸﾛ	
1975	橋脚部1	A3 19K	橋脚1包含層	土師器大皿	12C後?		13.9		(3.1)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ? 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押 ﾅﾃﾞ	
1976	橋脚部1	A3 19K	橋脚1包含層	土師器大椀			15.6		(5.2)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅著
1977	橋脚部1	A3 15K	橋脚1包含層	土師器小皿	12C後		10.0		2.6	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅
1978	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	土師器小皿	12C後		8.0	6.2	1.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1979	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	土師器小皿	12C後		9.0	6.4	1.1	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1980	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	土師器小皿	12C後～13C前		9.9	7.0	1.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
1981	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	14.7		(3.55)	施釉	
1982	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	中国製白磁碗				7.6	(2.7)	施釉	内外面貫入
1983	橋脚部1	A3 16J	橋脚1包含層	中国製白磁碗	12C後～13C前	Ⅷ?		5.2	(3.4)	施釉	
1984	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a		7.0	(2.6)	施釉	籾　自然釉
1985	橋脚部1	A3 16K	橋脚1包含層	中国製青磁碗	12C後～13C前	Ⅰ5b	16.2		(4.9)	施釉	鎬蓮弁文
1986	橋脚部1	A3 19J	橋脚1包含層	中国製青磁碗	12C後～13C前	Ⅰ4a?		4.8	(2.1)	施釉	印花文
1987	橋脚部1	A3 17K	橋脚1包含層	中国製青磁碗	13C	Ⅰ5a		10.4	(2.2)	施釉	
1988	橋脚部1	A3 17K	橋脚1 PIT	山茶碗輪花碗	11C後～12C初	尾張3	16.2	7.9	5.7 6.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花5　自然釉 口縁1ヶ所切込
1989	橋脚部1	A3 18J	橋脚1 PIT	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	15.5	7.0	5.25 5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
1990	橋脚部1	A3 17J	橋脚1 PIT	山茶碗	11C後～12C初	渥美3	16.25	9.0	4.8 4.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕
1991	橋脚部1	A3 17K	橋脚1 PIT	瓦器椀	12C中		17.4		(4.7)	内面:ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾅﾃﾞ	
1992	橋脚部1	A3 19J·18I	橋脚1 PIT	瓦器椀	12C中			6.0	(1.6)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ	
1993	橋脚部1	A3 18K	SK128	山茶碗	12C後～13C初	尾張5	17.6	8.4	5.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
1994	橋脚部1	A3 18J	SK130	山茶碗	11C後～12C初	渥美3	17.5	7.6	5.3 5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
1995	橋脚部1	A3	橋脚1包含層	瓦器椀	12C中～12C後			6.0	(1.6)	内面:ﾐｶﾞｷ　外面:ﾅﾃﾞ	内面摩滅
1996	橋脚部1	A3	橋脚1包含層	弥生土器高坏	弥生後期				(2.7)		全体摩滅
1997	橋脚部1	A3 18I	橋脚1包含層	唐津碗	16C末～17C前			5.35	(3.1)	施釉	菊印?　内外面貫入
1998	橋脚部1	A3	橋脚1包含層	鉄鍋				3.5	(1.15)		
1999	橋脚部1	A3 15J	橋脚1包含層	山茶碗小碗	12C後	渥美4新	9.8	4.6	3.3	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
2000	橋脚部1	A3 18I	橋脚1包含層	瓦器椀	13C前		12.8		(2.75)	内面:指押 ﾐｶﾞｷ 外面:指押 ﾐｶﾞｷ	

表80　川関遺跡出土遺物観察表51

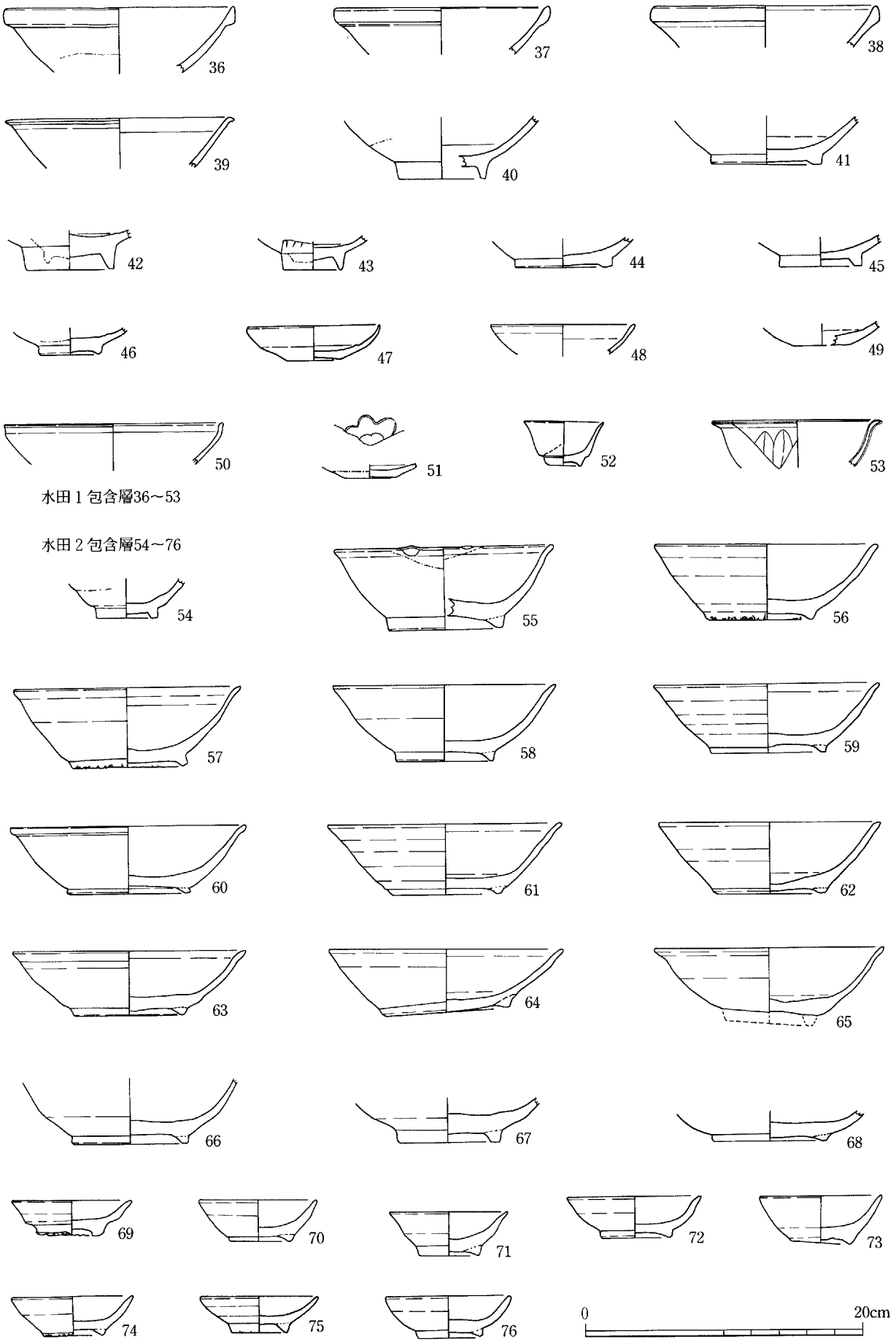
図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器種	時期	分類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備考
2001	橋脚部1	A3 18I	橋脚1包含層	中国製白磁皿	11C後～12C前		8.35	4.55	1.7	施釉	
2002	橋脚部1	A3 18I	橋脚1包含層	中国製白磁皿	11C後～12C前	V2	10.6	3.5	2.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	
2003	橋脚部1	A3 18I	橋脚1包含層	中国製青磁碗	13C			5.0	(1.8)	施釉	墨書
2004	橋脚部1	A3 17J	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	尾張4		6.55	(3.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
2005	橋脚部1	A3 18J	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	渥美4		7.2	(2.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「在家」？　籾
2006	橋脚部1	A3 18K	橋脚1包含層	山茶碗	12C中	渥美4		5.4	(1.3)	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書
2007	橋脚部1	A3 15J	橋脚1包含層	瀬戸灰釉平碗	15C末～16C初	後Ⅱ		5.3	(1.7)	施釉	墨書
2008	橋脚部2	A3 18P	橋脚2包含層	瀬戸美濃天目茶碗	15C後	後Ⅳ新	12.2		(4.1)	施釉	
2009	橋脚部2	A3 19P	橋脚2包含層	山茶碗	12C中	尾張4	16.7	7.9	5.5 5.6	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
2010	橋脚部2	A3 20O	橋脚2包含層	瓦質片口捏鉢	15C後		28.4	13.15	9.5		内外面摩滅
2011	橋脚部2	A3 21P	橋脚2包含層	山茶碗小碗	12C中	渥美4	10.05	5.45	2.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
2012	橋脚部2	A3 19Q	橋脚2包含層	山茶碗	11C後～12C初	尾張3		5.8	(2.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
2013	橋脚部2	A3 20O	橋脚2包含層	山茶碗		明和		4.7	(1.6)	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾
2014	橋脚部2	A3 20P	橋脚2包含層	瓦器椀	12C中		17.0		(4.7)	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ 指押 ﾐｶﾞｷ	
2015	橋脚部2	A3 18P	橋脚2包含層	土師器皿	12C後		12.0		(2.2)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ	内外面摩滅
2016	橋脚部2	A3 19P	橋脚2包含層	中国製白磁皿	15C	小野B群		3.95	(1.15)	施釉	
2017	橋脚部2	A3 20S	橋脚2包含層	中国製青磁輪花皿	14C		11.5	5.85	2.9	施釉　内面蛇ノ目釉ﾊｷﾞ	内外面貫入
2018	橋脚部2	A3 18P	橋脚2包含層	中国製青磁碗	12C後～13C前	I5b	18.9		(4.7)	施釉	鎬蓮弁文
2019	橋脚部2	A3 21P	橋脚2 PIT	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	14.8	7.55	5.7	ﾛｸﾛ　回転糸切?	籾　自然釉
2020	橋脚部2	A3 22P	橋脚2 PIT	土師器小皿	12C後		8.4		1.6	ﾛｸﾛ	
2021	橋脚部2	A3 22P	橋脚2 PIT	中国製白磁碗	11C後～12C前	Ⅳ1a	14.2	6.4	5.8	施釉	
2022	橋脚部2	A3 20R	SK132	中国製青磁碗	12C後～13C前	I5b	15.75		(4.6)	施釉	鎬蓮弁文
2023	橋脚部2	A3 19R	橋脚2 PIT	山茶碗	13C前	尾張6	15.0	7.05	4.95 5.0	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「上」　籾
2024	橋脚部2	A3 21P	橋脚2 PIT	山茶碗	11C後～12C初	尾張3	17.2	8.4	5.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	墨書「太夫」?　自然釉
2025	橋脚部2	A3 19S	SK131	後期縄文土器	縄文後期				(4.2)	沈線　磨消縄文	
2026	橋脚部2	A3	SD39	後期縄文土器	縄文後期				(6.3)	沈線　磨消縄文	
2027	橋脚部2	A3	SD39	後期縄文土器	縄文後期				(8.1)	沈線　磨消縄文	
2028	橋脚部2	A3	SD39	後期縄文土器	縄文後期				(5.7)	沈線　磨消縄文	
2029	橋脚部2	A3	SD39	後期縄文土器	縄文後期				(6.4)	沈線　磨消縄文	
2030	橋脚部2	A3	SD39	後期縄文土器	縄文後期				(5.45)	沈線　磨消縄文	
2031	橋脚部3	A3 23W	橋脚3包含層	山茶碗	13C中	尾張7	13.4	5.1	5.4	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾　自然釉
2032	橋脚部3	A3 22W	橋脚3包含層	山茶碗	12C中	尾張?4		8.5	(3.55)	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
2033	橋脚部3	A3 22Y	橋脚3包含層	山茶碗小碗	11C後～12C初	尾張3	11.1	5.3	3.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	見込重焼痕　自然釉
2034	橋脚部3	A3 24U	橋脚3包含層	山茶碗小皿	13C中	尾張7	8.2	4.1	1.7 1.8	ﾛｸﾛ　回転糸切	
2035	橋脚部3	A3 23X	SD40	中国製青磁碗	13C前	V1b		5.2	(4.8)	施釉	
2036	橋脚部3	A3 23X	SD40	瓦器椀	13C前		11.5	4.0	3.0	内面:ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外面:ﾅﾃﾞ	
2037	橋脚部3	A3 22W	SK134	山茶碗小碗	12C中	渥美4	9.4	3.6	2.95	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
2038	橋脚部3	A3 23W	SK136	山茶碗	13C前～13C中	尾張6～7		6.8	(2.15)	ﾛｸﾛ　回転糸切	
2039	橋脚部3	A3 23W	SK136	山茶碗小皿	13C中	尾張7	7.65	4.8	1.55 1.6	ﾛｸﾛ 回転糸切 見込ﾊｹ状工具によるﾅﾃﾞ	体部外面一部ｽｽ
2040	橋脚部3	A3 23W	SK136	山茶碗小皿	13C前	渥美6	8.2	5.2	1.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉

表81　川関遺跡出土遺物観察表52

図版番号	大地区	取上区画	遺構名	器　種	時　期	分　類	口径	底径	器高	成形・調整ほか	備　考
2041	橋脚部3	A3 21V	SK137	古瀬戸桶			31.5		(12.35)	施釉	
2042	橋脚部3	A3 21V	SK137	中国製青花皿	16C	小野B1群	12.4	8.0	2.7	施釉　高台畳付釉削取	漳州窯　内外面貫入
2043	橋脚部3	A3 21V	SK135	蛤刃石斧	弥生中期?		長 (8.75)	幅 (5.85)	厚 (2.3)		
2044	橋脚部4	B4 25G	橋脚4包含層	山茶碗	12C後～13C初	渥美5	16.0	7.7	5.6 5.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	籾
2045	橋脚部4	B4 1G	橋脚4包含層	山茶碗	11C後～12C初?	渥美3?		8.3	(4.2)	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
2046	橋脚部4	B4 25G	橋脚4包含層	山茶碗小碗	12C後～13C初	渥美5	8.2	3.1	2.7 2.75	ﾛｸﾛ 高台貼付で回転糸切	自然釉
2047	橋脚部4	B3 1F	橋脚4包含層	中国製白磁皿	15C	小野B群	8.8	3.6	2.6	施釉	割高台4　貫入 見込胎土目痕
2048	橋脚部4	B4 25E	橋脚4包含層	中国製青磁碗	13C後?			7.4	(2.1)	施釉　見込･高台内釉削取	
2049	橋脚部4	B3 23D	橋脚4包含層	土師器皿	12C後～13C前		12.0		(2.4)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
2050	橋脚部4	B3 23D	橋脚4 PIT	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	3.3	2.6	ﾛｸﾛ　ﾍﾗ切	
2051	橋脚部4	B4 1B	橋脚4 PIT	土師器小皿	12C後～13C前		9.6		(1.9)	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押	
2052	橋脚部4	B3 25G	橋脚4 PIT	土師器小皿	12C後～13C前		9.8	4.4	1.2	内面:ﾖｺﾅﾃﾞ 外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 指押?	
2053	橋脚部4	A3 22W	SK139	山茶碗輪花碗	12C後～13C初	渥美5	16.2	7.7	5.7 5.9	ﾛｸﾛ　回転糸切	輪花1　施釉
2054	橋脚部4	B4 1E	SK139	山茶碗小碗	12C中	渥美4	8.6	3.6	2.5	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
2055	橋脚部4	B4 1E	SK139	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.4	3.6	2.6 2.7	ﾛｸﾛ　回転糸切	自然釉
2056	橋脚部4	B4 1E	SK139	山茶碗小皿	12C後～13C初	渥美5	8.8	5.3	2.3	ﾛｸﾛ 回転糸切で板目圧痕	見込ｶﾞﾗｽ質自然釉
2057	橋脚部4	B4 1E	SK139	土師器皿	12C後			6.9	(1.1)	ﾛｸﾛ?　回転糸切	内外面摩滅



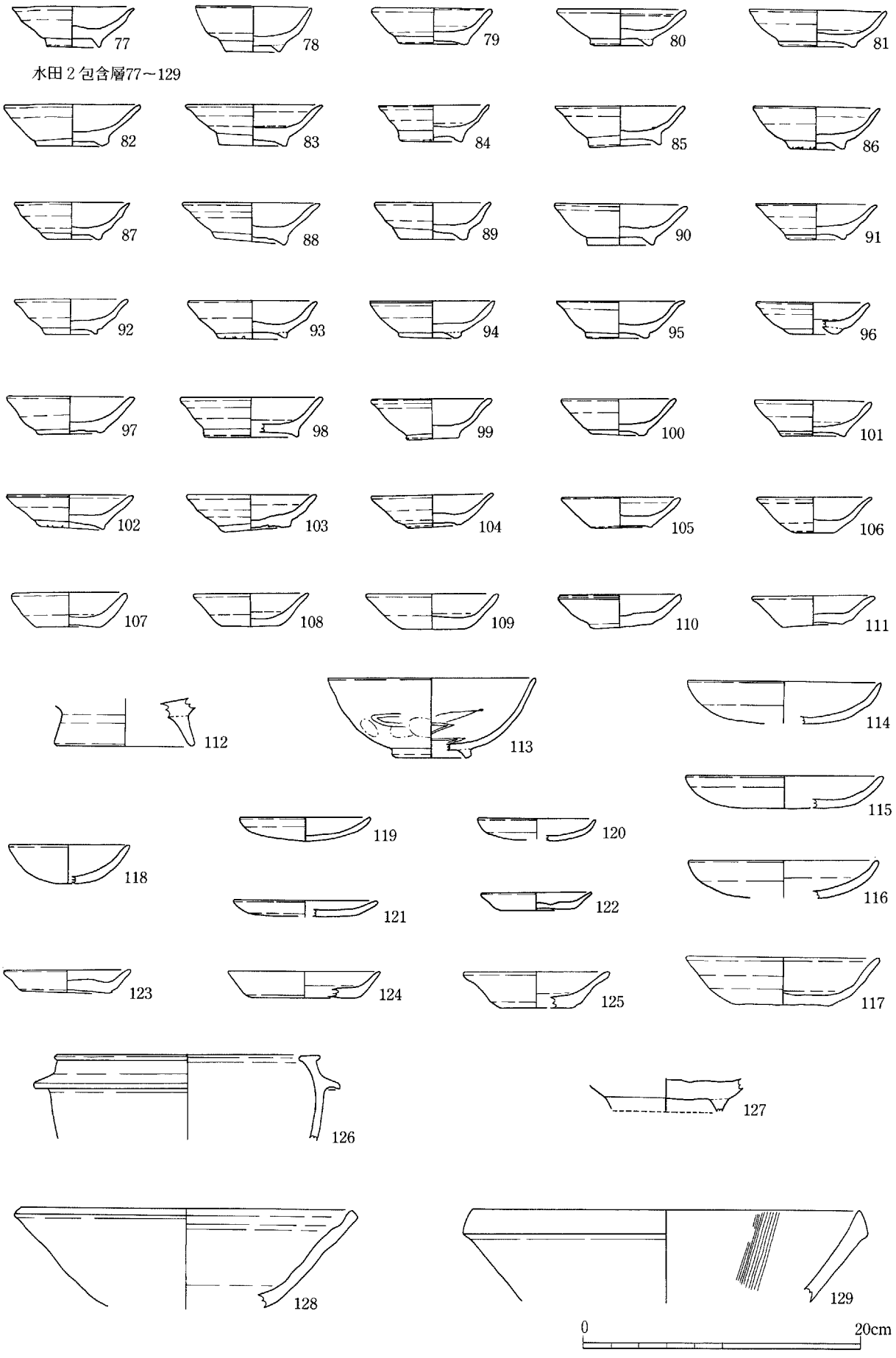
第99図　川関遺跡遺物実測図1



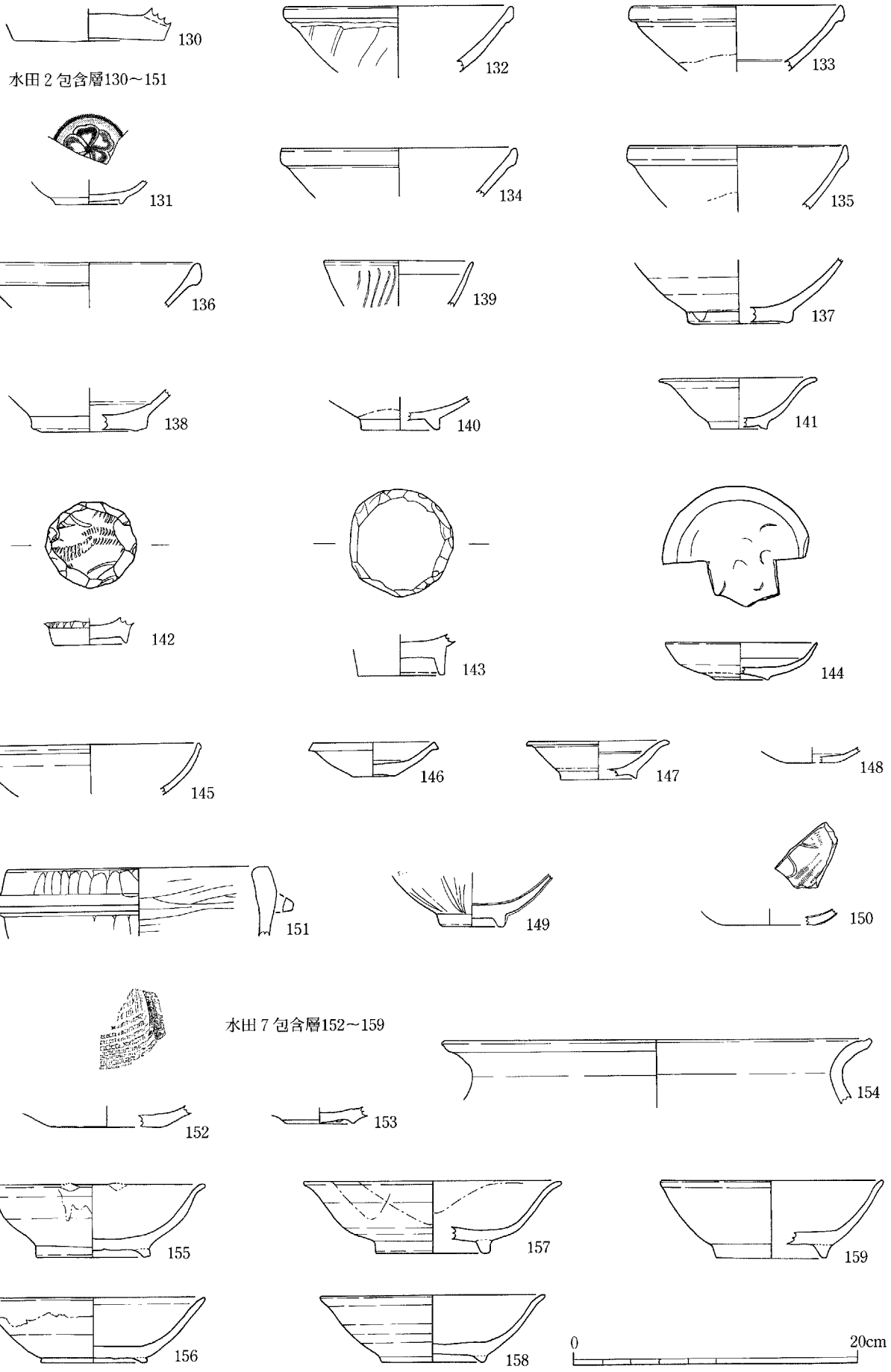
水田１包含層36～53

水田２包含層54～76

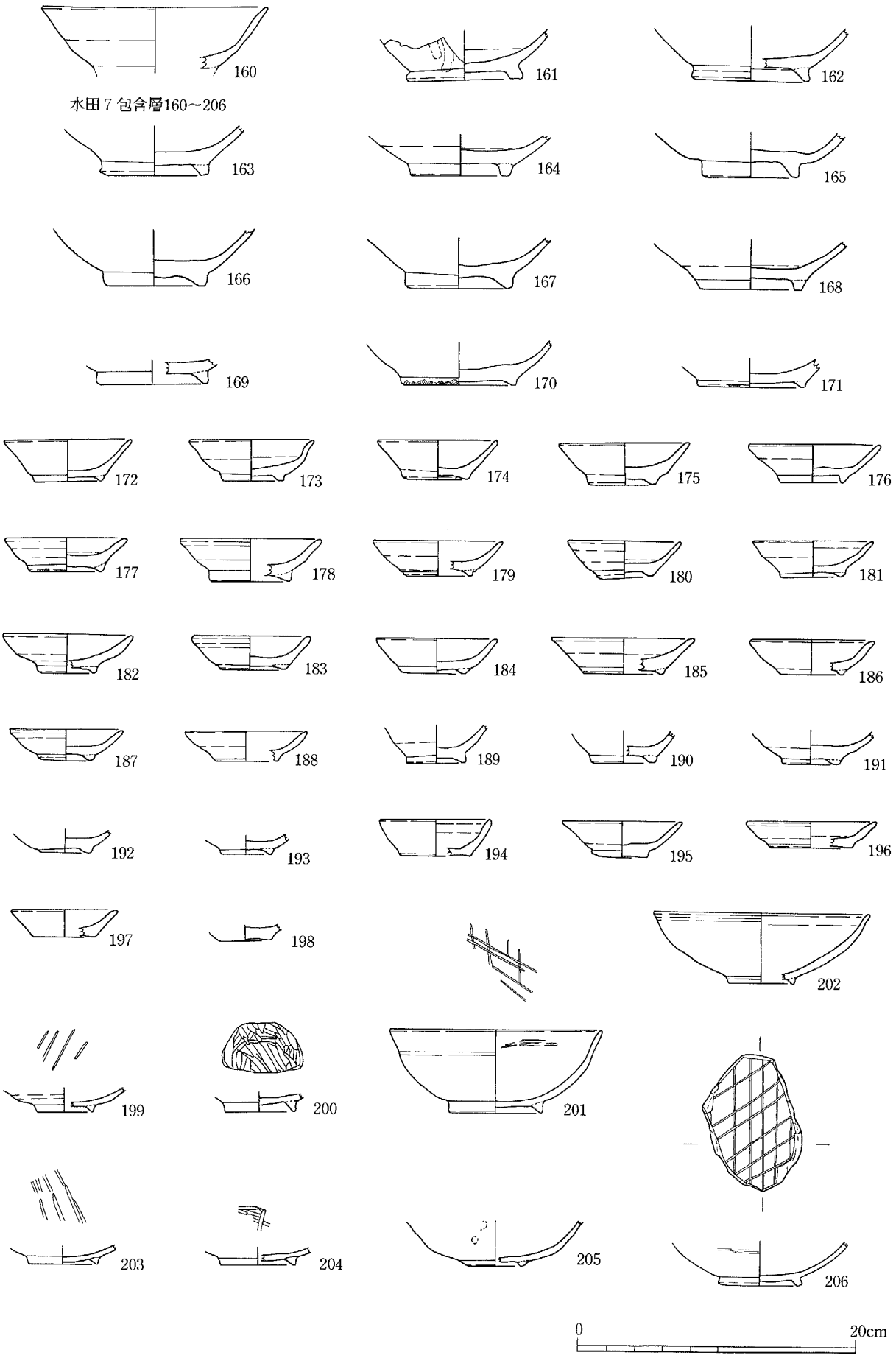
第100図　川関遺跡遺物実測図２



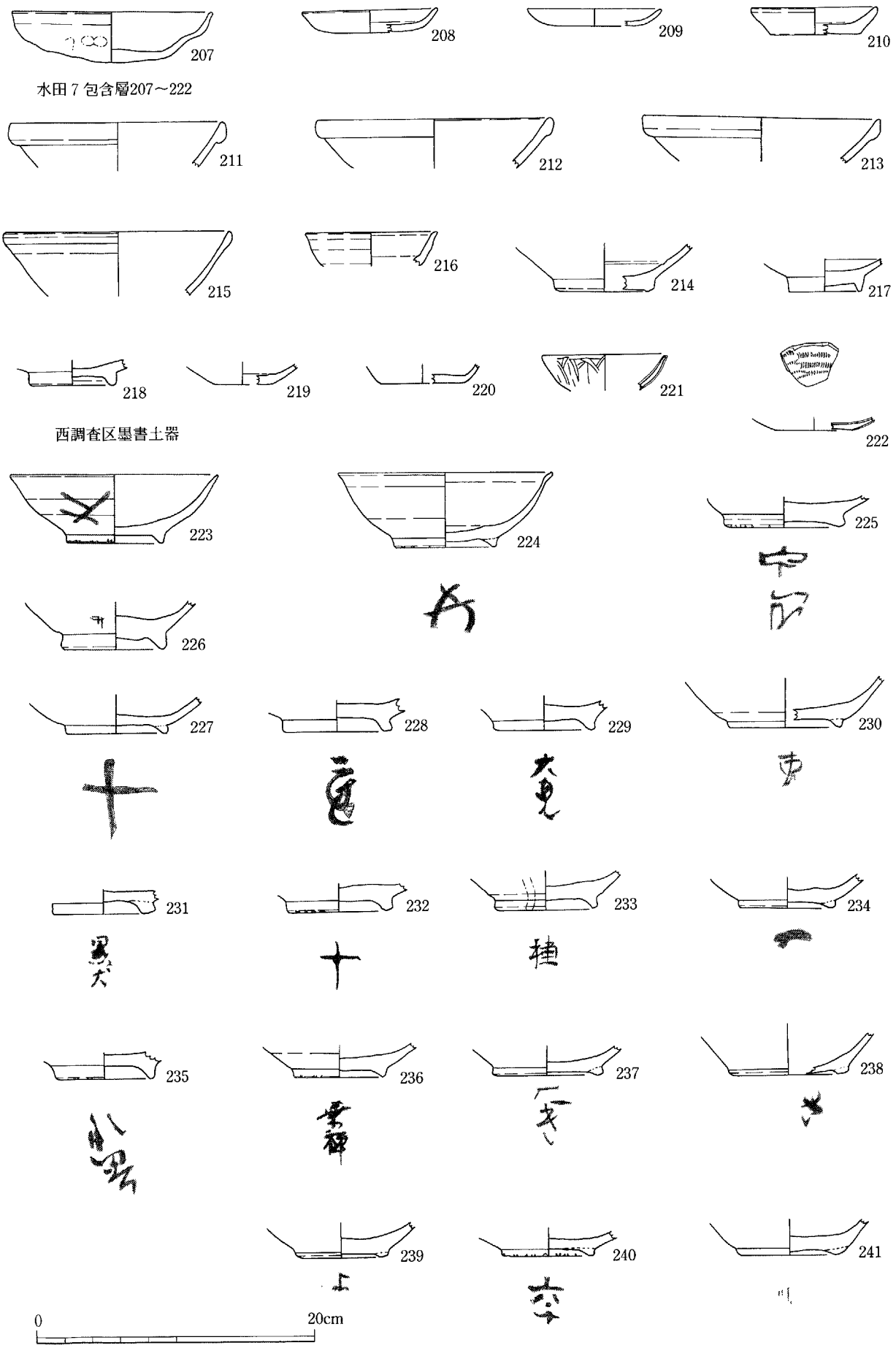
第101図　川関遺跡遺物実測図３



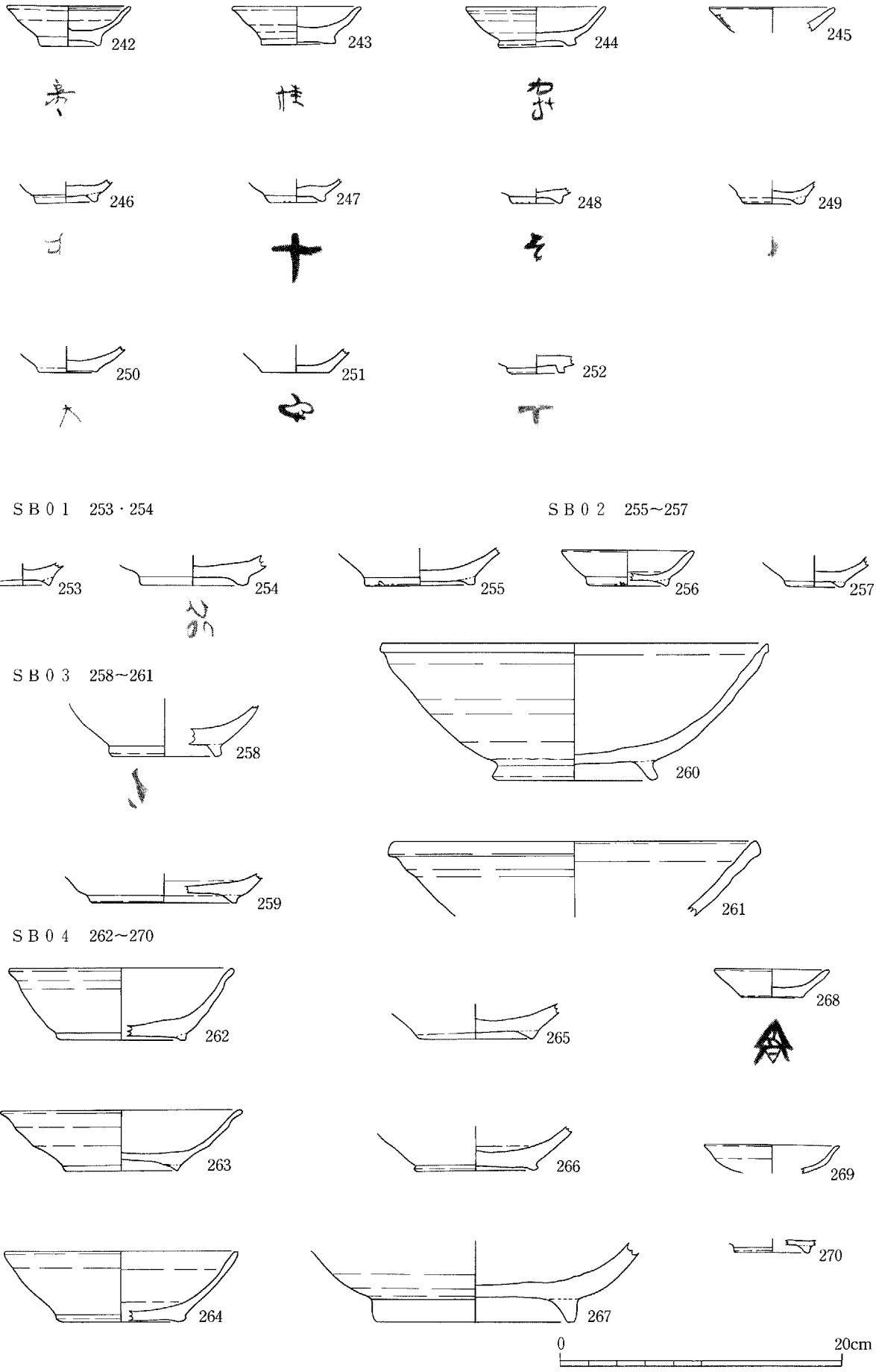
第102図　川関遺跡遺物実測図4



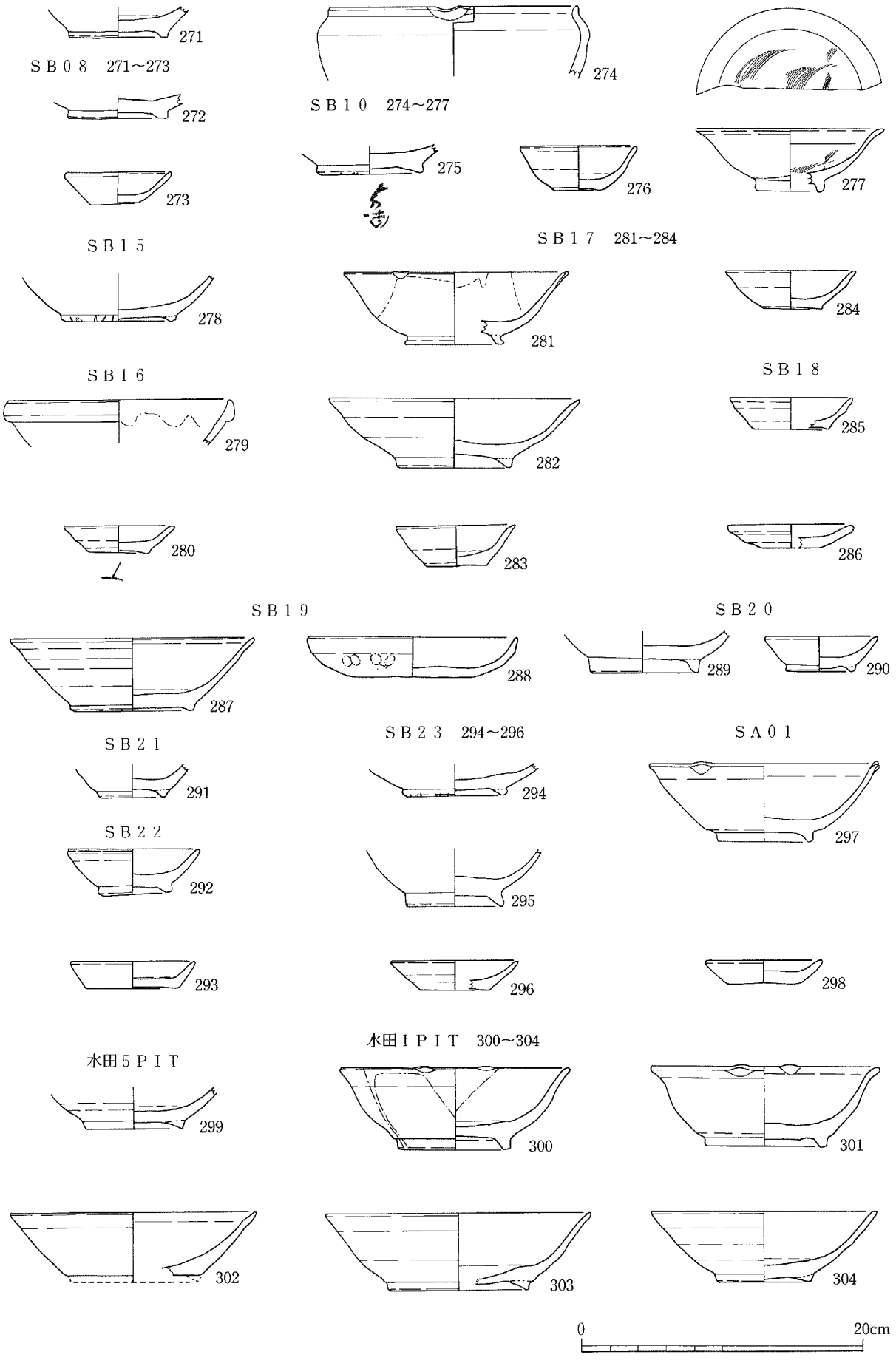
第103図　川関遺跡遺物実測図5



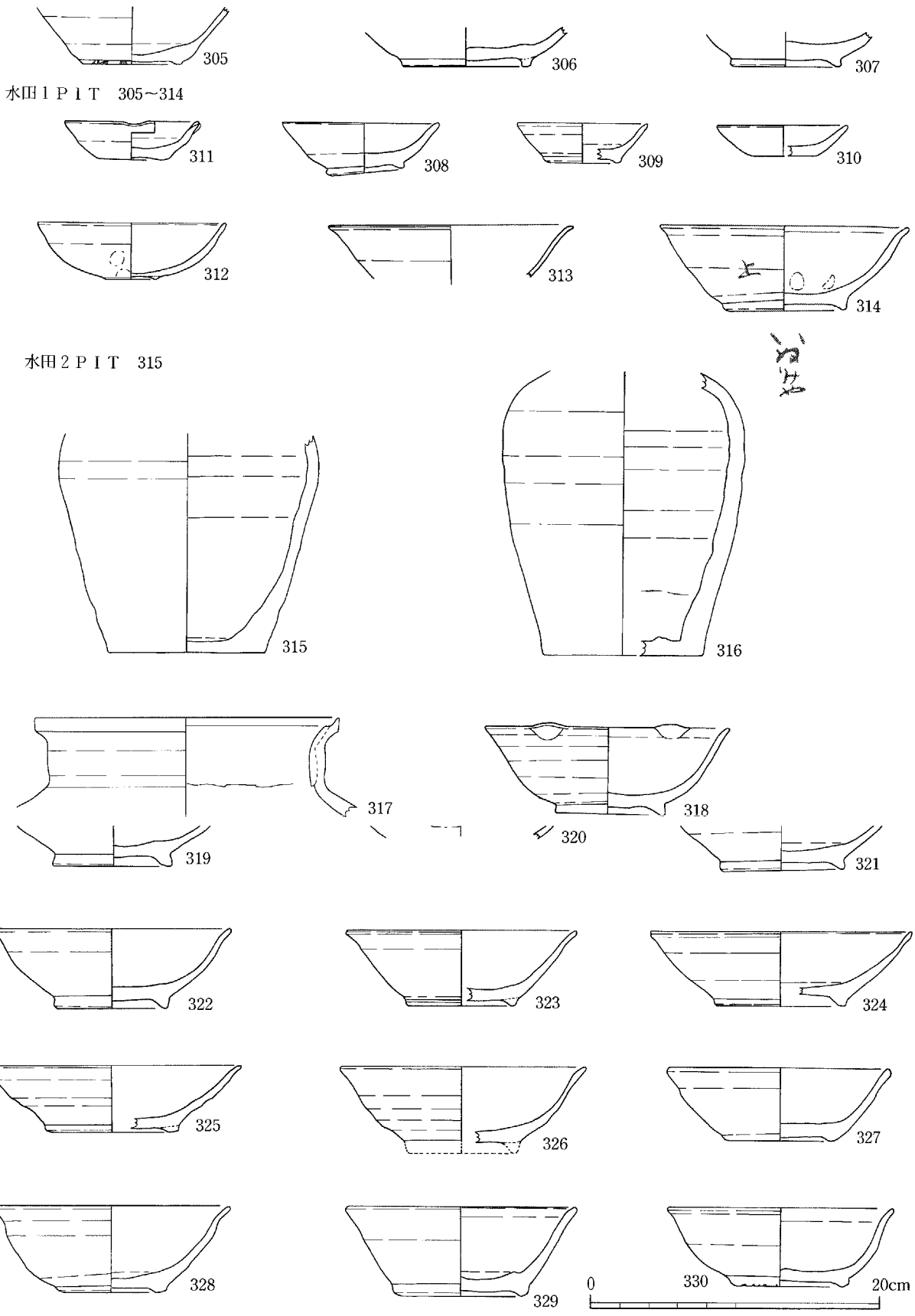
第104図　川関遺跡遺物実測図６



第105図　川関遺跡遺物実測図７

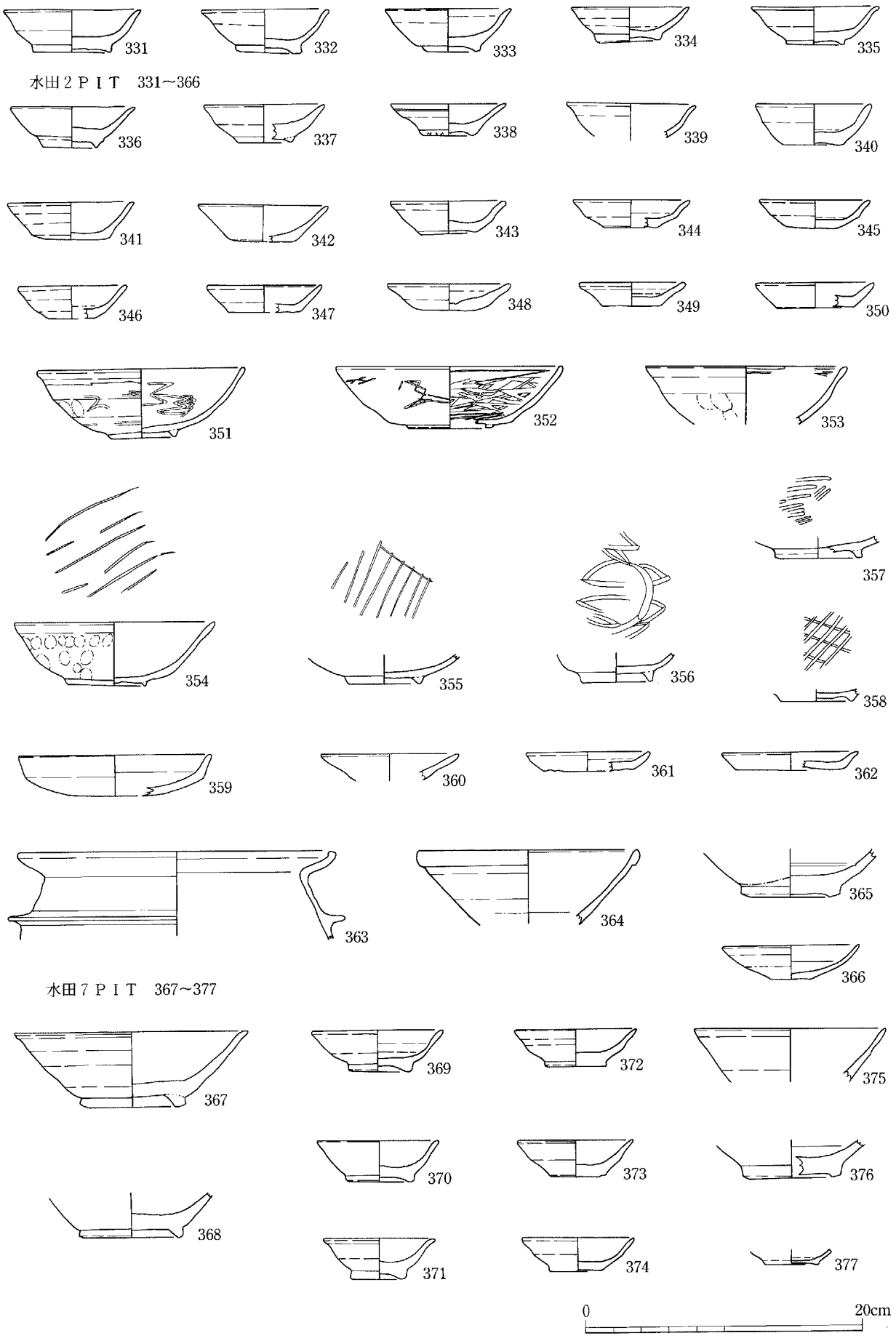


第106図　川関遺跡遺物実測図 8

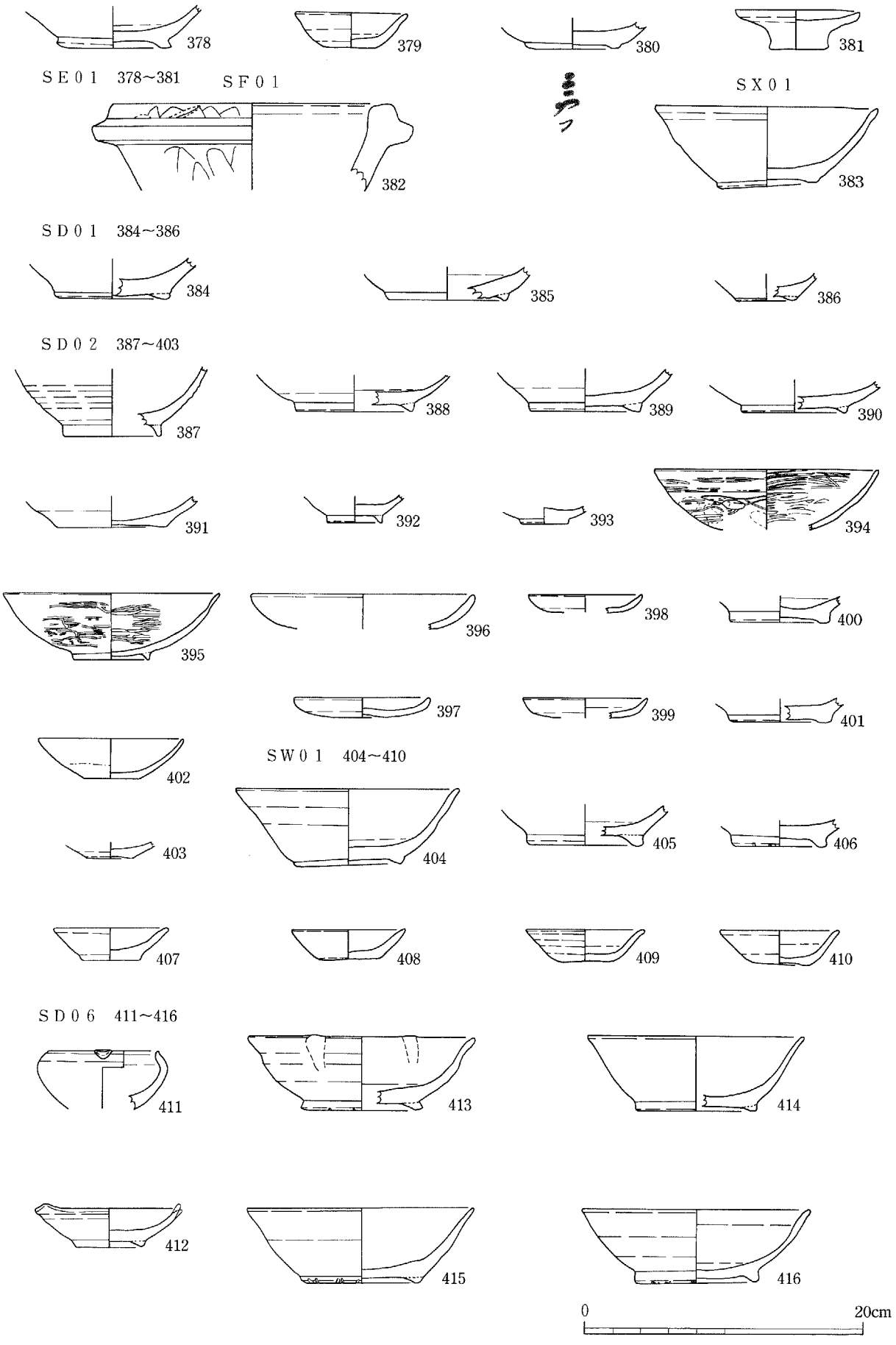


第107図　川関遺跡遺物実測図９

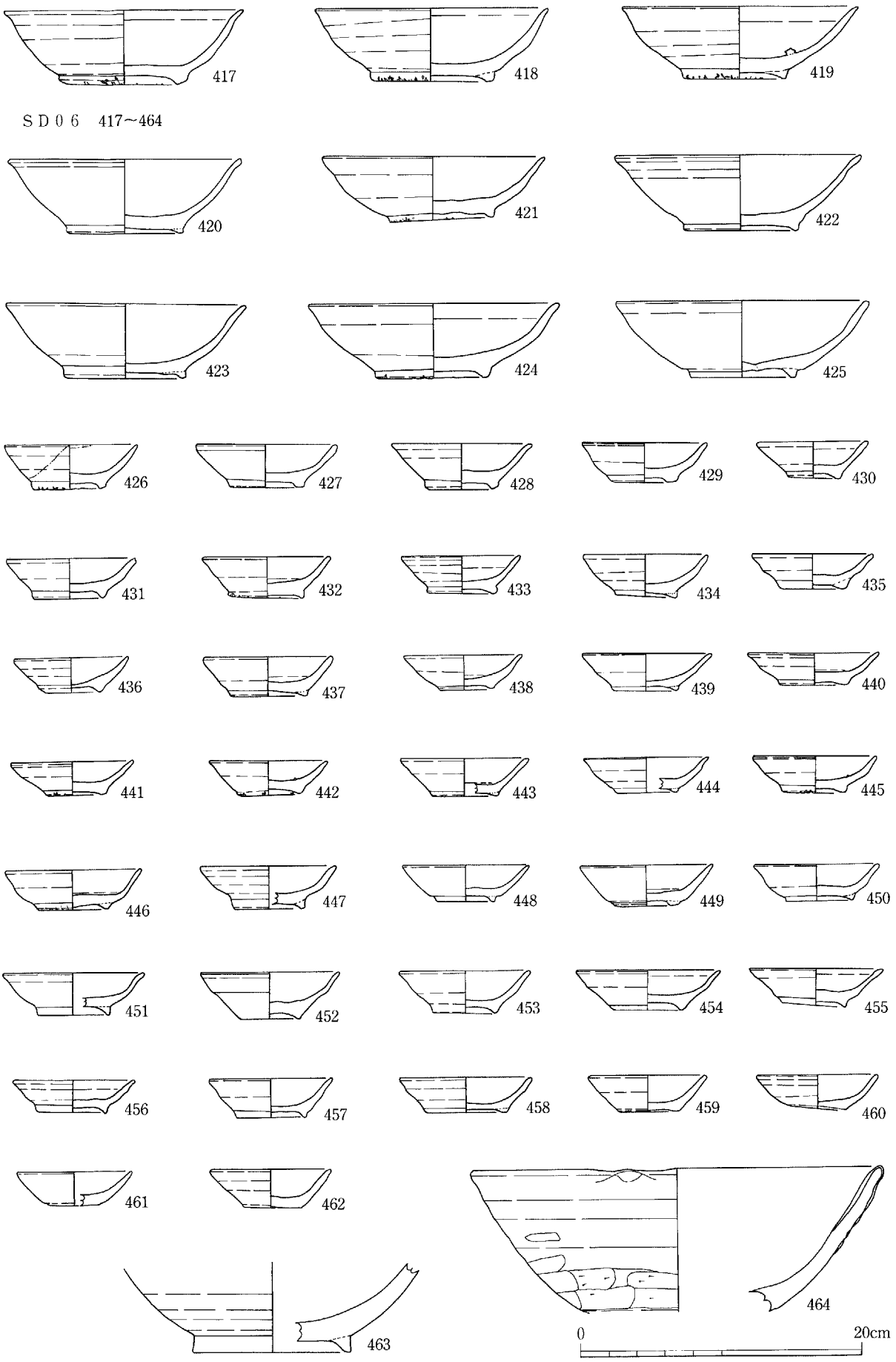




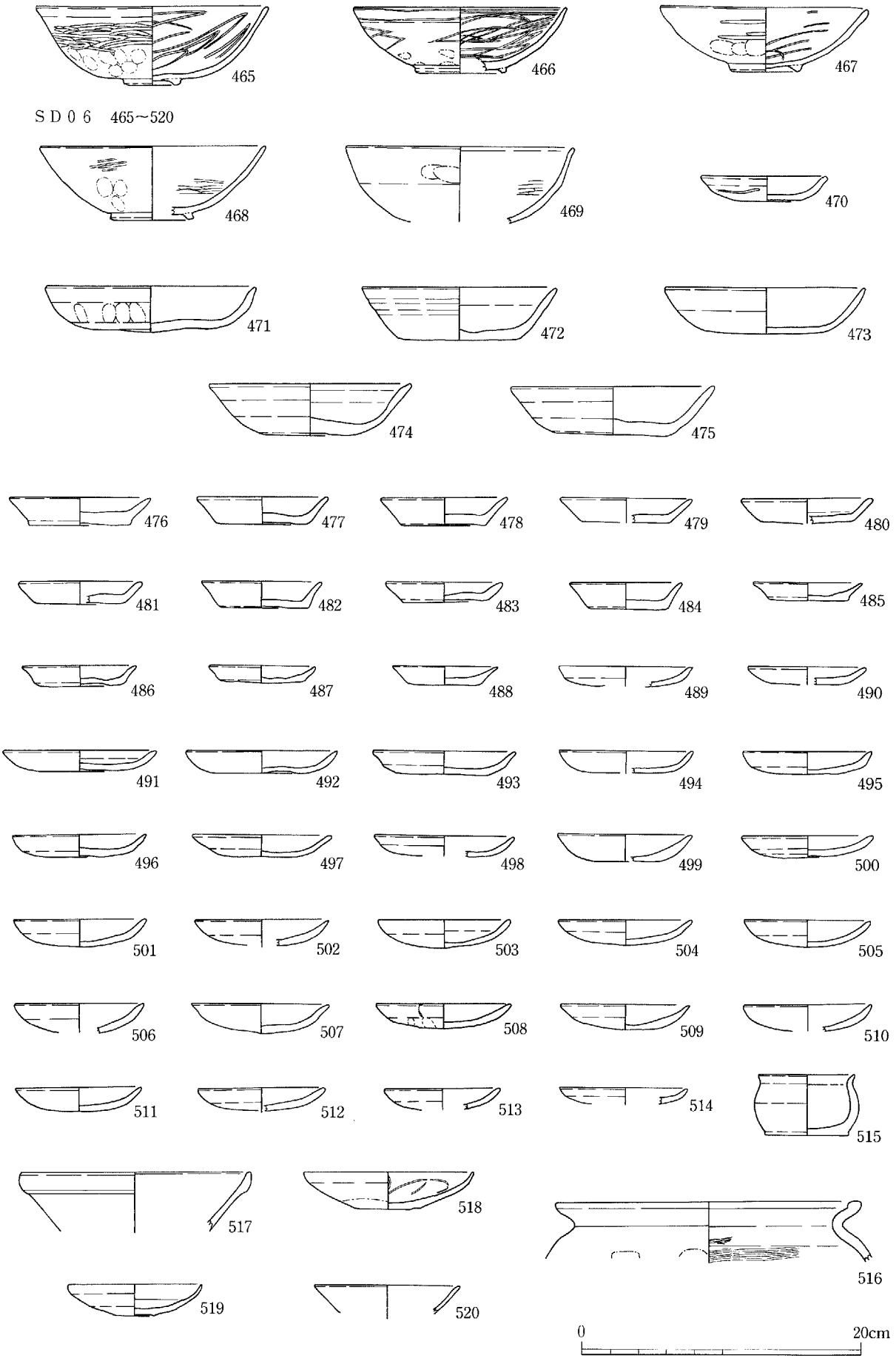
第108図　川関遺跡遺物実測図10



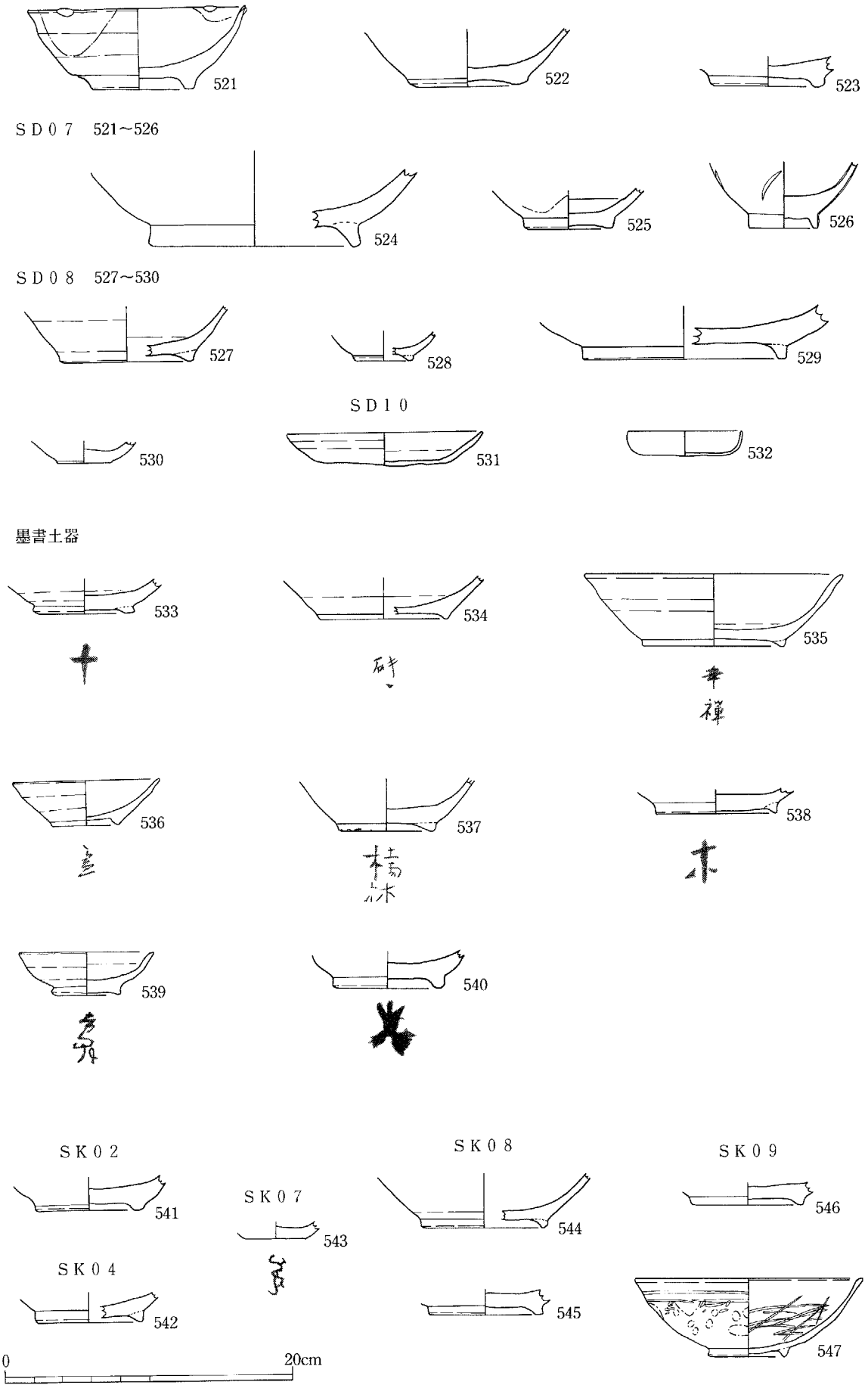
第109図　川関遺跡遺物実測図11



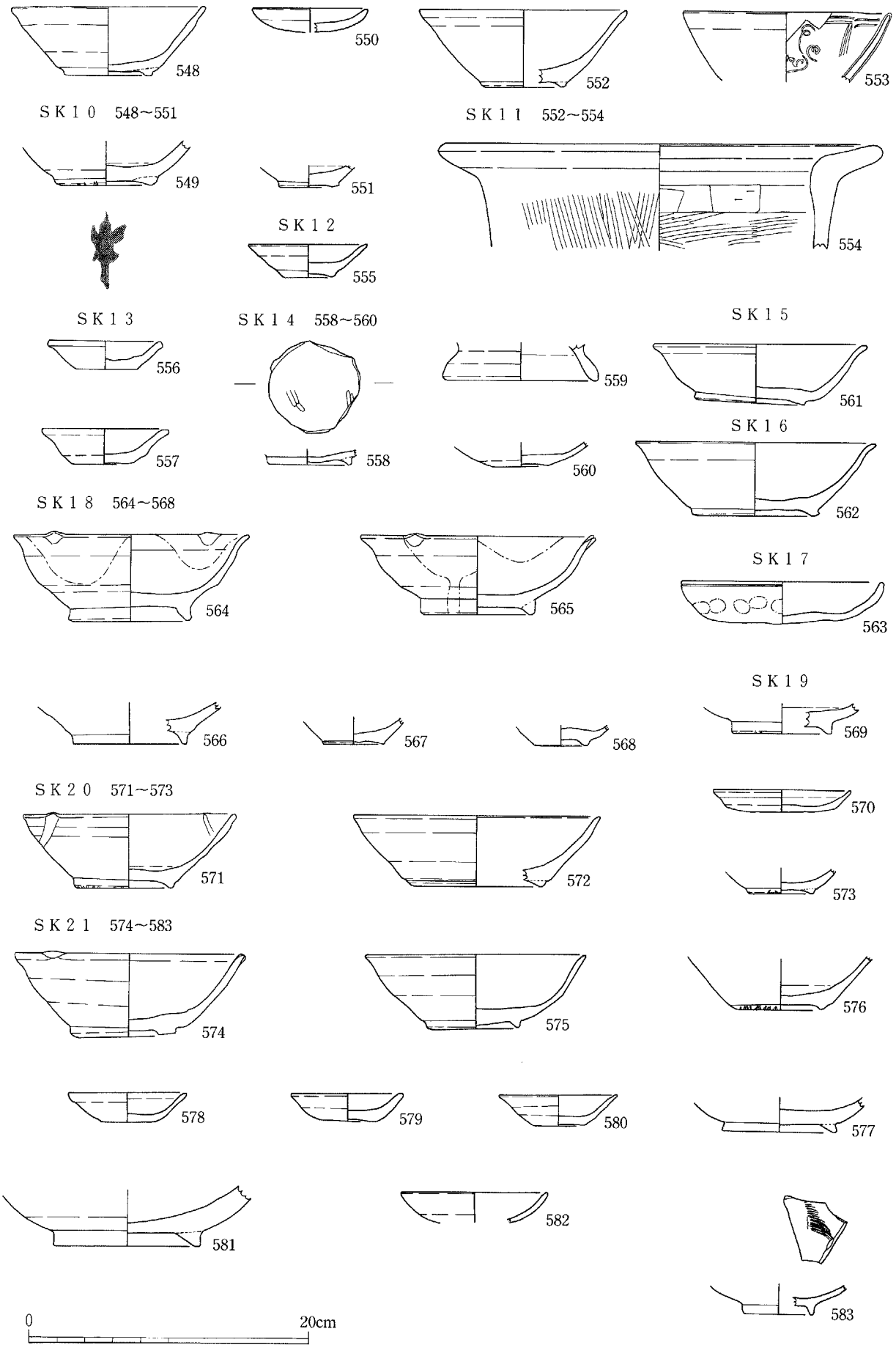
第110図　川関遺跡遺物実測図12



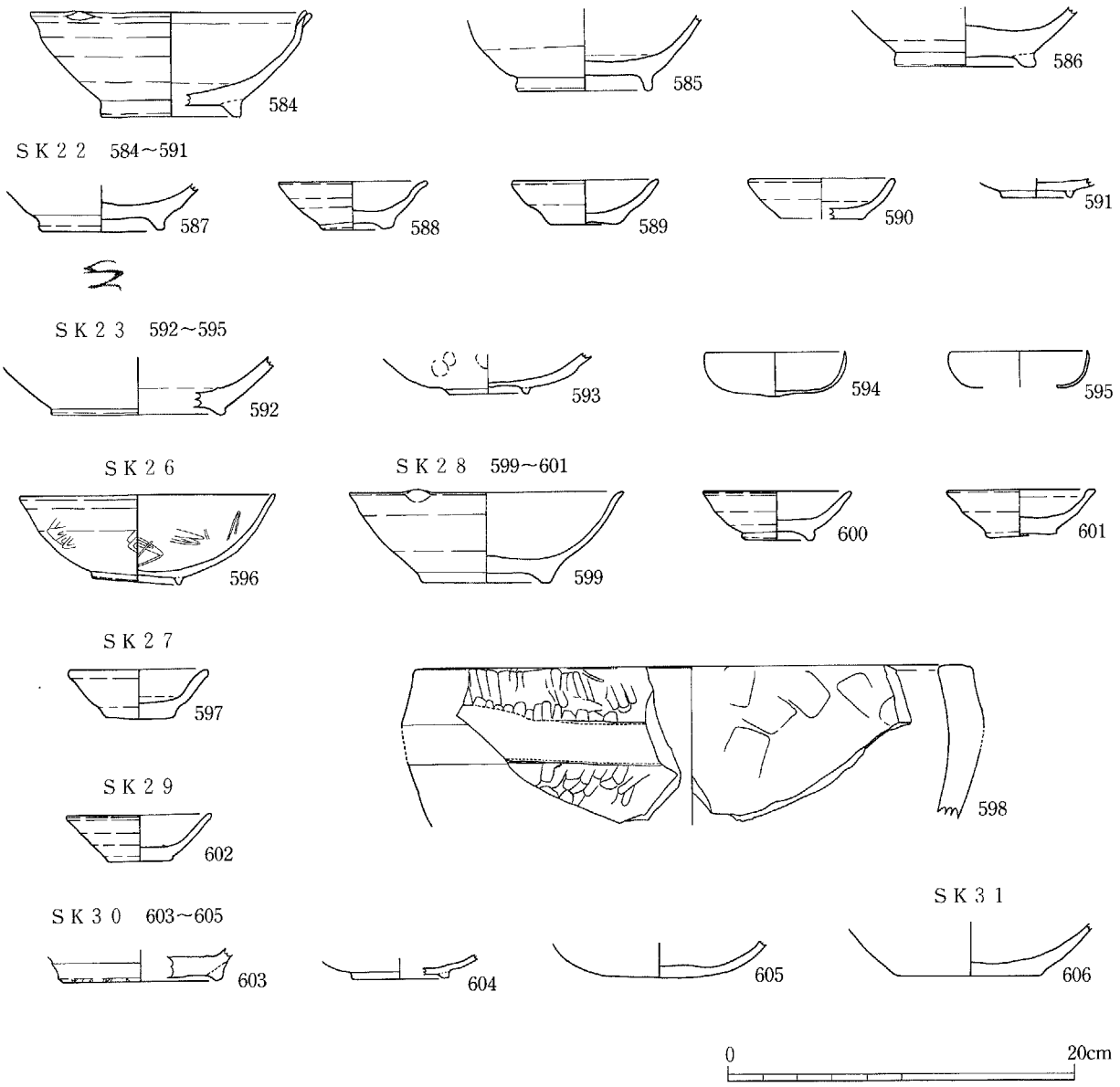
第111図　川関遺跡遺物実測図13



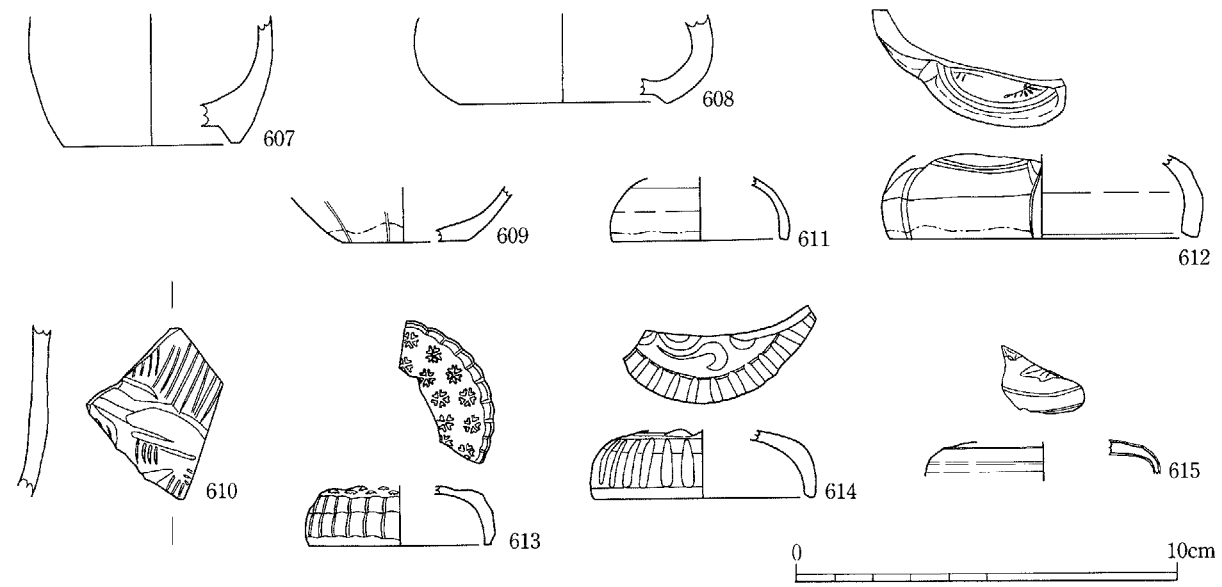
第112図　川関遺跡遺物実測図14



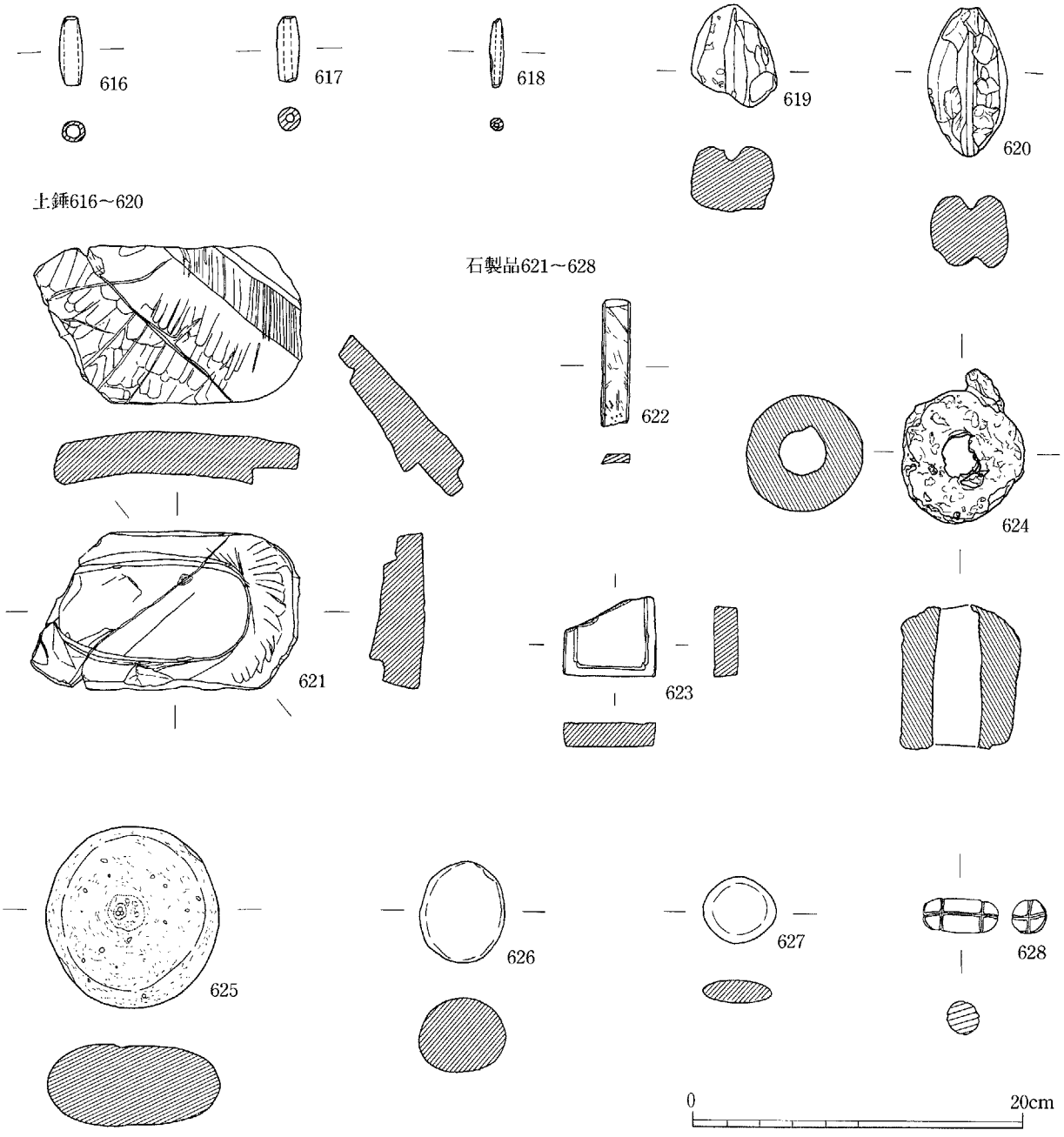
第113図　川関遺跡遺物実測図15



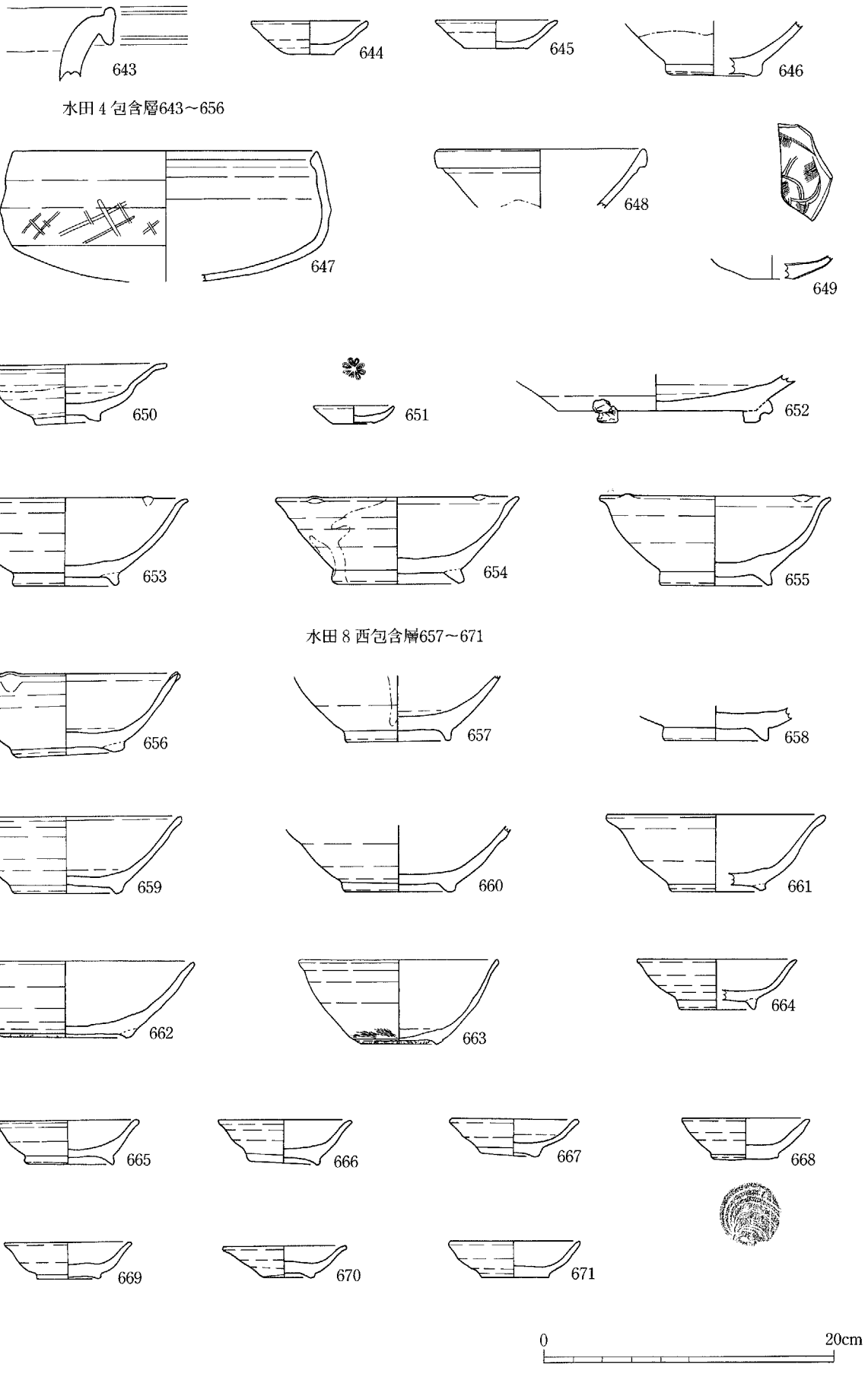
白磁小壺・合子類607～615



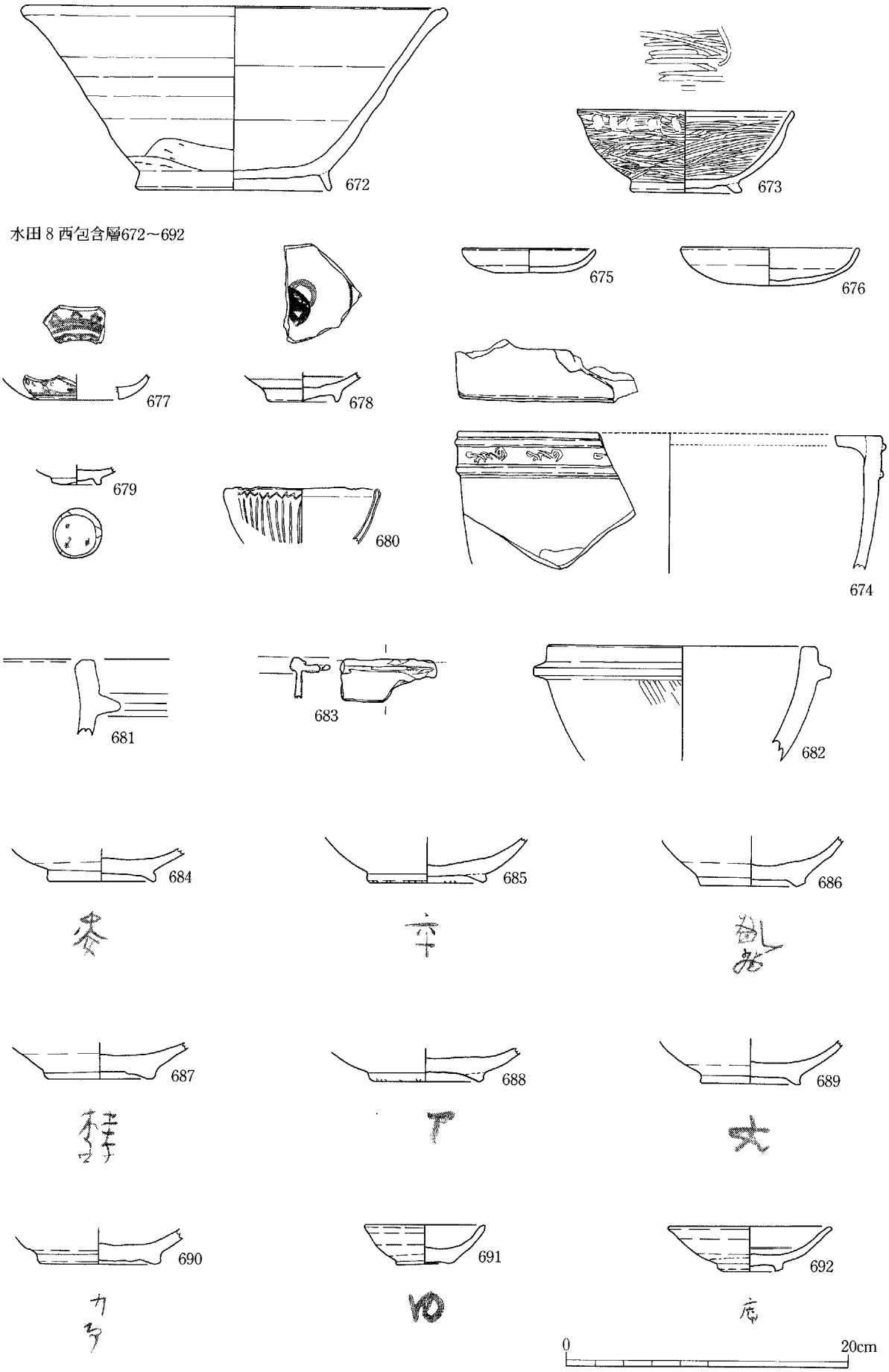
第114図　川関遺跡遺物実測図16



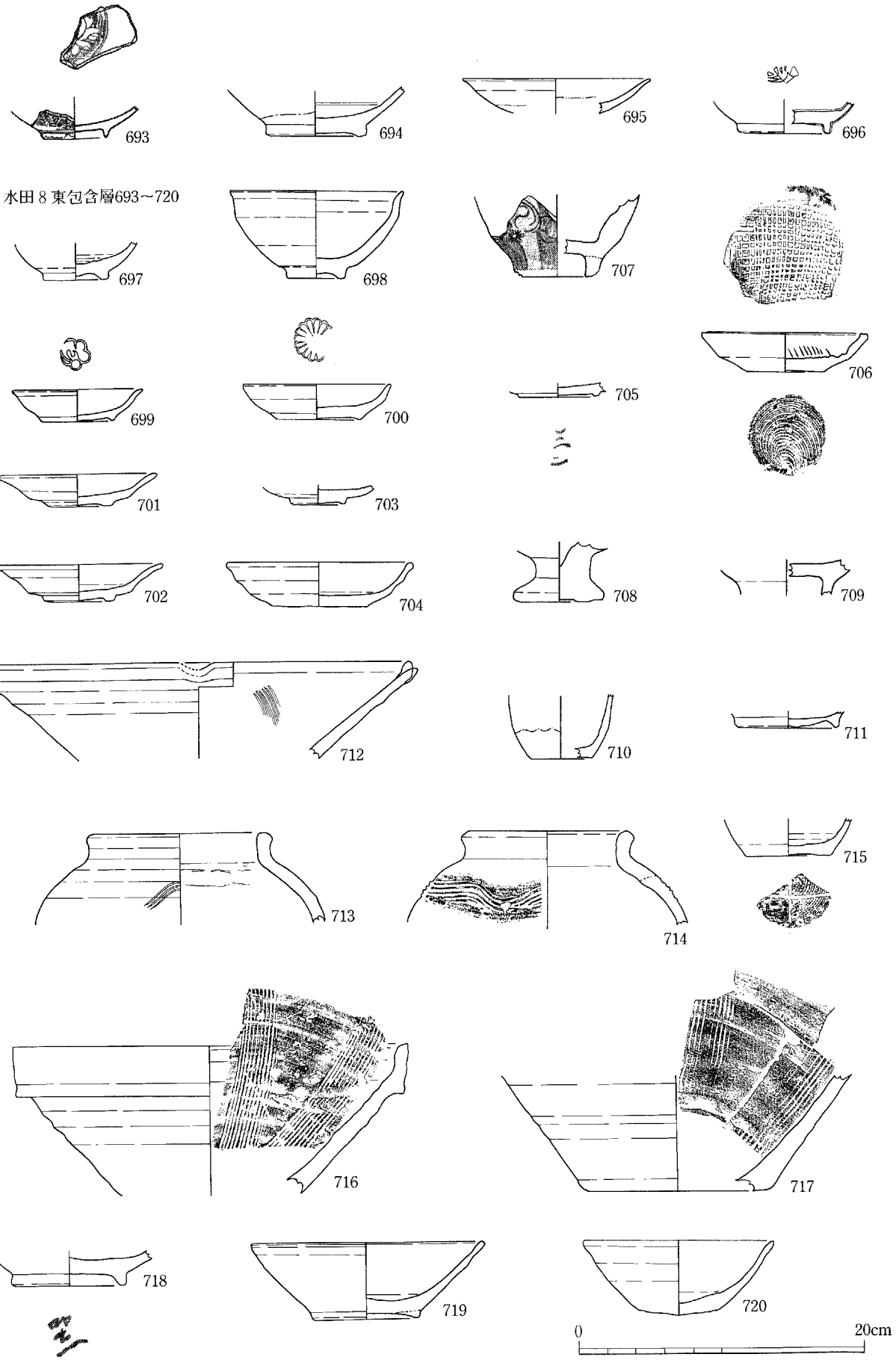
第115図　川関遺跡遺物実測図17



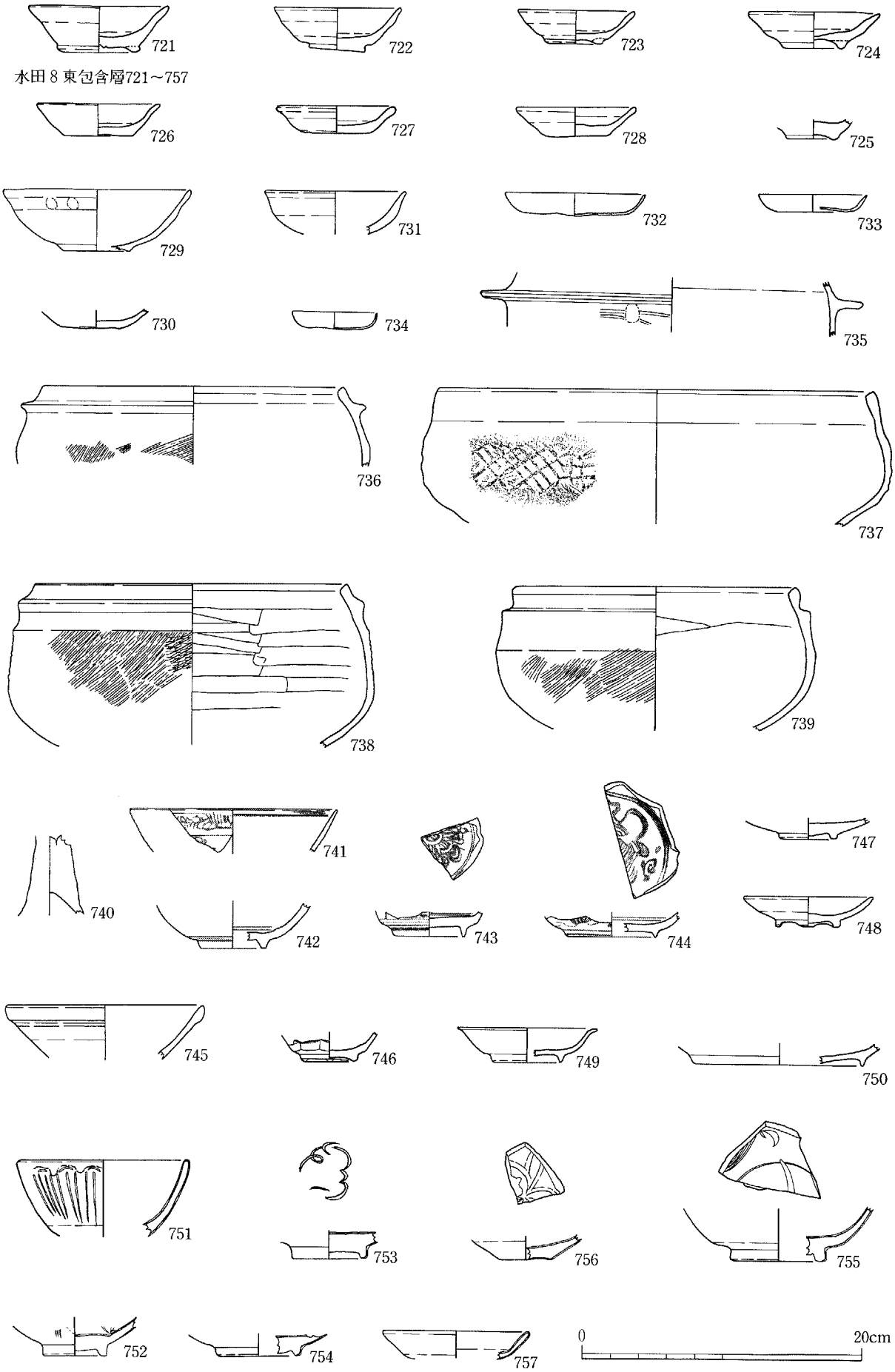
第116図　川関遺跡遺物実測図18



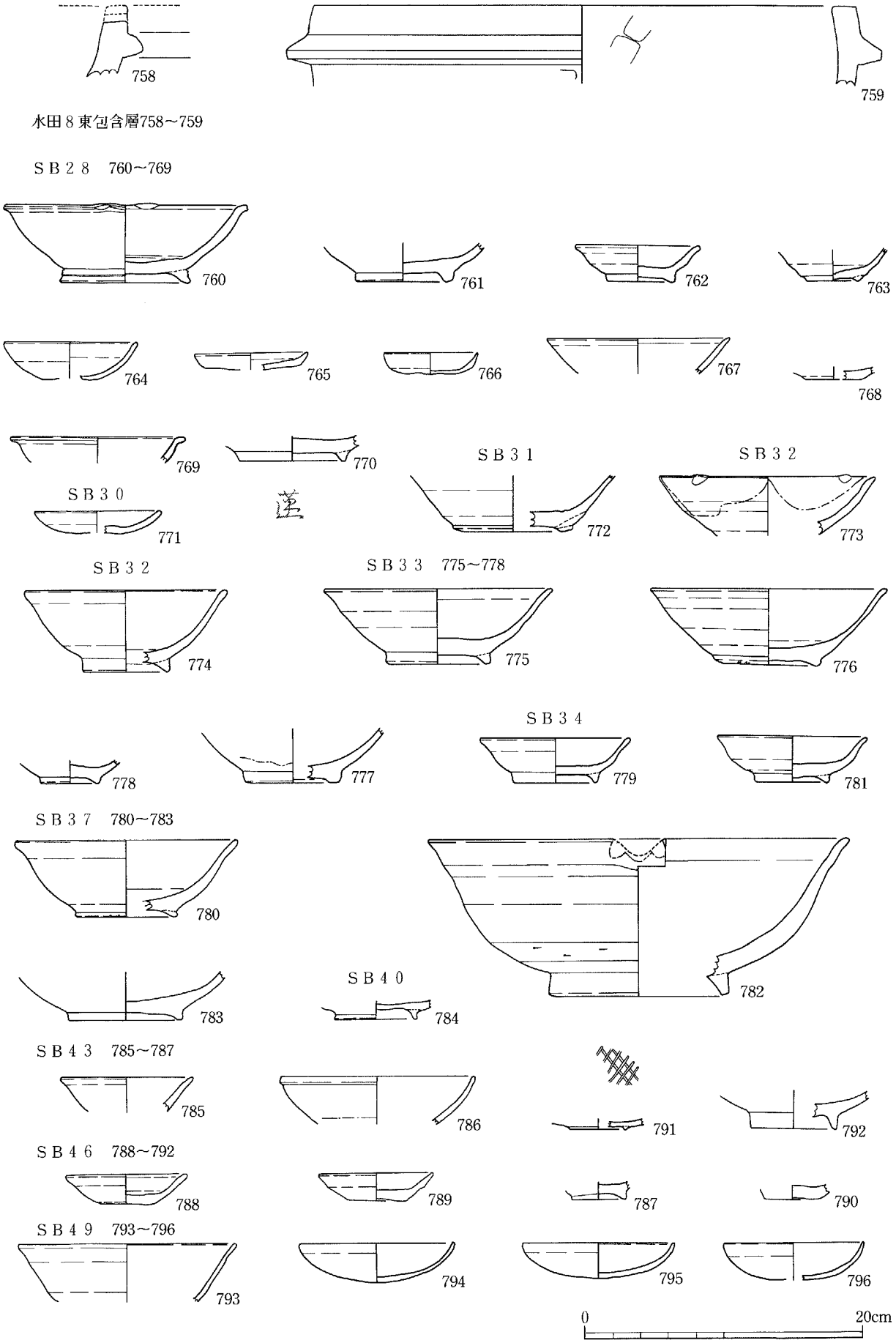
第117図　川関遺跡遺物実測図19



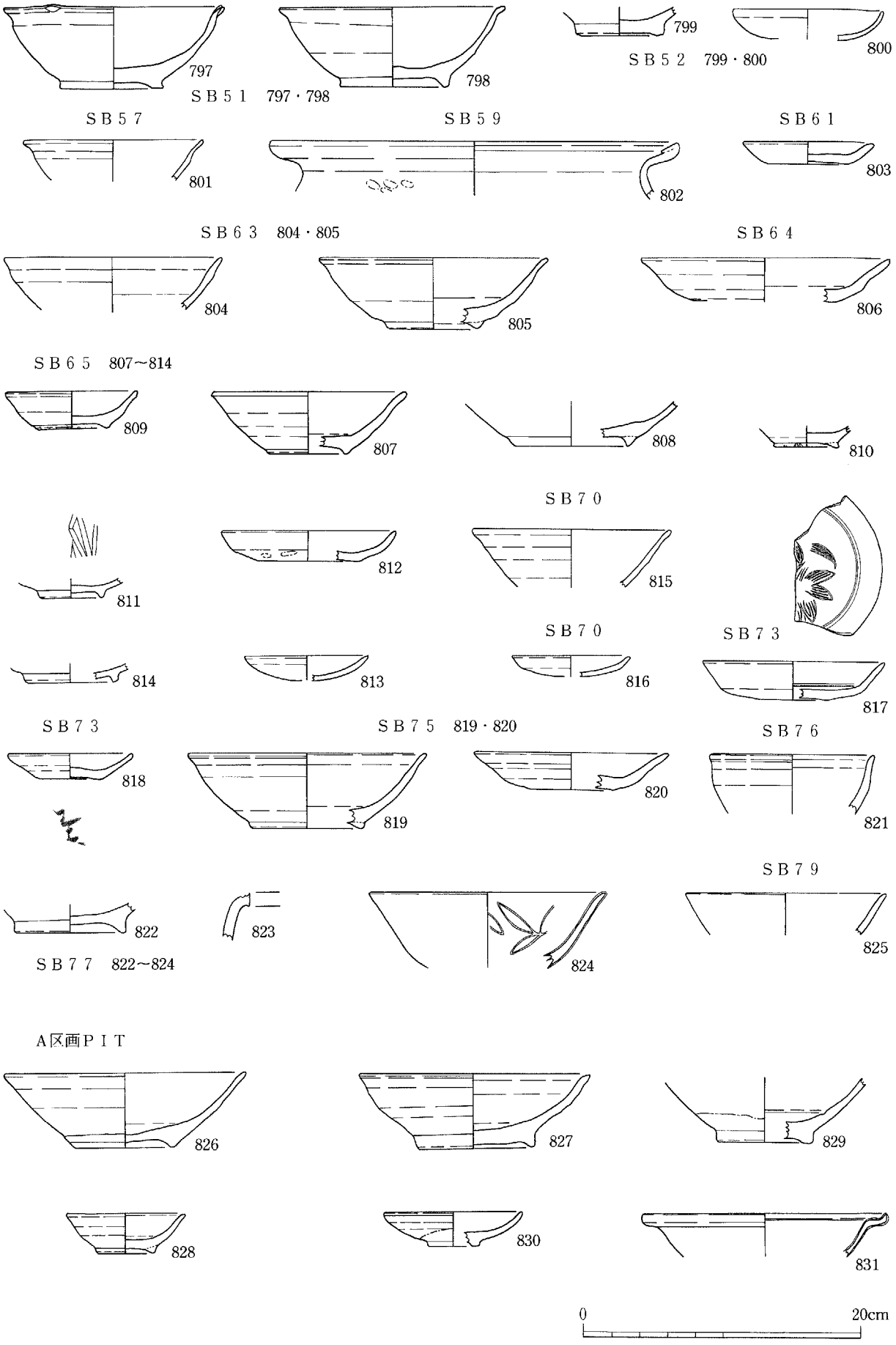
第118図　川関遺跡遺物実測図20



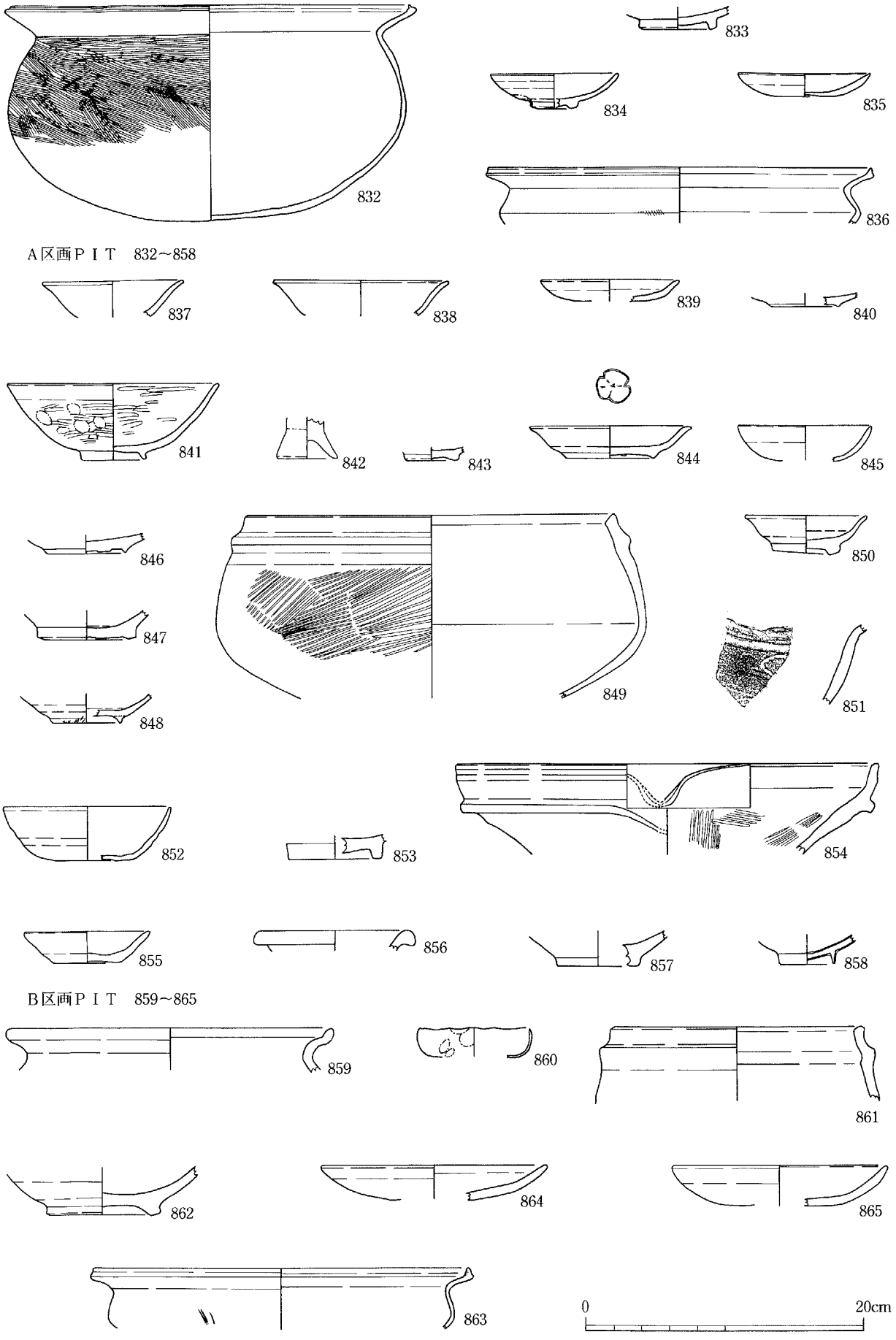
第119図　川関遺跡遺物実測図21



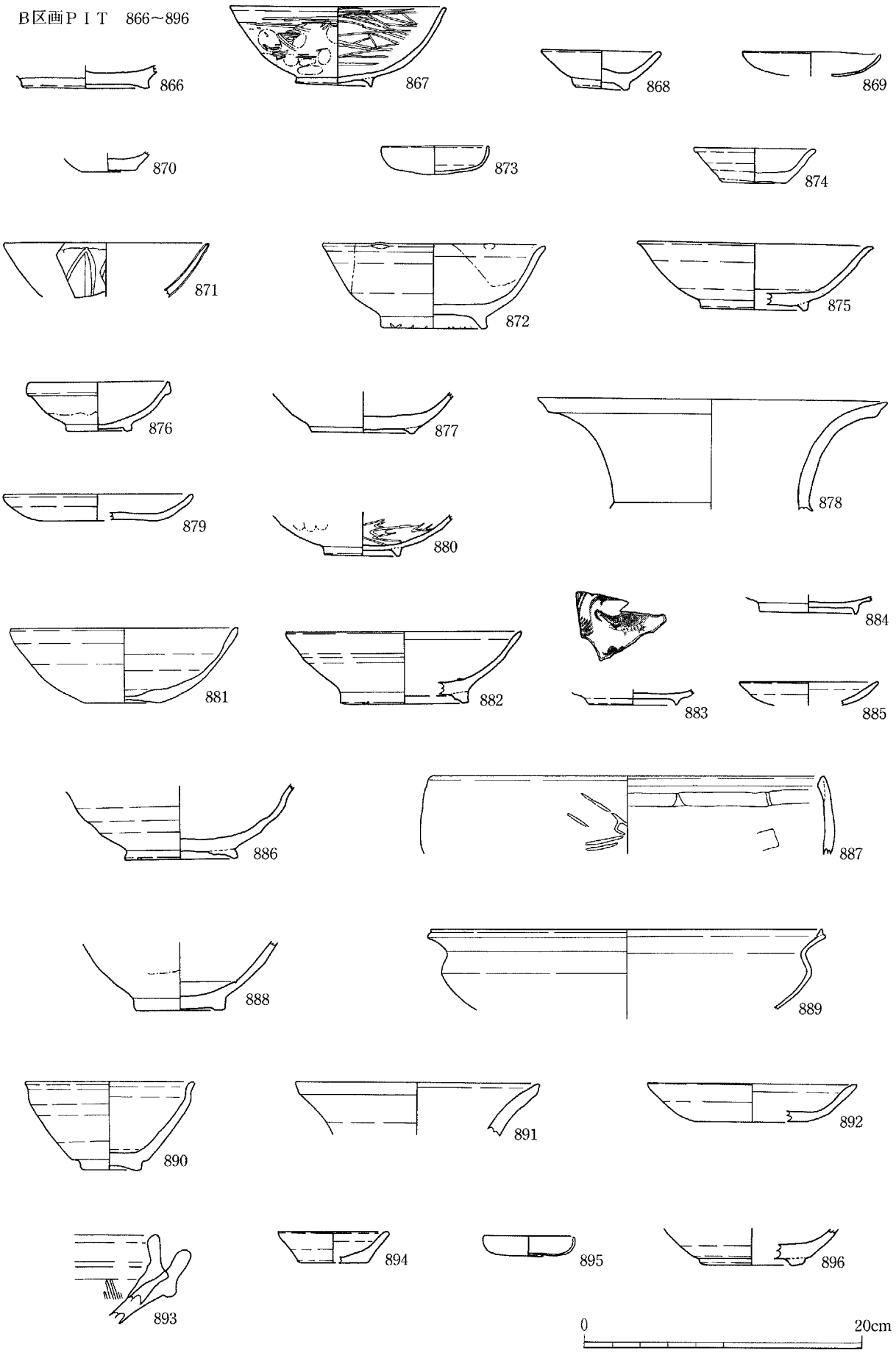
第120図　川関遺跡遺物実測図22



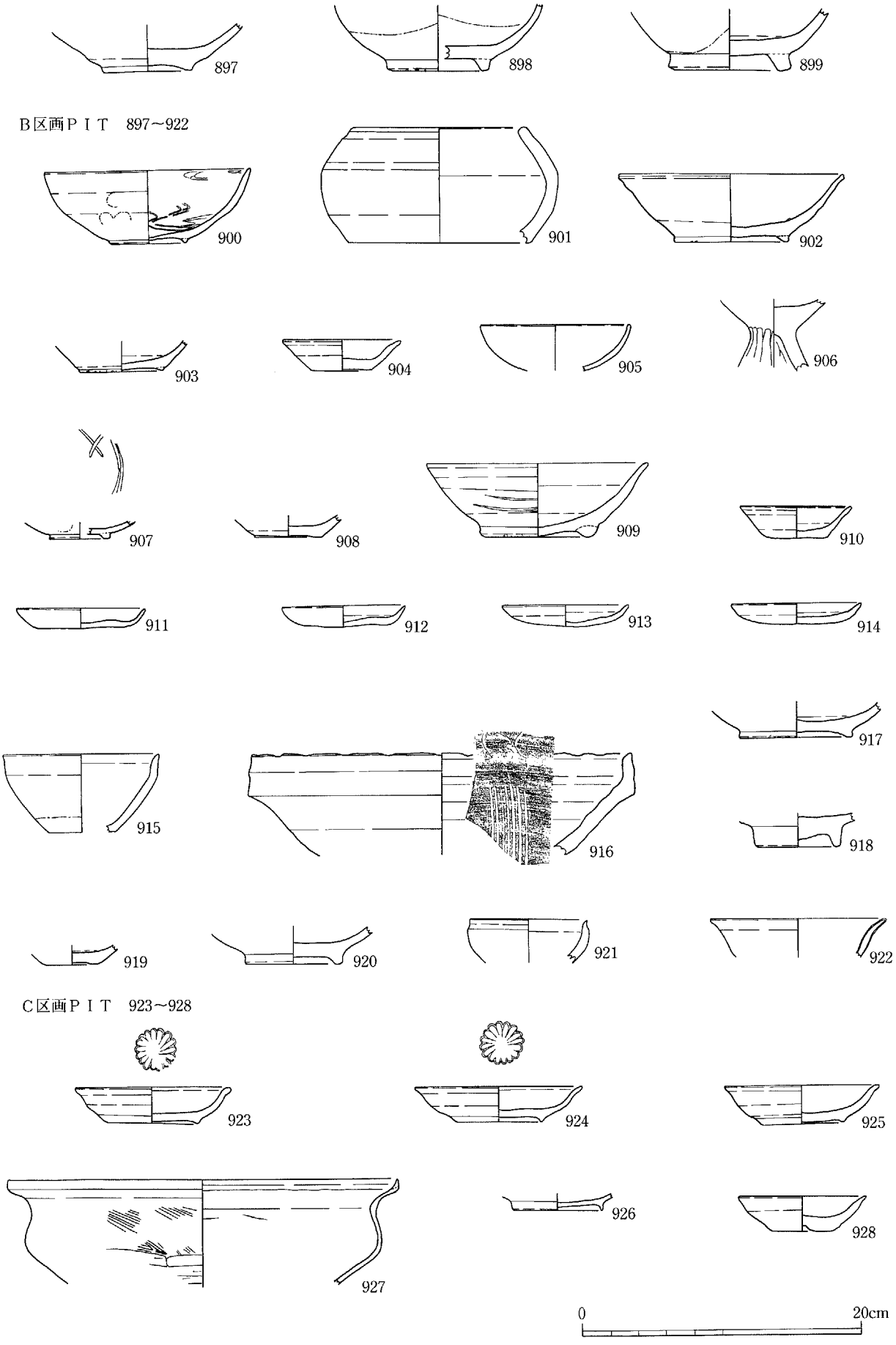
第121図　川関遺跡遺物実測図23



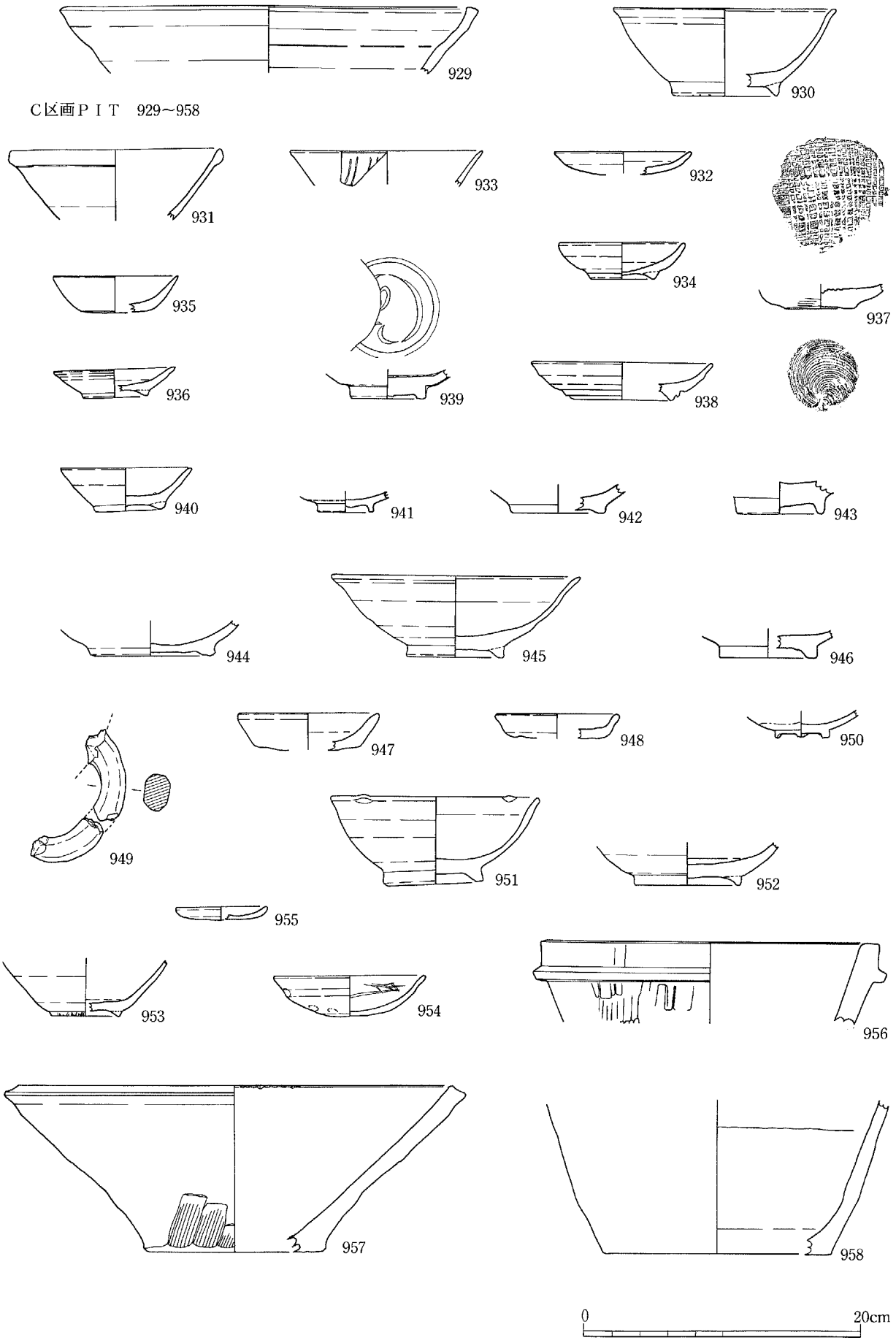
第122図　川関遺跡遺物実測図24



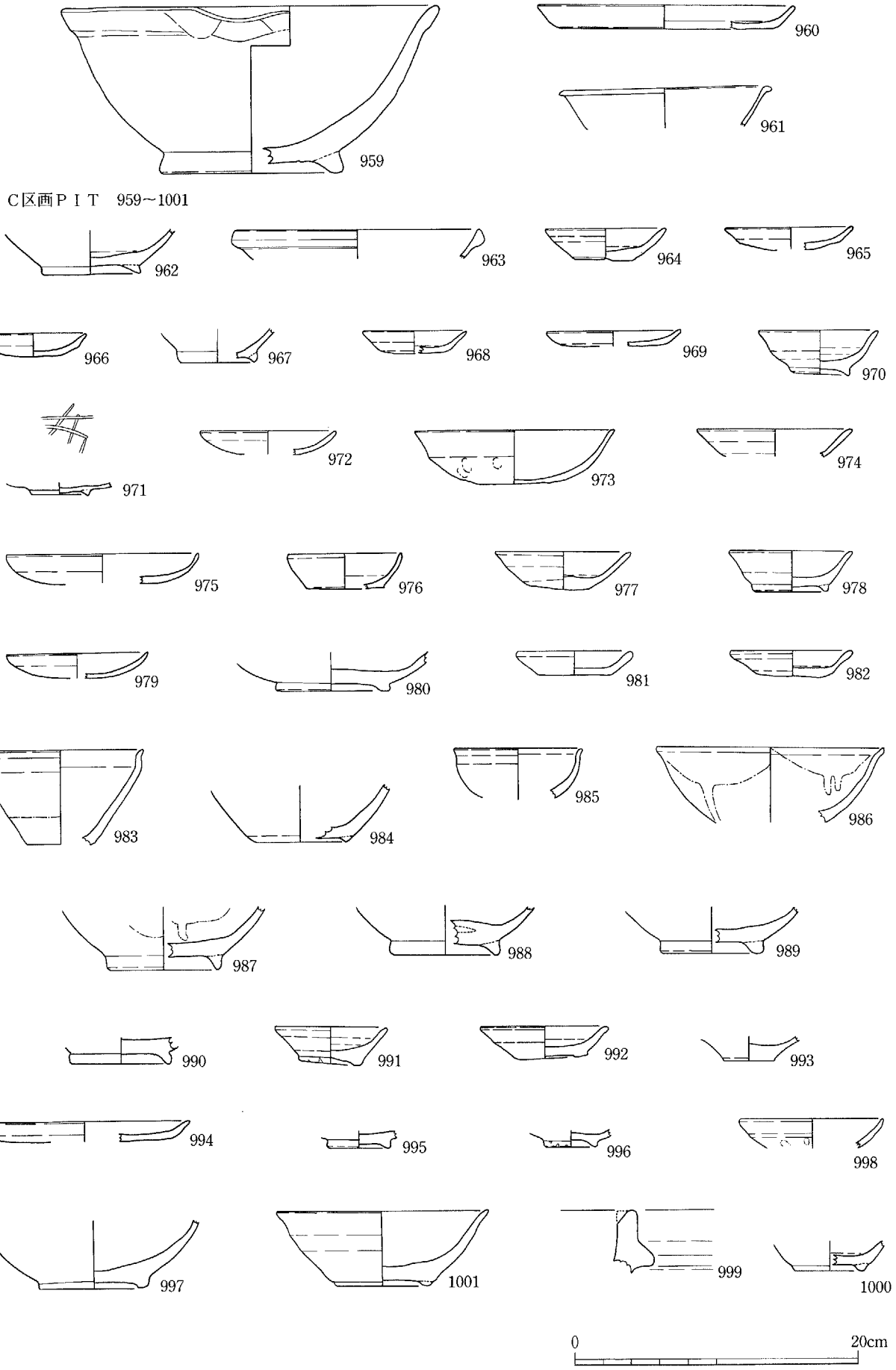
第123図　川関遺跡遺物実測図25



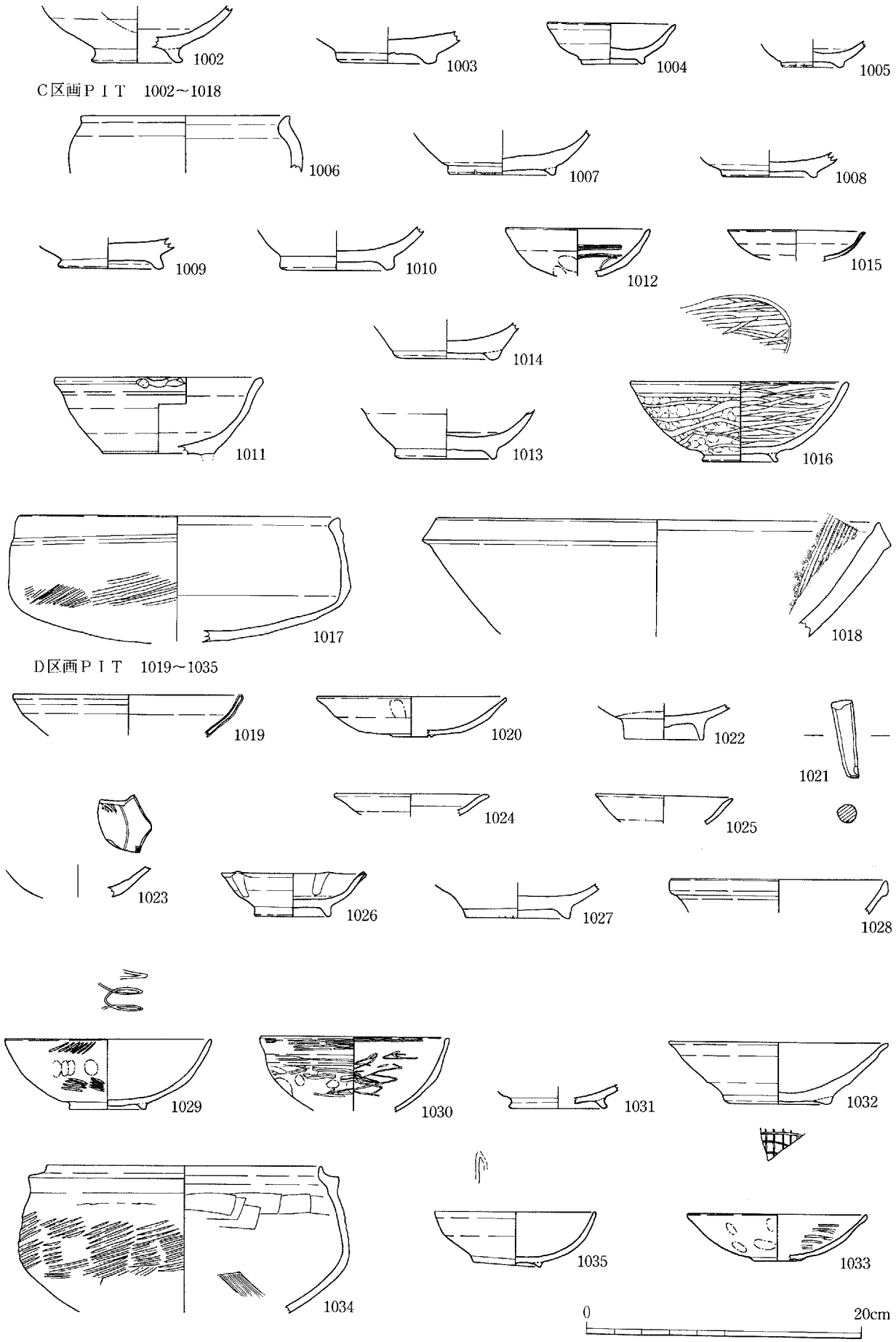
第124図　川関遺跡遺物実測図26



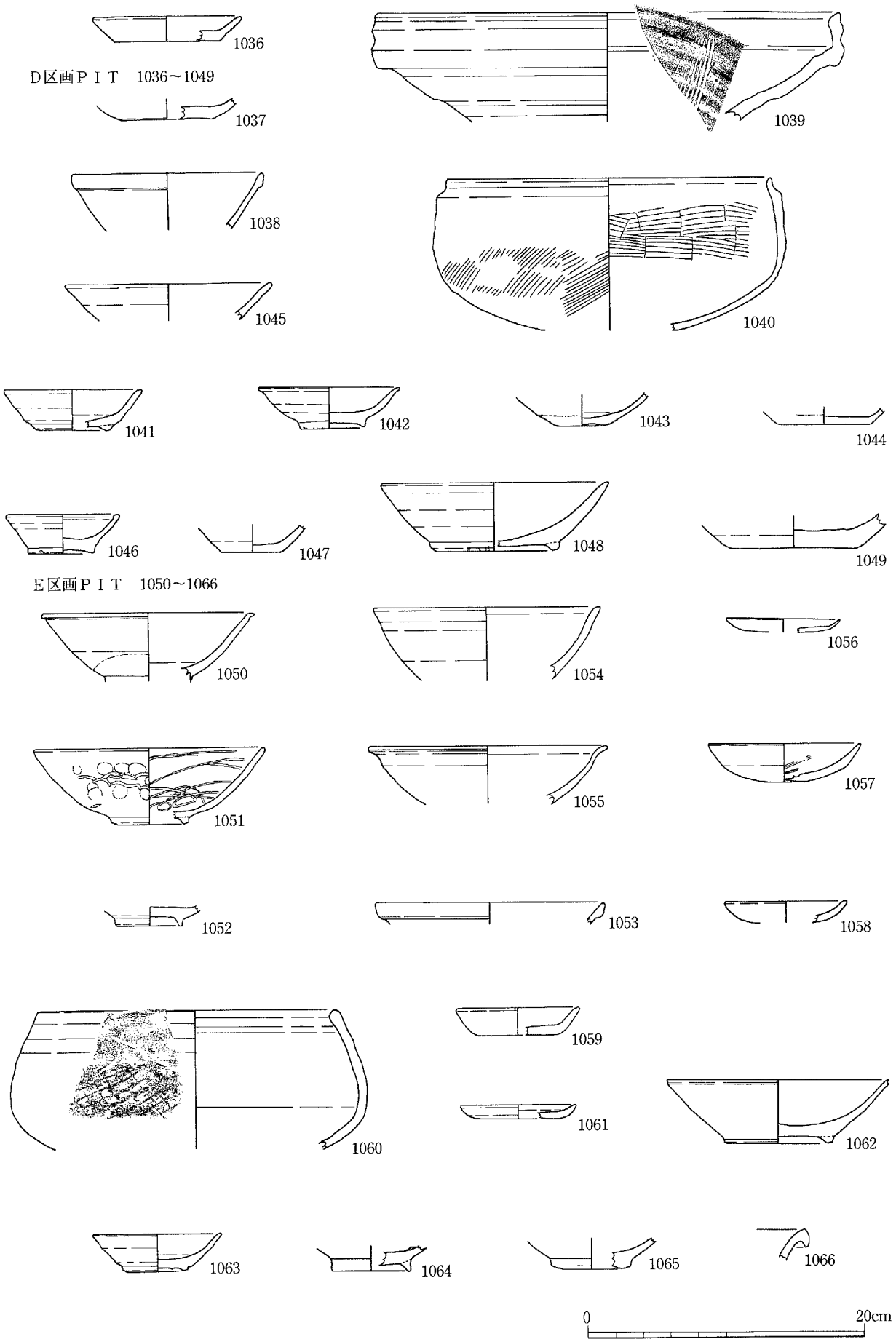
第125図　川関遺跡遺物実測図27



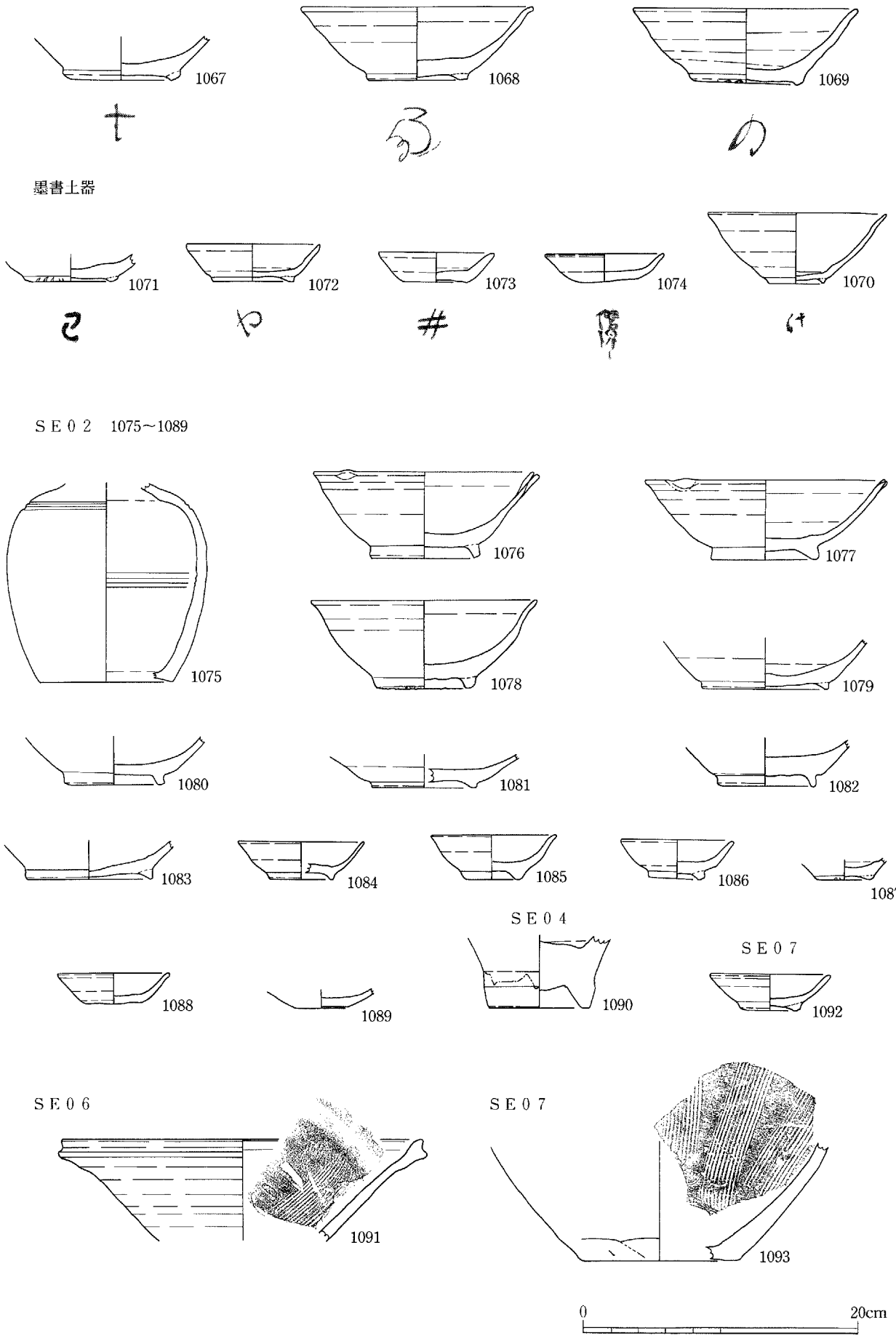
第126図　川関遺跡遺物実測図28



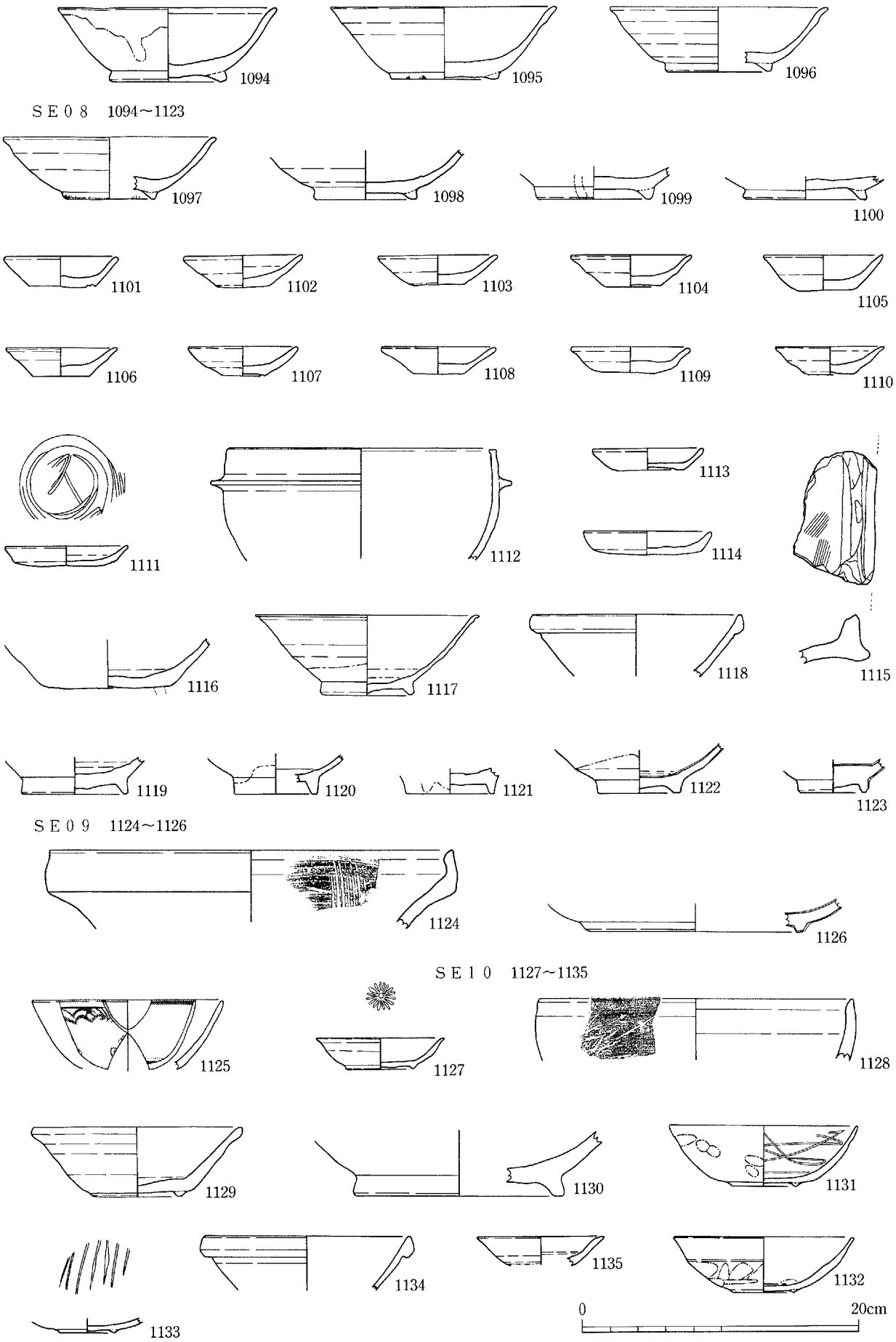
第127図　川関遺跡遺物実測図29



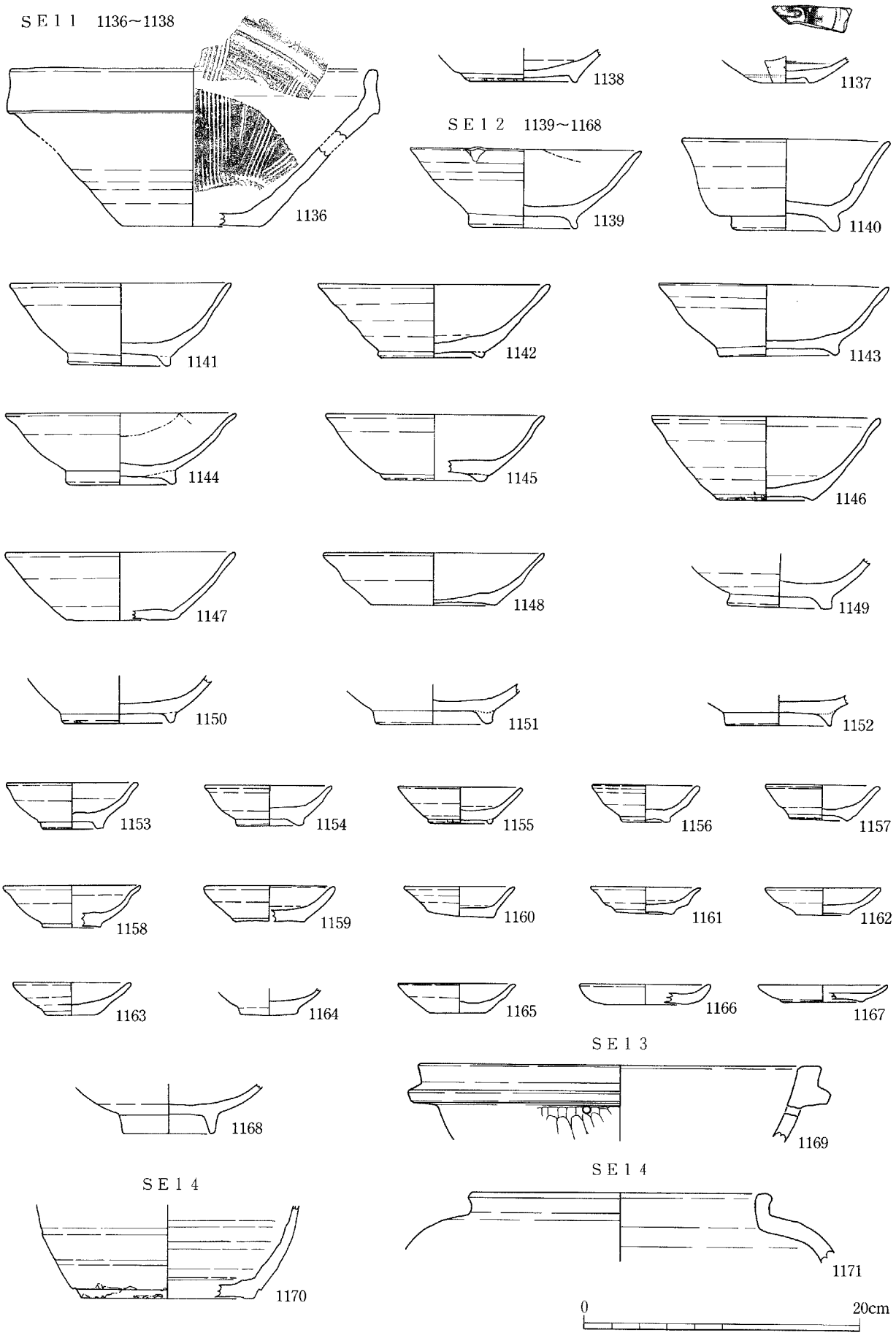
第128図　川関遺跡遺物実測図30



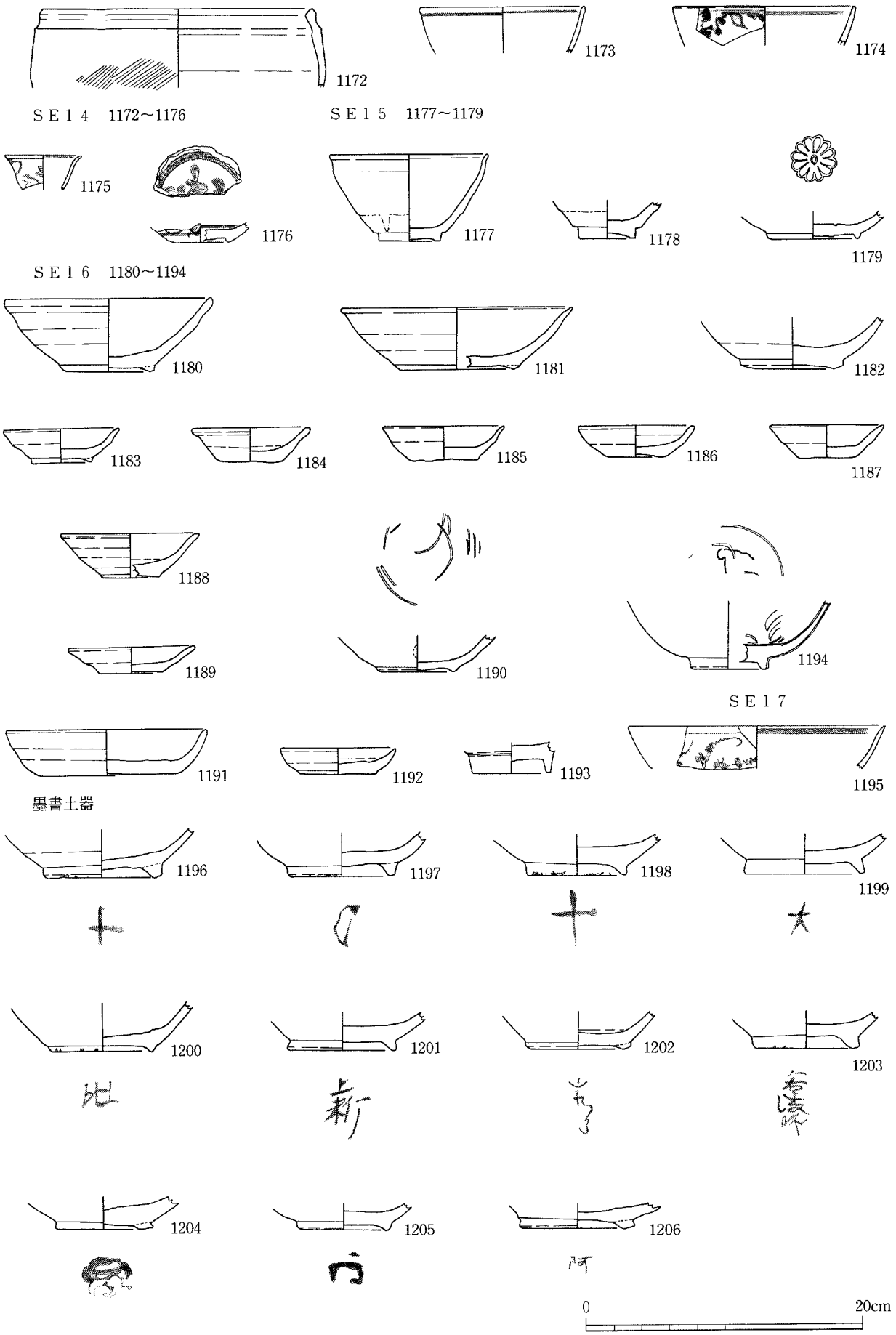
第129図　川関遺跡遺物実測図31



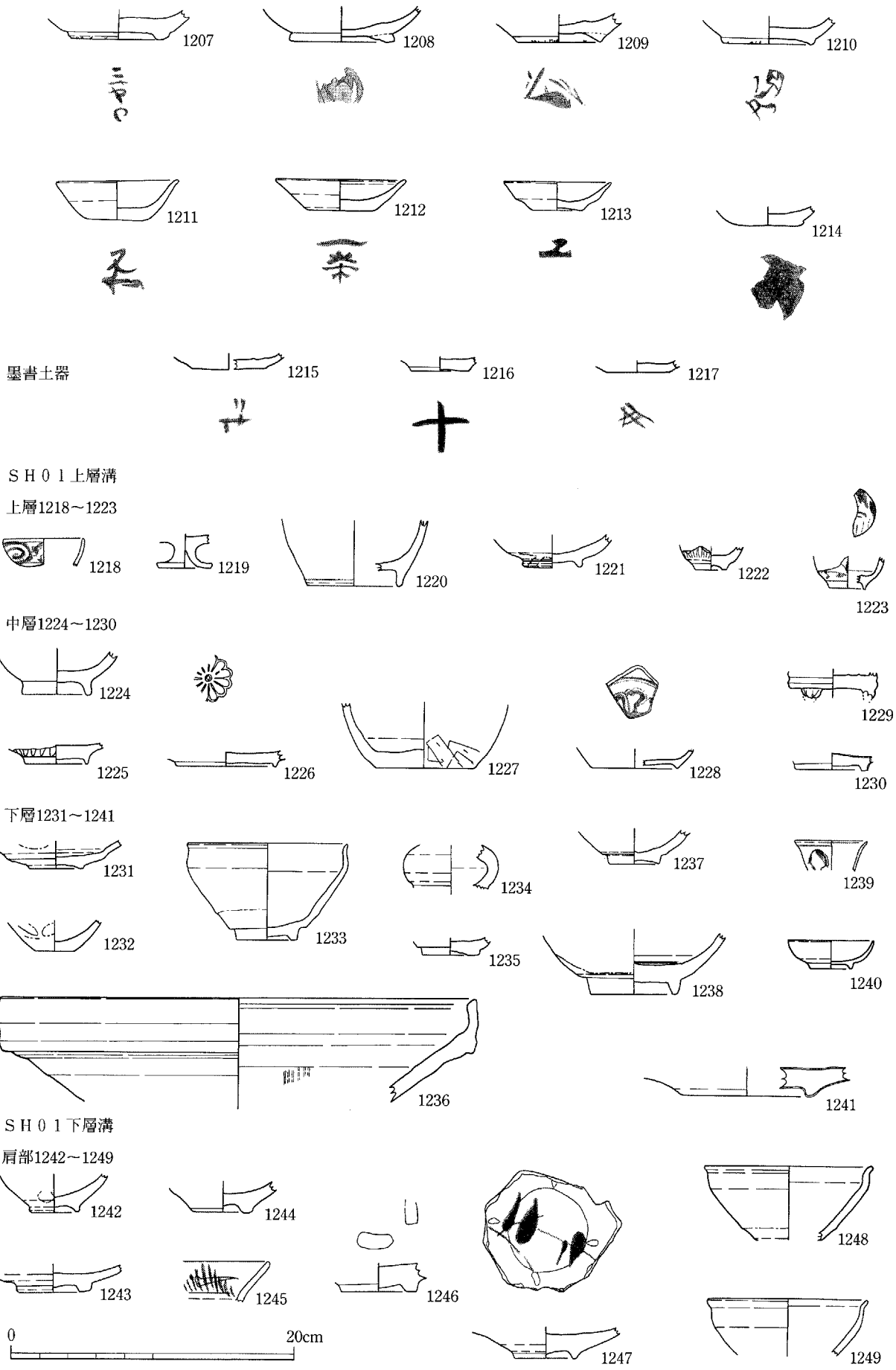
第130図　川関遺跡遺物実測図32



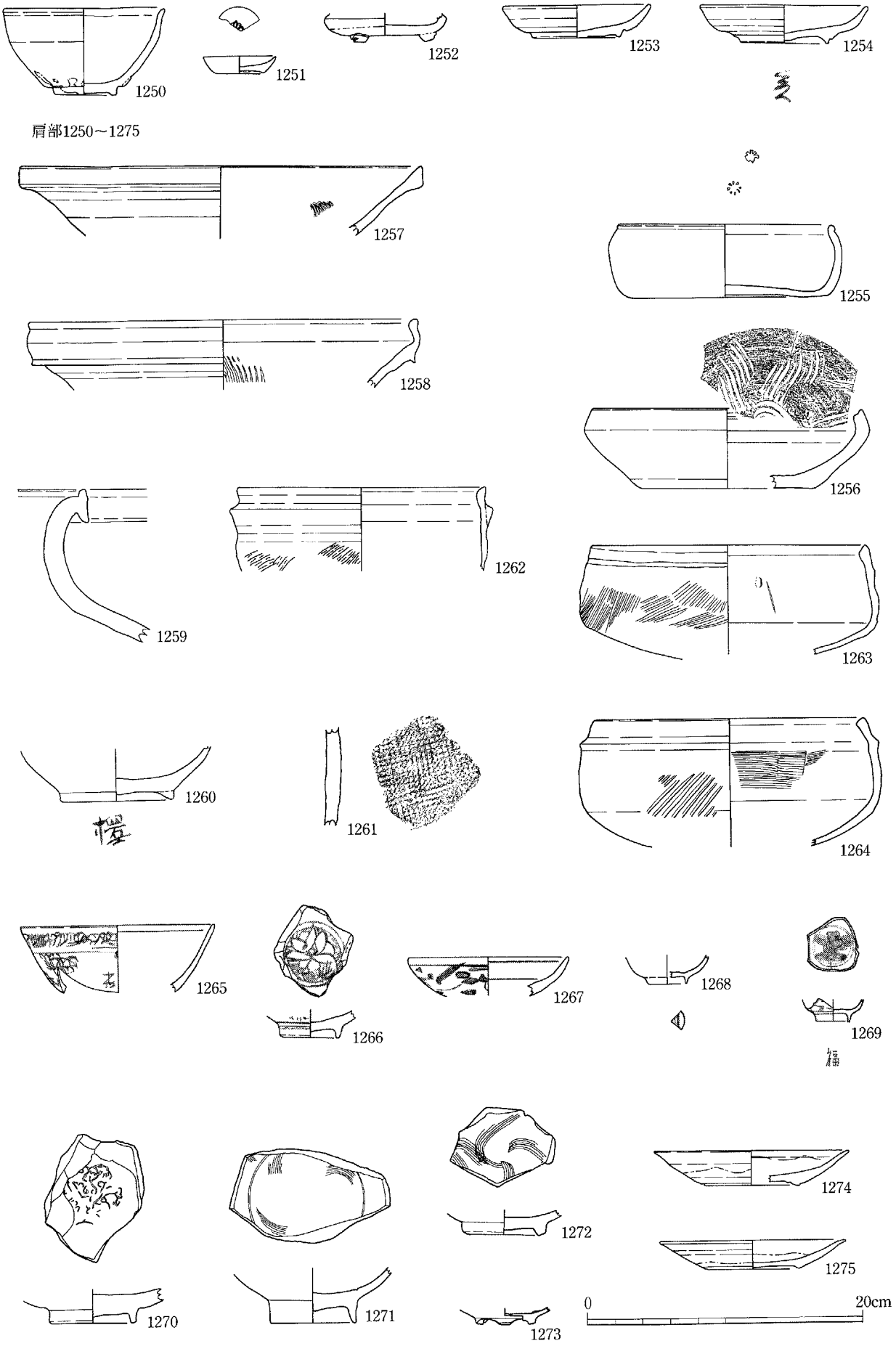
第131図　川関遺跡遺物実測図33



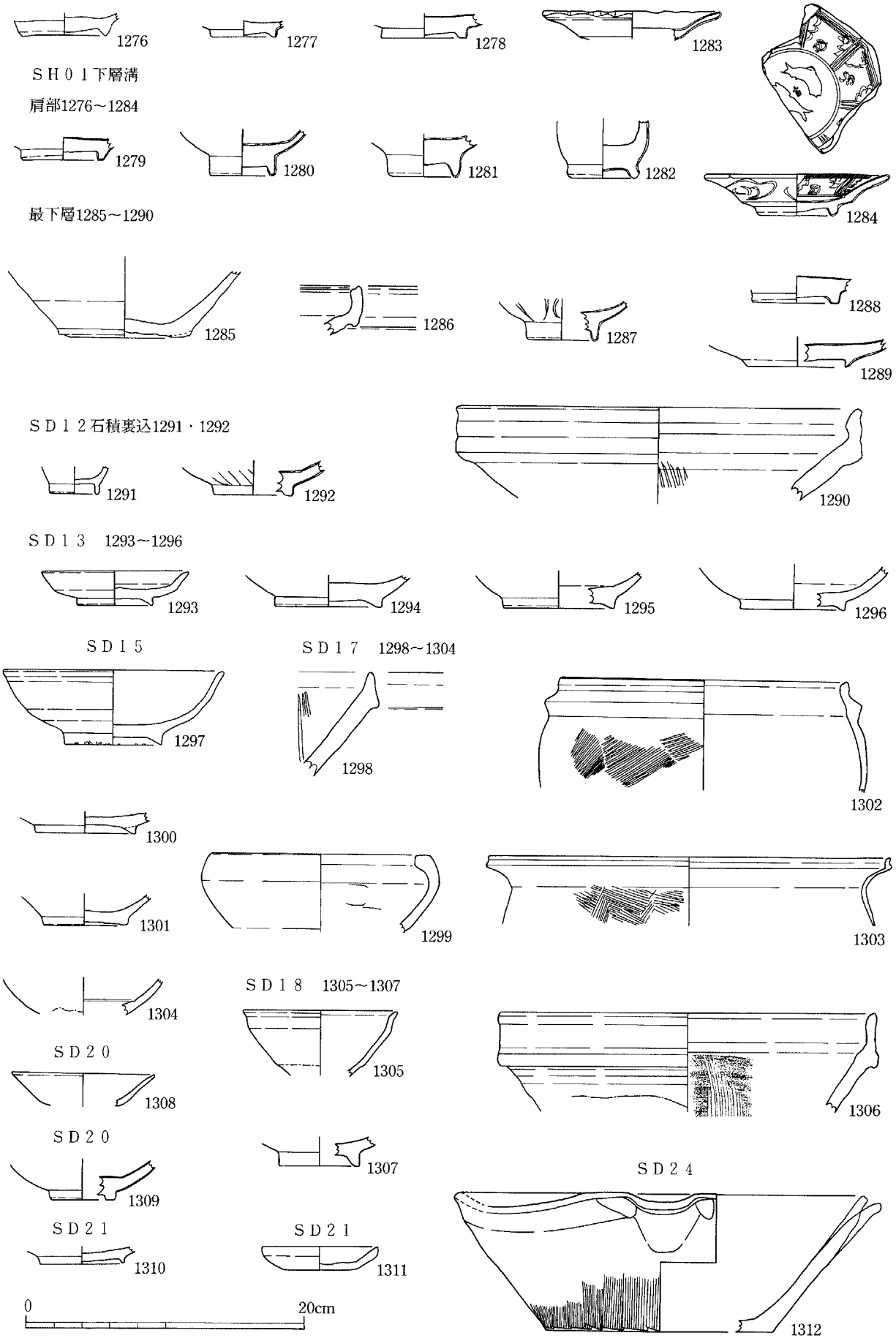
第132図　川関遺跡遺物実測図34



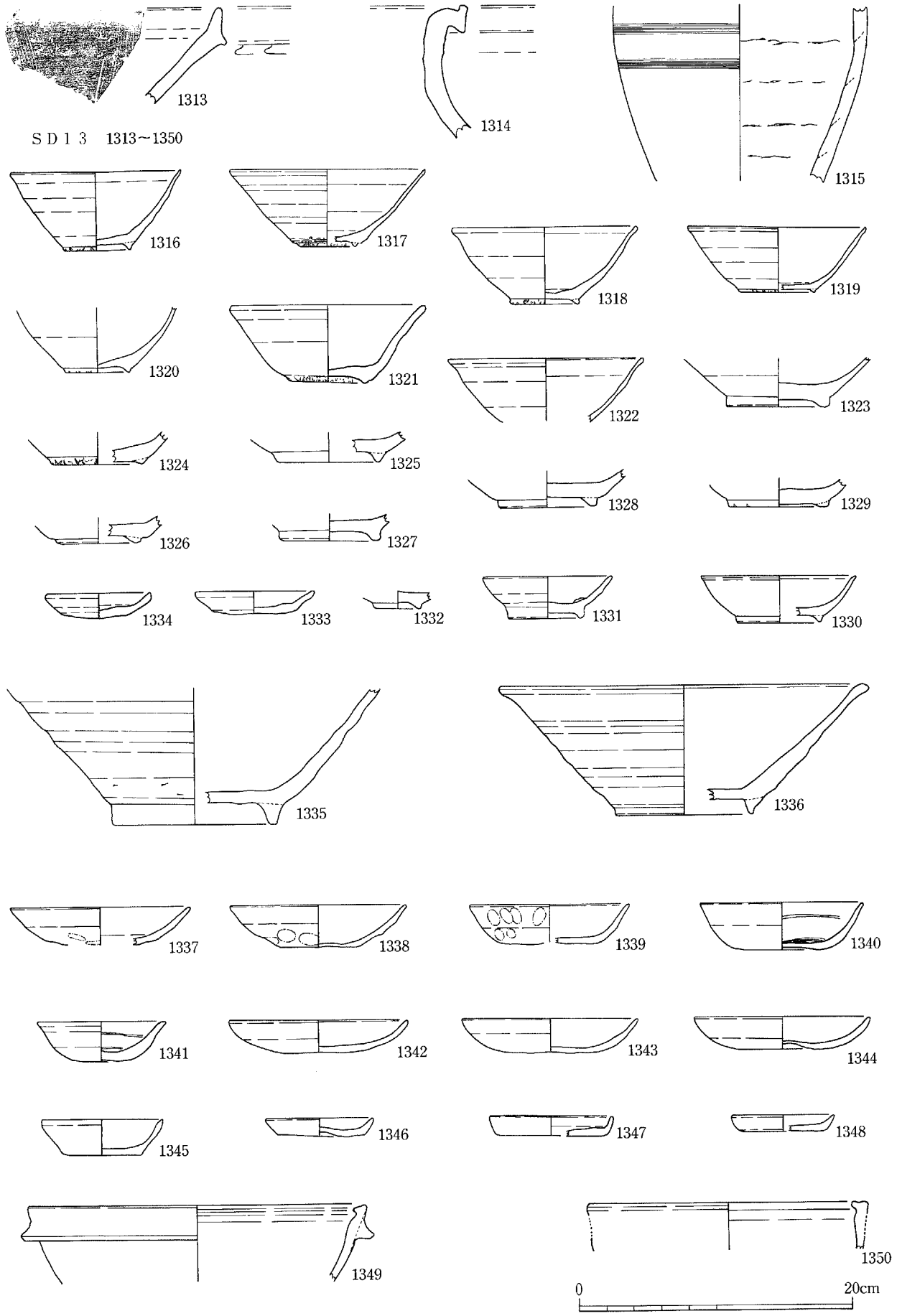
第133図　川関遺跡遺物実測図35



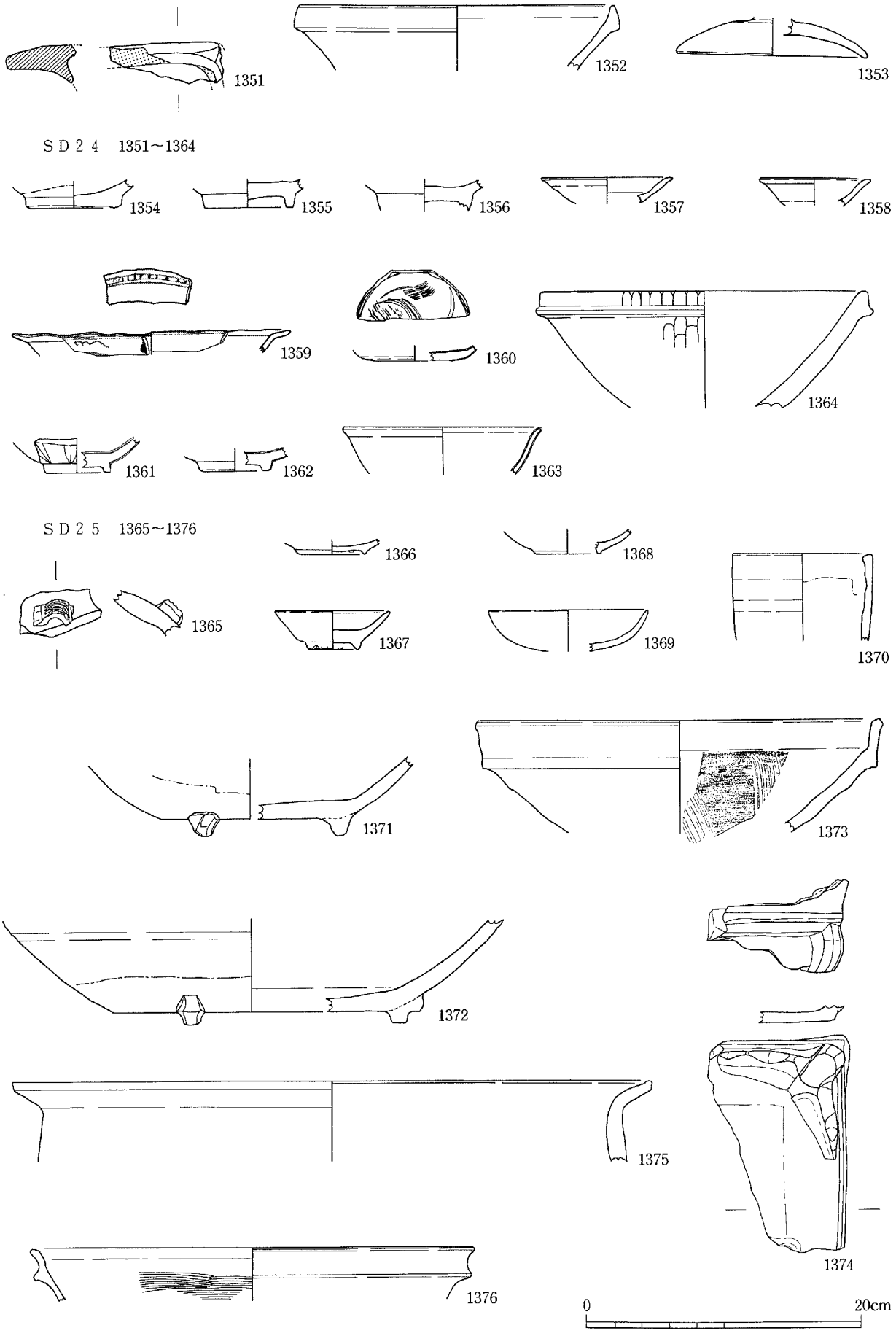
第134図　川関遺跡遺物実測図36



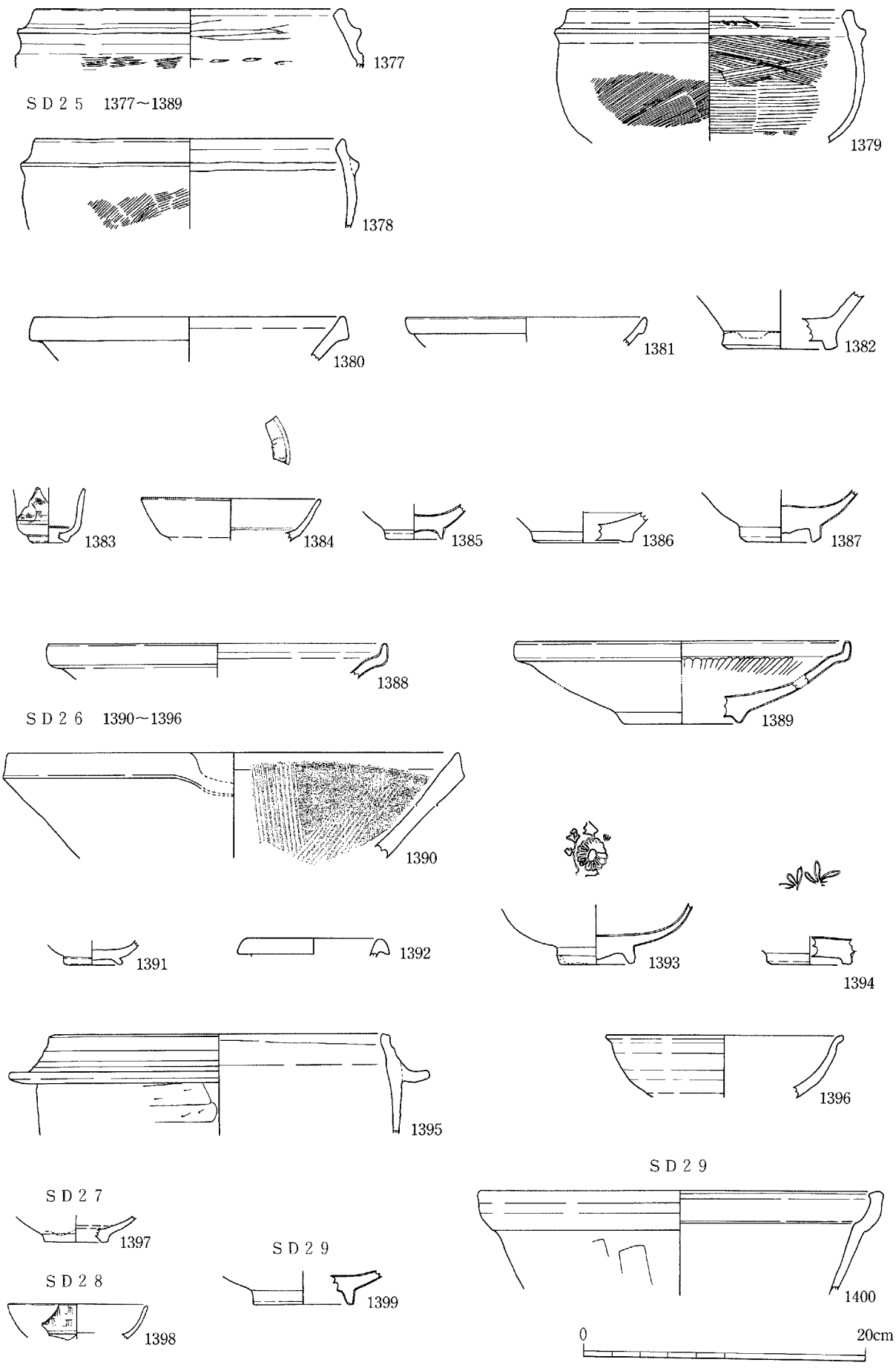
第135図　川関遺跡遺物実測図37



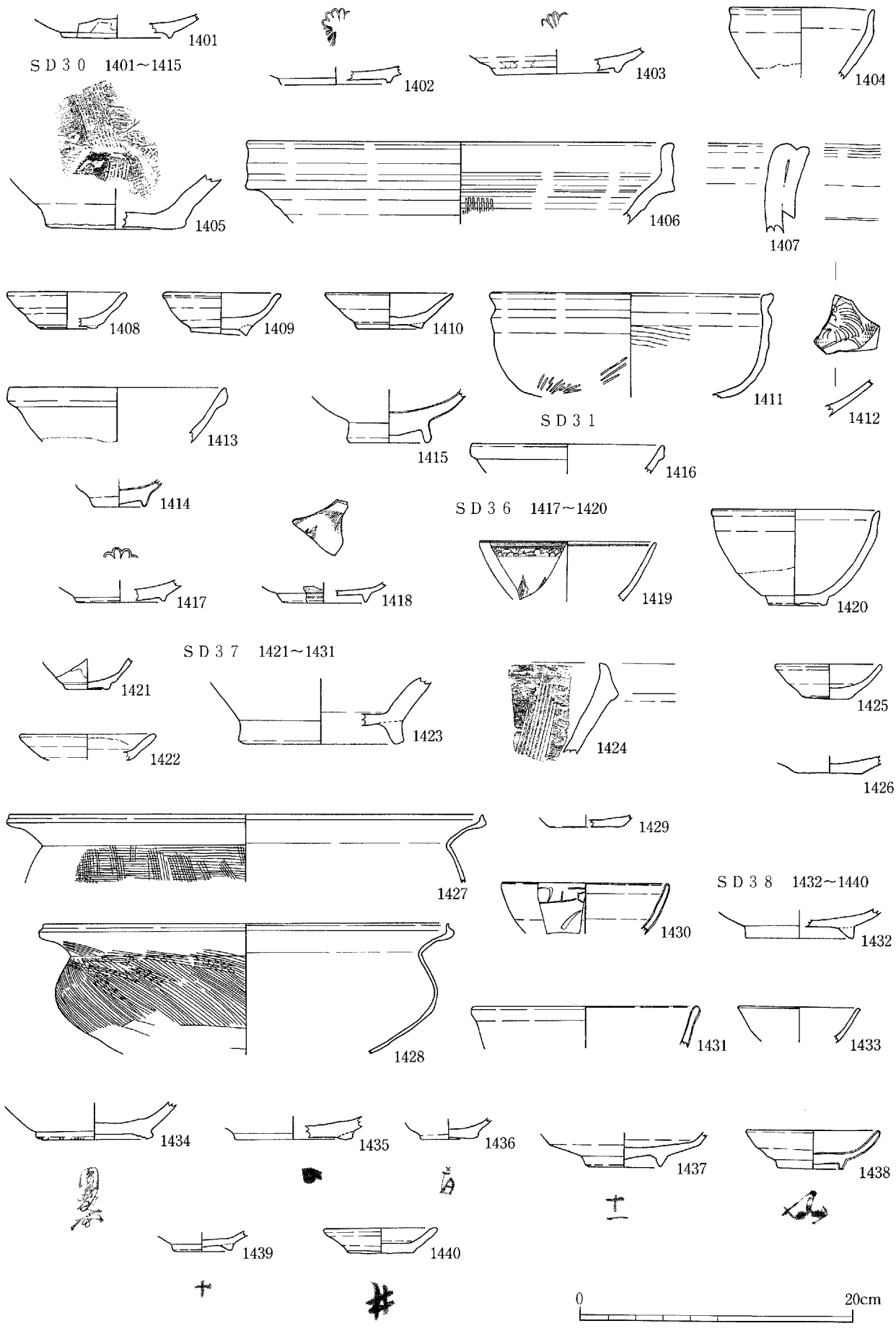
第136図　川関遺跡遺物実測図38



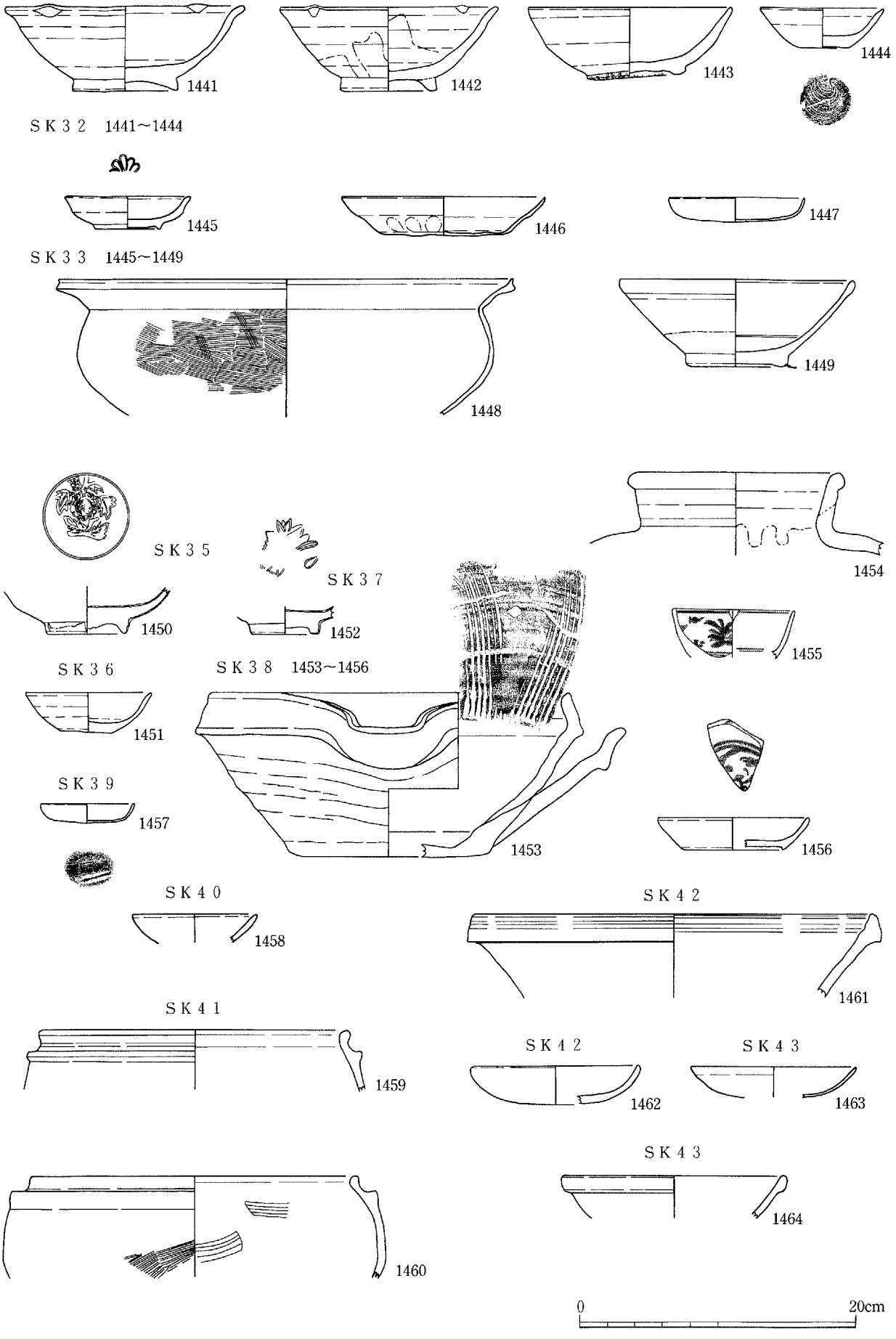
第137図　川関遺跡遺物実測図39



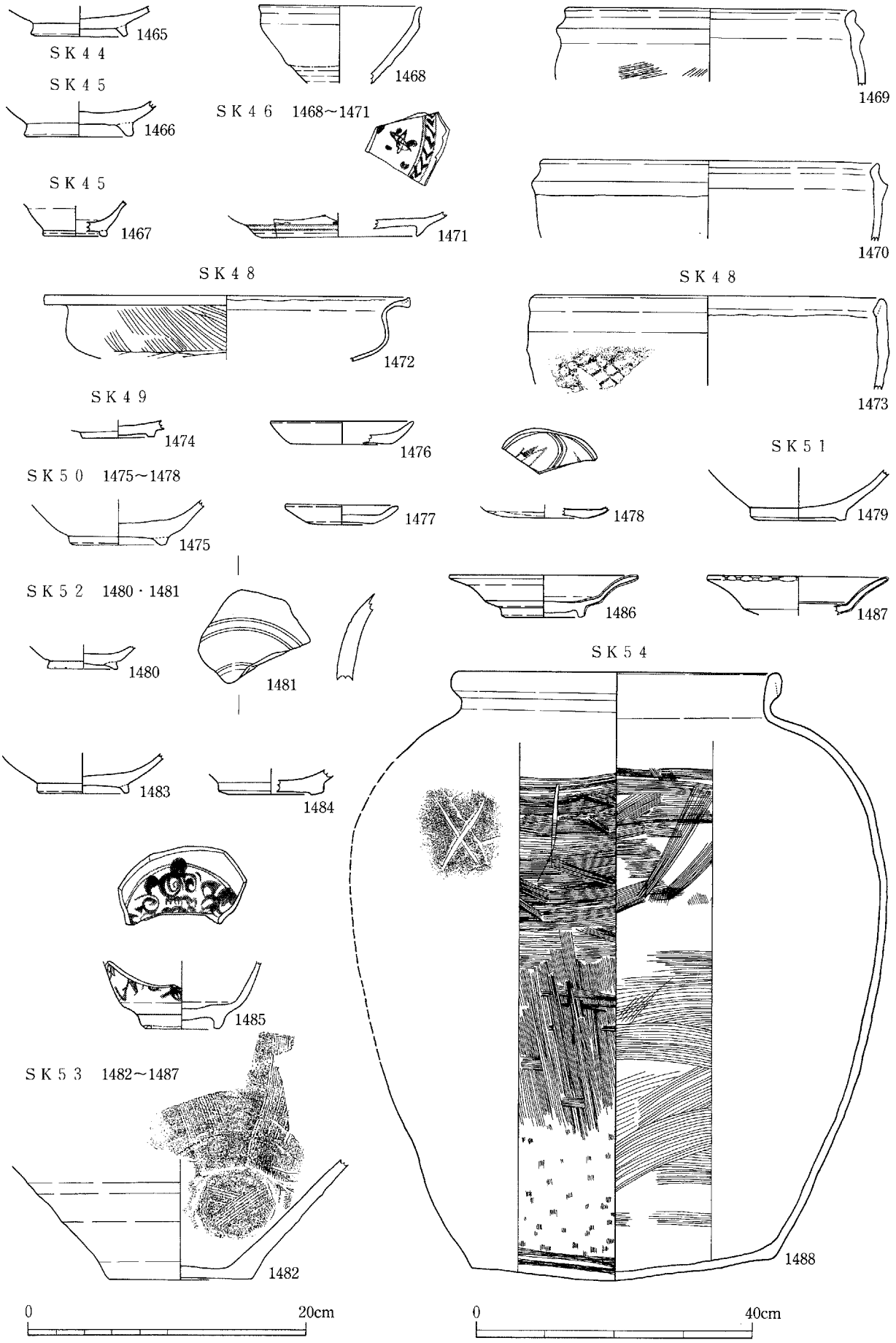
第138図　川関遺跡遺物実測図40



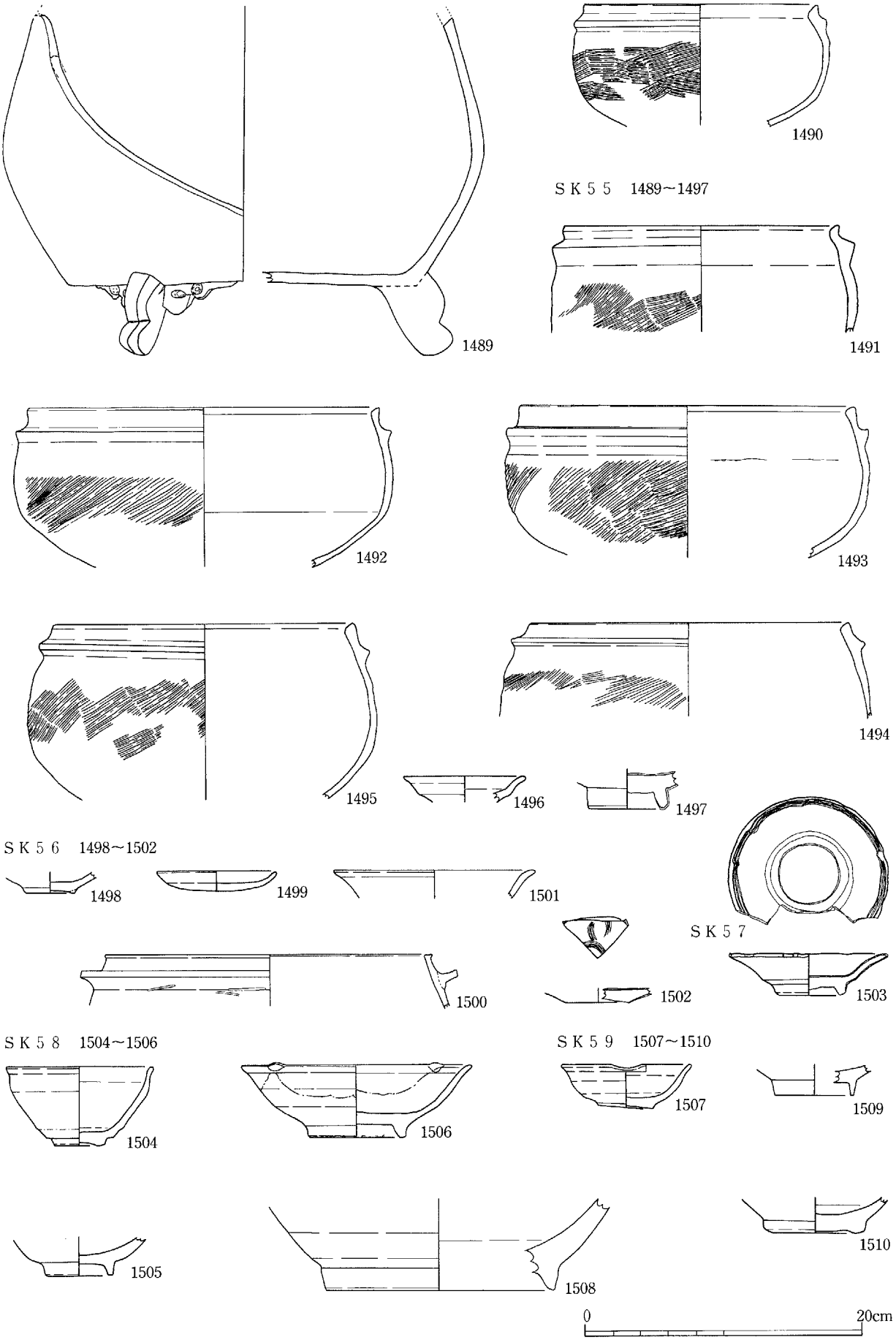
第139図　川関遺跡遺物実測図41



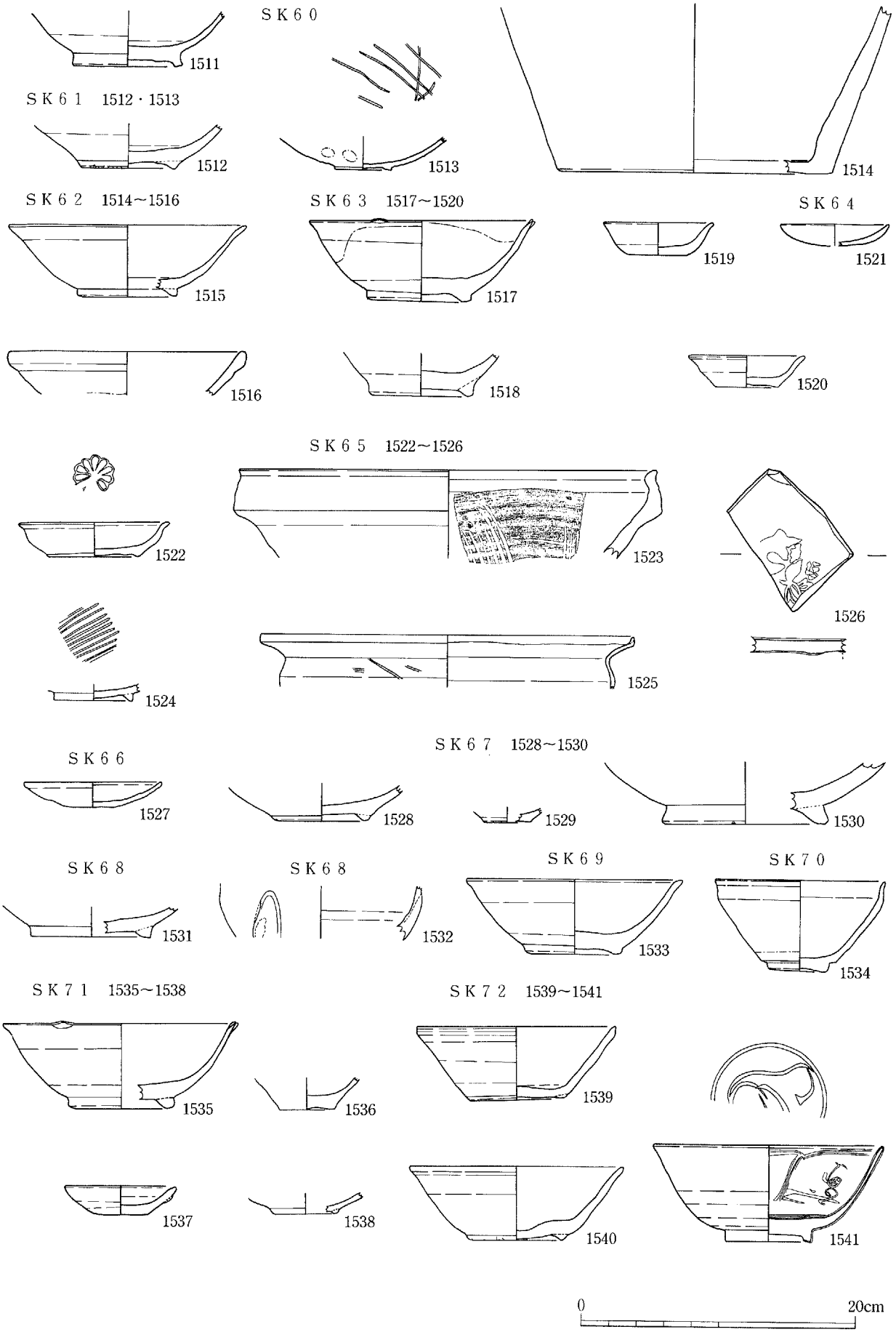
第140図　川関遺跡遺物実測図42



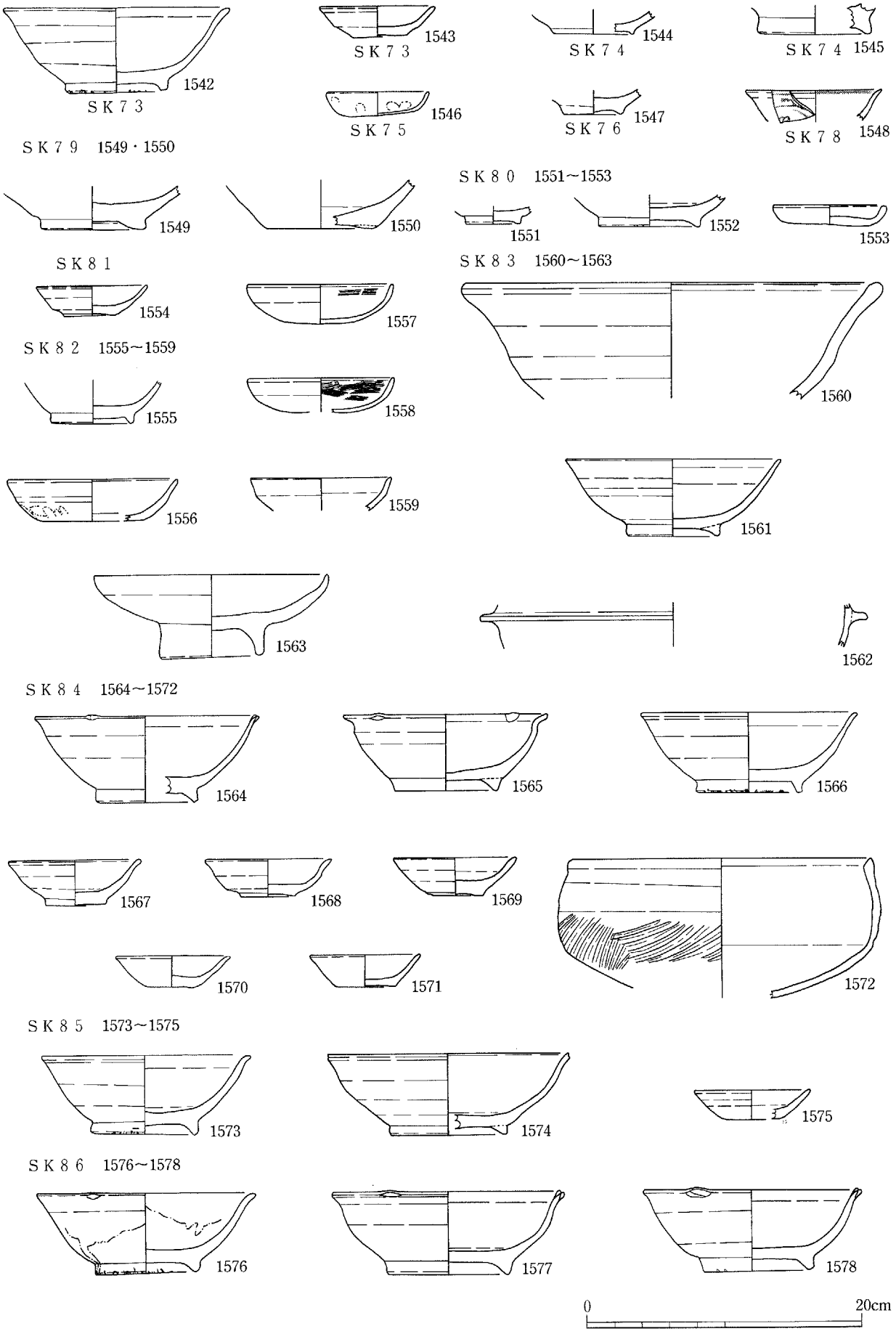
第141図　川関遺跡遺物実測図43



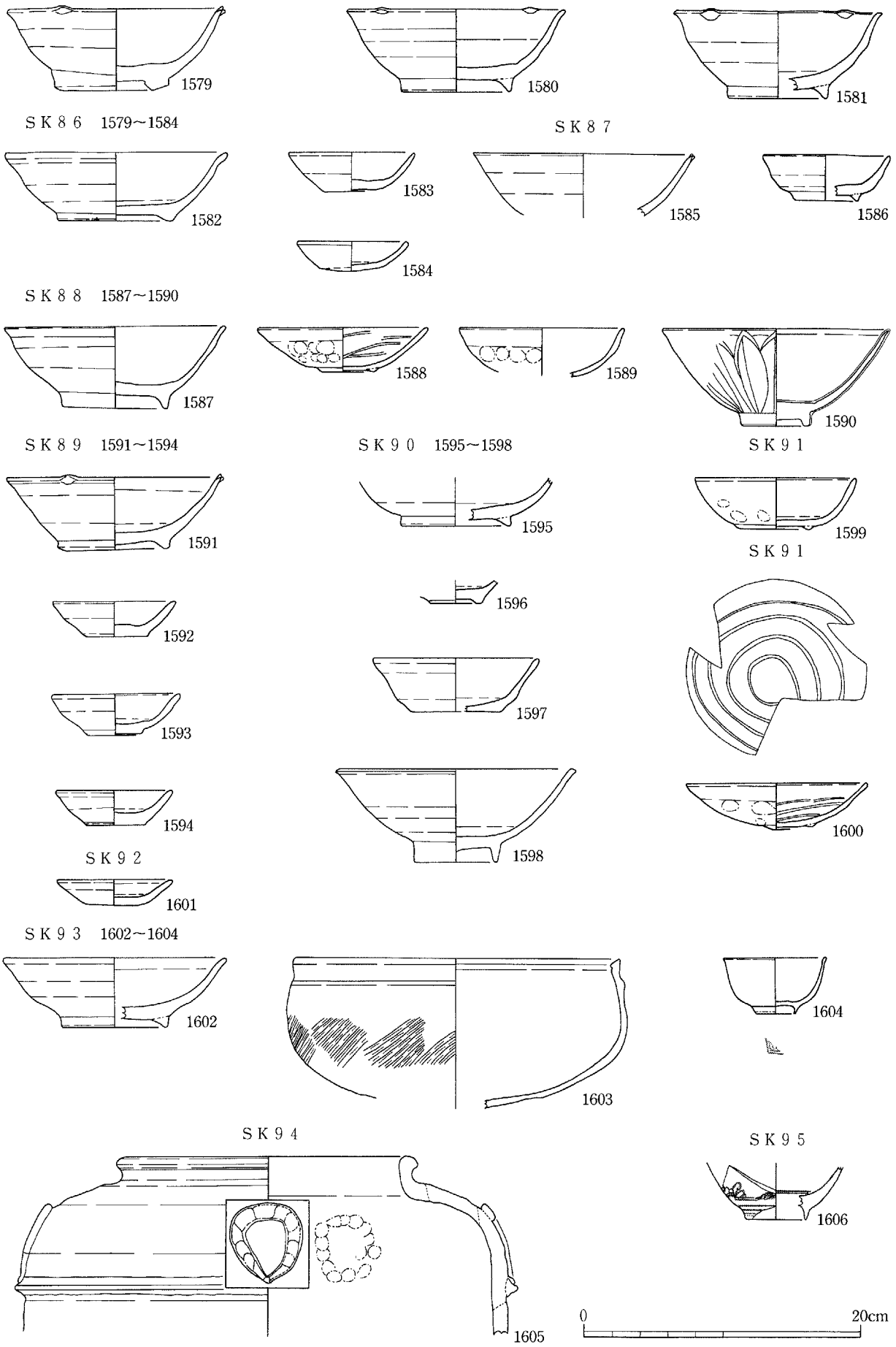
第142図　川関遺跡遺物実測図44



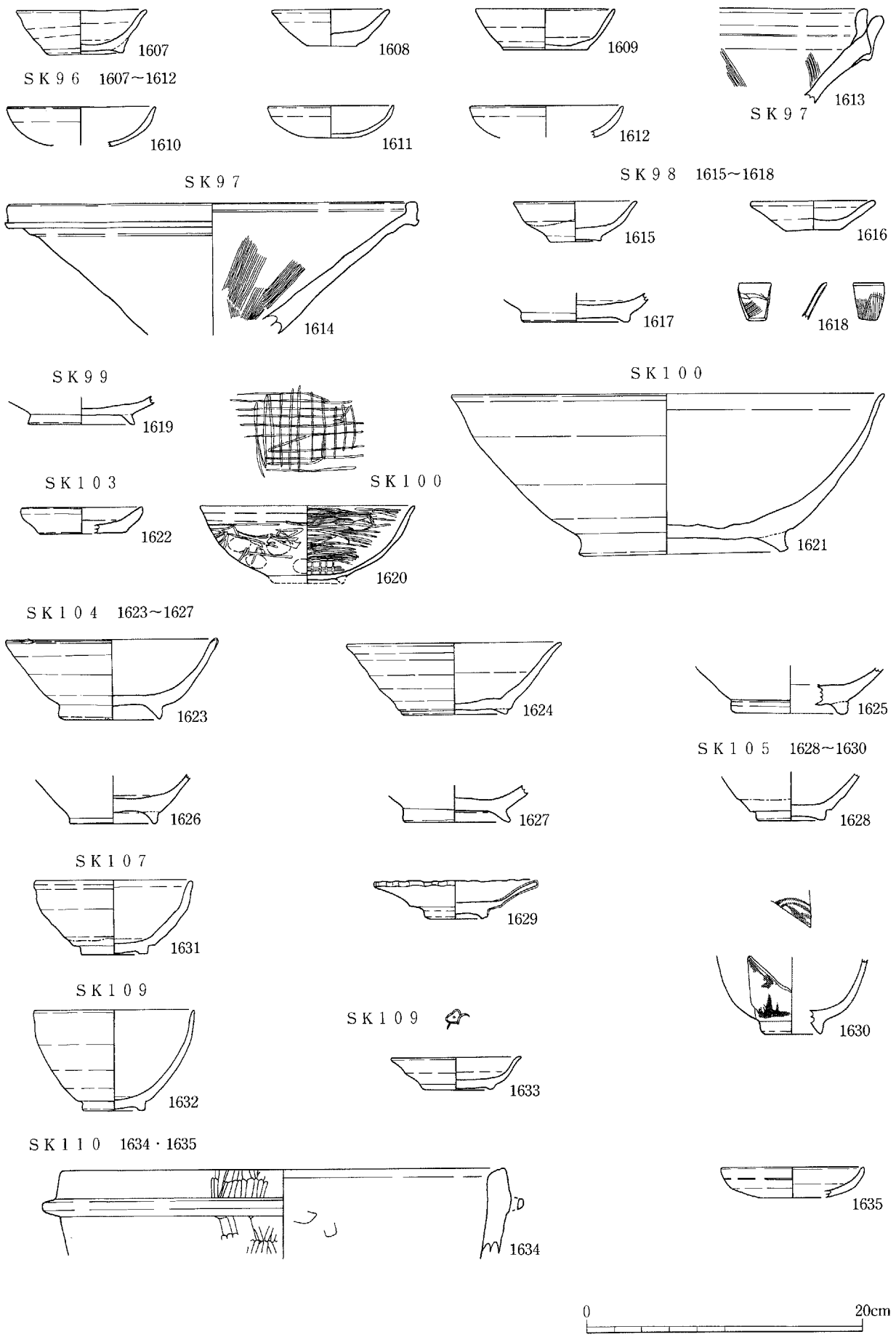
第143図　川関遺跡遺物実測図45



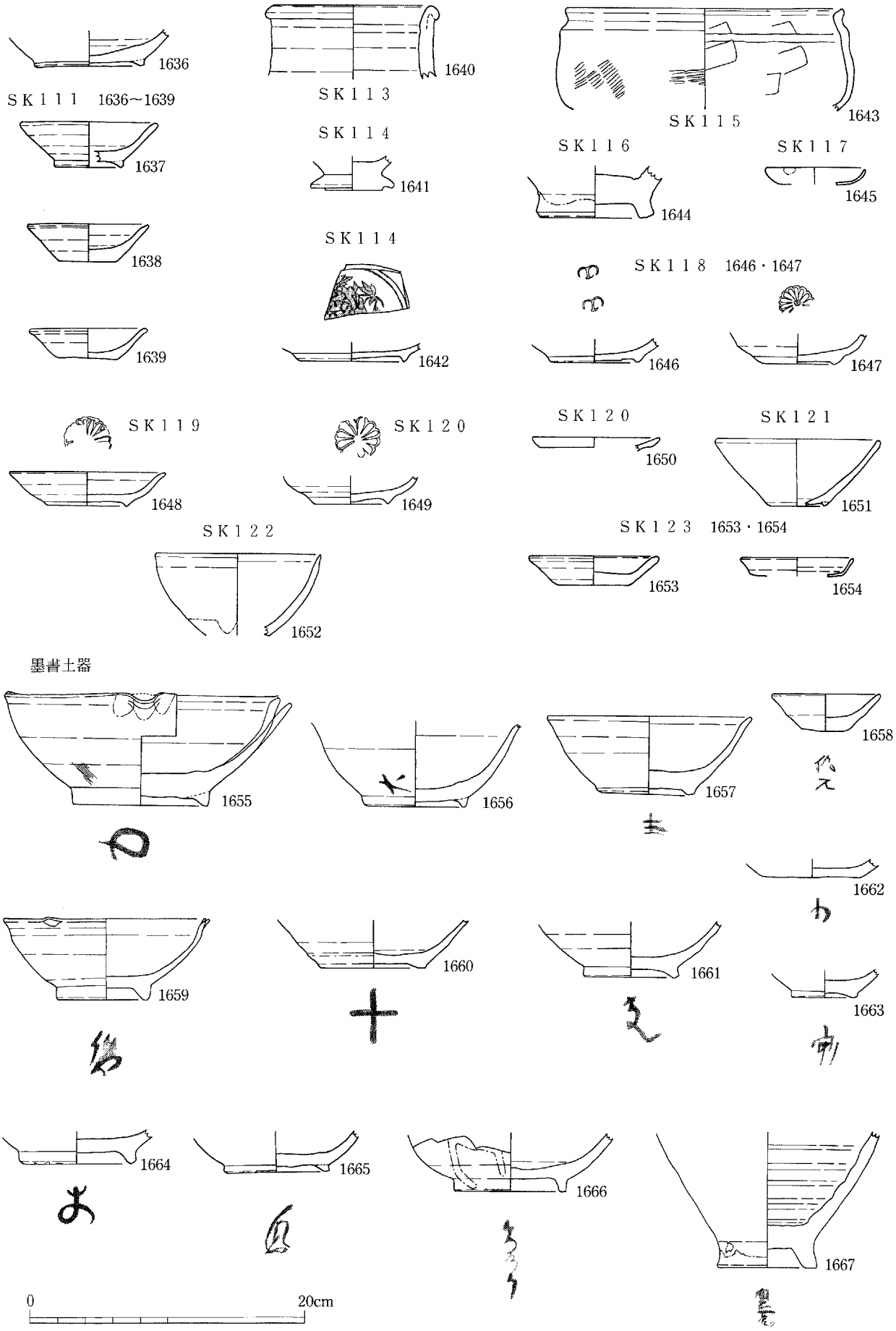
第144図　川関遺跡遺物実測図46



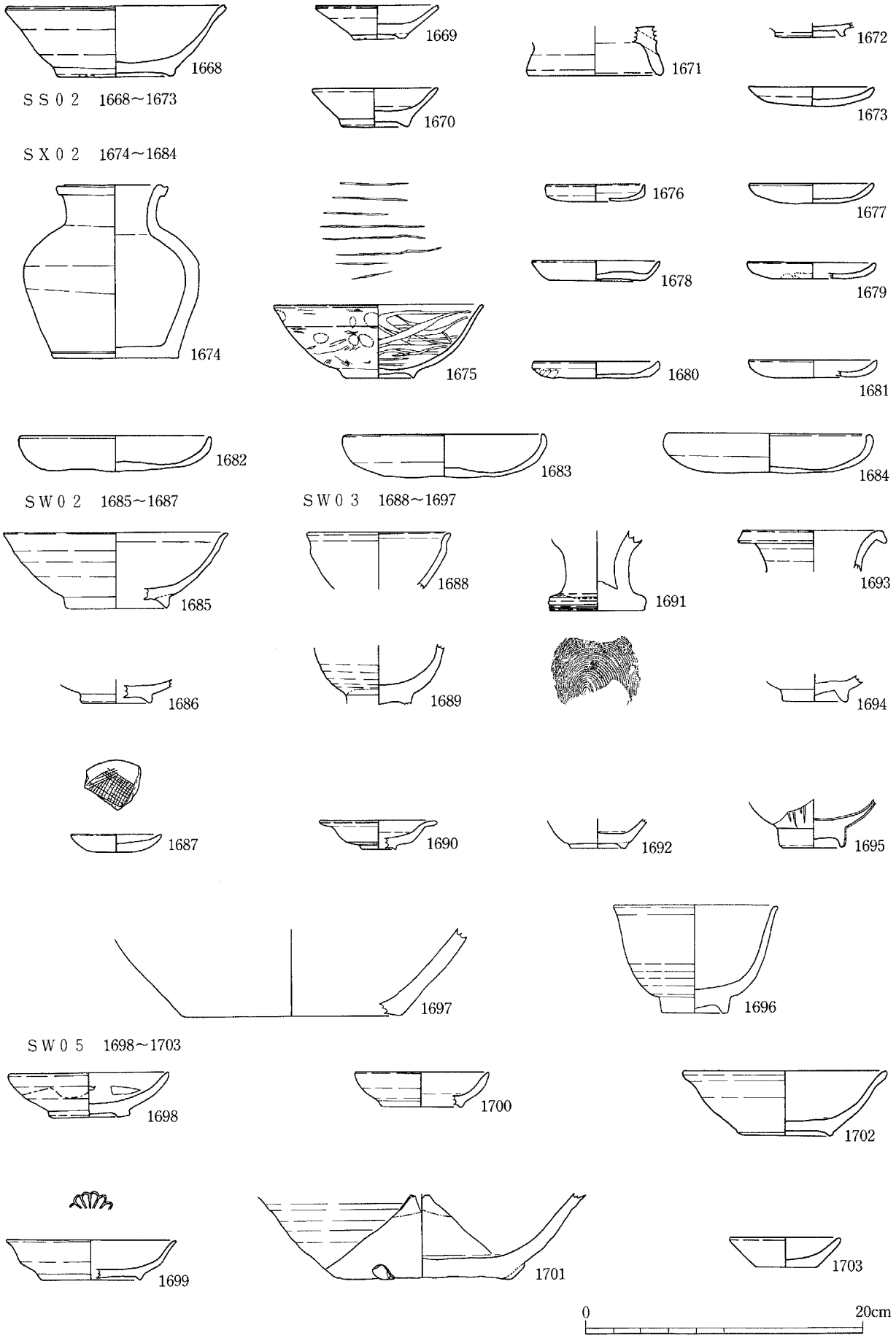
第145図　川関遺跡遺物実測図47



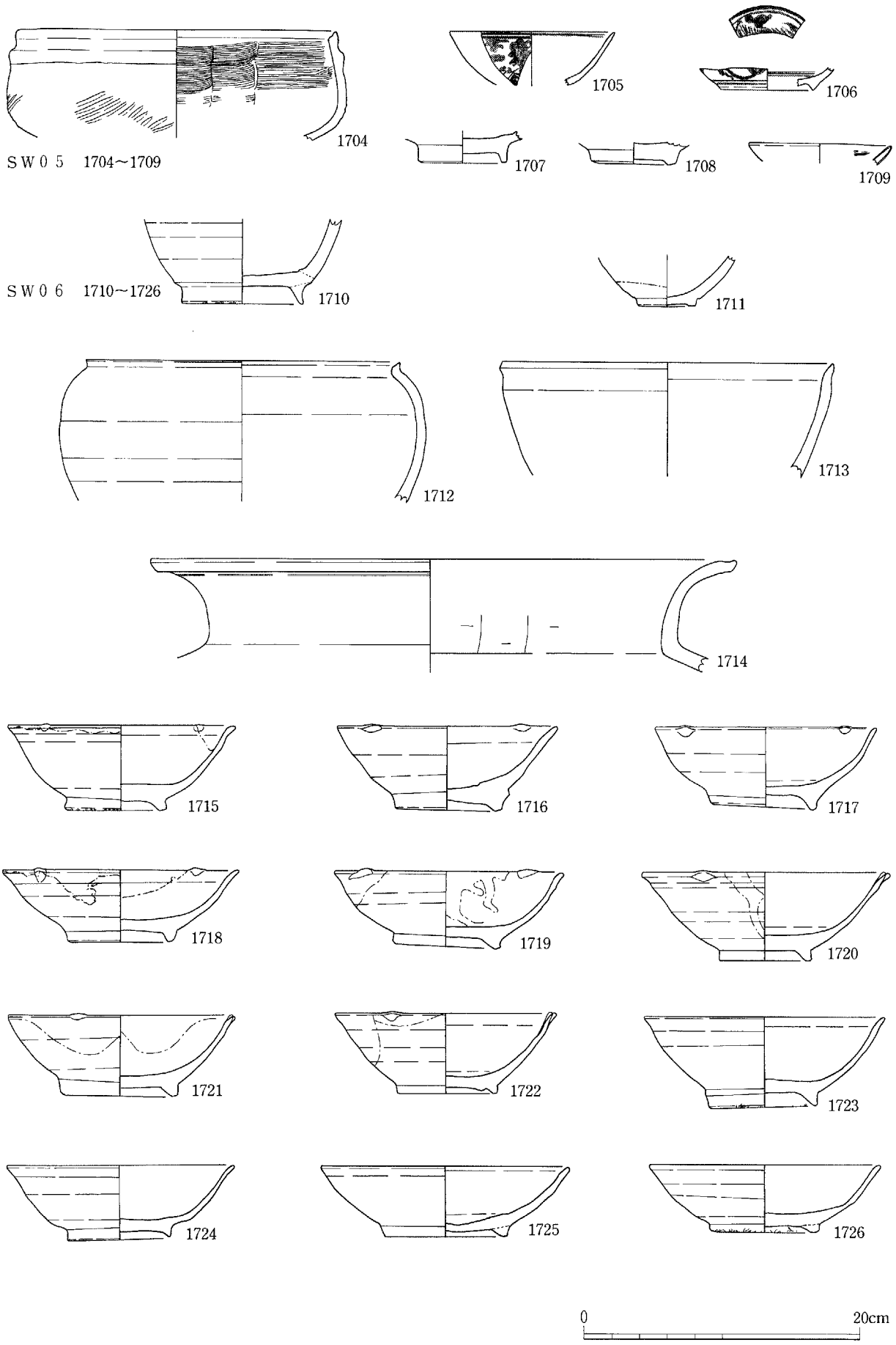
第146図　川関遺跡遺物実測図48



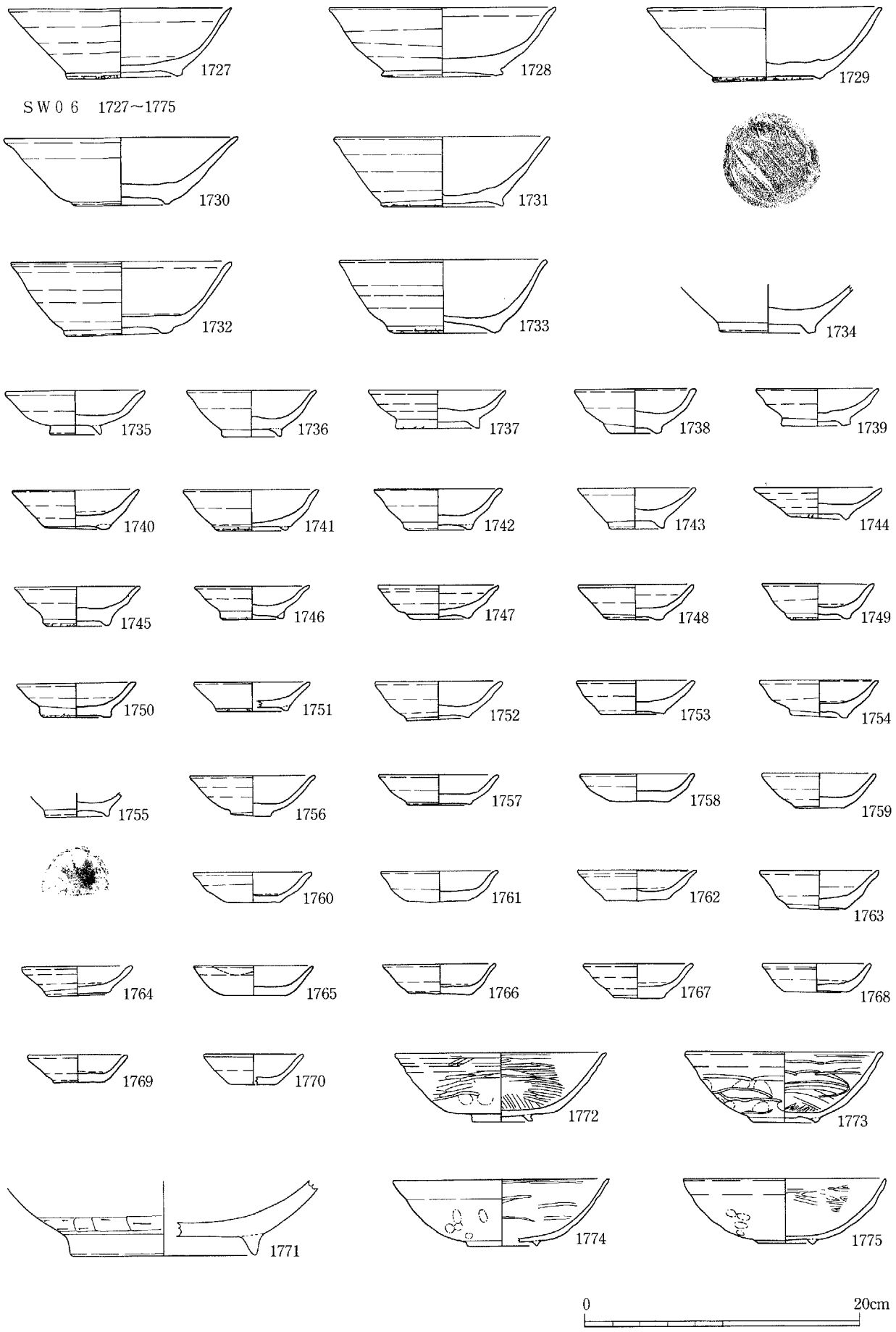
第147図　川関遺跡遺物実測図49



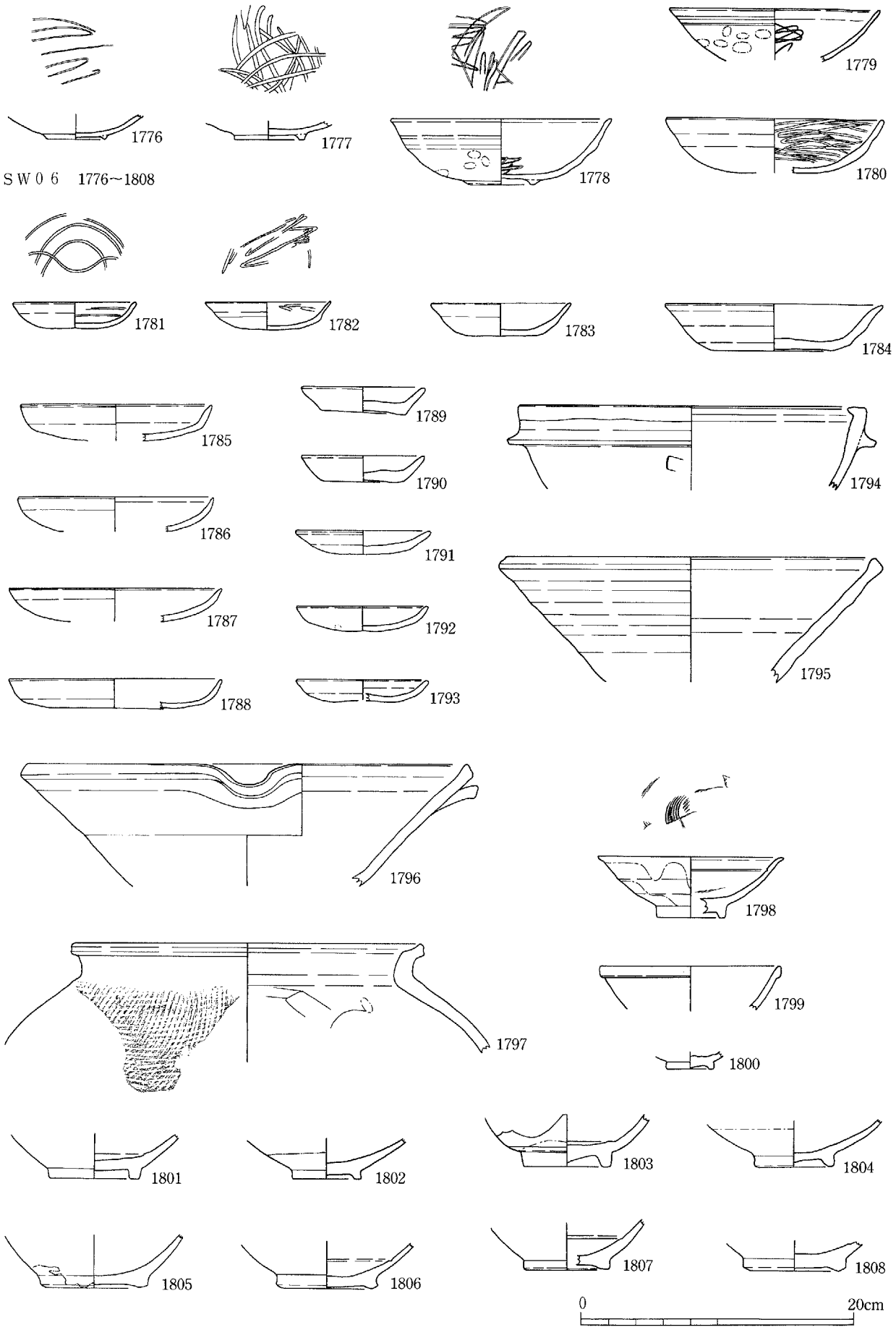
第148図　川関遺跡遺物実測図50



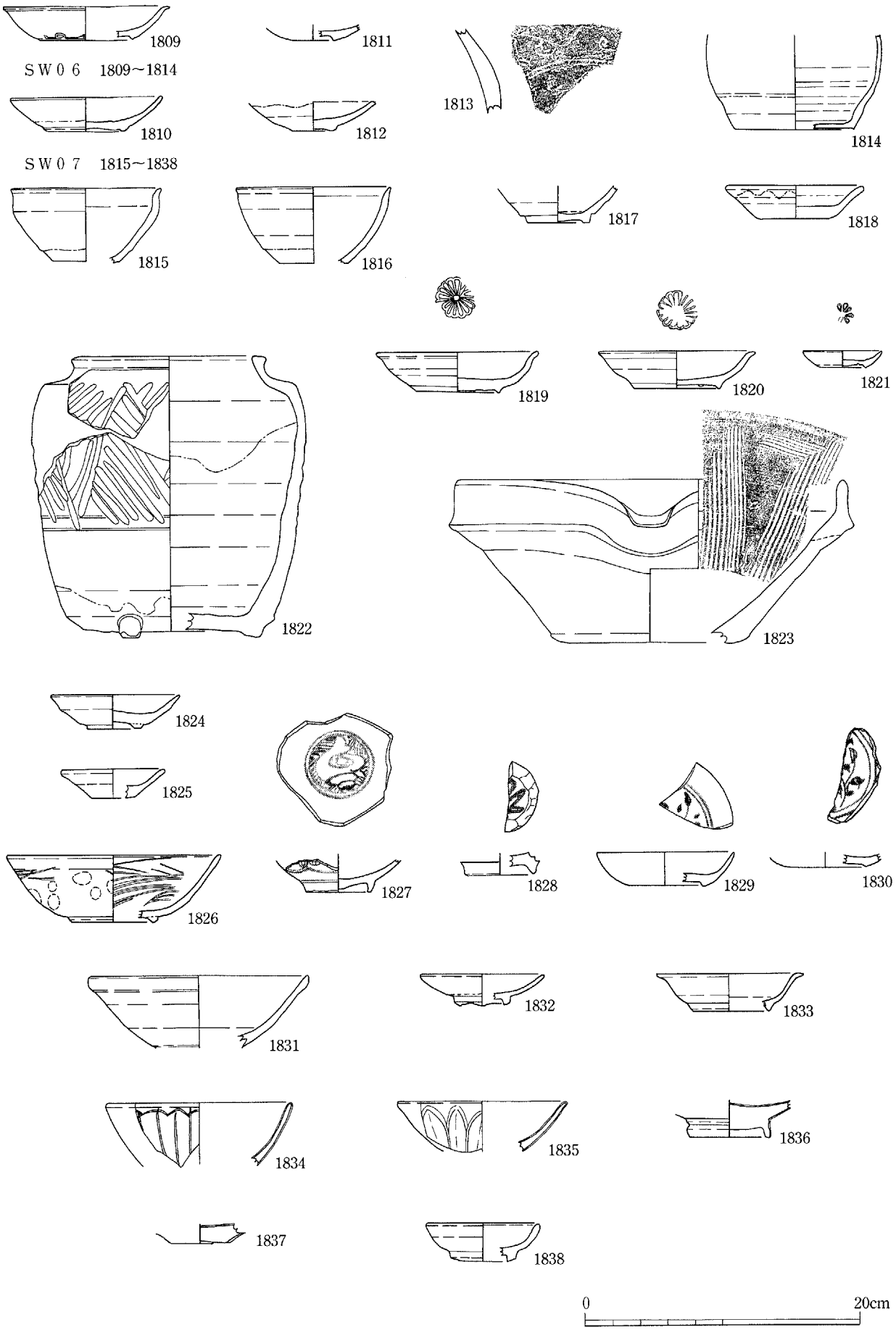
第149図　川関遺跡遺物実測図51



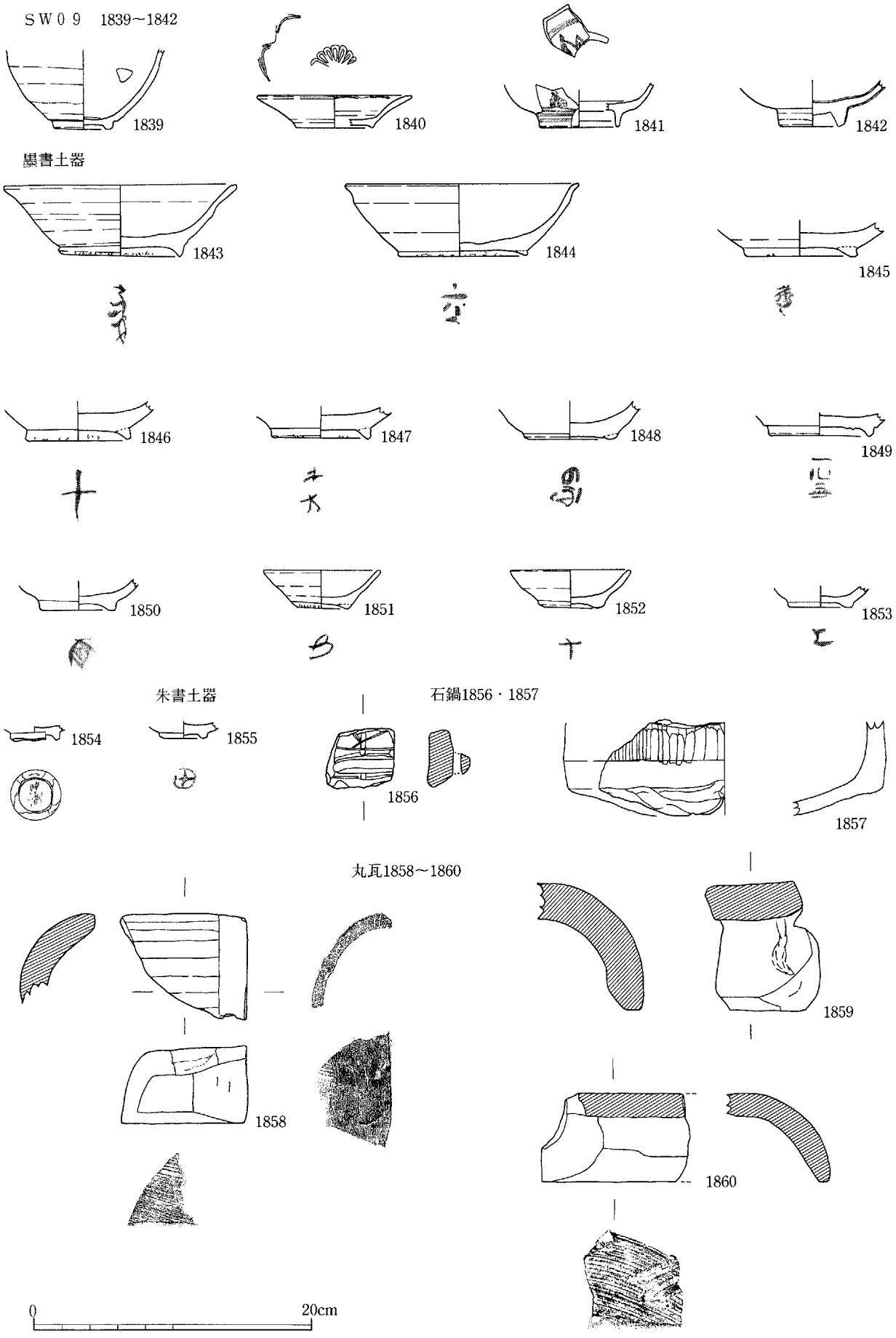
第150図　川関遺跡遺物実測図52



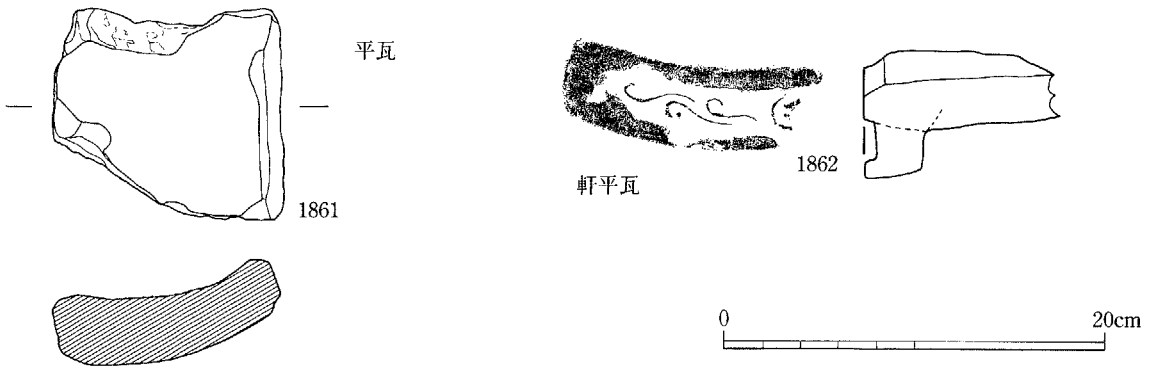
第151図　川関遺跡遺物実測図53



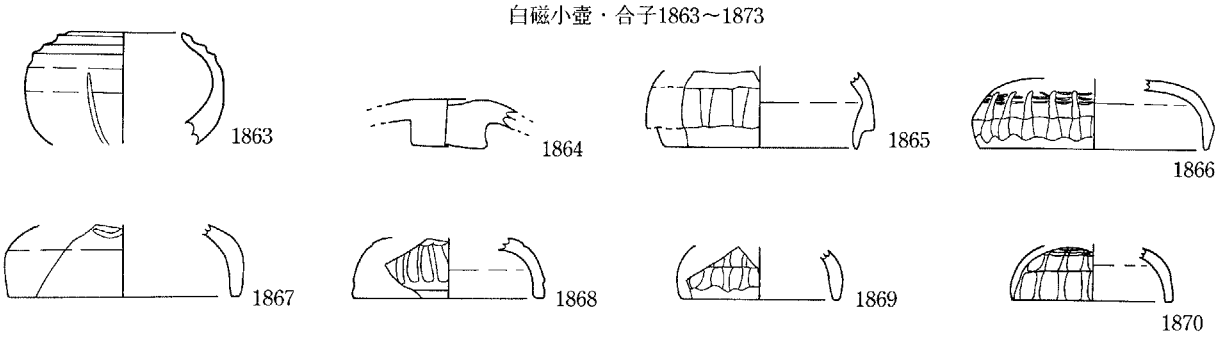
第152図　川関遺跡遺物実測図54

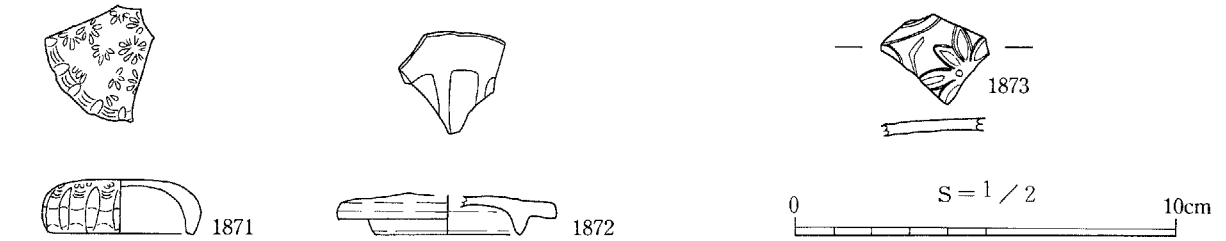


第153図　川関遺跡遺物実測図55

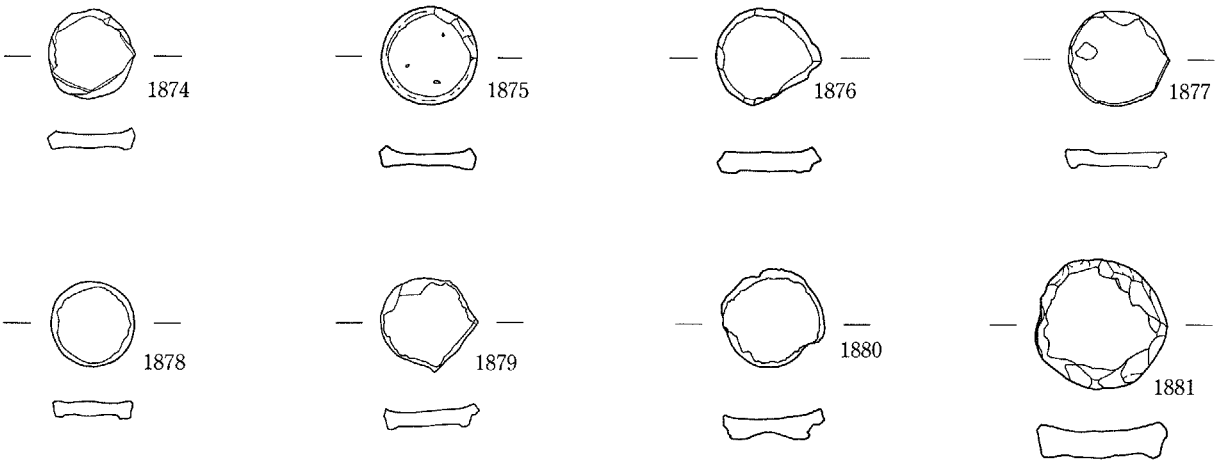


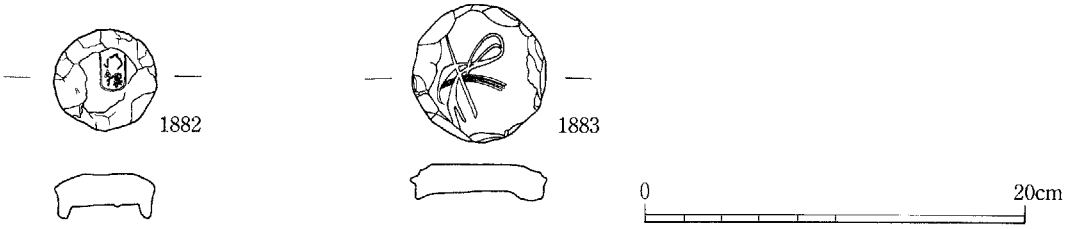
白磁小壺・合子1863～1873



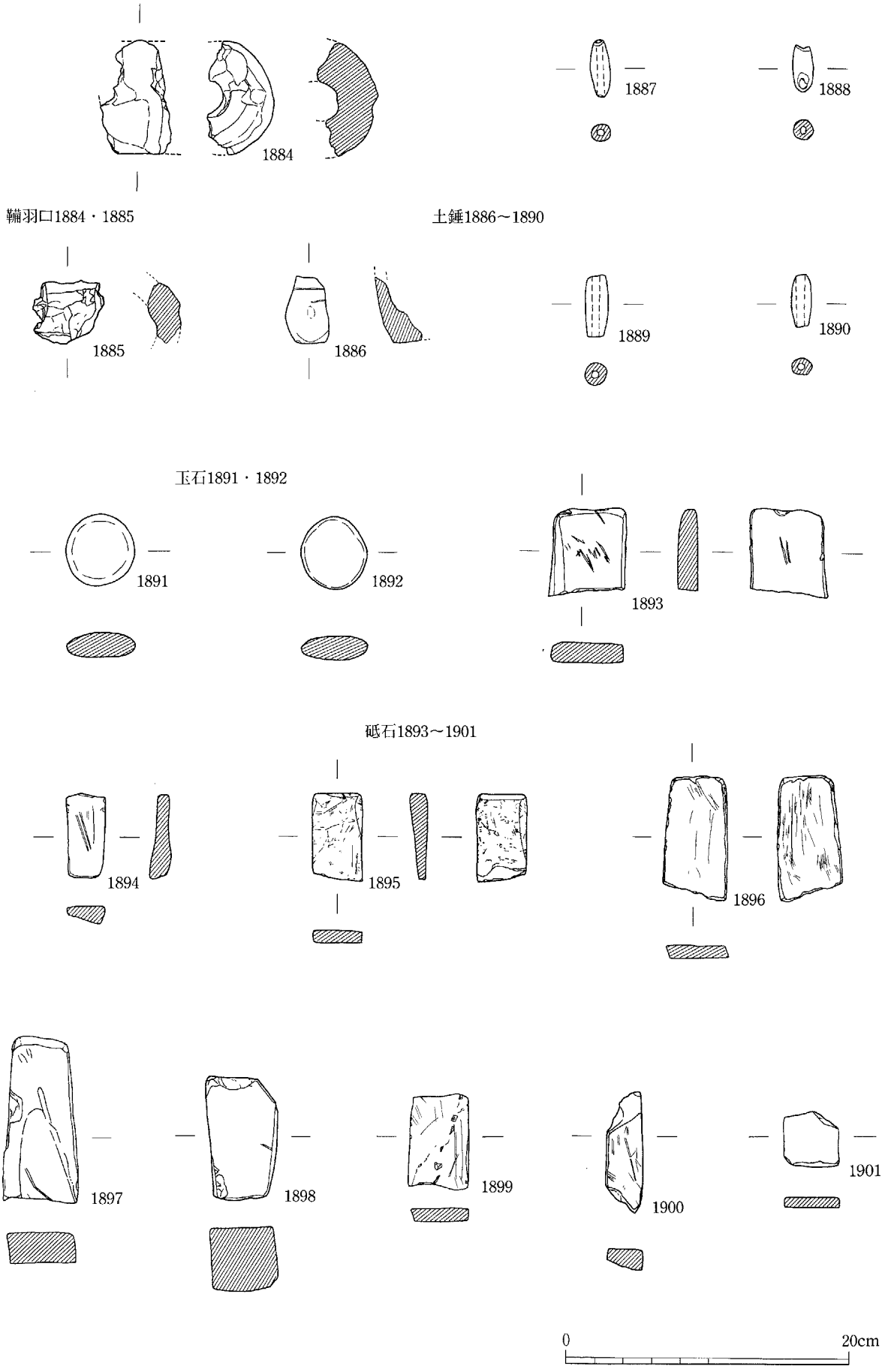


面子類1874～1883



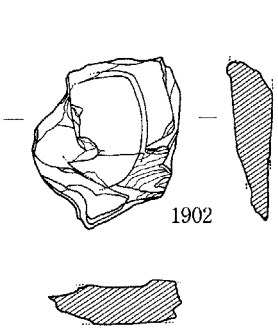


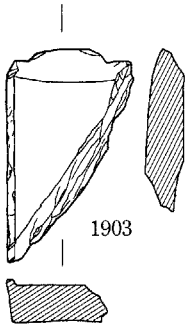
第154図　川関遺跡遺物実測図56

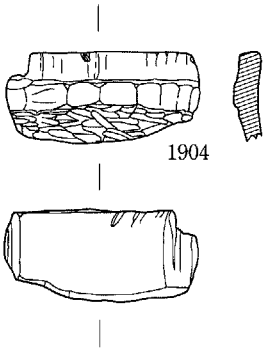


第155図　川関遺跡遺物実測図57

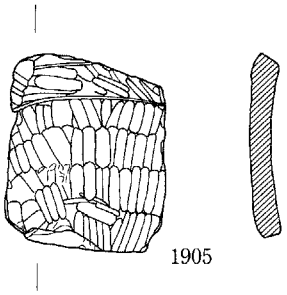
硯1902・1903

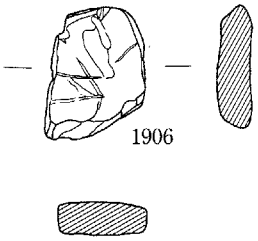


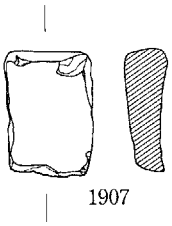




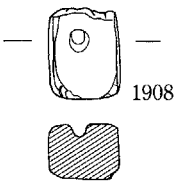
石鍋・温石1904～1907



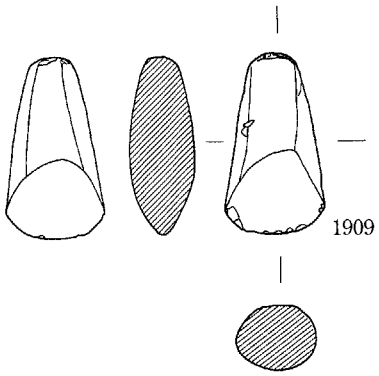


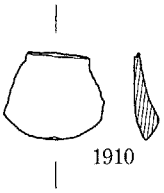


軽石

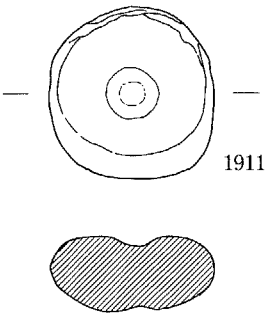


石斧1909・1910

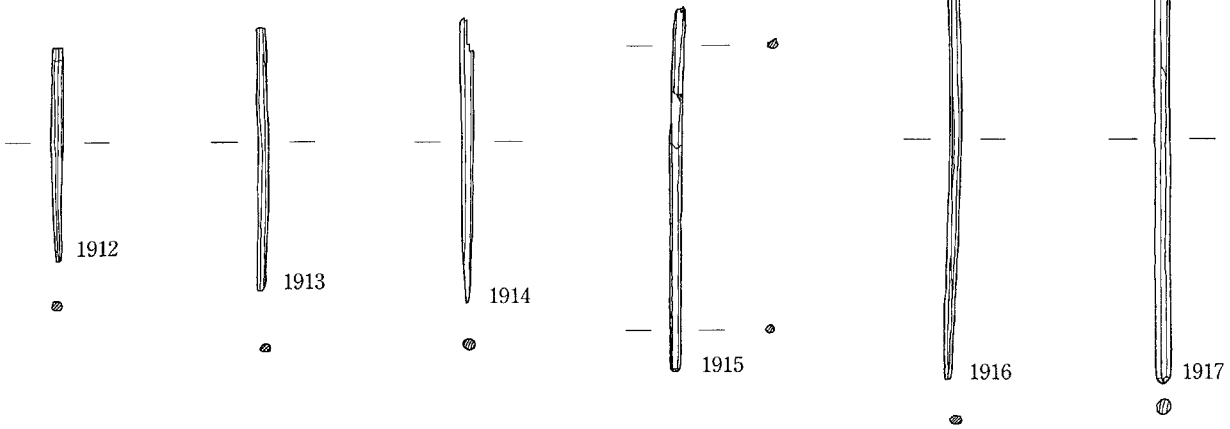


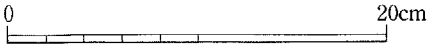


凹石

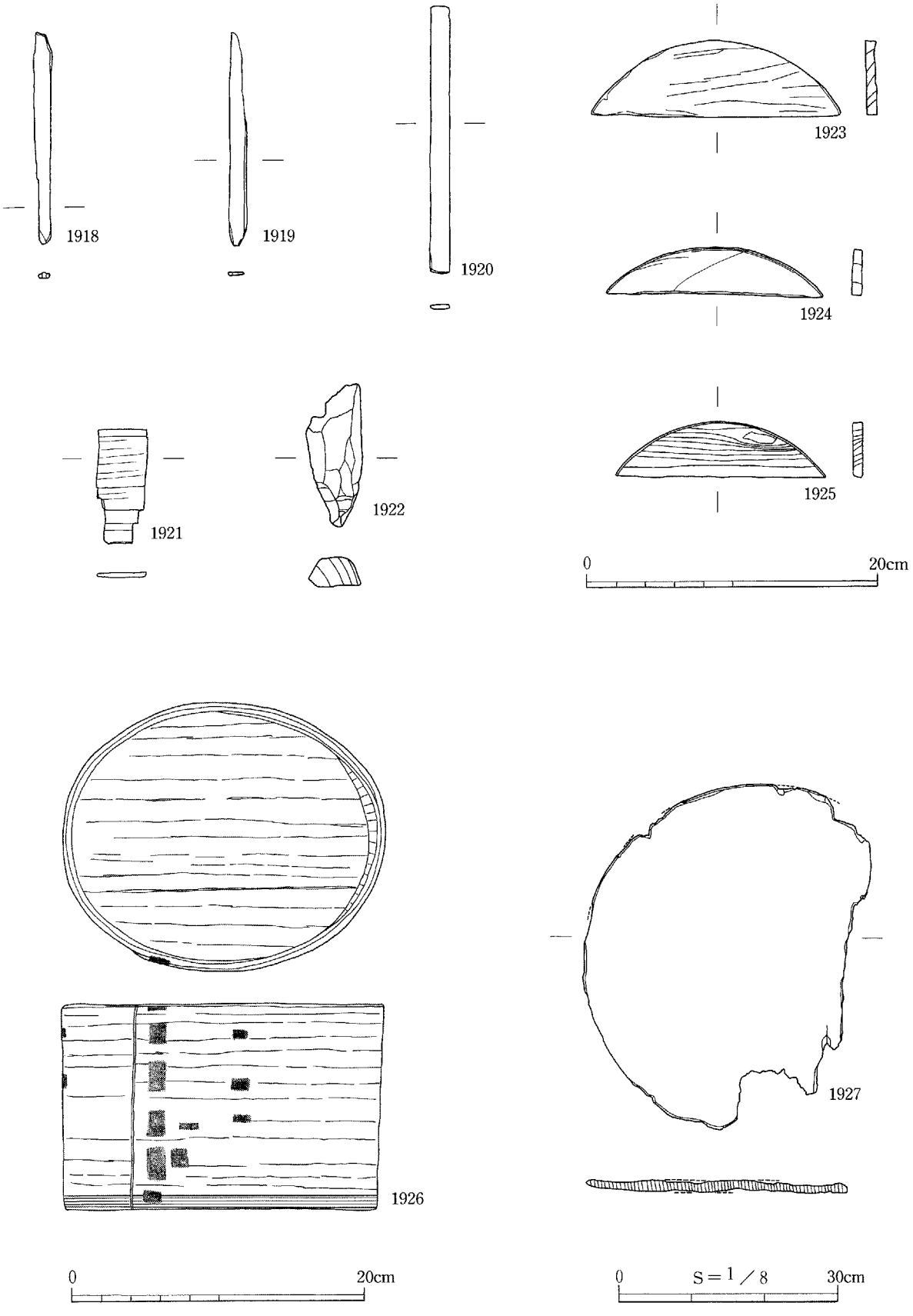


箸1912～1917



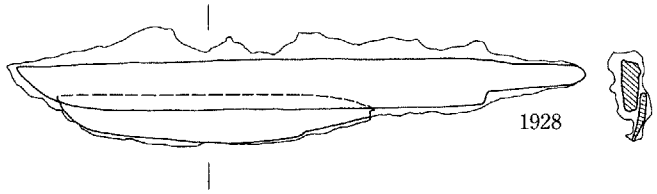


第156図　川関遺跡遺物実測図58

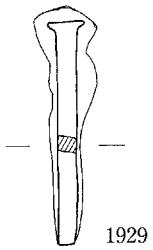


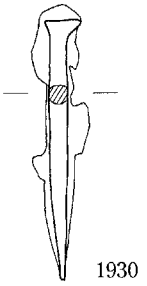
木　製　品

第157図　川関遺跡遺物実測図59

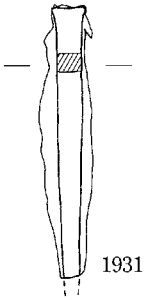


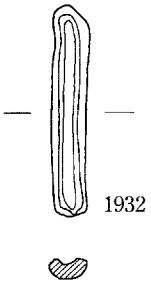


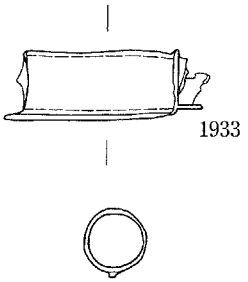


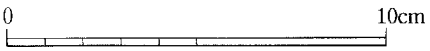


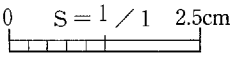
金属製品



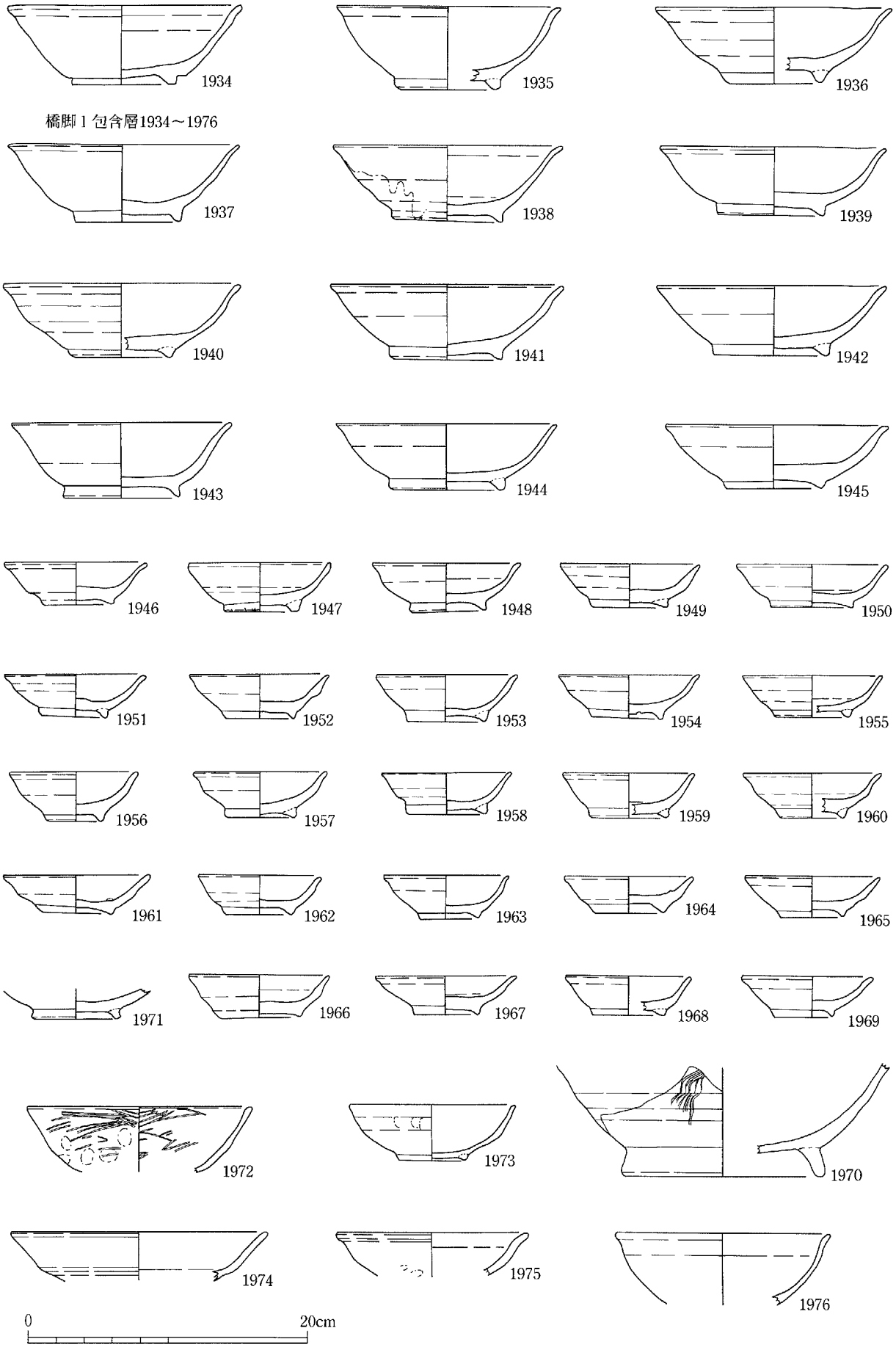




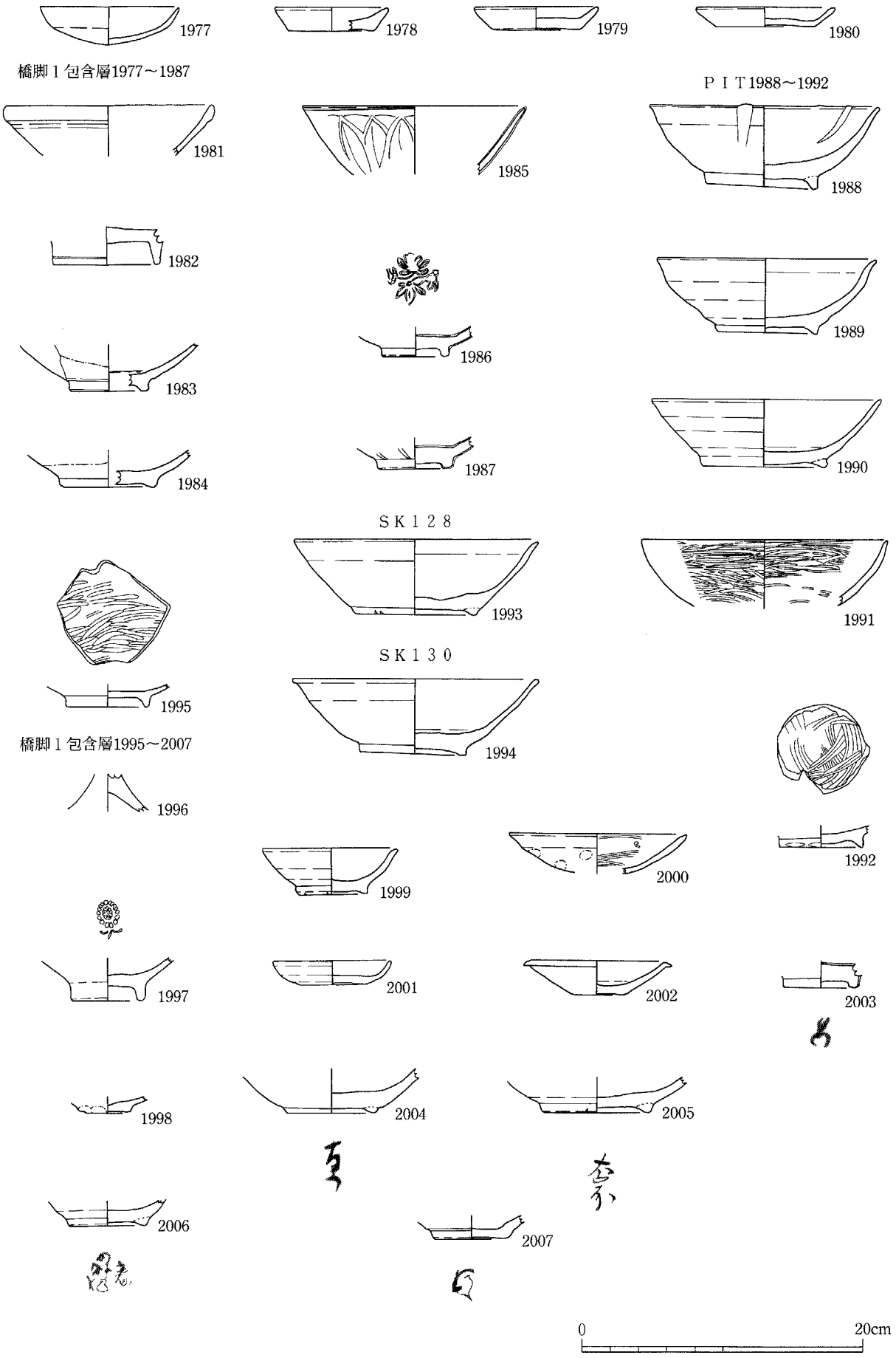




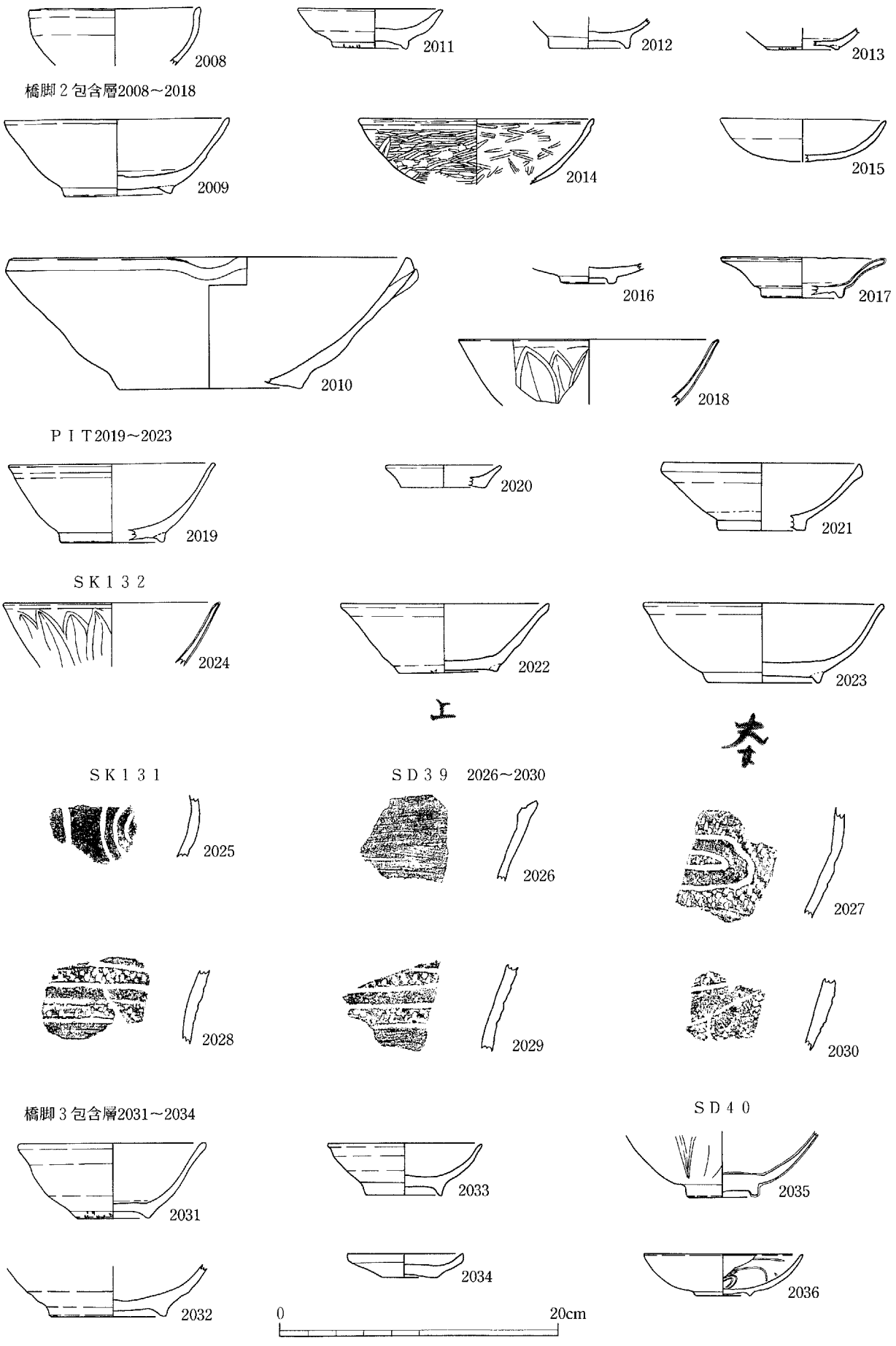
第158図　川関遺跡遺物実測図60



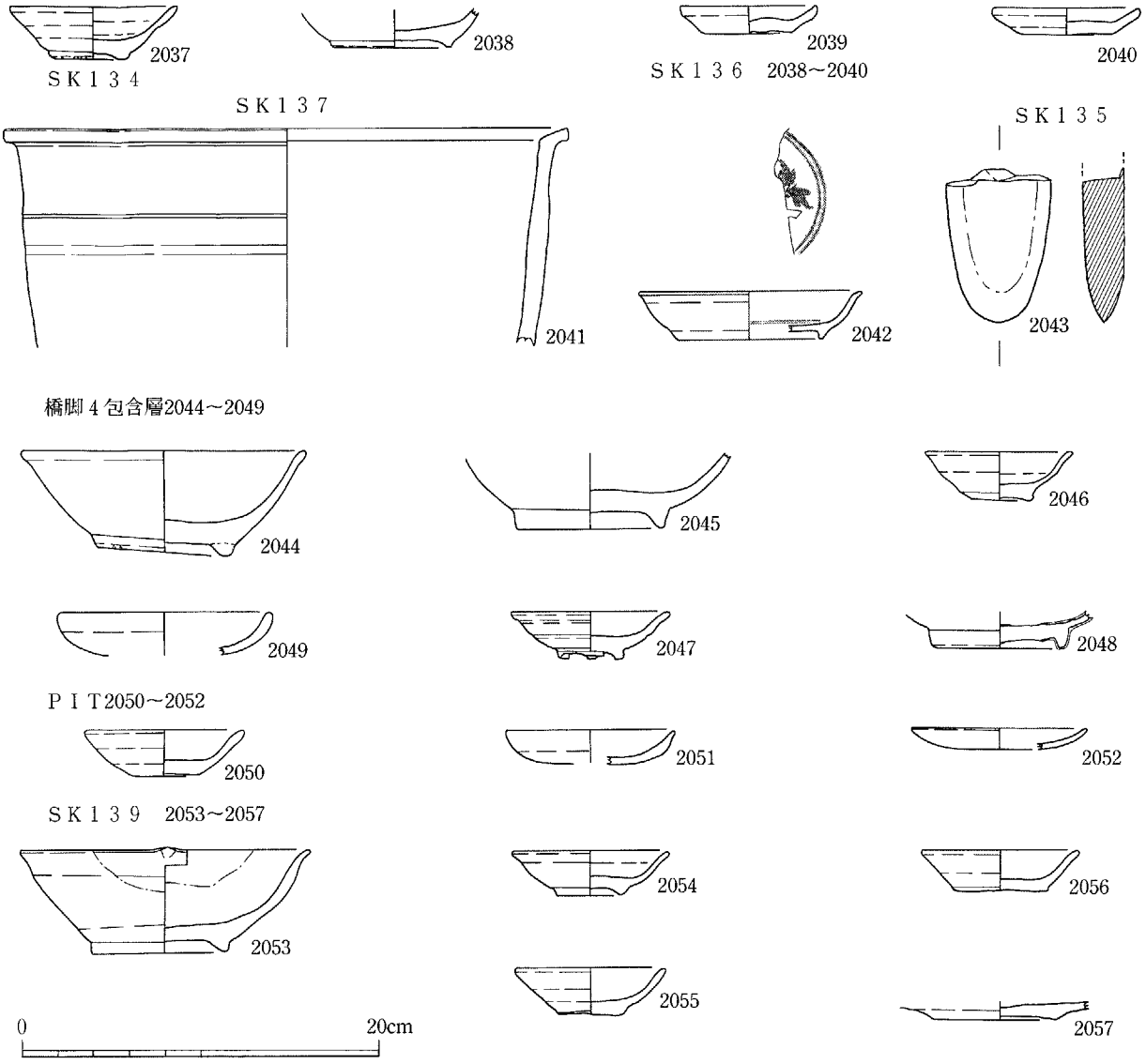
第159図　川関遺跡遺物実測図61



第160図　川関遺跡遺物実測図62



第161図　川関遺跡遺物実測図63



第162図　川関遺跡遺物実測図64

付章　川関遺跡第２次調査における堀１（ＳＨ01）の珪藻分析

株式会社　古環境研究所

１．はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

２．試料

試料は、川関遺跡水田部８東地区より採取された堆積物で、堀１の上層（試料１、シルト混じり灰褐色微砂）、中層（試料２、灰オリーブ褐色砂質土）、下層（試料３、シルト混じり灰オリーブ褐色砂質土）、南肩（試料４、灰オリーブ褐色砂質土～シルト）、北肩（試料５、シルト混じり茶灰オリーブ色砂質土）の計５点である。

３．方法

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

１）試料から乾燥重量１cm^3を秤量

２）10%過酸化水素水を加え、加温しながら一晩放置

３）上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗

４）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥

５）マウントメディアによって封入し、プレパラート作成

６）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1000倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

４．結果

試料から出現した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）52分類群、中塩性種（汽水生種）１分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表１に示す。また模式柱状図を図１に、珪藻総数を基数としたダイアグラムを図２に示す。

以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記す。

〔貧塩性種〕

Aulacoseira sp.、*Cocconeis placentula*、*Cymbella naviculiformis*、*Cymbella silesiaca*、*Eunotia minor*、*Fragilaria*

capucina、*Fragilaria construens v. venter*、*Fragilaria pinnata*、*Gomphonema cleve*、*Gomphonema gracile*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Pinnularia appendiculata*、*Pinnularia borealis*、*Pinnularia gibba*、*Pinnularia microstauron*、*Pinnularia viridis*、*Rhopalodia gibberula*、*Synedra ulna*

〔中塩性種〕

Achnanthes brevipes

1）下層（試料3）

貧塩性種で占められる。*Fragilaria construens v. venter*などの止水性種がやや高率で出現し、*Pinnularia gibba*などの沼沢湿地付着生種、*Cymbella silesiaca*、*Rhopalodia gibberula*などの流水不定性種が伴われる。

2）中層（試料2）

珪藻の密度が低く、貧塩性種で好止水性種珪藻などを検出した。

3）上層（試料1）

貧塩性種がほとんどを占める。*Pinnularia microstauron*を主とする止水性種、*Cocconeis placentula*、*Cymbella silesiaca*などの流水不定性種がやや高率に出現し、*Pinnularia appendiculata*などの陸生珪藻が出現する。他に中塩性種の*Achnanthes brevipes*が伴われる。

4）南肩（試料4）

貧塩性種がほとんどを占める。*Aulacoseira sp.*、*Fragilaria pinnata*などの止水性種、*Cocconeis placentula*、*Cymbella silesiaca*などの流水不定性種がやや高率に出現し、*Pinnularia appendiculata*などの陸生珪藻が出現する。中塩性種の*Achnanthes brevipes*などが伴われる。

5）北肩（試料5）

珪藻密度が非常に低く、貧塩性種がわずかに検出された。

5．珪藻分析から推定される堆積環境

珪藻が比較的多く検出された上層（試料1）、下層（試料3）、南肩（試料4）は、貧塩性種が優占する。止水性種の割合がやや高いが、流水不定性種、陸生珪藻、沼沢湿地付着生種の割合もやや高い。こうしたことから、水田部8東地区堀1の上層（試料1）、下層（試料3）および南肩（試料4）の層準は、池状の止水域の環境が示唆され、周辺には湿地の分布が推定される。流水不定性種がやや多いことから、やや不安定な水域が想定され、水深の変化が頻繁にあったと考えられる。また、水草に付着して生育する沼沢湿地付着生種の出現から、水草の生育が示唆される。中層（試料2）、北肩（試料5）は珪藻密度が低い。なお、上層（試料1）、下層（試料3）、南肩（試料4）も密度はあまり高くないことから、土壌の堆積速度が比較的速かったことが示唆される。中塩性種が検出されることから、塩分を含む生活排水の流れ込みが考えられる。

6．まとめ

川関遺跡水田部8東地区堀1について珪藻分析を行った。その結果、概して池状の止水域の環境が

示唆された。水草が生育するやや不安定な水深で、堆積速度が速く、塩分を含む生活排水の流れ込みがあったと推定された。

参考文献

Hustedt,F. (1937-1938) Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol, Suppl.15,p.131-506.

Patrick, R.eimer, C. W. (1966) The diatom of the United States, vol.1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.

Lowe,R.L. (1974) Environmental Requirements and pollusion tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

Patrick, R.eimer, C. W. (1975) The diatom of the United States, vol.2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.

Asai,K.&,Watanabe,T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.

小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p.29-44.

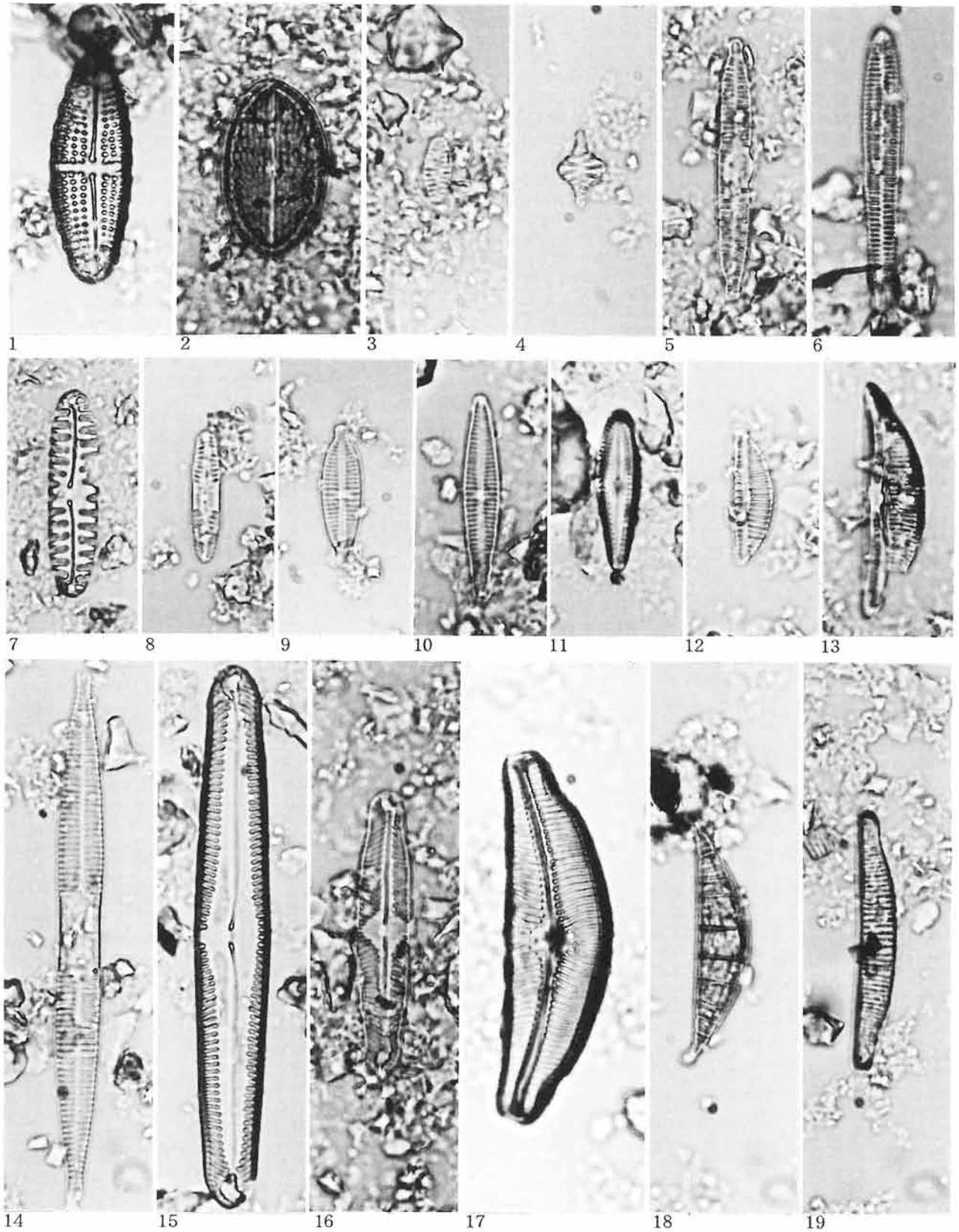
小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p.1－20.

安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p.73－88.

伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23－ 45.

表１　藤倉城跡・川関遺跡における珪藻分析結果

分類群	川関遺跡水田部８東地区　掘１				
	上層	中層	下層	南肩	北肩
	1	2	3	4	5
貧塩性種（淡水生種）					
Achnanthes exigua				1	
Achnanthes lanceolata			1		
Amphora copulata	1		1	2	
Aulacoseira sp.	1		2	6	
Cocconeis placentula	8	3	1	2	
Cocconeis sp.				1	
Cymbella gracilis			2		
Cymbella naviculiformis	3		2		
Cymbella silesiaca	8	1	3	3	
Cymbella tumida			1	2	
Cymbella turgidula			1	1	
Epithemia adnata	1				
Eunotia diodon			1		
Eunotia minor	2		2	3	
Fragilaria capucina	3	1	2	1	
Fragilaria capucina v. perminuta	1				
Fragilaria construens v. subsalina	1				
Fragilaria construens v. venter	1	1	5	2	
Fragilaria leptostauron	1		1		
Fragilaria pinnata			2	6	
Frustulia rhomboides	3	1			
Frustulia vulgaris	1				
Gomphonema acuminatum			1	1	
Gomphonema angustatum			1	1	
Gomphonema clevei	4	2		2	
Gomphonema gracile	4		1	1	
Gomphonema parvulum			4		
Gomphonema pseudoaugur		1			
Gomphonema sphaerophorum	1				
Gyrosigma sp.	1				
Hantzschia amphioxys	4			1	
Navicula cohnii			1		
Navicula confervacea			1		
Navicula contenta			1	1	
Navicula mutica	4	1	1	1	
Navicula radiosa			1		
Navicula viridula v. rostellata			1		
Neidium ampliatum	2				
Pinnularia acrosphaeria			1		
Pinnularia appendiculata	5	2	2	3	
Pinnularia borealis	3		1	1	
Pinnularia gibba	2	1	2	1	
Pinnularia interrupta			2		
Pinnularia microstauron	15	1	2	3	
Pinnularia subcapitata	2	1	1		
Pinnularia viridis	2	2		2	
Rhoicosphenia abbreviata	3				
Rhopalodia gibberula	3	1	3	3	1
Stauroneis anceps			1	1	
Surirella ovata	1				
Surirella splendida	1				
Synedra ulna	1	4	1	1	
中塩性種（汽水生種）					
Achnanthes brevipes	7	2		4	
合　計	100	25	56	57	1
未同定	12	1	5	12	1
破片	46	19	49	49	0
試料１cm^3中の殻数密度	9.1 $\times 10^4$	8.8 $\times 10^3$	8.2 $\times 10^4$	1.5 $\times 10^4$	8.0 $\times 10^2$
完形殻保存率（%）	70.9	57.8	55.5	58.5	−



1. *Achnanthes brevipes* 2. *Cocconeis placentula* 3. *Fragilaria construens* v. *venter* 4. *Fragilaria leptostauron* 5. *Fragilaria capucina*
6. *Rhoicosphenia abbreviata* 7. *Pinnularia borealis* 8. *Pinnularia appendiculata* 9. *Gomphonema parvulum* 10. *Gomphonema gracile*
11. *Gomphonema clevei* 12. *Cymbella silesiaca* 13. *Amphora copulata* 14. *Synedra ulna* 15. *Pinnularia gibba*
16. *Pinnularia microstauron* 17. *Cymbella tumida* 18. *Rhopalodia gibberula* 19. *Eunotia minor*

図　　版



藤倉城山城部遠景（東から）



藤倉城山城部（南東から）



藤倉城山城部北郭（南から）



藤倉城山城部北郭（北から）



藤倉城山城部南郭（北から）



藤倉城山城部南郭（南から）



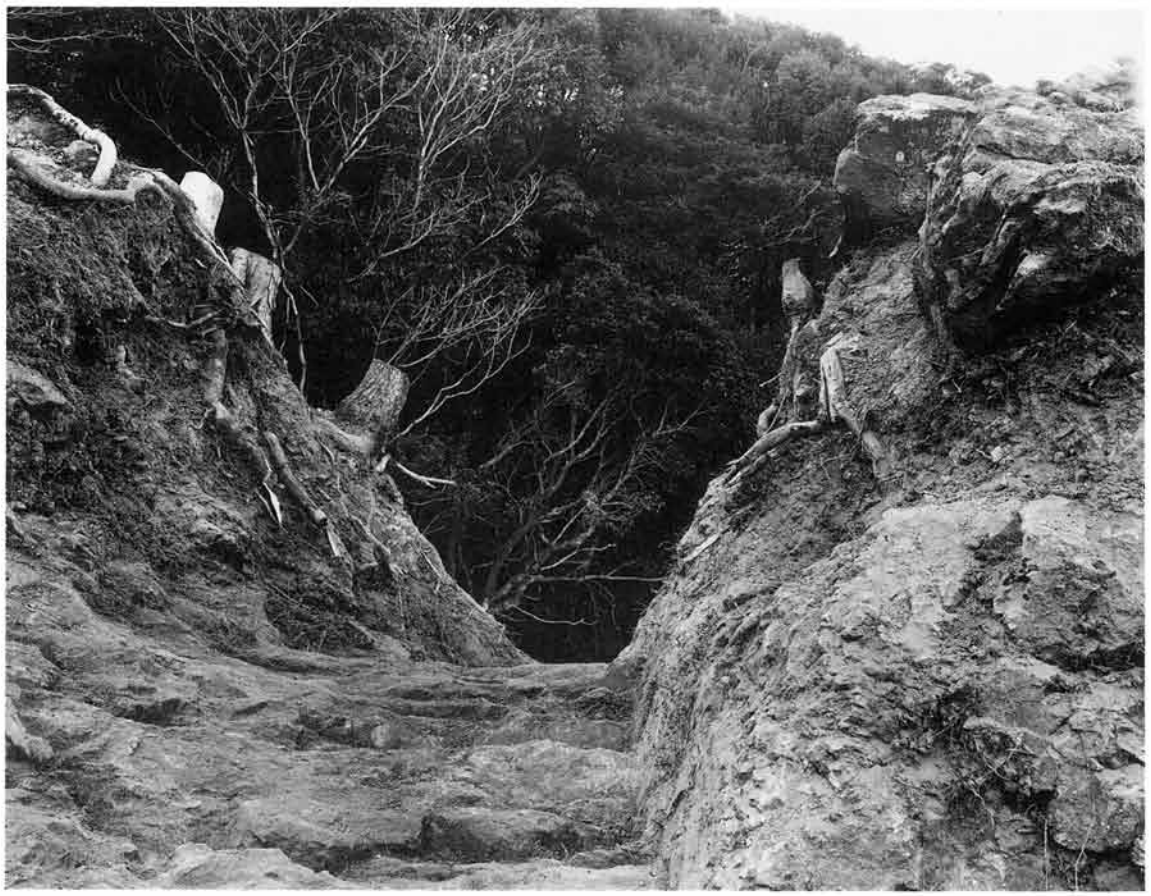
藤倉城櫓台（北から）



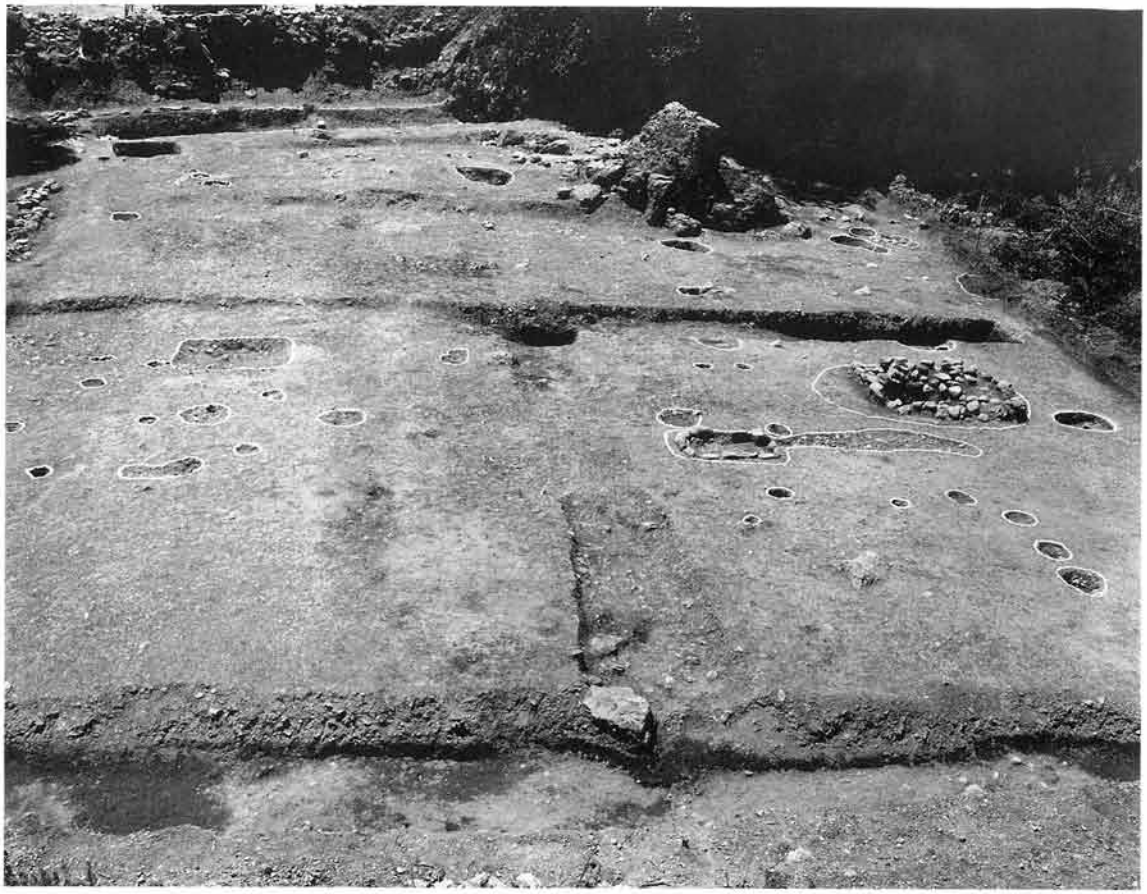
藤倉城北郭石柱



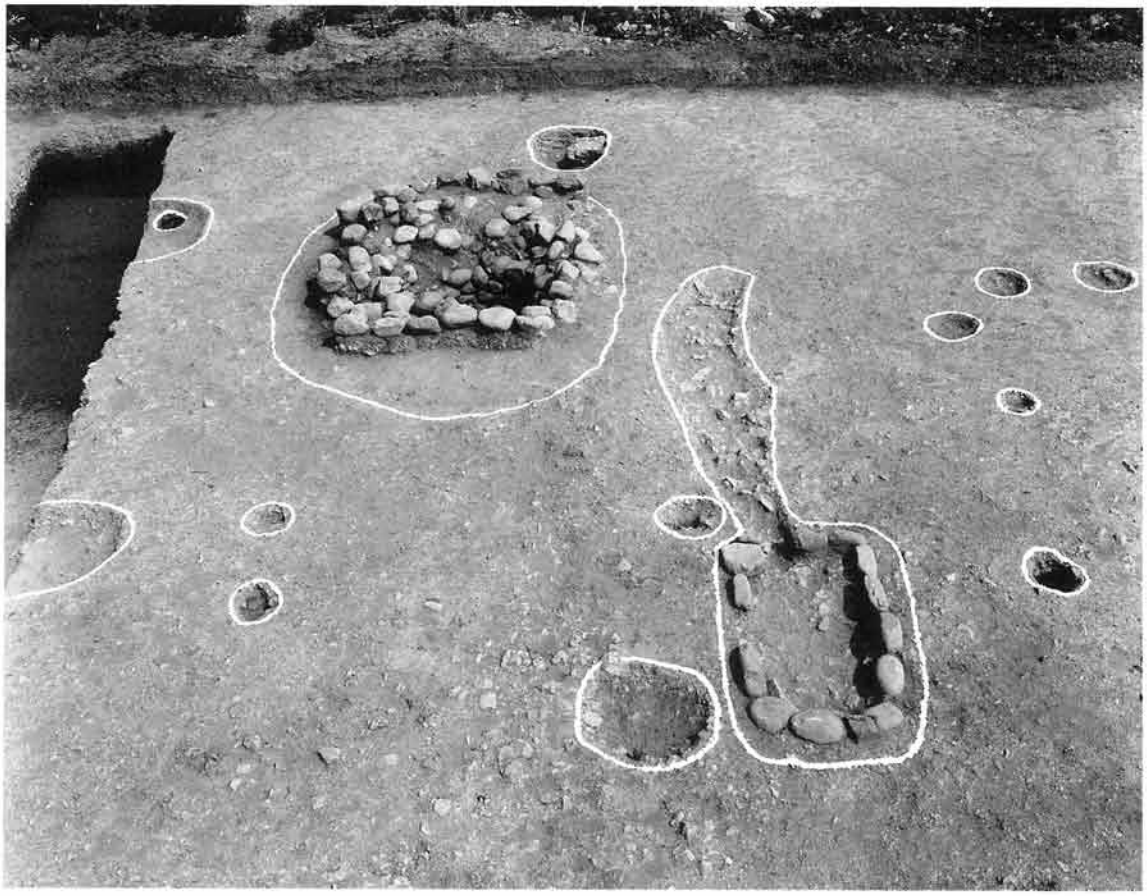
藤倉城堀切４遠景（南から）



藤倉城堀切４（南から）



藤倉城館部A区全景（東から）



藤倉城館部SE01・SF01



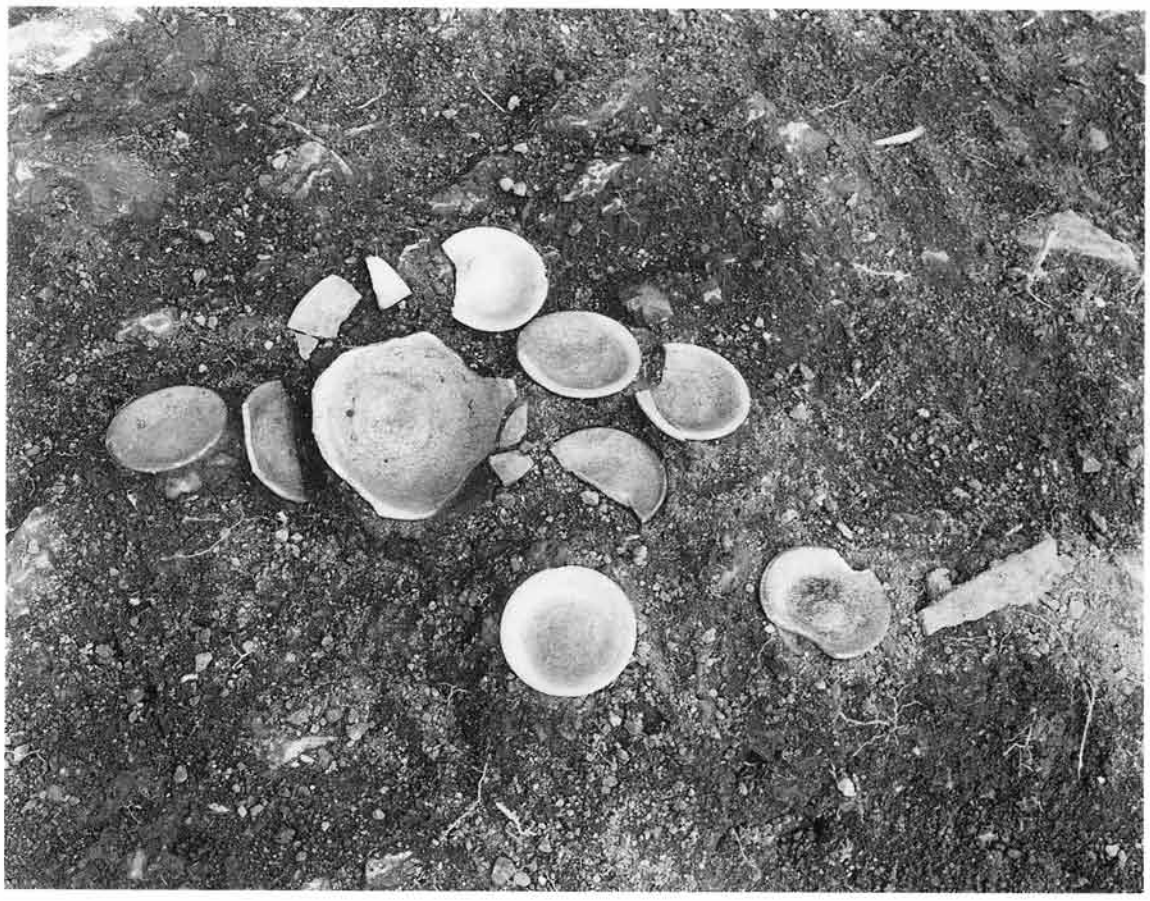
藤倉城館部SH02



藤倉城館部SH02陸橋部土層



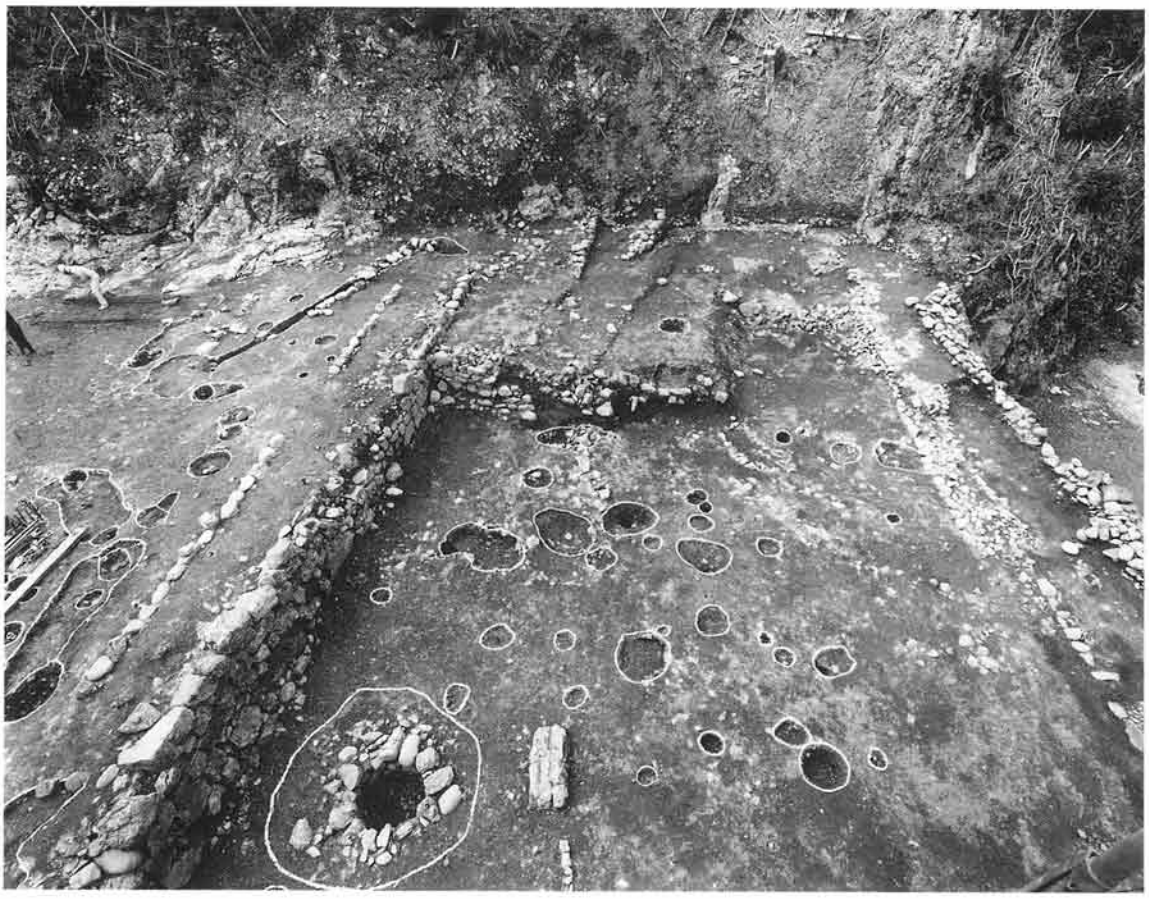
藤倉城館部SX01



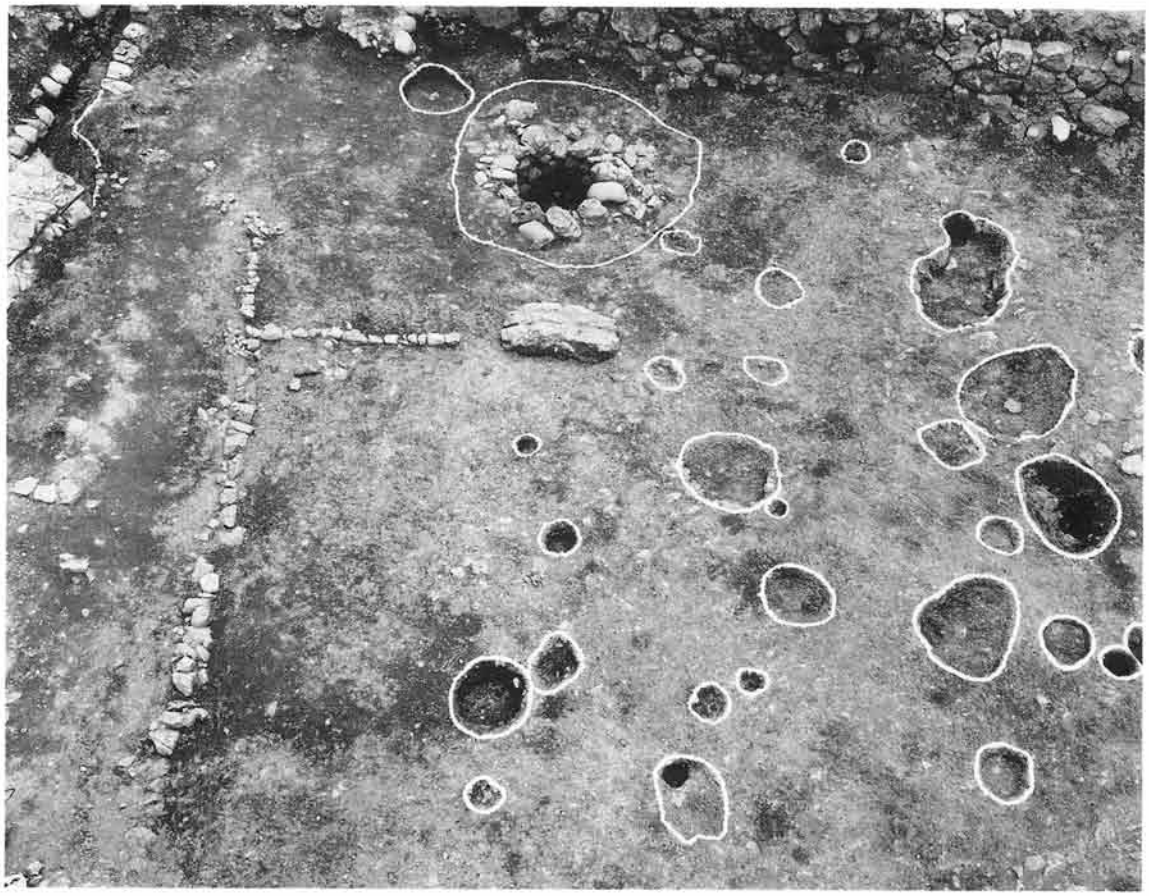
藤倉城館部SX02



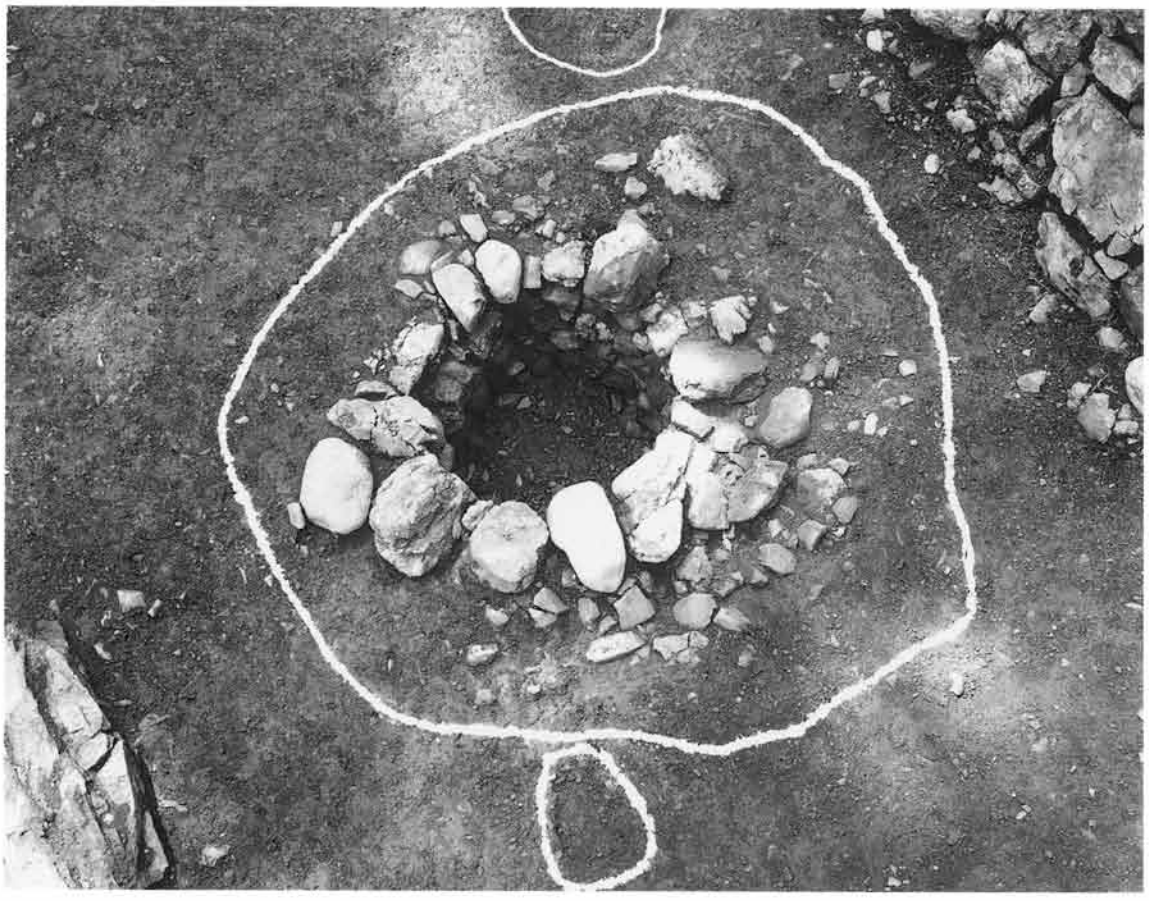
藤倉城館部Ｂ・Ｃ区全景（東から）



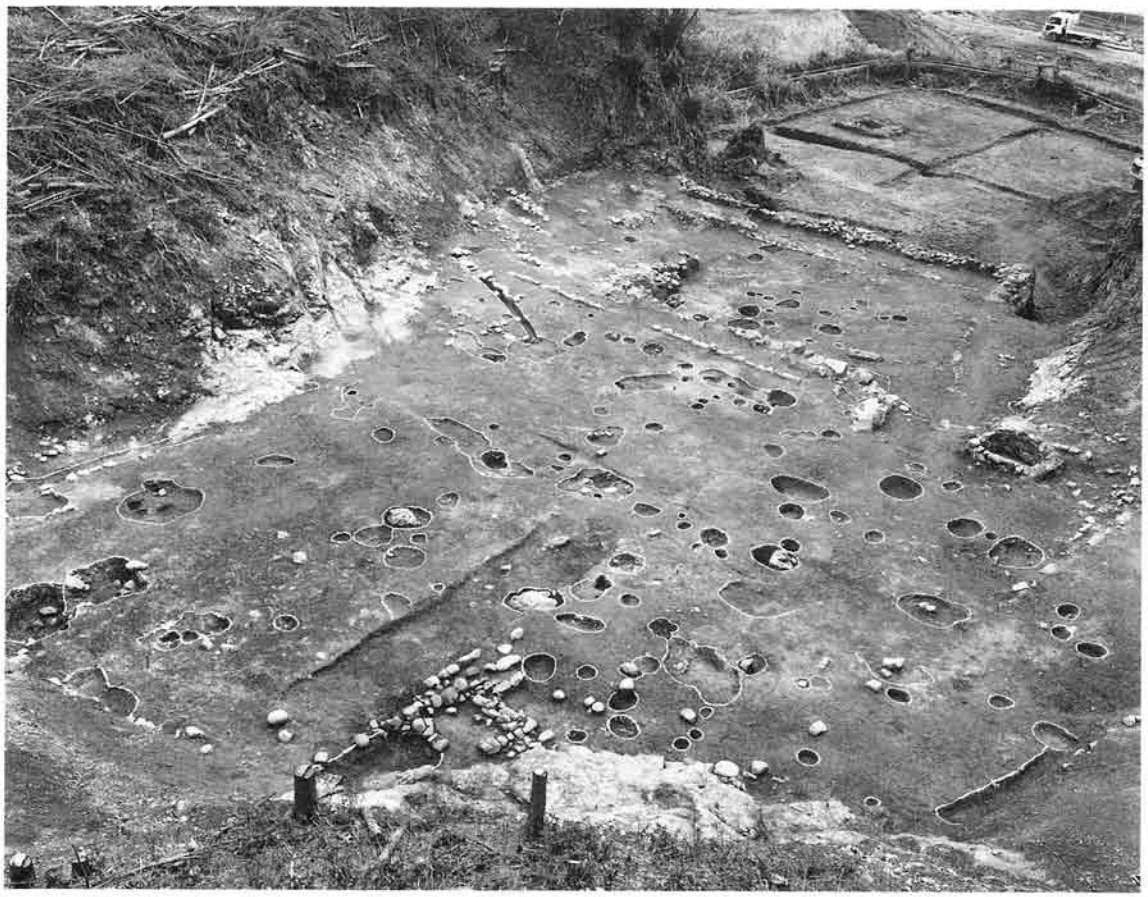
藤倉城館部Ｂ区全景（南から）



藤倉城館部Ｂ区南西部（東から）



藤倉城館部SE02



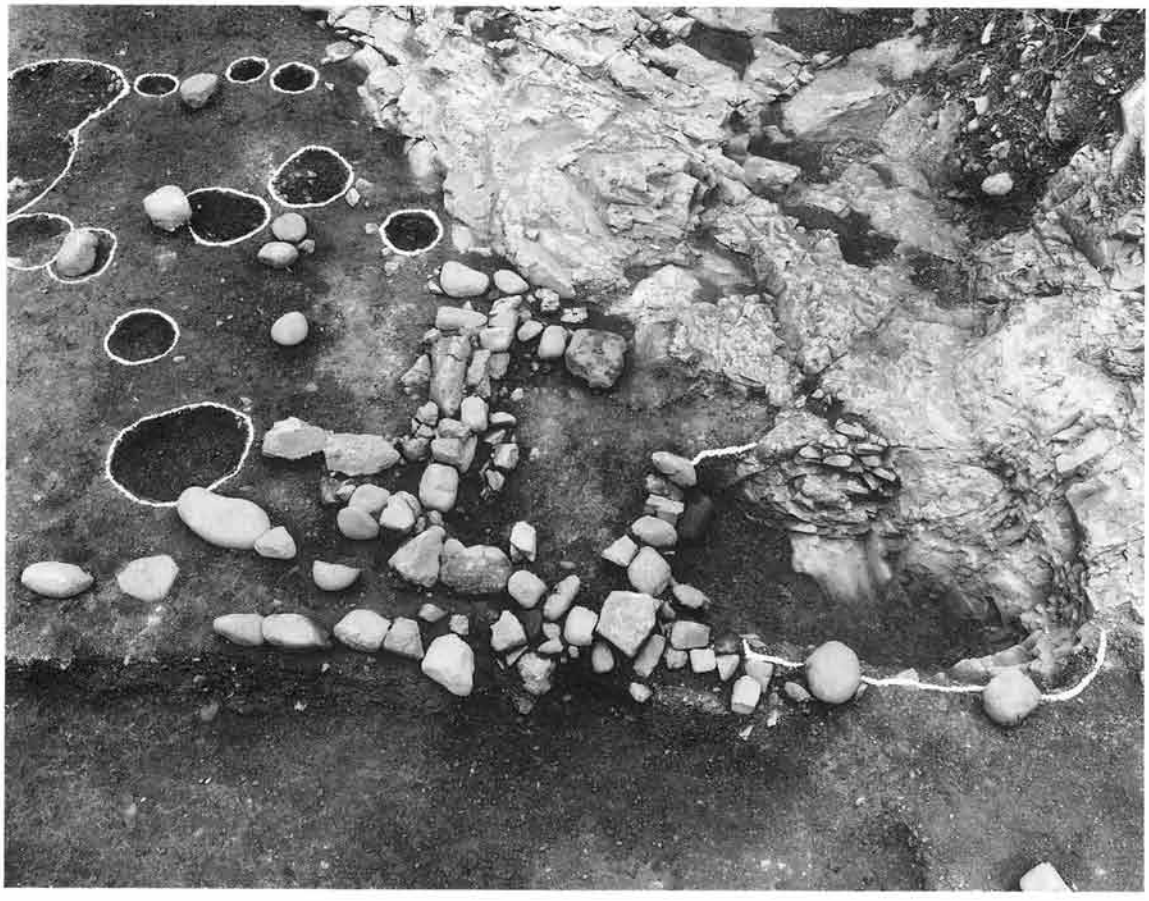
藤倉城館部C区全景（南から）



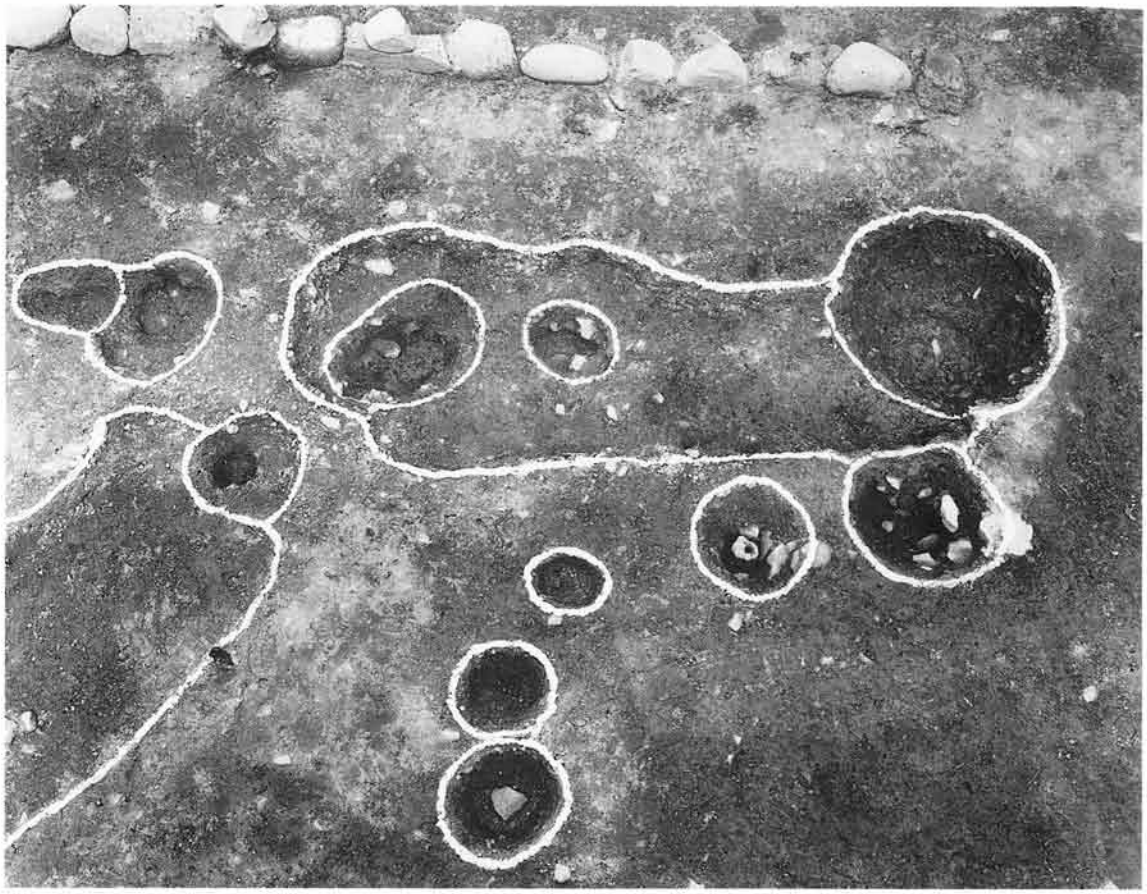
藤倉城館部C区全景（西から）



藤倉城館部SS01



藤倉城館部SF02



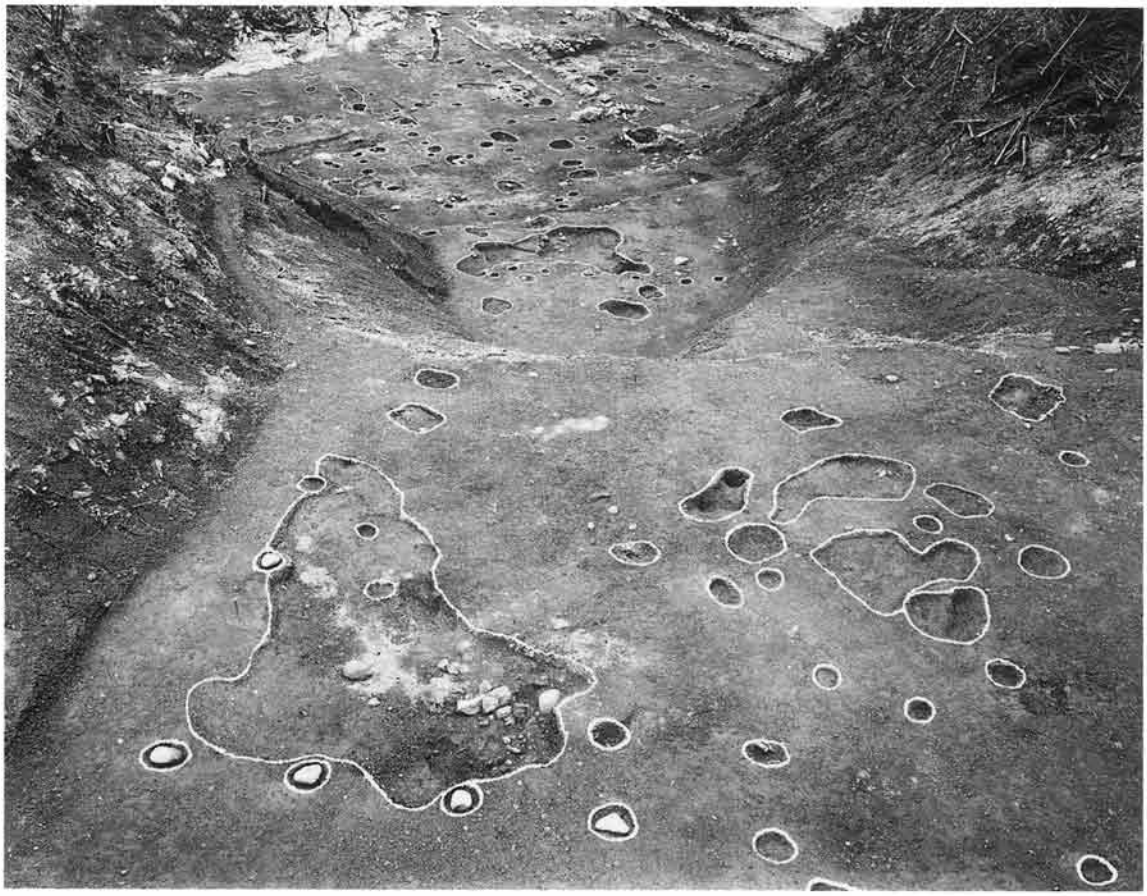
藤倉城館部SX08・09



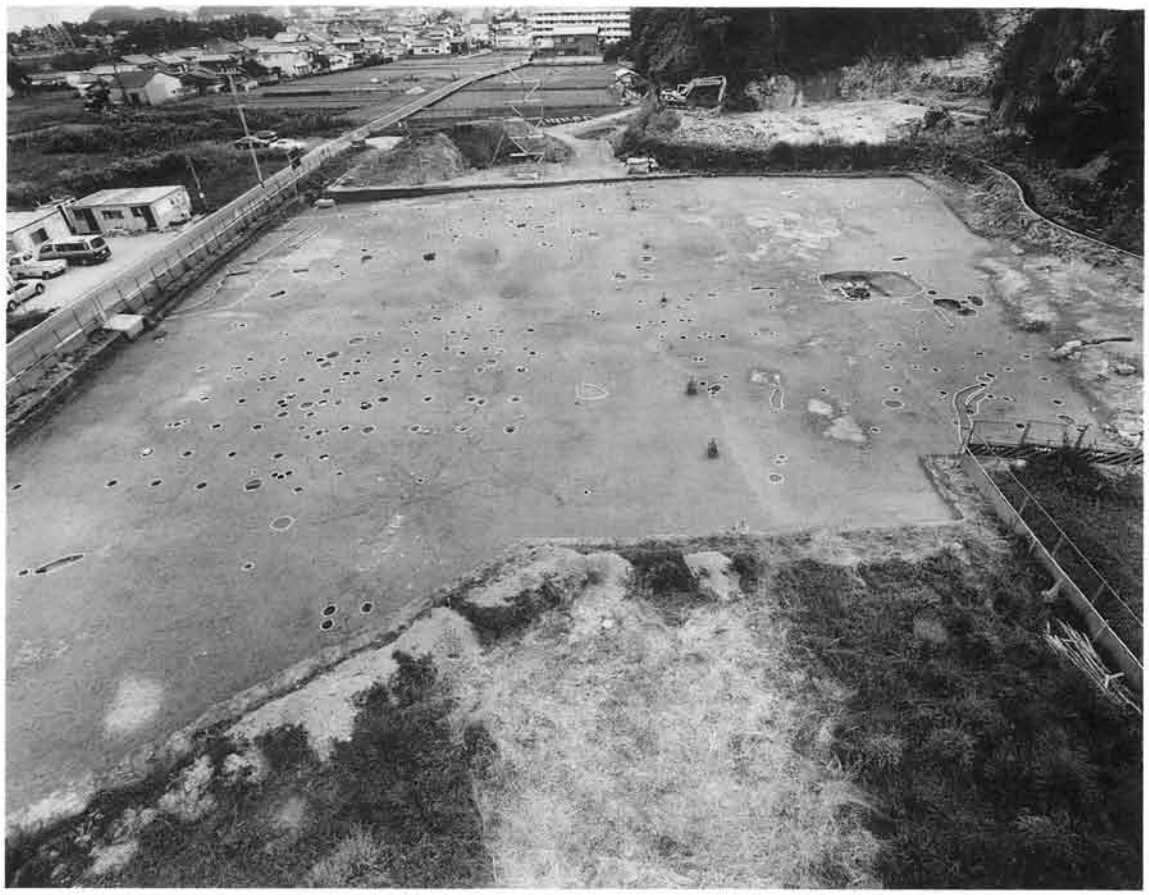
藤倉城館部C区南西部土器出土状況



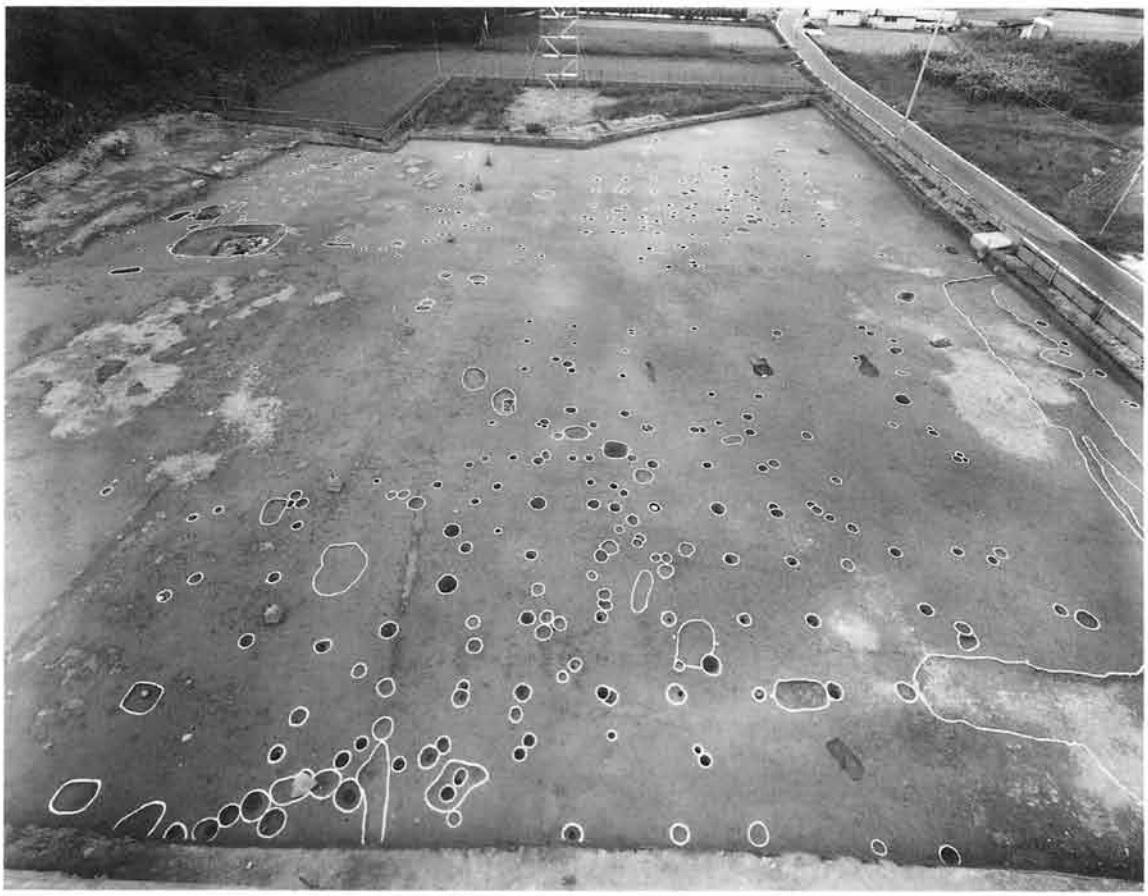
藤倉城館部Ｄ・Ｅ区全景（西から）



藤倉城館部Ｆ・Ｇ区全景（南から）



川関遺跡水田部１区全景（北から）



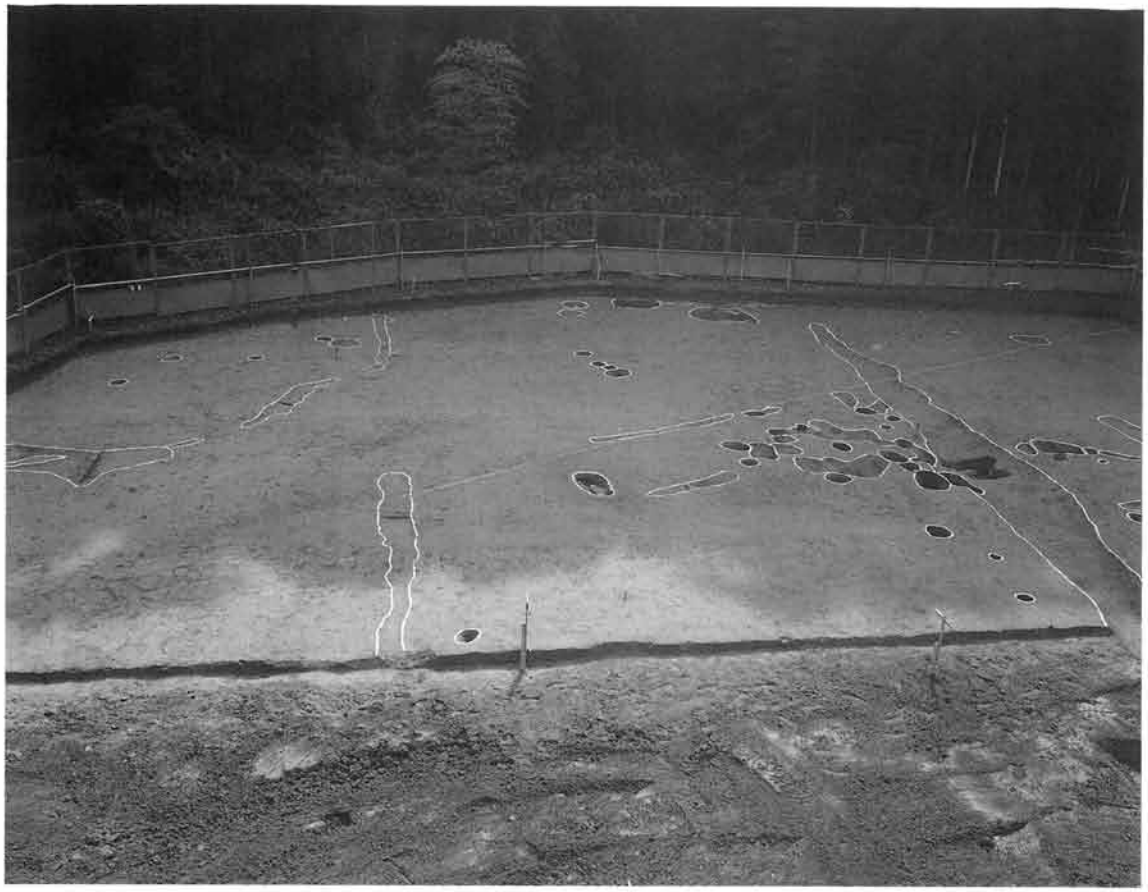
川関遺跡水田部１区全景（南から）



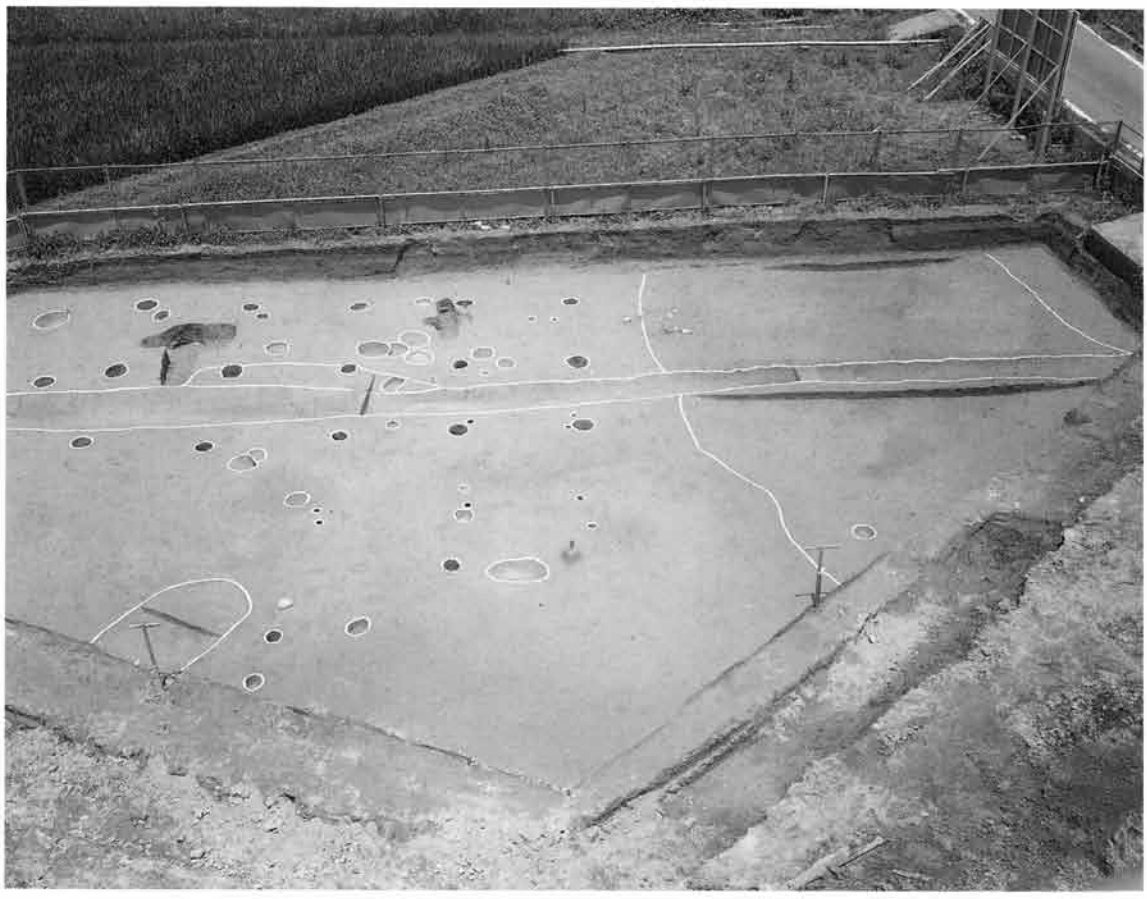
川関遺跡水田部２区全景（南から）



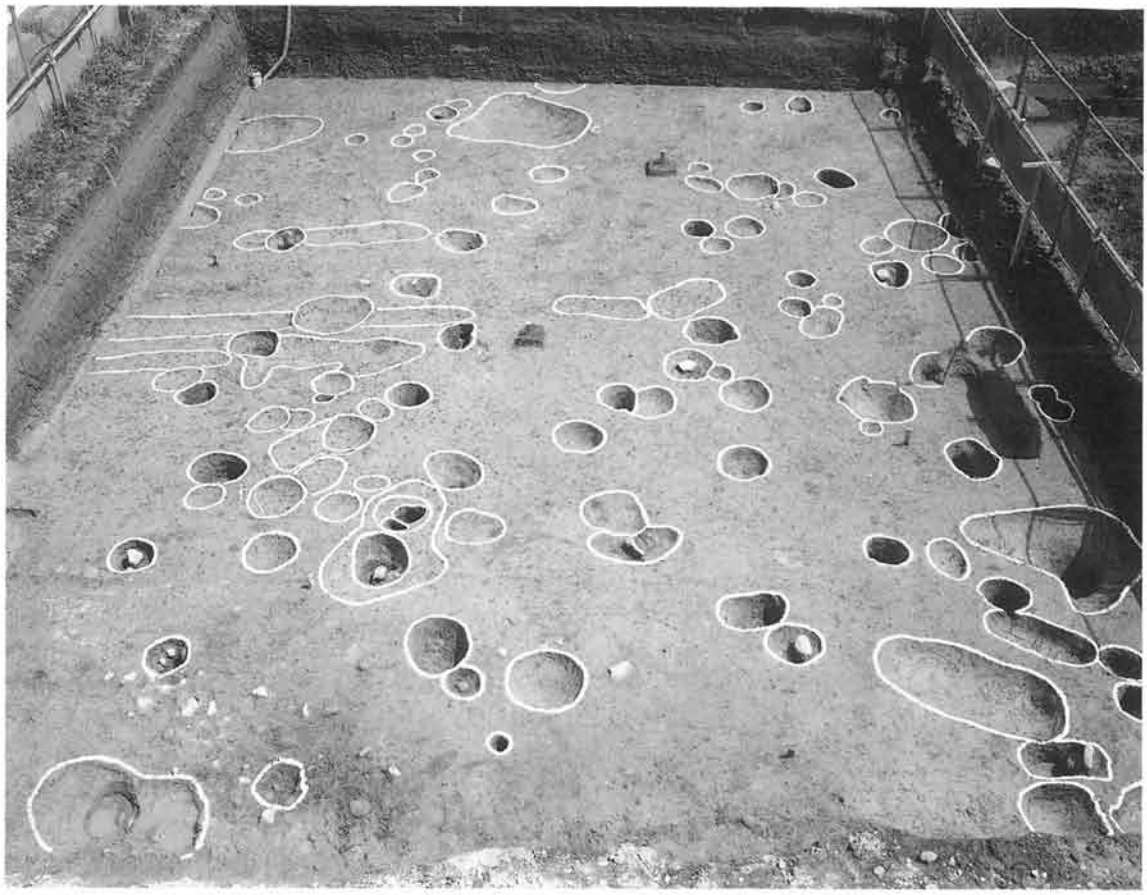
川関遺跡水田部２区全景（東から）



川関遺跡水田部５区全景（東から）



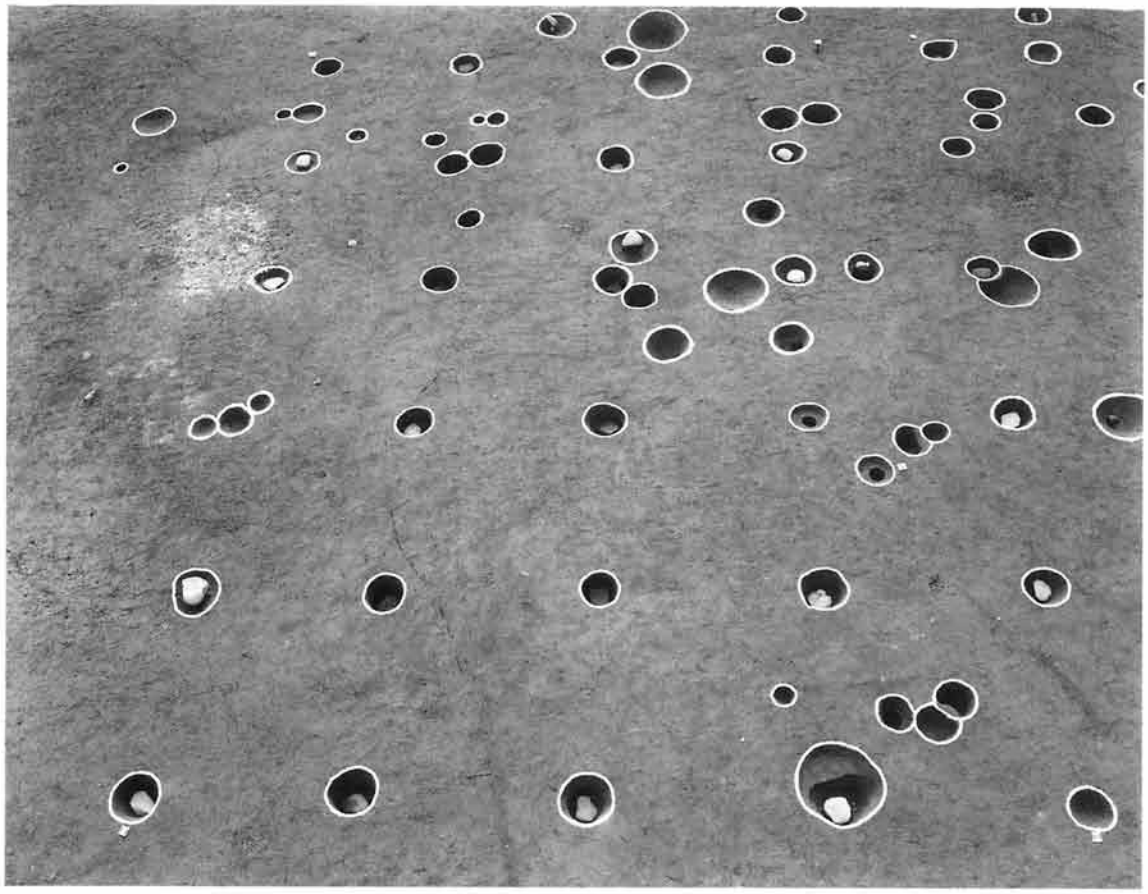
川関遺跡水田部６区全景（南から）



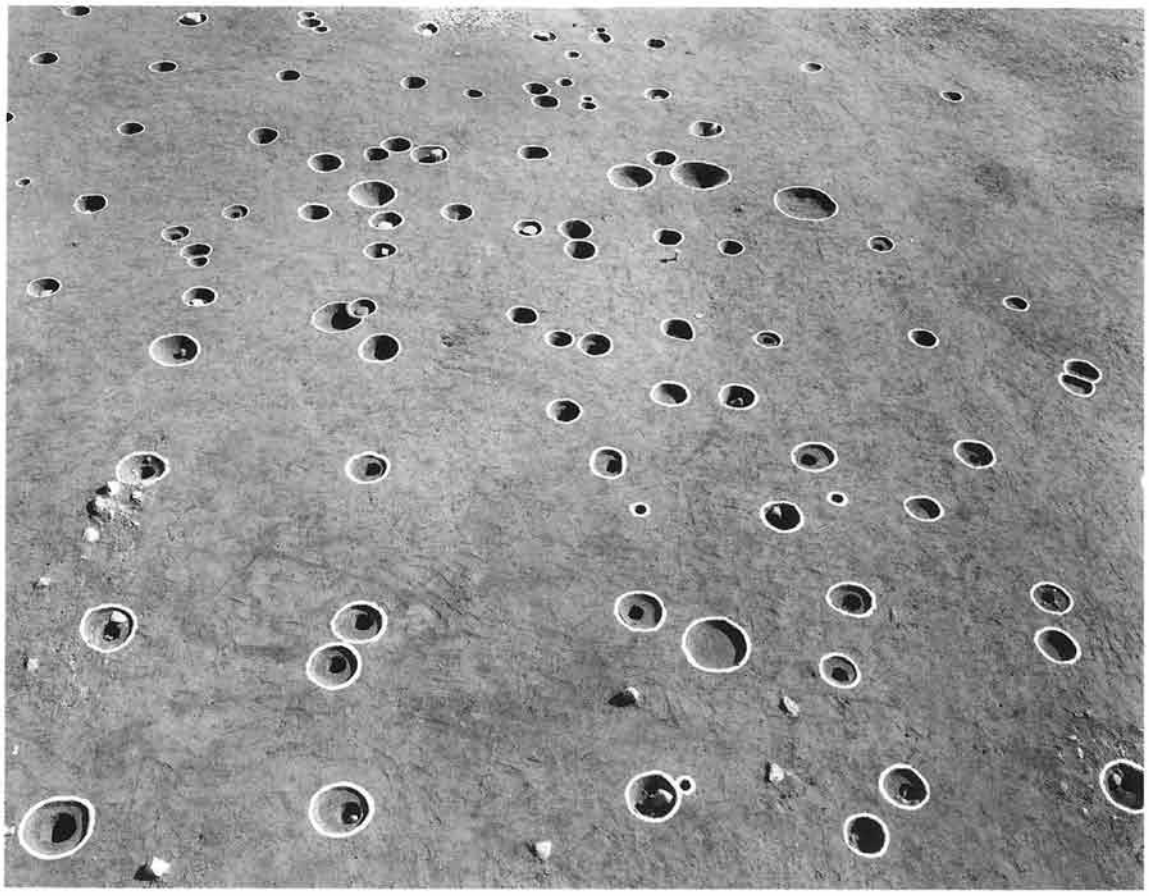
川関遺跡水田部７区全景（北から）



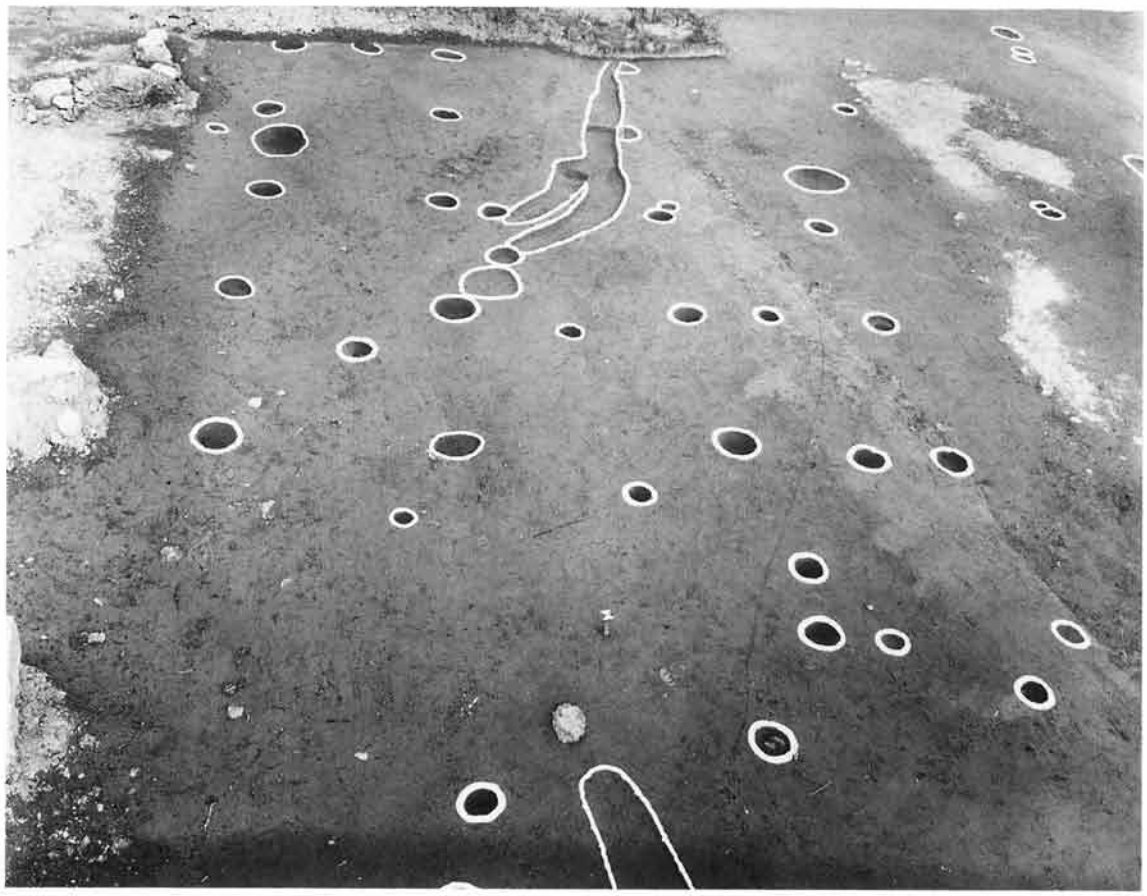
川関遺跡SB01（西から）



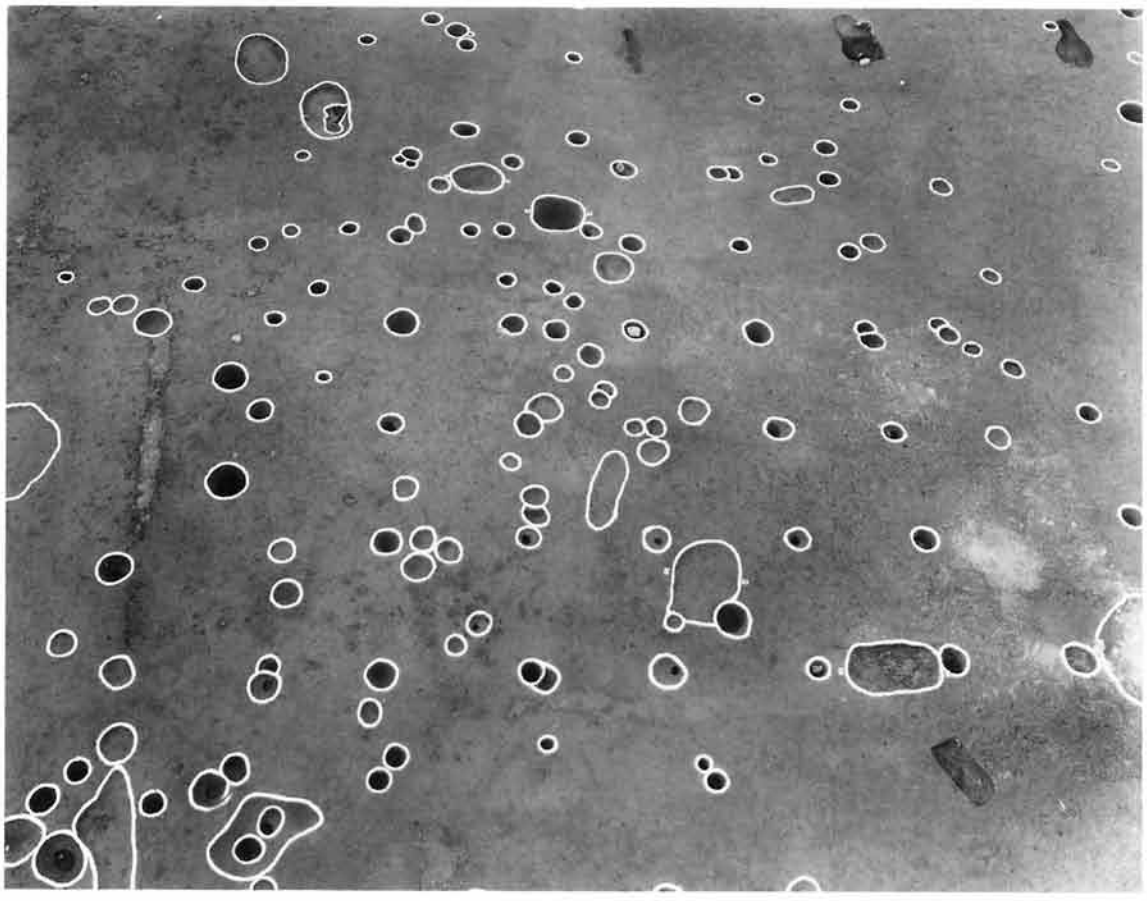
川関遺跡SB03（北から）



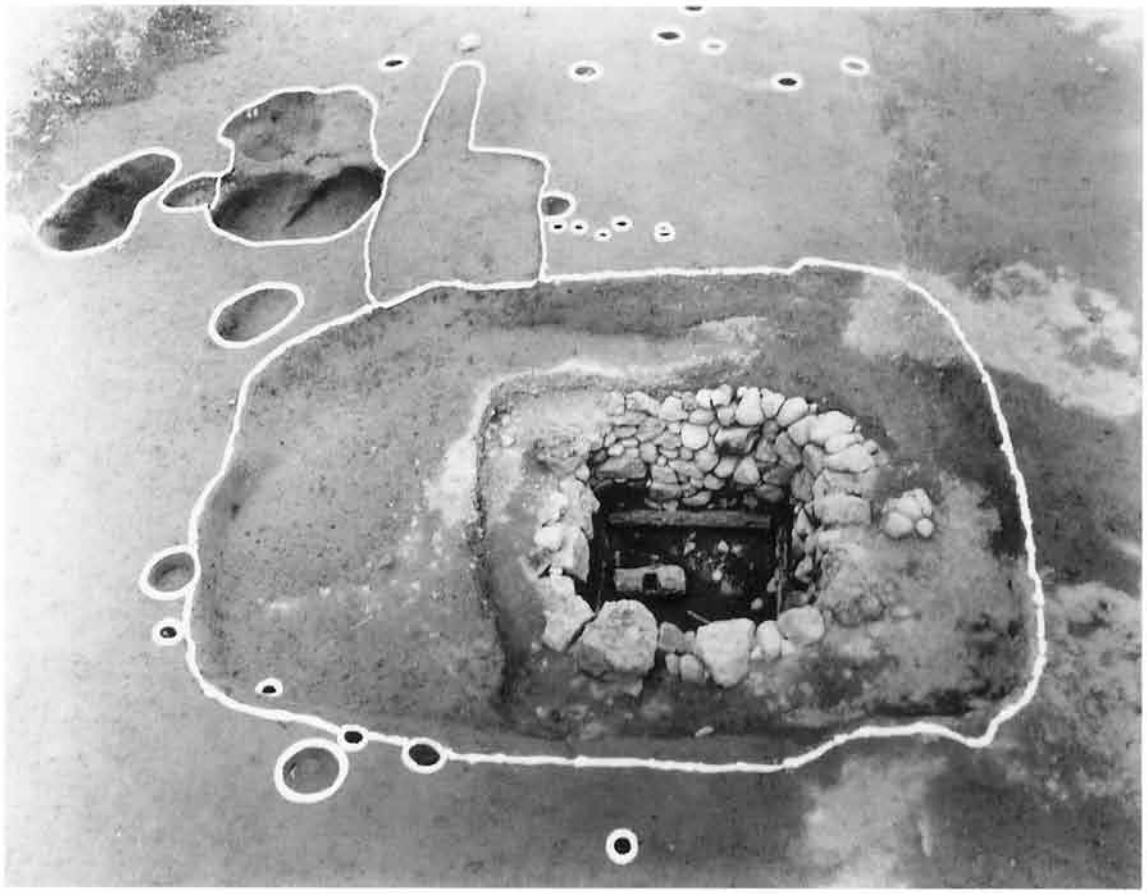
川関遺跡SB04（北から）



川関遺跡SB05（南から）



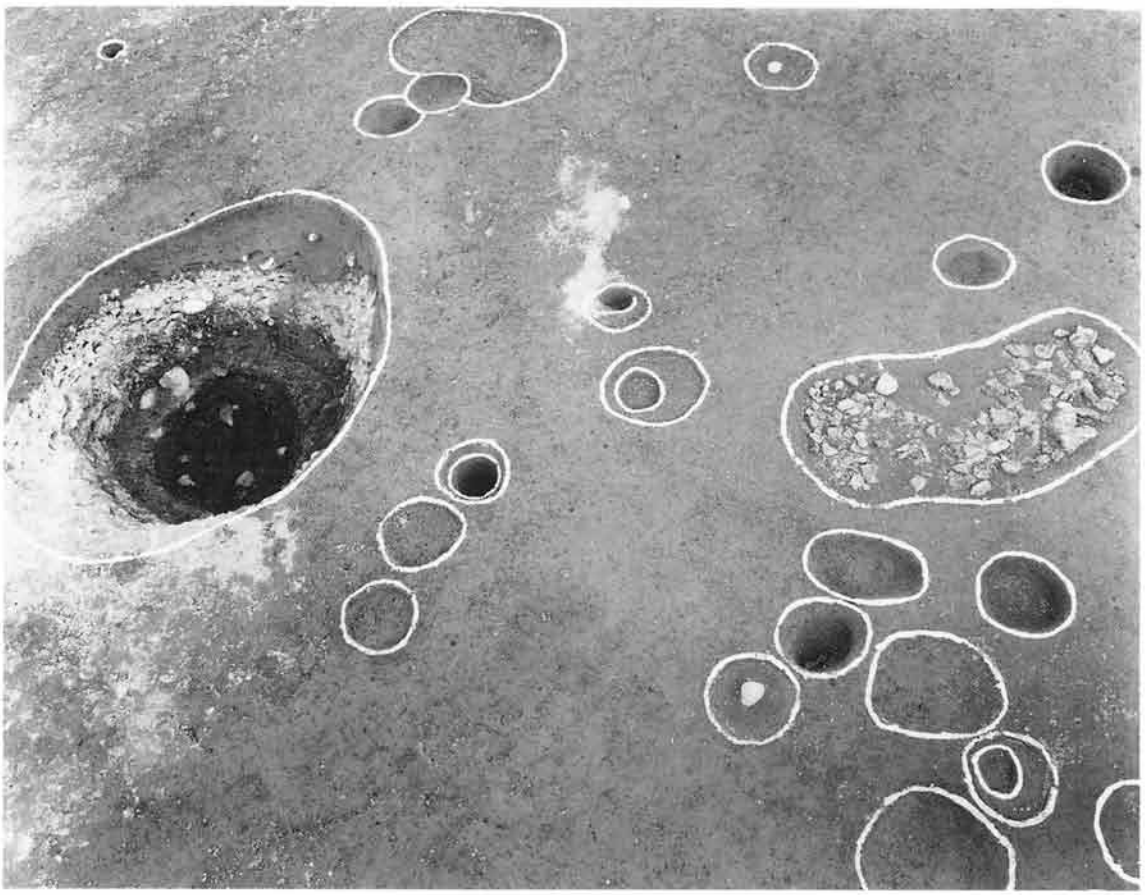
川関遺跡SB08（南から）



川関遺跡SF01（南から）



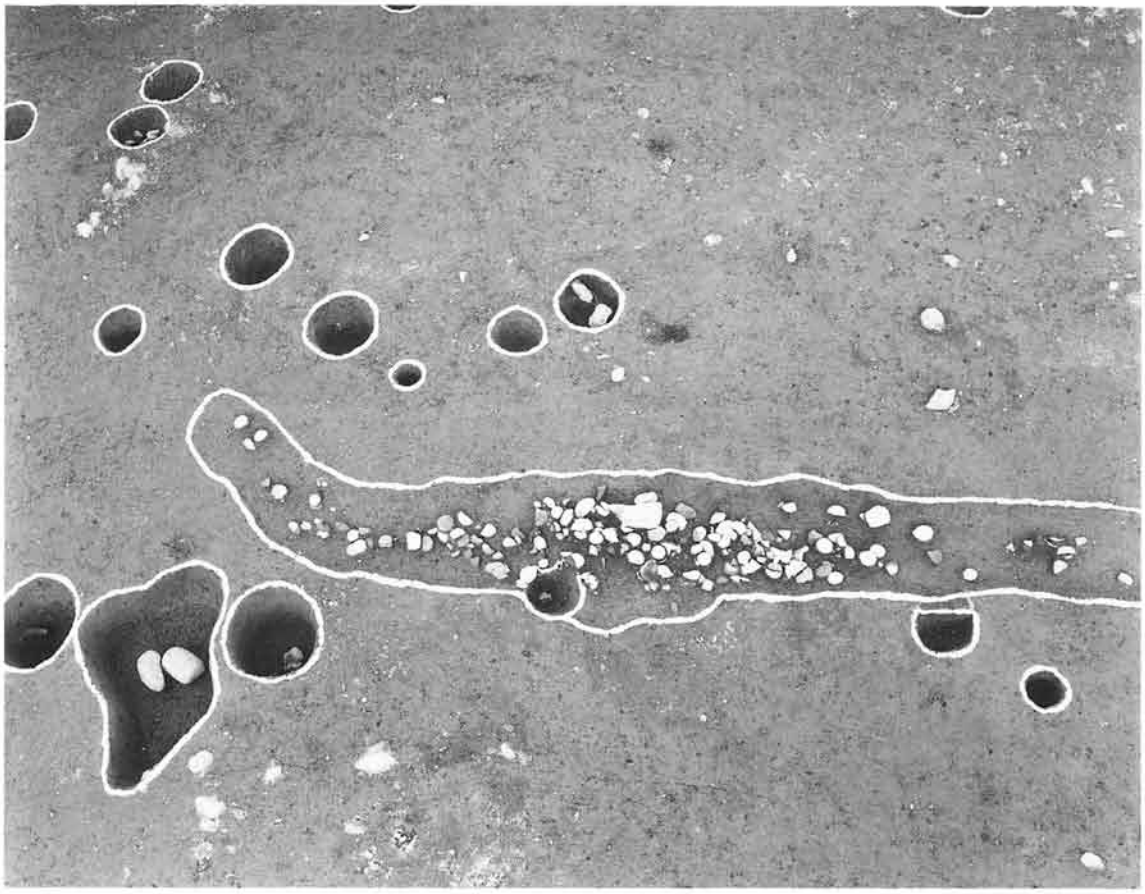
川関遺跡SF01（北から）



川関遺跡SE01・SX01（南から）



川関遺跡SX01検出状況（南東から）



川関遺跡SD06（西から）



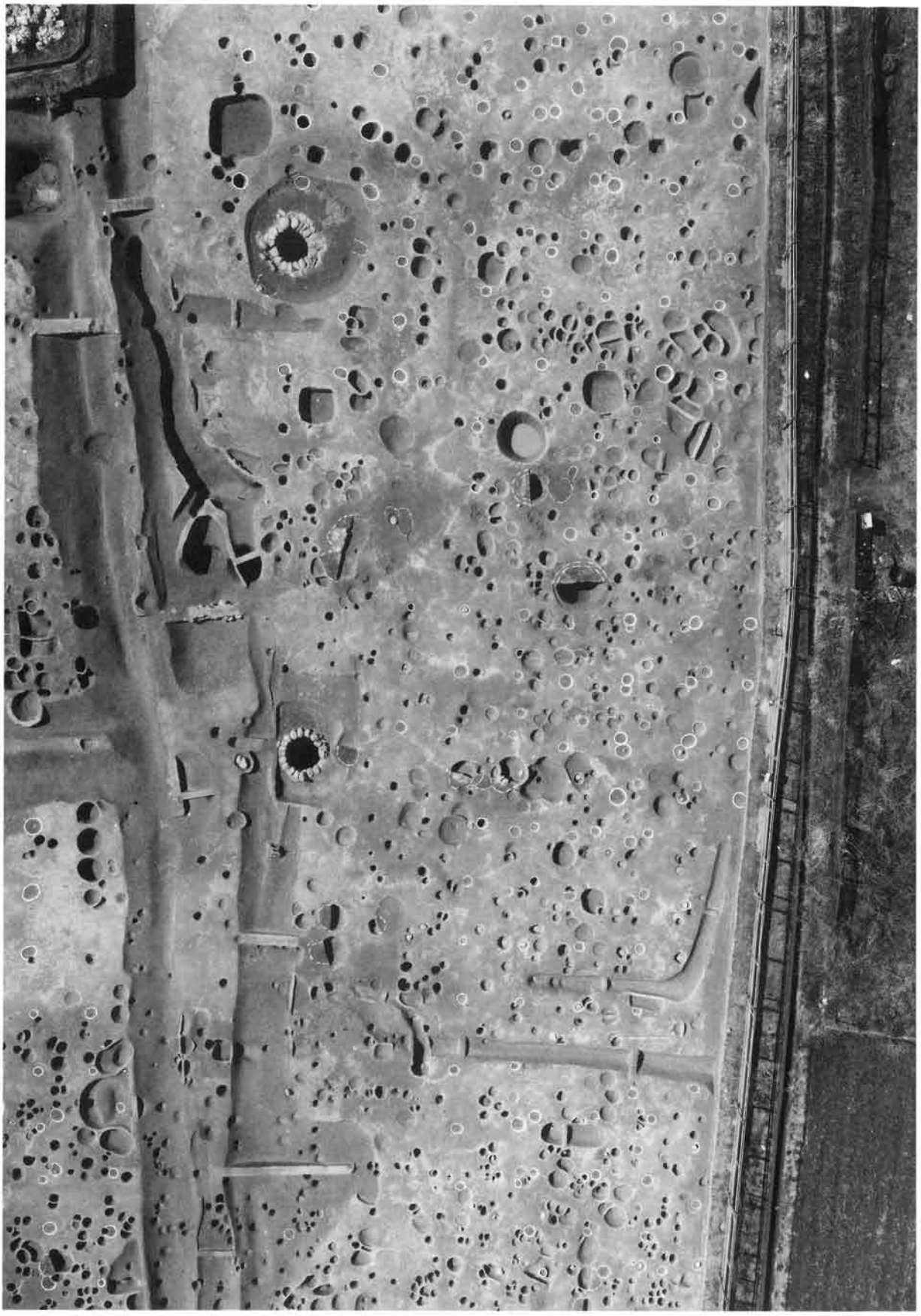
川関遺跡SD06土器出土状況（南から）



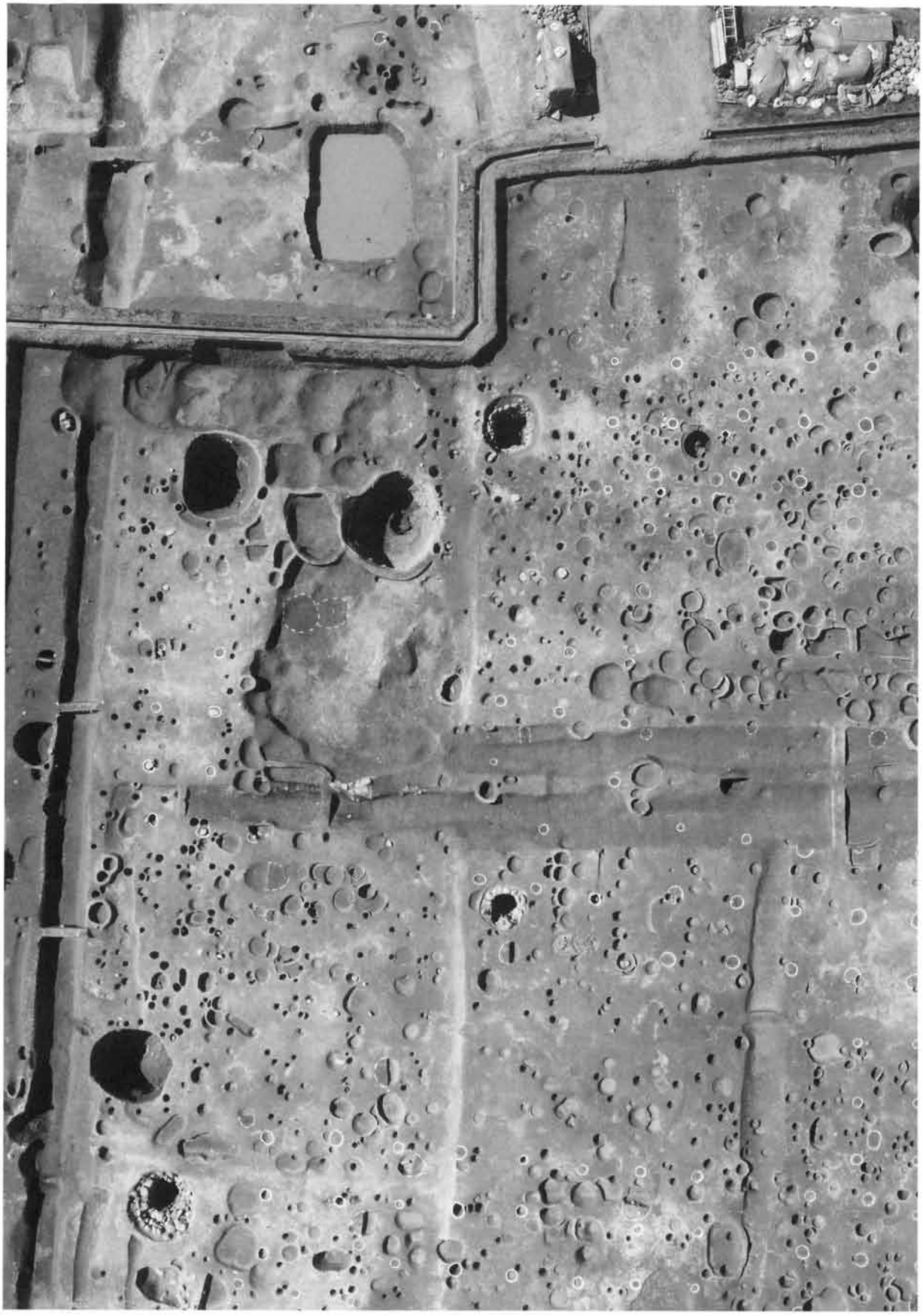
川関遺跡水田部１区噴砂（東から）



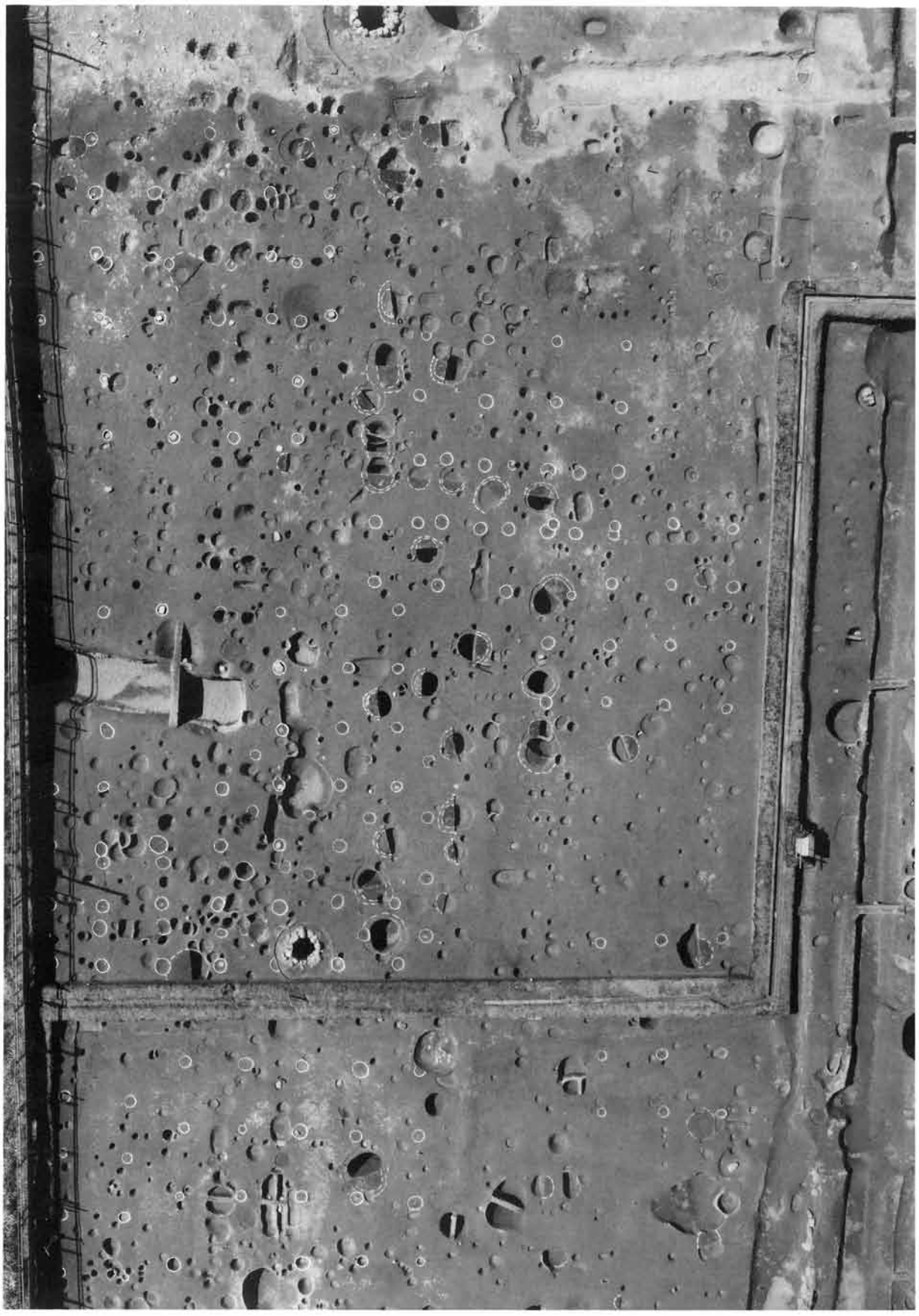
川関遺跡水田部１区噴砂断面



川関遺跡水田部 8 西区中央北部（空中写真）



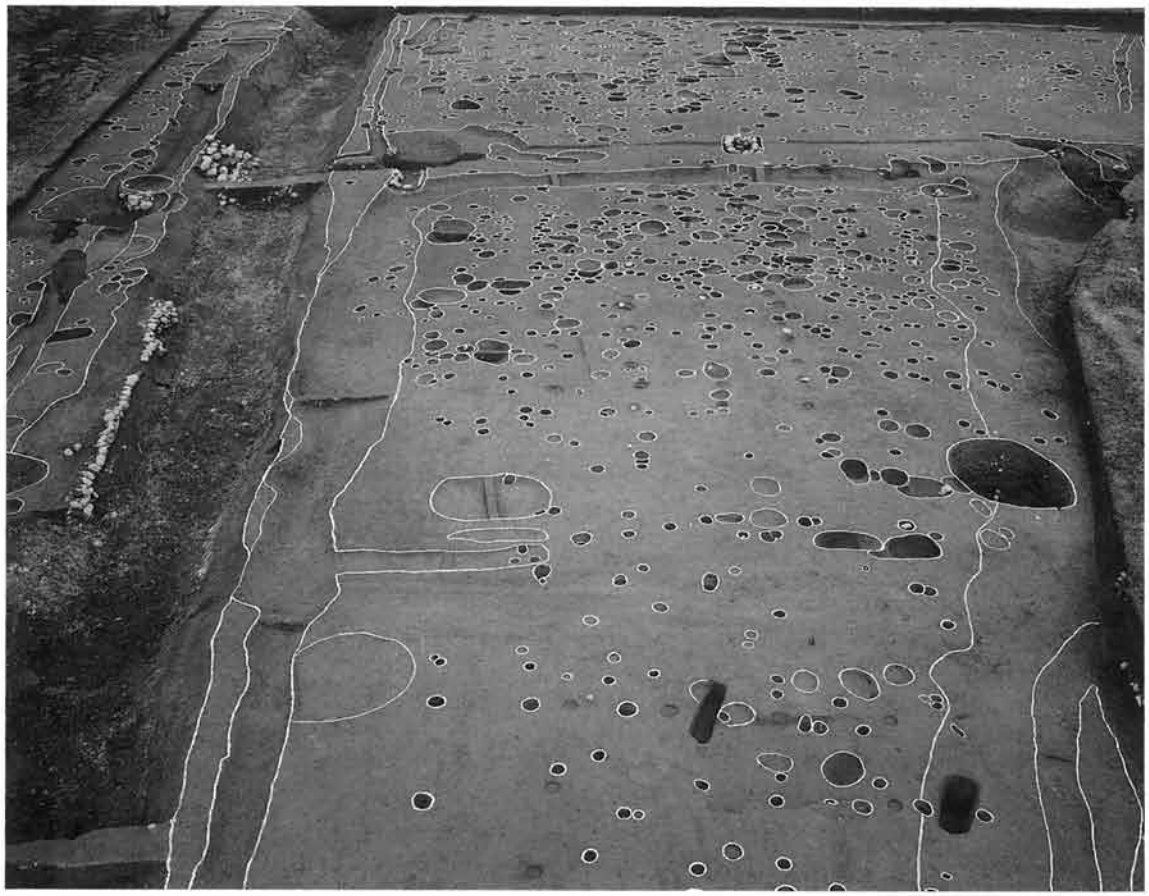
川関遺跡水田部８西区中央部（空中写真）



川関遺跡水田部 8 西区中央南部（空中写真）



川関遺跡水田部８東区中央部（東から）



川関遺跡水田部８東区全景（南から）



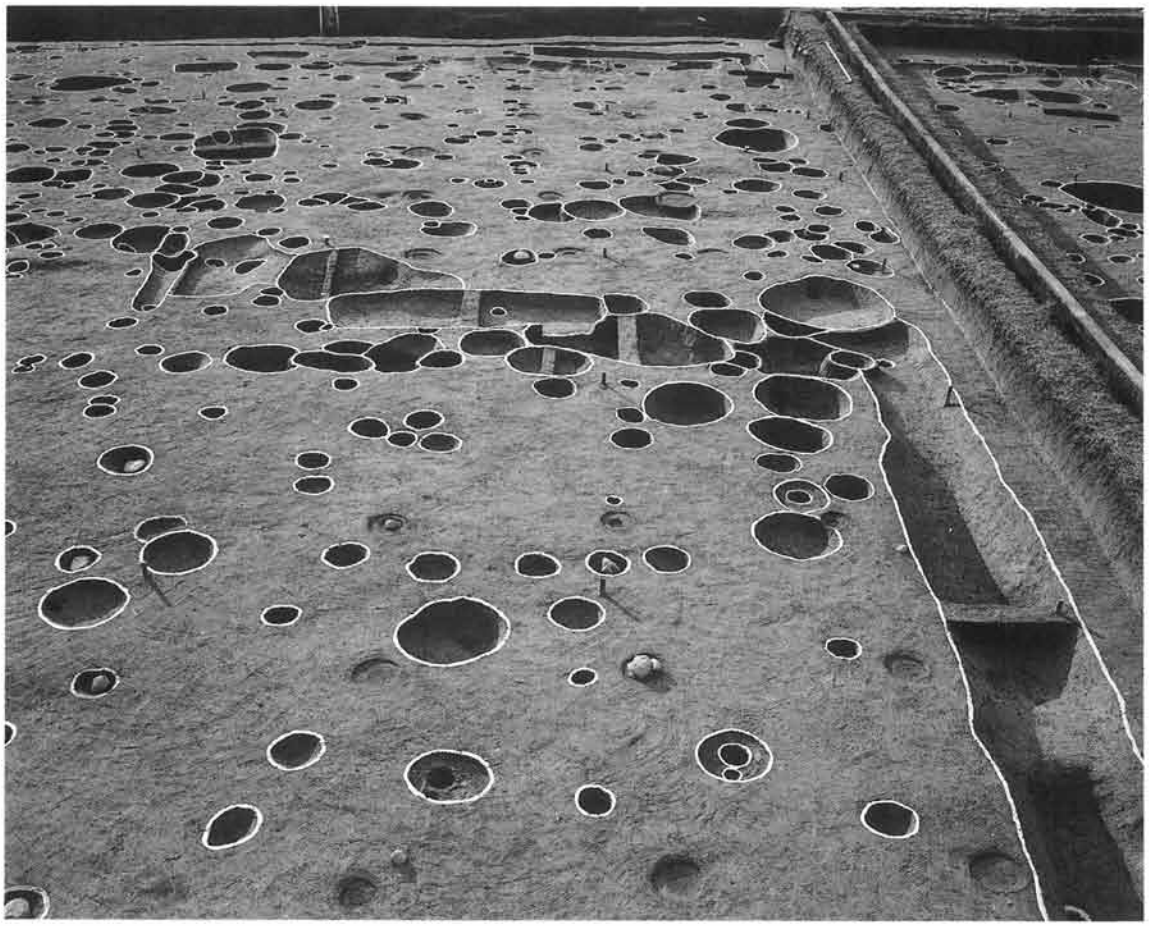
川関遺跡水田部８東区中央部（空中写真）



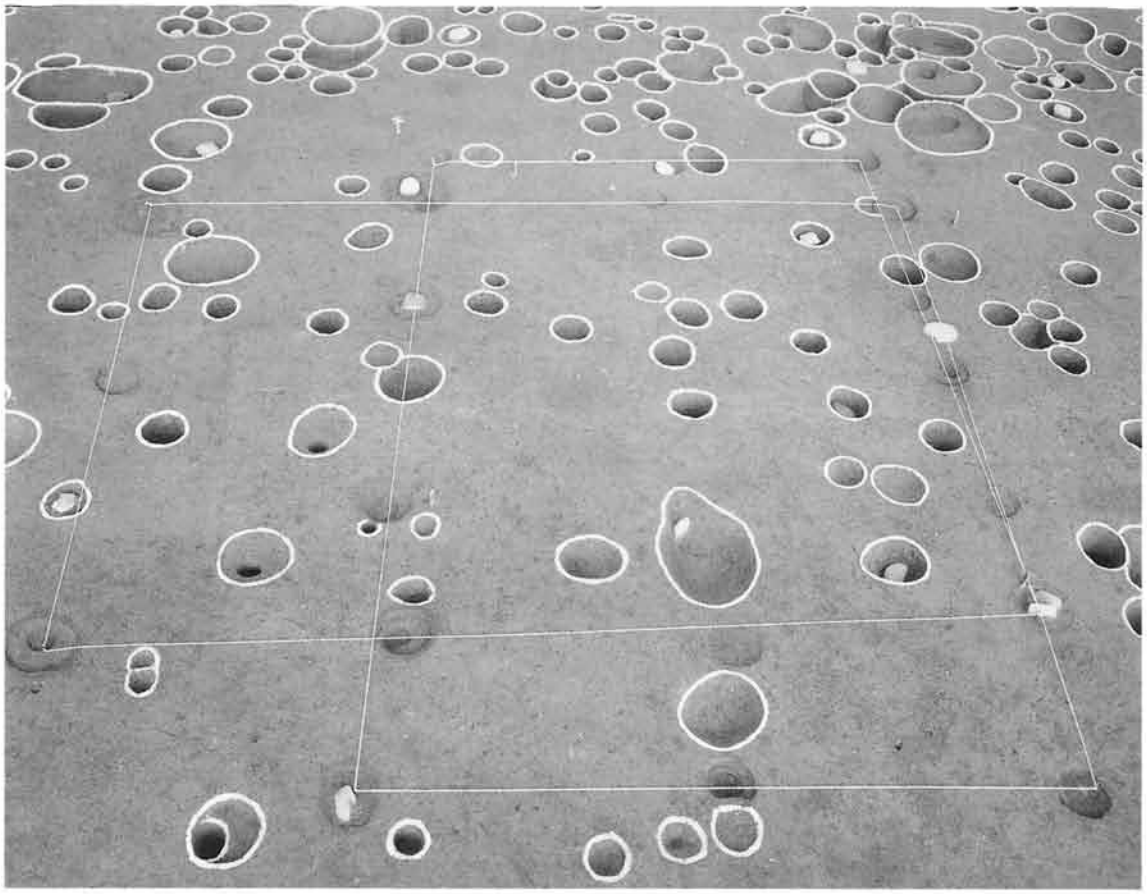
川関遺跡水田部８東区北東部（空中写真）



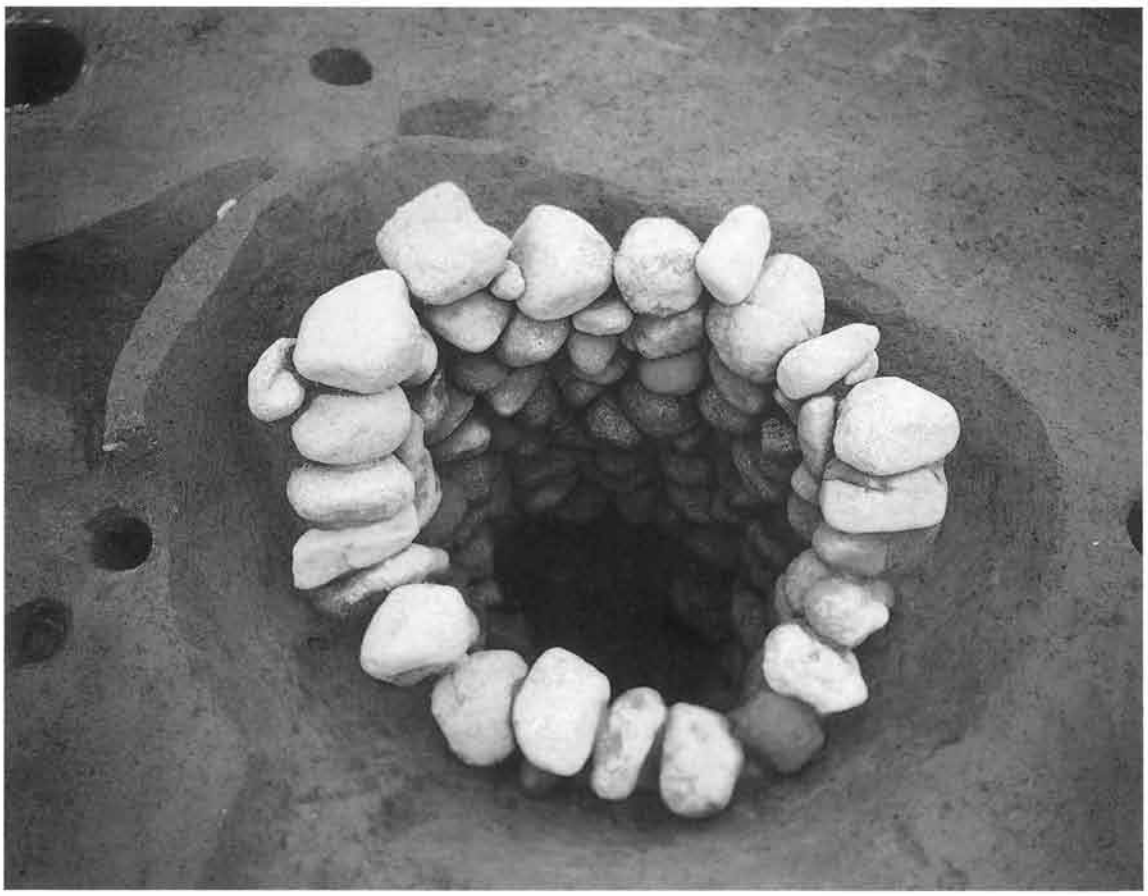
川関遺跡水田部８東区全景（北から）



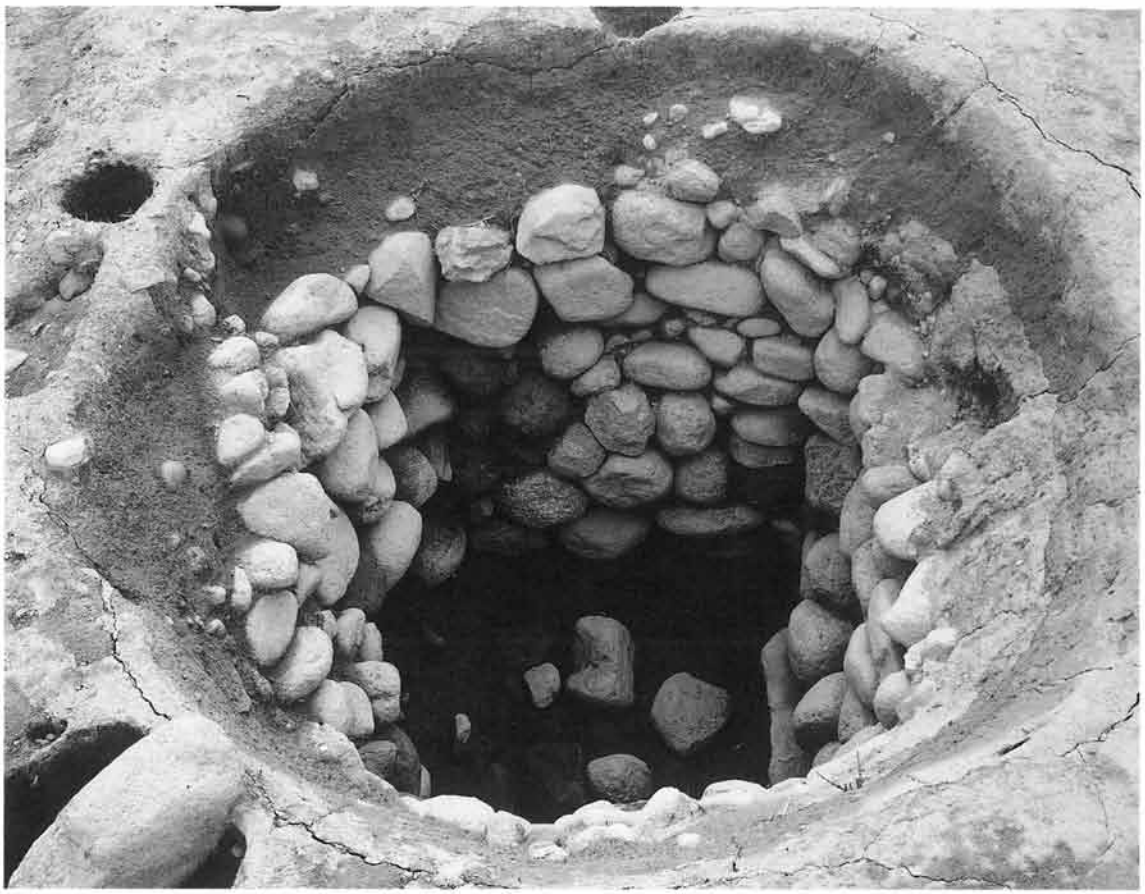
川関遺跡SB74（東から）



川関遺跡SB78・79（南から）



川関遺跡SE03



川関遺跡SE06



川関遺跡SE07



川関遺跡 SE08



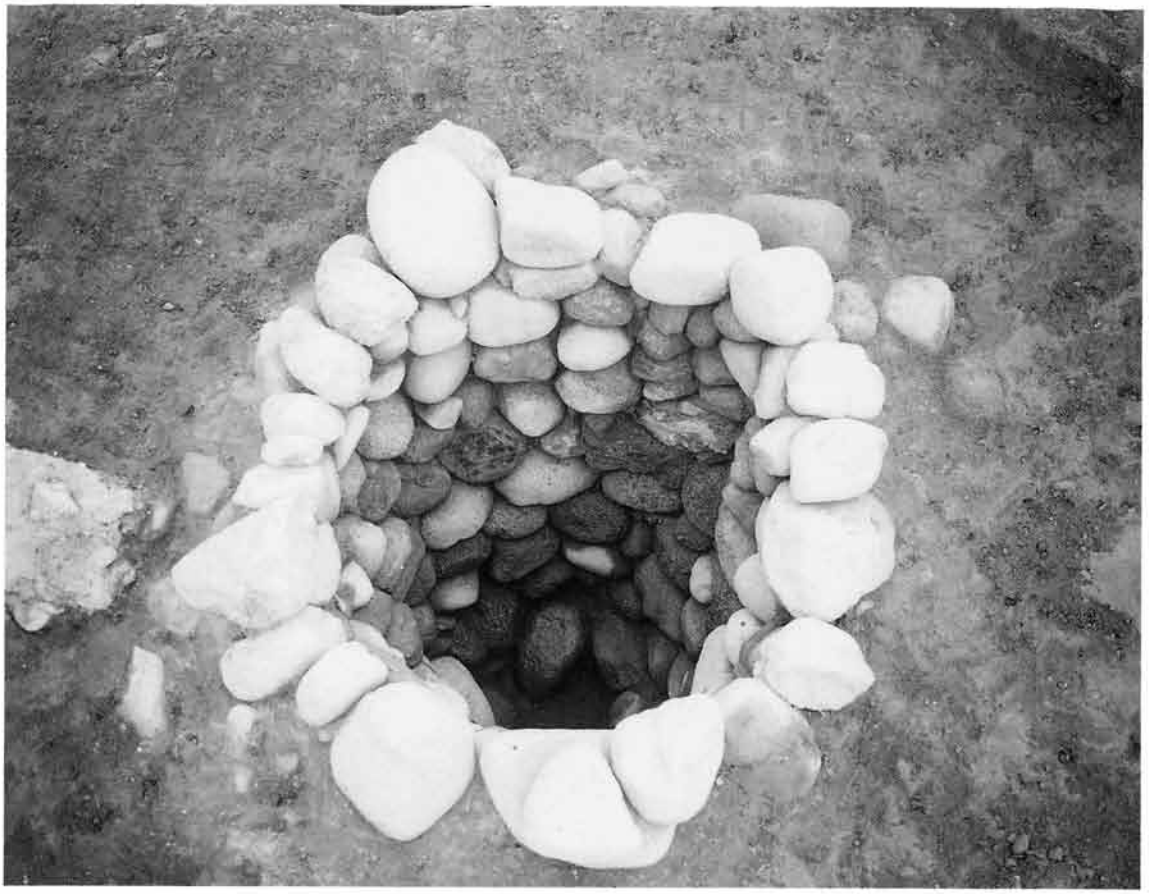
川関遺跡SE09



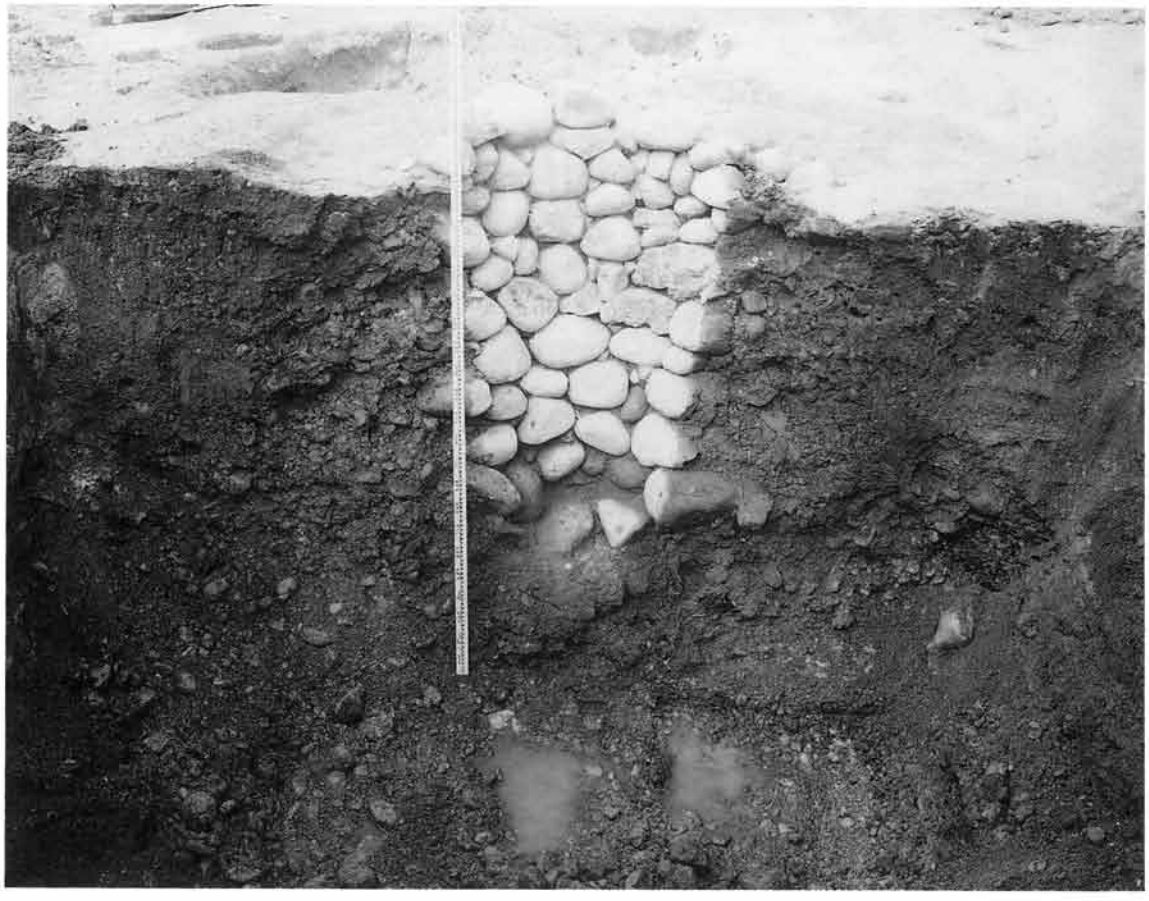
川関遺跡SE10



川関遺跡SE12



川関遺跡SE13



川関遺跡SE13断割状況



川関遺跡SE15



川関遺跡SE16



川関遺跡SH01土層



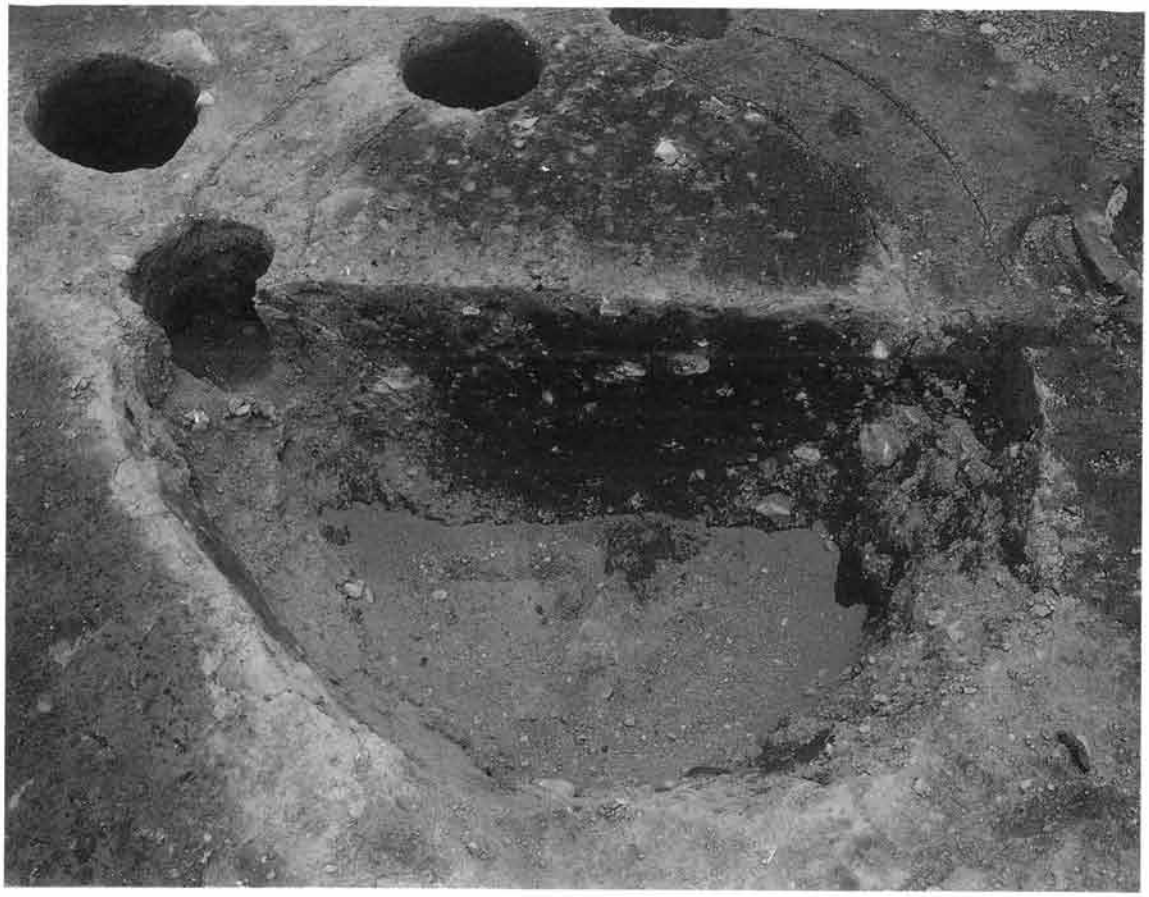
川関遺跡SH01上層溝（北から）



川関遺跡
SD12（北から）



川関遺跡SS01



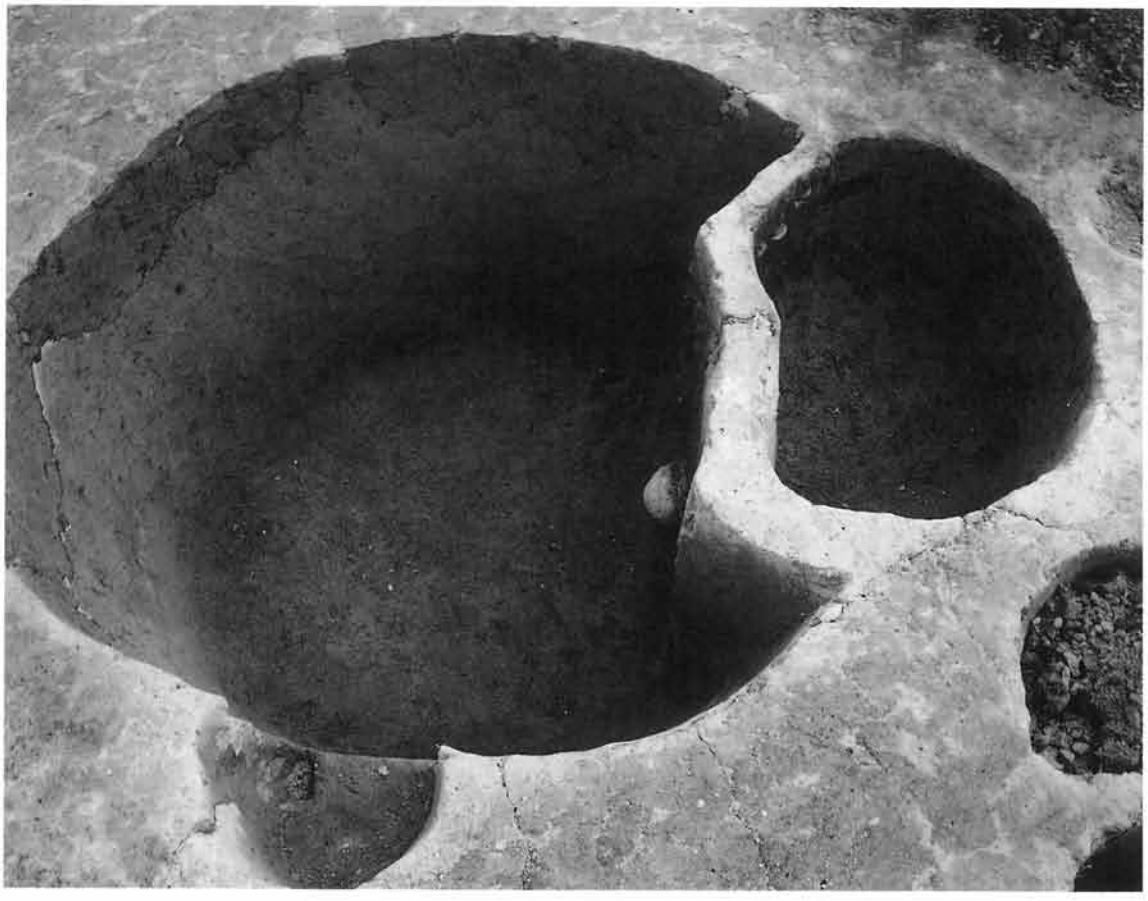
川関遺跡SK84土層断割状況



川関遺跡SK88土層断割状況



川関遺跡SK89土層断割状況



川関遺跡SK91・104完掘状況



橋脚部１区全景（南から）



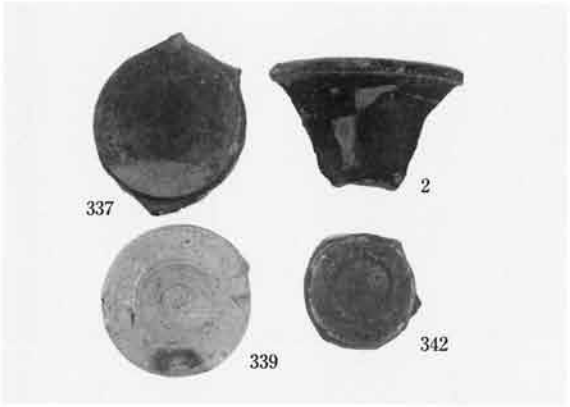
橋脚部２区全景（北から）



橋脚部 3 区全景（北から）

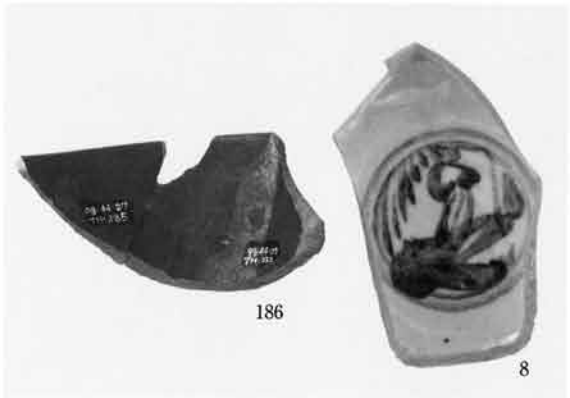


橋脚部 4 区全景（北から）

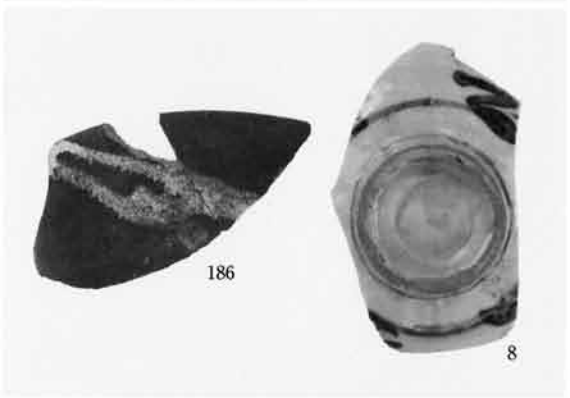

337
2
339
342

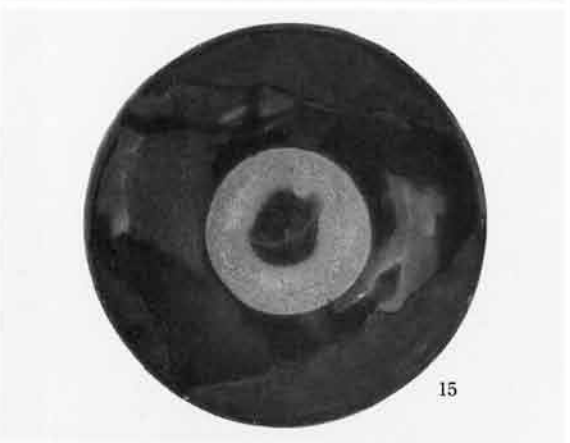

11


5
4


186
8


18


186
8


15


42


15


42

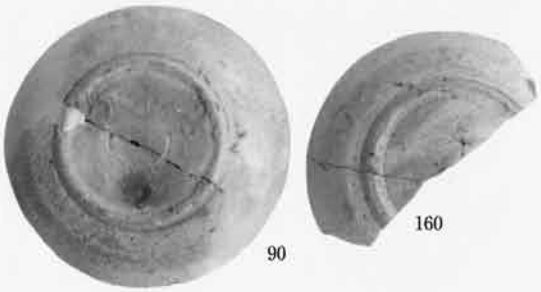

46


48 51


46


48 51


50 55


90 160


50 55


96 95


101

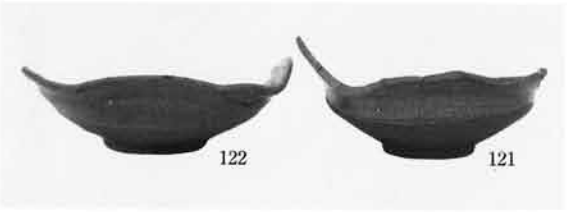

102 99

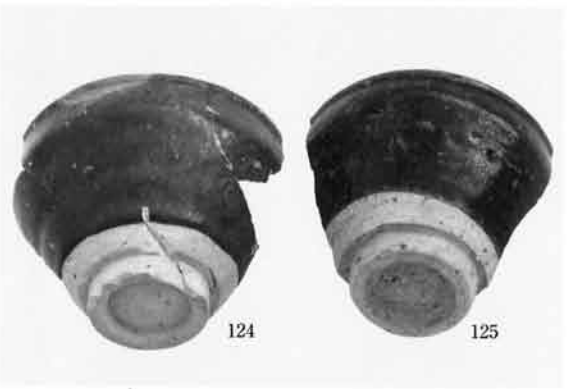

120 105


106 115

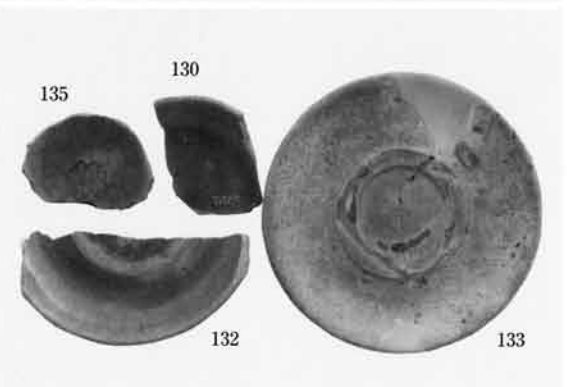

123
107

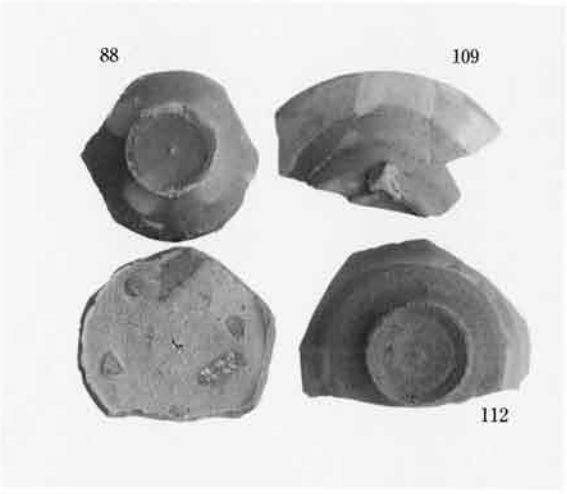

122
121

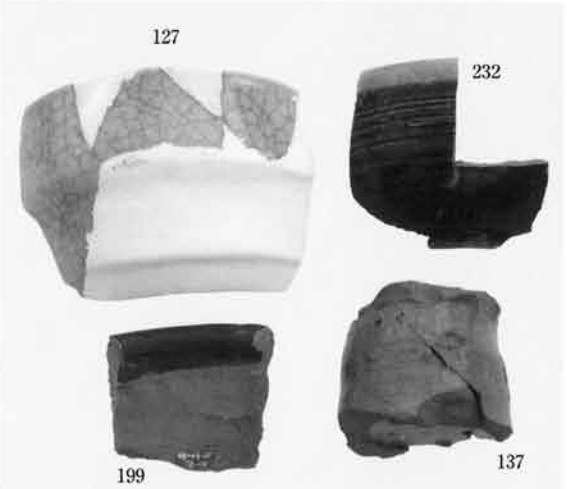

122
121

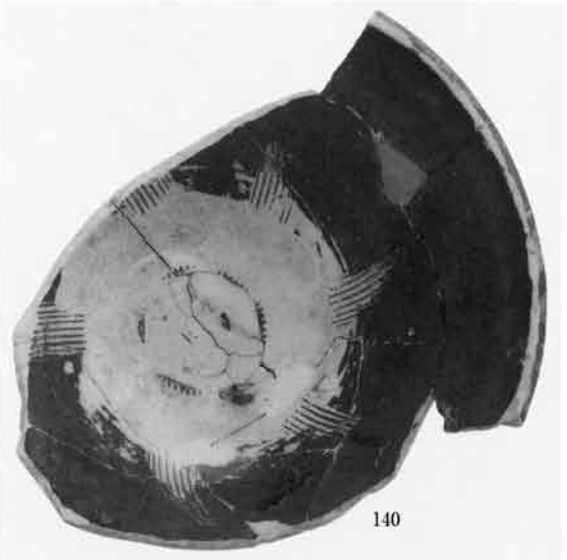

124
125


131
136

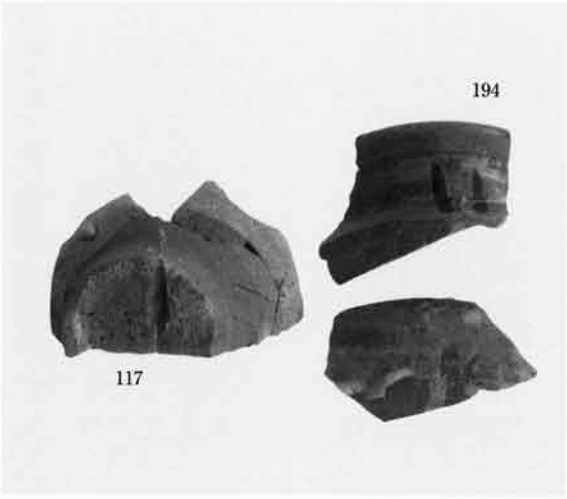

130
135
132
133

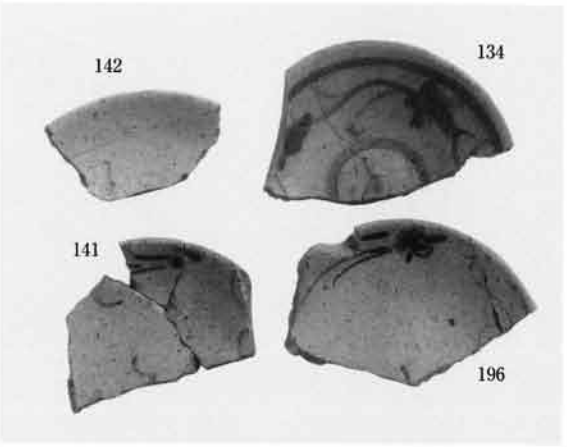

88
109
112

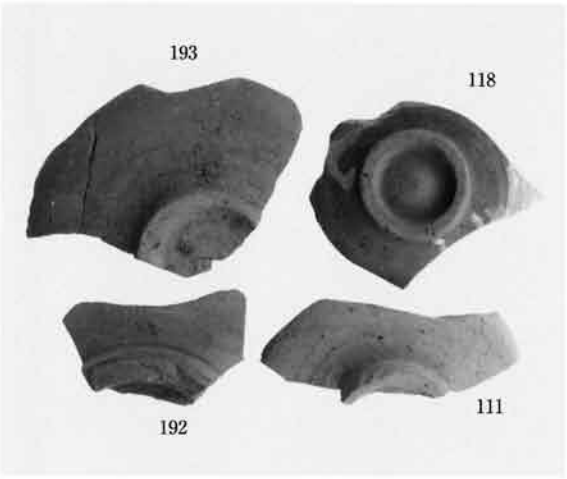

127
232
199
137


140


140

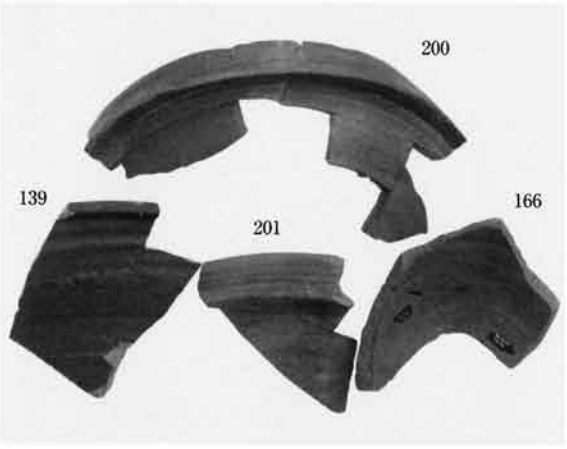

194
117

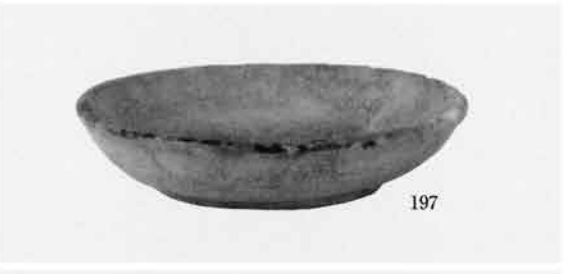

142
134
141
196

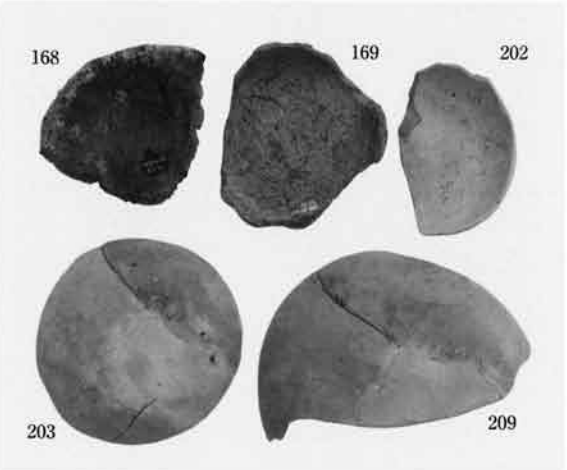

193
118
192
111


154
153


161

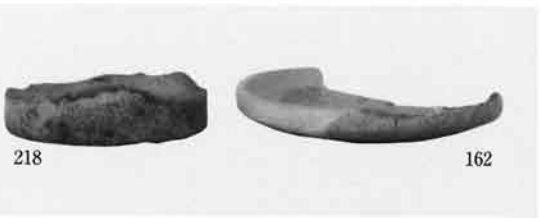

200
139
201
166

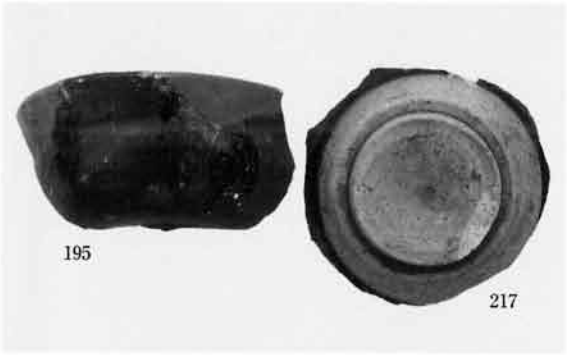

197

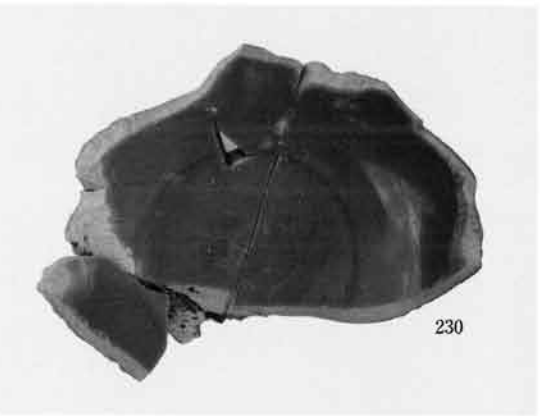

168
169
202
203
209

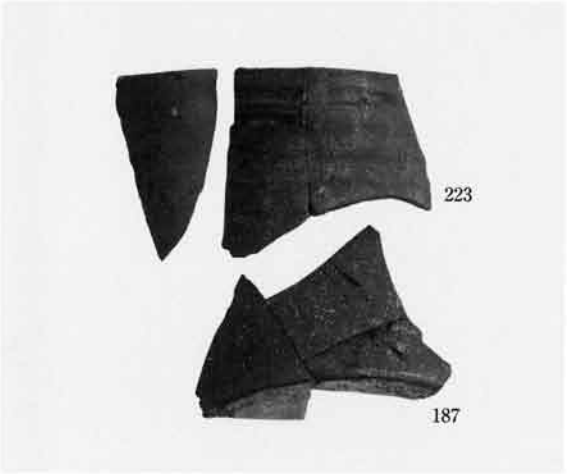

197


227
145

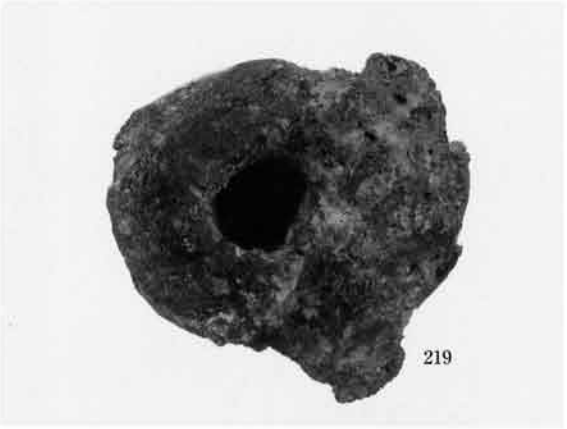

218
162

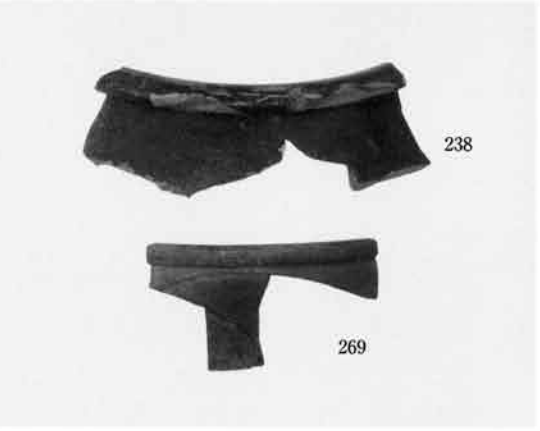

195
217


230

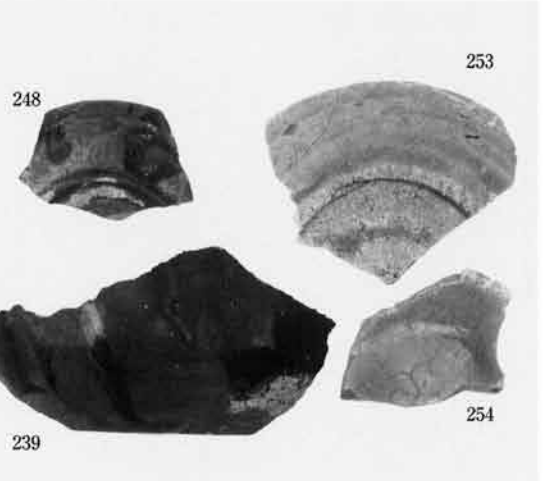

223
187

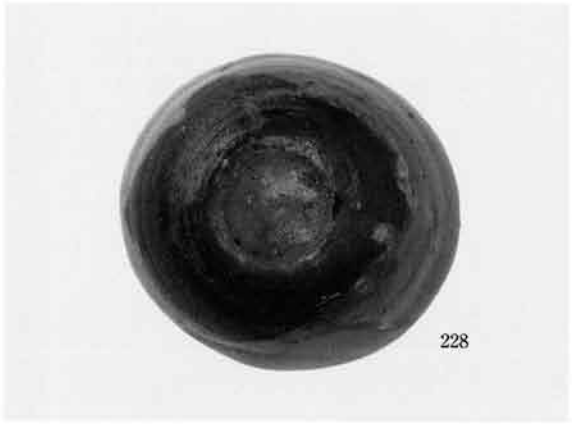

235
236


219

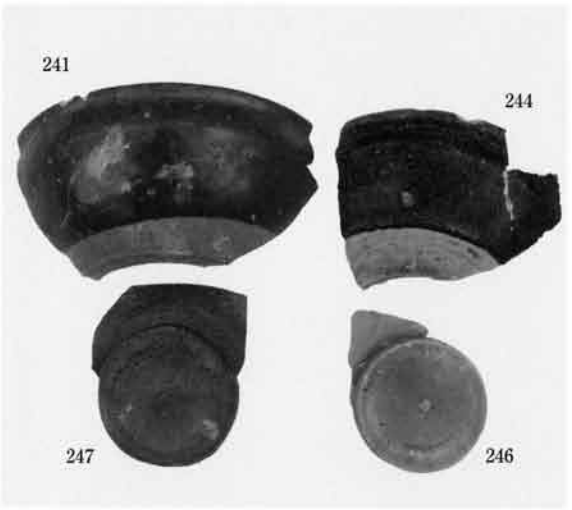

238
269

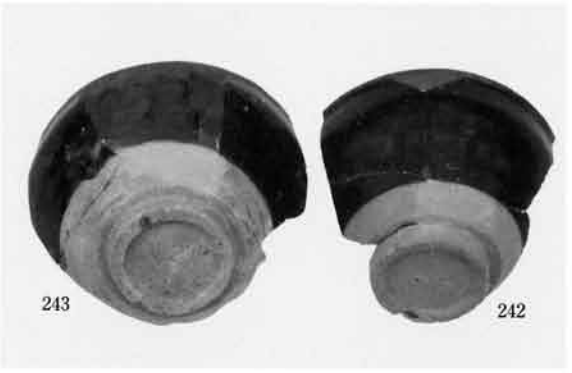

219


253
248
254
239


228


228

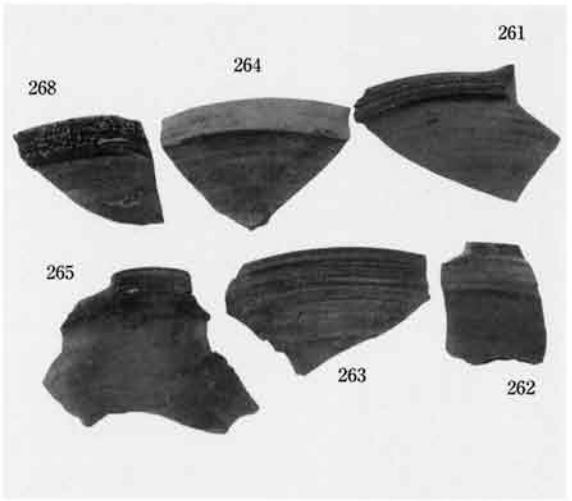

241
244
247
246

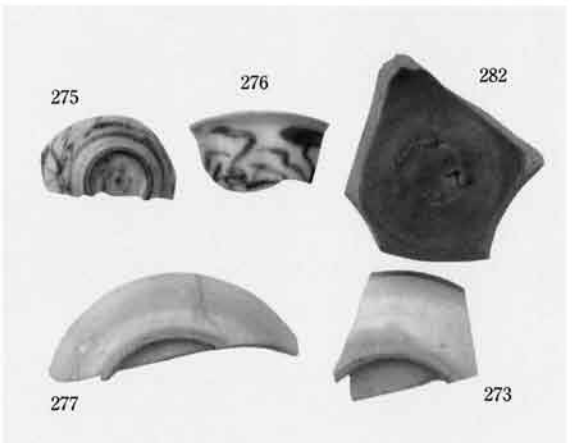

243
242


243
242

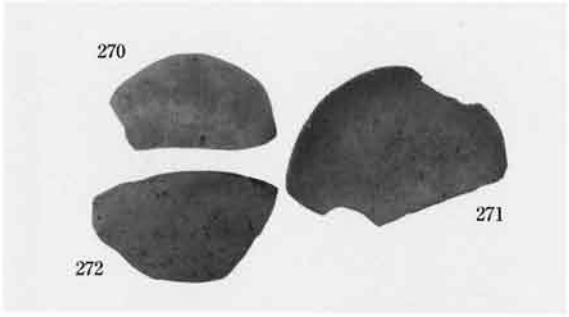

250
251


260
256
258
259

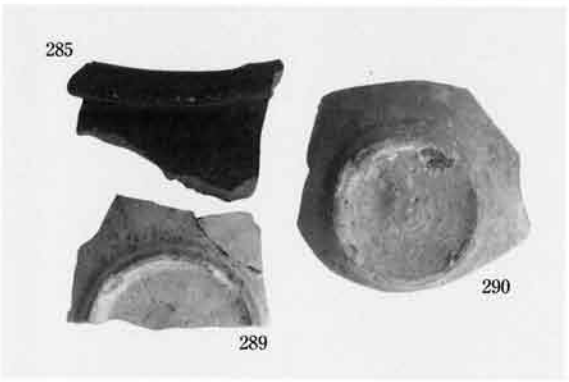

261
264
268
265
263
262

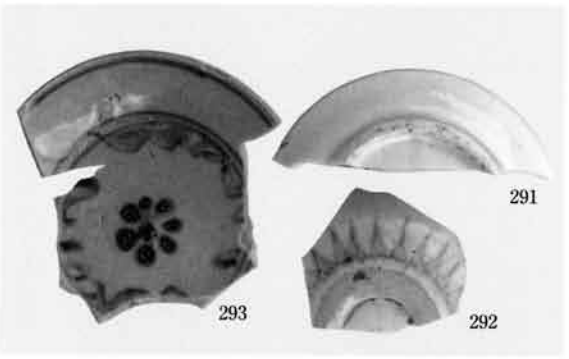

275
276
282
277
273


278
279


270
271
272

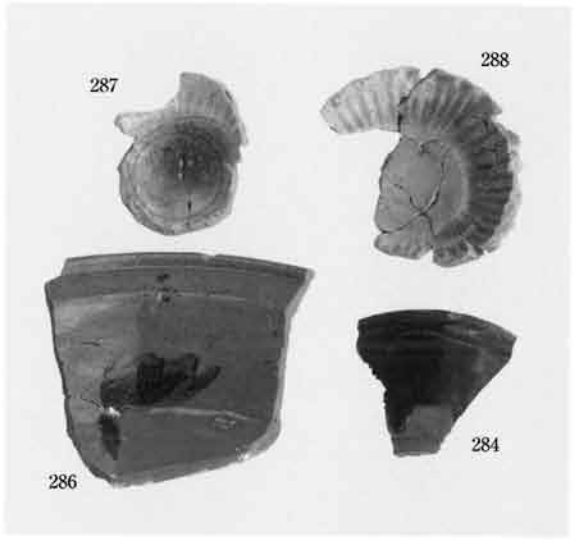

283
274

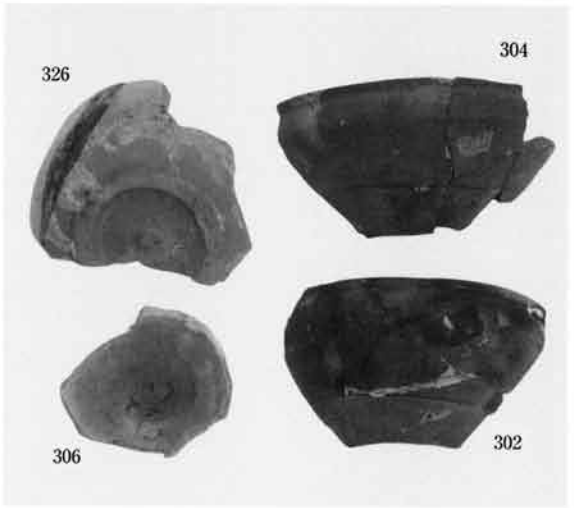

285
290
289

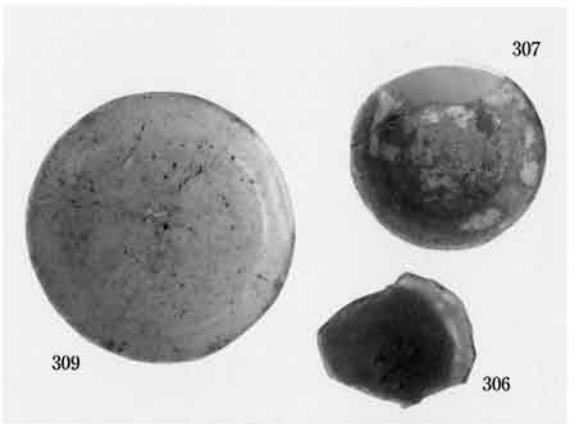

291
293
292

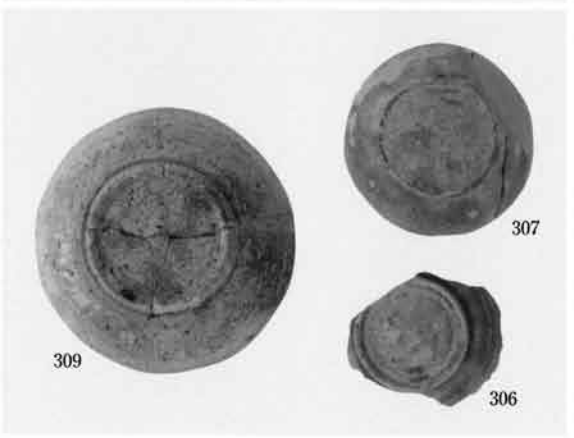

297
296
341
295
294


301
303


287
288
286
284


326
304
306
302

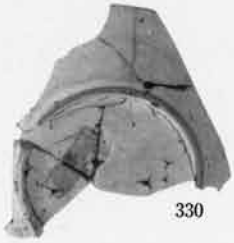

307
309
306


307
309
306


310


311


329


330


319


312


324


321


331


328


323


324


321


331


328


314

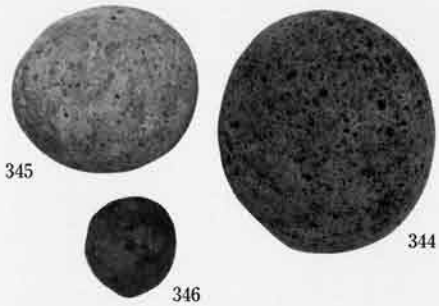

313


314

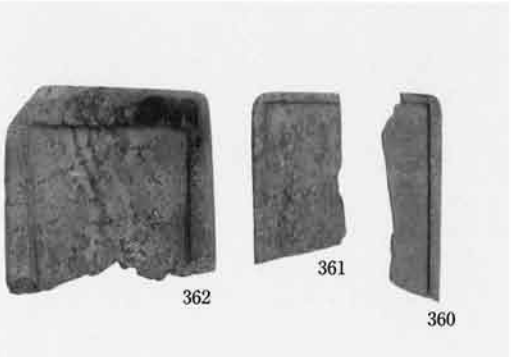

313


89
336


89
336

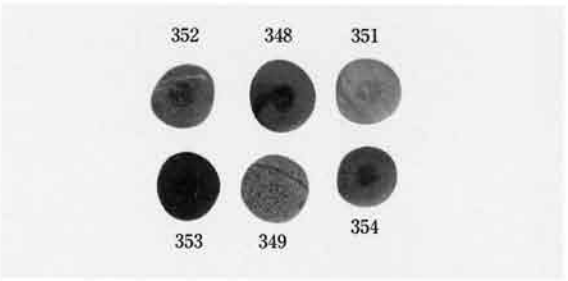

345
344
346

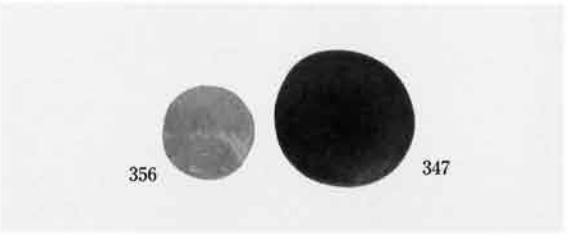

358
357
359

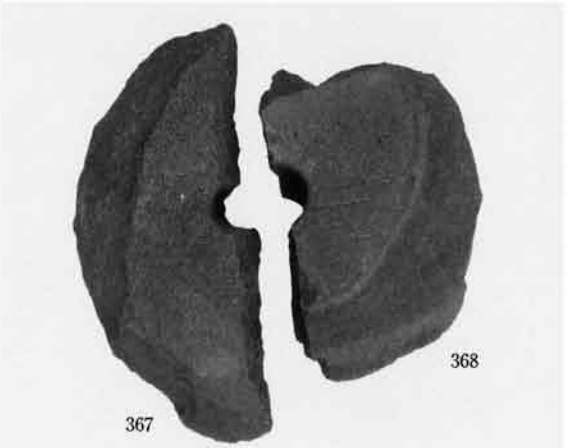

362
361
360

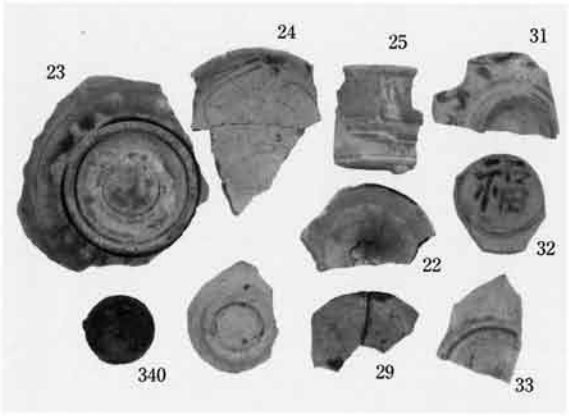

327


332

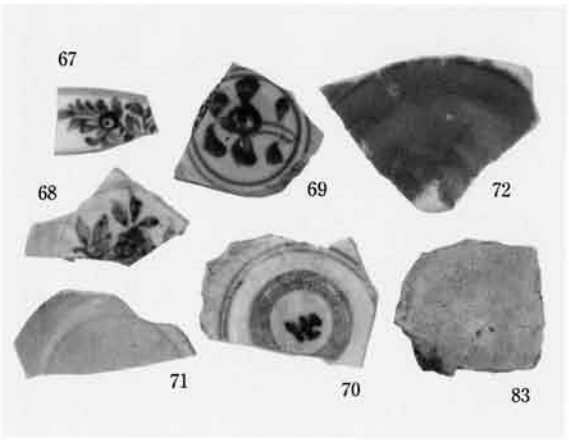

352
348
351
353
349
354

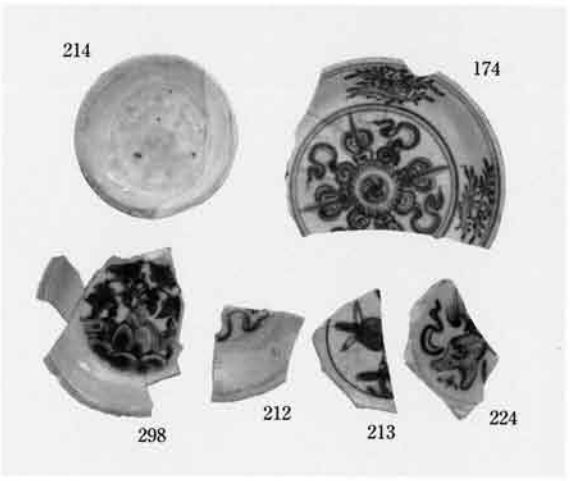

356
347

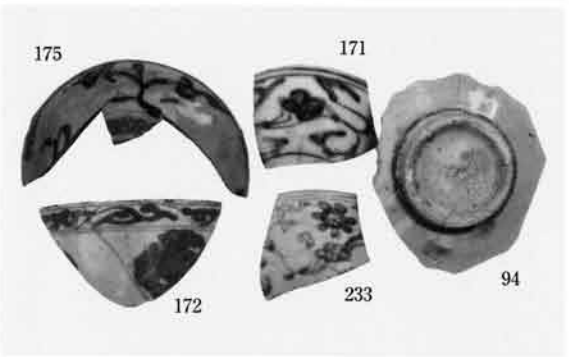

368
367

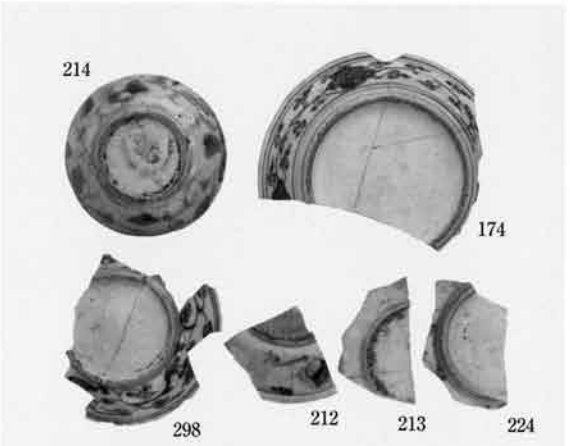

23
24
25
31
稲
32
22
340
29
33


210

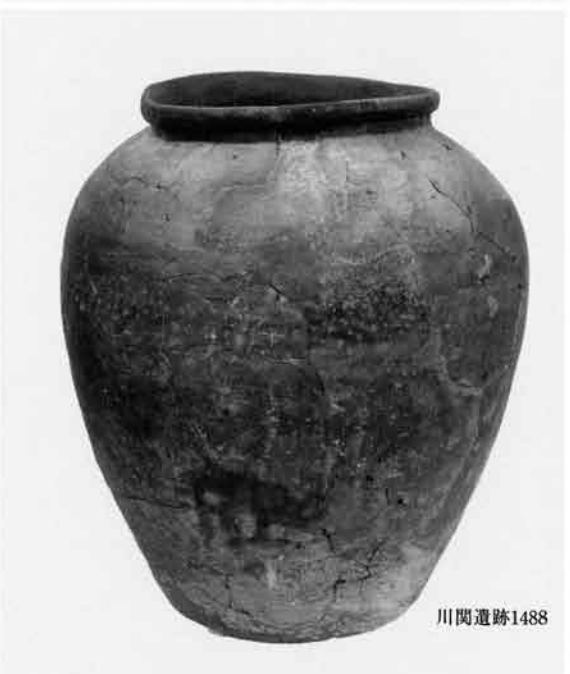

67
68
69
72
71
70
83

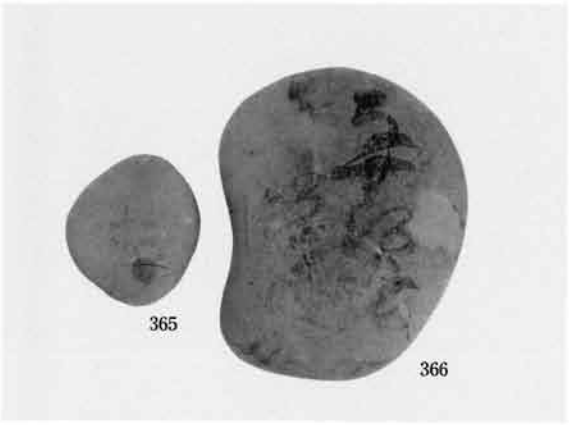

214
174
298
212
213
224

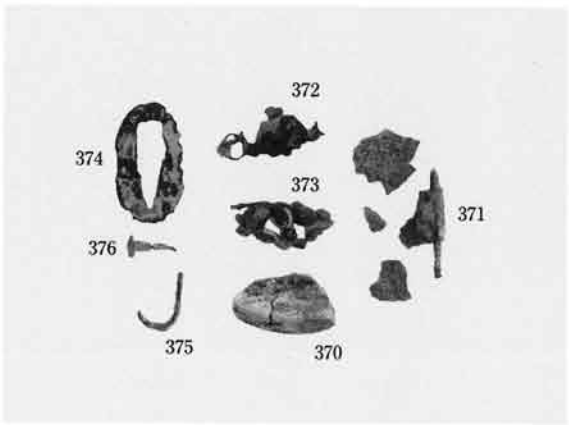

175
171
172
233
94

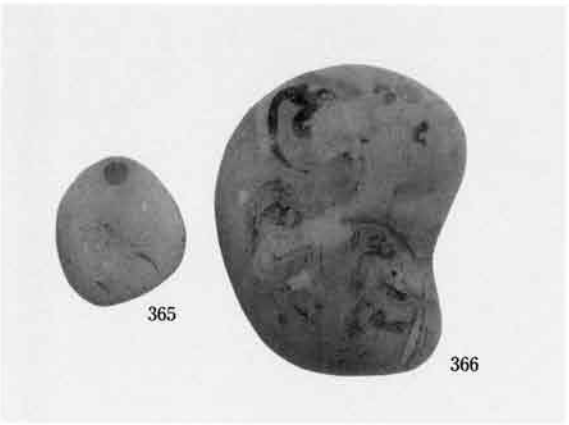

214
174
298
212
213
224

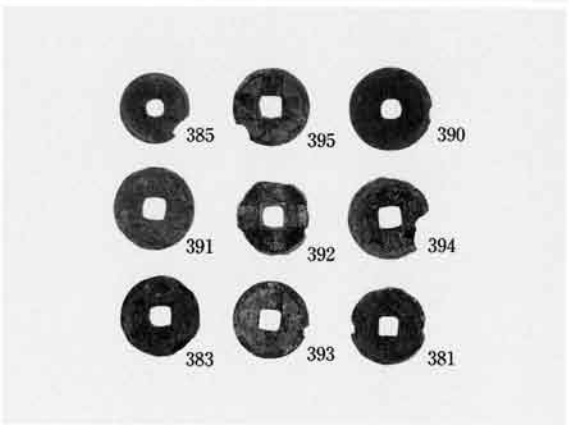

322


川関遺跡1488

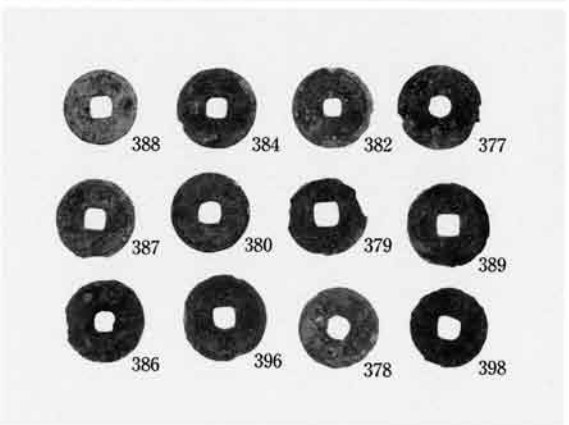

365
366


372
374
373
371
376
375
370

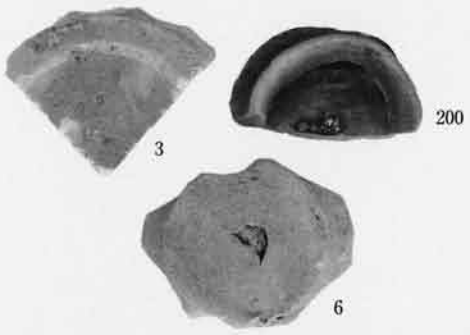

365
366


385
395
390
391
392
394
383
393
381


397


388
384
382
377
387
380
379
389
386
396
378
398


4
5
2


200
3
6


9


10


9


12


52
8


15

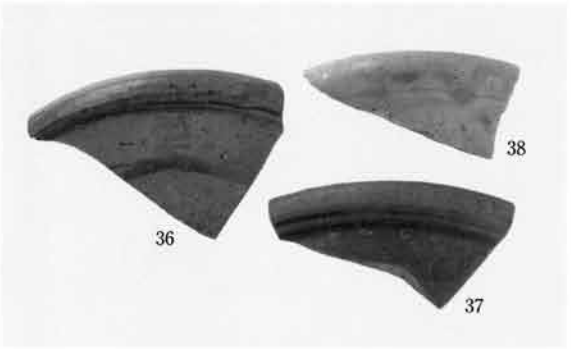

52
8

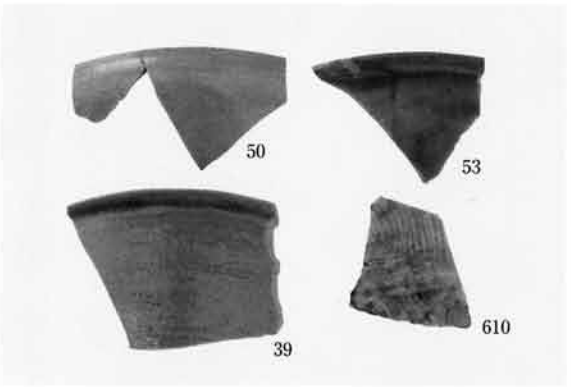

13

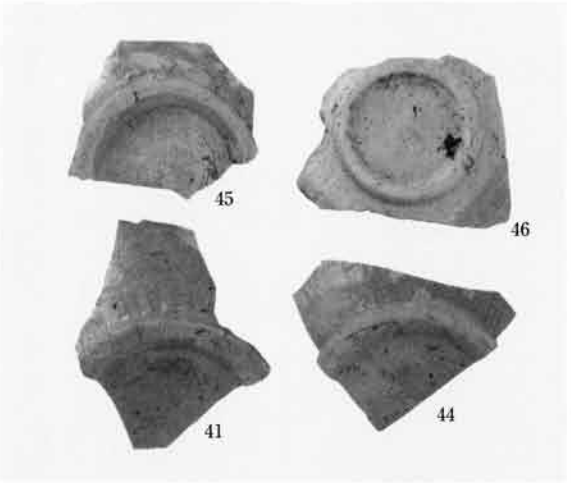

23
22

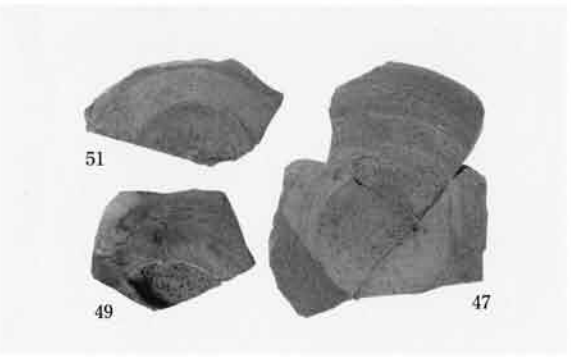

28
30


35
31

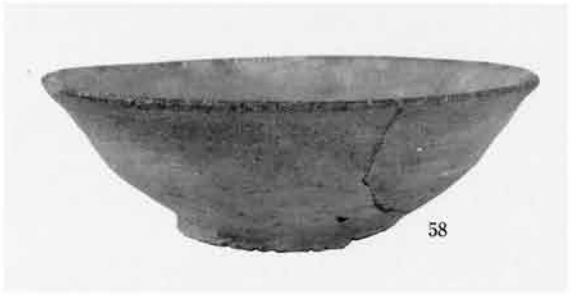

36
38
37

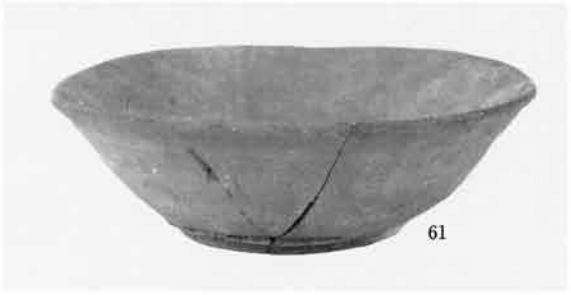

50
53
39
610


45
46
41
44


51
49
47

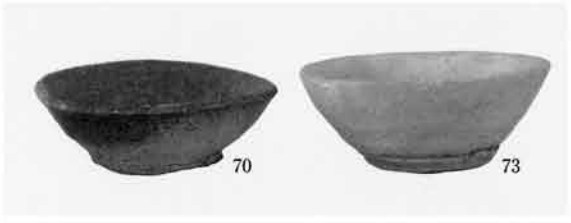

57


58

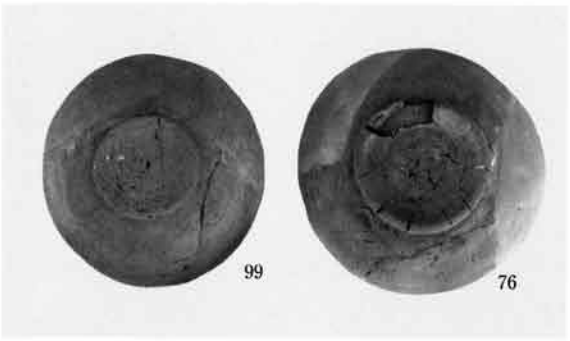

61

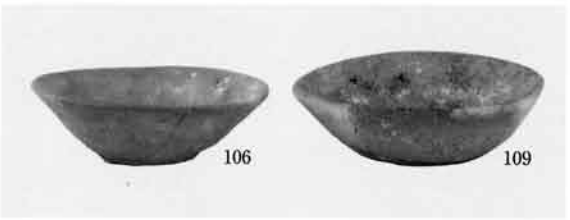

63

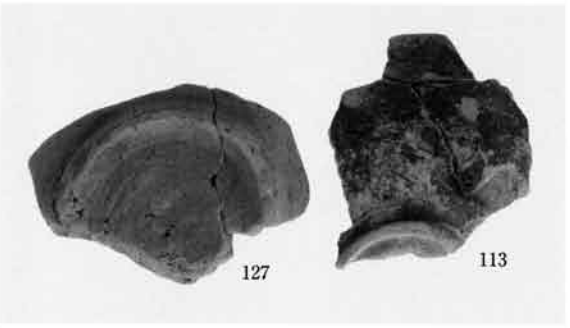

65

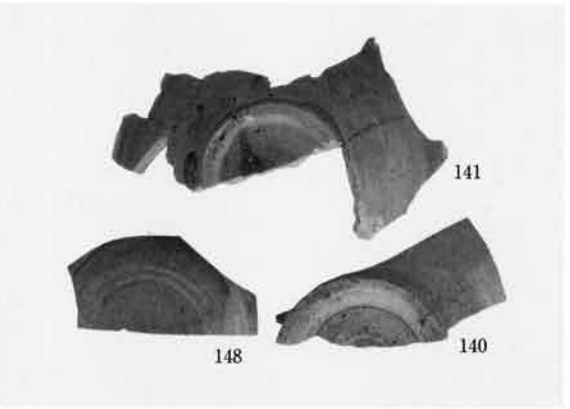

70
73

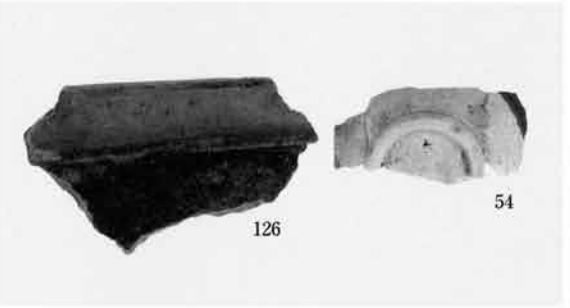

72
85

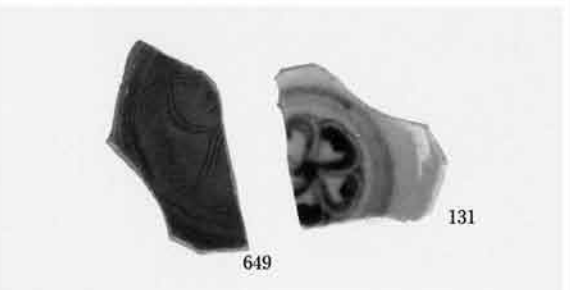

99
76

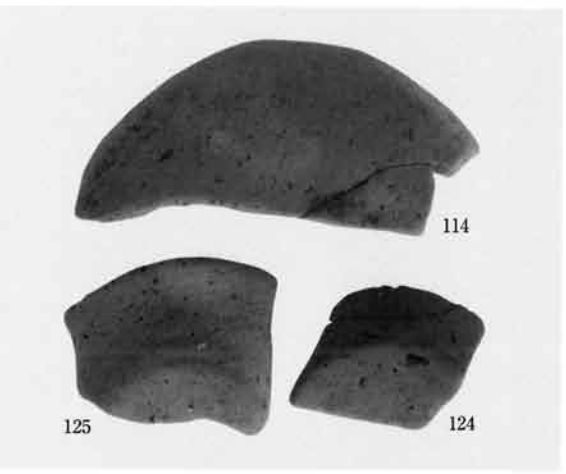

106
109


127
113

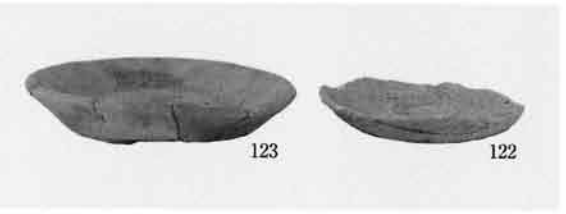

141
148
140

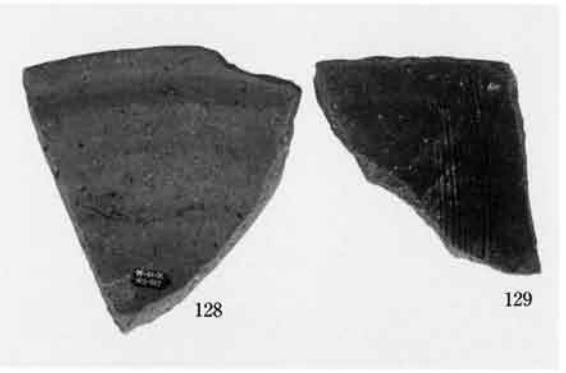

126
54


649
131

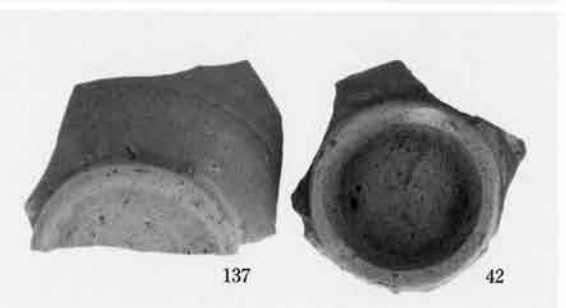

114
125
124

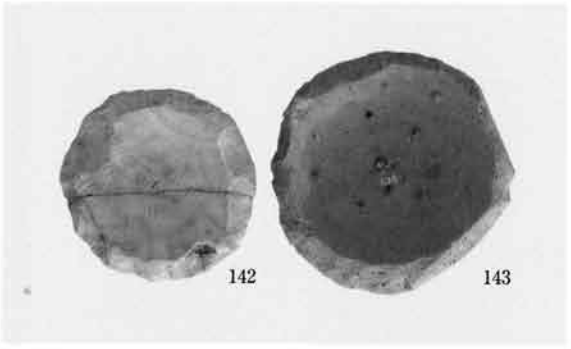

117


123
122


128
129

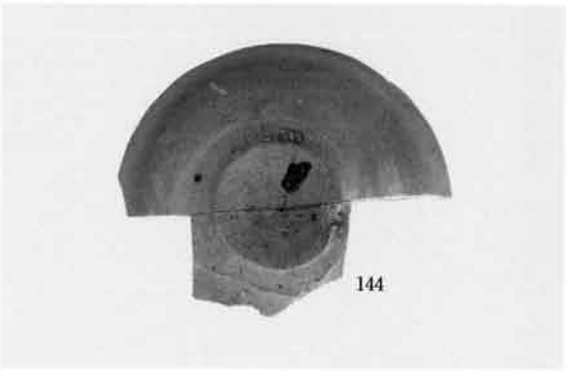

132
133

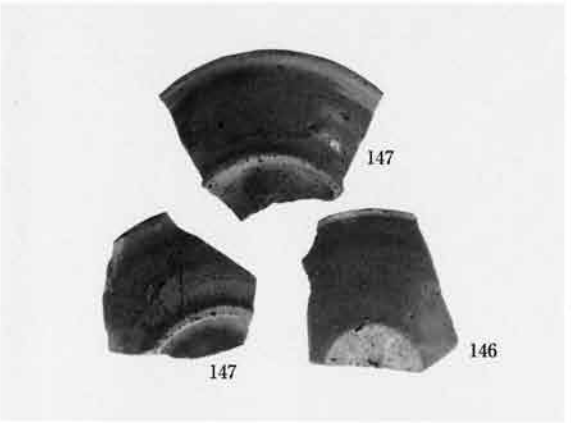

137
42

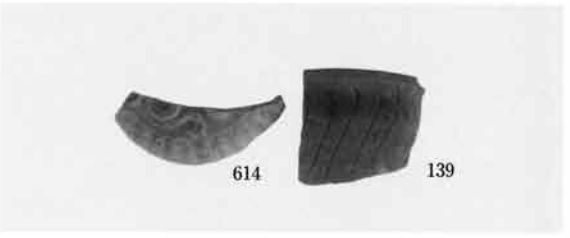

142
143

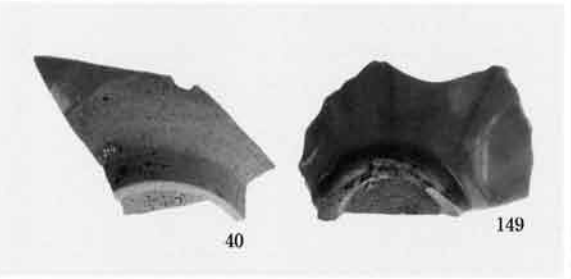

144

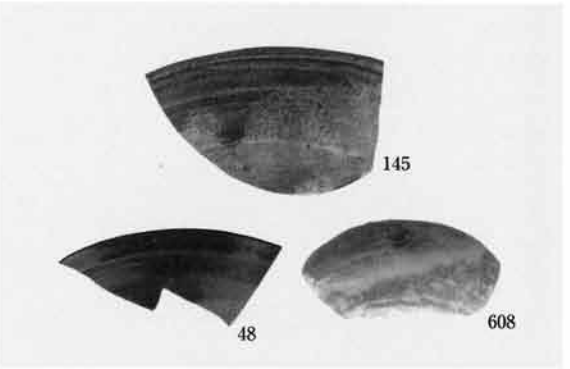

142
143

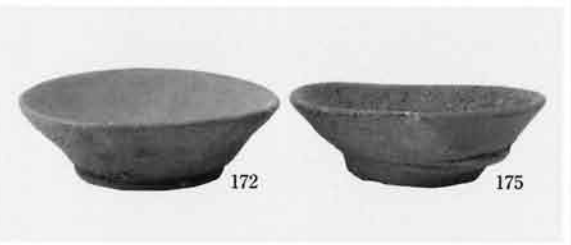

144


147
147
146


614
139

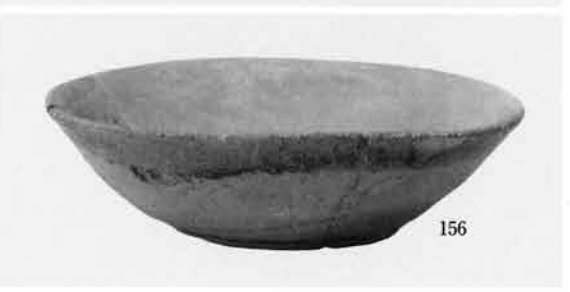

40
149

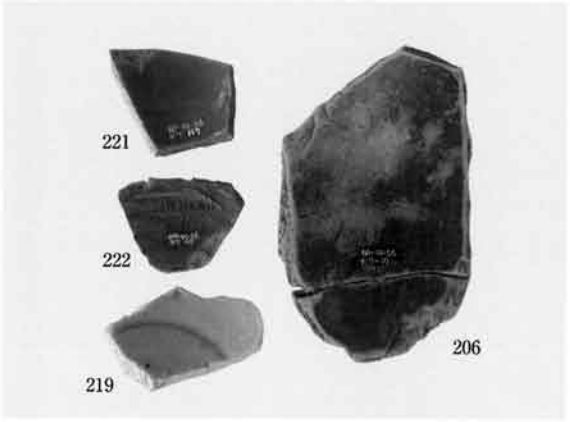

145
48
608

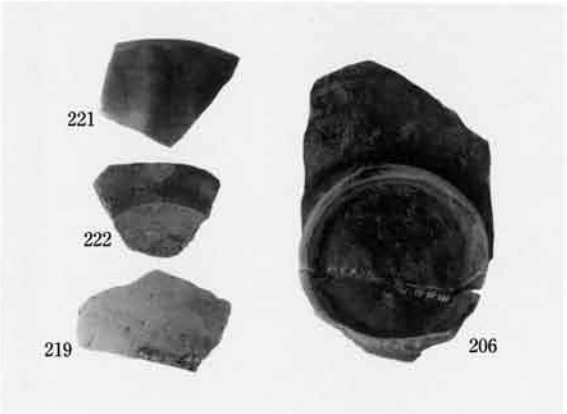

172
175

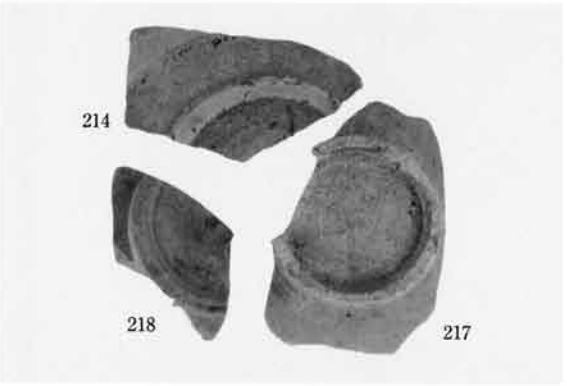

154


195
181
173
176


156


221
222
219
206


221
222
219
206


214
218
217

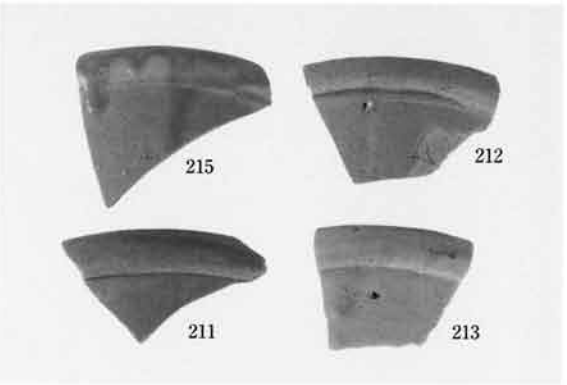

223


228


201

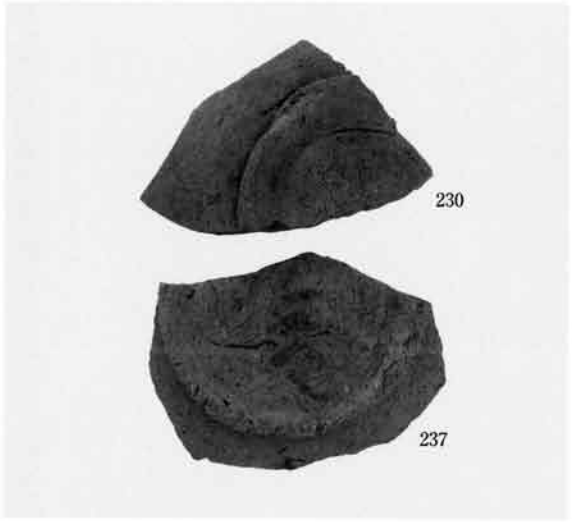

207


208
210

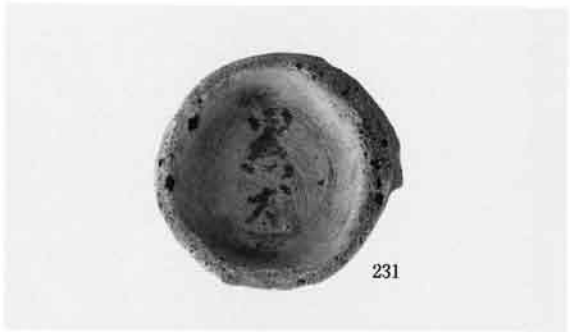

215
212
211
213


225


227


230

237


231


233


247

232


235


244


229

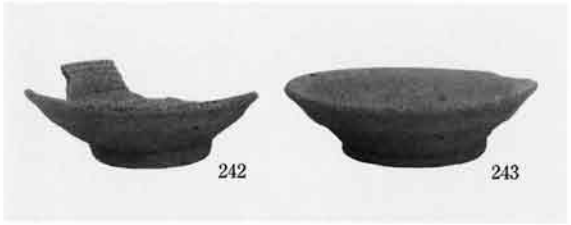

236

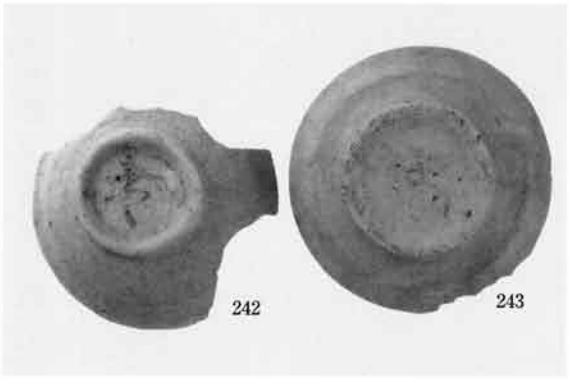

240


251


250


239

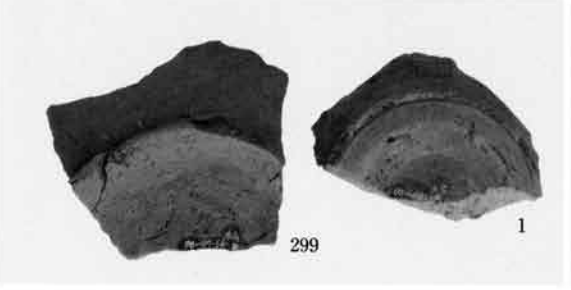

242
243

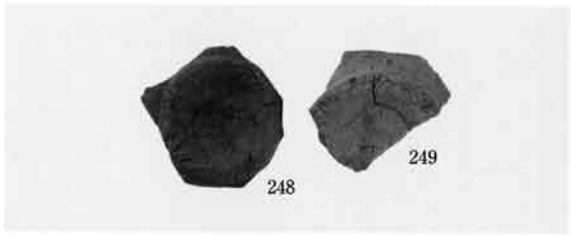

242
243

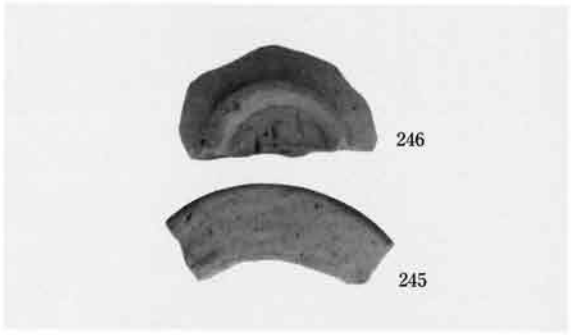

254

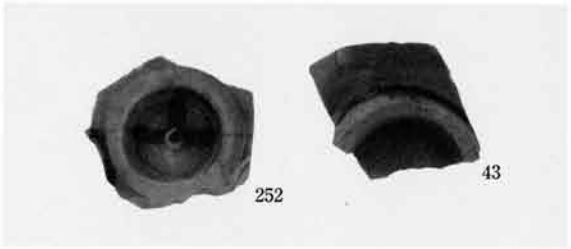

260

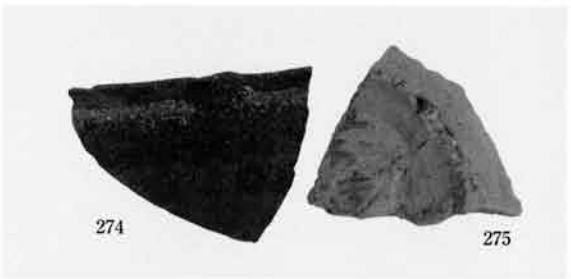

282

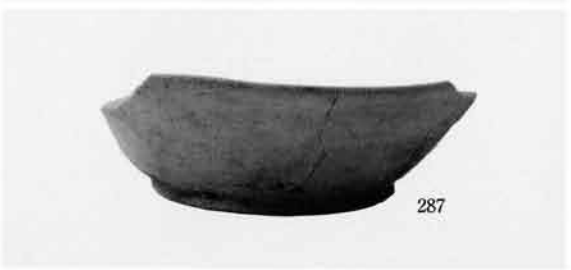

299
1


248
249


246
245


252
43


274
275


287


288


297


304


314


318


314


321


327


273


308


330


309


311


328


336


284


276

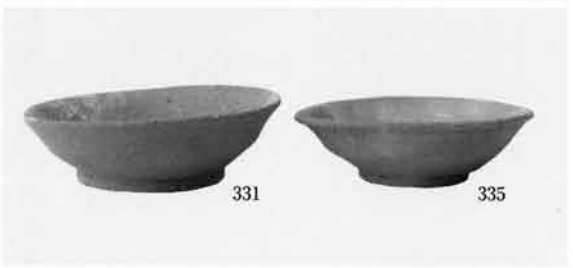

333


315


316

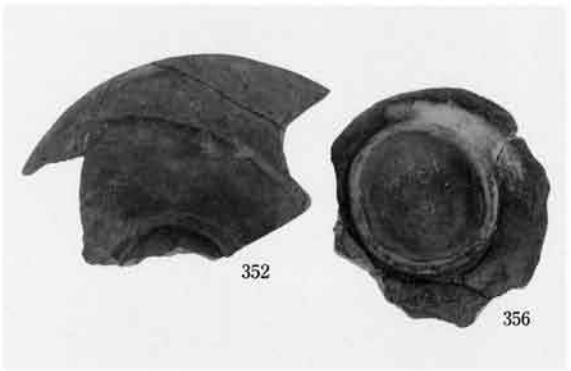

317


351

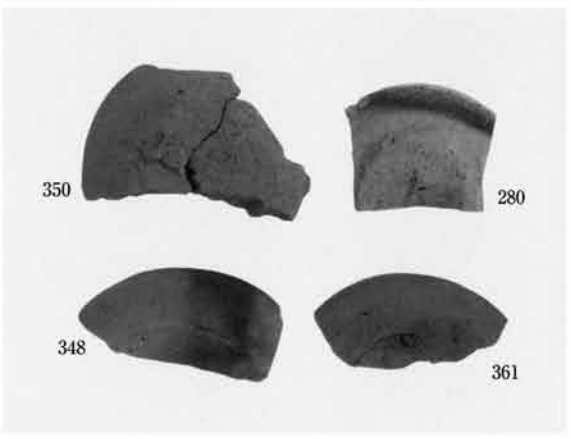

331 335

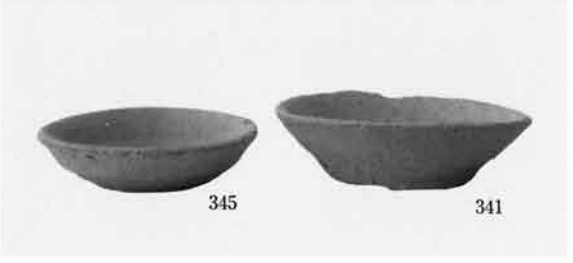

354


334 332


352 356


343 349


350 280 348 361


345 341


298

357


360


362


286


366


292


369


373


370


371


374

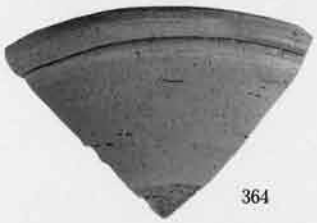

371


374


277


364


277


364

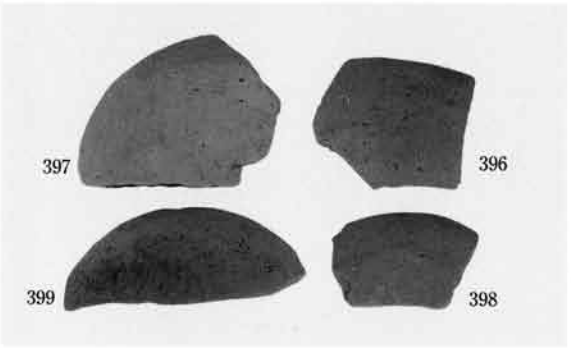

279

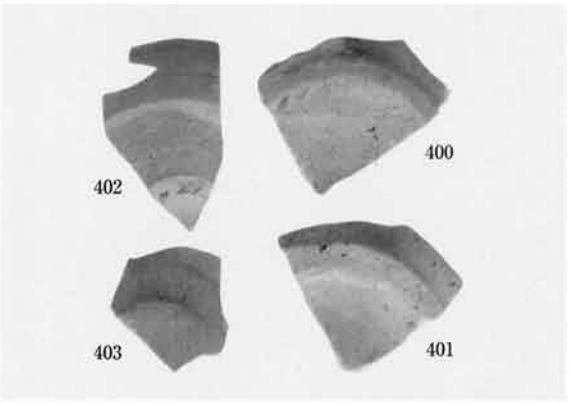

365


367


378
380


382


397
396
399
398

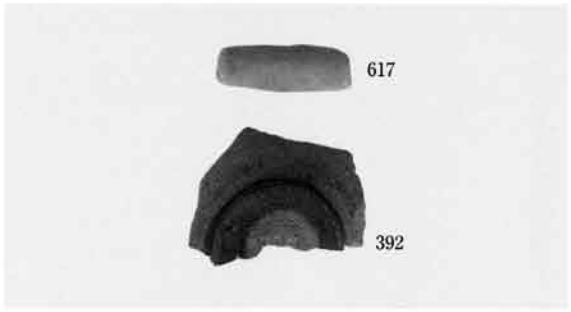

402
400
403
401

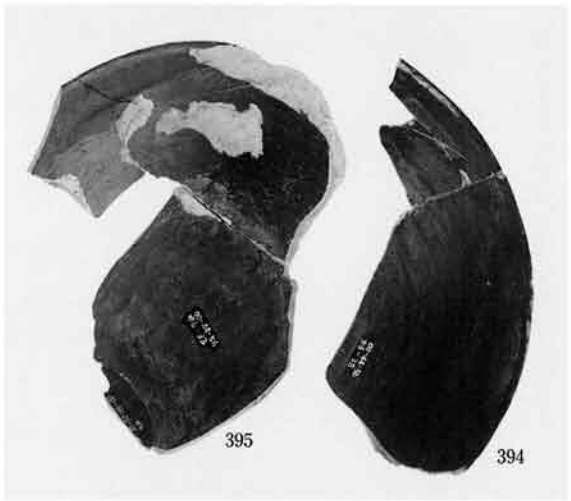

404


412


381


383


617
392


395
394


411


417


418


419


421


424


426

453


429

432


428

431


430

436


434

442


449

434


440

426


445

438


439

455


451

447


450

456


459

460


463


464


465


471


473


484


476


484


476


454


578


487


459


468


467


472

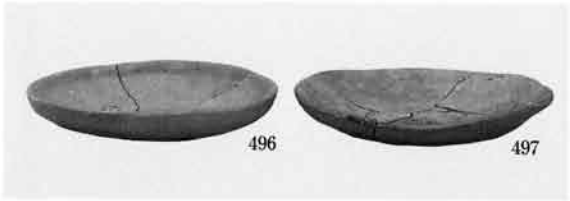

475

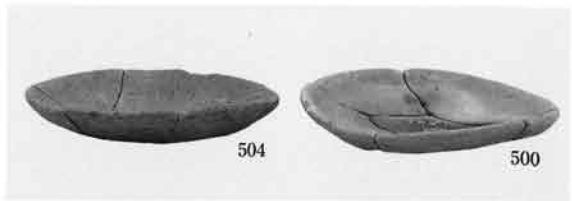

477

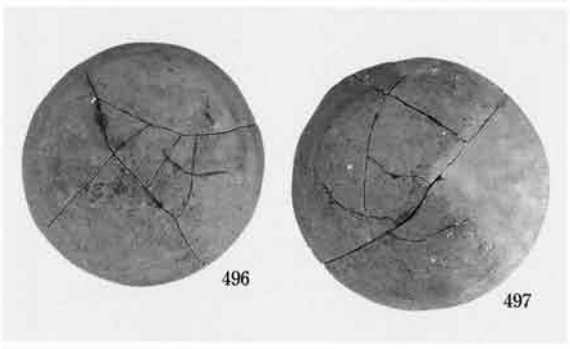

478

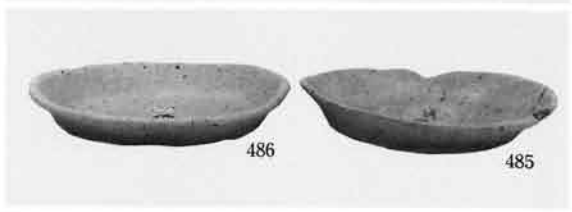

483


482


496
497

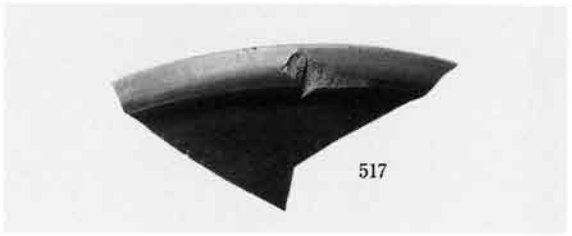

504
500


496
497

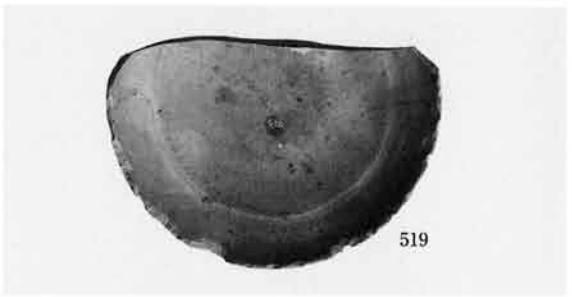

486
485


505
509
501
508


515

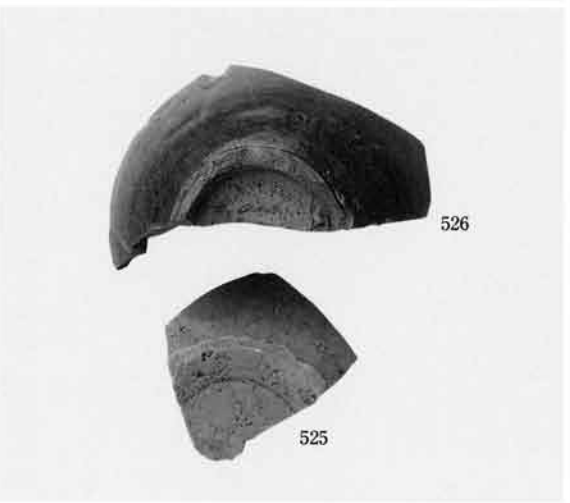

517

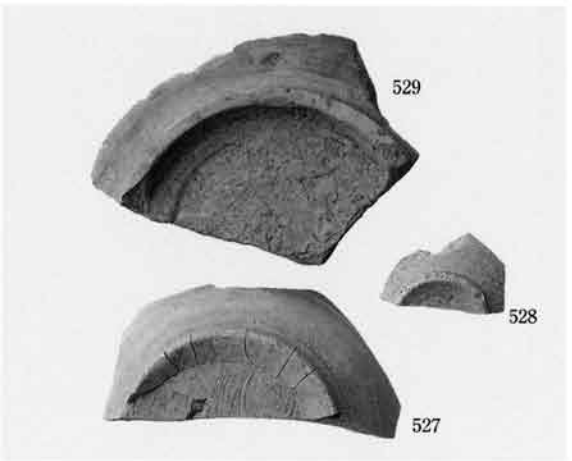

516


519


518


519


526
525


529
528
527


531


532


534


538


536


539


536


539


537


540


553


552


554


547


555

379


557


556


547


561


563


564


572

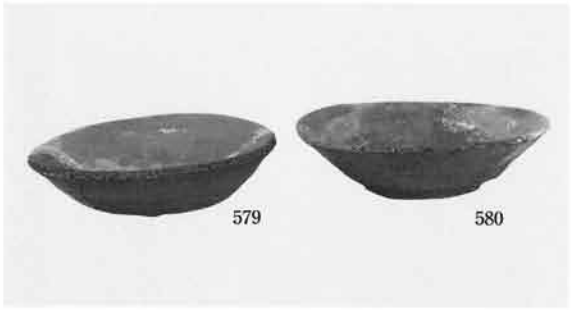
573


589


571


575


574


579

580


583


622


586

585


587


584


596


594


595


601


600


599


597


602


598

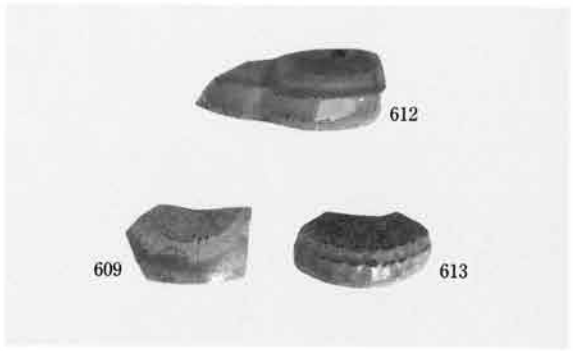

409


410


407


408

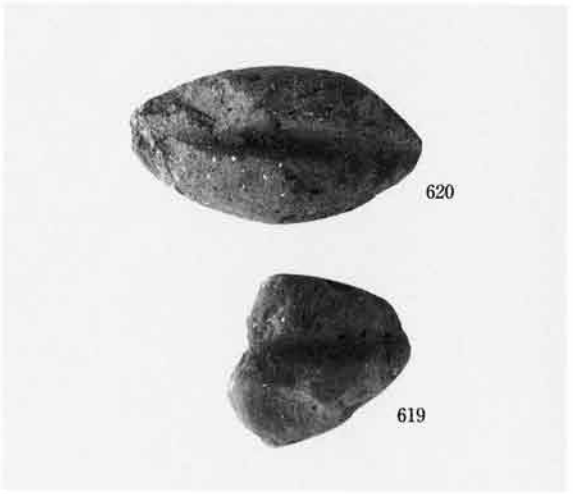

616
611
220


612
609
613


621


618
628


621


620
619


623


624


625


624



647



651



650



652



653



650



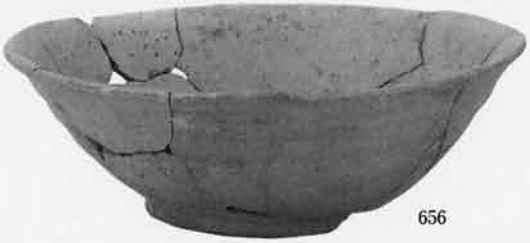
663



655

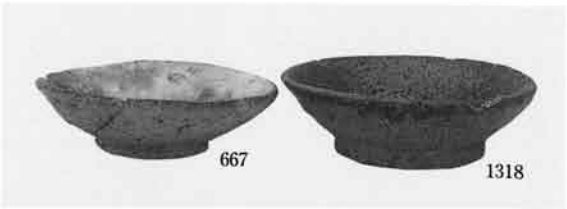


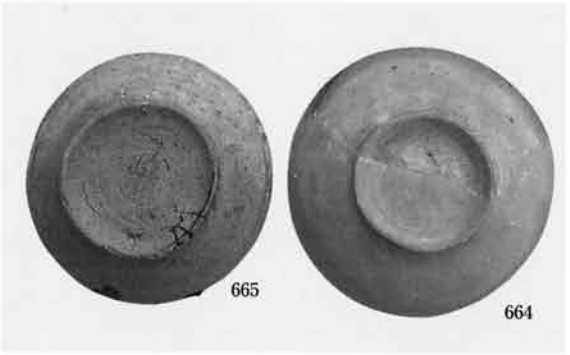
663



656


665
664


667
1318

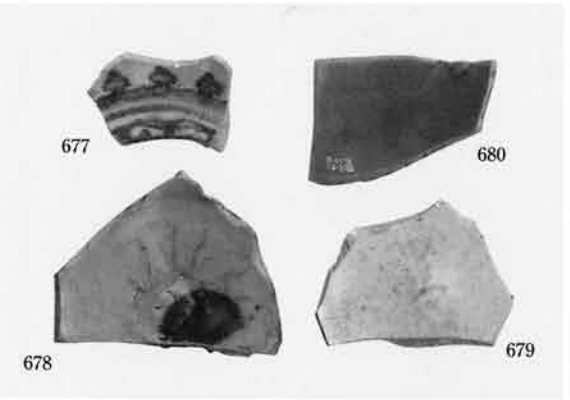

665
664


672


671
669

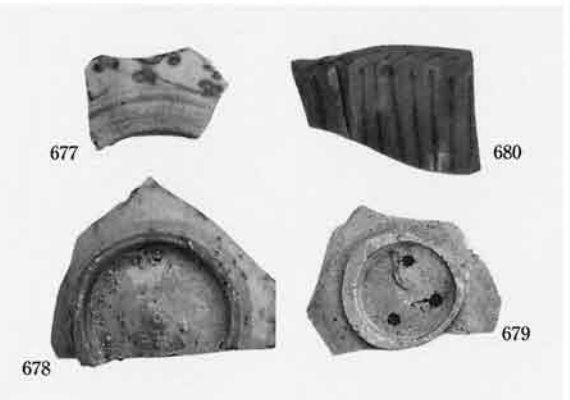

673

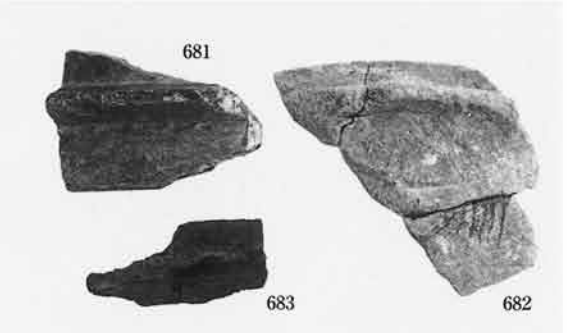

674


677
680
678
679


675


676


677
680
678
679


681
683
682


684


685


686


687


689


690

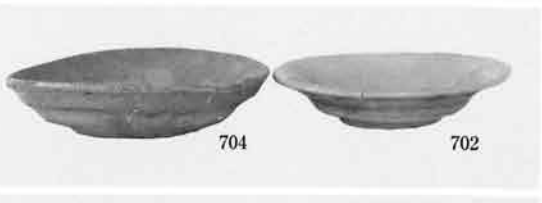

691

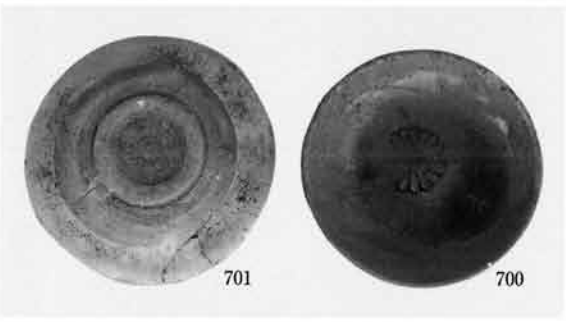

692

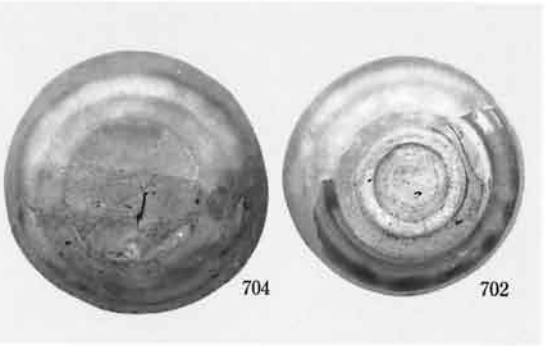

691


692

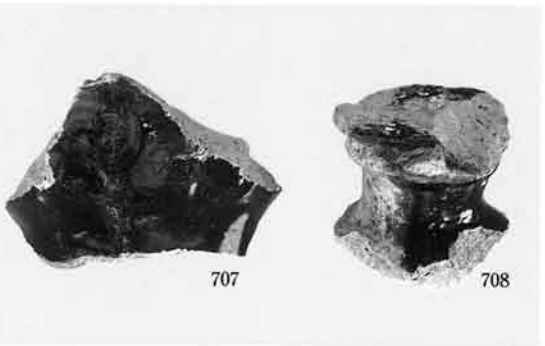

701
700

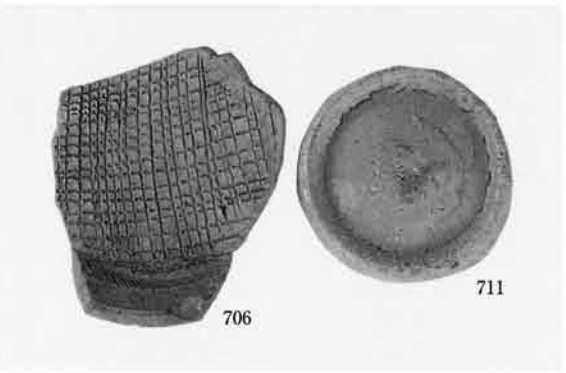

704
702

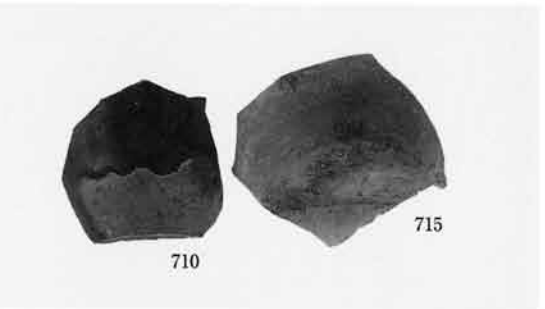

701
700

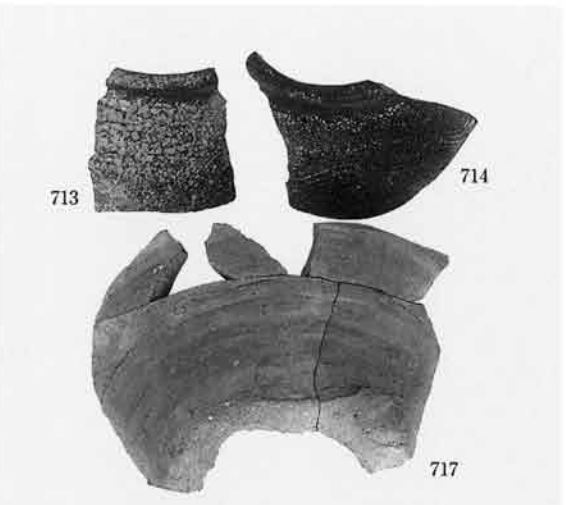

704
702

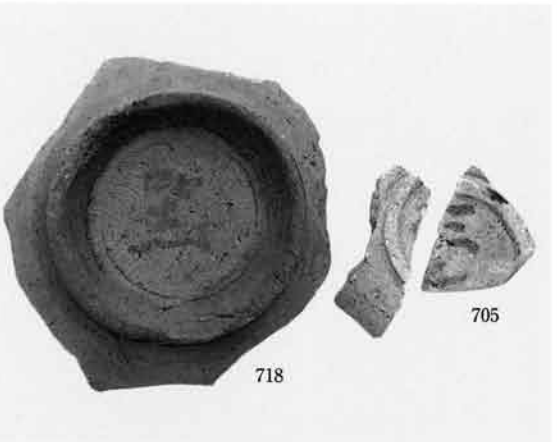

698


707
708


706
711


710
715


713
714
717


718
705


732
734


719
727


736

737


744

741

742

693


744

741

742

693


756

743

746

1867


751

745

757

753


748

747

750

749


782

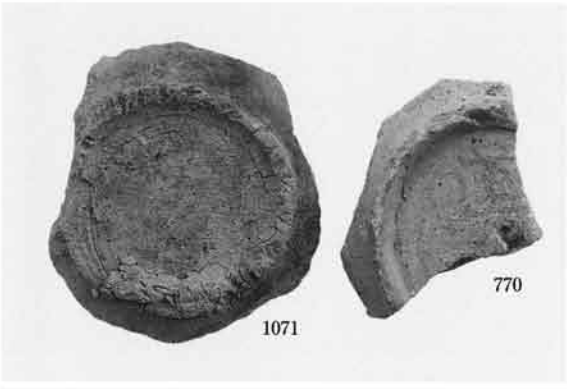

759

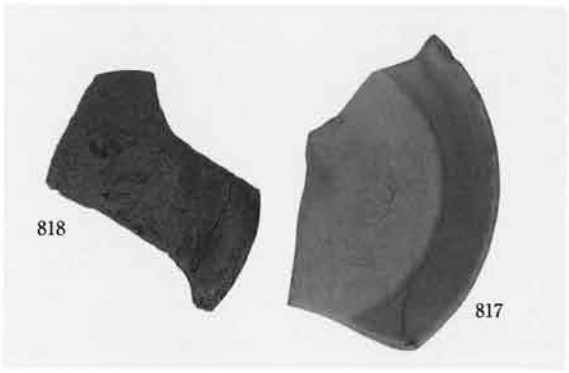
758

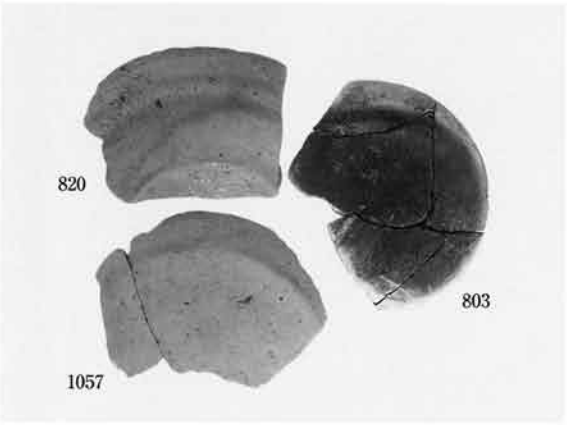
1906

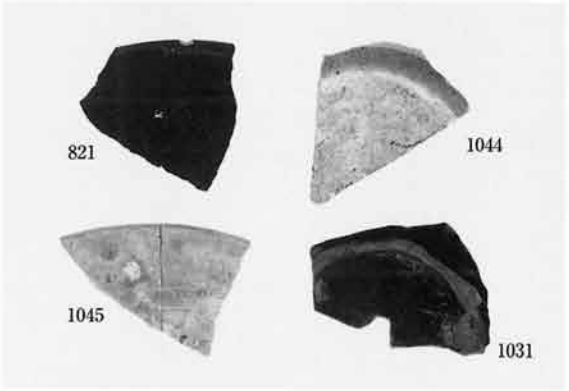

852

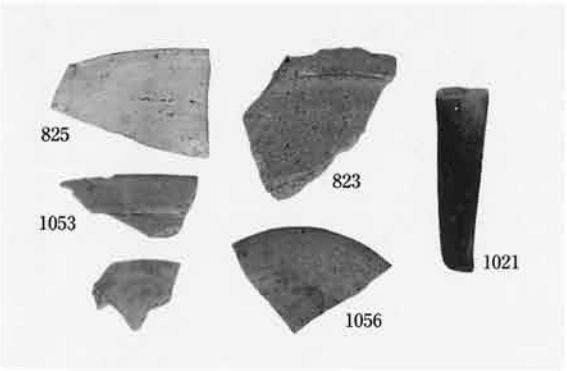
845


1071
770


818
817

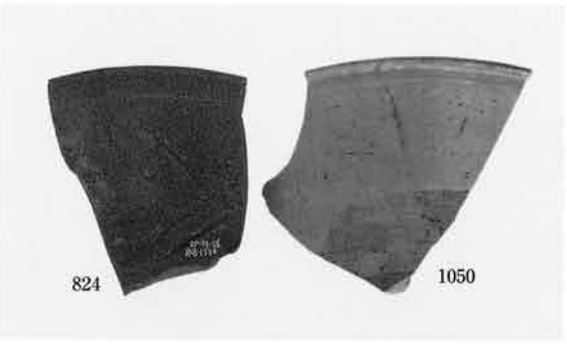

820
803
1057


821
1044
1045
1031


825
823
1053
1021
1056


827


841


824
1050


849


832


876


844


844


927


863

861


867


890


906

842

949


854

916

957


856

1863


878


958


891


900


1018

901


1073

904


912


911


909

910


943


918


923


924

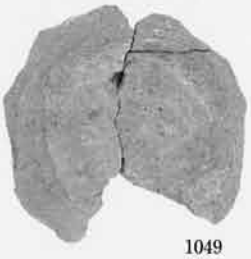

943


918


923


924


929


1049


1047

1548


926


933

931


928


930


937


1015
922
950
941


937


954


981
970


956


999


973


959

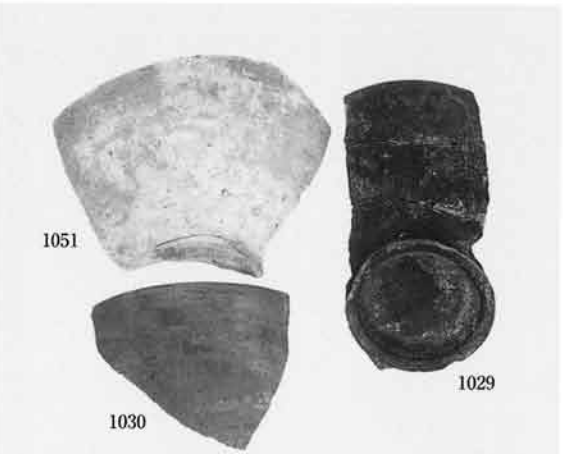

1004
992


1011


1016


1017


1025
1019
1865
1066
1028

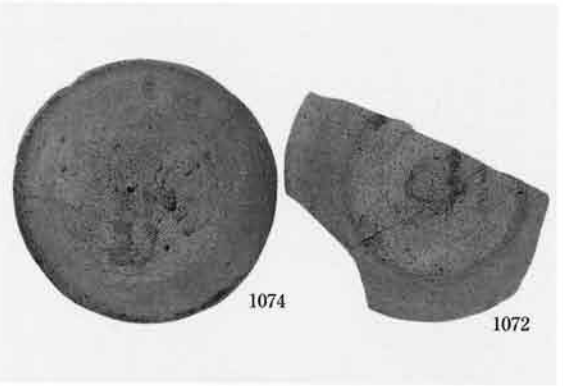

1051
1029
1030


1026
1042


1040


1035
1046


1062
1063


1074
1072


1069

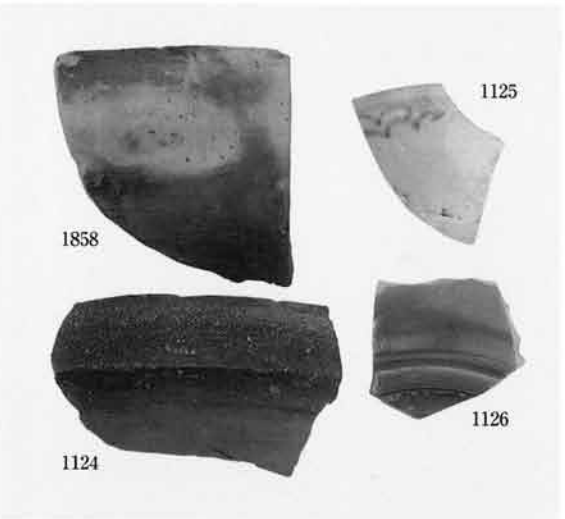

1077

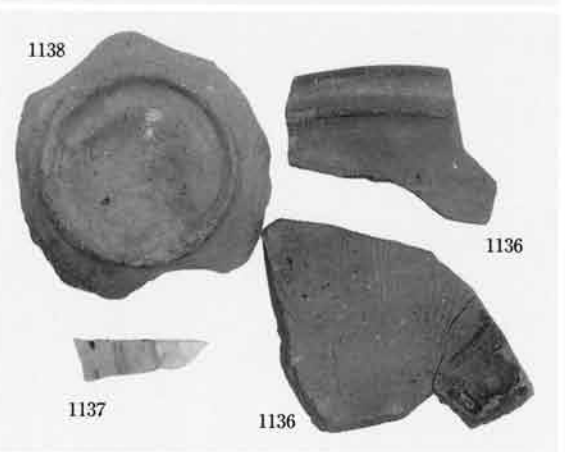

1070

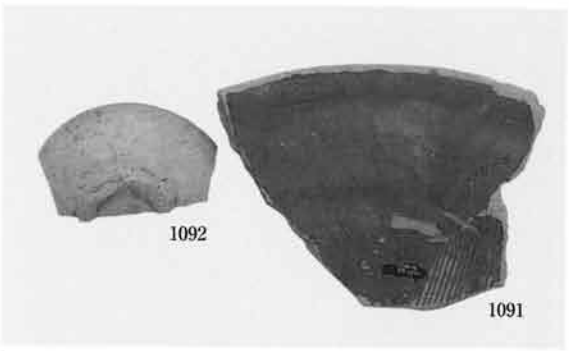

1090

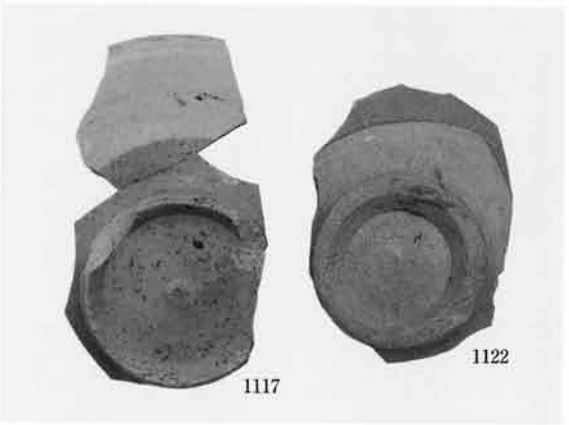

1112

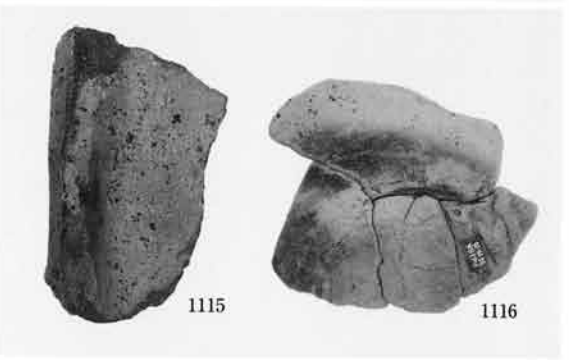

1118
1123

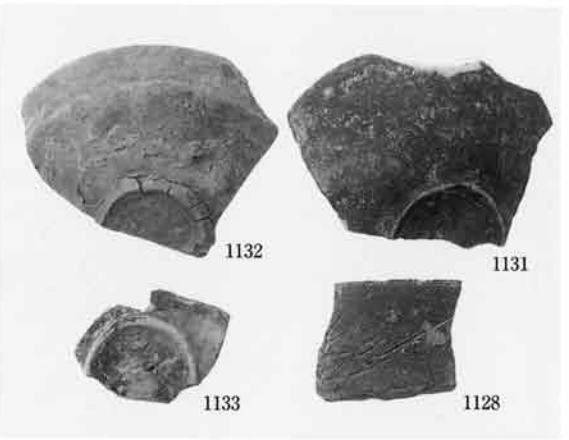

1125
1858
1126
1124


1138
1136
1137
1136


1092
1091


1117
1122


1115
1116


1132
1131
1133
1128


1129

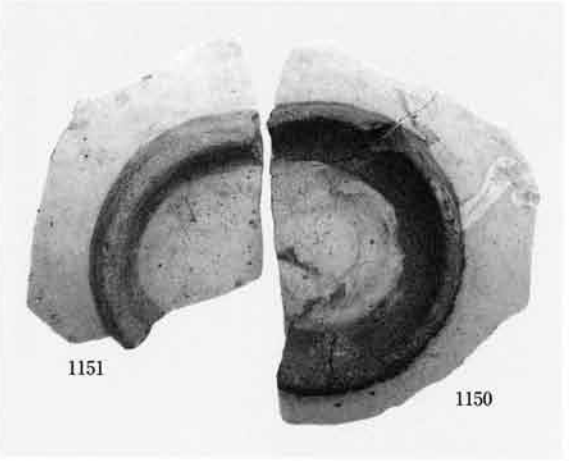

1134
1127
1135


1139

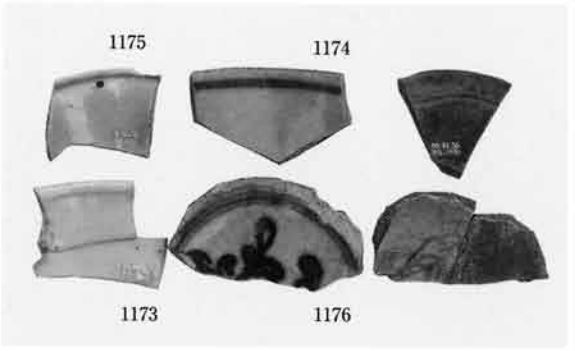

1134
1127
1135

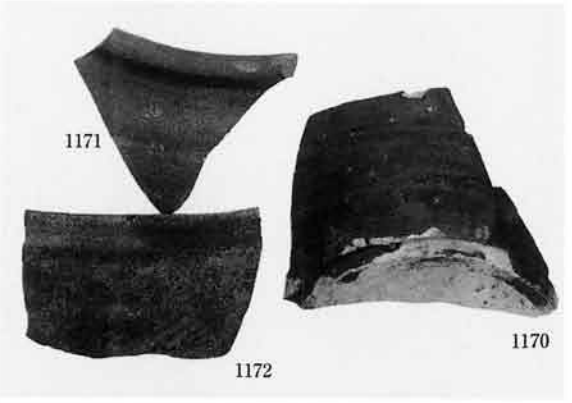

1142

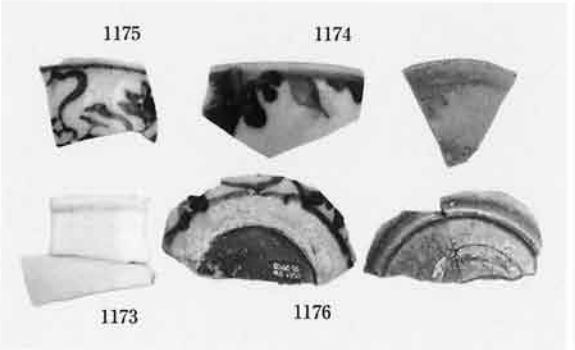

1146

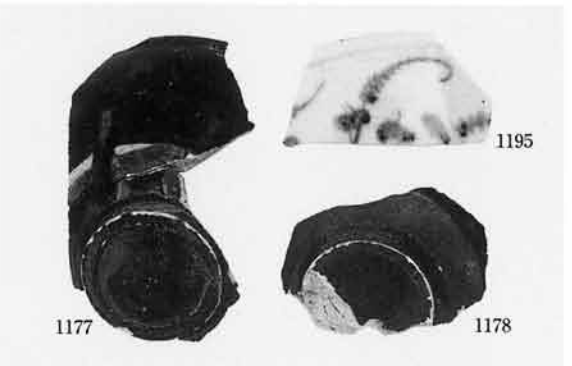

1151
1150


1163
1153


1175
1174
1173
1176

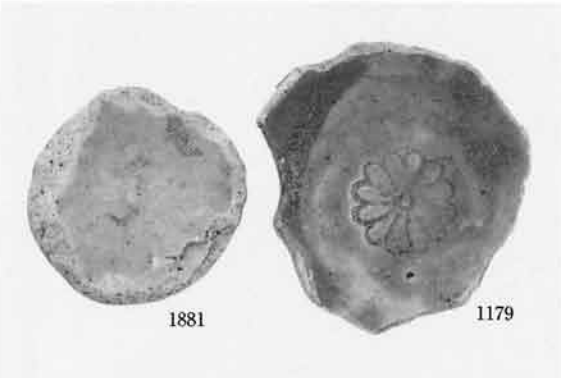

1171
1170
1172

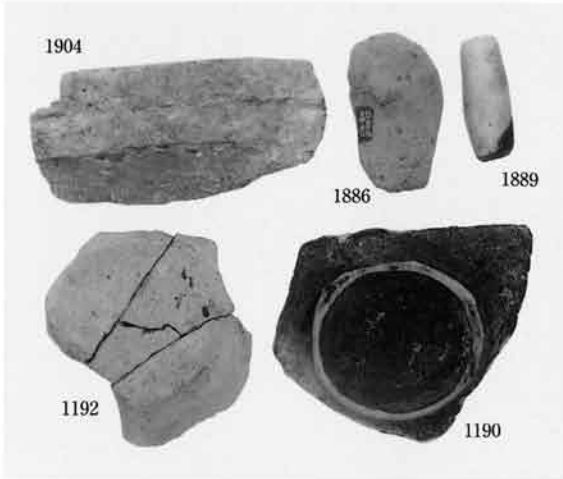

1175
1174
1173
1176


1195
1177
1178


1881
1179


1180
1186


1881
1179


1904
1886
1889
1192
1190


1191


1193
1194


1196


1197


1198


1199



1130



1200



1201



1203



1204



1205



1202



1206



1207



1211



1208



1212



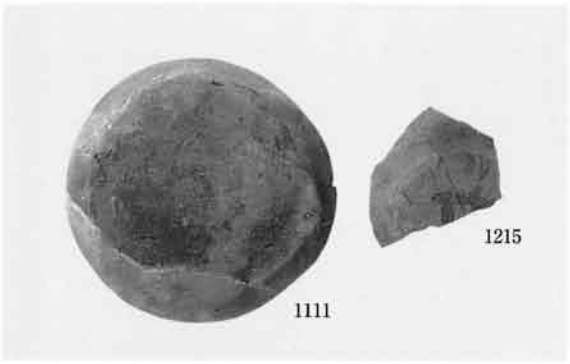
1209

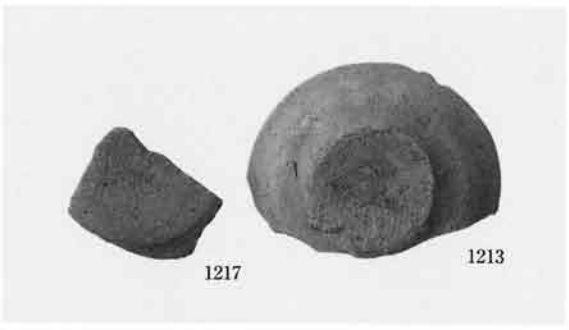


1210

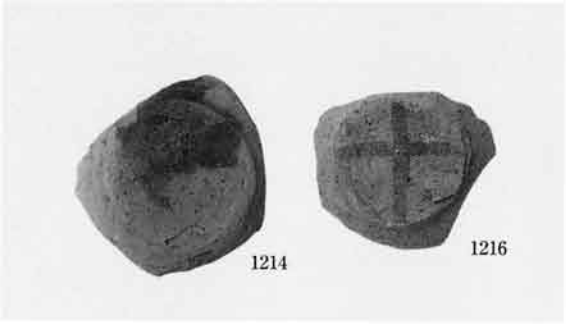


1169

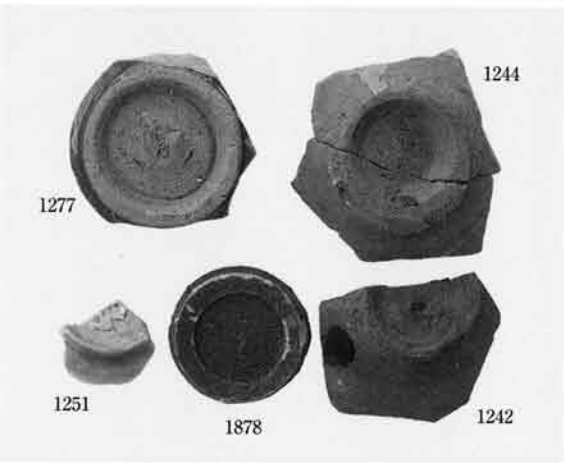

1111
1215


1217
1213


1250

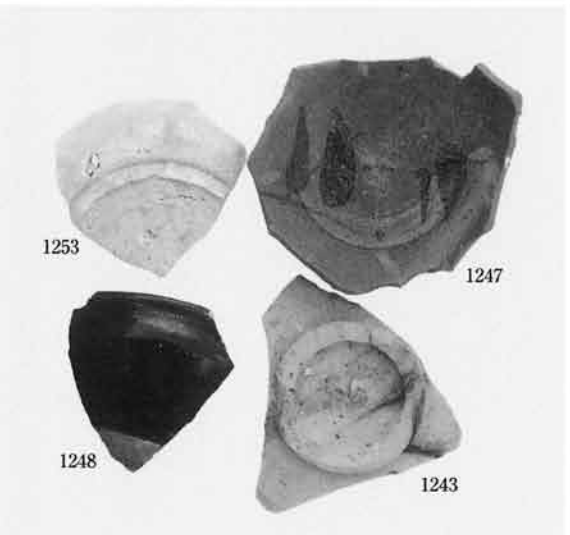

1214
1216

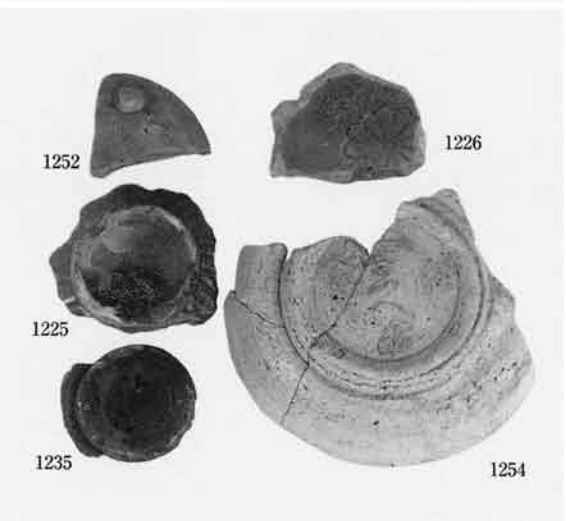

1233

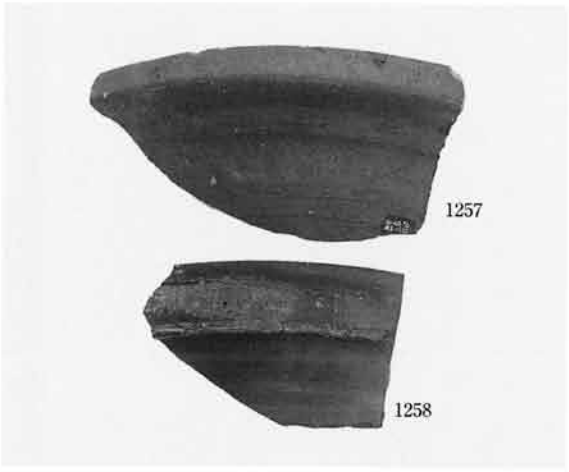

1244
1277
1251
1878
1242


1234
1231
1224

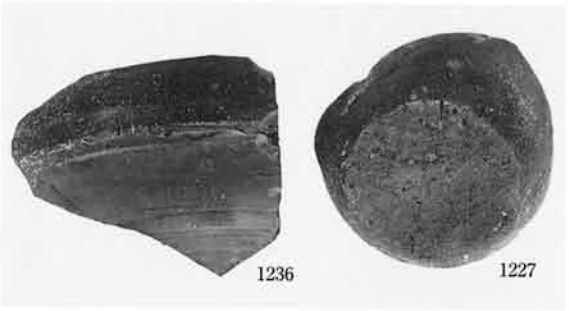

1892
1219


1253
1247
1248
1243

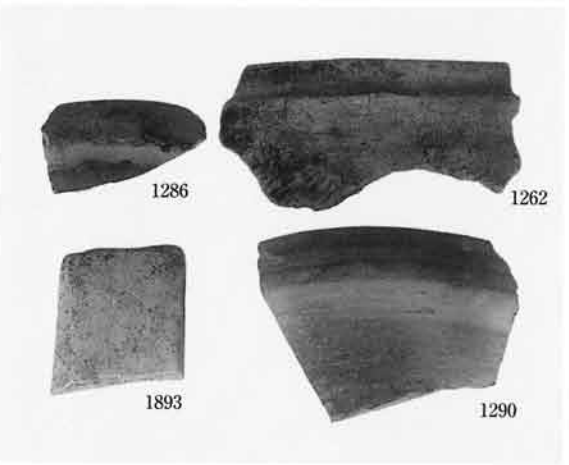

1252
1226
1225
1235
1254

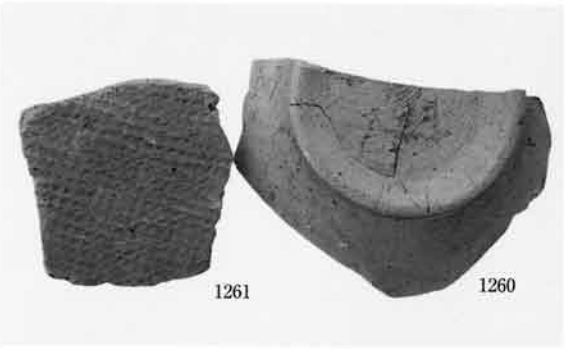

1257
1258


1255

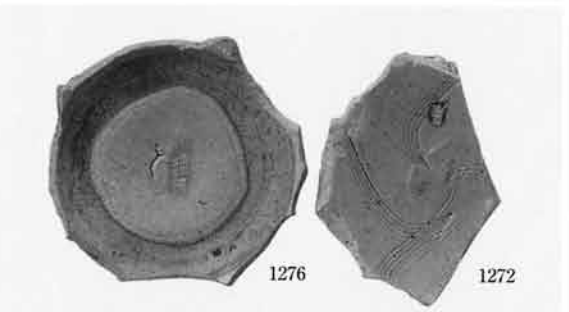

1236
1227

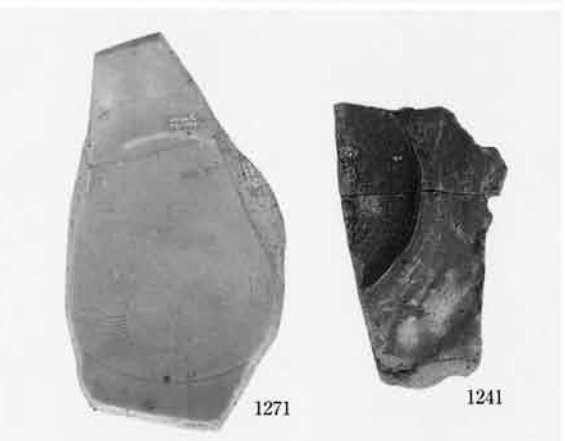

1259

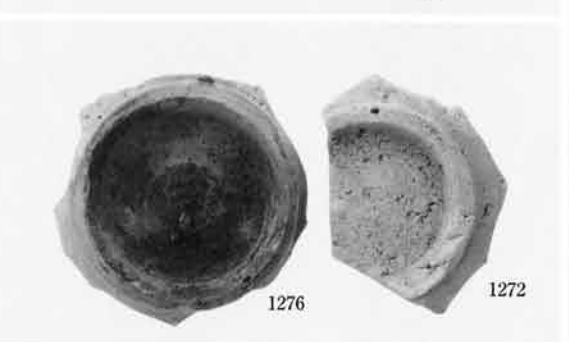

1286
1262
1893
1290

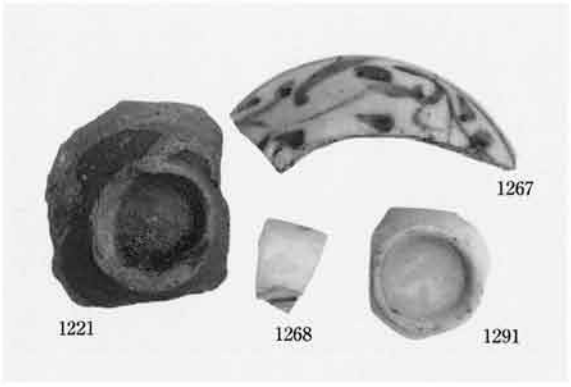

1261
1260

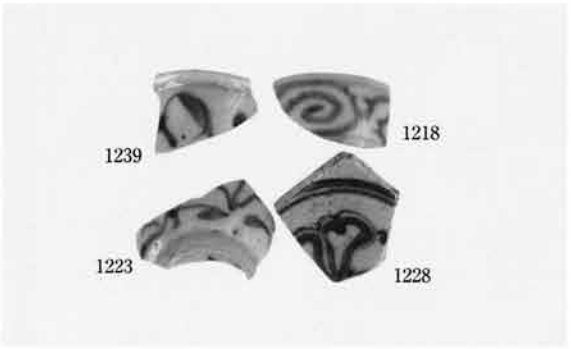

1263

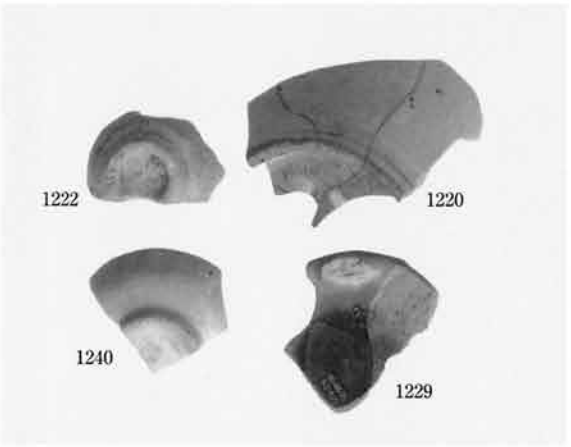

1276
1272

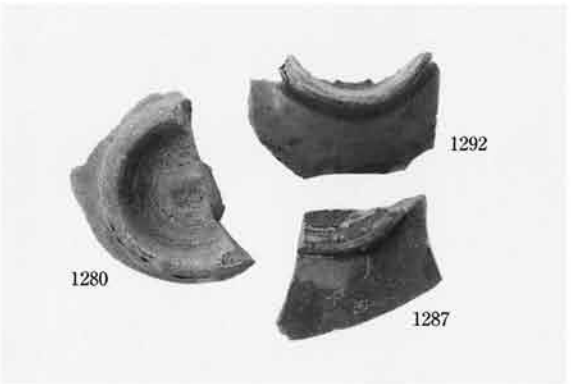

1271
1241

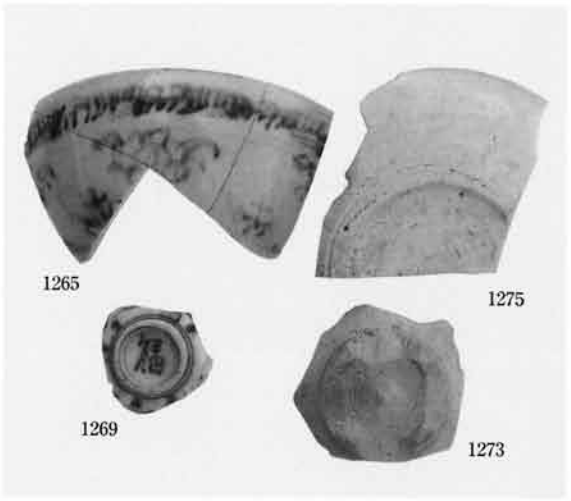

1276
1272

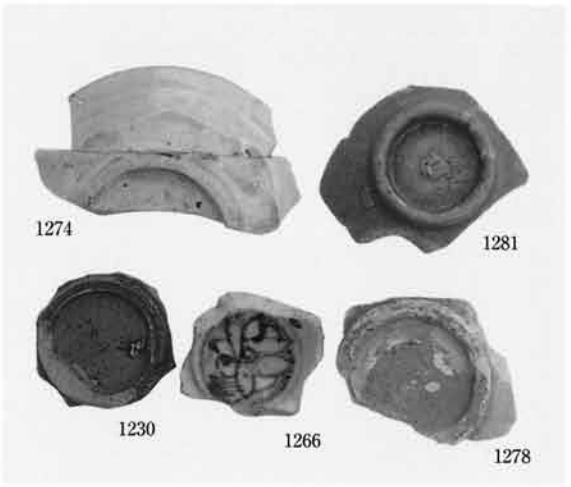

1267
1221
1268
1291


1239
1218
1223
1228

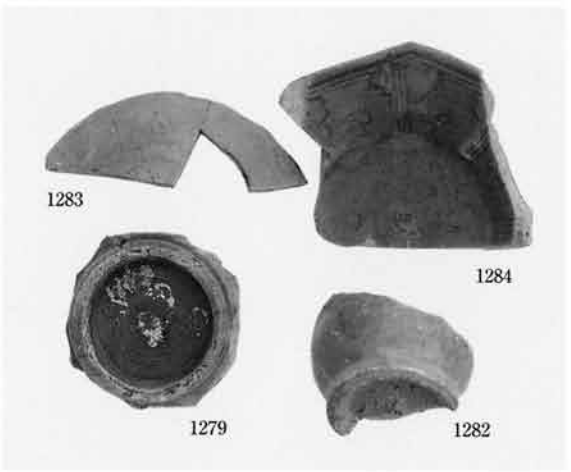

1222
1220
1240
1229

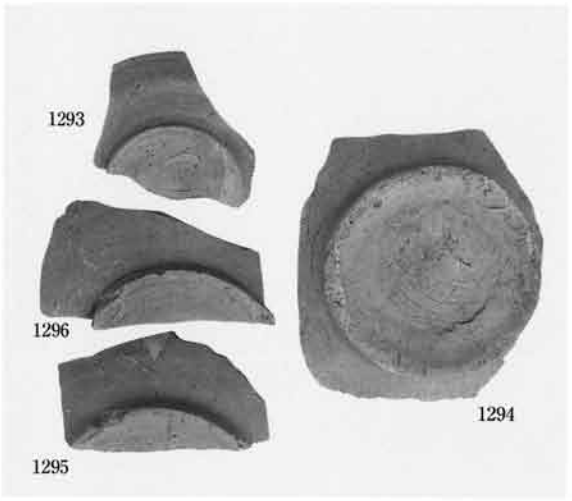

1292
1280
1287

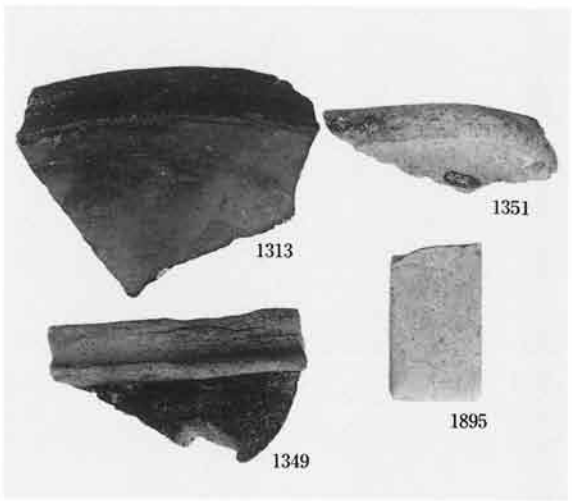

1265
1275
1269
1273

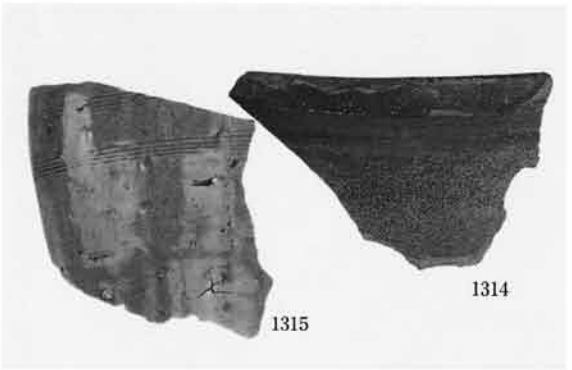

1274
1281
1230
1266
1278


1288
1270
1289


1283
1284
1279
1282


1293
1296
1295
1294

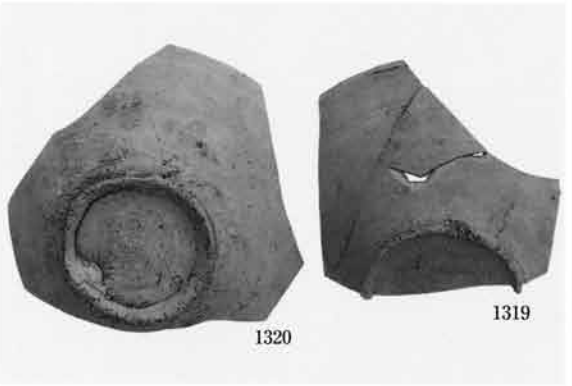

1313
1351
1349
1895


1315
1314


1312


1316


1318
1317

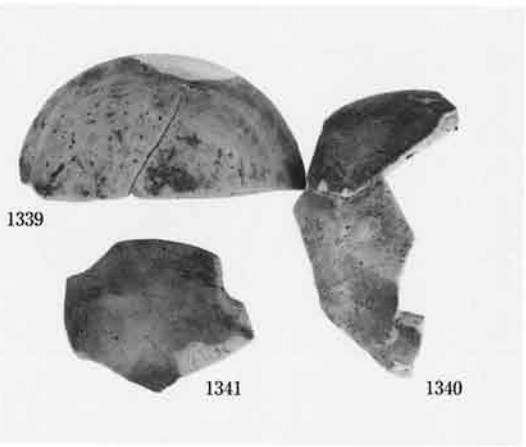

1320
1319


1334
1440

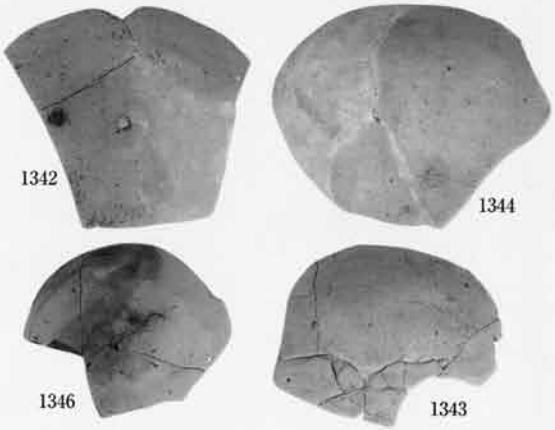

1321


1334
1440


1336

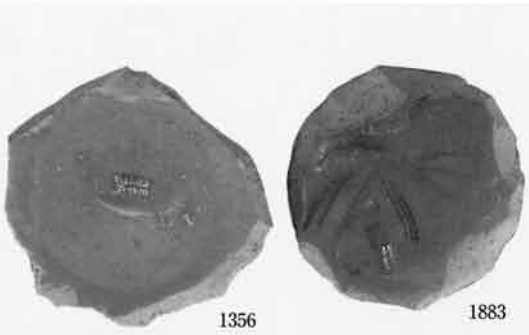

1339
1341
1340


1335

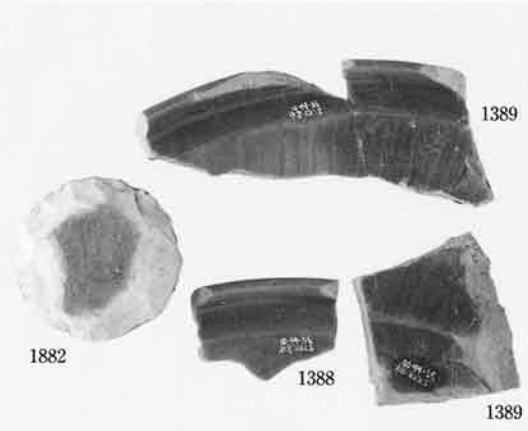

1342
1344
1346
1343

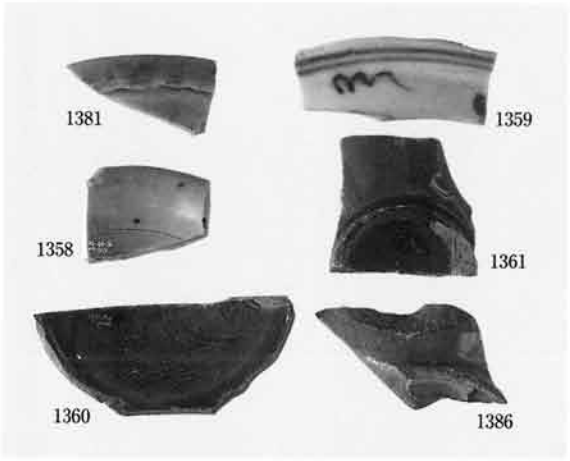

1354
1355

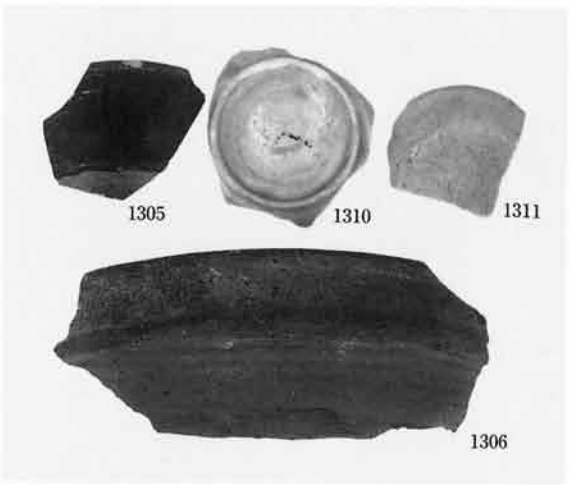

1389
1882
1388
1389

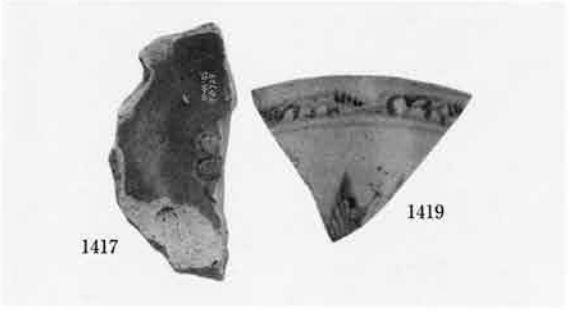

1356
1883

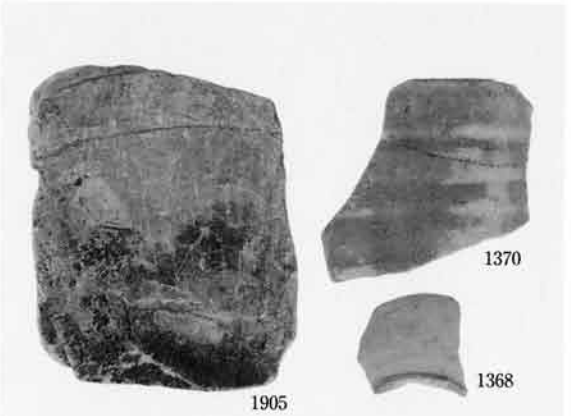

1356
1883

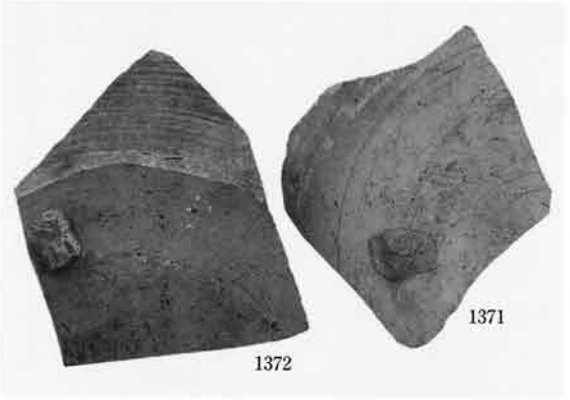

1389
1882
1388
1389

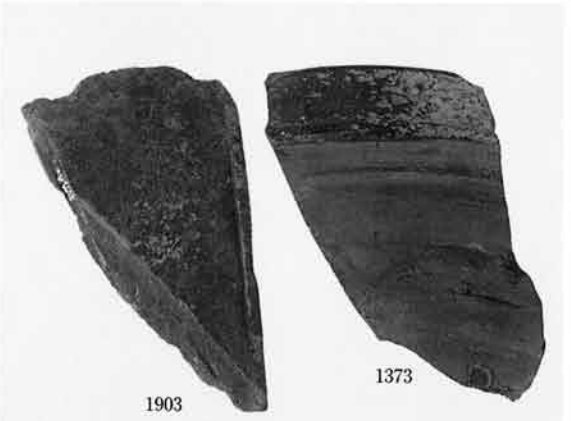

1381
1359
1358
1361
1360
1386

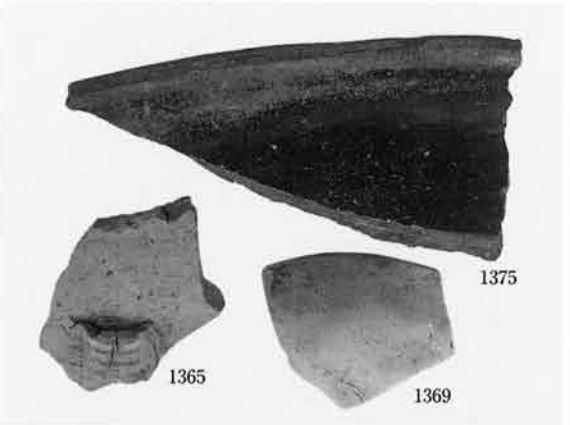

1305
1310
1311
1306

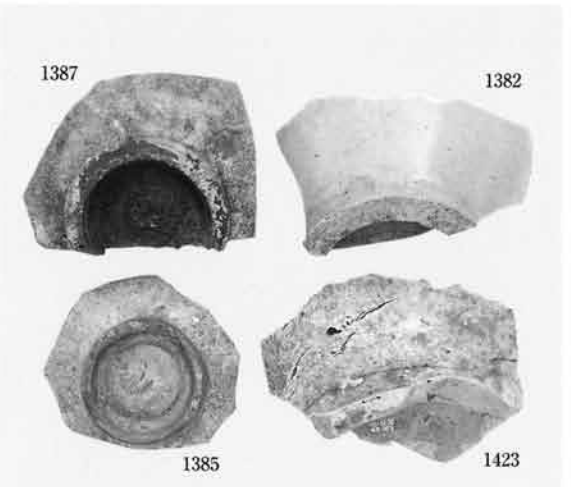

1417
1419


1370
1905
1368

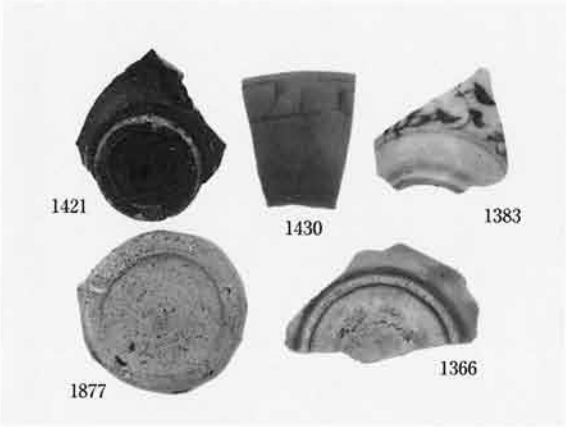

1371
1372


1903
1373

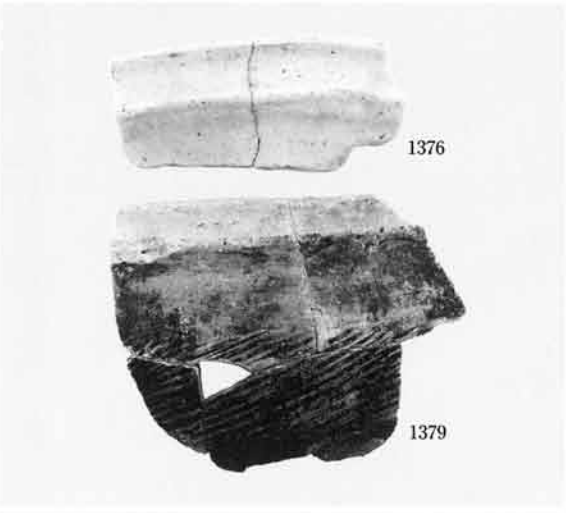

1375
1365
1369


1387
1382
1385
1423

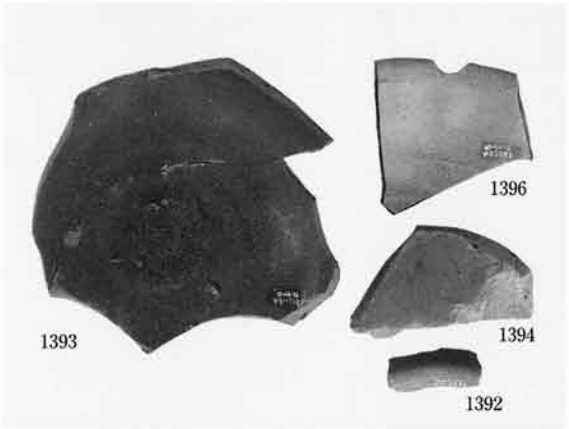

1297

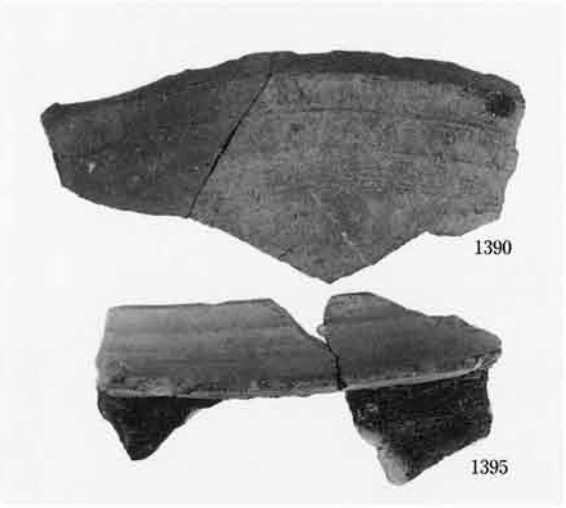

1421
1430
1383
1877
1366

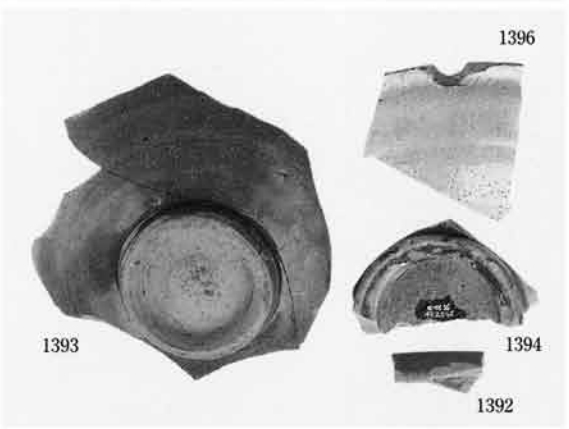

1374


1376
1379

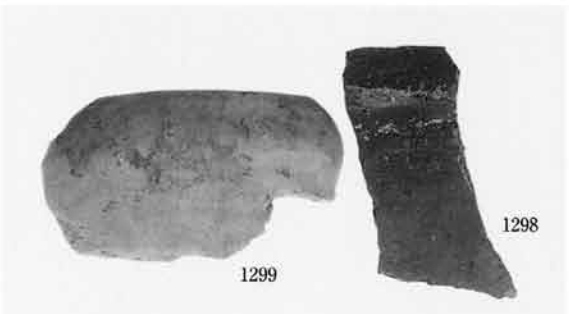

1374


1396
1393
1394
1392

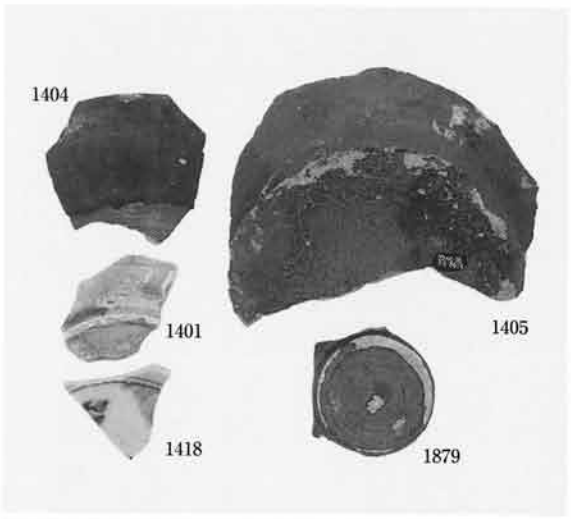

1390
1395

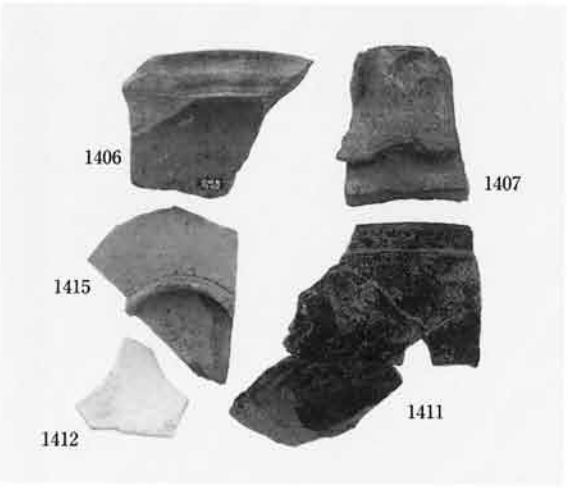

1396
1393
1394
1392

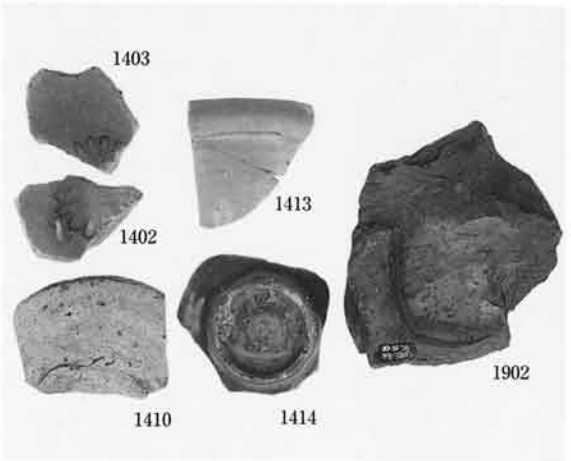

1303
1302


1298
1299


1399
1400


1404
1401
1405
1418
1879


1406
1407
1415
1411
1412


1403
1413
1402
1902
1410
1414


1420


1428


1391
1436


1437
1438


1434


1437
1438


1446


1449


1453


1590 1450


1656 1457


1590 1450


1469


1470


1485


1487


1455


1871


1482


1503 1486


1503 1486


1489


1490


1506 1507


1493


1534


1495


1539


1541


1542 1543


1561


1541


1563


1572


1566 1567


1603


1578


1605


1579 1584


1613 1614


1588 1589

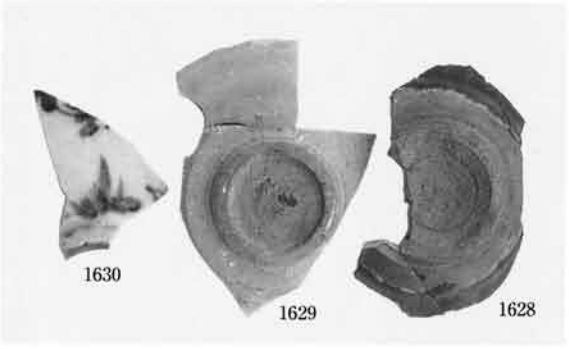

1591 1594


1613 1614

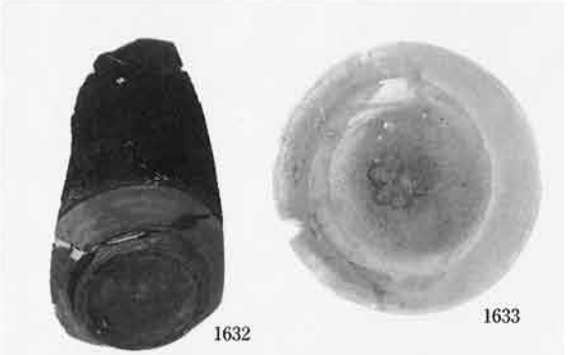

1600 1599

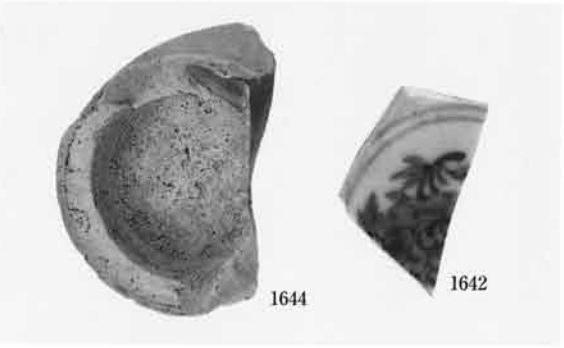

888
1598

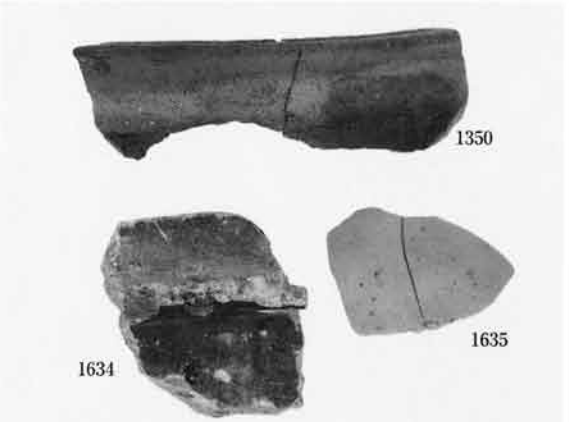

1621

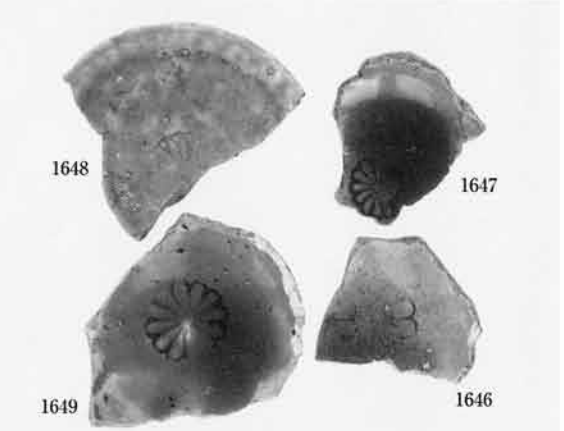

1630
1629
1628

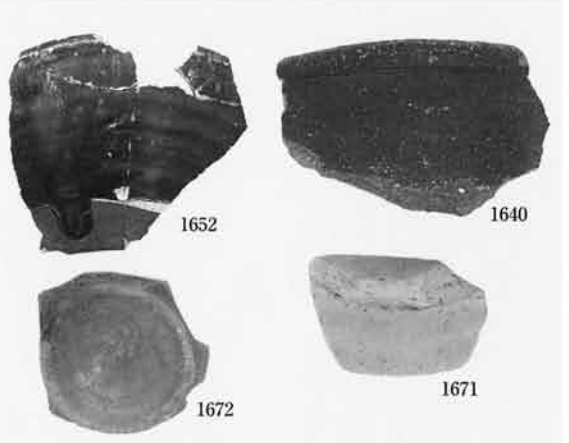

1620

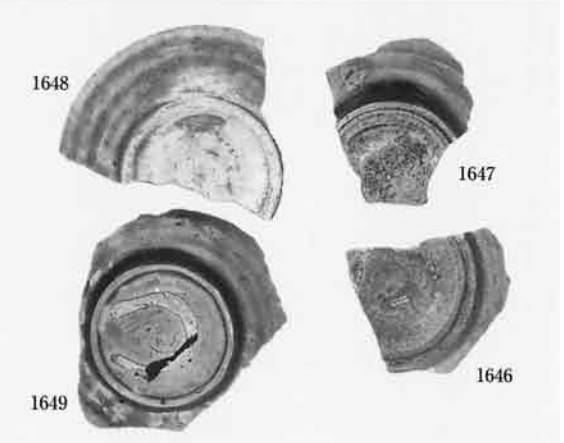

1632
1633


1644
1642


1350
1634
1635


1648
1647
1649
1646

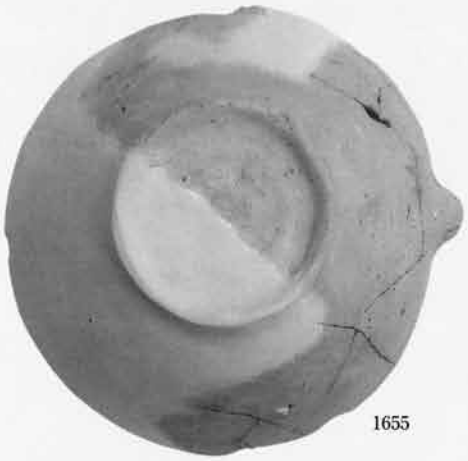

1652
1640
1672
1671


1648
1647
1649
1646


1655


1795

1660


1655


1666

1661


1669

1673


1668

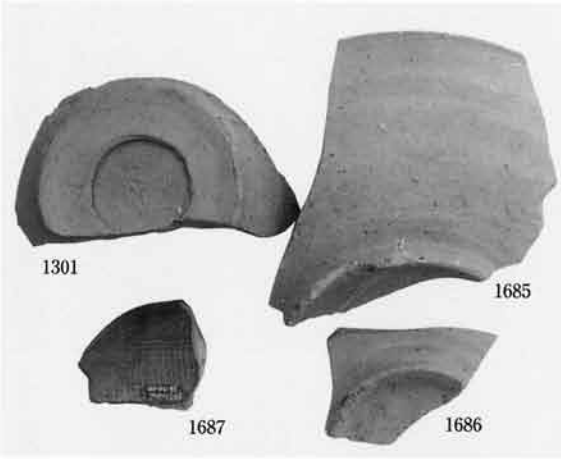

1674

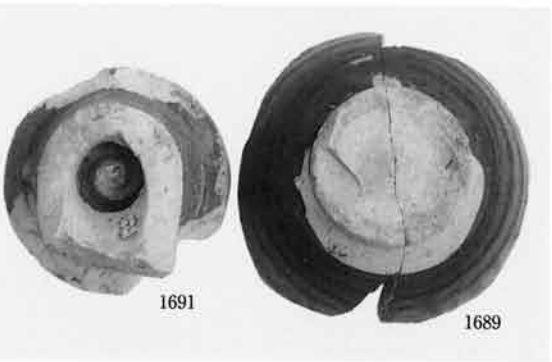

1667

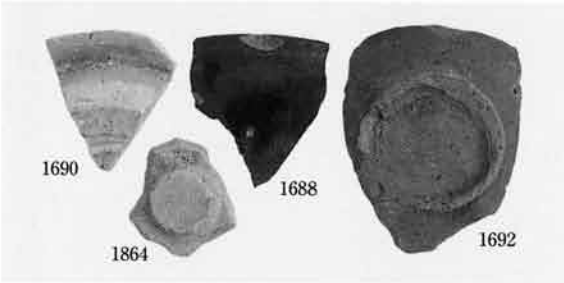

1675

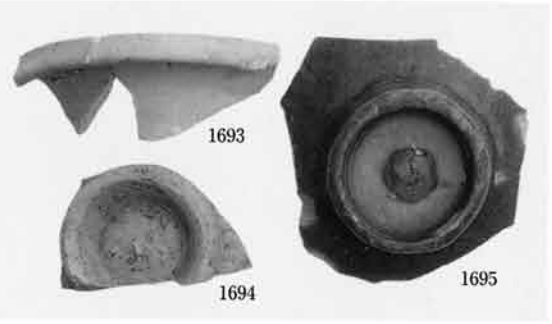

1683


1667


1301
1685
1687
1686

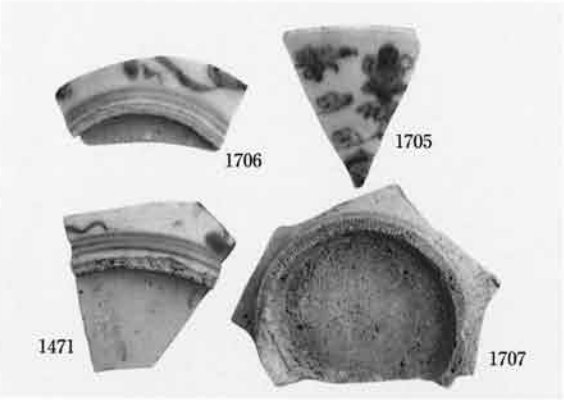

1691
1689


1690
1688
1692
1864


1693
1694
1695

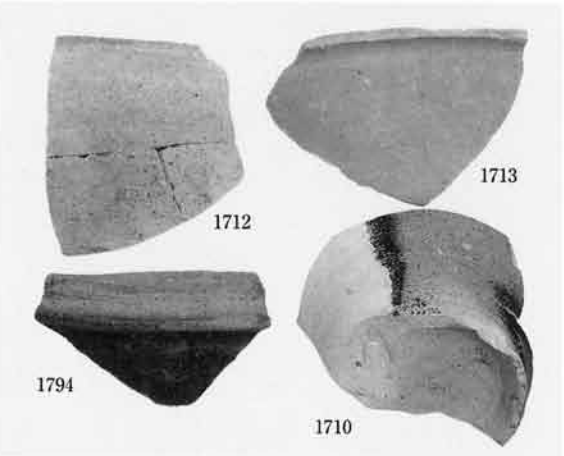

1696


1699


1706
1705
1471
1707


1702
1703


1704


1712
1713
1794
1710


1714
1797


1718


1719


1723


1724


1727


1733


1739 1744


1740 1735


1759 1756

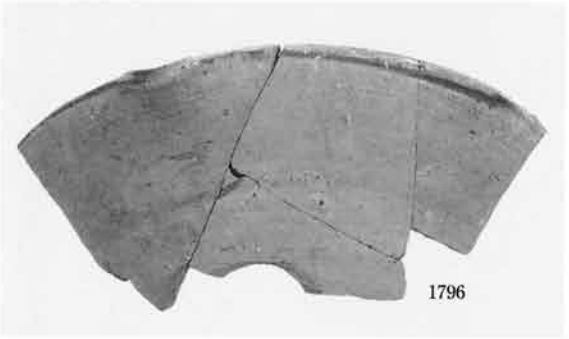

1759 1756

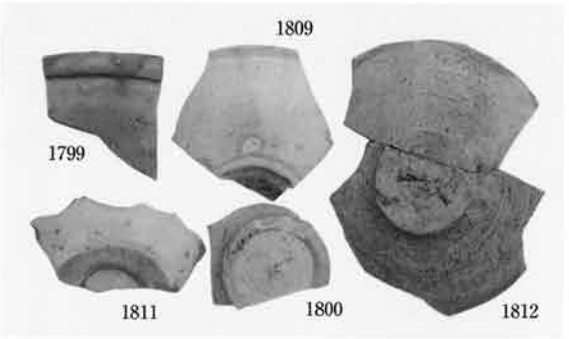

1755 1776


1773


1774 1775 1781


1778
1772

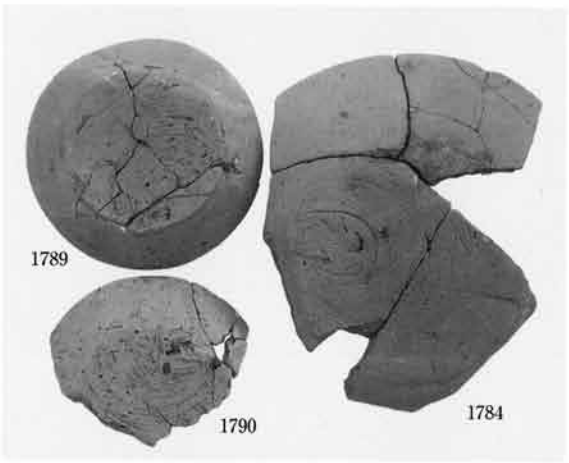

1796

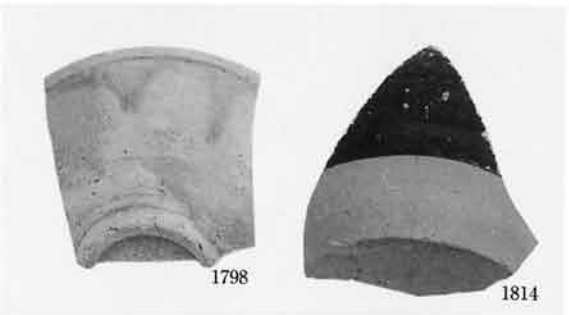

1809
1799
1811
1800
1812

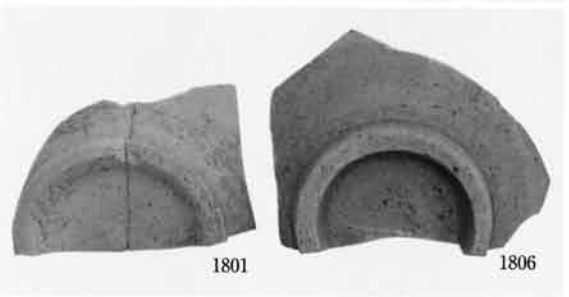

1819
1820


1819
1820


1823

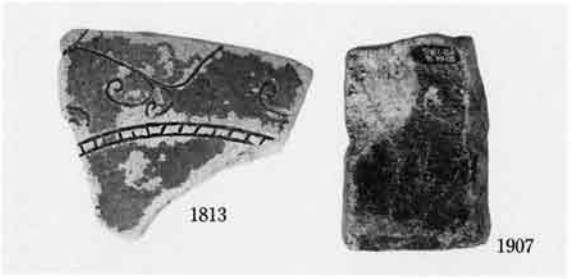

1789
1790
1784

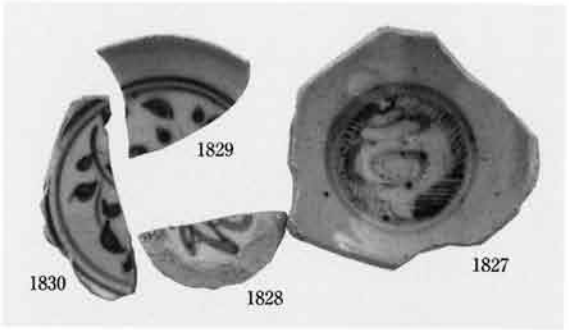

1798
1814

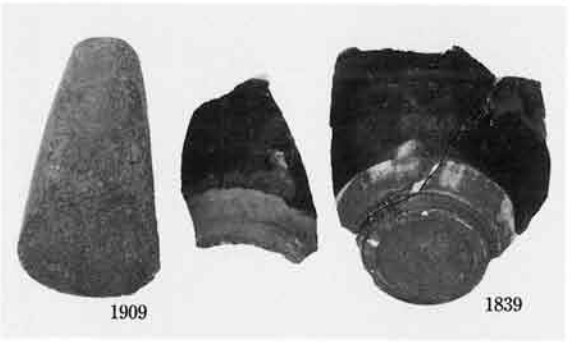

1801
1806

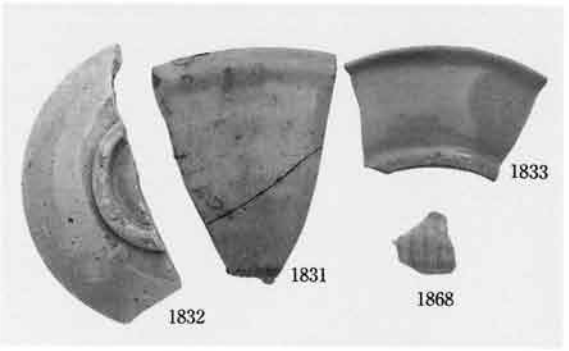

1810
1852


1822

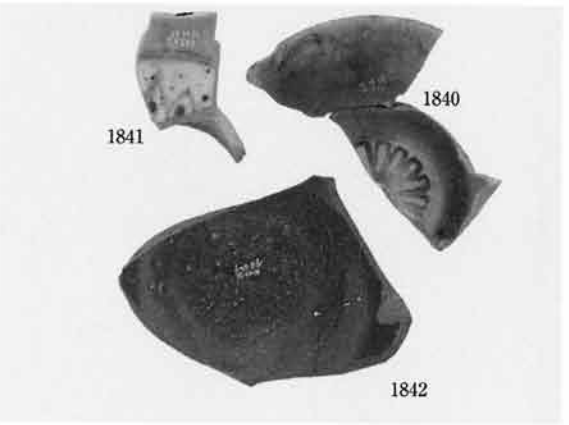

1813
1907


1829
1830
1828
1827


1909
1839


1833
1831
1868
1832


1843


1841
1840
1842

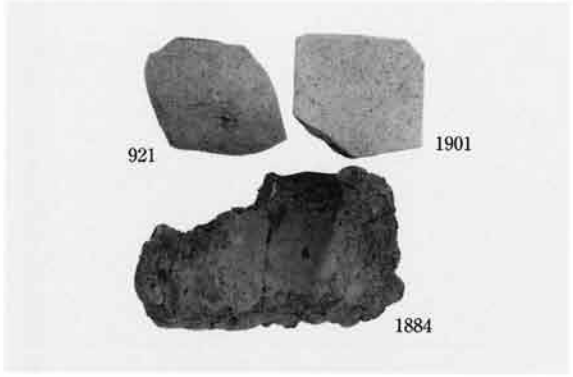

1847
1844


1848
1846


1849
1845

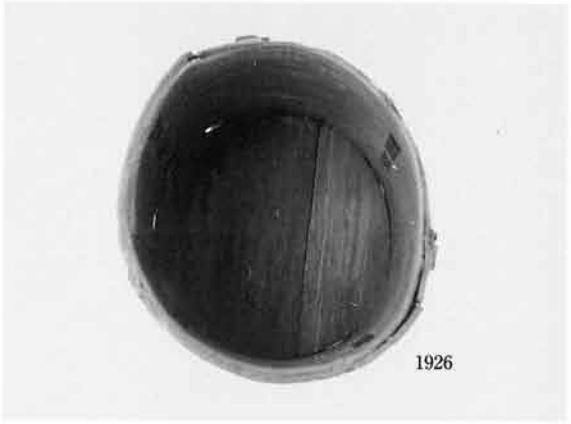

1853
1850

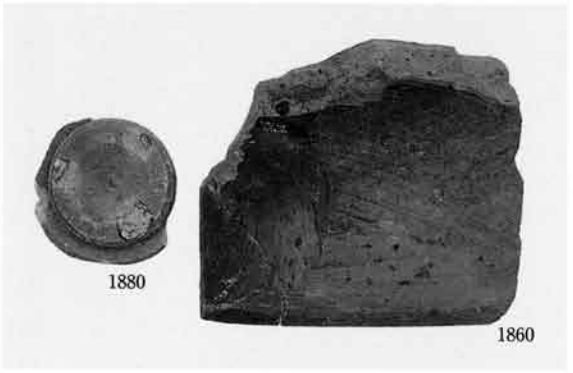

1854
1855

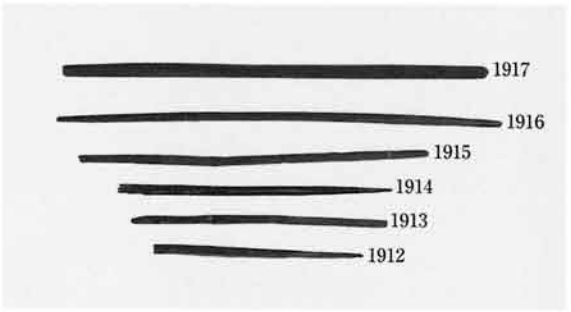

921
1901
1884


1926

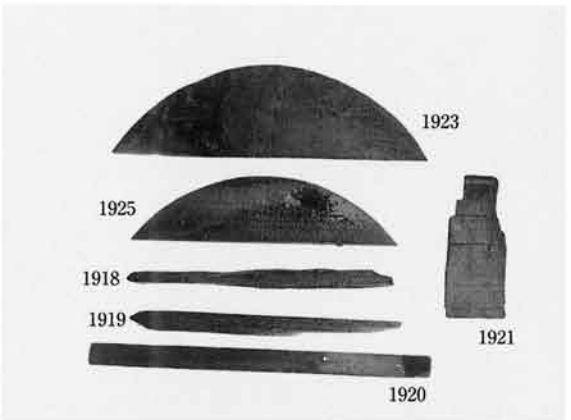

1862


1926


1880
1860


1917
1916
1915
1914
1913
1912


1870
1869
1873
768


1923
1925
1918
1919
1921
1920


1934


1938


1939


1941


1946 1948

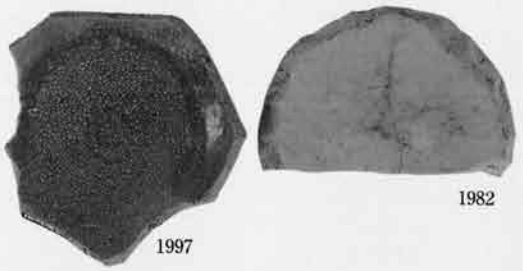

1970

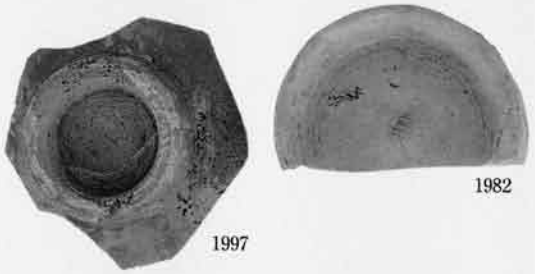

1973


1990


1985 1987

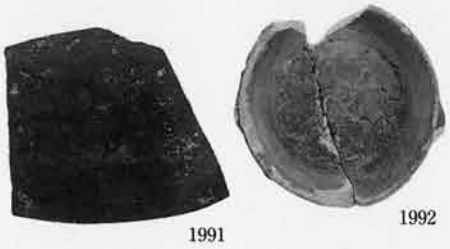

1980 1977


1997 1982


1997 1982

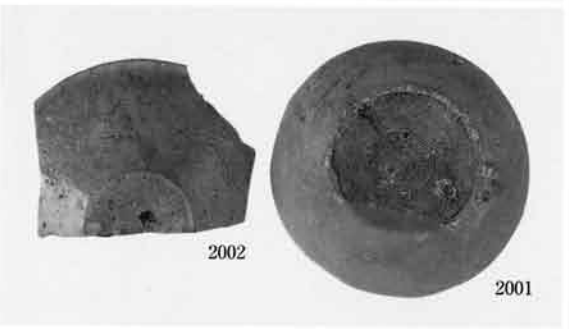

2003 1986


2003 1986


1991 1992


1993


1988

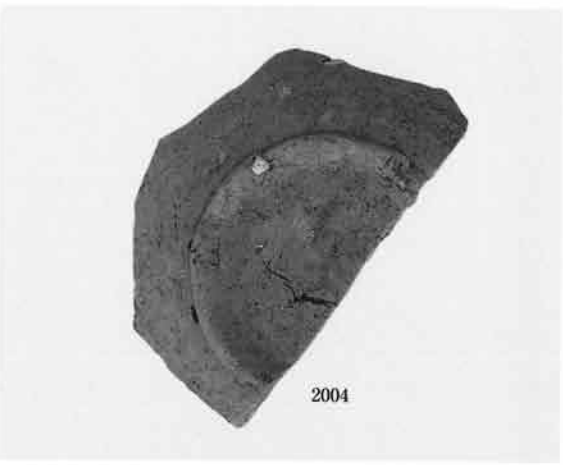

2002

2001


2009


2010


2011


2004

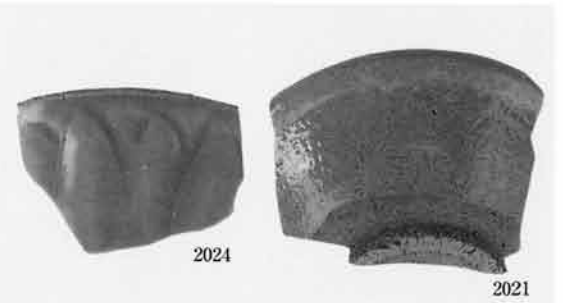

2005


2006


2007


2018

2017


2024

2021

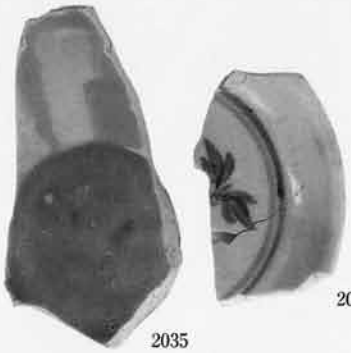

2022


2031

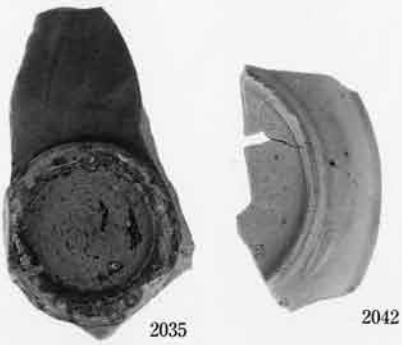

2022


2033

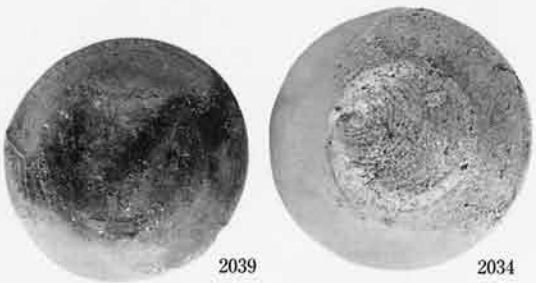

2023


2042
2035


2023


2035
2042

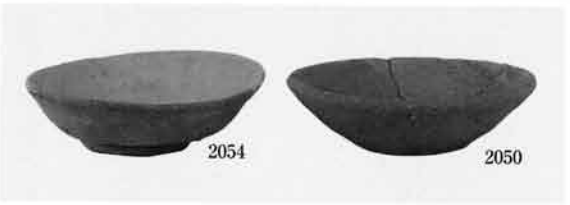

2039
2034


2039
2034


2038
2036

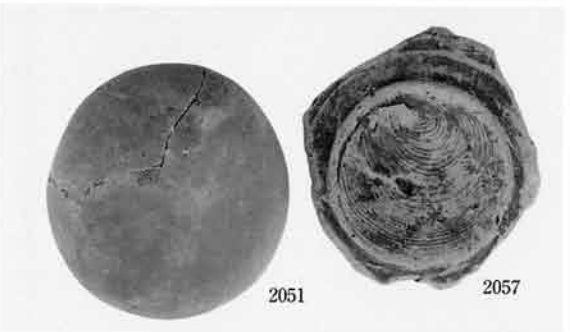

2041


2044

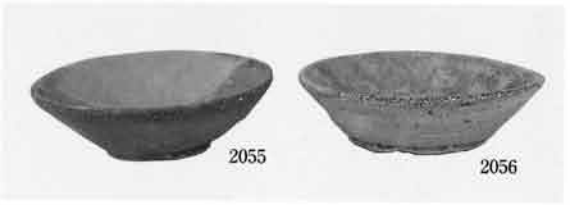

2054

2050


2053


2051

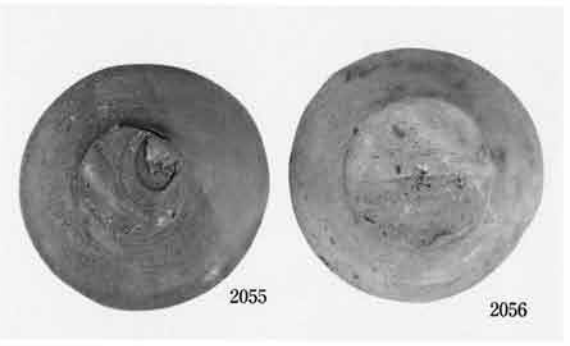
2057


2055

2056

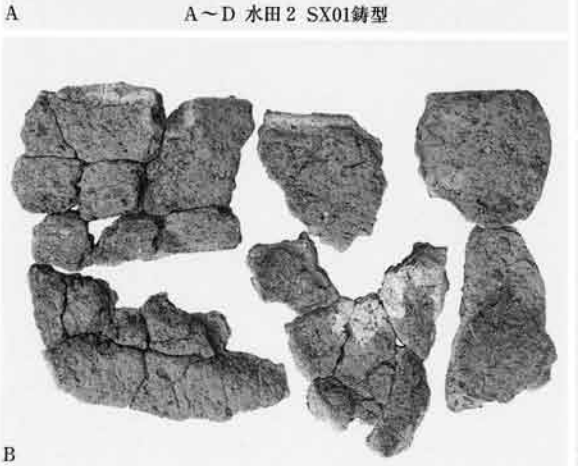

A

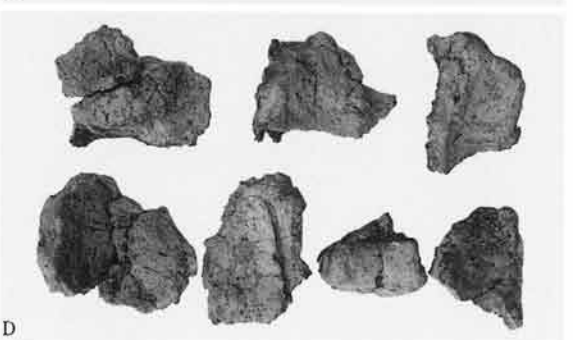
A～D 水田2 SX01鋳型


2055

2056


C


B


D

報告書抄録

ふりがな	ふじくらじょうあと・かわぜきいせき
書名	藤倉城跡・川関遺跡
副書名	那智勝浦道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	黒石哲夫
編集機関	財団法人　和歌山県文化財センター
所在地	〒640－8268　和歌山県和歌山市湊571－1　　TEL073－433－3843
発行年月日	西暦　2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
かわぜきいせき 川関遺跡	わかやまけん 和歌山県	3042120	56	33度	135度	第1次調査	12,429㎡	那智勝浦道
	ひがしむろぐん 東牟婁郡			38分	55分	1998.12.17		路建設工事
ふじくらじょうあと 藤倉城跡	なちかつうらちょう 那智勝浦町		27	40秒	40秒	～ 2000.3.20		
	なかむら・かわぜき 中村・川関					第2次調査	9,625㎡	
						2000.6.5 ～ 2001.3.27		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川関遺跡	集落	平安時代 鎌倉時代 室町時代 織豊期 近世初頭	掘立柱建物82棟 井戸17基 堀、墓 鋳造土坑 噴砂跡	灰釉、山茶碗 合子、墨書土器 白磁、青磁、青花 瀬戸美濃、志野 唐津、備前	那智山入口に展開する大規模集落跡 実方院米良氏の中村屋敷跡 建物を囲む噴砂跡
藤倉城跡	城館	織豊期 近世初頭	石垣、石塁 堀切、竪堀 茶室、井戸 鋳造土坑 墓	白磁、青磁、青花 瀬戸美濃、志野 唐津、備前 タイ製四耳壺 銭貨、経石、碁石	織豊期に実方院米良氏によって築造された城館跡 国産陶器と貿易陶磁器多種多様

藤倉城跡・川関遺跡

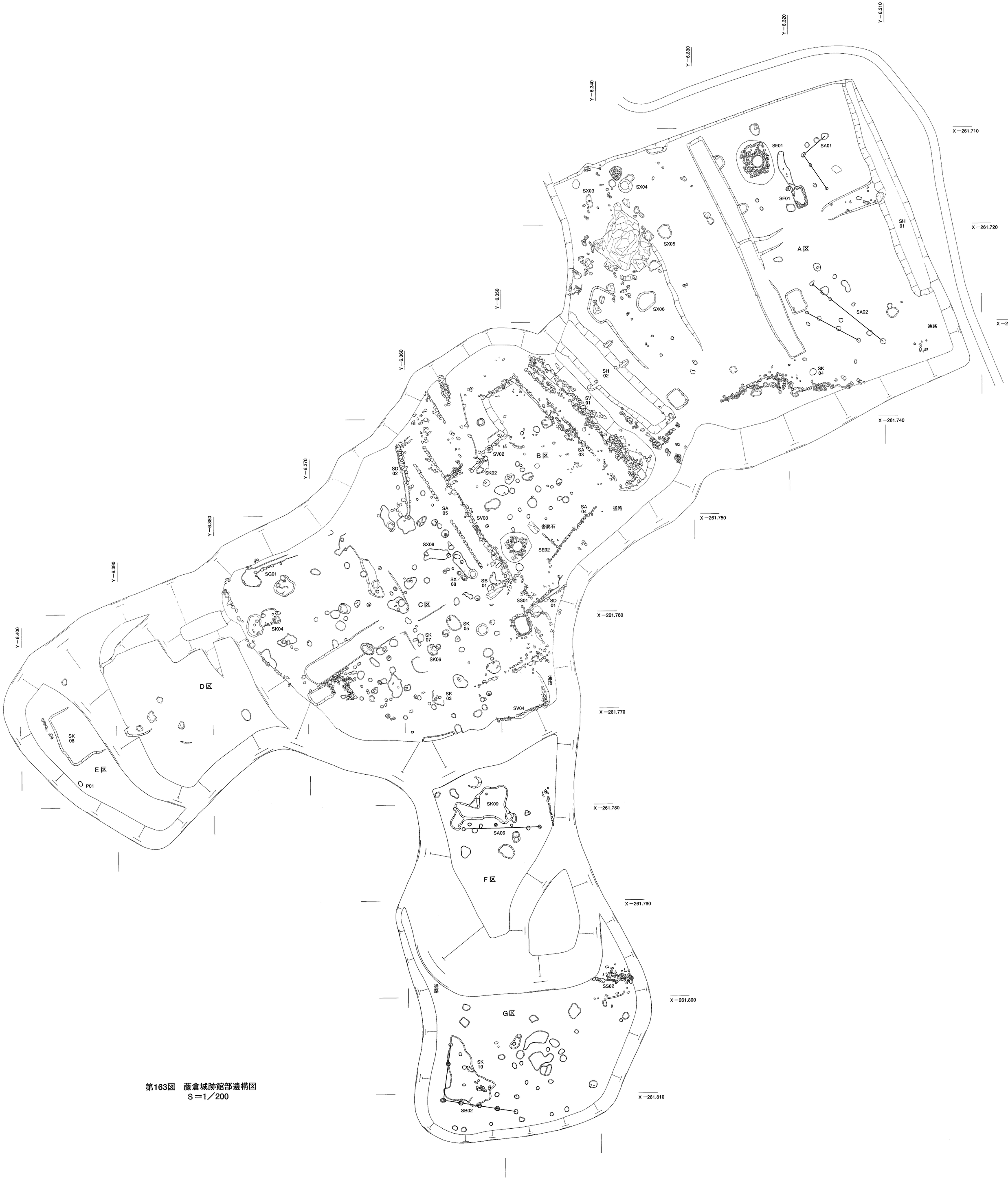
那智勝浦道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００４年３月

編集発行　財団法人和歌山県文化財センター

和歌山市湊571－１　TEL 073－433－3843

印　　刷　西岡総合印刷株式会社



第163図　藤倉城跡館部遺構図
S＝1／200



第164図　川関遺跡水田部１・２区遺構図
S＝1／200



第165図　川関遺跡水田部８区遺構図　S＝1／200

第165図　川関遺跡水田部８区遺構図　S＝1／200

第165図　川関遺跡水田部８区遺構図　S＝1／200